

**2018年度
人間環境学部 講義概要
(シラバス)**

法政大学

2018年度

人間環境学部

専門科目シラバス

■リテラシー科目

●フレッシュマン科目

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
BSP100HA	人間環境学への招待	人間環境学部教員	2	1	水1 水2		1
BSP100HA	基礎演習	板橋 美也 岡松 暁子 金藤 正直 北川 徹哉 國則 守生 ストックウェル・E 高田 雅之 高橋 五月 竹本 研史 田中 勉 谷本 勉 辻 英史 永野 秀雄 長峰 登記夫 根崎 光男 長谷川 直哉 日原 傳 平野井 ちえ子 藤倉 良 横内 恵	2	1		月3 水2 水2 火3 金4 月3 木4 火3 木4 金4 火3 火3 月3 水2 水2 月3 水2 火3 金4 水2	1

●スキルアップ科目

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
COT100HA	情報処理基礎	小林 信彦	2	1～4	金3 金3 金4 金4		2
		今枝 佑輔	2	1～4	月4 月4 月5 月5		3
		渡邊 誠	2	1～4		火3	3
PRI100HA	統計とデータ分析	渡邊 誠	2	1～4	火3		4
LNG100HA	英語Ⅰ（初級会話）	平野井 ちえ子	1	1～4	火3		5
		板橋 美也	1	1～4	月3		6
LNG100HA	英語Ⅱ（中級会話）	磯部 芳恵	1	1～4		木4	7
LNG100HA	英語Ⅲ（上級会話）	磯部 芳恵	1	1～4	水4		8
LNG100HA	英語Ⅳ（ビジネス会話）	磯部 芳恵	1	1～4		水4	8
LNG100HA	テーマ別英語 1	板橋 美也	1	1～4	月4		9
LNG100HA	テーマ別英語 3	R・G・ジェイムズ	1	1～4	土2		9
LNG100HA	テーマ別英語 4	R・G・ジェイムズ	1	1～4		土2	10

※開講セメスター、曜日、時限、担当教員は一部変更となる可能性があります。必ず、掲示板および時間割表を確認してください。

※この講義要項（シラバス）の冊子には2012年度からの新科目名称で掲載しています。

2011年度以前入学生は「履修の手引き」および各科目のシラバスをよく読んで履修してください。

■展開科目

●法律・政治関連科目群

(基幹科目)

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
LAW200HA	憲法の基礎	土屋 志穂	2	1～4		水3	11
LAW200HA	刑法の基礎	渡辺 靖明	2	1～4	月2		12
LAW200HA	アメリカ法の基礎	永野 秀雄	2	1～4	金2		13
LAW200HA	民事法Ⅰ	花立 文子	2	1～4	月5		13
LAW200HA	民事法Ⅱ	花立 文子	2	1～4		月5	14
LAW200HA	国際法Ⅰ	岡松 暁子	2	2～4	火3		15
LAW200HA	国際法Ⅱ	岡松 暁子	2	2～4		火3	16
POL200HA	市民社会と政治	谷本 有美子	2	1～4	木4		16
POL100AC	行政学	山口 二郎	4	2～4		水2	17
POL200HA	地方自治論	谷本 有美子	2	1～4		木4	18
POL100HA	国際関係論	岡松 暁子	2	1～4	木3		19
POL200HA	平和学	山本 和也	2	2～4	金5		20
LAW200HA	行政法Ⅰ	横内 恵	2	1～4	木5		21
LAW200HA	行政法Ⅱ	横内 恵	2	2～4		木5	21

(政策科目)

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
LAW300HA	環境法Ⅰ	横内 恵	2	2～4	木4		22
LAW300HA	環境法Ⅱ	永野 秀雄	2	2～4		金2	22
LAW300HA	環境法Ⅲ	横内 恵	2	2～4		木3	23
LAW300HA	環境法Ⅳ	今井 康介	2	2～4		月2	23
LAW300HA	労働環境法	水野 圭子	2	2～4	月2		24
LAW200HA	国際環境法	岡松 暁子	2	2～4		木3	25
LAW300HA	アメリカ環境法	永野 秀雄	2	2～4		金4	26
POL300HA	自治体環境政策論Ⅰ	小島 聡	2	2～4	火4		26
POL300HA	自治体環境政策論Ⅱ	小島 聡	2	2～4		火4	27
POL300HA	地球環境政治論	横田 匡紀	2	2～4	月2		28
POL300GA	地域協力・統合	大中 一彌	2	2～4		月4	29
POL300HA	エネルギー政策論	菊地 昌廣	2	2～4	水6		30
POL300HA	人間の安全保障	山本 和也	2	2～4		月5	31

●経済・経営関連科目群
(基幹科目)

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
ECN200HA	ミクロ経済学Ⅰ	大瀧 雅之	2	1～4	金3		32
ECN200HA	ミクロ経済学Ⅱ	大瀧 雅之	2	1～4		金3	33
ECN200HA	マクロ経済学Ⅰ	大瀧 雅之	2	1～4	水4		33
ECN200HA	マクロ経済学Ⅱ	大瀧 雅之	2	1～4		水4	34
ECN200HA	公共経済学	小田 圭一郎	2	2～4	水5		34
MAN200HA	現代企業論	長谷川 直哉	2	1～4	火2		35
MAN200HA	ビジネスストーリー	長谷川 直哉	2	1～4		火2	35
MAN200HA	経営学入門	金藤 正直	2	1～4	木4		36
MAN200HA	環境経営と会計	金藤 正直	2	1～4		木4	37
MAN100FA	簿記入門Ⅰ・Ⅱ (2015年度以前入学者)	大下 勇二	4			木5	38
	簿記入門Ⅰ (2016年度以降入学者)		2	2～4	木5		
	簿記入門Ⅱ (2016年度以降入学者)		2			木5	

(政策科目)

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
ECN300HA	環境経済論Ⅰ	國則 守生	2	2～4	金2		39
ECN300HA	環境経済論Ⅱ	國則 守生	2	2～4		金2	39
MAN300HA	環境経営論Ⅰ	金藤 正直	2	2～4	木5		40
MAN300HA	環境経営論Ⅱ	金藤 正直	2	2～4		木5	41
MAN300HA	C S R 論Ⅰ	長谷川 直哉	2	2～4	月4		42
MAN300HA	C S R 論Ⅱ	長谷川 直哉	2	2～4		月4	42
MAN300HA	環境ビジネス論	竹ヶ原 啓介	2	2～4		水5	43
ECN300HA	国際環境政策Ⅰ	國則 守生	2	2～4	火4		44
ECN300HA	国際環境政策Ⅱ	内山 勝久	2	2～4		火4	44
ECN300HA	国際経済協力論Ⅰ	武貞 稔彦	2	1～4	金4		45
ECN300HA	国際経済協力論Ⅱ	武貞 稔彦	2	1～4		金4	46

●社会・地域関連

(基幹科目)

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
SOC200HA	現代社会論Ⅰ	田中 勉	2	1～4	金2		47
SOC200HA	現代社会論Ⅱ	田中 勉	2	1～4	金5		48
SOC200HA	現代社会論Ⅲ	田中 勉	2	1～4		金5	49
SOC200HA	N P O・ボランティア論	川崎 あや	2	1～4		金3	49
SOC200HA	社会統計論	藤本 隆史	2	2～4	火2		50
SOC200HA	フィールド調査論	西城戸 誠	2	1～4	月3		51
		田中 勉	2	1～4		火3	52
SOC200HA	ファシリテーション論	三田地 真実	2	2～4		火3	53
SOC200HA	グローバル・コミュニケーション	ストックウェル・E	2	1～4	水2		54

(政策科目)

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
ADE300HA	地域形成論	小島 聡	2	1～4		月5	55
SOC300HA	地域福祉論	宮脇 文恵	2	2～4	水3		56
SOC300HA	地域コモンズ論	山下 詠子	2	2～4		水1	57
ADE300HA	都市環境論Ⅰ	難波 匡甫	2	2～4	月2		58
ADE300HA	都市環境論Ⅱ	難波 匡甫	2	2～4		月2	58
ADE300HA	都市デザイン論	田中 大助	2	2～4	月1		59
SOC300HA	環境社会論Ⅰ	西城戸 誠	2	1～4	火1		60
SOC300HA	環境社会論Ⅱ	西城戸 誠	2	1～4		火1	60
SOC300HA	環境社会論Ⅲ	西城戸 誠	2	2～4		月3	61
SOC300HA	労働環境論Ⅰ	長峰 登記夫	2	2～4	火2		62
SOC300HA	労働環境論Ⅱ	長峰 登記夫	2	2～4		火2	63
SOC300HA	N G O活動論	小野 行雄	2	2～4		月6	64
SSS300HA	災害政策論	中川 和之	2	2～4	木5		65
SHS300HA	科学技術社会論	詫間 直樹	2	2～4		月3	67
SOC300HA	社会開発論	新村 恵美	2	2～4		木1	68
EDU200MA	文化経営論	荒川 裕子	2	2～4		火4	69
SOC200MA	開発教育	福田 紀子	2	2～4	火5		70
SOC300HA	アーティストと社会貢献	庄野 真代	2	2～4	水3		71
SOC300HA	国際社会学	新藤 慶	2	2～4		金3	72

●人文科学関連科目群
(基幹科目)

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
PHL200HA	西欧近代批判の思想	越部 良一	2	1～4	月5		72
PHL200HA	仏教思想	高堂 晃壽	2	1～4		土1	73
ART200HA	日本美術史論	豊田 和平	2	1～4		火4	73
ART200HA	西洋美術史論	板橋 美也	2	1～4		月4	74
LIT200HA	日本詩歌の伝統	日原 傳	2	1～4	金3		75
HIS300HA	日本環境史論Ⅰ	根崎 光男	2	1～4		月3	75
HIS300HA	ヨーロッパ環境史論Ⅰ	辻 英史	2	1～4	木4		76
ART200HA	比較演劇論Ⅰ	平野井 ちえ子	2	1～4	木3		77
TRS200HA	環境表象論Ⅰ	梶 裕史	2	1～4	火3		78
CUA200HA	環境人類学Ⅰ	高橋 五月	2	1～4	火5		79
PHL200HA	現代思想と人間Ⅰ	竹本 研史	2	1～4	金3		79

(政策科目)

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
HIS300HA	日本環境史論Ⅱ	横濱 文孝	2	1～4	月3		80
HIS300HA	ヨーロッパ環境史論Ⅱ	辻 英史	2	1～4		木4	81
ART300HA	比較演劇論Ⅱ	平野井 ちえ子	2	1～4		木3	82
TRS300HA	環境表象論Ⅱ	梶 裕史	2	1～4		火3	83
CUA300HA	環境人類学Ⅱ	高橋 五月	2	2～4		火5	84
CUA300HA	環境人類学Ⅲ	高橋 五月	2	2～4		火2	84
PHL300HA	現代思想と人間Ⅱ	竹本 研史	2	1～4		金3	85

●自然科学関連科目群
(基幹科目)

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
BSC200HA	サイエンスカフェⅠ	石井 利典	2	1～4	土2		86
BAB200HA	サイエンスカフェⅢ	高田 雅之	2	1～4	木3		87
PHY200HA	サイエンスカフェⅣ	渡邊 誠	2	1～4	金4		87
SHS200HA	地球科学史Ⅰ	谷本 勉	2	1～4	火4		88
SHS200HA	地球科学史Ⅱ	谷本 勉	2	1～4		火4	89
BOM200HA	環境健康論Ⅰ	朝比奈 茂	2	1～4	木5		89
BOM200HA	環境健康論Ⅱ	朝比奈 茂	2	1～4		木5	90
INE200HA	エネルギー論Ⅰ	北川 徹哉	2	1～4	火1		91
ENV200HA	環境モデル論Ⅰ	渡邊 誠	2	1～4	金5		92
ENV200HA	環境モデル論Ⅱ	渡邊 誠	2	1～4		金3	93

(政策科目)

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
ENV300HA	環境科学Ⅰ	藤倉 良	2	2～4	木5		94
ENV300HA	環境科学Ⅱ	藤倉 良	2	2～4		土1	94
ENV300HA	環境科学Ⅲ	藤倉 良	2	2～4	土1		95
DES300HA	自然環境論Ⅳ	中井 達郎	2	2～4		木4	95
DES300HA	自然環境政策論Ⅰ	高田 雅之	2	2～4	金2		96
DES300HA	自然環境政策論Ⅱ	高田 雅之	2	2～4		金2	97
INE300HA	エネルギー論Ⅱ	北川 徹哉	2	1～4		火1	98
EAE300HA	大気と社会Ⅰ	丸本 美紀	2	2～4	金2		99
EAE300HA	大気と社会Ⅱ	北川 徹哉	2	2～4		金2	99

●環境総合科目

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
ASS300HA	食と農の環境学Ⅰ	西川 邦夫	2	2～4	木5		100
ASS300HA	食と農の環境学Ⅱ	船戸 修一	2	2～4		火6	101
ASS300HA	食と農の環境学Ⅲ	吉田 岳志	2	2～4	水6		102
ENV300HA	公害防止管理論Ⅰ	大岡 健三	2	1～4	金5		103
ENV300HA	公害防止管理論Ⅱ	大野 香代	2	1～4		金6	104
ENV300HA	廃棄物・リサイクル論	鏑木 儀郎	2	2～4		土1	104
SEE300HA	環境教育論	野田 恵	2	1～4	木2		105
CAR200HA	キャリア入門	長峰 登記夫	2	1～4	火4		106
ARS1300HA	グローバルスタディーズⅠ	吉田 秀美	2	2～4	水3		107
ARS1300HA	グローバルスタディーズⅡ	吉田 秀美	2	2～4		水3	108
SOC300HA	ローカルスタディーズⅠ	船戸 修一	2	2～4		火5	109
SOS300HA	ローカルスタディーズⅡ	後藤 純	2	2～4		月2	110
MAN300HA	環境マネジメントスタディーズⅠ	池原 庸介	2	2～4	月5		111
MAN300HA	環境マネジメントスタディーズⅡ	池原 庸介	2	2～4		月5	112
HSS211LB	スポーツビジネス論Ⅰ	岩村 聡	2	3・4	月1		113
HSS212LB	スポーツビジネス論Ⅱ	岩村 聡	2	3・4		月1	113

「人間環境セミナー」「フィールドスタディ」「キャリアチャレンジ」

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
OTR200HA	人間環境セミナー	学部教員	2	1～4	土3		114
		学部教員	2	1～4		土3	115
		学部教員	2	1～4		水6	116
OTR200HA	フィールドスタディ	(掲示で発表)	2	1～4	—	—	117
CAR300HA	キャリアチャレンジ	学部教員	2	2～4	—	—	117

「卒業論文」

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
OTR400HA	研究会修了論文	学部教員	2	4	—	—	118
OTR400HA	コース修了論文	学部教員	2	4	—	—	118

「SCOPE科目」

ナンバリング	科目名	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
					春学期	秋学期	
OTR200HA	Co-creative workshopA I	竹原 正篤	2	2～4		水4	119
OTR200HA	Co-creative workshopA II	竹原 正篤	2	2～4	月3		120
OTR200HA	Co-creative workshopB I	松村 智雄	2	2～4		水4	121
OTR200HA	Co-creative workshopB II	松村 智雄	2	2～4	水4		122
OTR200HA	Field Workshop	学部教員	2	2～4	—	—	122
OTR400HA	SCOPE Seminar	佐伯 英子	2	2～4		水5	123
OTR400HA	SCOPE Seminar	佐伯 英子	2	2～4	水5		123
OTR400HA	SCOPE Seminar	竹原 正篤	2	2～4		水5	124
OTR400HA	SCOPE Seminar	竹原 正篤	2	2～4	水5		125

※開講セメスター、曜日、時限、担当教員は一部変更となる可能性があります。必ず、掲示板および時間割表を確認してください。

※この講義要項（シラバス）の冊子には2012年度からの新科目名称で掲載しています。

2011年度以前入学生は「履修の手引き」および各科目のシラバスをよく読んで履修してください。

研究会A(ゼミナールA)

ナンバリング	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
				春学期	秋学期	
OTR400HA	朝比奈 茂	4	2～4	月4		126
	板橋 美也	4	2～4	木3		127
	岡松 暁子	4	2～4	火5		128
	梶 裕史	4	2～4	金5		129
	梶 裕史	4	2～4	金4		130
	金藤 正直	4	2～4	金5		131
	北川 徹哉	4	2～4	火4		132
	國則 守生	4	2～4	火3		133
	國則 守生	4	2～4	火2		133
	小島 聡	4	2～4	金3		134
	小島 聡	4	2～4	金5		135
	杉戸 信彦	4	2～4	火5		136
	ストックウェル・E	4	2～4	月4		136
	高田 雅之	4	2～4	金3		137
	高田 雅之	4	2～4	金4		138
	高橋 五月	4	2～4	木4		139
	武貞 稔彦	4	2～4	金5		140
	竹本 研史	4	2～4	金5		141
	田中 勉	4	2～4	月3		142
	谷本 勉	4	2～4	火2		143
	辻 英史	4	2～4	火5		144
	永野 秀雄	4	2～4	火2		145
	永野 秀雄	4	2～4	火4		145
	長峰 登記夫	4	2～4	木5		146
	西城戸 誠	4	2～4	火6		147
	西城戸 誠	4	2～4	月4		148
	根崎 光男	4	2～4	月4		149
	長谷川 直哉	4	2～4	火4		150
	日原 傳	4	2～4	木4		151
	平野井 ちえ子	4	2～4	木4		151
	藤倉 良	4	2～4	金3		152
	下井倉 ともみ	4	2～4	火5		153
	児玉 ゆう子	4	2～4	月3		154
	児玉 ゆう子	4	2～4	月4		155
	渡邊 誠	4	2～4	火5		156

研究会B(ゼミナールB)

ナンバリング	担当教員	単位	履修 年次	開講曜日・時限		掲載頁
				春学期	秋学期	
OTR400HA	岡松 暁子	2	2～4	木4		157
	金藤 正直	4	2～4	金4		157
	北川 徹哉	4	2～4	火5		158
	ストックウェル・E	4	2～4	月2		159
	高橋 五月	4	2～4	木3		160
	武貞 稔彦	4	2～4	木5		161
	田中 勉	4・4	2～4	月5・6		162
	谷本 有美子	2	2～4		木5	163
	永野 秀雄	2	2～4	金4		164
	長峰 登記夫	4	2～4	木4		165
	根崎 光男	4	2～4	月5		166
	長谷川 直哉	4	2～4	火5		167
	日原 傳	2	2～4		金3	167
	横内 恵	4	2～4	金3		168
	横内 恵	4	2～4	金4		169
	渡邊 誠	4	2～4	火4		170

2018年度 休講科目

科目名	
テーマ別英語2	気候変動論Ⅱ
地域経済論	ネットワークとマルチメディア
環境哲学基礎論	サイエンスカフェⅡ
環境倫理学	衛生・公衆衛生学Ⅰ
生命の現在と倫理	衛生・公衆衛生学Ⅱ
自然環境論Ⅰ	衛生・公衆衛生学Ⅲ
自然環境論Ⅱ	途上国経済論Ⅰ
自然環境論Ⅲ	途上国経済論Ⅱ
自然災害論	人間環境特論
気候変動論Ⅰ	インターンシップ

※開講セメスター、曜日、時限、担当教員は一部変更となる可能性があります。必ず、掲示板および時間割表を確認してください。
 ※この講義要項(シラバス)の冊子には2012年度からの新科目名称で掲載しています。
 2011年度以前入学生は「履修の手引き」および各科目のシラバスをよく読んで履修してください。

●「ナンバリング」とは

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。
 学年等のレベルに基づいて学習の段階・順序を考えて、カリキュラムをより体系的に理解するための参考として、履修科目を選択する際になどに活用してください。
 ナンバリングが表している内容は、履修の手引きの「コース関連表」ページを参照ください。

BSP100HA

人間環境学への招待

人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水1・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な社会」に向けた実践的な解決策を模索する人間環境学部の学びの概要と、人間環境学部における学びの基本的な姿勢、視座を得ること。

【到達目標】

「持続可能な社会」に係わる多様な問題のメカニズムに関する知見を獲得しながら、実践的な解決策を模索する、人間環境学部の学びのあり方を習得するための基本的な姿勢を学ぶことを目的とする。また、人間環境学部における勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース制・ゼミなど学部の特徴の理解）、人間環境学部における「専門性」（既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的思考）について、各コース科目を担当する教員の講義を通して学ぶ。そして、多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得ることをめざす。

【授業の進め方と方法】

まず学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、教育システムの特徴などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、持続可能な社会を考えるためのさまざまなテーマに関して、多様な学問的アプローチから学ぶことの重要性を具体的に学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学部での学び方（1）学部理念とノートテイキングの手法	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。また、大学で学ぶ技法としてのノートテイキングを実習を交えて解説する。
第2回	人間環境学部での学び方（2）人間環境学部の専門性と多様な学び	フィールドスタディ、人間環境セミナー、SAなど学部の特徴ある学び方のねらいと履修法を説明する。
第3回	人間環境学部での学び方（3）リーディングスキル	リーディングスキル学、課題の提出によって理解を深める。
第4回	人間環境学部での学び方（4）語学を学ぶことの意味と意義	語学および海外から学ぶことの意義と、人間環境学部における学びとの関係性について講義する。
第5回	人間環境学部での学び方（5）ライティングスキル	ライティングスキルを学ぶ、課題の提出によって理解を深める。
第6回	人間環境学部での学び方（6）学問横断的な学び・入門編	文理融合の人間環境学部での学びの一例を複数教員による講義で実感し、多角的・総合的視野の必要性を学ぶ。
第7回	人間環境学部での学び方（7）学問横断的な学び・応用編	文理融合の人間環境学部での学びの一例を複数教員による講義で実感し、多角的・総合的視野の必要性を学ぶ。
第8回	テーマによる学び（1）	一つのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第9回	テーマによる学び（2）	同上
第10回	テーマによる学び（3）	同上
第11回	テーマによる学び（4）	同上
第12回	テーマによる学び（5）	同上
第13回	テーマによる学び（6）	同上
第14回	テーマによる学び（7）	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んでくること。

【テキスト（教科書）】

小島・西城戸編著,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房、ほか

【参考書】

各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ブックレポート・課題レポートの提出を求めます。期末試験を行います。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

【その他の重要事項】

本科目は、1年次の必修科目でありクラス指定をします。A～Fクラスは水曜1時限目に、G～Lクラスは水曜2時限目に登録・履修すること（再履修者・編入者も自分のクラスの授業時限で登録・履修すること）。

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位
開講セメスター：秋学期 |

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等を学ぶ。
第4回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（2）	同上
第6回	テキストの講読（3）	同上
第7回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第8回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第9回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第10回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論2	同上
第12回	グループ発表・討論3	同上
第13回	グループ発表・討論4	同上
第14回	総括のグループワーク	レポート提出など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと時間帯（ゾーン）をそれぞれ第3希望まで調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

情報処理基礎

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3・4
秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。
インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まためのレポート作成を行っていく。
基本的に授業の前半と後半の 2 つの単元に分けずめる。前半と後半の間には、情報リテラシの周辺知識に関する講義もしくは確認小テストを行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の PC 環境について／スキルレベルの確認 2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード
第 2 回	ネットワークの活用	1. 電子メール・オンラインストレージ Gmail および Google ドライブの活用演習 2. 情報検索 インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第 3 回	文書作成演習-ページ設定と変換操作	1.Word 基礎演習 Word の画面構成、ページ設定、変換操作、プリントアウト 2.Word の基本的な文書作成と保存演習 文章の入力、保存、エクスポート
第 4 回	文書作成演習-編集・書式	1. 編集機能演習 範囲選択、編集機能 2. 書式設定演習 文字単位の書式設定
第 5 回	文書作成演習-書式・ページレイアウト	1. 書式設定演習 文章単位の書式設定 2. ページレイアウト演習 ページレイアウト、印刷設定
第 6 回	文書作成演習-図表の活用とその他機能	1. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成 2. その他機能演習 ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能
第 7 回	文書作成応用演習	1. 長文作成支援機能演習 1 レイアウトの活用と検索・置換 2. 長文作成支援機能演習 2 目次、表紙の作成
第 8 回	プレゼン資料作成演習	1. 基本的なスライドの作成演習 Powerpoint を利用した資料作成の基礎 2. スライドの活用演習 配付資料の作成、スライド切り替え/アニメーション効果
第 9 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集
第 10 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数

第 11 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数と書式的应用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式的应用 条件付き書式と入力規則
第 13 回	表計算演習-グラフの作成	1. 基本グラフ作成演習 一般的な棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ等の基本的なグラフの作成 2. 応用グラフ作成演習 散布図をはじめとするその他のグラフの作成とグラフの詳細な編集
第 14 回	表計算応用演習-データベース	1.Excel のデータベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念 2.Excel のデータベース機能活用演習 ソートとオートフィルタを活用したデータの操作と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につくにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。
確認小テストについては事前の告知は行わない。講義／実習内容については復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (10%)、文書作成 (30%)、プレゼン (20%)、表計算 (30%) のレポート課題および授業内で随時行う確認テスト (10%) により成績評価を行う。

インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。

文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。
プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。

表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

授業内での確認テストは毎回ではないが、理解度・到達度を確認するために web ベースでの選択式のテストを行う。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。
レポートの提出・採点状況の進捗状況確認表を提示する。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室のパソコンを利用する。
日常的に使用できるパソコン環境があると課題、復習等進めやすい。ない場合には情報カフェテリアを活用すること。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

COT100HA

情報処理基礎

今枝 佑輔

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 4・5
秋学期

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 3 回	インターネットを使った情報検索	インターネットにおける効率的な情報検索を学ぶ。Excel online, Word online, PowerPoint online の紹介
第 4 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。自分が作った文書などの保存場所は？
第 5 回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 6 回	Excel の応用	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 7 回	Excel を使ったレポート課題の作成・提出	Excel を使ったレポート作成の課題を行う。
第 8 回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Word の応用	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 10 回	Word を使ったレポート課題の作成・提出	Word を使ったレポート作成の課題を行う。
第 11 回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 12 回	PowerPoint の応用	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の応用を学ぶ。
第 13 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成・提出	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	まとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし。
インターネットを使った情報検索のスキルを取得した上で活用・駆使する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と平常点を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

Word online, Excel online, Powerpoint online の使用を希望する人は、個人で

Microsoft アカウントを取得しておくこと。(Microsoft アカウントの登録は個人情報特定企業に差し出すことにはならないので、希望するもの以外は取得しなくて良い。)

【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

COT100HA

情報処理基礎

渡邊 誠

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンによる情報処理と実務を学ぶ

本科目では現代社会において身に付けておくことが必要な情報リテラシーを修得する。PC およびネットワークの基礎的事項と利用技術、情報倫理とセキュリティなどについて学習する。また各種統計資料などの検索法とその利用のための学習を通してデータを活用する力を修得する。さらには企業などの組織のストラテジ（戦略）とマネジメント（管理）に関する内容についても IT 技術との関わりをふまえて学習する。これらにより現代社会について主体的に考察するために必要な知識と技術を獲得する。

【到達目標】

- ・Word および Excel の基礎事項を学習し、文書作成および表計算に関する技法を修得する。
- ・Powerpoint の利用法を学習し、効果的なプレゼンテーション技法を修得する。
- ・Web による情報検索法を学習し、様々な情報の収集と各種調査に役立てる方法を修得する。
- ・情報セキュリティの基礎事項を学習し、コンピュータ・ネットワークの安全な利用法を修得する。
- ・IT システムとテクノロジー（情報処理の理論）、ストラテジ（組織の戦略）、マネジメント（運用・管理）の基礎事項について学び、それらの応用法を修得する。

【授業の進め方と方法】

情報実習室に設置されている PC を利用することにより、その操作と各種ソフトウェア（OS、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、ブラウザなど）の利用法について実習する。また PC の原理と構造、ネットワークとシステム構成、システムに対する脅威・脆弱性と対策などに関する基礎事項について講義形式で学習する。その他、IT システムと企業活動、経営戦略と業務分析、システム開発と運用法などについても学習する。なお、これらは情報処理技術者試験「IT パスポート」の受験を目指す上で必須の内容となっており、その受験を念頭においている。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報実習室の利用法	システムの概要とソフトウェア構成、PC 基本操作、ファイルシステムと階層構造など
第 2 回	文書作成と編集 1	Word による文書作成、書式の指定、各種メニューの利用法
第 3 回	文書作成と編集 2	Word による図表の活用、レポートライティング
第 4 回	表計算 1	Excel の操作法と表作成、各種関数の利用
第 5 回	表計算 2	Excel における相対参照と絶対参照、分岐関数と多分岐構造
第 6 回	表計算 3	Excel におけるデータベース機能の活用と図・グラフの作成
第 7 回	情報検索 1	ブラウザ利用法と効率的な情報検索法、統計資料などの検索と取得
第 8 回	情報検索 2	各種統計データなどの分析とその活用
第 9 回	プレゼンテーション 1	PowerPoint の基本操作、プレゼン資料の作成と編集
第 10 回	プレゼンテーション 2	PowerPoint における図表と画像などの利用、プレゼン実習
第 11 回	IT システムとテクノロジー	PC の原理と構造、データ表現とビット・バイト、インターネットと LAN のしくみ、リスク管理とセキュリティ対策など
第 12 回	IT システムとストラテジ	経営戦略と業務分析、品質管理手法、会計基礎、知的財産権など
第 13 回	IT システムとマネジメント	システム開発と運用・管理、テスト・保守と信頼性など
第 14 回	総括	IT パスポート試験の受験に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習と復習を行ってください。また、レポート提出のための準備を行ってください。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しません。必要に応じて教材を配布します。

【参考書】

授業中に IT パスポート試験に関する書籍を紹介します。その他、情報センターで作成している電子版資料（例えば、法政大学市ヶ谷情報センター利用ガイド、情報セキュリティハンドブックなど）を使用します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（授業参加の積極性）30%、提出されたレポートの完成度30%、定期試験の結果40%の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

あまり急がずにできるだけゆっくと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC を利用しますので、学生が準備すべき機器等は特にありません。

【その他の重要事項】

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

PRI100HA

統計とデータ分析

渡邊 誠

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ： EXCEL を使って統計学の基礎とデータ分析法を学び環境データを理解する

統計学は環境問題はもちろんの事、様々な現象（社会的、自然的）を定量的に分析し論理的に最適な判断を下すために必要な基礎知識である。例えば IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書の中には世界平均の地上気温や海面水位その他のデータが掲載されているが、同時に「不確実性の幅」、「5～95%が含まれる範囲」、「90%信頼区間」などという表現も含まれている。このような環境情報を読み解くには統計学の初歩的知識が必要となる。同時に情報検索やデータ処理に関する手法も習得しておく必要がある。本科目ではパソコンを利用しながら統計学の基礎とデータ処理法を学ぶことをテーマとしている。

【到達目標】

本科目では EXCEL を利用しながら様々な情報を読むための基礎を学習する。これにより統計的知識などを実際の環境データの分析に応用できる力を身に着けることを目標としている。もちろん統計学の初歩とデータ分析法を学習することは、環境学への応用というだけではなく、大学生として身に着けるべき教養という側面もあるだろう。

【授業の進め方と方法】

授業は毎回、情報実習室を使用して進めていく。各種ソフト＋ネットワーク利用法など IT に関わる全般的なスキルの習得に加え、EXCEL の利用法を中心に学習する。これにより統計学の基礎を学ぶ。なお実務的な力を高めるために EXCEL 関数なども積極的に利用する。本科目は理系の内容が苦手だと思っている文系の学生が受講することを前提としているため、ゆっくと分かりやすく授業を進めていく予定である。EXCEL の高度利用を目指している学生にとっても有益な授業となるだろう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。
第 2 回	情報実習室の利用法	情報環境の説明と各種ソフトウェア＋ネットワークの利用のしかたについて。
第 3 回	EXCEL 実習 1	表の作成と演算、データベース機能、グラフ機能、相対参照と絶対参照・複合参照など。
第 4 回	EXCEL 実習 2	各種関数の利用法、IF 関数による条件分岐、多分岐構造と階層性など。
第 5 回	EXCEL 実習 3	論理演算、複雑な条件判断を伴う処理、統計関数の利用法など。
第 6 回	環境データの検索と分析 1	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など。
第 7 回	環境データの検索と分析 2	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など。
第 8 回	統計学入門 1	代表値（平均値、モード、メディアンなど）について。ランダム性と正規分布、様々な分布について。分布の中心はどこなのか？なぜ正規分布が現れるのか？
第 9 回	統計学入門 2	散布度（偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数など）について。分布の広がり（バラツキ）の程度をどのように計るのか？
第 10 回	統計学入門 3	データ位置（基準値、偏差値とその統計的意味、正規分布とその面積など）について。例えば偏差値が 70 であるとは、55 であるとは統計的にどのような意味か？
第 11 回	統計学入門 4	相関分析と回帰分析（相関係数と 2 つの量の関係の強さ、最小自乗法の考え方、単回帰分析と重回帰分析など）について。因果関係を見抜くにはどうすればよいのか？
第 12 回	統計学入門 5	統計的推定（母集団と標本、点推定と区間推定、信頼区間など）について。サンプル調査から全体の様子を推定するには？
第 13 回	統計学入門 6	統計的検定（仮説と検定、危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択など）について。
第 14 回	総括	様々な現象を統計的に理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

受講時の積極性 50%、最終授業時に出席するレポートの充実度 50%。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報実習室を利用します。受講にあつたては皆さんのパソコン経験の有無は問いません。

【その他の重要事項】

この科目は統計学を初歩から学習していきますので、受講に際しての数学的な予備知識はあまり必要としていません。

この科目は「環境モデル論Ⅰ」「環境モデル論Ⅱ」に関連する科目としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお薦めします。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

旧科目名称「統計概論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

LNG100HA

英語Ⅰ（スキルアップ科目）

平野井 ちえ子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／ 1 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning) 教材や authentic な映画などを用いて、日常会話の基礎力を養います。

【到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一目標です。また、厳しいステップではありますが、教材の英語と生の英語の違いを学ぶことも重要です。

【授業の進め方と方法】

最初は、後述のテキストと同 CALL 教材により、基礎的なリスニングとスピーキングの力を養います。教材に慣れてきたら、インプットのバラエティを豊かにし authentic な英語表現になじむため、随時映画やドラマの断片も教材とします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスと後述のテキストに基づいて、講座概要を説明します。CALL 教材のデモンストレーションもあります。受講者選抜となる可能性が高いので、受講を希望する人は、必ず出席してください。
第 2 回	テキスト Chapter1・2（旅行編）	‘Where Do I Get the Bus?’ (Getting information) ‘Do You Have a Reservation, Ma’am?’ (Checking in at a hotel) ‘Could You Repeat That?’ (Asking for directions) ‘I’ll Take the Wrangler Convertible’ (Renting a Car) ‘Would You Like Soup or Salad?’ (Ordering a meal) ‘Where’s the Fitting Room?’ (Shopping for clothes)
第 3 回	テキスト Chapter3・4（旅行編）	‘Would You Mind Taking My Picture?’ (Asking for a favor) ‘Good to See You!’ (Meeting a friend)
第 4 回	テキスト Chapter5・6（旅行編）	‘I Enjoyed My Stay’ (Checking out of a hotel) ‘Aisle Seat, Please’ (Expressing preference)
第 5 回	テキスト Chapter7・8（旅行編）	テキスト（旅行編）で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
第 6 回	テキスト Chapter9・10（旅行編）	‘So, What’s Your Major?’ (Self-introduction) ‘I’ll Try to Do My Best’ (Getting advice)
第 7 回	テキスト（旅行編）の応用	‘Do You Have Any ID?’ (Opening a bank account) ‘How about Sea Mail?’ (Sending a package)
第 8 回	テキスト Chapter13・14（留学編）	‘Would You Like to Join Us?’ (Inviting a friend) ‘I Have a Sore Throat’ (Buying medicine)
第 9 回	テキスト Chapter16・17（留学編）	テキスト（留学編）で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
第 10 回	テキスト（留学編）の応用	テキスト Model Dialogue 復習のための小テスト（口頭）を行います。今期全体についてのポイント講義を行います。
第 11 回	復習（1）	1 3 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行います。この試験では、正確さを重視します。
第 12 回	期末試験	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスをを行います。
第 13 回	復習（2）	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、各 Chapter の Communication Focus には目を通してください。授業後は、Main Dialogue と Interview を復習してください。

また、授業内でのタスクのために、Model Dialogue は完全に覚える必要があります。

【テキスト（教科書）】
Viva! San Francisco (Macmillan Languagehouse)
 written by Hiroto Ohyagi and Timothy Kiggell.
 2,000 JPY

【参考書】
 URL（例）
<https://www.expedia.co.uk/>
<https://www.ox.ac.uk/gazette/>
<https://www.londontheatre.co.uk/> など。

【成績評価の方法と基準】
 平常点（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】
 「実践的な英語表現が身につけてよかった」・「映画を用いたタスクが楽しかった」・「新しいCALLシステムにふれたのが新鮮だった」など、前向きなコメントが多く嬉しく思いました。「映画のタスクをもっとやりたかった」という意見もあったので、2018 年度の受講生の様子を見ながら、教材英語と authentic な英語のバランスを調整したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
 CALL 教室での授業です。

【その他の重要事項】
 当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。初回授業にて選抜または抽選を行う可能性が高いです。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

英語 I（スキルアップ科目）

板橋 美也

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／ 1 単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
 リスニングを中心に英語の日常会話表現に親しもう

【到達目標】
 日常生活に必要なリスニング力が身に付き、様々なとっさの状況で適切な英語の表現を用いることができるようになることを目指します。

【授業の進め方と方法】
 教科書や補足教材を用いながら、授業中にできるだけ多くの英語を解説とともに聴き、それぞれのテーマの表現に耳を慣らします。さらに、耳でおぼえた表現を適切な発音で用いることが出来るように、教室のオーディオ再生録音機材を用いながら、overlapping, repeating, shadowing などによる練習を適宜行います。また、せっかくおぼえた日常表現も、実際の英会話では、緊張や恥ずかしさでとっさに出てこない、ということはあると思います。そこで、Native World Pro. という双方向の英会話ソフトを用いて、実際の英会話でのやり取りを各自が気後れせずに練習できる機会も設けます。

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方についての説明
第 2 回	教科書 Units 1 and 2	トラブルや困難に巻き込まれたときの会話や乗り物に関する会話を聴き取る練習をしながら、位置・場所・時間・頻度に関する表現をおぼえます。
第 3 回	教科書 Units 3 and 4	ショッピング・スポーツ・エンターテインメントに関する会話を聴き取る練習をしながら、数量・距離・長さや感情に関する表現をおぼえます。
第 4 回	Native World Pro. 日常会話編 Asking for direction	実際の英会話で道をたずねる表現を用いる練習をします。
第 5 回	教科書 Units 5 and 6	食事・旅行・レジャーに関する会話を聴き取る練習をしながら、勧誘・提案・依頼・判断・評価に関する表現をおぼえます。
第 6 回	教科書 Units 7 and 8	ビジネス・オフィス・インターネット・コンピュータ関連の会話を聴き取る練習をしながら、経験・完了・情報の交換に関する表現をおぼえます。
第 7 回	Native World Pro. 日常会話編 Ordering breakfast at the restaurant	レストランでの実際の英会話の練習をします。
第 8 回	教科書 Units 9 and 10	金銭・費用関連の会話やホテルでの会話を聴き取る練習をしながら、方法・手段・原因・理由に関する表現をおぼえます。
第 9 回	教科書 Units 11 and 12	天候に関する会話や電話での会話を聴き取る練習をしながら、予定・日程・許可・義務に関する表現をおぼえます。
第 10 回	Native World Pro. 日常会話編 Sending a package at the post office	実際の英会話で、郵便局で荷物を送るための表現を用いる練習をします。
第 11 回	教科書 Units 13 and 14	学校や家庭での会話を聴き取る練習をしながら、賛成・不賛成の意向や可能性を示す表現をおぼえます。
第 12 回	教科書 Unit 15 と補足教材	健康に関する会話を聴き取る練習をしながら、目的を示す表現をおぼえます。
第 13 回	補足教材	補足教材を用いてさらなるリスニング力の向上をめざします。
第 14 回	試験とまとめ	授業の内容に基づいた試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 教科書を用いる回の前には、それぞれの週の Unit の問題を、教科書付属の自習用CDを用いて予習してください。また、教科書・補足教材や Native World Pro. で覚えた表現を授業後に復習しておきましょう。

【テキスト（教科書）】
 Listening Practice for Daily Expressions（鶴見書店）

【参考書】
 必要に応じて指示します

【成績評価の方法と基準】
 授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

授業によってリスニングの時間を確保することができたという感想が多くみられましたが、「継続は力なり」ですので、授業以外にも自主的にリスニングの時間を作ることで、さらにスキルアップをめざしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

英語Ⅱ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「目で見える」「耳で聞く」「口に出す」など感覚を多く使い、暗記し、acting out することで日常的な会話表現を体得することを目的とする。

【到達目標】

この授業では、映画総合教材を使用して、リスニング力を養いながら、会話表現を学び、映画の中の台詞を自分の言葉で言い換えることができるようにすることでコミュニケーション力を身につけることが目的である。

【授業の進め方と方法】

テキストにそって進めていくが、各ユニット最後の exercise F のリスニングの部分ペアで練習し、act out する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 2 回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Second viewing, exercises and acting out
第 3 回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 4 回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	Second viewing, exercises and acting out
第 5 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 6 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	Second viewing, exercises and acting out
第 7 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 8 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	Second viewing, exercises and acting out
第 9 回	Unit 5 Andy Performs a miracle	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 10 回	Unit 5 Andy Performs a miracle	Second viewing, exercises and acting out
第 11 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 12 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	Second viewing, exercises and acting out
第 13 回	Review	Review
第 14 回	Wrap-up and Final Exam	Students choose one of the listening exercises and remember the dialog and act out in a pair.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Exercise A (vocabulary)、B(phrase)、exercise E (paraphrase) を予習する。

【テキスト（教科書）】

The Devil Wears Prada (松柏社、2,200 円)

【参考書】

必要に応じて講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (40 %)、各ユニットの acting out (30 %)、授業中の参加の度合い、貢献度など (30 %)。欠席 4 回以上は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

英語Ⅲ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／ 1 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is for students to learn rhetoric which makes one's speech moving and convincing and express themselves by using authentic materials.

【到達目標】

The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English and to be able to express one's thoughts clearly.

【授業の進め方と方法】

Students practice Obama's speech at the beginning of the lesson and then moves on to the main textbook.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction Unit 1 A great read	Grammar and vocabulary
第 2 回	Unit 1 A great read	Conversation
第 3 回	Unit 1 A great read	Reading
第 4 回	Unit 1 A great read	Review
第 5 回	Unit 2 Technology	Grammar and vocabulary
第 6 回	Unit 2 Technology	Conversation
第 7 回	Unit 2 Technology	Reading
第 8 回	Unit 2 Technology	Review
第 9 回	Unit 3 Society	Grammar and vocabulary
第 10 回	Unit 3 Society	Conversation
第 11 回	Unit 3 Society	Reading
第 12 回	Unit 3 Society	Review
第 13 回	Checkpoint 1	Review Unit 1-3
第 14 回	Wrap-up and final exam	Wrap-up and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. Get ready for the recitation of Obama's speech in June.

【テキスト（教科書）】

Viewpoint 2(Cambridge University Press)
『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000 円

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

Attendance and participation 40%, recitation 10%, in-class test 50%.
**Class attendance is a course requirement.
Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes.
The instructor always welcomes and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime

【その他の重要事項】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

英語Ⅳ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／ 1 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is for students to improve their listening and speaking skills by listening to the news and express themselves to deal with business scenes.

【到達目標】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context and be able to give a convincing presentation.

【授業の進め方と方法】

Students practice listening and speaking using the news digest and then moves on to the main textbook.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction & Unit 1	Mini lesson
第 2 回	Unit 1 Working life	Vocabulary
第 3 回	Unit 1 Working life	Video and discussion
第 4 回	Unit 2 Projects	Vocabulary
第 5 回	Unit 2 Projects	Key expressions
第 6 回	Unit 3 Leisure time	Vocabulary
第 7 回	Unit 3 Leisure time	Key expressions
第 8 回	Review	Review Unit 1-3
第 9 回	Unit 8 Working together	Vocabulary
第 10 回	Unit 8 Working together	Vocabulary
第 11 回	Unit 8 Working together	Key expressions
第 12 回	Unit 12 Innovation	Vocabulary
第 13 回	Unit 12 Innovation	Key expressions
第 14 回	Wrap-up and final exam	Presentation and in-class test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will do the reading part at home and get prepared for presentations.

【テキスト（教科書）】

Business Result Intermediate(Oxford University Press)

【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

Attendance & Participation 40%, Presentation 20%, Test40%.
**Class attendance is a course requirement.
Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be given more opportunities to study the current news.

【その他の重要事項】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

テーマ別英語 1 (スキルアップ科目)

板橋 美也

カテゴリ: スキルアップ | 配当年次/単位: 1~4 年 / 1 単位
開講セメスター: 春学期 | 曜日・時限: 月 4

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Design in Europe, North America and Japan in the 20th century

【到達目標】

Through the course, students will be able to:

-define major schools and movements of design in Europe, North America and Japan in the 20th century
-explain how social, economic and political contexts of each period influenced designs of everyday objects.

【授業の進め方と方法】

Almost everything we use daily, such as a pen, a coffee mug, a mobile phone, a chair, etc. is a 'designed' object. But have you ever thought about how the 'designs' with which we are familiar today were created in the process of modernization? This course will give students an overview of the history of design in Europe, North America and Japan in the 20th century. Before each class, students will be provided with worksheets so that they can grasp a general outline of what they will study in the week. After listening to the lecture in the beginning of each class, students will be asked to answer the comprehension questions in the worksheets. At the end of each class, students will write reaction papers about what they feel or think about the theme of the week or the designs shown during the lecture.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Guidance on the course
第 2 回	The prelude to the 20th century	Industrialization, the Arts and Crafts Movement, etc.
第 3 回	The dawn of the 20th century design	The Deutscher Werkbund, the Vienna Workshops, the Design and Industries Association, etc.
第 4 回	Modernism 1	The Bauhaus
第 5 回	Modernism 2	Le Corbusier, Scandinavian design, etc.
第 6 回	Consumerism and design 1	Art Deco
第 7 回	Consumerism and design 2	Hollywood style, streamline design, Raymond Loewy, etc.
第 8 回	Modernism in Japan	The emergence of designers in Japan
第 9 回	National identities in design	Design in Britain, Germany, Italy, the United States, etc. in the 1920s and the 1930s.
第 10 回	Design after the Second World War 1	Populuxe, Charles and Ray Eames, Eero Saarinen, etc.
第 11 回	Design after the Second World War 2	Arne Jacobson, Gio Ponti, Terence Conran, etc.
第 12 回	Japanese design after the Second World War	Design in the age of rapid economic growth in Japan
第 13 回	Post-modernism	Reactions against modernism in design
第 14 回	Exam and Wrap-up	Students can bring the worksheets, handouts, notebooks and dictionaries to the exam.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to prepare for each class by using worksheets given beforehand.

【テキスト (教科書)】

Worksheets will be provided by the instructor.

【参考書】

Please bring a dictionary to the class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on:

-class participation (60%)

-an exam (Students who does not take the exam will not be able to pass this course)(40%)

Note: Students who miss 4 classes or more will not be able to pass this course.

【学生の意見等からの気づき】

I'm glad to know that there were many 'discoveries' for you in this course.

【その他の重要事項】

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

テーマ別英語 3 (スキルアップ科目)

ロバート・G・ジェイムズ

カテゴリ: スキルアップ | 配当年次/単位: 1~4 年 / 1 単位
開講セメスター: 春学期 | 曜日・時限: 土 2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To develop students awareness of and ability to discuss healthcare issues and lifestyle choices in the modern world

【到達目標】

To expand students' English competence through readings, listening and discussions on the theme of health. Participants should be interested in both the theme and in improving their English.

【授業の進め方と方法】

Weekly topic texts will be studied and discussed in pairs and small groups. Students will be expected to contribute their ideas and experience.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
Lesson 2	Aging 1	Reading and discussion
Lesson 3	Aging 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 4	Smoking 1	Reading and discussion
Lesson 5	Smoking 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 6	Health and environment 1	Reading and discussion
Lesson 7	Health and environment 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 8	Exercise and health 1	Reading and discussion
Lesson 9	Exercise and health 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 10	Food and health 1	Reading and discussion
Lesson 11	Food and health 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 12	Stress 1	Reading and discussion
Lesson 13	Stress 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 14	Review and final exam	Review of course and final exam

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

【テキスト (教科書)】

Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

【参考書】

Additional reading on the topics can be found in Healthtalk by Bert McBean (Macmillan) or other similar Health-related English coursebooks.

【成績評価の方法と基準】

Final written exam (60%), class participation (30%) and homework (10%)

【学生の意見等からの気づき】

Experience has shown that often we will need more than one lesson to finish a complete unit.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Students should have the time to attend ALL classes, and participate actively in discussions.

テーマ別英語 4 (スキルアップ科目)

ロバート・G・ジェイムズ

カテゴリ: スキルアップ | 配当年次/単位: 1~4 年 / 1 単位
 開講セメスター: 秋学期 | 曜日・時限: 土 2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To familiarize the students with, and enable them to discuss the development and social history of modern western popular music

【到達目標】

To expand students' English competence through listening to and discussing the various genres of music that contributed to the development of popular music in the 20th century.

【授業の進め方と方法】

Classroom multimedia facilities will be used to examine a variety of genres of popular music and then readings and discussions in English will explore the social and cultural context of the music.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
Lesson 2	Gospel music and slavery	Sample and discuss early African-American music and its origin
Lesson 3	Blues and the rural poor	Examples of early "Country Blues" and its social context
Lesson 4	Country music and immigration	Samples of the music brought by early settlers from Britain and Europe, and the rural culture where it took root.
Lesson 5	Folk music and white protest	Examples of music used as tool of political expression during the Great Depression and later
Lesson 6	Jazz and music as art or entertainment	Examples of both popular jazz idioms and the growth of "serious" music
Lesson 7	R & B and race relations	Examples of early rock music and the fissures in society that were exposed by its growing popularity
Lesson 8	Mid-term course review	Open-book quiz of the first part of the course
Lesson 9	The music industry	An overview of money in music, from early sales of sheet music, the rise and fall of record labels to music promotion in the digital age.
Lesson 10	Rock music and youth culture 1	An examination of the rise of youth culture and the maturing of rock music, through the career of the Beatles and other "classic rock" musicians.
Lesson 11	Rock music and youth culture 2	A look at the major genres of rock music in the context of social and political unrest
Lesson 12	Rock reactions and the rise of punk	Some examples of rock music fragmentation in the face of political failure and the rise of the political right
Lesson 13	Soul music and civil rights	Examples of early gospel-influenced soul, through pop, dance and funk styles, in the context of the early and later civil rights movements.
Lesson 14	Review and final exam	Review of the course and final exam

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

【テキスト (教科書)】

Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson, and students can access most of the musical examples from Youtube or Wikipedia.

【成績評価の方法と基準】

Final written exam (60%), class participation (30%) and homework (10%)

【学生の意見等からの気づき】

We will spend more time on reading and discussion sections of the class.

【学生が準備すべき機器他】

None, though Internet access would be useful to pursue further examples cited.

【その他の重要事項】

Besides and interest in the theme, students should want to actively participate in discussions in English, and be prepared to attend all the classes.

LAW200HA

憲法の基礎

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

憲法とはどのような法であるか、どのように成り立っているのかを学ぶ。憲法の基本的な構造や枠組みを理解する。日本国憲法がどのような憲法であるかを知る。

【到達目標】

現実の具体的な社会問題がどのように憲法と関連付けられているかを学び、日本における法の支配について理解する。
憲法とについて理解を深めることにより、「憲法問題」を理解し、社会問題を法的に分析する視点を持つ。
日本だけでなく、国際社会を広く意識して憲法や法律の視点で物事を考えられるようになる。

【授業の進め方と方法】

配布資料を使用しながらの講義形式によるが、講義の中で積極的に発言を求める。
場合によっては、映像などを取り入れることもある。
シラバスは進度によって多少変更する可能性もある。
憲法の条文を暗記する必要はない。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 日常生活と法 憲法とは？	法学はどのような学問か。 憲法はどのような法律か。
第 2 回	憲法の基礎 日本国憲法の成り立ち	憲法の定義 日本国憲法の成立過程 日本国憲法の概要
第 3 回	天皇の国事行為 平和主義	天皇と国民主権 日本国憲法と自衛隊
第 4 回	平和主義（続き） 統治機構①	自衛隊と国際社会 権力の分立 選挙と政党
第 5 回	統治機構②	立法権としての国会
第 6 回	統治機構③	行政権としての内閣 裁判所 裁判員制度
第 7 回	統治機構④	裁判所（続き） 地方自治制度
第 8 回	統治機構⑤	地方自治制度（続き）
第 9 回	基本的人権の尊重① 基本的人権の尊重②	基本的人権概論 人権に対する制約 新しい人権（憲法に書かれていない人権の保障）
第 10 回	基本的人権の尊重③	平等権 思想・良心の自由 表現の自由
第 11 回	基本的人権の尊重④	表現の自由（続き） 身体の自由
第 12 回	基本的人権の尊重⑤	身体の自由（続き） 財産権
第 13 回	基本的人権の尊重⑥	社会権とは 生存権
第 14 回	基本的人権の尊重⑦	教育・労働

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事等で憲法問題に関係のある社会問題を常に意識しておくこと。
（必要がある際には、授業のときに指示します）
資料として配布された新聞記事には必ず目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

授業で配布する資料による。教科書の指定はしない。

【参考書】

芦部信喜『憲法【第6版】』（高橋和之補訂版、岩波書店、2016 年）
ポケット六法（有斐閣）などの六法。
その他授業の際に指示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、試験期間内の学期末試験による。（90 %）
その他リアクションペーパーと講義における発言を加味して、平常点として考慮する。（10 %）
ただし、学期中 2 回任意提出のレポート課題を課す。これについては提出があれば、それぞれ上限 10 点以内で加点要素とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度と同様に行う。
プリントが多くなってしまうため、整理に注意を払うように十分な注意喚起を行う。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する。

その他、映像機器を使用する可能性もある。

講義資料として配布したものは、授業支援システム上に随時アップロードする。

【その他の重要事項】

【関連する科目・分野】

行政法、国際法などの法律関連科目
政治学、社会制度論等の国家の組織に関わる学問

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

刑法の基礎

渡辺 靖明

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「刑法」とは、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律のことです。それでは、どのような行為がどのような原則及び要件の下で「犯罪」として処罰の対象となるのでしょうか。この授業では、これについて具体的な事例を通じて考え、刑法の社会における意義と役割とを学びます。

【到達目標】

犯罪や刑罰制度に関する報道等に接したときに、被害者・遺族への純粋な同情・共感のみならず、加害者・犯罪者が犯罪をしてしまった理由・要因等にも思いを巡らせて、犯罪を減らし社会をより良くするには、刑罰が最適な、犯罪を減らすために他の手段がないかなどをより深く考えられるようになる。これがこの授業の最終目標です。

そのためには、法と倫理・道徳との異同、刑法の意義・役割、刑罰の目的、刑法と他の法律との関係や刑法の一般原則及び犯罪の一般的及び個別的な成立要件等を理解する必要がある、この授業では主としてこれらの基礎知識を修得していきます。

【授業の進め方と方法】

各回ごとにレジュメを配布し、具体的事例について検討して、各テーマごとの理解をはかります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「刑法」とは何か？	刑法の形式的・実質的な意義や刑法（法律）と倫理・道徳との異同などを学ぶ。
第 2 回	「刑法」の一般原則とは？	罪刑法定主義・責任主義・最終手段性など、刑法の一般原則を学ぶ。
第 3 回	「刑罰」とは何か。	刑罰と民法の損害賠償・行政法の行政処分との違いや、国家が刑罰を科すことが許されるのは何故かなどを学ぶ。
第 4 回	殺人罪・傷害罪（1）— 構成要件・違法・責任	殺人罪・傷害罪の成否を通じて、犯罪の一般的成立要件の基礎を学ぶ。
第 5 回	殺人罪・傷害罪（2）— 故意・過失、未遂、共犯	殺人罪・傷害罪の成否を通じて、犯罪の故意・過失、未遂、共犯の基礎を学ぶ。
第 6 回	殺人罪・傷害罪（3）— 「人」の始期・終期、「傷害」の意義	いつから殺人罪の対象となる「人」と認められるのか、人の「死」とは何を指すのか。「傷害」とはいかなる行為なのか。これらについて学ぶ。
第 7 回	自殺関与罪	刑法上の「被害者の同意」の意義と、自殺関与罪の基礎及び安楽死・尊厳死などについて学ぶ。
第 8 回	脅迫罪・強要罪・監禁罪、強制わいせつ罪・強制性交等罪	意思決定の自由、性的自由に対する罪の基礎を学ぶ。
第 9 回	住居侵入罪	住居権・住居の平穏に対する罪の基礎を学ぶ。
第 10 回	名誉毀損罪・真実性の証明による免責	名誉に対する罪の基礎及び刑法における名誉の保護と表現の自由の保障との関係を学ぶ。
第 11 回	窃盗罪・強盗罪・詐欺罪・恐喝罪	財産に対する罪の共通原則及び財産移転罪の基礎を学ぶ。
第 12 回	横領罪・背任罪・器物損壊罪	財産移転罪以外の財産に対する罪の基礎を学ぶ。
第 13 回	放火罪・偽造罪	公共危険犯、取引の安全に対する罪の基礎を学ぶ。
第 14 回	賄賂罪	国家の作用に対する罪（汚職の罪）の基礎を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメ等に基づく予習・復習をする。

【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

【参考書】

特に指定はしません。お勧めの参考書は、授業時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、刑法の基礎知識を問う定期試験 80 %、レポート（宿題）等 20 % の総合評価で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度アンケートでは、刑法について深く学ぶことができたという好評価があった一方で、レジュメがわかりやすく詳しいために、かえって「講義を聞かなくてもわかる。」という雰囲気になってクラス全体が集中力を欠いていた、という厳しい指摘もありました。そこで、今年度は、思い切ってレジュメの記載内容を簡略化し、講義への出席や聴講への意欲を高めたいと思います。また質問票などを適宜配布して、わからないところ、難しいところの解消に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムでは、本授業に関する連絡や、各回の終了した毎にその回のレジュメのアップなどをします。支援システムをこまめにチェックしてください。

【その他の重要事項】

「憲法の基礎」、「行政法の基礎」、「民法Ⅰ・Ⅱ」等の他の法律系科目も併せて履修しておく、「刑法の基礎」の授業内容の理解が一層深まるでしょう。また、秋学期開講の「環境法Ⅳ」（環境刑法）では、主として環境犯罪について学びます。「刑法の基礎」を履修しておけば、「環境法Ⅳ」の授業の内容をより深く理解できます。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

アメリカ法の基礎

永野 秀雄

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカに興味のある方を対象に、その法制度の基本的な特徴を講義します。憲法上の問題を中心に、統治制度や人権保障のあり方などを検討していきます。それぞれのテーマでは、興味深い判例を紹介していきます。

【到達目標】

学生が、この授業をとおして、アメリカ法の基本的な制度を理解できるようになるとともに、社会問題の解決策がひとつではなく、様々なアプローチがあることを理解できるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ法の基礎を講義します。まず、導入部としてアメリカの歴史と法の発展を学びます。これに続いて、連邦制度と、独自の三権分立を学びます。この後、わが国の憲法にも大きな影響を与えて続けている人権法について、その代表的なトピックを学習します。そして、社会に出てからも役に立つ労働法、独占禁止法、契約法、不法行為法などを講義します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ法の歴史	植民地時代、独立革命、連邦憲法の制定、英米法の特徴
第 2 回	連邦制度	特に憲法、軍隊等をもつ州政府について
第 3 回	連邦議会	連邦議会の特色、日本の議会との差異
第 4 回	大統領	大統領の権限、大統領府の組織
第 5 回	司法権	連邦裁判所、法曹、陪審制、州の司法権との関係
第 6 回	表現の自由	表現の自由の限界、報道の自由
第 7 回	集会・結社の自由、通信の秘密	これらの自由とその限界
第 8 回	信教の自由	信教の自由の限界と国教樹立の禁止
第 9 回	プライバシーの保護	個人、家族、ライフスタイルのプライバシー
第 10 回	法の下での平等（1）	人種差別の規制
第 11 回	法の下での平等（2）	男女差別等の規制
第 12 回	労働法・社会保障法	米国の社会労働法制度の特徴
第 13 回	経済的自由とその限界	独占禁止法等の仕組み
第 14 回	契約法・不法行為法	米国の特色ある制度について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

松井茂記『アメリカ憲法入門（第 7 版）』（有斐閣、2012 年）。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、アメリカ法に興味を持って頂ける授業をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

民法法 I

花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ:市民間の法律問題について、解決するための考え方や基礎知識の習得
 目的・意義:市民間の契約においてトラブルが生じた場合に、当事者の話し合いで解決をはかることになるが、話し合いがうまくいかず第三者の仲裁や裁判で解決をはかることもある。このような場合の解決基準となるものとして民法という法律が規定されている。市民間のトラブルにおいて、民法の他、各種の法律がどのように役割を果たしているかを、社会における問題点とともに勉強する。その勉強を通じて、実践的に日常生活上のリスクを回避することに役立つ。また、トラブルが生じたときには、法的思考により論理的に他者に説明することのできる力を要することから、法的な考え方で問題を考えたい。

【到達目標】

到達目標: 市民間の取り引きやトラブル等を解決するための法制度や基礎知識を習得し、自ら問題点を調べ法知識を用いてトラブル等を解決する能力及び法的な考え方の習得をめざす。さらには、問題解決に際して説得力ある主張ができるように、文章による表現力を身につけたい。

【授業の進め方と方法】

授業（講義形式）

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考える。たとえば、お金を貸した返って来ない、貸した本を返してもらえない、買った物に傷があった、アルバイト代の遅配、等のトラブル問題である。これらは、普段なにげなく行っている取引から生じる問題である。また、自転車で人によつて怪我をさせてしまった、ということもある。これは取引ではなく、市民間で生じたトラブルである。

このように、トラブルには様々なものがあり、法的に解決することが求められることがある。このような法律問題が、どのように解決されることになるのか、民法や民法関連法を用いて検討し、それを通じて法的な考え方、法律の構造・全体像の理解を講義形式で深める。

授業の方法

(1) テーマごとに具体的な問題を通じて、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられている基本事項を理解し、市民間の法律問題の解決の仕方を考える。また問題の背景となる社会問題についても考える。さらに、授業の終わりに、リアクションペーパーを配布し、法律問題について考察したこと、また質問や感想等を書いていただく。質問については次回に回答し、理解を深めることとし、また関心を持っていたことを共有する。

(2) 授業では、六法を用いる。六法の見方、調べ方、条文の探し方や読み方なども勉強する。

(3) 授業では、適宜レジュメや資料を配布しそれに沿って授業を進める。

(4) 適宜各種資格試験に関係する点を指摘する。

(5) 話題となっているテーマを取り上げたり、関心の強いテーマを掘り下げたり、進度を確認することから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 民事法上の問題と司法制度	授業の進め方や六法、成績評価について説明する。 その後、民事法とは何か、一般的な法律上のトラブルにどのような法律がかかわってくるかを概観する。
第 2 回	トラブルの解決基準となる法体系	問題解決に向け、どのように手続が進められるか、裁判制度（民事）の全体像をみる。民事法、行政法、刑事法にもふれ、法の体系を概観する。
第 3 回	契約とは	最も生活に密着する契約とは何か。契約はいつどこでどのようにして成立するか。契約が成立したときの契約責任を概観する。
第 4 回	人が民法上権利主体となる時期	民法上権利義務の主体となるのはだれか、いつ主体となるか等を見る。また、人の出生に関わる問題も、社会問題とあわせてみる。
第 5 回	人の権利義務消滅時期	民法上、人が有する権利義務が消滅する死亡について、社会の認識や科学の進歩によってその捉え方が変化していること、臓器移植等現代的な問題を含めて、人の死亡と法律との関係を概観する。
第 6 回	人の死亡と法律効果	民法上、主体として有する権利義務が消滅するのはいつかをみる（死亡・認定死亡）。また、行方不明になった人の権利義務の行方についてもみる。
第 7 回	代理制度について	契約を通して権利を取得したいとしても、自ら契約を締結できない場合がある。このような場合にそなえた代理制度についてみる。

第 8 回	取引における条件と取引期間について	取引において生じる権利義務と時間との関係はどうなっているかをみる(条件・期間・時効)
第 9 回	制限行為能力制度	未成年者等, 契約締結に際して単独で契約を締結できない場合について考える。
第 10 回	取引上の権利の確保方法①	権利を確保するための方法として、物の価値を利用する場合がある。その内容がどのようなものかを扱う。
第 11 回	取引上の権利の確保方法②	権利を確保するための方法として、保証、担保物権等がある。それらの方法を概観する。
第 12 回	契約において代理人が契約を締結し法律の効力を発生させる場合	病気等で必ずしも本人が契約を締結できない場合もある。その場合のために代理制度が規定されている。この制度を概観する。
第 13 回	夫婦の問題	法律上、夫婦とはどのようにして成立するのか、各々どのような義務を負うのか等、夫婦に関する問題をみる。また死亡した場合に、その財産がどのようになるのか、相続問題を考える
第 14 回	まとめとテスト	これまでの勉強を振り返り、全体の確認度をテストする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々とお話をしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

【テキスト（教科書）】

六法

【参考書】

授業の際、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、最終確認テスト 60 % で評価する。平常点は、リアクションペーパーに毎回法律問題についての考察、また疑問に思った点の検討、及び質問事項を記述し、また適宜課題を出しレポートを提出してもらうことで、授業への取組度を評価する (40 %)。最終確認テストでは、授業での法律問題の理解度を評価する (60 %)。平常点と最終確認テストで総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し、自ら考えられるようになると、日常生活に応用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また関心がもてると、難易度の高い問題でも取り組む意欲がわき、なかでも文章力が格段に上がるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、関連問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW200HA

民法法Ⅱ

花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ:市民間の法律問題と法律知識の習得

【到達目標】

到達目標：市民間の取り引きやトラブル等に対応する法の全体像を理解する。法律制度を理解し、自ら問題を法的に考え解決する力を習得する。

【授業の進め方と方法】

授業の進め方

レジュメを配布し、講義形式で行う。

概要

授業では、契約を中心に市民間の法律問題を考える。そして、具体的な問題を通して、自ら考えて解決できる力を養う。内容は、民法に規定されている制度と契約法および不法行為法についてみるとともに、関連する法律問題をみる。たとえば、成年となる年齢とはどのような意味を有するのか、成年となる年齢はどのようにして決められたのか、今後変更の可能性はあるのか、未成年と成年とで法的にどのように違ってくるのか、未成年者の法律行為の問題、成年の法律行為の問題等のように、テーマごとに検討する。その過程で、法律の役割、法的な考え方を習得していきたい。

市民間には、様々なトラブルがある。具体的にどのような点が法律問題となるか、そのような法律問題をどのように解決すべきか、民法や民法関連法も含めて考える。

授業の方法

(1) テーマごとに、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられていること等から、市民間の法律問題を、社会問題として考える。また、授業の終わりに考察したことを書いていただく。また、質問や感想等を書いていただき、次回に応えることで理解を深め、また関心を大切にしたい。

(2) 授業では、六法を用いる。

(3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進める。

(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、社会問題となっているテーマを掘り下げたり、進度をみることから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 民法法の体系、法体系の概観	まず、授業の進め方、六法、成績評価等について説明する。 次に、民法法の授業での対象、民法法とは何か、民法法の中の民法について、民法の基本原則を取り上げる。また日常行われる契約について概観する。
第 2 回	制限行為能力が契約を解消できる場合	判断能力が不十分な場合の契約について考える。
第 3 回	心裡留保、通謀虚偽表示について	贈与契約および売買契約を無効にできる場合として、民法 93 条の心裡留保、94 条の通謀虚偽表示について考える。
第 4 回	錯誤無効、詐欺強迫について	契約を錯誤により無効にできる場合 (95 条)、詐欺強迫にあい取消できる場合 (96 条) を考える。
第 5 回	裁判例を読む	これまでの法律知識と関連する裁判例を読み、法律適用の具体例をみる。
第 6 回	契約の解除について	賃貸借を通じて、解除と解約告知についてみる。
第 7 回	クーリングオフ制度について	特定商取引法等をみながら、悪質商法等の社会における問題点を考える。
第 8 回	消費貸借契約について	クレジットカードの仕組みを通じて、金銭消費貸借契約と利息について考える。
第 9 回	労働契約について	現代の多様な労働形態と、雇用契約、請負契約、および労働法の体系をみる。
第 10 回	和解契約について	自転車走行中の事故に関する事件を通じて示談することの意味を考え、和解契約と不法行為責任について概観する。
第 11 回	委任契約について	具体的な近隣問題に関する判例を通して、法が近隣問題にどうかかわるのかを考え、委任契約についても検討する。
第 12 回	忘れられる権利について	インターネット上の契約の成立時期、SNS の諸問題、知的財産権について考える。
第 13 回	家族と法について	家族について考える。親族、夫婦、親子について、法律上どのように規定しているかをみて、家族について考える。
第 14 回	まとめと理解度テスト	これまでの理解度をはかるテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々と話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

【テキスト（教科書）】

六法

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（適宜課題を出しレポートを提出してもらう。また、毎回アクションペーパーを配布し法律問題について考察したことを記述していただき、取組度をみる）(40 %), および最後に行なわれる確認テスト (60 %) で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し考えられると、日常生活に応用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また、関心をもてると、難易度の高い問題でも、真剣に取り組めるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、関連問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。また、リスク管理の重要性についても考えられるような内容にしたいと考えている。

【その他の重要事項】

リアクションペーパーに理解できない点等質問事項を記述していただくと、次回授業時に反映することができますので、活用してください。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW200HA

国際法 I

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原則	国際法の基本原則、近代国際法の特色
第 3 回	法源 (1)	条約、国際慣習法
第 4 回	法源 (2)	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関 (1)	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関 (2)	国家継承、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法 (1)	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第 10 回	国際組織法 (2)	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法 (1)	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法 (2)	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域 (1)	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域 (2)	領域権原の取得原因、日本の領域紛争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法〔第 2 版〕』有斐閣、2010 年。
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選〔第 2 版〕』有斐閣、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様のやり方で行います。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

LAW200HA

国際法Ⅱ

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	海洋法 (1)	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第 3 回	海洋法 (2)	排他的経済水域、公海
第 4 回	海洋法 (3)	大陸棚、深海底
第 5 回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第 6 回	個人の管轄 (1)	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第 7 回	個人の管轄 (2)	国際犯罪、国際刑事裁判所
第 8 回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第 9 回	紛争の平和的解決 (1)	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第 10 回	紛争の平和的解決 (2)	非裁判的手続
第 11 回	紛争の平和的解決 (3)	裁判的手続
第 12 回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第 13 回	国際人道法 (1)	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第 14 回	国際人道法 (2)	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進めます。

【その他の重要事項】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

POL200HA

市民社会と政治

谷本 有美子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「市民社会」の概念は極めて多義的ですが、この講義では 1990 年代に台頭してきた「現代の市民社会」を中心に学びます。政府・自治体の政策形成過程と市民の参加、及び NPO・NGO（市民セクター）と政府セクターとの協働ないし緊張関係を焦点を当てながら、日本の統治機構の伝統的な態様を理解することを第一の目的とします。その上で、政府・自治体の政策形成・決定に対する市民セクターの関与のあり方について、多面的な統治（ガバナンス）という考え方を視野に入れつつ、実践的に考えていきます。

【到達目標】

- ・市民社会が政策形成に与える影響やその手法を学ぶ
- ・政治や行政に関して当事者意識を持った判断や行動ができるようになる

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、現代社会の事象を取り上げていきます。また、取り扱った内容に関連して適宜アクションペーパーの提出を求めます。

前半は、日本における市民社会と政府・自治体との関係性について歴史的变化を学んだ上で、市民社会と政府・自治体・国際政治の各レベルにおける連携・緊張関係を示す具体的事例を取り上げ、政策形成過程への市民社会の関与の意義を検討していきます。

中盤では、2010 年代に行われた諸外国の国民投票や日本の自治体における住民投票の事例を取り上げて、政府・自治体の意思決定に関わる直接民主制の諸課題を検討し、市民社会と民主政治をめぐる問題に目を向けていきます。終盤では、自治体レベルでの市民参加の実態を学びながら、間接民主制のもとでの有権者の参加のあり方を実践的に考えてみます。

最後に市民社会の多様性を念頭に置きながら、政策形成への関与について多角的な側面からアプローチし、市民社会のガバナンスに関わる問題を考察します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	市民社会と政治をめぐる最近の事象を紹介し、民主主義の観点で認知していく
第 2 回	市民社会を表す概念の整理	講義で扱う「市民社会」「市民セクター」等の用語を理解する
第 3 回	市民セクターの活動と政府	戦後日本の歴史を踏まえつつ、市民社会と政府との関係形成の時代的特性を解説する
第 4 回	市民セクターの活動と政策形成への影響	市民社会の取組みが政策展開に一定の影響をもたらした国内の事例を検討する
第 5 回	市民セクターの活動と国際政治の場	グローバルに活動する NGO の動きと国際政治との関わりについて事例から学ぶ
第 6 回	市民セクターと直接民主制	直接民主制の手段として、近年諸外国で行われた国民投票の例を題材にししながら、日本における国民投票の可能性と課題を考える
第 7 回	市民セクターと住民投票	近年の住民投票の運用事例から、市民社会の自治体政策への関与の可能性と諸課題を検討する
第 8 回	自治体レベルの「民意」と国政との関係	自治体レベルの「民意」と国政との相関関係を具体的事例から考える
第 9 回	市民参加のあゆみと市民社会の適応	1970 年前後に市民参加を先駆けた自治体の事例から参加の理念と運用の実態を学ぶ
第 10 回	21 世紀の市民参加と自治体の政策形成	1990 年代半ばからの地方分権の時代に活発化した市民参加の手法を取り上げ、その傾向と今後の可能性を考える
第 11 回	市民セクターの合意形成	討議性民主主義の観点で進められている市民参加の新たな試みを取り上げながら、市民間の合意形成に関わる諸課題を検討する
第 12 回	市民セクターと自治体議会	自治体議会における市民参加の取り組みを学び、議会への市民の関わり方を考える
第 13 回	市民社会のガバナンスを考える (1)	社会的マイノリティや参加から排除されがちな人々の参加の機会や人権の問題について、社会的包摂の視点を踏まえて検討する
第 14 回	市民社会のガバナンスを考える (2)	寄付に対する税制優遇のしくみと市民の活動を支える資金の流れを概説した上で、市民社会への資金供給とガバナンスの問題について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の関心分野の中から、政府・自治体あるいは国際機関等との関わりのあるトピックを見つけ出し、常にウォッチする習慣を身につけてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】

授業内で必要に応じ、参考文献等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末の論述試験（80％）に、授業内の小レポート提出状況等（20％）を加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ビデオや新聞記事等を活用して、具体的な事例から考える機会を提供します。

【その他の重要事項】

地方自治論、NPO・ボランティア論及びNGO活動論を履修済か、同時期に履修することで、本講義の理解をより深めることができます。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

POL200HA

行政学

山口 二郎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：通年 | 曜日・時限：水2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は政策行政系の科目である。行政府の役割と活動について説明し、行政府を担う官僚組織について、その構造、歴史、特徴、動態を解説する。また、政府における政策形成過程についても、解説する。

【到達目標】

政府の役割と限界についての確に理解すること。

現代官僚制の役割と限界についての確に理解すること。

【授業の進め方と方法】

現代行政の構成要素、官僚組織、行政制度、政府体系、政策形成過程について講義を展開する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	I 行政とは何か 1 リスクと行政	近現代におけるリスクの変容と政府活動の拡大
第2回	1 リスクと行政 続	グローバル化とリスクの変化及び行政活動の変質
第3回	2 政府の役割	政府と市場の比較にもとづく、政府の役割と限界についての説明
第4回	2 政府の役割 続	公共性の意義と政府の役割
第5回	3 行政の発展段階と行政概念の展開	民主化、産業化がもたらす行政活動の拡大 福祉国家と行政
第6回	II 近代官僚制と行政 1 近代官僚制の成立とウェーバーの官僚制論	官僚制の概念の歴史的展開 マックス・ウェーバーの官僚制概念
第7回	1 近代官僚制の成立 続	官僚制と合理性 グローバル化と官僚制の変容
第8回	2 官僚制の構造と機能	官僚制における整理と病理、機能と逆機能
第9回	2 官僚制の構造と機能 続	官僚制における服従と自発、忠誠と反逆
第10回	3 行政責任と行政裁量	官僚制の裁量と民主的統制
第11回	3 行政責任と行政裁量 続	日本の行政における責任の概念と政策の失敗
第12回	4 官僚組織と現代社会	20世紀文明としての官僚制 フォーディズムと官僚制組織
第13回	5 ポスト 311 の官僚制と行政	科学技術の発達と専門権力 民主政治と専門権力の関係
第14回	5 ポスト 311 の官僚制と行政 続	政策決定における個人と組織
第15回	5 ポスト 311 の官僚制と行政 続	日本官僚制における無責任体制 官僚制の「優越性」とは何か
第16回	III 政策と行政 1 政策の概念	政策の定義
第17回	1 政策の概念 続	政策の類型化 政策類型と政策決定過程の対応
第18回	2 政策の循環	政治システムと政策の循環 政策の連鎖 フィードバックの重要性
第19回	3 政策課題の形成	政策の守備範囲 作為と不作為をめぐる権力
第20回	3 政策課題の形成 続	行政需要とは何か 行政需要の充足と政策
第21回	4 政策の形成と作成	合理的政策作成モデル 多元的政策形成モデル
第22回	5 政策の選択	政策選択の合理化モデル 合理性の意義と限界
第23回	6 政策の実施	政策実施と官僚制の裁量 政策実施に対する市民的統制
第24回	7 政策の評価	政策評価の基準 政策評価の活用方法とその限界 官僚制と自己修正能力
第25回	IV 日本の行政の構造と動態 1 日本の統治機構と官僚制	日本における行政制度の歴史的展開 日本官僚制の歴史的特徴
第26回	2 議院内閣制と官僚制	議院内閣制における行政府 議院内閣制と政官関係
第27回	2 議院内閣制と官僚制 続	戦後日本における「官僚支配」の実態 政権交代と政治主導の意味
第28回	3 日本の社会経済システムと行政	日本における市場と官僚制 遅れてきた福祉国家と官僚制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を事前に読んでおく

講義で言及される政治、行政現象に関して、新聞、テレビ、雑誌等の報道をフォローする。
参考文献をなるべくたくさん読む

【テキスト（教科書）】
西尾勝 行政学 有斐閣

【参考書】
開講時に文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】
筆記試験による

【学生の意見等からの気づき】
現実にかかる行政にかかわる問題を取り上げ、適宜学生からの意見を求めて、双方向的な議論も行いたい。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地球環境共生コース）

POL200HA

地方自治論

谷本 有美子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2000 年の地方分権改革や平成の大合併を経て、21 世紀の地方自治では、公共サービスの担い手が民へと拡大し、行政と民間の役割分担が大きく変化してきました。同時に少子高齢化の進行や人口減少が社会問題化する中で、政府が自治体に対し「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」の策定を求めるなど、自治体が将来を見通しながら地域をマネジメントする責任が問われてきています。この講義では、受講生が自治体の主人公の「市民（Citizen）」として地方自治に関わる際の基礎知識を習得し、これからの地方自治のあり方について主体的に思考する力を身につけることを目的とします。

【到達目標】
・地方自治の歴史や理論、制度に関する基本的な知識を身につける。
・地方自治の最新の動向を、市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行い、新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを交えます。また、取り扱った内容に関連して、適宜リアクションペーパーの提出を求めます。
前半の授業では、地方自治の成り立ちや歴史の変遷を知り、欧米諸国との比較を通して日本の地方自治の特徴を学びます。その後、地方自治の基本的な制度・しくみについて解説した上で現場の運用事例等を紹介しながら、市民の視点で実践的に検討していきます。
後半では、国地方を通じた事務処理体制や中央地方の府県関係の問題も取り上げ、分権型の地方自治のあり方を考察します。
それらを踏まえて、市民の政府としての自治体に必要とされるシステムについて、運用の実際についての情報を提供しながら、見識を深めていきます。

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	「地方自治」と「自治」の概念	「地方自治」と「共同体の自治」との含意を概説し、講義で扱う内容を俯瞰する
第 2 回	欧米諸国の地方自治と日本の地方自治	日本の地方自治に影響を与えた欧米諸国の地方自治制度との比較の中から、日本の地方自治制度の特色を認識する
第 3 回	近代日本の地方自治の成り立ち	明治維新以降の日本の地方制度を学びながら、近代日本における国家と地方自治との関係性を理解する
第 4 回	戦後地方自治の中央集権的な運用と自治体による政策革新	戦後憲法で保障された地方自治の意義を踏まえつつ、講和期からの中央集権的な運用期を経て、1960 年代以降の都市自治体の手掛けた先進的な都市政策を取り上げ、住民自治の観点から自治体のあり方を検討する
第 5 回	大都市自治体の特例と都市問題への対応	指定都市や中核市等の大都市制度と東京の都区制度を概説したうえで、人口が集中した大都市における自治体の役割や課題を検討する
第 6 回	二元代表制と長のリーダーシップ	二元代表で機関対立主義を採る自治体統治機構について概説し、その特色である首長（執行機関）の優位性に着目して、自治体運営で発揮される長のリーダーシップを考察する
第 7 回	自治体議会と地域政治	住民の代表として行政監視機能を果たす議会の活動を概説し、二元代表制における議会の政治的役割という観点から、議会による政策形成の可能性と代表制のあり方を考察する
第 8 回	住民自治を支える参加のシステム	地方自治法に定めのある住民の直接請求権や自治体が独自に定める市民参加のしくみを取り上げ、市民が主人公となる地方自治の民主主義的機能について検討する
第 9 回	全国画一の政策と自治体の政策決定～地方分権改革を踏まえて～	対人サービスを中心とする福祉分野の政策を取り上げ、2000 年地方分権改革を経た対等な国地方関係のもとでの、国・都道府県・市町村の役割分担を概説した上で、実施主体となる基礎自治体の政策決定のあり方について検討する
第 10 回	自治体財政と住民による税負担	全国的な財政調整・財源保障制度を基礎に成り立つ自治体財政の特色を踏まえつつ、住民が負担する税の側面に着目して、地方自治の受益と負担という関係性を検討する

第 11 回	民に広がる公共サービスと自治体の役割	公共サービスの担い手が民へと拡大し、公民の役割分担が大きく変化する中で、自治体が果たすべき役割とは何かについて、子ども子育ての政策分野を題材に考えていく
第 12 回	平成の大合併と小規模町村	平成の大合併で市町村数は3分の1に減少し、合併の功罪にはさまざまな論議がある。ここでは合併を行わなかった小規模町村にも着目しながら、住民自治と行政サービス提供体制の問題から考察する
第 13 回	住民自治組織と地域コミュニティ	近年、各地で運用されている住民自治組織等の事例を取り上げながら、地域社会における住民の自治と地域コミュニティの問題を自治体政策の観点から検討する
第 14 回	「市民の政府」たる自治体のシステム	自治体を「市民の政府」として運用するにはどのようなシステムが必要か。自治基本条例や総合計画など自治体運営の基本的なルールを活用事例を参考にしながら、今後の可能性を考えていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索するなど情報収集に努める
- ・自分の住んでいる自治体の状況を調べる
- ・日常的に地方自治に関連のありそうな新聞記事を読む習慣を身につける

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配布します。

【参考書】

- ・『ホーンブック 地方自治（第3版）』（北樹出版、2014年）
- その他の参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80％）に授業内の小レポート提出状況等（20％）を加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ビデオや新聞記事等を活用し、事例を紹介しながら具体的に考える機会を提供します。

【その他の重要事項】

- ・旧科目名称「地方自治論Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

POL100HA

国際関係論

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における平和の構築について考察する。

【到達目標】

国際社会の諸問題について、基本的な事象とそれらの主要な分析枠組みを理解する。

【授業の進め方と方法】

国際社会における平和というものを考察するにあたり、まず、戦争と平和の歴史をたどり、特に第二次世界大戦後の超大国による国際秩序について分析する。さらに、冷戦後の国際社会における新たな紛争と秩序構築について、民族問題、環境問題、貧困問題等に焦点を当てて検討する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：平和とは何か	平和の概念について
第 2 回	戦争と平和の歴史	戦争と平和の歴史につき、特に近現代を中心に概観する。
第 3 回	冷戦期の国際関係（1）	国際関係の分析枠組としての理論と現実
第 4 回	冷戦期の国際関係（2）	軍拡競争と軍縮
第 5 回	冷戦期の国際関係（3）	核兵器・原子力を巡る諸問題
第 6 回	冷戦後の国際関係	冷戦後の新たな国際問題の特徴
第 7 回	民族自決と紛争	脱植民地化と民族自決、民族紛争
第 8 回	国際安全保障	集団安全保障と日本
第 9 回	人間の安全保障	新たな平和の概念
第 10 回	南北問題の歴史の変遷	南北問題と南南問題
第 11 回	貧困と開発	途上国問題
第 12 回	人権	国際人権保障の困難性
第 13 回	地球環境問題	地球環境問題の特質
第 14 回	国際協力と日本の役割	国際社会における日本の取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で行った範囲をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様に進めます。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

POL200HA

平和学

山本 和也

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

内戦・テロリズム・難民が、ニューストピックにならない日はありません。このことは、第二次世界大戦後に誕生した平和学がますます重要になっていることを意味しています。本講義では、平和学の基本的内容を習得するとともに、上述のような現代的諸問題への理解を目指します。

【到達目標】

第一に、平和学誕生の背景、その学術的特徴、平和学が考える「平和」や「平和主義」の意味といった、平和学の学問的内容を習得します。第二に、それらの知識をもとにして、核兵器、貧困、平和構築といった具体的な課題を考察できるようにします。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行います。毎回、簡単な小テストを行います。可能である場合には、教員・学生による議論も行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	平和学とは何か	平和学の学術的背景、課題、特徴を概説する。
第 2 回	平和主義の諸類型	平和学と密接に関連する「平和主義」の概念を概観する。
第 3 回	義務論の平和主義:市民	義務論の倫理からみた平和観を市民の観点から考察する。
第 4 回	義務論の平和主義:兵士	義務論の倫理からみた平和観を戦争従事者の観点から考察する。
第 5 回	目的論の平和主義	義務論とともに有力な平和観である目的論を考察する。
第 6 回	核の抑止と不拡散	20 世紀半ば以降、戦争の意味を根本的に変えた核兵器を考える。核抑止論や核兵器不拡散を目指す歴史を概説する。
第 7 回	紛争の科学的研究	平和学は平和を実現するための実践的視点とともに、学術としての科学的視点を持っている。この回では、平和学が行ってきた戦争阻止のための科学的研究の基礎理論を概説する。
第 8 回	紛争の科学的研究の平和研究への応用	前項で説明した科学的理論の平和研究への適用事例を説明する。
第 9 回	グローバルな経済格差	単に武力紛争がない状態を実現するだけでなく、南北問題といった社会的不平等の根絶は、平和学重要なテーマであり続けてきた。ここでは、その近代史を概観する。
第 10 回	1 次産品の生産国と消費国	フェアトレードという公正な 1 次産品の取引が認識されるようになって久しい。本講では、VTR を通じてこの問題を考察する。
第 11 回	小型武器の拡散問題	内戦終了後も、ライフルや小銃といった小型武器は、回収されず紛争後の社会の安全を脅かし続けている。本講では、この問題を解説する。
第 12 回	人道援助・人道的介入・平和構築	紛争中の人道支援、紛争を強制的に停止させるための介入、紛争後の社会の安定化を目指す平和構築を概観する。
第 13 回	多面的問題としての水資源	水資源をめぐる諸問題は、単に環境問題にとどまらない。その実態を VTR を通じて考察する。
第 14 回	まとめ	半期の学習内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

平和学が対象とする問題は、ニュースで日々報道されているものが多くあります。日頃から新聞などを読みながら、上の授業計画で取り上げた話題に関心を持つておく必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。

【参考書】

講義において、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (80%) と毎回の小テスト (20%) による。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料を用いて、学生のより具体的な事例に対する理解を促します。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを利用します。関連資料は、授業支援システムに掲載します。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

LAW200HA

行政法Ⅰ

横内 恵

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法とは、行政の活動を根拠づけたり規制したりする法の体系です。本講義ではそのうち、行政の組織のあり方や、行政法の基本原則、行政活動の類型などについて、具体例を示しながら解説します。

【到達目標】

行政の様々な活動を法的に理解・考察できるようになることを、本講義の到達目標とします。

【授業の進め方と方法】

レジュメと教科書に沿って、判例集を参照しながら講義形式で授業を行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、行政組織の基礎概念	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第 2 回	国の行政の仕組み、地方の行政の仕組み	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第 3 回	法律による行政の原理	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 4 回	行政法の一般原則	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 5 回	行政の規範定立	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 6 回	行政行為（1）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 7 回	行政行為（2）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 8 回	行政契約	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 9 回	行政指導	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 10 回	行政計画	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 11 回	行政の実効性確保手段	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 12 回	行政裁量	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 13 回	行政手続	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 14 回	情報公開と個人情報保護、行政監視と行政評価	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に教科書の該当箇所を読んでください。授業後は、レジュメを見ながら教科書と判例集を熟読してください。

【テキスト（教科書）】

北村和生、佐伯彰洋、佐藤英世、高橋明男『行政法の基本〔第6版〕』（法律文化社、2017 年）。

【参考書】

・判例集：大橋真由美、北島周作、野口貴公美『行政法判例 50 ！』（有斐閣、2017 年）。
・六法：三省堂「デイリー六法」、又は、有斐閣「ポケット六法」（いずれも、最新版）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

「行政法Ⅱ」の履修希望者は、先に本講義を履修してください。
「行政法の基礎」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナブルコース（旧・地域環境共生コース）

LAW200HA

行政法Ⅱ

横内 恵

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政法Ⅰ」の授業内容を前提として、違法または不当な行政活動を是正したり、国民の権利を保護したりするための救済制度について、具体的な事例を取り上げながら解説します。

【到達目標】

行政と国民の間の紛争をいかに法的に解決するかについて、論理的に考えられるようになることを本講義の到達目標とします。

【授業の進め方と方法】

レジュメと教科書に沿って、判例集を参照しながら講義形式で授業を行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政救済法概説	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第 2 回	取消訴訟：処分性	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 3 回	取消訴訟：原告適格	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 4 回	取消訴訟：判決の効力	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 5 回	無効等確認訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 6 回	不作為の違法確認訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 7 回	義務付け訴訟と差止訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 8 回	当事者訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 9 回	民衆訴訟・機関訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 10 回	行政不服審査制度	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 11 回	国家賠償法：公権力の行使、公の営造物	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 12 回	国家賠償法：違法性、故意・過失	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 13 回	国家賠償法：規制権限不行使	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 14 回	損失補償	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に教科書の該当箇所を読んでください。授業後は、レジュメを見ながら教科書と判例集を熟読してください。

【テキスト（教科書）】

北村和生、佐伯彰洋、佐藤英世、高橋明男『行政法の基本〔第6版〕』（法律文化社、2017 年）。

【参考書】

・判例集：大橋真由美、北島周作、野口貴公美『行政法判例 50 ！』（有斐閣、2017 年）。
・六法：三省堂「デイリー六法」、又は、有斐閣「ポケット六法」（いずれも、最新版）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

本講義は、「行政法Ⅰ」履修済みの人を対象としています。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナブルコース（旧・地域環境共生コース）

LAW300HA

環境法Ⅰ

横内 恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法の制度や理論の発展の歴史を踏まえて、環境法の主要分野の現在の法制度やそれをめぐる訴訟の基本的な内容を解説します。

【到達目標】

本講義は、様々な環境問題に対する事前の防止や事後的な解決において法の果たす役割について、理論的かつ総合的に理解することを到達目標としています。

【授業の進め方と方法】

レジュメやスライドに沿って、教科書を参照しながら、講義形式で授業を進めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境法とは何かについて、解説する
第 2 回	環境法の基本的な考え方	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 3 回	環境法の手法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 4 回	環境基本法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 5 回	大気汚染防止法、水質汚濁防止法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 6 回	土壌汚染対策法、環境アセスメント	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 7 回	循環基本法・廃棄物処理法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 8 回	自然公園法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 9 回	生物多様性基本法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 10 回	地球温暖化対策法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 11 回	原子力法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 12 回	環境行政訴訟（1）取消訴訟	判例を紹介しながら、当該テーマについて解説する
第 13 回	環境行政訴訟（2）国賠訴訟	判例を紹介しながら、当該テーマについて解説する
第 14 回	環境行政訴訟（3）その他	判例を紹介しながら、当該テーマについて解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に教科書の該当範囲を読んでください。授業後は、レジュメとノートを読み返しながら教科書を熟読してください。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第4版〕』（弘文堂、2017 年）。

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

「環境法Ⅲ」に先立って本講義を履修することを推奨します。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW300HA

環境法Ⅱ

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

【到達目標】

環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟を検証します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第 2 回	不法行為法（1）	意味、成立要件、種類
第 3 回	不法行為法（2）	損害、請求権者、損害賠償の調整
第 4 回	不法行為法（3）	時効、共同不法行為
第 5 回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第 6 回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第 7 回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第 8 回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第 9 回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第 10 回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第 11 回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第 12 回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第 13 回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点
第 14 回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

環境法Ⅲ

横内 恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境アセスメント、廃棄物処理法、土壤汚染対策法、環境リスクの各分野につき、判例も検討対象に含めて、行政法理論との関係で理解を深めます。その際には、関連法令や判決文を実際に参照しながら、基礎的な調査能力を習得することをも目指します。

【到達目標】

本講義は、「環境行政法Ⅰ」の履修を前提として、個別の環境法制の検討を通して、環境法政策の実務的な課題をとらえるとともに、それをめぐる法的論点の理解を深めることを到達目標としています。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で、レジュメやスライドに沿って授業を進めます。各分野につき設問を用意し、レポート課題や授業中の質疑応答を通して、受講生自ら調べて考えて表現することを求めることもあります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境アセスメント（1）	教科書を用いて当該テーマについて解説する
第 2 回	環境アセスメント（2）	教科書を用いて当該テーマについて解説する
第 3 回	環境アセスメント（3）	当該テーマに関する訴訟につき、判例を紹介しながら解説する
第 4 回	環境アセスメント（4）	SEA 当、当該テーマの今後の課題について、諸外国と比較しながら解説する
第 5 回	廃棄物処理法（1）	教科書を用いて当該テーマについて解説する
第 6 回	廃棄物処理法（2）	当該テーマに関する訴訟につき、判例を紹介しながら解説する
第 7 回	廃棄物処理法（3）	地方自治体の事前協議と住民参加のあり方について解説する
第 8 回	廃棄物処理法（4）	事前協議をめぐる訴訟につき、判例を紹介しながら解説する
第 9 回	土壤汚染対策法（1）	教科書を用いて当該テーマについて解説する
第 10 回	土壤汚染対策法（2）	当該テーマに関する訴訟につき、判例を紹介しながら解説する
第 11 回	土壤汚染対策法（3）	スーパーファンド法等、諸外国の法制度と比較しながら当該テーマについて解説する
第 12 回	環境リスク制御法制（1）	環境リスク制御の法理論の問題について解説する
第 13 回	環境リスク制御法制（2）	当該テーマについて具体的な法制度を題材として解説する
第 14 回	環境リスク制御法制（3）	当該テーマについて具体的な法制度を題材として解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習については、講義中に指示します。授業後に、レジュメやノートをしっかり読んで復習してください。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第4版〕』（弘文堂、2017 年）。

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本講義は、「環境法Ⅰ」履修済みの人を対象としています。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

環境法Ⅳ

今井 康介

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題について法律的なアプローチを行う場合、3つのアプローチがあります。民法的なアプローチ、行政法的なアプローチ、そして刑法的なアプローチです。各アプローチには、それぞれの原則や理論、メリット・デメリットがあります。環境法Ⅳの授業では、刑法的なアプローチの独自性、特殊性、そしてその限界を扱います。

この授業で環境刑法の基礎、罰則の概要、現在の問題点等を学ぶことにより多角的な視点から環境問題を考えられるようになることが、最終的な目標です。

【到達目標】

例えば、山の中にいらなくなったパソコンを捨ててくるのは、廃棄物処理法違反（不法投棄罪）なのは明らかですが、自分の敷地の一角に放置しておくのは、犯罪なのでしょうか？ 燃えるゴミと燃えないゴミを分別しないで捨てたら捕まるのでしょうか？ 夜中に、こっそりとゴミ処分場に忍び込み、処分場で処分されているものと同種のを処分してくれるのは、処分場という性格上問題がなさそうですが、なお廃棄物処理法違反なのでしょうか？

この授業を受講すると、これらの場合にどのように考えるべきかが分かるようになります。

【授業の進め方と方法】

特定の教科書を指定しないので、毎回配布物を配り、説明を行います。また多くの法律が登場するので、適宜、六法やインターネットで法律の条文を参照してください。

今年度から、講義時間が 100 分になるため、昨年とは（一部）異なる内容を行います。再履修者は注意してください。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 環境保護の手段としての刑法と環境刑法	授業の進め方、評価方法についての説明。環境刑法はどのような学問か、どのような特色があるか、なぜ環境刑法を学ぶのかについて説明します。
第 2 回	環境刑法の基礎理論① ——刑罰の基本原則編——	環境刑法の前提となる刑法の基本原則（罪刑法定主義等）について学びます。
第 3 回	環境刑法の基礎理論② ——基礎知識・歴史編——	日本の公害問題と我が国の環境問題の 1 つの転機となった公害国会を学びます。特に公害国会以前の法律状況、刑法学の議論状況を紹介しします。
第 4 回	環境刑法の基礎理論③ ——最近の動向編——	公害国会以降の刑法学の状況について検討します。また環境法の体系化問題を検討します。その際、公害罪法についても、検討します。
第 5 回	空気・大気保護について	大気汚染や空気の汚染に関する規制・罰則を紹介し、規制が導入された経緯を紹介しします。また騒音や振動関連の規制を取り扱います。
第 6 回	水の保護について	水質汚濁、海洋汚染などの水に関連する規制・罰則を紹介し、検討します。
第 7 回	土の保護について	土壌汚染や農業用地の汚染についての規制・罰則を紹介し、検討します。
第 8 回	化学物質、原子力に関する規制など、小テスト	化学物質規制の歴史や、最近の原子力関連の規制を学びます。また小テストを行う予定です。
第 9 回	廃棄物処理法①	豊島事件や鹿沼事件などの廃棄物関連の事件を取り扱います。
第 10 回	廃棄物処理法②	何が廃棄物か、例えばおからは廃棄物か？ を検討します。無許可収集・運搬罪や無許可処分罪についても検討します。
第 11 回	廃棄物処理法③	不法投棄や不法焼却等、廃棄物処理法に規定されている自然犯的な罰則について検討します。
第 12 回	自然公園の保護、動物の保護	騒音や振動関連の規制、自然の保護や、動物の保護に関する規制と罰則を紹介・検討します。
第 13 回	環境刑法の保護法益、取り締まり、刑事訴訟、執行上の問題	環境刑法罰則が運用されている現状、運用される際の問題、執行現場の問題などを紹介しします。環境刑法が保護しようとしているものは何か？ という点についても検討します。
第 14 回	総復習と小テスト	以前の授業の復習と終わらなかった問題を取り扱います。また 2018 年にニュースとなった環境事件を取り上げる予定です。授業時間の最後に小テストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題は、よくニュースになります。そのため、報道された環境問題をテーマにして、何が法律的に問題なのか考えると、この講義がよりいっそう実り豊かなものになります。

【テキスト（教科書）】

指定なし。

【参考書】

北村喜宣『環境法（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣、2015 年）、1944 円がおすすめです。

さらに環境刑法の重要問題を取り上げた連載として、長井圓＝渡辺靖明「（隔月連載）環境刑法入門（全 10 回）」環境管理 52 巻 6 号（2016 年～）があります。

その他の参考文献については、初回の授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終の筆記試験は実施しません。授業内で行う 2 回的小テスト（選択式）（90%）及び平常点（10%）で評価します。場合によってはレポート（任意提出）も加味して、総合判断します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講生からの「テストが選択式で簡単すぎる」との指摘があったため。今年度はより難しい選択式のテストを出題する予定です。

また今年度も、身近な環境問題を取り上げられるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

環境刑法を理解するためには、刑法の基礎知識が必要になります。それゆえ、本講座の受講生には、春学期に開講される「刑法の基礎」（渡辺靖明先生）の履修をおすすめしています。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW300HA

労働環境法

水野 圭子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電通自殺事件に象徴されるように、労働の場において、労働時間、休憩、休暇といった労働条件によって形成される労働環境は極めて重要な問題を提起しています。このような労働者の健康、安全衛生、労働災害といった従来からの問題だけではなく、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、マタニティーハラスメントなど人格権侵害への対策、少子高齢化社会を念頭に置いたワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境、障害を持つ労働者に対する合理的配慮など様々な新しい問題にも労働環境といった観点から考察することが求められています。このような労働環境を形成する法律と判例について基本的な知識と理解を習得することを目的とします。

【到達目標】

1. 「労働環境法」とかかわりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解する。
2. 「労働環境法」と関わりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題（ワークルール検定・法学検定レベル）を解答できるようにする。
3. その次の段階として、「労働環境法」と関わりのある労働法上の法規制および重要な判例について、社会保険労務士・労働基準監督官の試験程度の問題についても、難易度が高くないものであれば、解答できるようになる。
4. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について、論理的に解説できるようになる。

【授業の進め方と方法】

PowerPoint を用いながら講義を行う。労働環境について、学生である皆さんは明確なイメージを持ちにくいと思うので、ドキュメンタリーなどの映像資料を使用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、「労働環境法」に関する説明。	講義の進め方や評価方法の説明。「労働環境法」「労働法」の簡単な全体像の説明。
第 2 回	法学の基礎知識	「労働環境法」を履修するにあたって必要な最低限度の法学に関する知識についての説明。
第 3 回	労働環境を構築する労働法の仕組み	労働環境を作る労働条件がどのようにまもられているのか。
第 4 回	労働とその対価である賃金	労働の対価として得られるお金について、賃金支払いの法規制、賞与を支給される要件など働くうえで知っておくべき知識を確認する
第 5 回	労働時間・休憩・休暇・休息時間といった労働環境	休憩・休息時間・休日・年次有給休暇など休むことについて
第 6 回	柔軟な労働時間制度について	変形労働時間制やみなし労働時間制などの多様な労働時間規制について。
第 7 回	労働安全衛生法（概要）	労働者の安全衛生の確保。産業医の問題点。
第 8 回	労働者災害補償保険法（1）（制度概要・業務災害）	労災保険は誰が保険料を払い、どのような場合に労働者に保険が給付されるのか
第 9 回	労働者災害補償保険法（2）（制度概要・業務災害）	過労死や過労自殺の問題と労災認定の基準について
第 10 回	少子化とワークライフバランス（1）	女性の社会進出と労働環境の整備、社会的な影響について、就業率、労働時間、年収、賃金補償などの観点から検討する
第 11 回	少子化とワークライフバランス（2）	就業率の向上、労働時間の短縮はどのように行われてきたのか、海外の事例を含め検討する
第 12 回	新しい労働問題	近年問題となった労働問題について検討を行う。 マタニティハラスメントや障害者雇用に対する合理的配慮など。
第 13 回	労働契約の始まり	就職活動、採用内々定、内定、本採用といった正社員として働くまでの労働契約とその問題について検討する
第 14 回	労働契約の終了・労働契約の承継	辞職、解雇やリストラといった労働契約の終了、労働契約の承継である企業組織変動について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の終わりに、次回の該当箇所を指示するので、教科書の該当する部分を熟読し、講義に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

高橋賢司『労働法講義』（中央経済社）
六法を用意すること。六法についてはガイダンスで説明する。

【参考書】

1. 浜村彰ほか『ベーシック労働法』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

1. 「試験」（80 %）

期末試験として 1 回実施。論述形式の問題を出題する。

2. 「授業中に実施する確認問題」（20 %）

講義中に確認問題を出題する（1 回の講義で 1～2 問程度）

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を配布プリントに記載するなどして、さらに具体的なイメージを持てるような講義としたい。

【その他の重要事項】

講義内容は、受講者の問題関心や理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

LAW200HA

国際環境法

岡松 暁子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第 3 回	国際環境法の形成（1）	国際環境法の生成
第 4 回	国際環境法の形成（2）	国際環境法の発展
第 5 回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第 6 回	国際環境法の性質（1）	持続可能な発展
第 7 回	国際環境法の性質（2）	世代間衡平、予防的アプローチ
第 8 回	国際環境法の性質（3）	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第 9 回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第 10 回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第 11 回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第 12 回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第 13 回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第 14 回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005 年。

その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

LAW300HA

アメリカ環境法

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカ環境法の基本を学びます。アメリカ環境法には、優れた環境影響評価、土壌汚染対策、自然保護に関する法制度があります。その一方で、大気汚染の防止については、世界的潮流から距離を置いています。このような特徴を学びます。

【到達目標】

社会に出て、国際的な影響力のあるアメリカ環境法に関係する業務に向き合ったときのために、基本的な理解力をつけることを目指します。また、アメリカ環境法の特徴を学ぶことで、わが国の環境法を考えるとときに、比較して検討できるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ環境法を講義します。まず、その概要をみた後、アメリカが公害問題にどのように対応してきたかを学びます。これに続いて、環境影響評価、大気・水・土壌といった個別の法規制について検討していきます。そして、現在注目を集めている自然保護とエネルギーに関する法制度を学習します。また、特徴のある州法を例に挙げて議論します。最後に、軍に対する環境法規制を考えてみたいと思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ環境法の概要	連邦政府と州の環境法、政府機関や環境 N G O の果たす役割
第 2 回	アメリカ環境法の歴史	環境規制の始まりと現代的展開
第 3 回	連邦環境政策法（1）	環境影響評価の仕組み
第 4 回	連邦環境政策法（2）	具体的事例の検討
第 5 回	大気汚染防止法	規制内容と具体的訴訟
第 6 回	水質汚濁防止法	規制内容と具体的訴訟
第 7 回	土壌汚染対策に関連する規制	スーパーファンド法等
第 8 回	廃棄物・化学物質に関する規制	資源保護回復法等
第 9 回	自然保護（1）	海、河川、湿地等の保護
第 10 回	自然保護（2）	森林の保護・国立公園制度
第 11 回	自然保護（3）	絶滅危惧種等の保護
第 12 回	エネルギー法	化石エネルギー、核エネルギーと法、自然エネルギーと法
第 13 回	コモンローと環境法	州法で特徴のある環境規制
第 14 回	軍と環境法	軍に対する国内外での環境規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

諏訪雄三『アメリカは環境に優しいのかー環境意思決定とアメリカ型民主主義の功罪』（新評論、1996 年）、畠山武道『アメリカの環境保護法』（北海道大学図書刊行会、1992 年）。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

動画等を用いたわかりやすい授業をこれからも実施していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

POL300HA

自治体環境政策論 I

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自治体環境政策は、福祉政策や経済政策などと同様に、地域の「身近な政府」である自治体が担う公共政策の 1 つの領域である。しかし、現代の自治体の環境政策は極めて幅広い内容を有する。そして多様な環境政策の領域について、自治体には、地域のプロデューサーとして、市民、NPO、企業とともに、総合的な政策展開を図る責任と役割がある。

この講義では、第 1 に、「政策型思考」を身につけるために、「政策」の概念や公共政策の基本構造、政策過程について検討する。また総合的な地域空間づくりとプロデューサーとしての自治体について概観することで自治体環境政策の初期的なイメージをつくる。第 2 に、いくつかの個別領域と政策に関する制度・手法を取り上げ、自治体環境政策の姿により深く迫る。第 3 に、高度経済成長期以降の自治体環境政策の軌跡と政策の歴史的発展モデルについて、現代史への歴史社会学的な視点を交え検討し、さらに現在の政策動向を確認しながら、これからの方向性や課題について検討する。取り上げる個別政策領域としては、都市の緑化・緑地（農地）や河川の保全、ヒートアイランド対策、下水道や公園などの社会資本整備、廃棄物や公害などに関する環境規制、歴史的景観・都市景観の保全や創造である。この授業の目的・意義は、学生が、「持続可能な地域社会」の構築に重要な役割を果たす自治体環境政策に関する基礎知識を身につけ、さらに政策型思考を身につけることで、アクティブに政策問題に取り組む力を養うことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。
・政策構造や政策過程に関する行政学・公共政策学などの基礎について理解する。
・自治体環境政策の軌跡から、現代史に対する視野を形成する。
・自治体環境政策の動向から、地域社会に関する感性や思考能力を身につける。
・自治体環境政策の知識の獲得を通して、ローカル・サステイナビリティコースや他のコースにおいて、地域社会に関する専門性を高める。
・様々な立場の社会人（市民・生活者、地域における公務従事者、NPO 関係者、企業人など）にとって汎用性のある「政策型思考」（問題分析・問題解決型思考）を涵養する。

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。さらに、リアクションペーパーやミニレポートを活用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「政策」とは何か	自治体環境政策が公共政策であることをふまえ、「政策」の概念とその基本的構造について検討し、この講義の導入とする。
第 2 回	自治体環境政策の体系的性と総合性	自治体の政策体系の構築と総合的な展開の意義について確認した上で、自治体環境政策に適用して検討する。
第 3 回	地域空間の形成と自治体環境政策	地域空間の形成について緑化・緑地（農地）保全、川づくり、都市景観などの視点で俯瞰的にシミュレーションしながら、自治体環境政策との関係性について概観する。
第 4 回	地域の総合プロデューサーとしての自治体	地域空間の形成に関する政策実践のケースとともに、地域の総合プロデューサーとしての自治体の政策的役割を検討する。
第 5 回	政策過程の循環モデルと「問題の定義」・「政策課題の設定」	公共政策としての自治体環境政策の動態を理解するために、政策過程の循環モデルを提示した上で、初期的ステージである「公共問題の構造化」と「政策課題の設定」について検討する。
第 6 回	自治体環境政策の「政策立案」と政策手段	政策過程における「政策立案」と政策手段について、自治体環境政策の特性をふまえて、政策選択における不確実性、市民などステークホルダーの参加、政策手段の複合（ポリシーミックス）などについて検討する。
第 7 回	自治体環境政策と法・計画・予算	自治体環境政策が、行政計画、条例などのローカル・ルール、予算など多様な表現形態をとることを確認しながら、自治体の環境基本計画や環境政策関連の条例の動向などに言及する。
第 8 回	21 世紀の都市問題としてのヒートアイランド問題の構造と自治体環境政策	ヒートアイランドを手がかりとして、「公共問題の構造化」について具体的に理解し、問題解決のための自治体環境政策の構造を検討する。

第 9 回	自治体環境政策と環境規制	廃棄物や公害などに関する自治体の環境政策を取り上げながら、地域社会をコントロールする環境規制について検討する。
第 10 回	自治体環境政策と社会資本整備	下水道や公園などの社会資本整備の側面から、自治体環境政策の動向について検討する。
第 11 回	自治体環境政策の軌跡と現代史	高度経済成長期から現代までの自治体環境政策の軌跡を、現代史の展開と並行させながら、政策の歴史的発展モデルについて検討する。
第 12 回	第 1 世代の自治体環境政策と現代の「環境再生」	高度経済成長期において都市の「生活環境の防衛」を主たる目的として登場した第 1 世代の自治体環境政策の政策開発について、当時の社会情勢と現代への示唆をふまえながら検討する。さらに、今日の「環境再生」の時代における自治体環境政策の方向性について検討する。
第 13 回	第 2 世代の自治体環境政策と現代の景観政策	1960 年代後半から 80 年代において、地域空間の質の重視を目的として登場した第 2 世代の自治体環境政策の政策開発について、「環境政策の多文化化」という文脈で、当時の社会情勢を踏まえながら歴史的町並み保全を中心として検討し、さらに現代の景観政策の動向と課題について言及する。
第 14 回	アーバンデザインと現代都市政策	第 2 世代の自治体環境政策の時代から始まったアーバンデザインについて横浜をケースとして回顧しながら、現代都市政策の課題と展望について言及する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う。

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
- ・ミニレポートを作成する。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読む。
- ・講義で言及した自治体環境政策に関連する報道などの情報収集に努める。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

【参考書】

- ・『分権時代の地方自治』三省堂、2007 年。
 - ・『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009 年。
 - ・『自治体環境行政法（第 7 版）』第一法規、2015 年。
 - ・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012 年。
- 上記以外の参考文献は、開講時および授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85 %）＋参加姿勢（5 %）＋ミニレポート（10 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・自治体環境政策のみならず自治体や地域社会全般に関する知識や考え方を獲得する機会になるようです。
- ・全国の具体的な事例紹介は、自治体環境政策の具体的な理解には役立つようです。
- ・学生の思考が止まらないように、配布するレジュメや資料、パワーポイントなどの活用について改善を図っていききたいと思います。
- ・対話型授業をある程度取り入れています、できるかぎり、一方通行の知識伝達にならないように、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思います。
- ・授業の適切な進行スピードについて、提供する知識の内容や分量に留意しながら模索していきたいと思います。
- ・授業全体（14 回）の構成について、学生がより理解しやすい文脈・ストーリーになるように再考していきたいと思います。

【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを強く推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目をあわせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで履修する学生にとっても、地域社会に関連するテーマや「持続可能な地域社会」を理解するためには、自治体とその政策に関する知識や考え方は必須です。
- ・「自治体環境政策論Ⅰ」から「自治体環境政策論Ⅱ」へと内容を連続させているので、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

POL300HA

自治体環境政策論Ⅱ

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自治体環境政策論Ⅰ」の各論として、「自治体環境政策論Ⅱ」では、「持続可能な地域社会」を構築するための自治体環境政策と自治体の政策全体について総合的に検討する。

「自治体環境政策論Ⅰ」で提示する政策の歴史的発展モデルにあるように、今日の自治体環境政策は多文化化している。さらに「持続可能性」という概念をふまえるならば、「持続可能な地域社会」を構築するための自治体政策では、ほぼ全ての政策領域を含む包括性が重要であり、「持続可能な自治体政策」「持続可能な地域政策」といった言い換えが可能である。

「自治体環境政策論Ⅱ」では、第 1 に、「持続可能性」の概念構成と政策規範性について説明した上で、「持続可能な地域社会」の社会像として、都市的地域と非都市的地域（農山村、漁村等）のそれぞれの持続可能性について概観する。第 2 に、「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説と自治体環境政策の動向、多元的な主体による「協治」といえるマルチステークホルダー・プロセスにおける自治体の政策責任、自治体間の政策協調・政策連携、などについて検討する。

「グローバル」な自治体環境政策については、「自治体環境政策論Ⅰ」で述べた第 1 世代、第 2 世代に続く第 3 世代の政策として、地球環境問題に対応する自治体の政策動向を取り上げる。

第 3 に、「持続可能な地域社会」に向けた自治体の総合的な政策展開について、トリプル・ボトムラインといわれる「持続可能性」の包括性・統合性（環境、社会、経済）と「環境政策統合」の視点で検討する。

第 4 に、具体的な政策展開として、「持続可能な都市」に関する政策動向と課題、過疎地域の持続可能な発展政策の動向と課題、「循環型社会」構築に関する自治体環境政策について検討する。

この授業の目的・意義は、学生が人間環境学部在籍中に、何度もふれるであろう「持続可能な地域社会」という言葉について、単なる政策シンボルとしてではなく、その意味を理解し、あるべき社会像をイメージしながら、アクティブに具体的な政策問題に取り組む力を養うことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・「持続可能な地域社会」にかかわる概念と政策規範（政策原則）を理解する。
- ・「持続可能な地域社会」の構築のための自治体環境政策・自治体政策全般の動向と課題に関する知識を習得する。
- ・様々な立場の社会人（生活者・市民、地域における公務従事者、NPO 関係者、企業人など）にとって汎用性のある「政策型思考」（問題分析・問題解決型思考）を涵養する。

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。さらに、リアクションペーパーやミニレポートを活用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	台頭する政策シンボルとしての「持続可能な地域社会」と政策規範	この講義の導入として、様々なシーンで台頭してきた「持続可能な地域社会」という政策シンボルとともに、この言葉に結びつく政策規範としての「持続可能性・持続可能な発展」の概念構成について再検討する。
第 2 回	「持続可能な地域社会」の多様性と基本戦略としての都市の「変容」、過疎地域の「存続」	「持続可能な地域社会」の社会像の多様性を確認しながら、「変容」と「存続」という 2 つの方向性を提示する。
第 3 回	政策規範としての「グローバル」言説の再考	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考しながら、政策規範として再構成する。
第 4 回	「グローバル」な時代における第 3 世代の自治体環境政策	「グローバル」な時代において、地球環境問題（特に地球温暖化への「緩和策」と「適応策」など）に対応する第 3 世代の自治体環境政策について検討する。
第 5 回	地域分散型エネルギーシステムと自治体の政策イノベーション	東日本大震災とその後の再生エネルギー特別措置法を契機として、全国各地で始まった自治体のエネルギー政策の動向について検討する。
第 6 回	責任共有の政策論理と自治体の政策協調・政策連携	「環境ガバナンス」に大きくかわる多元的な主体（自治体、市民、企業、NPO など）による責任共有とマルチステークホルダー・プロセス、地域間の責任共有と自治体の政策責任、自治体間の政策協調・政策連携について検討する。

第 7 回	持続可能性の多面的構成（トリプル・ボトムライン）と「持続可能な地域社会」への政策規範・政策課題	トリプル・ボトムラインといわれる持続可能性の環境的側面、経済的側面、社会的側面などの多面的構成を確認しながら、「持続可能な地域社会」に向けた包括性・統合性という政策規範について、地域における具体的な政策課題とともに検討する。
第 8 回	「環境政策統合」と自治体政策のイノベーション	「持続可能な地域社会」を構築するために多様な政策領域を視野に入れる「環境政策統合」の考え方と、具体的な政策実践について検討する。
第 9 回	「持続可能な都市」の提唱とトレンド	「持続可能な都市」に関するヨーロッパの提唱と動向、国内への政策波及について検討する。
第 10 回	「持続可能な都市」への政策実践	「持続可能な都市」に関する政策実践について、公共交通政策を中心として検討する。
第 11 回	長期的な都市の持続可能性リスクのシナリオとその回避	「持続可能な都市」というコインの裏側にある災害、人口減少社会における「縮小都市」などの長期的な都市の持続可能性リスクとその回避について検討する。
第 12 回	過疎地域の持続可能な発展政策と地域環境	過疎地域の持続可能な発展政策について、「内発的発展」の論理を再考しながら適用し、さらに地域環境資源を活用した先進ケースについて検討する。
第 13 回	過疎地域の持続可能な発展政策と地域間連帯	過疎地域の持続可能な発展政策について、生態系サービスの考え方に基づく地域間連帯モデルを提示し、都市自治体との協力関係を強化していく方向性について展望する。
第 14 回	循環型社会への自治体の政策責任と「地域循環圏」	循環型社会への移行に関する自治体の政策責任について理論的に整理した上で、自治体環境政策の動向と「地域循環圏」という政策原則について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外活動を行う。
 ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
 ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
 ・ミニレポートを作成する。
 ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

【参考書】

・『分権時代の地方自治』三省堂、2007 年。
 ・『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009 年。
 ・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012 年。
 上記以外の参考文献は、開講時及び授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85 %）＋参加姿勢（5 %）＋ミニレポート（10 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・全国的事例について、ほぼ毎回、地方紙の記事をまとめて配布し紹介していますが、最新動向を理解する方法として役立つようです。
 ・学生の思考が止まらないように、配布するレジュメや資料、パワーポイントなどの活用について改善を図っていききたいと思います。
 ・対話型授業をある程度取り入れています、講義内容の伝達とのバランスに留意しながら、学生の思考を促す工夫をしていききたいと思います。
 ・授業の適切な進行スピードについて、提供する知識の内容や分量に留意しながら模索していききたいと思います。
 ・授業全体（14 回）の構成について、学生がより理解しやすい文脈・ストーリーになるように再考していききたいと思います。

【その他の重要事項】

・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
 ・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。
 ・ローカル・サステイナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで学ぶ学生にとっても、地域社会に関するテーマや「持続可能な地域社会」について理解するためには、自治体とその政策に関する知識や考え方は必須です。
 ・「自治体環境政策論Ⅰ」から「自治体環境政策論Ⅱ」へと内容を連続させていきますので、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

POL300HA

地球環境政治論

横田 匡紀

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？ 米国でのトランプ政権の誕生は環境政策にどのような影響を及ぼすのでしょうか？ 地球環境問題への解決に向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みやパリ協定、気候変動問題、トランプ政権などの事例により理解して行くことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員として持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

・パリ協定、気候変動問題、トランプ政権などを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
 ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境 NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
 ・貿易と環境、環境と安全保障といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。
 ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
 ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
 ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
 ・トランプ政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。

【授業の進め方と方法】

この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題など）に取り組む、どのような成果と課題があるのかを確認していく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地球環境政治論総論	地球環境政治とは何か
第 2 回	地球環境政治へのアプローチ（1）	地球環境政治の見方：リアリズムとベラリズム
第 3 回	地球環境政治へのアプローチ（2）	地球環境政治の見方：コンストラクティヴィズム
第 4 回	地球環境政治へのアプローチ（3）	グローバル・ガバナンスとは何か
第 5 回	地球環境政治のメカニズム（1）	地球環境レジーム形成のメカニズム
第 6 回	地球環境政治のメカニズム（2）	地球環境レジーム間の相互関係
第 7 回	地球環境政治のメカニズム（3）	地球環境政治のアクター、国際政治と国内政治の連関
第 8 回	アメリカの地球環境外交：トランプ政権（1）	アメリカの地球環境外交の基礎
第 9 回	アメリカの地球環境外交：トランプ政権（2）	トランプ政権による影響、課題
第 10 回	地球環境政治のイシュー（1）	アジアと欧州における環境リージョナリズムの動向
第 11 回	地球環境政治のイシュー（2）	安全保障の緑化
第 12 回	パリ協定をめぐる国際関係（1）	全体像の把握
第 13 回	パリ協定をめぐる国際関係（2）	グローバル・ガバナンスからみた現状と課題
第 14 回	地球環境政治の展望	地球環境政治の将来の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の各項目について理解できるようにしておく。

【テキスト（教科書）】

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄編『国際関係論（第 3 版）』弘文堂、2018 年

【参考書】

亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010 年
 亀山康子・森晶寿編『グローバル社会は持続可能か』岩波書店、2015 年
 新澤秀則・高村ゆかり編『気候変動政策のダイナミズム』岩波書店、2015 年
 古沢広祐・足立治郎・小野田真二編『ギガトン・ギャップ』オルタナ、2015 年
 角倉一郎『ポスト京都議定書を巡る多国間交渉』法律文化社、2015 年
 小西雅子『地球温暖化は解決できるのか』岩波ジュニア新書、2016 年
 太田宏『主要国の環境とエネルギーをめぐる比較政治』東信堂、2016 年
 蟹江憲史『持続可能な開発目標とは何か』ミネルヴァ書房、2017 年
 鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017 年
 ナオミ・クライン『これがすべてを変える 上・下』岩波書店、2017 年
 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015 年

中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013 年
 大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013 年
 三船恵美『基礎から学ぶ国際関係論（改訂版）』泉文社、2015 年
 足立研幾『国際政治と規範』有信堂、2015 年
 大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016 年
 今井宏平『国際政治理論の射程と限界』中央大学出版部、2017 年
 鈴木基史『グローバル・ガバナンス論講義』東京大学出版会、2017 年

【成績評価の方法と基準】

中間レポートの提出を前提として、期末試験 90 %、平常点 10 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のベースに配慮すること。

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いています。
 進度により講義内容を変更することがあります。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）・環境サイエンスコース

ARSa400GA

地域協力・統合

大中 一彌

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させていただきます。まず、法学部なら、EU 法を中心とした第二次世界大戦後の統合プロセスに焦点をあてるやり方があります（「EU の政治と社会」）。経済学部なら、統一通貨ユーロを中心とした経済統合に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」）。また、生命科学部では、食糧の問題として共通農業政策（CAP）を扱う授業もあるようです（「国際食糧需給論」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、上述のような実学的な切り口とはらず、高校までの世界史の知識を確かめながら、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき教養として、思想史や文化史に焦点をあてつつ、「ヨーロッパとは何か」について認識を深めることにと言えます。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10 世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパやイスラーム世界を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンスが含むヒューマニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革後の諸戦争がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥ヨーロッパ各国における絶対主義および啓蒙専制主義のもとでの商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業支援システムをつうじた小テスト（全員必須）やレポート（任意）の提出を行う。授業内における積極的発言、運営への協力を「ざぶとん点」として評価対象にしている。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明 ※ プリント「地域協力・統合 受講者への注意」を配布
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12 世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16 世紀-17 世紀初頭のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争（cf. 映画『最後の谷』）
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ『戦争の悲惨』。クリュセ、コメニウス、ベンラ 17 世紀に芽生えた統合の思想

君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行。主権者としての国民による「連邦主義」の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、この授業について 90 分程度、授業外で学習していただくことを目安とします。
- ・ほぼ隔週で小テストを実施します（2017 年度実績でいうと 7 回）。これは全員必須で、授業支援システム上で宿題の形で受験します。
- ・授業内報告をほぼ毎月 1 回募集します（2017 年度実績でいうと 3 回）。これは希望者のみで、授業支援システム上で課題を提出し、優秀者について授業内で報告してもらいます。

【テキスト（教科書）】

遠藤乾編『原典 ヨーロッパ統合史 史料と解説』名古屋大学出版会、2008 年。

【参考書】

- 金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史—人物を通して見たあゆみ—』有斐閣、1996 年。
 ジェラルド・ノワリエル『フランスというつば』法政大学出版局、2015 年。
 エティエンヌ・バリバル『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』平凡社、2006 年。

【成績評価の方法と基準】

- ・小テストの受験【全員必須。ただし多くは授業支援システム上で授業外実施】45%
- ・学生による発表、運営への協力【希望者のみ】10%
- ・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】10%
- ・レポート【希望者のみ】35%

【学生の意見等からの気づき】

高校や大学 1 年時の学習との橋渡しを意識し、NHK の高校講座世界史を参照するなどしている。

【学生が準備すべき機器他】

- ・パソコンかスマートフォンが必要。
- ・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。
- ・「授業支援システム」>「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることができる。
- ・Twitter 上で質問を受け付ける。@kazouille

【その他の重要事項】

- ・シラバスを熟読してください。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

POL300HA

エネルギー政策論

菊地 昌廣

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なエネルギー資源の選択、エネルギー利用による地球温暖化、エネルギー資源の価格変動など、多様化する社会問題と経済問題に如何に対処すべきか等の課題、我々の生活の基盤となる電気エネルギーの自由化を踏まえた安定供給確保等の課題を踏まえて、将来のエネルギー政策を国際的、国内的視野に立って議論する。

【到達目標】

- ①エネルギーの基本的技術構造の説明能力を習得する。
- ②社会構造とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ③国内政治とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ④エネルギー需給構造について国際的要因の説明能力を習得する。
- ⑤エネルギー政策立案時の視点や立案のポイントを理解する。
- ⑥質疑応答・討論によりエネルギー問題について理解を深める。

【授業の進め方と方法】

エネルギーに関する基本的な要素を理解した後、社会問題とエネルギー利用に関連した課題、国内政治とエネルギー需給に関連した課題、エネルギーの国内需要と供給に関連する国際的な課題を議論する。最後にエネルギー政策立案の考え方を習得する。
 講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義内容の概観	授業のテーマと到達目標等本講義の意義について説明する。また、現在のエネルギー利用の実態と付帯する社会問題、経済問題等本講義の議論点について概括するとともに、エネルギーを議論するときの基礎となる各エネルギーの供給メカニズムや利用時のエネルギー損失等、議論の背景となる要因について議論する。
第 2 回	エネルギー消費と産業構造	GDP とエネルギー消費の関係等、社会生活とエネルギーとの係わりについて解説すると共に資源から利用可能な状態までの国際的なエネルギー需給バランス等、エネルギーライフサイクルとエネルギー利用の産業構造について議論する。
第 3 回	省エネルギーとエネルギーミックス（再生可能エネルギー、新エネルギー）	エネルギー利用効率向上のために採られてきた省エネルギー対策と国際社会から自立した化石燃料に依存しない持続可能な再生可能エネルギーや新エネルギーの活用について議論する。
第 4 回	新たなエネルギー資源開発や化石エネルギー価格の変動要因	シェールガス、シェールオイル、メタンハイドレートなど新エネルギー資源の確保問題や、国際経済成長戦略と原油、天然ガス、石炭などの在来型化石燃料の価格変動要因との関連について、最近の情勢を分析しつつ議論する。
第 5 回	エネルギー安定供給（エネルギーセキュリティ）	エネルギー政策の一つの要素であるエネルギーセキュリティ問題について、歴史的経緯や考慮すべき要素を議論する。
第 6 回	エネルギー政策の歴史とエネルギー関連法令	近代産業発展に伴って採用されてきた我が国のエネルギー政策を解説すると共に現在のエネルギー関連法令について議論する。
第 7 回	エネルギー税制	国家がエネルギー政策を推進するためには、その資金が必要であり、資金確保のための適切な税制とその用途、活用法の実態を議論する。
第 8 回	電力自由化政策と電力自由化のメカニズム	電力を含むエネルギーは公共財としての側面を有しているが、福島原発事故以降採られてきた電力自由化の動きと、国民に安定的な電力供給体制構築のためのエネルギー価格を構成する要素を議論する。
第 9 回	エネルギー利用とリスク	地球温暖化から派生する気候変動や食糧問題等を踏まえて、エネルギーを国際社会が安心安全な環境で使用するために配慮すべきエネルギー利用形態とそのリスクについて、京都議定書と昨年のパリ合意の内容を比較しつつ議論する。

第 10 回	国際戦略としてのエネルギー需給問題	資源小国である我が国は海外からの供給を前提としていることから、原油価格変動に注視している状況にあり、世界のエネルギー供給戦略と我が国の利用戦略について歴史的視点から議論する。
第 11 回	エネルギー政策立案のメカニズムと政策の方向性	エネルギー基本計画策定、実施関連法令立案等具体的なエネルギー政策を立案するためのメカニズムを紹介すると共に今後の国内エネルギー政策の方向性について議論する。
第 12 回	エネルギー産業を介した地方創生方策	エネルギー基本計画により再生可能エネルギーなどの活用の活性化が推進されており、このような産業を介した地方創生のための方策について議論する。
第 13 回	将来のエネルギー需給予測と消費展望	将来の内外のエネルギー需給予測を世界各國の経済発展との関連で解説すると共に、今後の世界エネルギー需給についての将来展望について議論する。
第 14 回	講義内容のレビューと質疑応答	これまでの講義内容をレビュー質疑応答を行うことにより、講義内容の理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業日前に次回講義で使用する資料を授業支援システムを介して配信する。受講生は、授業支援システムへ登録し、資料の受領が行えるようにしておくこと。受講日までにその内容をよく予習することを求める。
エネルギー問題に関する報道内容等に留意し、講義の論点についての事前の情報収集が授業内容の理解を促進させる。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【参考書】

本講義を受講するに当たって、以下の文献を推奨する。

- 1) 十市 勉（2005）『21 世紀のエネルギー地政学』（産経新聞出版）
- 2) 小池康郎（2011）『文系人のためのエネルギー入門』（勁草書房）
- 3) 三浦隆利、他（2008）『エネルギー・環境への考え方』（養賢堂）
- 4) 藤原淳一郎（2010）『エネルギー法研究』（松岳社）
- 5) エネルギー・経済統計要覧、日本エネルギー経済研究所（最新年度版）
- 6) その他、エネルギー白書等政府刊行物

【成績評価の方法と基準】

平常点：10 点

期末試験結果 90 点（論述式試験による）

【学生の意見等からの気づき】

自らエネルギーに関連する内外の動きを敏感にとらえ、予習しておくことが受講に効果的である。

【学生が準備すべき機器他】

事前に授業支援システムで配信する講義レジメのプリント

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

POL300HA

人間の安全保障

山本 和也

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際的な観点からの安全保障といえば、かつては国家同士の武力紛争問題でした。しかし現代では、地球上に存在する一個人に視点を合わせ、安全保障を考えます。本講義では、この「人間の安全保障」について体系的に学習します。

【到達目標】

安全保障概念の変遷、人間の安全保障に対する国際機関・国家の政策、人間の安全保障問題に対する具体的な取り組みを包括的に理解します。これによって、日本で生活している人々のみならず、世界中の人々を同じ視点で見つめる感性を醸成し、グローバルに政治経済社会問題を捉えることができるようになります。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義（教員による話）および映像資料を用いて行います。毎回、簡単な小テストを行います。可能である場合には、教員・学生による議論も行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「人間の安全保障」とは何か	人間の安全保障とはどのようなものかについて、全体像を概説し、既存の学問分野との関係を説明する。
第 2 回	「人間の安全保障」論の背景	従来の安全保障の考え方に加えて、人間の安全保障という主張が行われるようになった背景を解説する。
第 3 回	「人間の安全保障」論の展開	1990 年代から現在までに、「人間の安全保障」論がどのように発展してきたかを概観する。
第 4 回	人道活動の概要・歴史・課題	19 世紀までさかのぼり、人道活動の歴史と課題を考察する。
第 5 回	国際法と人間の安全保障	人間の安全保障の発展は、国際法による戦争の位置づけの変遷と不可分である。この回では、これを学ぶ。
第 6 回	人間の安全保障と日本	戦後日本の平和主義と人間の安全保障は、密接に関連している。この回では、人間の安全保障に対する日本政府の取り組みを概説する。
第 7 回	難民支援と国際機関	国連をはじめとする国際機関は、人間の安全保障の実現を目指す主要な主体である。この回では、国際機関の取り組みを概説する。
第 8 回	ホームグロウンテロリズム	最近、ホームグロウンテロリズムと呼ばれるテロ行為が関心を集めている。本講では、これを解説する。
第 9 回	受け入れ国と社会	EU の分裂危機にみられるように、移民問題は現在の人間の安全保障の主要な関心事である。この回では、移民受け入れ国の旧来の市民の立場からこの課題を考察する。
第 10 回	平和構築と課題	国連 PKO 活動などの平和構築は、人間の安全保障の主要課題である。この回では、国連 PKO 活動の課題を考察する。
第 11 回	感染症問題	エボラ、鳥インフルエンザなどの爆発的感染の発生（パンデミック）は、人類に対する最大の脅威のひとつである。この回では、この問題に対する国際社会の対応の課題を考察する。
第 12 回	自然災害	大地震や巨大台風がもたらす災害もまた人間の安全保障のテーマである。この回では、この課題に対する国際ボランティアの取り組みをみていく。
第 13 回	地球環境問題	地球環境問題は、武力紛争などとは縁遠い先進国の人々にも直接関係する人間の安全保障問題である。この回では、地球温暖化問題を取り上げ、各国の取り組みを概観する。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りと討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

人間の安全保障を実現すべく取り組まれている諸問題は、われわれの身近にあります。新聞やニュースをみる際には、これら諸問題に対して常に関心を持っておく必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。

【参考書】

講義において、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (70%)、毎回の小テスト (30%)

【学生の意見等からの気づき】

人間の安全保障の諸課題を具体的に理解できるように、映像資料を多く用います。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを利用します。関連資料は、授業支援システムに掲載します。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース (旧・国際環境協力コース)

ECN200HA

ミクロ経済学 I

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場経済の機能を体系的に理解することが、講義の目的である。分権的・利己的な経済行動を前提としても、ある理想的な条件のもとでは、それが社会の成員全体の利益にかなうことがあることを理解する。さらにその上で、市場経済の限界を深く考える。

【到達目標】

需要曲線・供給曲線とその背後にある消費者行動・生産者行動について学び、現実の様々な経済現象や政策の効果を分析できるようになることを目標とする。まず個人の経済行動と企業の経済行動を、経済学がどのようにとらえているかを考える。そこから、右下がりの需要曲線・右上がりの供給曲線が導かれることを学ぶ。つぎにそうした市場取引の結果、個人及び企業がどれだけ得をするかを消費者余剰・生産者余剰という考え方に沿って理解し、利己的な経済行動を前提としても、経済が上手くいく場合（アダムスミスの見えざる手が成立する場合）があることを明らかにする。最後になぜ利己的な行動では経済が上手くいかない場合があるのかを理解し、その典型例として、地球温暖化問題に象徴される環境問題を経済学的に分析する

【授業の進め方と方法】

講義による。随時関連資料を配布する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経済学とは何だろう（経済活動の自由はどこまで認められるか）
第 2 回	利己的な行動とは何か	アダムスミスの見えざる手を考える
第 3 回	市場とは何か	私利の調整の場としての市場
第 4 回	個人の経済行動を描写する（その 1）	効用という考え方
第 5 回	個人の経済行動を描写する（その 2）	予算制約とは何か
第 6 回	個人の経済行動を描写する（その 3）	限界効用・需要曲線と消費者余剰
第 7 回	企業の経済行動を描写する（その 1）	完全競争と費用という考え方
第 8 回	企業の経済行動を描写する（その 2）	限界費用・供給曲線と生産者余剰
第 9 回	市場の効率性：消費者余剰と生産者余剰 1	消費者余剰と生産者余剰の概念を学び、市場の効率性について考える。
第 10 回	市場の効率性：消費者余剰と生産者余剰 2	前回に続き、消費者余剰と生産者余剰の概念を学び、市場の効率性について考える。
第 11 回	市場の働き（その 1）	均衡という考え方
第 12 回	市場の働き（その 2）	アダムスミスの見えざる手を理解する
第 13 回	市場の失敗（その 1）	なぜ政府は存在するのか
第 14 回	市場の失敗（その 2）	外部性という考え方を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さらなる学習のための参考文献を適宜指示する。

【テキスト（教科書）】

大瀧雅之 『アカデミックナビ 経済学』 勁草書房

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

最終回の講義で、講義内容と自ら講義で獲得したものを 4000 字以上でまとめたレポートを提出するのが義務である。それで成績を評価する (100 パーセント)。

【学生の意見等からの気づき】

2015 年度より担当。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース (旧・エコ経済経営コース)

ミクロ経済学Ⅱ

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学Ⅰでの学習を受けて、市場の失敗を取り扱うためのゲーム理論と不確実性の経済学の基礎を学ぶ。この二つの考え方を知ることによって、さらに進んだミクロ経済学を学ぶための知識を完成することができる。

【到達目標】

最初にゲーム理論の基礎を解説し、それが現実の経済問題にどのように応用されるかを、地球温暖化に象徴される環境問題を通じて理解し、ゲーム理論の有用性を知る。さらに将来の学習に備えるために、少し進んだ考え方であるフォーク定理や部分ゲーム完全均衡の考え方を紹介する。次いで、ゲーム理論との関連に留意しながら、不確実性の経済学の解説に移る。特に強調したいのは、高校までで習った確率の考え方と本来の確率の考え方が、どういう関係にあるのかを知ってもらいたいことである。不確実性とは、大まかに言えば「分からない状態にある」ということであるが、その「分からない」が、どのように表現されるかを是非学んでほしい。

【授業の進め方と方法】

講義による。必要資料は随時配布する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	市場の失敗とは何か
第2回	ゲーム理論（その1）	ゲーム理論とは何か
第3回	ゲーム理論（その2）	ゲーム理論の構造を知る
第4回	ゲーム理論（その3）	ナッシュ均衡の考え方を知る
第5回	ゲーム理論（その4）	ゲーム理論で環境問題を考えるー1
第6回	ゲーム理論（その5）	ゲーム理論で環境問題を考えるー2
第7回	ゲーム理論（その6）	部分ゲーム完全均衡の考え方を学ぶ
第8回	ゲーム理論（その7）	フォーク定理とはなにか
第9回	不確実性の経済学（その1）	情報・不確実性とは何か
第10回	不確実性の経済学（その2）	確率という考え方を学ぶ
第11回	不確実性の経済学（その3）	個人の不確実性に対する態度を知る
第12回	不確実性の経済学（その4）	不確実性の経済学で保険の機能を学ぶー1
第13回	不確実性の経済学（その5）	不確実性の経済学で保険の機能を学ぶー2
第14回	まとめ	ゲーム理論で人生を語ることができるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さらなる学習のための参考文献を適宜指示する。

【テキスト（教科書）】

大瀧雅之 『アカデミックナビ 経済学』 勁草書房

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

最終回の講義で 4000 字以上で、講義の内容また講義で自分が新たに獲得したものを整理してまとめたレポートの提出を求める。これにより評価する（100 パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

極力数式を用いない形で講義を進める。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

マクロ経済学Ⅰ

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代後半から 80 年代半ばまでの安定成長期を日本経済の繁栄期と規定し、そのころの平均的日本人がどんな生活をしてたかを活写する。そして受講生にわずか 40 年ばかりの間にどれほど生活様式が変化し、かつ現在が IT 技術の進歩により繁栄期から比べても、どれほど豊かになっているかを理解させる。ブラザ合意を境に 1990 年代初頭までをバブル期と規定し、それを引き起こした経済要因を明らかにする。そして 97 年のアジア金融危機のアジア金融危機まで、なぜ不良債権問題の処理が先延ばされたのかを考える。1997 年は日本経済の転機で、21 世紀の現在に至る経済政策の考え方が形成された時期であることを理解させる。

【到達目標】

1980 年代の繁栄期から現在にかけての日本経済のありようを、経済政策の変化や IT 技術に象徴される技術進歩との関連に留意しながら、理解することを目的とする。国民経済計算等の統計資料に基づきながらエヴィデンス・ベースで授業を進める。

【授業の進め方と方法】

実際のマクロ経済の動きを理解するには、ある程度の経済理論に関する知識が必要であるが、それは都度、数式を全く用いずに解説するので安心して講義に参加してほしい。使用するデータは、毎回プリントにて配布する。そして、講義のまとめとしてして下記のテキストを読んでくることを義務付ける

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経済学から見た日本の 40 年
第2回	日本経済の繁栄 1	統計でみる 1980 年代と現在（繁栄とは何かを考える）
第3回	日本経済の繁栄 2	コーポレートガバナンスからみた 1980 年代と現在
第4回	日本経済の転機 1	ブラザ合意と金融政策
第5回	日本経済の転機 2	バブルの始まりとその背景
第6回	日本経済の転機 3	バブルとは何だったのか・なぜ崩壊したのか
第7回	日本経済の転機 4	不良債権問題と財政政策
第8回	日本経済の転機 5	アジア金融危機：日本人の価値観の転換
第9回	現在への道 1	「構造改革」とはどんな考え方でなされたのか（組織から市場へ）
第10回	現在への道 2	労働市場の規制緩和と対外直接投資
第11回	現在への道 3	東京への一極集中と地方の衰退（市場はすべてを解決するか）
第12回	現在への道 4	急速な少子高齢化と財政危機
第13回	日本経済の現在	財政・金融政策のあり方考える
第14回	授業のまとめ	これからの日本経済のために

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの第 9 章を講義の前半までで、読了し、自分の考え方をまとめて置くこと。

【テキスト（教科書）】

大瀧雅之著 『アカデミックナビ 経済学』 勁草書房

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末に講義内容と自分の新しく学んだことをまとめたレポートを、4000 字以上で提出することが義務である。それによって成績を評価する（100%）。なお学生諸君の自覚と積極的な講義参加を重視する立場から、テストや出欠確認は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

初回の講義で、日本経済の直面している諸問題について、オーヴァーヴューする。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

マクロ経済学Ⅱ

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まず政府の市場への介入の必要性を重んじるケインズ経済学と自由放任主義を唱える新古典派マクロ経済学の違いがどこにあるのかを、最初の 5 回の講義で理解する。その後、マクロ経済学がミクロ経済学を基礎とした貨幣経済の理論であることを、世代重複モデルの考え方をを用いて理解する。そしてそれをツールとして、ケインズ経済学の理論を正確に解説する。最後にその応用として、現代日本経済の深刻な問題となっている国債の累増問題についてどう考えるべきかを提示する。

【到達目標】

この授業ではマクロ経済学の基本的な理論を学ぶ。雇用・賃金・インフレ率・利率はどのような経済要因によって決定されるのか、そしてそれは、われわれの生活に如何なる影響を与えるのかを理解する。

【授業の進め方と方法】

マクロ経済学では、ミクロ経済学には登場しない貨幣が重要な役割を果たす。現実の貨幣経済とミクロ経済学が対象とする物々交換経済では、経済に対する見方がどのように変化するかを、平易に解説する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	マクロ経済学とミクロ経済学を分けるもの
第 2 回	ケインズ経済学の考え方	需要が供給を生み出す
第 3 回	新古典派経済学の考え方	供給が需要を生み出す
第 4 回	ケインズ経済学と新古典派経済学を分けるもの	価格の働き
第 5 回	ケインズ経済学と新古典派経済学の思想の違い	政府はなぜ必要か
第 6 回	世代重複モデルの考え方（その 1）	貨幣経済の捉え方を学ぶ
第 7 回	世代重複モデルの考え方（その 2）	貨幣の機能を知る
第 8 回	消費関数の考え方（その 1）	経済をダイナミックに捉える
第 9 回	消費関数の考え方（その 2）	ミクロ経済学との接点を知る
第 10 回	物価とインフレの理論	貨幣の価値としての物価という考え方を 知る
第 11 回	有効需要の理論（乗数理論）	ケインズ経済学とミクロ経済学の繋が りを知る
第 12 回	国債とマクロ経済（その 1）	リカードとラーナーの考え方
第 13 回	国債とマクロ経済（その 2）	国債は将来世代の負担となる
第 14 回	まとめ	これまで学んだことを総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回講義に備えてテキストの対応部分を読んでくることを義務付ける。

【テキスト（教科書）】

大瀧雅之『アカデミックナビ 経済学』、勁草書房

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末に講義の内容をまとめ、自ら新しく学んだことを論理的にまとめたレポートを、4000 字以上で提出することを求める。これで成績を評価する（100%）。期末テストは実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

講義では若干の数学が用いられるが、予備知識がなくても良いように進める。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

公共経済学

小田 圭一郎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、ミクロ経済学の基礎理論に基づき、公共政策を分析するための基本的フレームワークを身につける。

【到達目標】

学生は、市場経済における公共部門の役割について学ぶ。
具体的には、以下の事項を理解する：
・市場経済の利点（厚生経済学の基本定理）と限界（市場の失敗）
・公共財の効率的配分
・外部性の市場的解決
・環境問題の市場的解決方法としての環境税と排出権取引
・情報非対称性問題へのゲーム理論的解決方法の基礎

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。数回程度の宿題を課す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	公共経済学の概観と授業の進め方
第 2 回	ミクロ経済学①	最適化問題の定式化
第 3 回	ミクロ経済学②	厚生経済学の基礎
第 4 回	ミクロ経済学③	市場の失敗
第 5 回	公共財①	定義・効率的配分条件
第 6 回	公共財②	リンダール均衡、クラークメカニズム
第 7 回	ゲーム理論	ゲーム理論の初歩
第 8 回	外部効果①	定義、コースの定理
第 9 回	外部効果②	市場的解決方法
第 10 回	環境政策①	環境問題の定式化
第 11 回	環境政策②	環境税と排出権取引
第 12 回	公的企業	自然独占と規制
第 13 回	情報非対称性問題①	情報非対称性問題の一般的考え方
第 14 回	情報非対称性問題②	環境政策における逆選択問題の定式化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、ミクロ経済学の初歩について適宜復習を行うとともに、授業内容の理解確認のための宿題を提出する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社。
他は初回授業時に指示。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」記載事項の理解度に応じて評価を行う：

・期末試験または期末課題（90%）
・宿題（10%）

【学生の意見等からの気づき】

分析の基礎となる諸概念について直観を与えるような説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムから資料をダウンロードし、授業に持参すること。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学の諸概念に基づいた説明を行うが、具体的な授業計画については、参加学生のバックグラウンド、関心分野等に応じて適宜修正する。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

現代企業論

長谷川 直哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済社会システムにおける企業活動の意義・役割を理解することは経営学の基本です。本講義では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球環境問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、知識集約型社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社制度と様々な経営課題に立ち向かう企業の姿勢を理解し、社会的器官としての企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（ナレッジマネジメント、コーポレートガバナンス等）に関する基本理論と事例を取り上げます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 企業とは何か	講義の全体像 株式会社の誕生と発展
第 2 回	製品・サービスの提供	市場における優位性の獲得
第 3 回	株式会社の仕組みと課題	株式会社は誰のものか
第 4 回	大企業の機能と専門経営者の誕生	所有と経営の分離
第 5 回	企業規模の拡大と組織	規模の利益と経営の効率化 企業統治の仕組み
第 6 回	日本の経営の構造	日本の経営の成果と課題
第 7 回	経営管理の理念と機能	マネジメントの実践
第 8 回	ICT・IoT と企業経営	先端技術の活用と経営変革
第 9 回	特別講義	企業関係者による講義
第 10 回	競争戦略とマネジメント	市場競争力の源泉
第 11 回	製品開発戦略	製品開発のコンセプトとプロセス
第 12 回	株式市場と企業価値	企業と投資家の関係
第 13 回	SDGs と ESG 投資	持続可能な開発目標と企業経営の未来
第 14 回	企業間競争ケーススタディ	飲料メーカーの競争戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけてどのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

井原久光『テキスト経営学—基礎から最新の理論まで 第 3 版』ミネルヴァ書房、2008 年
 佐久間信夫『よくわかる企業論 [第 2 版]』ミネルヴァ書房、2016 年
 武藤泰明『ビジュアル経営の基本 第 3 版』日本経済新聞社、2010 年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：15 %
 期末試験：85 %
 講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

ビジネスヒストリー

長谷川 直哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
 開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦前・戦後の日本経済の発展をリードした代表的な企業家の活動について説明します。過去から現在に至る企業および企業家活動の展開を振り返ることで、企業と社会の関係性や企業の社会的責任（CSR）の変遷について学びます。併せて、就職先企業の選定について役立つ情報・知識を提供します。

【到達目標】

現代企業の発展プロセスを理解し、企業が長年培ってきた強み・弱み、企業理念、CSR の取り組み等を理解する能力を高めることを目指します。

【授業の進め方と方法】

毎回、わが国の代表的な企業や企業家のケースを取り上げて解説します。また、外部講師による特別講話を行う予定です。講義にはパワーポイントを使用し、必要に応じて DVD 等を視聴します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション CASE1 高峰譲吉 [三共商店]	ビジネスヒストリーを学ぶ意義 第一三共株式会社
第 2 回	CASE2 豊田佐吉 [豊田自動織機製作所]	トヨタ自動車株式会社
第 3 回	鈴木道雄 [鈴木式織機株式会社]	スズキ株式会社
第 4 回	波多野鶴吉 [郡是製糸]	グンゼ株式会社
第 5 回	大原孫三郎 [倉敷紡績・倉敷絹織]	倉敷紡績株式会社 株式会社クラレ
第 6 回	武藤山治 [鐘淵紡績]	カネボウ株式会社
第 7 回	岡田良一郎 [大日本報徳社]	公益社団法人大日本報徳社
第 8 回	金原明善 [天竜木材・金原銀行]	財団法人金原治山治水財団
第 9 回	伊庭貞号・鈴木馬左也 [住友財閥]	住友グループ
第 10 回	鳥井信治郎 [寿屋洋酒店]	サントリーホールディングス株式会社
第 11 回	小林一三 [阪急電鉄]	阪急阪神東宝グループ
第 12 回	石橋正二郎 [日本足袋]	株式会社ブリヂストン
第 13 回	樋口廣太郎 [アサヒビール]	アサヒグループホールディングス株式会社
第 14 回	稲盛和夫 (京都セラミック) 立石一真 [立石電機]	京セラ株式会社 オムロン株式会社

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業のホームページに掲載されている「企業の歴史」などをウォッチし、各企業が生き残りをかけてどのような取り組みを行ってきたのかを考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著
『企業家活動でたどるサステナブル経営史: CSR 経営の先駆者に学ぶ』文眞堂、2016 年
長谷川直哉編著
『企業家活動でたどる日本の金融事業史』文眞堂、2013 年
長谷川直哉著
『スズキを創った男—鈴木道雄』三重大学出版会、2005 年
宇田川勝編
『ケースブック日本の企業家—近代産業発展の立役者たち』有斐閣、2013 年
宇田川勝、生島淳編
『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣、2011 年
宇田川勝編
『企業家活動でたどる日本の自動車産業史』文眞堂、2012 年
法政イノベーションマネジメント研究センター/宇田川勝編
『ケーススタディー 日本の企業家群像』文眞堂、2008 年

【成績評価の方法と基準】

期末試験：100 %
 講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを中心に、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター、DVD

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

経営学入門

金藤 正直

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、各企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、テキストを中心とした理論的内容だけではなく、日本企業の実践的取組みについても取り上げるために、企業が実際にどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動を理解することができる。

【授業の進め方と方法】

本講義では、テキストを中心に進めていくが、各講義の内容に関連する映像資料や新聞・雑誌記事も活用し、その中で取り上げられている日本企業のビジネスモデルについて履修者と一緒にディスカッションしていくとともに、その解説（ケーススタディ）も行う。さらに、資格試験の過去問題に基づいた例題を実際に解いていくことにより、経営学への理解をさらに深めていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 経営学とは何か	講義の目的、内容・範囲、進め方、評価に加えて、経営学の目的および意義についても説明する。
第 2 回	企業と経営 企業の諸形態	企業が行う経営の全体像について説明する。また、企業・会社の概念の諸形態に関する講義を通じて、企業にはさまざまな形があることも説明する。
第 3 回	経営戦略の策定プロセス	経営戦略の概念、特徴、策定方法について説明する。
第 4 回	全社戦略	企業全体の戦略である「全社戦略」について説明する。
第 5 回	事業戦略	事業別の戦略である「事業戦略」について説明する。
第 6 回	機能別戦略	部署別の戦略である「機能別戦略」について説明する。
第 7 回	ケーススタディ①－新たな経営戦略の展開－	第 6 回までの講義内容に基づいて、日本企業の経営戦略モデルを考察するとともに、当該企業が将来策定すべき経営戦略について議論する。
第 8 回	経営組織の基本形態とその特徴	経営組織とは何か、また、経営組織の基本形態とその特徴について説明する。
第 9 回	経営組織の応用形態とその特徴	第 8 回の講義内容に基づいて、経営組織の応用形態とその特徴について説明する。
第 10 回	ケーススタディ②－新たな経営組織の展開－	第 9 回までの講義内容に基づいて、日本企業の経営組織モデルを考察するとともに、当該企業が将来展開すべき経営組織について議論する。
第 11 回	経営管理の仕組み①－経営機能と管理機能－	経営機能と管理機能について説明し、企業経営を管理（マネジメント）していく方法を理解する。
第 12 回	経営管理の仕組み②－「ヒト」と「モノ」の管理－	企業の人的資源である「ヒト」、製品製造に要する材料や仕掛品などの「モノ」の管理方法について説明する。
第 13 回	経営管理の仕組み③－「カネ」と「情報」の管理－	企業が経営戦略の策定、経営組織の編成、経営管理をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計や情報の管理の基礎基本を説明する。
第 14 回	ケーススタディ③－新たな経営管理の展開－	第 13 回までの講義内容に基づいて、日本企業の経営管理モデルを考察するとともに、当該企業が将来実施すべき経営管理の方法について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、ゼミナール活動で必要とされる研究・調査の方法などの基礎基本も身に付けてもらうために、テキストの内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式あるいは Q&A 形式も取り入れて進めていきます。そのために、講義日前後は、テキストだけではなく、関連する他の著書や新聞・雑誌記事なども読んで、講義中に、積極的に参加・発言できる知識量を増やすように努めてください。

【テキスト（教科書）】

経営能力開発センター（2013）『経営学検定試験公式テキスト ①経営学の基本』中央経済社。

※なお、新しい版が刊行されている場合は、そのテキストを使用します。

【参考書】

講義中にいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

- ・亀川雅人・鈴木秀一（2011）『入門経営学 第 3 版』新世社。
- ・北中英明（2013）『プレステップ経営学』弘文堂。
- ・橘川武郎・平野創・板垣暁（2014）『日本の産業と企業』有斐閣アルマ。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・リアクション・ペーパーの提出（20 %）
- ・討論やクイズへの参加（20 %）
- ・確認テスト（20 %）
- ・期末試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、講義中に提出してもらっているリアクションペーパーや、アンケート調査に書かれている意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料（ワード資料）に関連する内容を口頭で説明する場合もありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・ワードおよびパワーポイントの資料と映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

環境経営と会計

金藤 正直

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
 開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計とは、特定の経済主体が行った活動の状況を定量的に測定し、この結果を情報利用者（ステイクホルダー）に伝達するための情報システムである。そのために、会計の領域は、ミクロ会計（家計、企業、政府を対象とした会計）、メソ会計（地域を対象とした会計）、マクロ会計（国を対象とした会計）の3つに分類される。本講義では、ミクロ会計のうち、「企業（主に、株式会社）」を対象とした会計（企業会計）を体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業による従来の経営や環境経営の取組みと会計との関係を考えるに入れながら学習していくために、企業だけではなく、その経営者における会計の役割や重要性が理解でき、また、会計固有の計算技法や考え方を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】

本講義では、テキストを用いて専門的で難解な用語、概念、技法（コアな部分）を平易に説明するだけでなく、各講義の内容に関連する練習問題を配布し、履修者と一緒にその問題の解答やその解答に対するディスカッションおよび解説を行うことにより、会計学への理解を深めていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 「会計」とは何か	講義の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。また、企業経営における会計の目的や役割について説明する。
第 2 回	会計の基本的技法	会計を支える技法（簿記）の手続きとその内容について説明する。
第 3 回	簿記の構成要素－資産、負債、純資産－	簿記の構成要素のうち、資産、負債、純資産について説明する。
第 4 回	簿記の構成要素－収益、費用－	簿記の構成要素のうち、収益および費用について説明する。
第 5 回	取引と勘定	帳簿記入の対象（取引）とその処理方法について説明する。
第 6 回	簿記・会計の練習問題①	第 2 回から第 5 回までの講義内容を練習問題を用いて復習する。
第 7 回	仕訳と転記 仕訳帳の記帳方法	取引の仕訳と仕訳帳の記帳方法について説明する。
第 8 回	仕訳帳と総勘定元帳	仕訳帳から総勘定元帳までの転記方法について説明する。
第 9 回	試算表と精算表	試算表・精算表作成の意義と方法について説明する。
第 10 回	決算と財務諸表	帳簿の締切り、損益計算書および貸借対照表の作成までの流れとその方法について説明する。
第 11 回	簿記・会計の練習問題②	第 6 回から第 10 回までの講義内容を練習問題を用いて復習する。
第 12 回	企業分析の方法 実数分析	企業分析（経営分析）の必要性と、実数分析の方法について説明する。
第 13 回	安全性分析 収益性分析	安全性と収益性の分析方法について説明する。また、第 12 回と第 13 回の講義内容も加味した練習問題を用いて、企業経営の分析を行う。
第 14 回	環境経営と会計	これまでの学習内容に基づいて、環境経営を支援する環境会計の仕組みについて説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業会計の知識や考え方、そして技法だけではなく、ゼミナール活動で必要とされる研究・調査の方法などの基礎基本も身に付けてもらうために、テキストの内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式あるいは Q&A 形式も取り入れて進めていきます。そのために、講義日前後は、テキストだけではなく、関連する他の著書や新聞・雑誌記事なども読んで、講義中に、積極的に参加・発言できる知識量を増やすように努めてください。

【テキスト（教科書）】

資格の大原（2017）『土日で合格の日商簿記初級』中央経済社。

【参考書】

講義中にいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

- ・鈴木一道（2012）『会計学 はじめの一步』中央経済社。
- ・山崎雅教（2014）『簿記 はじめの一步』中央経済社。
- ・榎岡源一郎（2015）『図解でナットク 会計入門』中央経済社。
- ・千代田邦夫（2016）『新版 会計学入門－会計・監査の基礎を学ぶ－（第 4 版）』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・リアクション・ペーパーの提出（20 %）
- ・討論やクイズへの参加（20 %）
- ・確認テスト（20 %）
- ・期末試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、講義中に提出してもらっているリアクションペーパーや、アンケート調査に書かれている意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料（ワード資料）に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・ワードおよびパワーポイントベースの資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN100FA

簿記入門Ⅰ（2016年度以降入学生）〔春学期授業〕
簿記入門Ⅱ（2016年度以降入学生）〔秋学期授業〕
簿記入門Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学生）〔年間授業〕

大下 勇二

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位・2単位・4単位

開講セメスター：春学期／秋学期／通年 | 曜日・時限：木5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ/Ⅱでは日商簿記3級程度を共通の目標としているが、このクラスでは、特に2年次以上の学生向けに3級程度の簿記の基礎を習得することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおりまぜながら習得する。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	簿記会計の基礎	簿記の役割、簿記の種類について解説します。
第2回	資産・負債・純資産（資本）(1)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産（資本）について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第3回	資産・負債・純資産（資本）(2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産（資本）について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法を学びます。
第4回	収益・費用	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第5回	簿記上の取引	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第6回	仕訳 (1)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第7回	仕訳 (2)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第8回	勘定記入	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。取引から仕訳、その勘定口座への転記の作業を習得します。
第9回	帳簿組織	帳簿組織の種類と役割から、帳簿組織を学習します。
第10回	試算表の作成	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第11回	決算手続き (その1)(1)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第12回	決算手続き (その1)(2)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第13回	決算手続き (その1)(3)	決算手続き (その1)(1) および決算手続き (その1)(2) で学んだ内容を前提に、精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。
第14回	現金・預金の記帳	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	総括	第14回までの学習内容に関する総合問題に取り組みます。
第16回	商品売買の記帳 (1)	3分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を練習します。
第17回	商品売買の記帳 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。

第18回	売掛金・買掛金の記帳	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳、貸倒れの処理を練習します。
第19回	手形取引の記帳	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、為替手形の仕組みと種類、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第20回	その他の債権・債務の記帳	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第21回	有価証券の記帳	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第22回	固定資産の記帳 (1)	固定資産の取得、減価償却について学習します。
第23回	固定資産の記帳 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、固定資産の売却の処理について学習します。
第24回	税金の記帳	個人企業の税金、費用として認められる税金、費用として認められない税金、費用・収益に関係のない税金の処理を学習し、源泉徴収制度の仕組みを学びます。
第25回	営業費の記帳	その他の営業費に関する勘定の特徴と記帳方法を学習します。
第26回	資本の記帳	個人企業の資本金、引出金の処理について学習します。
第27回	決算手続き (その2)(1)	決算整理の意味、貸倒引当金、有価証券の評価替えを中心に、決算整理の処理を学習します。
第28回	決算手続き (その2)(2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品残高の整理を中心に、決算整理の処理を学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを事前におき、例題を解いておくことが求められます。また、毎授業の最後に、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】

大下・福多・神谷・筒井著『簿記講義ノート』白桃書房

【参考書】

日商簿記検定試験問題集

【成績評価の方法と基準】

基本的には、春学期・秋学期の定期試験により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

仕訳トレーニングの問題を毎回学生に解答してもらい、授業内容の理解度を確認しながら、授業を進めて行きます。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

この講義は、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

環境経済論Ⅰ

國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題はどのようにして市場経済で対処することが難しいのかを問題意識として、環境経済学で取り扱われる重要な概念・考え方を学ぶ。とくに近年、国際的な環境問題を取り扱ううえで注目されている環境問題に対する経済的手段（economic instruments）を理解し、その役割を評価・検討する。そのために、市場経済のパフォーマンスの検討からは始めて、環境問題に対処するためにどのような考え方や政策が行わなければならないか、市場経済を補完・超克するための環境政策の基礎的な視点を検討していく。

【到達目標】

さまざまな経済活動にともなって発生している環境問題の解決を考えるためには、環境問題と経済活動との関わりを体系的に理解する必要がある。この授業では、経済学の側面から環境問題の捉え方や問題の解決・軽減のためにどのような対処方法があるのかを幅広い立場から検討することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。最初に、環境問題が過去、どうして市場経済で対処が難しかったのか、また困難であり続ける要因は何なのか、そして対処するにはどのような枠組みが必要なのかなどを学ぶ。そのために、環境経済学で取り扱われる「外部性」、「公共財」などの概念や性質を理解する。その後、近年、注目を浴びている環境問題に対する経済的手段を理解するために必要とされる基礎的事項を講義する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方および経済における環境の果たす役割の概観
第 2 回	日本を中心としたローカルな環境問題	公害問題やその後の環境問題についての概観
第 3 回	ミクロ経済学のレビュー (1)	市場とは何かについて考える
第 4 回	ミクロ経済学のレビュー (2)	分析道具として、限界概念、余剰概念などを議論
第 5 回	ミクロ経済学のレビュー (3)	パレート効率性による市場の評価とその前提条件
第 6 回	公共財の課題 (1)	市場の失敗と環境問題の公共財的側面
第 7 回	公共財の課題 (2)	リンダール均衡の考え方と現実での対応
第 8 回	環境問題の捉え方 (1)	負の外部性問題としての環境問題の視点
第 9 回	環境問題の捉え方 (2)	環境税の基礎理論（そのメリットと限界）
第 10 回	環境問題の捉え方 (3)	規制的手段と経済的手段の比較
第 11 回	環境問題の捉え方 (4)	環境税の類型（ビグー税、ボーモル・オーツ税など検討）
第 12 回	環境問題の捉え方 (5)	環境問題における当事者間交渉の可能性とコース定理
第 13 回	環境問題の捉え方 (6)	排出権（量）取引の基礎理論
第 14 回	まとめ	環境問題に対する経済的手段の特徴についての総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物にもよく目を通し、その理解と問題意識の涵養につとめること。受講に当たっては、ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱの履修（同時履修も含めて）が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、必要に応じて担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。
 R. K. ターナー他 (2001)『環境経済学入門』（大沼沢）東洋経済新報社
 栗山浩一・馬奈木俊介 (2016)『環境経済学をつかむ』第 3 版、有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末に筆記試験を実施する（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

重要な概念については繰り返し説明したい。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

環境経済論Ⅱ

國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では自然資源などの安定的な利用組織としてのコモンズや環境改善のメリットとその対策のための費用負担との関係、市場評価の難しい環境評価の課題などを通じて、環境・資源問題の具体的な問題を考える際に必要な枠組みについて講義する。なかでも、長期の環境問題などに対して残された課題は何なのか、市場が存在しない環境を経済評価する際の問題点、環境を含む社会的共通資本とは何かなどについて、これらの基礎的な考え方を議論し、持続可能な社会を構築する際の課題について環境の側面からアプローチする。

【到達目標】

この授業は、環境経済学における基礎的かつ重要な考え方や概念などを環境経済論Ⅰに引き続き学習し、それらを適用する力を身につけることを目指す。とくに、持続的な資源利用、長期の環境問題、環境の経済的な評価などに注目して現在社会で環境との共生を目指す経済的な対応を理解することをテーマとする。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。具体的には、自然資源などの安定的な利用組織としてのコモンズや環境改善のメリットとその対策費用負担との関係、環境評価の基礎的理解などを通じて、環境・資源問題の具体的な問題を考える際に必要な枠組を講義する。とくに、長期の環境問題などに対して、残された課題は何なのか、市場が存在しない環境をどのように経済評価するのかなどに関して、その基礎を講義する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境経済論Ⅰのレビューと環境経済論Ⅱの概観
第 2 回	環境とコモンズ (1)	「コモンズの悲劇」とローカル・コモンズ、グローバル・コモンズ
第 3 回	環境とコモンズ (2)	ローカル・コモンズの長期的な存立条件と意味
第 4 回	再生可能資源の課題	漁獲（努力）モデルと過剰漁獲問題
第 5 回	資源価格と利子率の関連 (1)	非再生可能資源におけるホテリング・ルール
第 6 回	資源価格と利子率の関連 (2)	長期的な資源価格推移とバックストップ技術
第 7 回	環境とコスト・ベネフィット分析 (1)	潜在的パレート改善の考え方とその限界
第 8 回	環境とコスト・ベネフィット分析 (2)	前提条件と社会的効用関数からの解釈
第 9 回	環境と割引率	長期的な社会的割引の考え方
第 10 回	環境とリスク	リスクの考え方とコスト・ベネフィット分析への応用
第 11 回	環境の価値評価 (1)	伝統的トラベル・コスト法の考え方
第 12 回	環境の価値評価 (2)	ヘドニック価格法の考え方
第 13 回	環境の価値評価 (3)	表明選考法（CVM, Conjoint 分析など）の考え方
第 14 回	社会的共通資本	社会的共通資本としての環境

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物などによく目を通し、問題意識の涵養につとめること。講義は環境経済論Ⅰの履修を前提として組み立てられている。また、受講に当たってはミクロ経済学Ⅰ、Ⅱの履修（同時履修も含めて）が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念などを学ぶうえで参考となる。
 栗山浩一・馬奈木俊介 (2016)『環境経済学をつかむ』第 3 版、有斐閣
 宇沢弘文 (2000)『社会的共通資本』岩波新書 696

【成績評価の方法と基準】

理解度を確認するため、期末に筆記試験を実施する（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

重要な概念については、いろいろな観点から、繰り返し説明したい。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

環境経営論 I

金藤 正直

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経営とは、企業や自治体などの組織が、環境保全を考慮に入れた戦略あるいは政策を策定し、それに基づいて組織を編成し、全体管理していく一連の行為である。本講義では、「企業（主に、株式会社）」の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。なお、ここでは、現在注目されているサステナビリティ経営（CSR 経営または CSV 経営）の現状やその取組みについても一緒に取り上げていく。

【到達目標】

本講義では、日本企業で現在実践されている環境経営およびサステナビリティ経営における方針（戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的に、また実践的に明らかにし、習得することができる。

【授業の進め方と方法】

本講義では、日本企業で実践されている環境経営およびサステナビリティ経営のための戦略、組織、管理の特徴について、さまざまな企業の環境報告書やサステナビリティ報告書を活用しながら理解することを目指す。また、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事および映像資料なども多用しながら、両経営の実践的取組みへの理解をさらに深めていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 企業における環境経営やサステナビリティ経営の現状	講義の目的、内容、進め方、評価について説明する。また、現在海外や国内において、企業が行っている環境経営またはサステナビリティ経営の取組み（持続可能な開発目標（SDGs）などへの取組み）を紹介し、説明する。
第 2 回	環境経営の意義	また、企業経営における環境保全への取組みの必要性を歴史的に説明する。
第 3 回	サステナビリティ経営の展開	企業におけるサステナビリティ経営の意義を歴史的に説明する。
第 4 回	環境・サステナビリティ経営の全体像	従来の企業経営の仕組みと比較しながら、環境経営およびサステナビリティ経営の仕組みを説明する。
第 5 回	環境経営戦略	従来の経営戦略と比較しながら、環境経営戦略の特徴を説明する。
第 6 回	サステナビリティ経営戦略	従来の経営戦略および環境経営戦略と比較しながら、サステナビリティ経営戦略の特徴を説明する。
第 7 回	ケーススタディ①	第 6 回までの講義内容に基づいて、日本企業の環境・サステナビリティ経営戦略モデルを分析する。
第 8 回	環境経営組織	従来の経営組織と比較しながら、第 5 回の講義で説明した環境経営戦略を実現していく経営組織の特徴を説明する。
第 9 回	サステナビリティ経営組織	従来の経営組織および環境経営組織と比較しながら、第 6 回の講義で説明したサステナビリティ経営戦略を実現していく経営組織の特徴を説明する。
第 10 回	ケーススタディ②	第 9 回までの講義内容に基づいて、日本企業の環境・サステナビリティ経営組織モデルを分析する。
第 11 回	環境経営管理	環境に関する国際規格（ISO14001）などを用いたマネジメントシステムを説明する。
第 12 回	サステナビリティ経営管理	社会的責任に関する国際規格（ISO26000）や国連グローバルコンパクトなどを用いたマネジメントシステムを説明する。
第 13 回	ケーススタディ③	第 12 回までの講義内容に基づいて、日本企業の環境・サステナビリティ経営管理モデルを分析する。
第 14 回	環境・サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメント	海外や国内における企業の取組みを活用しながら、環境・サステナビリティ・バリューチェーンやサプライチェーンを対象としたマネジメントの意義とその手法を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、「企業」の環境経営およびサステナビリティ経営の方法論だけではなく、ゼミナール活動で必要とされる研究・調査の方法、論文・レポートの書き方などの基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料の内容を論理的に説明し、解説するとともに、参加型（双方向型）形式あるいは Q&A 形式も取り入れて進めていきます。そのために、講義日前後は、関連する他の著書や新聞・雑誌記事なども読んで、講義中に、積極的に参加・発言できる知識量を増やすように努めてください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

ただし、日本企業の環境報告書やサステナビリティ報告書、また、関連資料をダウンロードして持ってきてもらうことがあります。

【参考書】

講義中に著書・論文・雑誌・URL 等をいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

【環境経営/サステナビリティ経営（CSR 経営）】

- ・谷本寛治（2006）『CSR－企業と社会を考える－』NTT 出版。
- ・名和高司（2012）『CSV 経営戦略－本業での高収益と、社会の課題を同時に解決する－』東洋経済新報社。
- ・國部克彦（2017）『CSR の基礎』中央経済社。

【URL】

- ・環境省「環境に配慮した事業活動の促進」〈http://www.env.go.jp/seisaku/list/keizai_project.html〉。
- ・「CSR 図書館.net」〈<http://csr-toshokan.net/>〉。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・リアクション・ペーパーの提出（20 %）
- ・討論やクイズへの参加（20 %）
- ・確認テスト（20 %）
- ・期末試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、講義中に提出してもらっているリアクションペーパーや、アンケート調査に書かれている意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、ノートなどメモするものは持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・ワードおよびパワーポイントベースの資料と映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

環境経営論Ⅱ

金藤 正直

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国内の「地域」を主体とした環境経営やサステナビリティ経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、両経営の全体像も理解していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、国内の地域で現在実践されている環境経営やサステナビリティ経営における方針（政策、施策、事業計画または戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的に、また、実践的に明らかにし、習得することができる。

【授業の進め方と方法】

本講義では、講義内容に関連する著書、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、地域で実践されている環境経営やサステナビリティ経営のための政策・施策・事業計画または戦略、組織体制、マネジメントの特徴を理解することを目指す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 地域における環境・サステナビリティ経営の現状	講義の目的、内容、進め方、評価について説明する。また、現在海外や国内において、地域で展開されている環境経営またはサステナビリティ経営の取組を紹介し、説明する。
第 2 回	地域における環境・サステナビリティ経営の意義と方法	SDGs（持続可能な開発目標）とともに、CSV（Creating Shared Value）の概念を整理するとともに、これらの概念に基づいて、地域における環境・サステナビリティ経営の意義と方法（産業クラスター）を説明する。
第 3 回	産業クラスターの概念とその仕組み	産業集積、組織間関係、産業クラスターの研究や取組事例を用いて、これらの概念の違いを整理する。
第 4 回	日本における産業クラスター事業の現状と課題	産業クラスターに関する国内の政策、取組事例（荒川区の MACC プロジェクト）、課題を説明する。
第 5 回	産業クラスターマネジメントの視点と方法	地域サプライチェーンとしての産業クラスターのマネジメントの視点と方法を説明する。
第 6 回	産業クラスター事業例－再生可能エネルギー事業①－	資源エネルギー庁で整理されている再生可能エネルギーの概念とともに、国内の動向や課題を説明する。
第 7 回	産業クラスター事業例－再生可能エネルギー事業②－	再生可能エネルギー事業の先進事例（飯田市や下川町など）について紹介し、その特徴を説明する。
第 8 回	ディスカッション①	第 7 回までの講義内容に基づいて、産業クラスターの新たな事業展開の方法を検討する。
第 9 回	食料産業クラスター、農商工連携、6 次産業化	農林水産省で整理されている食料産業クラスター、農商工連携、6 次産業化の概念や取組事例を整理するとともに、国内の動向なども説明する。
第 10 回	食料産業クラスター事業の分析①－十勝地域、富士宮市、栃木県－	日本でフードバレーを展開している十勝地域、富士宮市、栃木県の取組を紹介し、その特徴を説明する。
第 11 回	食料産業クラスター事業の分析②－新潟市、熊本県内－	第 10 回に引き続き、日本でフードバレーを展開している新潟市と熊本県南の取組を紹介し、その特徴を説明するとともに、日本のフードバレーの取組の将来について検討する。
第 12 回	地域活性化事業①－青森県板柳町のりんご産業－	青森県板柳町のふるさとセンターの取組事例を紹介し、その特徴を説明する。
第 13 回	地域活性化事業②－北海道池田町のワイン産業－	北海道池田町のブドウ・ブドウ酒研究所の取組事例を紹介し、その特徴を説明する。
第 14 回	ディスカッション②	第 13 回までの講義内容に基づいて、食料産業クラスターおよび地域活性化事業の新たな事業展開の方法を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、「地域」の環境経営およびサステナビリティ経営の方法論だけではなく、ゼミナール活動で必要とされる研究・調査の方法、論文・レポートの書き方などの基礎基本も身に付けてもらうために、テキストの内容を論理的に説明し、解説するとともに、参加型（双方向型）形式あるいは Q&A 形式も取り入れて進めていきます。そのために、講義日前後は、関連する他の著書や新聞・雑誌記事なども読んで、講義中に、積極的に参加・発言できる知識量を増やすように努めてください。

【テキスト（教科書）】

二神恭一・高山貢・高橋賢（2014）『地域再生のための経営と会計－産業クラスターの可能性－』中央経済社。

【参考書】

講義中に著書・論文・雑誌・URL などをいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

【著書】

- ・西川太一郎（2008）『産業クラスター政策の展開』八千代出版。
- ・諸富徹（2015）『再生可能エネルギーと地域再生』日本評論社。
- ・山崎朗（2015）『地域創生のデザイン』中央経済社。

【URL】

- ・まち・ひと・しごと創生本部（<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/>）。
- ・経済産業省 中小企業・地域経済産業（http://www.meti.go.jp/policy/sme_chiiki/index.html）
- ・農林水産省 食料産業（<http://www.maff.go.jp/j/shokusan/index.html>）

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・リアクション・ペーパーの提出（20 %）
- ・討論やクイズへの参加（20 %）
- ・確認テスト（20 %）
- ・期末試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、講義中に提出してもらっているリアクションペーパーや、アンケート調査に書かれている意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、ノートなどメモするものは持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・ワードおよびパワーポイントベースの資料と映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN300HA

CSR 論 I

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において企業が直面する社会的課題について検討します。CSR に関心が高まっている背景には、社会が必ずしもよい方向に進んでいないという認識を人々が抱いているからにはなりません。企業と社会の間に存在する様々な矛盾を解消するための仕組みとしての CSR について理解を深めることをめざします。

【到達目標】

企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」をめぐって生じる諸問題に対する理解を深めることを目指します。

【授業の進め方と方法】

サステナブルという言葉が現代社会のキーワードとして提示され、様々な社会的課題の解決を目指すソーシャルビジネス（社会的企業）の活動も注目されています。本講義では、CSR に関する理論やケースを取り上げ、企業経営における CSR の意義とサステナブル社会で求められる企業像を検討します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス CSR の基本概念 企業と社会の問題領域	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	グローバル経済の進展とその影響	1980 年代の米国と英国で進展した市場主義経済の光と影
第 3 回	サステイナビリティ（持続可能性）と CSR	地球サミット以降の CSR の展開
第 4 回	欧州の CSR 戦略	EU における CSR 政策の動向とその意義
第 5 回	CSR の制度化	ISO26000, MDGs, SDGs
第 6 回	企業戦略と CSR の相克	企業不祥事の実態とその要因
第 7 回	CSR と経営戦略	マイケル・ポーターの CSR・CSV 論を中心に 価値共創経営とは何か
第 8 回	企業と NPO のパートナーシップ	
第 9 回	外部講師による特別講義 I	企業等の実務家による講義（詳細は開講時に提示）
第 10 回	企業価値と CSR - 責任投資原則	投資家は CSR をどのように評価してきたのか
第 11 回	外部講師による特別講義 II	企業等の実務家による講義（詳細は開講時に提示）
第 12 回	CSR 金融① 社会的責任投資とは何か	CSR と社会的責任投資（SRI）の関係性
第 13 回	CSR 金融② 責任投資原則と企業評価	環境・社会・ガバナンスを反映した企業
第 14 回	SDGs と企業経営	SDGs とビジネスの統合のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内では 1,000 社程度の企業が CSR 報告書を発行しています。本講義で習得した知識を活かして、CSR 報告書を読み解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

谷本寛治『責任ある競争力ー CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013 年
谷本寛治『SRI 社会的責任投資入門』日本経済新聞社、2003 年
岸田眞代編『NPO× 企業 協働のススメ』パートナーシップサポートセンター、2012 年
岸田眞代編『企業が伸びる地域が活きる：協働推進の 15 年』パートナーシップサポートセンター、2013 年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30 %

期末試験：70 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

MAN300HA

CSR 論 II

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR 論 I で習得した知識を基に、CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）や Business Ethics（経営倫理）が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。サステナブル（持続可能な）社会において求められる企業の役割と企業に所属する個人の職業倫理のあり方について理解を深めることをめざします。

【到達目標】

企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」をめぐって生じる諸問題に対する理解を深めることを目指します。

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想の展開を概観します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や CSR および個人の職業倫理について検討していきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 企業と社会の問題領域 企業の機能と役割 株式会社の発展と企業倫理	講義の進め方 講義の全体像 日米欧における株式会社の発展プロセスと企業倫理の変遷
第 2 回	近代産業の勃興と経済倫理 I - 見えざる手と道徳哲学	『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性
第 3 回	近代産業の勃興と経済倫理 II - 功利主義思想	
第 4 回	A. スミス 近代産業の勃興と経済倫理 II - 功利主義思想	産業革命の勃興と企業倫理
第 5 回	J. ベンサム, J. ミル 近代産業の勃興と経済倫理 III - 資本主義の精神と倫理	近代資本主義の思想的背景
第 6 回	M. ウェーバー 企業社会の論理と倫理 - 社会的責任のマネジメント	社会的器官としての企業
第 7 回	P. ドラッカー 外部講師による特別講義 I	企業等の実務家による講義（詳細は開講時に提示）
第 8 回	新自由主義 vs 第三の道	新自由主義の思想と限界 第三の道と新しい公共
第 9 回	CSR 経営論の変遷	マイケル・ポーターの CSR 論を中心に
第 10 回	CSR の胎動	新自由主義への反動と CSR の胎動
第 11 回	日本企業の倫理と CSR ①	明治～戦前期における企業経営と CSR
第 12 回	外部講師による特別講義 II	企業等の実務家による講義（詳細は開講時に提示）
第 13 回	日本企業の倫理と CSR ②	戦後の高度経済成長と CSR
第 14 回	日本企業の倫理と CSR ②	成熟化社会の到来と CSR

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある企業の経営理念や CSR 報告書を読み、企業がどのような価値観を持って発展し CSR 活動を行っているのか調べて下さい。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

R.L. ハイブルローナー（松原隆一郎ほか訳）『入門経済思想史』筑摩書房、2001 年
武田晴人『日本人の経済観念』岩波書店、1999 年
佐和隆光『成熟化社会の経済倫理』岩波書店、1993 年
谷本寛治『責任ある競争力ー CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013 年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30 %

期末試験：70 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題と経済との関わりを具体的に考える素材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギー、省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察が出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

【到達目標】

環境ビジネスを構成する多様な企業活動について、総合的な理解を深め、主要な分野についてビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れると同時に、汎用性の高いツールとしてファイナンスの基本的な視点を学ぶことにより、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、その市場規模や構成、雇用などといった巨視的な視点を押さえると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、自然資本保全など主な各論テーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。その際、ファイナンスの基本的な考え方、基礎的な分析ツールを知ることにより、汎用性のある知識の習得を目指す。また、個別企業分析とプレゼンを担当することで、実際の企業を素材に環境ビジネスの実像に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第3回	環境と金融①	近時注目を集める環境金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。
第4回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRRなどの考え方、キャッシュフロー表の構成などの基本を理解する。
第5回	環境と金融③／プレゼンチーム分けと事前ミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第6回	ケース1：再生可能エネルギービジネス1	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第7回	ケース2：省エネビジネス	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCOなどを通じて、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第8回	ケース3 リサイクルビジネス1／企業分析プレゼン①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、容器包装や金属など具体的な事例を踏まえて成功モデルを探る。なお、今回から講義の後半に企業分析・プレゼンを実施する予定。
第9回	ケース3 リサイクルビジネス2／企業分析プレゼン②	前回の続き。
第10回	ケース4：土壌汚染対策ビジネス／企業分析プレゼン③	法規制導入を機に拡大が期待されながら、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。
第11回	ケース5：水ビジネス／企業分析プレゼン④	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。

第12回	ケース6：自然資本・生物多様性保全ビジネス／企業分析プレゼン⑤	自然資本／生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、関連ビジネスについて考える。
第13回	ケース7：ESG投資と環境ビジネス1／企業分析プレゼン⑥	欧米の長期投資家を嚆矢に、現在我が国でも影響力を強めているESG投資など「環境金融」の機能について考える。
第14回	ケース7：ESG投資と環境ビジネス2／企業分析プレゼン⑦	前回の続きと全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ファイナンスと関くと身構えてしまいがちですが、予備知識は一切不要です。むしろ復習を重視して下さい。自分が関心のある業界／企業が環境問題にどのように関わっているか、問題意識をもって講義に臨めば得るものが多いでしょう。講義では、受講生数次第ですが、単独あるいはチームで担当する企業の環境ビジネスについて分析・プレゼンしてもらいます。教室での質疑、講師からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用だったと振り返っています。こうした分析・プレゼン資料作成作りへの積極的な参加が望まれます。なお、必要な資料等は原則として授業支援システム等を通じて配布します。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システム等を通じて配布します。

講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずに持参するようにして下さい。

【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト
http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html
このほか、講義において適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

授業の一環であるプレゼンテーションへの参加と内容・貢献度（50％）と、講義に関連して理解度を確認するため複数回課す予定の事前課題の提出（30％）、平常点（20％）から、総合的に判断する。なお、プレゼンテーションに関して個別指導を行う関係上、受講希望者が多い場合に人数調整を行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションに関してチーム制をとる場合、受講生の学年等に偏りが出ないように留意するとともに、講義の中でチームメンバーが顔合わせを行う機会を設けるなど、その後のチームワークの円滑化を図る。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出には原則として授業支援システムを利用する。プレゼンテーション作成にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

分析・プレゼン社数は6～7件を想定しているが、受講者数に応じて増減する可能性がある。また、事前課題として、ベンチャー企業の取り組み事例などに関する資料を講義で配布し、次の講義までに簡単なレポートを課す。できるだけ多くの事例に触れることで理解を深める趣旨だが、このレポートの提出も成績評価上重要な位置づけになる。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

ECN300HA

国際環境政策Ⅰ

國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では環境問題を国際的な観点、地球規模の観点から議論する際に必要となる考え方を環境経済学の立場から紹介・議論する。地球規模の環境問題は同世代内だけでなく、世代間問題の公平性に関わる側面が顕著であることを確認していく。

【到達目標】

この授業は国際的、越境のおよび全地球的な観点から、環境政策と経済との多様な繋がりを理解することを目指す。とくに、採用される政策手段のさまざまな課題を環境経済学の側面から検討することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業は前半で環境問題を軽減・解決を図るために先進各国で採用されてきたさまざまな経済的手段を中心に規制的手段や自主的手段などとの比較を含めて、講義する。とくに各国で経済的手段がいかに利用されているかを概観するとともに、環境税、排出権（量）取引などの効果と課題等について議論する。後半では、酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化などの越境・地球環境問題を対象に、経済的手段の国際協調の視点から、議論する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境問題の広がりとその類型
第 2 回	OECD 諸国での環境政策の多様性	時代的変遷とその特徴
第 3 回	環境と経済的手段 (1)	環境税の帰着
第 4 回	環境と経済的手段 (2)	OECD 諸国での課徴金と環境税
第 5 回	環境と経済的手段 (3)	OECD 諸国での排出権（量）取引とその他の経済的手段
第 6 回	環境と経済的手段 (4)	排出権（量）取引の種類とそれらの課題
第 7 回	環境と経済的手段 (5)	不確実性下の価格コントロールと数量コントロールの比較
第 8 回	越境環境問題 (1)	国内環境問題との対比
第 9 回	越境環境問題 (2)	酸性雨問題
第 10 回	国際環境協定の可能性 (1)	完全協力解、非協力解、提携 (coalition) などとの比較
第 11 回	国際環境協定の可能性 (2)	自律的な国際環境協定や国際協定の難易度
第 12 回	地球環境問題 (1)	オゾン層破壊と国際協定
第 13 回	地球環境問題 (2)	地球温暖化問題と現状実施されている経済的対応の評価
第 14 回	地球環境問題 (3)	地球温暖化問題と地域間、世代間対立の課題、社会的割引率のあり方など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも復習に重点をおいて学習すること。復習に当たっては、各回、新出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。
受講に当たっては、環境経済論Ⅰ、Ⅱの履修が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、必要に応じて担当教員が作成した印刷物を授業に配布する。

【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。
R. K. ターナー他 (2001)『環境経済学入門』（大沼あゆみ訳）東洋経済新報社
栗山浩一・馬奈木俊介 (2016)『環境経済学をつかむ』第 3 版、有斐閣

【成績評価の方法と基準】

理解度を確認するため、期末に筆記試験を実施する（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

学習の定着をはかるため、重要な概念の利用等について繰り返し説明し、理解を深めるよう配慮する。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境政策」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

ECN300HA

国際環境政策Ⅱ

内山 勝久

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、環境政策の国際比較や国際協調のあり方をテーマとします。国際環境政策Ⅰの内容を踏まえ、さまざまな環境問題について統計などの諸資料を活用しながら現状を客観的に理解するとともに、世界の環境政策の潮流、地球環境問題解決のための国際社会や国際協調のあり方、日本の対応などについて解説し検討します。授業では社会科学全般の観点から各種政策とその背景を考察しますが、とくに経済学の知見を多用し、近年注目されている環境政策の経済的手法の考え方の理解に重点を置きます。

【到達目標】

各種統計資料等に基づいた国際比較を通じて、各学生が現代社会の重要課題である環境問題やサステナビリティについて経済学的思考を中心に広い視野から主体的に考察できるようになること、新たな問題意識の発掘や醸成、深耕につなげられるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

主要な環境問題のうち国際環境政策Ⅰで扱うことができなかった問題について、基礎的事項と国際的な取り組みの動向等を、スライドを利用しながら講義形式で解説します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のねらいや環境問題の実態について
第 2 回	環境政策の考え方	環境問題と経済活動の関係、環境政策の手段等について
第 3 回	環境と持続可能な発展	途上国の環境問題と国際協調のあり方、及び持続可能な発展について
第 4 回	再生可能資源の保全政策 (1)	市場を活用した森林資源保全政策等について
第 5 回	再生可能資源の保全政策 (2)	市場を活用した水産資源保全政策等について
第 6 回	エネルギー問題と環境政策 (1)	わが国及び世界のエネルギー消費の実態について
第 7 回	エネルギー問題と環境政策 (2)	わが国及び国際的なエネルギー政策の動向について
第 8 回	廃棄物管理政策	廃棄物の現状と市場を活用した廃棄物管理手法について
第 9 回	循環型社会への取り組み	循環型社会形成に向けた内外の政策動向について
第 10 回	企業行動と環境政策	環境政策と企業の環境配慮活動について
第 11 回	金融と環境政策	ESG 投資など金融を活用した環境改善の潮流について
第 12 回	都市・まちづくりと環境政策	低環境負荷のまちづくりに関する経済的手法について
第 13 回	生物多様性政策	市場を活用した生物多様性保全の潮流について
第 14 回	環境と経済社会	環境負荷の見える化や幸福度の考え方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、授業の記憶が鮮明なうちに復習してください。さらに、自分に関心を持ったトピックスについて、新聞・雑誌・ウェブサイトなどで関連情報を収集し、問題意識の醸成に努めてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。担当教員が作成した資料を毎回配布します。

【参考書】

・浅沼和美・落合勝昭・落合由紀子、『グラフィック環境経済学』、新世社、2015 年。
・亀山康子、『新・地球環境政策』、昭和堂、2010 年。
・環境省『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』（各年版）。(<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/>)
その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

理解度を確認するために、期末に筆記試験を実施します（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度より担当していますが、これまでのところ、授業改善アンケートによる学生からの重要な指摘事項や、その他の要望事項等は特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料（スライド）は授業支援システムで事前に配信します。必要に応じてプリントアウトして授業に持参してください。

【その他の重要事項】

春学期開講の「国際環境政策Ⅰ」の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

ECN300HA

国際経済協力論 I

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバリゼーションが進展する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得を目指す基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、受講生が自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や背景、その仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。また可能な範囲で講義時間内でのグループワークなどアクティブラーニングの要素を導入する。講義の最後にリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力とは？	国際経済協力とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第 2 回	開発途上国とは？	開発途上国と呼ばれる国や地域はどのようにとらえられ、どのように生まれたのかを理解し、われわれが途上国をみる際の視点を再考する。
第 3 回	国際社会と経済協力の歴史（1）（1945 年～1960 年代）：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の経済協力の取り組みについて概観する。
第 4 回	国際社会と経済協力の歴史（2）（1970 年～1980 年代）：経済協力への失望と変化の兆し	経済協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。
第 5 回	国際社会と経済協力の歴史（3）（1990 年代～現在）：冷戦後の世界とグローバリゼーション	冷戦終結後の国際秩序と、グローバリゼーション下における経済協力の位置づけを概観する。
第 6 回	日本の経済協力の歩み（1）：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の経済協力に与えた影響について理解する。
第 7 回	日本の経済協力の歩み（2）：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950 年代～1970 年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第 8 回	日本の経済協力の歩み（3）：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて、1980 年代～2000 年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第 9 回	経済協力の仕組みと方法	日本の経済協力の仕組みと現状（特徴）につき、統計資料などをもとに理解する。
第 10 回	経済協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の経済協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府（「官」）ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第 11 回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ（1）：経済成長と人間開発	経済協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様子を、具体的な戦略（アプローチ）の変遷を通じて理解する。
第 12 回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ（2）：持続可能な開発と環境	環境をめぐる問題が経済協力の分野でとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。
第 13 回	経済協力の評価と効果をめぐる議論	これまでの経済協力には効果はあったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。

- 第 14 回 日本が経済協力を行う理由 日本は途上国への経済協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

斎藤文彦（2005 年）『国際開発論』（日本評論社）
勝間靖編著（2012 年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
牧田東一編著（2013 年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）
外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー、中間レポートと期末試験による。成績配分はリアクションペーパー 15%、中間レポート 15%、期末試験 70%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

情報量が多すぎるのではとの意見があった。情報量自体を削減することは考えないが、必要な情報とそうでない情報の分けや、提供の仕方については引き続き考えながら講義を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののやすライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

ECN300HA

国際経済協力論Ⅱ

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバリゼーションが進展する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、受講生は自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力を行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。

必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

また可能な範囲で講義時間内でのグルーブトークなどアクティブラーニングの要素を導入する。講義の最後にリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて「持続可能な開発目標（SDGs）」とあわせて全体像を紹介する。
第 2 回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第 3 回	新たな主体による経済協力（1）NGO(NPO)と市民社会	近年、経済協力において主たるアクターとなっている NGO(NPO) の活動について概観する。
第 4 回	新たな主体による経済協力（2）民間企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、経済協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第 5 回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第 6 回	人間の安全保障と経済協力	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第 7 回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	経済協力と紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第 8 回	アフリカ（1）：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第 9 回	アフリカ（2）：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第 10 回	フェア・トレード（1）：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第 11 回	フェア・トレード（2）：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。
第 12 回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第 13 回	地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を中心に	気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
第 14 回	まとめ：持続可能な開発目標（SDGs）と支援、パートナーシップ	さまざまな国際協力の課題や現状を踏まえて、これからの支援やパートナーシップのあり方について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

【参考書】

斎藤文彦（2005 年）『国際開発論』（日本評論社）
 勝間靖編著（2012 年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
 牧田東一編著（2013 年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）
 外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー、中間レポートと期末試験による。成績配分はリアクションペーパー 15%、中間レポート 15%、期末試験 70%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

映像の利用はおおむね好評であるが、一方で映像が長いと集中が阻害されとの声もあった。映像を利用するしないにかかわらず、講義が単調なものとならないように、学生の集中力を高めるための工夫やメリハリをつけることを考えていく。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののヤスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

SOC200HA

現代社会論 I

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「現代社会を人間行動の視点から考える」

【到達目標】

この講義では人間の行動（行為）のメカニズムについて理解し、現代社会の諸現象を分析する思考法を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

人間の行動（行為）を社会学の視点から考察するための「枠組み」となる諸概念について解説する。また、「人はなぜこのように行動し、あるいは行動しないのか」を課題として、行動を形づくる要因についていくつかの研究を紹介する。さらに、環境問題や都市問題という現代の社会問題を「行動（行為）」の集積的帰結と捉え、そのメカニズムを論じる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」とは何か？	「社会」はどのように認識されるのか。「人々の共同生活」としての社会への多角的な視点の意味を考える。
第 2 回	人間行動を考える枠組み (1)	「欲求」「規範」「同調」「逸脱」概念から人間の行動を考察する
第 3 回	人間行動を考える枠組み (2)	「地位」「役割」「社会関係」「集団・組織」概念により、人間の行動が生起する場を考える。
第 4 回	行動と文化 (1)	「文化」とは何か、行動に形を与えるものとしての「文化」。
第 5 回	行動と文化 (2)	「文化のダイナミズム」への視点。文化の変容・衰退、新たな文化の出現。
第 6 回	行動と文化 (3)	「文化相対主義」と「エスノセントリズム」。文化を見る目の相対化。異文化理解と文化伝播・文化借用の事例。
第 7 回	情報と行動 (1)	「予言の自己成就」、「意図せざる結果」が生じるメカニズムとその事例。
第 8 回	情報と行動 (2)	「予言の自己破壊」、「警鐘を鳴らす」ことの有効性とその事例。
第 9 回	「社会的ジレンマ」(1)	「共有地の悲劇」、私益と公益の相克。合理的な個別利益追求行動と社会的帰結。
第 10 回	「社会的ジレンマ」(2)	「社会的ジレンマ」のメカニズム。「ジレンマゲーム」にみる行動主体間の選択とその結果。
第 11 回	「社会的ジレンマ」(3)	ジレンマと相互信頼。「囚人のジレンマ」のメカニズムと行動主体間の「信頼」構築の可能性。
第 12 回	「環境配慮行動」の考察。	環境意識は配慮行動を生み出すか、をめぐり研究事例。
第 13 回	「環境配慮行動を促進する仕組み作り」の可能性。	「心理的方略」と「構造的方略」の具体例と実現可能性の検討。
第 14 回	まとめー人間の行動と社会。	社会を人間の社会行動の集積として考える意義の再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特定のテキストは用いないが、トピックスごとの参考文献のリストを配布するので関連箇所を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

奥村 隆,2014,「社会学の歴史 I」有斐閣
 藤村正之,2014,「学ぶヒント」弘文堂
 友枝ほか,2017,「社会学のエッセンス」有斐閣
 山岸俊男,1990,「社会的ジレンマのしくみ」サイエンス社
 土場・篠木,2008,「個人と社会の相克」ミネルヴァ書房
 このほか開講時に文献リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験を行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

質問メモを提出してもらい、講義の中で回答します。

【その他の重要事項】

環境問題は「社会」の中で起こる問題群のひとつです。私たちがどのような「社会」を作っているのか、を考えることはこの学部での学習の基礎となります。人はなぜそう振る舞うのか、なぜこのようには行動しないのか？ 社会的思考法を身につけ、柔軟で多様な見方から考えてみよう。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

現代社会論Ⅱ

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会へのマクロな視点からのアプローチ～少子・高齢社会を生み出したもの～

【到達目標】

本講義は、1960 年代から今日までの約 50 年間における日本社会の変動を各種社会統計によって確認し、なぜそのような変化が生じるのかの検討を通して、社会諸領域の変動の相互連関を理解することを目標とする。また、統計データの検索法・利用法を学び、その読解力を身につけ、実証的で論理的な思考力を獲得することを目指す。

【授業の進め方と方法】

「社会の何が変化するのか？」という問いから始め、長期社会統計データを用いて変化の様相を知るやり方について解説する。次いで、産業化・少子高齢化などいくつかの領域における変化の様相を取り上げ、何が変化を促進し阻害する要因であるのか、ある領域における変化が別の領域における変化とどのように関連しているのか、などの問いに答えることを課題とする。統計資料を配付し、データを読み取り解釈する方法について解説する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「社会変動」という視点	社会構造および社会変動概念により明らかにできることは何か。
第 2 回	社会変動とは何か	社会の何が変化するのか。変化を捉える方法について考える。
第 3 回	近代化・産業化（工業化）	産業構造・就業構造の変化。農業社会から産業社会への移行。
第 4 回	経済成長と「豊かな社会」	経済成長をとらえる指標。「豊かな社会」の成立とその帰結。
第 5 回	生活と仕事の変化 (1)	性別・年齢別の労働力率の変化。働き方の変化と生活様式のかかわり。都市への人口移動と就業形態の変化。
第 6 回	生活と仕事の変化 (2)	「従業上の地位」の変化。雇用労働の進展と職業構造の変化。
第 7 回	生活と仕事の変化 (3)	女性の働き方の変化とライフサイクル。女性労働におけるM字型カーブとその要因。
第 8 回	生活と仕事の変化 (4)	高齢化と産業社会。高齢者と仕事、その現状と将来像。
第 9 回	生活と仕事の変化 (5)	働き方の変化と家族生活。家族（世帯）構成の変化。
第 10 回	人口の変化 (1)	人口転換モデル。国勢調査に見る人口の量と構造の変化。
第 11 回	人口の変化 (2)	少子・高齢社会の出現。合計特殊出生率の低下・未婚率上昇の要因。
第 12 回	人口の変化 (3)	出生率・死亡率、自然増加率の推移。「人口減少社会」の到来。人口減少の何が「問題」なのか。
第 13 回	人口の変化 (4)	少子化・高齢化の国際比較。産業化と人口構造変動の連関。
第 14 回	まとめ	我々はいかなる社会を作ってきたのか、作っていくのか。「社会を見る目」の重要性。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計資料を配付するので、そこから読み取れる事柄を整理しておく。スタディ・クエスチョンで課題を示すので事例や関連情報を集めておく。

【テキスト（教科書）】

特になし。授業時に担当教員が作成した資料（人口・世帯・地理的移動・労働・教育などに関する社会統計）を配布する。

【参考書】

数理社会学会,2014,「社会学入門-社会をモデルで読む」朝倉書店
井上・伊藤編,2008,「社会の構造と変動」世界思想社
河野綱果,2007,「人口学への招待-少子・高齢化はどこまで解明されたか」中央公論社
山田・小林編「ライフスタイルとライフコース」新曜社
「人口の動向－日本と世界－」国立社会保障・人口問題研究所
「データで見る県勢」(財)矢野恒太記念会
*このほか開講時に文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

定期試験を行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

スタディ・クエスチョンの回数を増やし、受講者の授業参加度を高める。

【その他の重要事項】

「なぜそのような変化が生じるのだろうか？」と考える姿勢を持つ。「現代社会論Ⅲ」も履修することをお勧めします。

【関連の深いコース】

すべてのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

現代社会論Ⅲ

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における家族と地域の変動を考える

【到達目標】

「地域社会」そしてそこに暮らす人々が作る「家族」における変動がテーマである。1960～2010 年の各種社会統計を用いて実証的に考察することを目標とする。「誰と」「どこで」暮らしているのか、その暮らし方はどのように変化してきたかを確認し、なぜそのような変化が生じたのかを考える。家族と地域に関する基礎的な概念・枠組みの正確な理解を得ることも目標とする。

【授業の進め方と方法】

高度成長期の「離村向都現象」が生じた経緯を長期社会統計によって跡づけながら実態を把握し、その結果生じた「過疎と過密」の問題をとりあげる。また、そのプロセスの中で見られる生活スタイルの変化を「家族・世帯」の視点から取り上げる。このような変化がなぜ生じ、その変化は社会の他の領域における変化といかなる関連を持つのか、という問いから考える。統計資料を配付し、データを読み取り解釈する方法について解説する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」を考える視点	「社会」とは何だろう。人々の共同生活としての社会。社会はどのようにとらえられてきたか。
第 2 回	家族とは？	社会集団としての家族の構造と機能。
第 3 回	「家族」と「世帯」概念	「家族」と「世帯」概念の違い。世帯統計で家族を捉える際の問題点。
第 4 回	核家族化と小家族化	核家族とは何か。核家族化は進展しているか？ 世帯員数の減少とその要因。
第 5 回	少子高齢社会における家族	少子・高齢化と家族生活の変化。単独世帯・夫婦のみ世帯の増加とその要因。
第 6 回	家族機能の変容	家族は必要でなくなるか？ 家族機能の社会機関への委譲。機能の喪失か純化か。
第 7 回	家族が生活する地域の変動	「地域社会」という概念。地域社会という概念で何を考えようとしているか。
第 8 回	都市とは？	都市をとらえる視点。都市の形態と機能。都市の魅力。
第 9 回	産業化・工業化と都市化	経済成長と人口移動。産業構造の変動と人々の居住域の移動。
第 10 回	離村向都現象	ムラからマチへ。都市化の進展をもたらす要因。「社会増加率」の推移で捉える。
第 11 回	都市への人口集中	都市の拡大と過密。都市問題の発生。DID 地区の人口・面積割合。
第 12 回	都市的生活様式とその拡大	都市的生活スタイルの登場と地域社会。非都市域へ浸透する都市的生活様式。
第 13 回	農山村地域の変貌	過疎と少子・高齢化問題。農山村の変化の背景を見る。
第 14 回	農業と地域の諸問題とその解決	「限界集落」の実態と新たな動き。第一次産業地域の将来展望を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計資料を配付するので、そこから読み取れる事柄を整理しておく。スタディクションで課題を示すので事例や関連情報を集めておく。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

進見音彦,2012,「現代日本の地域分化」東信堂
岩間ほか,2015,「問いからはじめる家族社会学」有斐閣
森岡・望月,2011「新しい家族社会学」培風館
植田今日子,2016,「存続の岐路に立つむら」昭和堂
徳野・牧野・松本ほか,2015,「暮らしの視点からの地方再生」九州大学出版会
小島・西城戸編,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房
*このほか開講時に文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

定期試験を行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義への疑問・質問を出してもらう回数を増やします。

【その他の重要事項】

なぜそのような変化が生じるのだろうか、と考える姿勢を持とう。「現代社会論Ⅱ」も履修することをお勧めします。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

NPO・ボランティア論

川崎 あや

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPO（Nonprofit Organization）は、市民によって設立・運営される非営利組織で、多様な分野で、行政や企業が取り組みにくい社会問題の解決や公益的なサービスに取り組んでいます。日本でNPOが注目されるようになって20年あまりが経ちました。市民はNPOに、ボランティアなどの様々な形で参加することで、社会に働きかけ、市民的公共性を創出する担い手となります。この授業では、NPOやその担い手についての理解を深めることを通して、現代社会の様々な課題を探るとともに、ひとりひとりが、市民として、社会とどのように関わっていくのかを考える機会とします。

【到達目標】

- ・NPOの意味、歴史、運営、財源、行政や企業との関係などについて理解を深める。
- ・NPOに関わる人々（設立者、ボランティア、寄付者、その他の支援者等）が、どのような思いでNPOに関わるのかを考察する。
- ・NPOが取り組んできた課題を通して、社会の変化や現代社会の課題について問題意識をもつ。
- ・NPOの役割や存在意義、NPOが活動・発展する上での課題を考える。
- ・今後の市民社会はどのような方向に進むべきか、また受講生自らも含めて、市民一人ひとりが、社会とどのように関わらなければならないかを考える。

【授業の進め方と方法】

- ・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います。
- ・毎回、リアクションペーパー（感想・質問）を任意で提出してもらいます。質問については、次の授業の冒頭でコメントします。
- ・NPOに参加し活動している学生から、報告してもらう時間をとります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の目標、内容、進め方 ・受講者の関心調査
第 2 回	NPOの基礎知識～NPOとは何か	・NPOの意味と意義 ・NPOとボランティアの関係 ・NPOとNGO ・非営利の意味
第 3 回	市民社会の変遷とNPO	・日本における市民社会の歴史 ・市民活動からNPOへの変遷
第 4 回	NPOの社会的役割～事例を通して①	・映像でさまざまなNPOの活動事例（子育て、介護、生活困窮者支援、国際協力等）を見ながら、NPOの社会的役割を考える。
第 5 回	NPOの社会的役割～事例を通して②	・映像でさまざまなNPOの活動事例（子育て、介護、生活困窮者支援、国際協力等）を見ながら、NPOの社会的役割を考える。
第 6 回	NPO法人制度（NPO法の目的と内容）	・NPO法とは ・NPO法の制定過程 ・他の法人制度との比較 ・公益法人制度改革 ・NPOのミッションを実現するための組織構造
第 7 回	NPOのミッションと組織	・市民の多様な関わり方 ・行政組織や企業組織との違い
第 8 回	NPOの財政と税制優遇	・NPOの財政構造 ・財源の多様性と特性 ・NPOにとって寄付の重要性 ・認定NPO法人制度
第 9 回	NPOとボランティア～なぜNPOにボランティアが集うのか	・NPOにおけるボランティアの重要性 ・社会参加・自己実現の場としてのNPO
第 10 回	NPOと雇用～NPOで働く人たち	・雇用・就労の場としての可能性と課題 ・NPOの就労実態 ・NPOの職域
第 11 回	NPOによる社会変革～NPOと政治・NPOの政策提案	・NPOと政治の関係 ・政策提案による社会変革の担い手としてのNPOの役割 ・中間支援組織の役割
第 12 回	セクター間連携～NPOと行政	・自治体のNPO支援施策 ・行政とNPOの協働
第 13 回	セクター間連携～NPOと企業、ソーシャルビジネス	・NPOと企業の共通点、相違点 ・NPOと企業の協働 ・ソーシャルビジネス（社会的起業）とNPOの関係
第 14 回	授業の振り返りと補足	・全体を通しての授業の振り返り ・学生の関心の高かったテーマについての補足、等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキスト（教科書）は必ず購入し、授業の前後にテキストの該当ページをよく読むこと。
 ・各回のレジュメ（パワーポイント資料）は、授業支援システムに掲載しておくので、欠席の場合も、各自でレジュメとテキストで授業内容を理解しておくこと。
 ・各自で、関心のある分野のNPOの事例などを、インターネット等で調べたり、実際に活動に参加してみることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

「市民社会とNPO」 かながわ女性会議発行 600円

【参考書】

「市民社会と自己実現」広岡守穂著 有信堂 2500円＋税
 「知っておきたいNPOのこと基本編」日本NPOセンター発行 500円

【成績評価の方法と基準】

定期試験（論述式。テキスト・レジュメ等の持ち込み可）を実施。論述では、①授業内容を的確に理解しているか（30%）、②自分自身の意見や問題意識が述べられているか（50%）、③考えを整理してわかりやすく論じられているか（20%）、を重視して評価する。
 ※毎回のリアクションペーパーの提出回数や記述内容は、成績評価に影響しません。

【学生の意見等からの気づき】

NPOにボランティア等で参加している学生が自らの経験を報告することが、他の学生にとって興味深く、刺激になるようです。NPO等での活動経験がある学生には、ぜひ積極的に報告し、活動のPRもしてもらいたいと思いますので、リアクションペーパー等で申し出てください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

社会統計論

藤本 隆史

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、そのような調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際に統計ソフトを使ってデータの集計・分析の方法を学習する。

【到達目標】

調査計画からデータ分析に至るまでの統計調査における一連のプロセスを理解する。データ分析においては、クロス集計の方法など基礎的な統計処理の手順を習得する。統計解析ソフトで集計・分析していると、ただ手順に従って結果を出すだけになりがちだが、分析の目的（何を比べているのかなど）や分析の意味（どのようにしてその分析が行われているのかなど）を理解した上で適切な集計・分析を行えるようになることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

統計処理の仕組みの説明を行い、それに基づいてデータの集計・分析を行う。データの集計・分析には、統計解析ソフトのSPSSとエクセルを用いる。基礎的なデータ処理の手法を中心とし、高度な統計処理は行わない。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う
第2回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第3回	データとは何か	データの種類や、統計データの収集方法（手順）などを学ぶ
第4回	基礎統計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第5回	確率分布について・データの加工	確率分布の考え方と、値の再割り当てなどデータの加工の方法を学ぶ
第6回	統計的推定について	標本統計量による母数の推定（点推定・区間推定）の考え方を学ぶ
第7回	統計的検定について	統計的検定の考え方を理解する
第8回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方と作成方法を学ぶ
第9回	カイ2乗検定	クロス集計表を使った離散変数間の検定や関連の測定方法を学ぶ
第10回	平均値の差の分析	t検定や分散分析など平均値の差の分析方法を学ぶ
第11回	相関係数	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ
第12回	回帰分析	連続変数間の因果関係の分析方法を学ぶ
第13回	集計結果のまとめ方	SPSSの集計結果をワードやエクセルで利用・加工する方法を学ぶ
第14回	まとめ	統計データの収集から分析に関する手順などを整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

SPSSやエクセルを使った集計方法などを復習する。

【テキスト（教科書）】

講義時に適宜紹介する。

【参考書】

講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回、授業内で作業した結果（ファイル）を提出してもらう（10%）。データ分析に関する複数の課題（統計処理の基礎的な計算・集計および結果の読み方）の提出を求める（30%）。また、学期末に統計調査のプロセスやデータ分析に関するペーパーテストを行う（60%）。

【学生の意見等からの気づき】

分析手法の理解と習得のために、より多くの具体的な分析作業を行う。

【その他の重要事項】

パソコンの基礎的な操作方法を習得していることを前提として授業を進める。また、受講希望者が多い場合には抽選となるので、第1回目の授業には必ず参加すること。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

フィールド調査論

西城戸 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査に限らず、「調べる」ことは私たちが日常的に行って営みであり、物事を多様な方法で知することは、個々人にとっても社会にとっても重要なことである。本講義では、社会調査に関わる基本的な知識、技術を習得することによって、「調べる」ことの重要性、社会科学の基本的な考え方、量的調査・質的調査の方法論、調査倫理を学ぶ。仮説の設定、調査票の作成、リサーチデザインの作成については受講者を個別に指導する。さらに方法論の観点から実証研究を評価する視点を学び、現代の社会について主体的に考察する方法を講義する。

【到達目標】

さまざまな社会調査の基本的な知識、技術について修得をすることが授業の到達目標である。社会科学の基本的な考え方、社会調査や調査倫理といったリサーチリテラシーに加えて、メディアリテラシーの基礎も学習し、現代の社会について主体的に考察する力を涵養する。

【授業の進め方と方法】

社会調査に関する知識、技法についての講義が中心であるが、受講者のグループワークまたは個人的な作業も同時に実施する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会調査とは何か (1) 社会調査の概要	本講義の内容についてのガイダンスと、受講者の選抜等を実施する。また、社会調査とは何か、その歴史的展開と学ぶ意義を講義する。
第 2 回	社会調査とは何か (2) 問題関心と「問い」	社会調査における問題関心と「問い」の作り方について講義する。
第 3 回	社会調査とは何か (3) 社会調査のための情報収集	社会調査を企画・設計するための既存資料へのアクセス法と活用術について説明する。
第 4 回	社会科学の方法の基礎 (1) - 「説明」「記述」	社会調査においての「記述」と「説明」について講義する。
第 5 回	社会科学の方法の基礎 (2) - 「因果関係」「仮説」	「概念」、「変数」、「因果関係」、「仮説」などについて講義する。
第 6 回	量的調査入門 (1) - サンプリングの原理	サンプリングの考え方、原理について講義する。
第 7 回	量的調査入門 (2) - 量的調査の一連の流れを学ぶ	調査の企画・設計と調査票作成のプロセスを説明する。
第 8 回	量的調査入門 (3) - 仮説から調査票を作成する	仮説の設定と、概念の操作化を経て調査票を作成するプロセスを学ぶ
第 9 回	量的調査入門 (4) - ワーディングと調査票作成	ワーディングを学び、調査票を具体的に作成する。
第 10 回	フィールドワーク入門 (1) - 質的調査の概要	フィールドワークの発展とデータ収集の手法について講義する。
第 11 回	フィールドワーク入門 (2) - インタビューの技法	インタビューの種類と実践について講義する。
第 12 回	フィールドワーク入門 (3) - 質的データの整理	参与観察法とアクション・リサーチについて講義する。
第 13 回	フィールドワーク入門 (4) - 質的調査の実践から方法を学ぶ	質的調査の具体例から、質的調査の方法を実践的に学ぶ。
第 14 回	2 つの調査方法論の比較	量的、質的調査の相違点を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容に関する復習を行い、次回の講義内容に備えること。また、課題に対してグループワークまたは個人的な作業を求める。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布
佐久間充, 1984, 『ああダンプ街道』 岩波新書。

【参考書】

宮内泰介, 2004, 『自分で調べる技術』 岩波アクティブ新書。
高根正昭, 1979, 『創造の方法学』 講談社現代新書。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20 %)、講義中の課題提出 (30 %)、最終レポートの提出 (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまいう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によっては PC を用いることがある。その際には事前に貸し出しをしておくか、自前で準備しておくこと。

【その他の重要事項】

本講義の定員は 30 名である。受講希望者は第 1 回目の講義で決定する。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

フィールド調査論

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会調査の方法」を学ぶ

【到達目標】

この講義の目標は、①「社会調査」の考え方、調査計画、調査法、報告作成法など、調査に必要とされる知識・技法を身につける、②「リサーチ・リテラシー」（調査結果を批判的に検討する能力）を高め、調査の限界と問題点、「調査者の倫理」などを学ぶ、ことにある。

【授業の進め方と方法】

社会調査の考え方、調査で何が分かり何が分からないかなど「調査」することの意味や限界について論じ、社会調査の基礎的理解をはかる。次に調査法のいくつかを取り上げ、各方法が持つ利点と欠点を検討する。調査プロセスにおける課題をあげ、①面接調査法、②調査票調査法、を中心に調査事例を交えて紹介しながら調査技法を講義する。特に②については実際に「調査票」の作成を少人数グループで行う。また、調査には必ず「対象者」があり、その協力なくしては実施が不可能であることに触れ、調査と調査者の倫理に関して講義する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のねらい・形式等のガイダンス	講義ガイダンス。「社会調査」とは何か、調査における妥当性と信頼性について。
第 2 回	社会調査の目的と意義－調査で何がわかるか	社会調査の定義と調査の前提。調査で何がわかるのか、調査の限界。「リサーチ・リテラシー」とは何か。
第 3 回	調査の方法	課題を提示、社会現象を「調べる」方法をグループ討議（GW 1）により検討する。
第 4 回	調査を計画する	社会調査のプロセス（調査デザイン、実査、分析、報告）の流れを解説し、調査計画の実際を紹介する。（GW 2）
第 5 回	調査法概説	参与観察法・面接調査法・質問紙調査法、について解説する。
第 6 回	参与観察法	参与観察による調査の特質、実施可能性、対象者（集団）の選定と技法。フィールドワークによる研究の事例を紹介する。
第 7 回	面接調査法①	指示的面接法と非指示的面接法、調査事例に見る調査プロセスの実際。（GW 3）
第 8 回	面接調査法②	面接調査における留意点とこの方法のメリットとデメリットを解説する。「聴き書き」による研究事例を紹介する。
第 9 回	質問紙調査法①	悉皆調査と標本抽出調査。サンプルサイズに関する考え方と計算法。サンプル抽出法を類型別に検討する。
第 10 回	質問紙調査法②	調査票の配布と回収方法の類型。各方法のメリットとデメリット。
第 11 回	質問紙調査法③	調査票の構成。フェイスシート、回答選択肢の作成法。
第 12 回	質問紙調査法④	「質問文」作成法。ワーディングにおける留意事項。（GW 4）
第 13 回	質問紙調査法⑤	調査票作成実習①。（GW 5）
第 14 回	質問紙調査法⑥	調査票作成実習②。（GW 6）グループで作成した調査票の検討。調査の意義と調査者の倫理。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中にグループワークを行います。課題を分担して授業前に準備してくることを求めます。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。講義のトピックスごとに参考文献を紹介する。

【参考書】

原 純輔,2016,「社会調査－しくみと考え方－」左右社
 佐藤郁哉,2015,「社会調査の考え方 上・下」東京大学出版会
 大谷ほか編,2013,「新・社会調査へのアプローチ」ミネルヴァ書房、
 玉野和志,2008,「実践社会調査入門」世界思想社
 佐藤郁哉,2006,「フィールドワーク」新曜社
 このほか開講時に文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

①受講者数により定期試験もしくは課題レポートで評価する（60％）。②講義時に行うグループワークへの参加度と作業成果物も評価の対象とする（40％）。

【学生の意見等からの気づき】

調査票作成のグループワークの時間を増やします。

【その他の重要事項】

受講者数の制限（30名まで）があります。希望者が多い場合は抽選とします。グループワークを行いますので、欠席しないことが受講条件です。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

ファシリテーション論

三田地 真実

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題に限らず、社会的な問題に関わろうとする際に、単独で問題を解決できるということはほとんどなく、多くの場合、そこにかかわる多くの利害関係者（ステークホルダー）の間でいかにうまく話し合いを持ち、最適解を見出すための「合意形成」をもたらす必要性がある。

その際に、単に人が集えば「意味ある場」になるのではなく、綿密な準備とその場への適切な関わりが不可欠である。本授業では、「意味ある場」とは何か？ そういう「場」を作っていくためには、具体的にファシリテーターとしてどのような心構えと技が必要なのかについて学んでいく。具体的な目的は以下の通り。

1. 話し合いを始め、様々な場をデザインし、マネジメントするためのノウハウである「ファシリテーション」についての基礎的な知識・技能を獲得すること。
2. 実際にファシリテーションを行う、「ファシリテーター」として行動できること。

【到達目標】

本演習を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通り：

- (1) 「場づくり」のそもそもの意味を理解することができる（「意味」「意義」を考える）
- (2) コミュニケーションの基礎を体得できる（言語・非言語行動の両方を含む）
- (3) 場づくりの基本的な技法を実施することができる（準備、実施、フォローアップの各段階における基本的な技法）
- (4) グループ・プロジェクトとして、ワークショップをデザインし実施、さらに省察することができる。

【授業の進め方と方法】

ファシリテーションは実際に話し合いやワークショップの場でどのように実践するかが問われる。そのため、本授業は講義だけではなく、演習を随所に織り交ぜながら進めている。毎回のリアクションペーパーの提出、課題に応じたレポートの提出（随時）がある。また最終プレゼンテーションは、グループプロジェクトとして行うので、授業外での打ち合わせ・準備が必須となる。全体を通してアクティブ・ラーニング型授業として構成されているので、学生の主体的学修が必須である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・「意味ある場づくりとは何か？」 ・ファシリテーターとしての 3 つの行動キーワード ・「Why（根拠）」、「プロセス」、「安心・安全な場」
第 2 回	ワークショップ体験（自己紹介ワークなど）	・何気なく行っている自己紹介という活動をファシリテーションの視点で見直す
第 3 回	ワークショップ体験（アイスブレイクなど）	・問いかけの重要性について考える ・異なる複数の場を体験して、外で何が起きているか、自分の中で何が起きているのか「プロセスを見る」
第 4 回	コミュニケーションの基礎	・ファシリテーターには必須のコミュニケーションの基礎について演習を行い、プロセスを振り返る（プレゼンテーション概論を含む）
第 5 回	ファシリテーションの基礎	・ファシリテーションの基本の 3 つの段階、準備・本番・フォローアップについて学ぶ
第 6 回	ファシリテーションの準備（1）	・時間のデザインである、プログラムデザインを「プログラムデザイン曼荼羅図」というツールを用いて行う演習をする
第 7 回	ファシリテーションの準備（2）	・空間のデザインである場づくりと、基本の 10 ステップについて学ぶ
第 8 回	ファシリテーションの本番に向けて（1）	・10 ステップ演習、ライブレコーディング他のスキルを学ぶ
第 9 回	ファシリテーションの本番に向けて（2）	・再度、一対一のコミュニケーションを見直す ・行動の基礎である、応用行動分析学（ABA）の概論について学ぶ
第 10 回	ファシリテーションの本番（1） ・グループ・ワーク	・意味ある場とするためには、参加者の行動変容が図られるものでなければならぬことを理解する
第 11 回	ワークショップのリハーサル ワークショップのプレゼンテーション	・行動計画の書き方 ・ワークショップの総仕上げ ・プログラムを簡潔に伝えるためのプレゼンテーションを実施

第 12 回	ファシリテーションの本番（2） ・グループ・ワーク ・ワークショップ（1）	・グループにてワークショップを実施（第 1 回）
第 13 回	ファシリテーションの本番（3） ・グループ・ワーク ・ワークショップ（2）	・グループにてワークショップを実施（第 2 回） ・ワークショップの省察
第 14 回	ファシリテーション全体のまとめとふり返り	・ファシリテーション全体のふり返り「意味ある場づくりのために」ワークショップ実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の文献・資料講読（事前準備として）
- ・グループ・プレゼンテーションの事前準備として、グループで授業外に集まっての話し合いや準備活動（相当数の時間を必要とする。必須）
- ・様々な場面の観察実習など

【テキスト（教科書）】

- ・「ファシリテーター行動指南書」（三田地真実，ナカニシヤ出版，2013）

【参考書】

- ・中野民夫・三田地真実（2016）「ファシリテーションで大学が変わる！」、ナカニシヤ出版
- ・中野民夫（2003）「ファシリテーション革命」、岩波アクティブ新書
- ・三田地真実（2007）「特別支援教育 連携づくりファシリテーション」、金子書房
- ・三田地真実（2014）「社会的・環境の変化に応じたキャリア教育」、星槎大学教員免許状更新講習センター（編著）『共生への学び—先生を応援する教育の最新事情』、130-142、ダイヤモンド社
- ・三田地真実（2012）「『共生』は目の前の人を真に理解するところから—ライフヒストリー曼荼羅図を描く・聴くことの意味—」、星槎大学共生科学研究会（編）『共生科学研究序説』、101-121、なでしこ出版

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：約 60 %（毎回、出席カードの代わりにふり返りシートへ記入する）
- ・最終グループプレゼンテーション：約 40 %（グループ、個人での提出物も含む）

【学生の意見等からの気づき】

ファシリテーションの視点から、授業改善のためのワークショップを実施、そこからの意見を以下に紹介します。「自分が社会に出る上で必要なスキルが学べた」「コミュニケーション能力があがった」「毎回の授業で目的が定められていたので、非常にわかりやすく授業が進んでいたと感じる」など、実践型の授業として一定の評価を受けています。講義型ではない実践型の授業ということで、一定の事前準備が必要であること、グループプロジェクトを実行するために他の学生との協力が必須ですが、様々な活動に対して「時間が足りない」という意見が多く聞かれており、これについてはオンラインのしくみなどを活用していければと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・ファシリテーションは、環境問題に留まらず、人間が集う場をどのようにして意味あるもの、つまりそこに参加している人にとって「参加してよかった」と思えるような場にしていくかに着目した具体的なノウハウを提供してくれるものです。職場内、あるいは家庭内の人間関係を見直すことにも十分役立つ内容と思います。
- ・なお、本講義は、受講希望者が多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。
- ・旧科目名称「人間環境特論（ファシリテーションの基礎）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning.

【到達目標】

The aims of the course are:

- to give students opportunities to better know themselves, their values and biases, and to develop an awareness of how these factors influence intercultural environment.
- to enable students to identify culturally learned assumptions and behaviours.
- to enable students to explore specific cultural group information and relate that knowledge to culturally learned awareness.
- to enable students to understand theoretical issues relevant to the study of intercultural communication.
- to develop the process of cultural adaptation.
- to promote positive attitudes towards the culturally different and to develop intercultural communication competence.

Through this course, students will be able to prepare for their professional lives not only in their domestic society but also in an international society. Students entering the fields of business, teaching, social services and tourism will have opportunities to apply their skills in daily contacts with culturally different client groups.

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics that will be discussed in the following class. Classes will consist of a series of short lectures and other video materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures and videos. In addition, students will also gain skills in academic writing including research techniques and oral presentation skills.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of global and local (glocal) communication
第2回	Essentials of Human Communication: What and how	Definition of communication / Types of communication / Models of communication / The goal of studying communication
第3回	The Challenge of Intercultural Communication I: Culture and Communication	Why we study intercultural communication / What is culture? / Characteristics of culture
第4回	The Challenge of Intercultural Communication II: Culture and Communication	Culture and our perceptions, values, attitudes, beliefs / Problems in intercultural communication
第5回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第6回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第7回	Language and Culture: Words and Meaning	Language and intercultural communication / Language and culture
第8回	Non-verbal Communication: The Messages of Action, Space, Time, and Silence	Functions of non-verbal communication / Definition and types of non-verbal communication / Non-verbal communication and culture

第9回	Culture Shock	Definition of culture shock / The stages of culture shock / Effects of culture shock
第10回	Potential Problems in Intercultural Communication	Seeking similarities/ uncertainty reduction/ stereotyping/ prejudice/ racism/ ethnocentrism and power
第11回	Cultural Influence on Context I: The Business Setting & the Educational Setting	Culture and context / Communication and context / Intercultural communication and the business context
第12回	Cultural Influence on Context II: The Business Setting & the Educational Setting	The multinational business context - cultural views toward management
第13回	Intercultural Changes: Recognizing and Dealing with Differences	Becoming intercultural competent / The future of intercultural communication
第14回	Written Assignment / Take Home Exam / Class Evaluation	Students submit their written assignment and are instructed on how to do their take home exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】

Jackson, Jane. (2014). Introducing language and intercultural communication. Routledge.
 James W. Neuliep. (2014). Intercultural Communication: A Contextual Approach (6th Edition). SAGE Publications.
 Larry A. Samovar, Richard E. Porter and Edwin R. McDaniel. (2014). Intercultural Communication: A Reader (14th Edition). Wadsworth Publishing.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), a group project (20%), two short written assignments (20%), and a take-home exam (20%).

* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

ADE300HA

地域形成論

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業における学びにはおおそ3つの側面がある。第1に、「持続可能な地域社会」に関するより高度な学習への入門的な位置づけである。第2に、地域社会全般はもちろんのこと、国際社会、市場経済、政治行政、文化など、現代社会の多様なテーマについて、地域という視点から読み解く幅広い教養・リテラシーを身につける場という位置づけである。そして第3に、法政大学の長期構想である **HOSEI2030** のミッション・ビジョンをふまえて、法政大学（人間環境学部や他の学部）及びそこで学ぶ人々と地域社会の関係性について考えながら、自らのキャリア形成に目を向ける機会とするという位置づけである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・「持続可能な地域社会」の構想と実践や、より高度な専門的学習に必要な地域学の基礎教養と思考力を身につける。
- ・地域を手がかりとした現代社会のリテラシーを身につける。
- ・将来、市民としてあるいは **NPO** 活動や仕事などを通して、国内であろうと海外であろうと、どこかの地域社会に生きながら、その場所に何らかのかたちでコミットするためのセンスを養う。

【授業の進め方と方法】

地域学の学際性について概観しながら、この授業のミッションを確認し、さらに参加学生自身がこの授業における学びの目的を設定する。次に、戦後日本の地域形成史をふまえながら、現代における地域社会の多様性と持続可能な地域社会のイメージについて認識を共有する。以上を導入編として、法政大学が立地する東京の過去・現在・未来を取り上げる。その上で、地域の場所性と記憶、地域コミュニティ、地域に関する思想、最先端の地域実践のケースなどを取り上げ、さらに地域とキャリアについて考える機会をつくる。最後に、地域に向き合うことの意味について再考する。

地域社会をよりリアルにとらえるために、全体を通して数名のゲストをお招きする予定である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地域を学ぶということ	オリエンテーションとイントロダクション
第2回	現代日本と持続可能な地域社会	地域社会と日本の現代史、多様な地域社会の姿、現代の地域課題と「持続可能な地域社会」のイメージ
第3回	江戸・東京の軌跡	法政大学が立地する東京（江戸）の都市形成史
第4回	東京はどこに向かうのか	巨大都市東京の現在と未来
第5回	地域の場所性と記憶	人々の生活史（個人的記憶）と地域史（社会的記憶）の交錯とその意味
第6回	地域とキャリア (1)	地域環境とソーシャルビジネスの創造
第7回	キーワードとしての地域コミュニティ	問題領域でありかつ課題解決の場でもある地域コミュニティ
第8回	地域と消費経済	生活者から始まる地域経済のオールタナティブ
第9回	地域づくりの最前線 (1)	地域の担い手たち（住民、専門家、来訪者、域外者、NPO、企業、自治体・・・）による参加と協働のドラマ
第10回	地域と思想①	地域と向き合った先駆者
第11回	地域とキャリア (2)	地域づくりのイノベーター
第12回	地域づくりの最前線 (2)	創造的な課題解決と地域社会のイノベーション
第13回	地域と思想 (2)	理想の地域社会をもとめて
第14回	あらためて地域に向き合うということ	授業の総括と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外活動を行う。

- ・配布資料を読みつつ復習を行う。
- ・授業中に指示した事項について調査する。
- ・ミニレポート等の演習課題を作成する。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

【参考書】

授業内で、適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（70 %）＋参加姿勢（10 %）＋ミニレポート（20 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・ローカル・サステイナビリティコースおよび人間文化コースのコースコア科目であり、また基幹科目ですから、コース履修の導入的かつ基盤的な位置にありますので、2つのコース登録者または履登録予定者の履修を強く推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目、または人間文化コースの地域に関するコースコア科目とあわせて履修することを強く推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースと人間文化コース以外にもサステイナブル経済・経営コースなどでの学びでも、地域に関するテーマと関連する部分が多いので、それらのコースの登録者や登録予定者にも履修を推奨します。
- ・登録コースにかかわらず、どこかの地域で生活する現代人の基礎教養としての履修を推奨します。

【関連深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

SOC300HA

地域福祉論

宮脇 文恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 自らが「地域住民」として、地域を「暮らしたい場所」とするための、住民参画と主体形成について学ぶ。
2. 地域において、誰もが仲間はずれにされないための技法について学ぶ。

【到達目標】

人は誰もが、幸せでありたいと漠然と願っている。それは、自分が暮らしたい場所で、豊かな人間関係に囲まれ、他者から必要とされ、充実した毎日を送り、「生きていてよかった」と思えるようになることであろう。その一方で、「幸せになれなくても仕方がない」とされるマイノリティが存在する。

地域福祉は、地域に暮らす一人一人が「幸せだ」「生きていてよかった」と思えることであり、そのためには、住民自身が「我が町を、住んで都にする」という意識を持ち、自分ができることを働きかけていくことが求められる。

本講義では、そのための基礎的な知識として、福祉的なニーズを抱える人々に対する理解と、地域に存在する社会資源、助け合う方法などについて理解を深めていく。そのことをもって、自らが地域社会に働きかけていく意識を醸成し、実践していく力を身に着ける。

【授業の進め方と方法】

地域福祉とは、「地域に暮らす一人一人が幸せになることであり、そのためのしくみをつくり、お互いに働きかけ合っていくこと」である。では、どんな人が大変な思いをしているのか、どうすれば自分らしく暮らしていくことができるのか。子ども・障害のある人・高齢者・貧困など生活困窮者・制度のはざまにあってサービスを使えない人（ゴミ屋敷、ひきこもり、LGBT、外国人移住者など）などへの理解を深め、地域で支え合うための技法と、地域社会を変革していく福祉教育実践や地域福祉計画について学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認
第 2 回	地域福祉とは何か	地域福祉の理念を学び、国際生活機能分類（ICF）に基づいて、「本人と他者（地域社会）との関わり」を考える。
第 3 回	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン	「どんな人でも社会から仲間はずれにしないで、社会の方を変えていく」というノーマライゼーションと、お互いを地域社会の中で認め合って共存していく「ソーシャルインクルージョン」についてまなぶ。
第 4 回	町に暮らす人々(1)～認知症と地域社会～	認知症高齢者、若年性認知症当事者の事例から、認知症への理解と地域社会の関わりを考える。
第 5 回	街に暮らす人々(2)～高齢者と地域社会～	介護保険と高齢者を取り巻く現状をとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第 6 回	街に暮らす人々(3)～子ども・家庭と地域社会①～	児童虐待を中心としてとりあげ、地域社会の関わりを考える
第 7 回	街に暮らす人々(3)～子ども・家庭と地域社会②～	子どもの愛着形成・社会的養護とそのアフターフォロー、子ども・家庭の貧困をとりあげ、地域社会との関わりを考える。
第 8 回	街に暮らす人々(4)～生活困窮者と地域社会～	野宿生活者の現状と社会の偏見、地域における支援の取り組みについて学ぶ
第 9 回	差別と偏見を見つめる	ナチスによる障害者虐殺、日本におけるハンセン病患者隔離政策などから、地域における差別の歴史を学ぶ
第 10 回	街に暮らす人々(5)～障害者と地域社会①～	これまで差別されてきた障害のある人について、身体障害・知的障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第 11 回	街に暮らす人々(5)～障害者と地域社会②～	これまで差別されてきた障害のある人について、精神障害・発達障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第 12 回	街に暮らす人々(6)～LGBTと地域社会～	15 人に 1 人と言われる LGBT への理解と、地域社会で共に生きる方策を探る
第 13 回	地域福祉の推進主体～社会福祉協議会、社会福祉法人、NPO、民生委員・児童委員、保護司	住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成、福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点地域福祉を推進する中心的な団体について、学ぶ地域福祉を推進する NPO、地域の期待される人材について学ぶ地域福祉の主体形成、見直しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ

- 第 14 回 地域福祉推進における住民参画～福祉教育、地域福祉計画、ソーシャルサポートネットワーク
- 住民参画の方法として、福祉教育と地域福祉計画をとりあげ、住民の福祉意識の醸成と、見直しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ留意点を学ぶ。また、地域住民の身近な支え合いとして、ソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

視聴覚教材を多用し、その際に、合計 2～3 回、小レポートを執筆します。高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。メディアの中の話題もチェックしましょう。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜資料を紹介していく。

【参考書】

くさか里樹『ヘルプマン！』11、12 巻（講談社）
さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』（青泉社）
柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活』（小学館） 他
随時、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（遅刻は授業開始後 20 分まで受付、退室は欠席とみなす）（30%）、テスト（40%）、課題提出（正当な理由のない遅延は受け付けない。応相談）（30%）。なお、授業態度に関して以下のような行為＝私語、飲食、携帯電話操作、本講義と直接の関わりのない学習や読書などーについては、注意してもやめない場合は減点対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

【学生が準備すべき機器他】

配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、必ず日付を明記して綴じておいてください（あとからいただく「いつ配布されたか教えてほしい」という声には答えません）。

レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

毎回、授業についてリアクションペーパーを記入していただき、そのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。

授業内容の記録は、原則的に各自ノートへの手書きとします。タブレット、PC を使用したい学生は、第 1 回目の授業時に、申し出てください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

SOC300HA

地域コモンズ論

山下 詠子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然資源を共同で管理・利用する仕組み、及び、共同で管理・利用する資源そのものはコモンズと呼ばれる。この授業では、地域の自然資源がどのように管理・利用されてきたのか、コモンズ研究における理論と事例の両方から学ぶ。「公」でも「私」でもない「共」の世界はどのようなものなのか、その背景と論理を知り、身近な問題に引きつけて考える一助とする。

【到達目標】

- ・コモンズ研究がどのような背景で発展してきたのか、実践的課題と結びつけながら、これまでの研究成果について理解する。
- ・地域住民共同での資源の管理と利用について、様々な地域資源や様々な地域における実践例について理解する。
- ・コモンズに関わる身近な問題について、自身の考えを示すことができる。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主とするが、その他にグループワークやレポート課題の発表も行う。

また、毎回リアクションペーパーを回収する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション “コモンズの悲劇”から考える	授業全体の進め方、学習の仕方、評価方法などについての説明をする。 また導入として、“コモンズの悲劇”のシナリオを題材に考える。
第 2 回	コモンズとは何か？	コモンズの定義、またコモンズ研究がどのような実践的課題を背景に進められてきたのかに着目しながら明らかにする。
第 3 回	日本のコモンズ①入会林野（前半）	日本における伝統的なコモンズといえる入会林野について、歴史的経緯を概説する。
第 4 回	日本のコモンズ①入会林野（後半）	前回に続き、入会林野が戦後どのような状況を迎えてきたのか、また現在置かれている状況を概説する。
第 5 回	日本のコモンズ②農業用水	稲作に欠かせない農業用排水路や溜め池の管理について、事例をもとに講義する。
第 6 回	日本のコモンズ③海	漁業だけでなく生活や文化など多様に広がっている海と人との関わりについて、事例をもとに講義する。
第 7 回	再評価される里山	人々の生産・生活に深く結びつくことで成り立っていた里山が再評価されている。生態面から見た里山、里山保全の活動等について講義する。
第 8 回	諸外国のコモンズ①イギリスのコモンズ	イギリスにおけるコモンズの歴史的展開について講義する。
第 9 回	諸外国のコモンズ②途上国におけるコモンズ（前半）	東南アジア諸国において、自然資源の所有・管理・利用がどのように変遷してきたのかを講義する。
第 10 回	諸外国のコモンズ③途上国におけるコモンズ（後半）	前回に続き、途上国における自然資源の所有・管理・利用がどのような現状にあるのかを講義する。
第 11 回	都市におけるコモンズ	伝統的な地域資源としてのコモンズに共通する性格の資源は都市にも存在する。都市におけるコモンズとその管理・利用について講義する。
第 12 回	レポート発表会	グループ内でレポート課題を発表し、発表について講評し合う。
第 13 回	グループワーク	コモンズの性格を持つ自然資源をどのように管理・利用していったら良いか、グループで話し合いを行う。
第 14 回	まとめと振り返り	今までの講義を振り返り、何を学んだのかをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に配布される参考資料を読んで復習するとともに、新聞等のニュースや日常生活の中で関連するトピックを探す。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

各回の授業にて示す。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 35 %、レポートの内容 45 %、レポートの発表 10 %、受講姿勢 10 %、の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ADE300HA

都市環境論Ⅰ

難波 匡甫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の時代における望ましい都市環境とは何か、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論Ⅰでは、都市に関わる具体的な視点を通し、都市の見方を構築する。

【到達目標】

新たな局面を迎え、これからの都市づくりの政策に必要な基本的センスとしての方向感覚を身につけることを目標とする。特に、都市環境論Ⅰでは、都市への興味と探求心を深め、地域の課題発見と改善対策を自立的に導く基礎力を学習する。

【授業の進め方と方法】

いくつかの視点を通して、都市環境に関わる基本的な考え方を探っていく。秋学期の都市環境論Ⅱで総合的なプランニングの議論へと進むが、その準備段階としての位置づけである。講義では、国内外の都市環境（地形・地質、水、居住、歴史・文化、産業、地域データなど）について、配付資料や映像を活用して多様な事例を紹介し、重層的な都市環境を包括的に捉える。思考訓練および前回の復習のために、ほぼ毎回、授業の初めにミニペーパーを作成提出とする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	都市環境論の視点と方法、および都市の見方について
第 2 回	都市の見方 視点：地形・地質	地形・地質を通して都市形成を考える
第 3 回	都市の見方 視点：水・水辺	都市の成立・発展に関わる水・水辺を理解する
第 4 回	都市の見方 視点：緑地	都市における緑地の価値を読み解く
第 5 回	都市の見方 視点：居住	住宅地開発の系譜を概観する
第 6 回	都市の見方 視点：境界	都市における様々な境界を考える
第 7 回	都市の見方 視点：用途・機能	用途や機能による都市のあり方を捉える
第 8 回	都市の見方 視点：歴史遺産・景観	都市の記憶や都市美に触れる
第 9 回	都市の見方 視点：文化	都市で育まれる文化について考える
第 10 回	都市の見方 視点：往来	都市を支える人・物・情報インフラを理解する
第 11 回	都市の見方 視点：産業	都市発展における産業の姿を観る
第 12 回	都市の見方 視点：災害	都市形成に関わる災害を取りあげる
第 13 回	都市の見方 視点：地域データ	都市分析における地域データの価値に迫る
第 14 回	まとめ	地域形成史から江戸東京の変遷を捉える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に全体の流れと学習の仕方を説明する。
講義における具体的な実感や、テーマに応じた自主的な調査などは、各自のノートにまとめ、授業最初に実施するミニペーパーに積極的に反映させることを推奨する。そのため、ノートには板書の内容に加え、講義に関して自ら気づいた点もあわせてメモすること。また、講義の最後において概説する次のテーマに関して、下調べ（予習）をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。講義時にプリントを配布、講義では映像資料も多用する。

【参考書】

多岐にわたるため、講義時に参考となるものをいくつか紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業でのミニペーパー提出）100 %。定期試験の実施はない。

【学生の意見等からの気づき】

ノートをしっかりとれるよう、板書の方法を工夫する。

【その他の重要事項】

旧科目名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

ADE300HA

都市環境論Ⅱ

難波 匡甫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の時代における望ましい都市環境とは何か、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論Ⅱでは、同Ⅰでの個別的な側面の学習を踏まえ、基本的かつ総合的な議論を進めていく。

【到達目標】

この授業では、都市環境論Ⅰでの目標に加え、新しい都市づくり政策に必要な、都市環境問題への対応や政策を含めた、プランニングに関する基本的な知識や感覚を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

都市環境に関する総合的なテーマにより、都市の現状を把握する。また、実践的な課題についても、各種の理論、法規、技法を踏まえ、都市環境の改善に必要な基本的事項について説明し議論をしていく。理解確認のため、ミニペーパーの作成提出を適宜実施する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	都市とは何か、人間重視の都市環境とは何か
第 2 回	都市の背景	都市づくりの前提となる少子化・高齢化
第 3 回	都市の指針	都市づくりにおける国と地方の役割
第 4 回	都市の制度	都市づくりのプランニング（都市計画）
第 5 回	都市の技法	都市づくりの手法・方策（市街地整備）
第 6 回	都市づくり	協働のまちづくり
第 7 回	都市の移動	都市基盤としての交通計画
第 8 回	都市の配慮	都市づくりの優しさとしてのバリアフリー、ユニバーサルデザイン
第 9 回	都市の記憶	都市における歴史資産の保存と活用計画
第 10 回	都市の美学	都市の美しさとしての都市景観計画
第 11 回	都市の緑地	都市づくりに関わる緑地計画
第 12 回	都市の水辺	都市づくりの活力となる水辺計画
第 13 回	都市の防災	都市づくりを左右する防災計画
第 14 回	都市の展望	都市再生ビジョン・コンパクトシティ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

都市環境論Ⅰでの議論を踏まえ、各テーマに関する理論、法規等の理解を深めるため、参考となる文献や資料に目を通すことを推奨する。また、復習に役立てるため、板書の内容をしっかりとノートにとること。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。講義時にプリントを配布、講義では映像資料も多用する。

【参考書】

多岐にわたるため、講義時に参考となるものを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（参照不可）80 %、平常点（授業でのミニペーパー提出）20 %

【学生の意見等からの気づき】

ノートをしっかりとれるよう、板書の方法を工夫する。

【その他の重要事項】

旧科目名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

ADE300HA

都市デザイン論

田中 大助

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市を形成する建築物の最小単位は住宅である。その住宅の設計を授業のテーマに都市環境や住環境の要素を理解し、都市デザインに対する主観をひとりひとりに自覚してもらうことを目標とする。

住宅設計を通じて、問題を見つけ、解決し、それを第3者に分かりやすく表現する手法を学ぶ。

絵・図・グラフなど視覚的表現が多いレポートを課すことで、文字のみに頼らない多彩な表現力を身に付けてコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

自分の考える住宅がイメージできて表現できるようになることを授業の到達目標とする。

【授業の進め方と方法】

講義を中心に行うが、講義を元に学生がテーマを決めて作品（住宅の設計）を残すものである。

講義中の課題と最後の作品は文字のみによる表現でなく、図版・絵・グラフなど視覚言語を多用する表現が要求されるため、プレゼンテーション能力も養われる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：都市デザインと建築デザイン	都市を構成する建築・土木構造物の紹介と、授業で行う住宅の位置づけを行う
第2回	「棲む」と「住む」の違い	生息する（巢）ことと生活する（家）ことの違いを説明し、人間社会にのみ存在する住宅文化について認識する 第1回目の課題を出題する
第3回	住宅設計における建築家と建築技師の違い	建築家（アーキテクト）と建築技師（エンジニア）の違いについて説明し、建築家の役割の中で人文系の内容の多いことを理解してもらう
第4回	建築と空間・動線	住宅の中の人間の行動パターンとその行動に伴う必要最小空間を理解する 第2回目の課題を出題する
第5回	住空間の単位空間（1）（玄関）	玄関の日本の住宅文化に果たす役割を理解してもらう
第6回	住空間の単位空間（2）（居間・食堂・寝室・書斎・子供部屋）	居間などの日常生活空間について説明する
第7回	住空間の単位空間（3）（台所・風呂・便所・階段）	台所など水場について説明する 第3回目の課題を出題する
第8回	住環境の物理要素（熱・光・水・風）	住宅の外部環境の要素が建物や生活とどのように関わっているのか説明する
第9回	住空間の構成要素（基礎・床・壁・屋根など）	住宅を形作る要素と外部環境・内部環境との関係を説明する 第4回目の課題を出題する
第10回	ユニバーサルデザインについて	これからの社会でユニバーサルデザインの必要性などについて説明する 第5回目の課題を出題する
第11回	課題出題	敷地・家族を想定して1軒の住宅を考える課題を出題する
第12回	住宅事例の紹介	プロの建築家による実際に建てられた住宅の紹介 前年までの学生の作品を紹介する
第13回	課題質疑応答	各人の決めた課題テーマに対する取り組み方の指導をオープンで行う
第14回	作品提出	作品の発表と講評を学生全員で行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマが住宅の設計なので普段の日常生活を観察するだけで、授業の内容が十分に復習できるし、授業終了後も人間の日常生活を観察する癖をつけることによって、それぞれの人々に最適な生活空間はどんなものであるか考えるようになることを希望する。

授業時間内では単なる知識しか身につかない。

授業時間外の普段の生活を意識することが授業そのものなので、時間外にどれだけ生活を観察し、生活を考えているかが結果に現れる。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。

【参考書】

「建築設計基礎編－建築デザインの製図法から簡単な設計まで－」「建築設計応用編－独立住居から集合住宅まで－」武者英二ほか著 彰国社

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題（50%）と最後に提出する住宅設計（50%）による総合評価。出席点・ペーパーテストなどはない。出席して講義を聴かないと課題に取り組めないで、課題と作品によって全て判断する。

どれだけ素晴らしい設計をしたかは重要ではなく、どれだけ考えたかが重要で、作品にそれは全て表れる。

どこかの設計を写したものは直ぐに分かり、ひどい場合には単位を授与しない。逆に考えすぎて纏まりきらなくても、考えの苦悩は図面を見ると読み取れるので、その場合の方が高得点の場合が多い。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料が多すぎるとの指摘が毎年あるので、適宜最小限必要なものに留めて配布する。

【その他の重要事項】

課題の量は多く、課外でかなりの時間を必要とするので、かなり大変であるがやる気があれば充実した授業になる。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

SOC300HA

環境社会論Ⅰ

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境社会学は、「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」に大別される。本講義では 2 つのアプローチを具体的な事例を用いて講義をしながら、環境／環境問題を調査研究するための理論と方法論を習得し、広い視野から環境に関わる諸課題を把握する方法を学ぶ。

【到達目標】

社会的な視点から人間の行動と「環境」との関係のあり方について学び、環境社会学の基本的なアプローチを習得すること。

【授業の進め方と方法】

社会的なアプローチの特徴を紹介した後、環境社会学の諸アプローチを概観する。戦後日本の環境問題の歴史を振り返りながら、環境問題の構造を把握することによって、「加害－被害構造論」「受益圏・受苦圏」「社会的ジレンマ論」について講義する。続いて、人々の生活と水とのかかわりという点に着目しながら、「生活環境主義」「近い水・遠い水」「河川管理の変遷と生活と水との関わり」「技術と災害、災害文化の形成と伝承」といったトピックスについて講義する。最後に環境社会学の方法論と環境社会学の意義について述べ、「理論と実証の往復」という環境社会学のスタイルを学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会学とは何か？	社会的なアプローチの概要について講義する。
第 2 回	環境社会学とは何か？	環境社会学の 2 つのアプローチに関する概要を講義する。
第 3 回	日本の環境問題の歴史とその構造 (1)－先史から第二次世界大戦まで	人間社会と環境の関係の変化を把握した後、第二次世界大戦以前までの日本の環境問題の歴史について概説する。
第 4 回	日本の環境問題の歴史とその構造 (2)－公害問題から地球環境問題	戦後日本の環境問題の歴史について、環境問題の加害者、被害者とその運動、行政の対応について概観する。
第 5 回	日本の環境問題の歴史とその構造 (3)－加害－被害構造	日本の環境問題の歴史を踏まえて、加害－被害論と、被害構造論について講義する。
第 6 回	受益圏と受苦圏 (1)－概念の定義とその適用	受益圏と受苦圏という概念とその適用について講義する。
第 7 回	受益圏と受苦圏 (2)－事例から考える受益圏と受苦圏	受益圏と受苦圏概念の適用について、具体的な事例を用いて講義する。
第 8 回	環境破壊と社会的ジレンマ (1)－社会的ジレンマ論の概要	社会的ジレンマという概念を用いて、環境破壊のメカニズムについて講義する。
第 9 回	環境破壊と社会的ジレンマ (2)－事例から社会的ジレンマを考える	事例を通じて社会的ジレンマについて講義する。
第 10 回	「水」と生活文化 (1)－生活環境主義とは？	生活環境論、生活環境主義について講義する。
第 11 回	「水」と生活文化 (2)－「近い水」「遠い水」「近い水」	「近い水・遠い水」、水の総有という点から、人と水のかかわりとその変化について講義する。
第 12 回	「水」と生活文化 (3)－河川管理の変遷と公共性	日本の河川行政、河川管理の変遷から人と水のかかわりの変化について講義する。
第 13 回	「水」と生活文化 (4)－技術と災害	水害（災害）に対する技術のあり方について講義する。
第 14 回	「水」と生活文化 (5)－災害文化の形成と伝承	水害および水害教育という観点から、災害文化の形成と伝承を考え、今後の人と水のかかわりの方向性を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

それぞれの講義の復習として、テキストや参考文献を各自で入手し、講読する。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

論述式の試験 (80%)＋平常点 (講義中に行うコメントペーパーなど) (20%)

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまいう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース (旧・地域環境共生コース)

SOC300HA

環境社会論Ⅱ

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境問題の解決に重要な市民運動、NPO・NGO、ボランティア団体の活動を「社会運動」という視点から捉え直し、社会運動から見える現代社会や社会（環境）問題への理解から、民主政治、政治参加、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

【到達目標】

環境問題に関わる社会運動の多様な形や活動の条件、活動の意味などを理解すること。地域的な共同性・公共性を構築するための市民参加の制度設計に関する理解を深めること。

【授業の進め方と方法】

はじめに「社会運動」に注目して「社会」を捉える視点について、社会学と社会運動論の関係を紐解く。次に、リスク社会である現代社会における社会運動の意義、可能性について、日本の反原発運動の事例から講義する。続いて社会運動が社会問題を立ち上げるという側面を議論した後、なぜ人々が社会運動に参加するのか（運動の承認論）、どのように社会運動を展開するのか（資源動員論、フレーミング論）という点を解説し、さらに社会運動のさまざまな形とその変化を捉える視点を提示しながら、「社会運動とは何か」という根本的な問いに答える。最後に再生可能エネルギーを求める市民運動を事例として、環境運動の新たな展開と市民参加、地域的な公共性に関する議論を展開し、現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力について考えたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会運動から社会が見える	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、「社会運動」を議論する必要があるのかという点について講義する。
第 2 回	社会学と社会運動	社会学の歴史を、社会運動の観点から、その概略を講義する。
第 3 回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動 (1)－リスク社会論	「リスク (社会)」をキーワードに、現代の環境問題と環境運動を位置づけについて講義する。
第 4 回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動 (2)－反・脱原発運動の歴史	チェルノブイリ原発事故と反原発運動、福島第一原発事故後の反原発運動を事例として、リスク社会における環境運動について講義する。
第 5 回	環境問題の設定者としての環境運動：社会問題の構築論	社会構築主義に依拠しながら、環境 (社会) 問題の設定者としての環境 (社会) 運動の役割について講義する。
第 6 回	なぜ環境運動に関わるのか・運動参加の承認論 (1)－水俣病	水俣病を巡る社会運動と、福島第一原発事故に関わる人々の関係について考える。
第 7 回	なぜ環境運動に関わるのか・運動参加の承認論 (2)－水俣から福島へ運動のさまざまな形とその変化 (1)－理論	社会運動のさまざまな形態を紹介し、社会 (環境) 運動の外延を広げることによって、現代社会の運動への理解を深める。
第 8 回	運動のさまざまな形とその変化 (2)－実証と事例研究	さまざまな形態の社会 (環境) 運動とその形態の変化について、生活クラブ生協を事例にして論じる。
第 9 回	どのように環境運動を展開するのか (1)－資源動員論	どのように運動を展開するのかという点について、資源動員論を紹介しながら講義する。
第 10 回	どのように環境運動を展開するのか (2)－フレーミング	「フレーミング」という観点から、運動への潜在的な参加者を集める方法について議論する。
第 11 回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開 (1)－エネルギー政策と構造	日本における再生可能エネルギーの導入、普及と環境運動の展開について講義する。
第 12 回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開 (2)－コミュニティパワーの展開	市民風車運動・事業を事例として、地域に資する再生可能エネルギー (コミュニティパワー) の普及と環境運動の可能性について論じる。
第 13 回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開 (3)－今後の政策と課題	日本社会のエネルギー政策と、企業および市民の関わりから、今後のエネルギーと人々の関係性を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に参照した文献の講読。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人 (編著)『社会運動の社会学』有斐閣 (2004 年)

【参考書】

西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）
丸山康司・西城戸誠・本巢芽美（編著）『リスクと地域資源管理からみた再生可能エネルギー』ミネルヴァ書房（2015年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（90%）と平常点（追加レポートなど・10%）

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまいう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SOC300HA

環境社会論Ⅱ

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「環境（自然）」と「地域（社会）」の持続性／サステイナビリティにかかわる問題（合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会）に対して、映像資料を用いて具体的な事例を提示する。また、それぞれ具体的な問題点に関する解決策を考える。さらに、これらの議論から、「環境と社会」の社会学を中心とした、持続性学（サステイナビリティ学）を展望する。

【到達目標】

日本国内の事例を中心に取り上げながら、「環境（自然）」と「地域（社会）」の持続性（サステイナビリティ）に関する議論として、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会といったテーマにかかわる問題について映像資料を活用した上で、これらの問題の解決策について考える力を身につけること。

【授業の進め方と方法】

理論的な論点の提示と事例検討を繰り返し、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会、といったキーワードへの理解を深める。なお、映像資料を用いるが、映像資料に対しては要約、コメント等をその都度求める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境と地域の持続性を考える視点	環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容を振り返りながら、環境・地域の持続性を考えるための論点を提示する。
第2回	合意形成とレジティマシー（1）：「海は誰のものか」	人と自然がかかわる際の、自然環境をめぐる価値や意味の共有を巡る課題を、合意形成とレジティマシーという観点から講義する。
第3回	合意形成とレジティマシー（2）：市民参加とレジティマシー	合意形成やそのレジティマシーを巡る、市民参加のあり方について講義する。
第4回	生業・半栽培・資源管理（1）：コンブの森から考える	生業とそれを支える伝統的な生態学的な知識に着目し、昆布漁を事例として資源管理のあり方を考える。
第5回	生業・半栽培・資源管理（2）：半栽培から資源管理へ	生業および半栽培という観点から資源管理のあり方について講義する。
第6回	生業・半栽培・資源管理（3）：生態系サービス	生態系サービスという概念から、人と自然のかかわりについて講義する。
第7回	自然再生と順応的管理（1）：コウノトリと地域再生	兵庫県豊岡市におけるコウノトリをめぐる自然再生
第8回	自然再生と順応的管理（2）：獣害問題と順応的管理	サルの「獣害問題」を事例に、サルの順応的管理および地域再生の方向性について講義する。
第9回	過疎問題と地域社会（1）：過疎と「核」の受容	北海道幌延町の核廃棄物処理施設の誘致問題を事例として、過疎地域における核の受容の背景について講義する。
第10回	過疎問題と地域社会（2）：「核」への抗議と運動文化	核廃棄物処理施設誘致の反対運動の展開を見ながら、過疎地域の地域再生や、地域の持続性に関して議論する。
第11回	負の遺産と地域再生（1）：炭鉱社会の盛衰・夕張を事例として	財政破綻した北海道夕張市の背景と、炭鉱社会の盛衰に関する概要を講義する。
第12回	負の遺産と地域再生（2）：炭鉱遺産によるまちづくりの展開	「負の遺産」をどのように地域再生に結びつけるべきかという点を、炭鉱遺産によるまちづくりの事例から考える。
第13回	縮小社会とその課題（1）：「縮小社会」とは何か。	「縮小社会」とはどのような現象か。東京、夕張、中国地方における「縮小社会」の現状について学ぶ。
第14回	縮小社会とその課題（2）：構造的課題と解決策	中山間地域における地域おこし協力隊など、縮小社会の解決策を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義内容の復習と、環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容の関連づけを随時、行ってほしい。また、映像教材に対するコメントを求める。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

講義ごとに参考資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論述式の試験（60%）＋平常点（講義中に行うコメントペーパーなど）（40%）

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまいう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用

【その他の重要事項】

本講義は、環境社会論Ⅰ、Ⅱの履修後の受講を想定しているものの、履修制限は行わない。旧科目名称「人間環境特論（環境と地域の持続性を考える）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SOC300HA

労働環境論Ⅰ

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「仕事を通して労働環境と生活を考える」

【到達目標】

本講では、仕事や雇用に関連した基礎的知識の習得をめざす。労働環境を考える前提としての基本的な雇用問題、すなわち就職から入社後の賃金や昇進、昇給、教育訓練、退職、転職、労働組合など、仕事や雇用に関係する基本的な概念や現象を理解でき、職業人としての基本的な知識の習得をめざす。

【授業の進め方と方法】

就職、教育訓練、昇進、失業、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する様々なトピックを取りあげる。雇用の一般理論や労働組合、非正規雇用等の個別具体的なトピックも取り上げる。また、新聞記事などを利用して、その時々話題になっているアプットアップデートな諸問題をも随時紹介しつつ、本講との関連や現実社会への理解を深める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	労働環境論入門	労働環境論では何を学ぶのか、なぜ学ぶのか等について考える。
2	雇用・処遇システム	日本の雇用システムの特徴と諸外国との違いについて基本的な知識を得る。
3	学校から職場へ	大学生の就職に焦点を当て、それが過去どう変化してきたのかを見ながら、現在の問題を考える。
4	能力開発とキャリア	日本企業の教育訓練の特徴は何か、諸外国とどう違い、どう変わってきたのかについて学ぶ。
5	ライフスタイルと就業意識	労働者のライフスタイルや就業意識が、戦後初期から高度経済成長期、バブル期を経てどう変わってきたのか学ぶ。
6	生活時間配分	私たちの生活のなかで、仕事とプライベートな生活がどう構成され、変化してきたのかについてみる。
7	技術革新と仕事・職場の変化	技術は仕事の遂行方法に大きく影響する。それが時代とともにどう変化してきたのかをみる。
8	賃金システム	労働条件の基本をなし、きわめて複雑な日本の賃金システムについてその基本を学習する。
9	企業と労働組合	労働条件設定について特別な地位を認められている労働組合の機能や役割について学ぶ。
10	仕事からの引退過程	私たちは一定の年齢に達すると仕事から引退する。その過程について学び、その後の人生設計について考える。
11	非典型雇用	派遣やパート等非正規雇用の増加の現状や問題点について考える。
12	自立的な働き方	ベンチャーも含めて起業が盛んな今日、企業に雇われない働き方も働き方の1つとしてある。その現状について学ぶ。
13	日本的雇用慣行とは何か	日本的雇用慣行の特徴は何か、そのメリット、デメリットを含め総合的にふりかえる。
14	試験および解説、労働環境のまとめ	試験およびその解説をしながら、日本的雇用慣行とその下にある労働環境や人々の生活のあり方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

より効率的に講義が理解できるよう、事前にテキストの関連する章を読み、理解できなかった箇所を再度読み返し、疑問点を確認し授業中に質問する。

【テキスト（教科書）】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方〔改訂版〕』有斐閣ブックス、2012 年。

【参考書】

テキストでカバーできないテーマについては、随時、プリントやその週の関連する新聞記事等で補う。

【成績評価の方法と基準】

論述式試験（100%）により、特定のテーマについて基本的な理解ができていのかを評価し、実社会における職業生活への理解度をみる。

【学生の意見等からの気づき】

この科目に関連した時事的事象についてはほぼ毎時間紹介しているが、これには要望も多く今後も継続する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

ここで扱うテーマは、卒業して就職する限りだれもが経験するようなものばかりです。自分が問題に直面したときに思い出して、どうすれば解決できるか、それを考える手掛かりとなるような知識と知恵を身につけてください。

【関連の深いコース】

すべてのコースのベースとなる科目です。

SOC300HA

労働環境論Ⅱ

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

仕事を通して労働環境と生活を考える。

【到達目標】

労働環境論Ⅰで学んだことを前提に、いくつかのトピックを取り上げ、労働環境について学ぶうえで必要な事柄についてより深い知識の習得をめざす。より具体的かつ時事的な事象を扱い、仕事や雇用に関する理解を深め、コンプライアンスに基づいた円滑な仕事遂行を可能にする労働環境をつくるにはどうすればよいかを考えながら、卒業後の職業人としての基礎的な知識の習得をめざす。

【授業の進め方と方法】

就職、昇進、退職など、ライフステージに沿った雇用に関する種々のテーマについて、時事的なできごとにも触れながら学ぶ。1つのトピックにつき1～2回で授業を進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論とは何か	労働環境論とは何かについて考える。
第2回	日本の雇用慣行 1	種々の統計、図表を見ながら、日本の雇用慣行の特徴を概観する。
第3回	日本の雇用慣行 2	前週に続いて、日本の雇用慣行をどう理解すればよいのか、近年の変化もふまえて学習する。
第4回	大学生の就職 1	過去に大学生の就職のあり方がどう変化し、いま何が問題になっているのか考える。
第5回	大学生の就職 2	大学生の就職と近年話題となっているグローバル人材の問題を考える。
第6回	労働環境と安全衛生 1	仕事場における安全衛生の問題について、歴史的な変遷もふまえて見ていく。
第7回	労働環境と安全衛生 2	前週の学習に基づいて、近年大きな問題となっている働く人々のメンタルヘルスを中心に考える。
第8回	労働環境と労働時間 1 (労働時間の見方、考え方)	全体的な労働時間の短縮の背後で進んでいる労働時間の二極化を中心に、労働時間について考える。
第9回	労働環境と労働時間 2 (裁量労働制と変形労働時間制)	労働の規制緩和の一環として進められてきた裁量労働制と変形労働時間制を中心に、ホワイトカラー・エグゼンプション（残業代ゼロ制度）や最近の高度プロフェッショナル制度をめぐる議論についても学ぶ。
第10回	労働環境とジェンダー 1	日本は毎年のように国際機関から雇用に関する女性の地位の低さを指摘されている。なぜか、その現状について学ぶ。
第11回	労働環境とジェンダー 2	前週の学習に基づいて、とくに女性管理職を取り上げ、問題点と課題について学習する。
第12回	労働環境と差別（年齢差別禁止を中心に）	年齢差別を一例として、雇用における差別問題について考える。
第13回	震災と雇用	阪神淡路大震災、東日本大震災で、一瞬のうちに多くの雇用が失われることになった。震災で雇用に何が起り、当事者や行政等はどう対処したのかみていく。
第14回	試験と解説、労働環境のまとめ	試験および解説をするなかで、労働環境や私たちの生活のあり方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストを指示する。授業はテキストを読んでいることを前提に進めるので、事前の学習と事後の復習が必須である。

【テキスト（教科書）】

学期はじめに関係するテキストを指示するが、いろいろな資料を使うので、特定の本を教科書として使うことはしない。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方（改訂版）』有斐閣ブックス、2012年。

【成績評価の方法と基準】

論述式の試験（100%）により、それぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が現実在即して理解しやすいよう、時事的な問題にも関連づけて授業をおこなう。毎時間、内容理解に関連する基本的な設問を提示し、学生が勉強しやすいようにする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

労働環境論Ⅰで学んだ内容をベースに、いくつかのテーマに分けてそれらをより掘り下げて勉強する。長時間労働や過労死、メンタルヘルス、女性雇用など、ふだん新聞等でも取り上げられている問題を扱う。

【関連の深いコース】

すべてのコースのベースとなる科目です。

SOC300HA

N G O活動論

小野 行雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界が直面する問題を理解し、N G Oの活動する場と方法を確認した上で、日本のN G O、国際N G O、「途上国」N G O等の現状を把握し、市民社会におけるN G Oの役割、市民としての自分の役割について考える。

【到達目標】

- 1 世界の人々が直面している問題とそれら相互のつながりについて体験的に理解する
- 2 N G Oと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
- 3 N G O活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

【授業の進め方と方法】

ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。自ら学び、自ら主体的に関わり、自ら進み行きを決める「参加」があらゆる場面での大きな柱となる。毎回積極的に体験し、意見を交換し、調査し発表する姿勢が求められるため、受動的な意識態度では受講できない。映像資料も多用する。毎回簡単なレポートを作成する時間を取り、次の授業でそれをめぐる意見交換を行いながら先に進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション N G O活動の基礎－インド事例紹介	グループづくりワークショップ インドについての基礎情報確認
第 2 回	N G O活動の基礎－支援の方法	インド山岳民族をめぐるワークショップ「ドンゴリアコンドの人々」とグループ討議
第 3 回	N G O活動の基礎－開発と近代	インド山岳民族の事例をめぐる介入と近代化についてのグループ討議
第 4 回	N G O活動の基礎－グローバル化の影響	インド・ラダック開発に関わるビデオ視聴とグループ討議
第 5 回	N G O活動の基礎－緊急支援	フィリピン緊急支援事例についてグループ討議
第 6 回	N G O活動の基礎－地域支援	フィリピン地域支援をめぐるワークショップ「24 人にインタビュー」とグループ討議
第 7 回	N G O事例研究－日本のN G O 1	開発支援系日本N G Oについてグループによる事例調査と発表および講義
第 8 回	N G Oシミュレーション 1	フィリピン地方題材のドキュメンタリー視聴とグループによる支援の検討
第 9 回	N G Oシミュレーション 2	グループによるフィリピン支援N G O設立を想定した計画作成
第 10 回	N G Oシミュレーション 3	グループによるフィリピン支援N G O設立を想定した計画発表
第 11 回	N G O事例研究－日本のN G O 2	その他日本N G Oについてグループによる事例調査と発表および講義
第 12 回	N G O事例研究－国際N G O	国際N G OとN G Oネットワークについてグループによる事例調査と発表および講義
第 13 回	N G O事例研究－「途上国」N G O	「途上国」N G Oについてグループによる事例調査と発表および講義
第 14 回	N G Oの役割	N G Oの社会的役割および社会との関わりについて講義とグループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回渡される課題ペーパーを読んでくこと。次の回の最初に、そのペーパーを巡って討論を行うこととする。

10 月にお台場で行われる「グローバルフェスタ JAPAN」または横浜で行われる「よこはま国際フェスタ」にできる限り参加すること。最初の講義で説明するが、これを一種のフィールドワークとし、情報収集とインタビューを行う実践の場とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加度および毎時間のレポートを重視する。
平常点（発表等）40%、毎時間のレポート 40%、期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流を活発化させるため、3 回に 1 度程度グループを組みなおしながら実施する。
毎時間 1 0 分程度のレポート作成の時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートフォン持参が必須となる。

【その他の重要事項】

グループワークを中心とするので、主体的学習意欲があること、積極的にコミュニケーションをとる意志があることが必須条件である。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

SSS300HA

災害政策論

中川 和之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害大国日本において、ごく最近から歴史時代まで繰り返されてきた災害での多くの経験や人々の悔しさを知り、そこで作られて来た災害政策を把握し、これからの災害政策のあり方を共に考え、行政職員や教育者、企業人、社会人としてすべきことを深く認識する。

【到達目標】

- ①災害とは何かを、実例から学ぶ
- ②現状の政策の背景と発展、課題を学ぶ
- ③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える
- ④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを発見する

【授業の進め方と方法】

日本列島は、これまでの地球の歴史を 1 年としたら、最も最近の 1 日でできた若い列島だ。周囲を海に囲まれ、急峻な山と盆地や谷、限られた平野という大地の特性や恵みを生かし、数万年前から人々が暮らしてきた。そこに、地震や火山噴火、豪雨や土砂災害が繰り返し、災害をもたらしてきた。一方で、古くからさまざまな災害対策や支え合いが、この列島に生きてきた私たちの祖先を支えてきた。社会の高度化や高齢化は、災害に対するぜい弱性を生む。大地動乱の時代に入ったとも言われる日本。そこで、これからの人生を生きていくのが君たちだ。災害対策は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマだが、限られた資源の中で、どのような備えと構えをとっていけばいいのか。誰かが正解を与えてくれるわけではない。君たち自身が考えていくことでもある。授業では、歴史時代から東日本大震災、近年の災害などを、豊富な映像記録などを使って紹介。それらの災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を知る。さらに、ここ数年の災害や授業期間中に発災した災害をも事例にし、制度政策が十分に活かされていない現状を知る。その上で、めざすべき社会のあり方と、制度のあり方をともに考えた。また、ワークシートも活用し、できるだけ、学生同士や講師との討論を行う。授業のリアクションペーパーに、「今日の気になったキーワード」を記入してもらうとともに、授業の冒頭には前回のリアクションペーパーを振り返り、問題意識を共有して進めていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明。災害とは何か？ 災害から守るべきこととは何か。なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。行政がやる気になれば、今の法制度でたいいていのことはできるにも関わらず、なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感するゲームも体験し、災害政策で備えておくことの意義を考える。
第 2 回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科 1	地球の歴史では、新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのか。「理科」的な話をベースに、これから考えていく「社会」の問題を考えるベースを押さえる。その上で、学生諸君の出身地や身近な場所について、いくつかの指定した Web サイトで知ることができる地域特性の情報を元に、自らの身の回りのハザードリスクを認識することにつながる簡単なワークシートを作成してることが宿題となる。
第 3 回	身近な景観と災害＝理科 2	事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホや pad、PC などで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。地域特性によって、自然がもたらす災害にも特徴があることや、引き続いてその地に暮らすために何をすべきかを考える。

第 4 回	3つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災前まで	日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。前では、東日本大震災の前までを取り上げる。	第 12 回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害の前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。すべて、自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力が鍵になる。ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割をとともに考える。自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いに なったり考えなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ること、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。「地域防災計画」（その地域で地区防災計画があればそれも）のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホや PC の活用も可能とする。
第 5 回	3つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災とは何だったか	東日本大震災とは、どのような災害だったのか、改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。	第 13 回	災害と恵み・防災教育・ジオパーク	
第 6 回	3つの大震災と伊勢湾台風＝これからの大災害を見据えて	想定首都直下地震、南海トラフの地震、巨大化する台風など、これからの生涯で経験する可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているのかを知る。東日本の後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何かを考える。	第 14 回	めざすべき社会と災害＝授業内レポート	
第 7 回	災害政策はどう活かされ、使われていないか＝近年の台風・豪雨災害編	2017 年九州北部豪雨や 2016 年台風 10 号、2015 年 9 月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考え、それぞれの首長へのアドバイスを考えてみる。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業時間以外で、以下の 2 つのワークシートとレポートの提出してもらう。さらに、この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。 1）学生諸君の出身地や身近な場所について、いくつかの指定した Web サイトで知ることができる地域特性をまとめるワークシート。 2）居住地（出身地）の市区町村が作成している「地域防災計画」（その地域で地区防災計画があればそれも）を読み込んだうえでのレポート。		
第 8 回	災害政策はどう活かされ、使われていないか＝近年の地震災害編	2016 年熊本地震や 2016 年鳥取県中部地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2 度の震度 7 に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考え、それぞれの首長へのアドバイスを考えてみる。	【テキスト（教科書）】 授業では、PPT を使用する。その資料は、毎回、授業で配布するとともに、授業支援システムに事後に掲載する。どうしても出席ができなかった場合、資料を参考にして授業レポートをメールで提出することで評価対象とする。		
第 9 回	災害政策はどう活かされ、使われていないか＝近年の噴火災害編	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考え、それぞれの首長へのアドバイスを考えてみる。	【参考書】 授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。		
第 10 回	災害政策に求められることとは？	これまでの授業で学んできた災害種別ごとに、事前の備えや災害後の危機管理、応急救助、暮らしや営みの再建、復興で、何が求められるのか、改めて振り返るとともに、地域特性を調べた居住地（出身地）の市区町村の災害対策で欠けている点は何かを考えてワークシートに記入し、問題意識を共有して議論する。その上で、居住地（出身地）の市区町村が作成している「地域防災計画」（その地域で地区防災計画があればそれも）を読み込み、レポートの提出を求める。	【成績評価の方法と基準】 平常評価（リアベ）40 %、授業中の課題ワークシート・レポート評価 20 %、期末試験（最終講室内レポート）評価 40 % 【学生の意見等からの気づき】 災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施する他、授業中の相互のディスカッションの時間をより多くしたい。毎回のリアクションペーパーをより活用し、問題意識を確認して次に進みたい。既に東日本大震災でも「歴史」になってきており、できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらいたい。授業の資料は、これまで事後に授業システムに格納していたが、今後は当日、配布をし、メモやキーワードを記入してもらうことにしたい。		
第 11 回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体が情報を共有するための研究成果に基づく SIP4D についても知る。	【学生が準備すべき機器他】 毎回の授業の後、授業支援システムに配布した資料を搭載する。どうしても出席ができなかった場合、資料を参考にして授業レポートをメールで提出することができる。 【関連の深いコース】 ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）		

託問 直樹

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術のアウトプットは、社会に多大な正負両面の影響を与える。逆に、研究費の調達や人材の供給、研究活動の社会的承認などを巡って、社会の側から科学技術への影響も存在する。従って、科学技術と社会は相互に影響を及ぼしながらお互いを形成していくのであり、このようなプロセスを「共進化」と呼ぶ。この「共進化」のプロセスを解明し、その問題点を社会に呼びかけていくことが、科学技術社会論の一つの使命である。

本授業では、こうした科学技術と社会の相互作用を理解するために有用な諸概念を学ぶとともに、それらの概念を用いて具体的事例を理解する能力を養う。

【到達目標】

科学技術と社会との関わりを理解するために有用となる概念を学ぶとともに、それらを用いて具体事例を論じる能力を身につけること。

【授業の進め方と方法】

科学技術社会論の様々な重要概念がコンパクトにまとめられている優れたテキストー平川秀幸著『科学は誰のものなのか 社会の側から問い直す』（NHK 出版生活人新書、2010 年）をベースとして、重要概念と関連事例の解説を行う。

また、質疑応答を適宜行う。そのために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者は、講師や他の学生からの質問に答えられるように準備してきてもらう。

また、毎回、授業の終わりに、コメントシートに感想・意見・質問を記入してもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	当科目の目的と背景、授業の進め方についての説明。科学技術と社会の相互作用についての簡単な説明。
第 2 回	「統治」から「ガバナンス」へ（その 1）」（テキスト対応箇所：第 2 章序盤）	なぜ今ガバナンスなのか、科学技術ガバナンスの登場、日本の転機：1995 年、双方向なコミュニケーション、ほか。
第 3 回	「統治」から「ガバナンス」へ（その 2）」（テキスト対応箇所：第 2 章中盤）	参加型テクノロジーアセスメント、市民が参加するコンセンサス会議、市民陪審とシナリオワークショップ、ほか。
第 4 回	「統治」から「ガバナンス」へ（その 3）」（テキスト対応箇所：第 2 章終盤）	BSE 問題が引き起こした「信頼の危機」、理解から対話・参加へ、「アウェー」としてのサイエンスカフェ、ほか。
第 5 回	科学技術は「完全無欠」か（その 1）」（テキスト対応箇所：第 3 章序盤）	「地震予知は困難」と認めた科学者たち、水俣病を悪化させた完璧主義、実験室の科学はまだ途半ば、知識の品質管理、「ファイナルアンサー」までのさらなる道のり、ほか。
第 6 回	科学技術は「完全無欠」か（その 2）」（テキスト対応箇所：第 3 章中盤）	それでも残る科学の不確実性、不確実性における二つの無知（Known Unknowns と Unknown Unknowns）、科学知識の制約、理想化にともなう不確実性、ほか。
第 7 回	科学技術は「完全無欠」か（その 3）」（テキスト対応箇所：第 3 章終盤）	誠実な科学者は白黒つけられない、理想系と現実系とのギャップ、ほか。
第 8 回	科学技術と社会のディープな関係（その 1）」（テキスト対応箇所：第 4 章序盤）	科学技術と社会のかかわりをどう見るか、「共生成」という考え方、科学技術の純潔主義、研究開発の国家総動員体制、ほか。
第 9 回	科学技術と社会のディープな関係（その 2）」（テキスト対応箇所：第 4 章中盤）	「価値中立的な科学技術」から「善い科学技術」へ、人工物に埋め込まれた政治性（アーキテクチャの権力、環境管理型権力）、ほか。
第 10 回	科学技術と社会のディープな関係（その 3）」（テキスト対応箇所：第 4 章終盤）	「緑の革命」の光と影、作動条件への不適合、技術の囲い込み症候群、利益構造の不平等、構造的問題としての市場の力、ほか。
第 11 回	科学の不確実性とどう付き合うか（その 1）」（テキスト対応箇所：第 5 章序盤）	リスク論争で問われるものは？、調べる人が変わればデータも変わる、価値基準をどこに置くか、ほか。
第 12 回	科学の不確実性とどう付き合うか（その 2）」（テキスト対応箇所：第 5 章中盤）	挙証責任が映し出す利害の対立、遺伝子組換え作物の環境影響、挙証責任の逆転、評価基準を変えた政治的・社会的理由、ほか。

- 第 13 回 科学の不確実性とどう付き合うか（その 3）」（テキスト対応箇所：第 5 章終盤）
 第 14 回 知ることと、つながること（テキスト対応箇所：第 6 章）

事前警戒原則、欧州組換え作物規制が示唆するもの、問いのフレーミングと答えの解釈、価値中立性を再定義する、とるべきリスクと避けるべきリスク、「賭け」を「実験」に変える知恵、ほか。どうやって科学技術問題に関わるのか、次の一歩が踏み出せない、「一人一人の心がけ」でよいのか、不自然な省略、知的協働のアクションチャート、信頼できる資料の見つけ方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキスト（平川秀幸著『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す』（NHK 出版生活人新書））の該当箇所を事前に読んできてもらう。
 ・授業時間中に理解を深めるため Q&A の時間を適宜とるが、そのために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者には、講師や他の学生からの質問に答えられるように、特に入念に準備してきてもらう。

【テキスト（教科書）】

平川秀幸『科学は誰のもののか—社会の側から問い直す—』、NHK 出版生活人新書、2010 年。
 本授業を履修する者には、教科書を購入し、毎回の授業時に持参することを義務付ける。
 紙媒体・電子書籍の両方がある。電子書籍は、一覧性がなく、ページ番号が表示されないといった欠点があるので、できるだけ紙媒体で購入することを推奨する。
 （ただし、品切れになった場合はこの限りではない。）

【参考書】

必要に応じて、参考になる文献やウェブサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 60%、期末レポート 40%。
 ・平常点は、毎回提出してもらうコメントシートをもとに採点する。白紙提出は大幅な減点となるので注意すること。
 ・期末レポートの概要：
 テキストに関連する好きなトピックを選び、そのトピックに関連する基本文献を選んでその概要を紹介してもらった後、その基本文献を根拠として自説を展開してもらう。A4 用紙 5 枚程度。

【学生の意見等からの気づき】

・複雑系に関する補足のための動画について、「分かりにくい」「関連性が明らかでない」といったコメントがあったので、別の補足コンテンツに換える。

【学生が準備すべき機器他】

教科書は、紙媒体を購入し持参することを推奨するが、どうしても電子書籍を購入したい者は許可する。また、紙媒体が品切れの場合は、電子書籍を購入してもらうことになる。
 電子書籍を購入・使用する場合は、プラットフォームとなる端末（kindle 端末やスマートフォン、パッド、PC など）も毎回の授業に持参してもらうことになる。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC300HA

社会開発論

新村 恵美

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。しかしながら、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。その上で、社会的に弱い立場に置かれている人びとを中心に据え、すべての人が持続可能で豊かな人生の選択肢を持てるようになることに注目し、授業を展開する。

【到達目標】

下記の3点を到達目標とする。
 1、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得する。
 2、途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解することを目指す。
 3、想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを、実感する。

【授業の進め方と方法】

大きく3セクションに分ける。まず、社会開発とは何か、その定義や歴史的経緯、課題とされることを理解する。次に、社会開発のもたらす社会変容を日本及び海外の事例を検討する。最後に、「仕事」をテーマに、社会開発を検討する。

学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループワークで共有し、全体発表なども行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入 社会開発とは1 定義と歴史的背景	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。社会開発がどのように位置付けられてきたのか、国際社会及び日本における歴史的経緯を概観する。課題レポートの説明も行う。
第2回	社会開発とは2	国連の「人間開発」「人間の安全保障」等の概念を理解し、社会開発を検討する。統計資料を使うほか、南アジアを例に考える。
第3回	社会開発とは3 途上国の貧困	途上国の貧困問題への取り組みを、バングラデシュのストリートチルドレンや児童労働をせざるを得ない子供達の「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGOの取り組みから社会開発の役割を検討する。
第4回	社会開発とは4 日本の貧困	日本を含めて先進国における貧困について、OECDやILOのデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。また、日本のNPOによる貧困問題への取り組みを理解する。
第5回	社会開発とは5 格差を体験する	なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差の拡大を体験をし、考察する。
第6回	社会開発と社会変容1 貧困を断ち切るには	貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることを意味を確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。途上国及び日本双方の、識字教育の現場での声を紹介する。
第7回	社会開発と社会変容2 国際協力と国際ボランティア活動の種類と形態	社会開発を行う主体として、国際機関、各国政府、NGOの活動について概観する。
第8回	社会開発と社会変容3 NGOによる国際協力と社会開発	社会開発の主体の中でも、草の根の活動を通して現地の人々の中に入って行うNGOの活動について、その種類・形態・財政・人材などを検討する。
第9回	社会開発と社会変容4 差別と社会運動	ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動とNGO等による社会開発の役割について考える。
第10回	課題レポートの共有と発表（グループワーク）	学生各自が取り組んだ課題レポートの内容を共有し、グループごとに発表の準備をする。

第11回	社会開発と社会変容4 インドの家事労働者の運動	家事労働とは何か、他人の家の家事を引き受ける家事労働者とはどのような人たちなのか。人々はどのように連帯し、国際社会を変えようとするのか。ILOの「家事労働者のディーセントワーク条約」を取り上げ、国際ネットワークの構築とその意義を考察する。
第12回	社会開発と「仕事」1 ディーセント・ワークとは	ILOの提唱するディーセント（適正）な労働とはどういうことか。途上国のインフォーマルセクター労働、二重労働市場、非正規/正規雇用、女性の労働参加など、仕事満足度など、労働をテーマに社会開発を考える。
第13回	社会開発と「仕事」2	国連の2015年の「人間開発報告書」は「仕事」をテーマにしている。本報告書を検討し、「仕事」について考察する。
第14回	社会開発と「仕事」3 「人的資本」に注目して	社会が発展するために重要な「人的資本」とは何か。教育や職業訓練がどのように生かされるのかに注目する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の配布資料にテーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解を試み、理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布する。授業内容が依拠する引用文献は、資料にリスト化する。

【参考書】

佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者
 アマルティア・セン（1999）池本幸生ら訳『不平等の再検討：潜在能力と自由』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：20%
 期末試験：50%
 毎回の授業での記述:30%

【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当。各回授業の学生からのフィードバックを踏まえて、双方向の授業にする。

【学生が準備すべき機器他】

授業では主にスライドを使用する。授業で使用した配布資料は、授業支援システムに掲示する。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

EDU200MA

文化経営論

荒川 裕子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

【授業中に求められる学習活動】

A, B, C, D, E, F, G, H,

【関連の深いコース】

人間文化コース (旧・環境文化創造コース)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

21 世紀の成熟社会においては、「文化」が重要なファクターとなっています。ここで言う文化には、美術や音楽や演劇といった芸術文化はもとより、日常生活文化や伝統文化、映画やアニメ、ファッションなどの若者文化やポピュラー文化、さらには街並みや景観まで含まれます。それらを文化的「資源」ととらえ、まちづくりやひとづくり、あるいは文化産業をはじめとするビジネスなどに活用していくための「マネジメント」のあり方を考えます。

【到達目標】

文化のしくみを知り、文化に働きかけ、新しい文化を創生していくために、「文化をマネジメントする」という視点を養います。より具体的には、以下のふたつの面からアプローチします。まず、日本の文化政策、自治体の文化行政、文化予算やファンドレイジングなど、文化を取り巻くさまざまな制度について理解します。続いて、文化産業、企業メセナ、文化関連の NPO など、文化を推進したり支援している多様な実践的活動について、その現状と課題、今後の可能性などを探ります。

【授業の進め方と方法】

各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら授業を進めます。一方的な講義に終始することなく、学生自身が実際に文化の現場に出かけ、そのマネジメントのありようを分析してプレゼンテーションをしたり、文化に関わるイベント等の企画立案を試みたりします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回	日本の文化政策①	明治から昭和初期までの文化政策の歩みをたどる。
第 3 回	日本の文化政策②	第二次世界大戦から戦後の文化政策の転換までを概観する。
第 4 回	日本の文化政策③	高度経済成長期の文化政策の特徴を探る。
第 5 回	日本の文化政策④	今日の文化政策の動向を概観する。
第 6 回	文化と法	「文化芸術振興基本法」をはじめ、文化を支える法的基盤について学ぶ。
第 7 回	文化と経済①	文化を支える予算やファンドレイズについて理解する。
第 8 回	文化と経済②	文化産業／創造産業について事例をもとに考察する。
第 9 回	企業による文化支援	企業メセナを中心に企業と文化の関係を探る。
第 10 回	市民社会と文化①	「創造都市」という考えを中心に文化と社会の関わりを考える。
第 11 回	市民社会と文化②	まちづくり・地域活性化の観点から文化にアプローチする。
第 12 回	文化のマネジメント①	学生によるプレゼンテーションと質疑応答
第 13 回	文化のマネジメント②	学生によるプレゼンテーションと質疑応答
第 14 回	まとめと振り返り	授業を通じて学んだことをもとに、文化をマネジメントするための方法や今後の可能性について考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

博物館や美術館、劇場などの文化施設、まちづくりのための各種プロジェクト、企業や自治体が開催するイベントなど、文化に関わる現場に実際に足を運び、そのマネジメントについてフィールド調査を行うことが求められます(その際、若干の入場料等が発生する可能性があります)。また、文化関連の企画立案や、そのプレゼンテーションのための準備の時間を必要とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しませんが、授業中にほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】

授業中に適宜、参考図書および参考ウェブサイトを提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 (課題の成果、プレゼンテーション／ディスカッションへの参加など) : 50 %

期末試験 (論述式) : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

知的発見が非常に多い授業との評価をいただいておりますが、ともすれば受け身の講義になってしまうため、学生の積極的な参画を促すべく、プレゼンテーションやディスカッションの機会を確実に設けていきたいと思っております。

【その他の重要事項】

春学期開講の「アート・マネジメント論 (社会とアート I)」も併せて履修することが望ましい。

SOC200MA

開発教育

福田 紀子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化（開発）に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準のテキストから、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した“価値観＝大切にしているもの”に近づきたいと思います。今年度は基本的な教育、人権、人道に関する国際文書や、アジアの成人教育の文脈で書かれた『Citizen's Education for Good Governance』の内容とアクティビティを取り上げ、Governance と Accountability の2つのキーワードを読み解いていきたいと思います。市民社会のどんな組織も必要な自分たちのコミュニティへの関与や公正な運営のありかたについて考えることになります。また、成人教育のファシリテーター向けガイドブックのアクティビティ進行を通して、アクションラーニングや参加型ワークショップと言われる学習手法についての意義や進行者の態度・留意点を学んでいきます。

【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、報告書等から、人権、参加とエンパワメントに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、ジェンダー等、社会の公正な運営方法 (Governance と Accountability) に必要な思考と行動のスキルを自分の生き方くらし方、社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、当日配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会と、3名程度のチームで参加型学習のファシリテーターを実践する機会もあります。授業は講義と参加型アクティビティ、学生の発表（ファシリテーション）で進めていきます。その中でディスカッションは日本語で行います。アクティビティやテキスト他の情報から何を学んだのかを重視します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation -Wants, Needs, Rights -Education as Human Rights ~Declaration of the Conference -self-esteem — The role of the facilitator	〈この授業の進め方〉 教育・学習・人権に関わる文書や文言を通してこの授業で捉えたい概念を概観します。 参加型学習のファシリテーターとしてのポイント①
2	-Governance Theme ① -Power & Governance -Conflict Resolution “Peace”&“Violence”	人権を考える上で、“マイノリティ”に対する配慮がなぜ必要なのかを考えます。 また、課題解決過程に必ずおこる「対立」に対応する力をつけるため、対立の分析の視点、“平和”と“暴力”枠組を知ります。
3	-Governance Theme ② Gender Equity	ジェンダーの認識と実態の基ジェンダーについての自分の認識と日本のデータにあたり、変化の要因を探ります。 *翻訳・進行の担当分担
4	Humanitarian Response & Rights base approach with the diversity -The Code of Conduct for the International Red Cross & Red Crescent Movement & Non-Governmental Organization (NGOs) in Disaster Relief - If you would be a member of the evacuation center	人道支援の国際基準で求められる行動綱領と避難所シミュレーションから、人間の尊厳を大切に、公正に行うとは何かを理解します。
5	-Sphere Standard & Core Humanitarian Standard (CHS)	人道支援の国際基準として世界で活用されているスフィア基準と特に組織のアカウントビリティをしめした CHS を概観し、公正さについて考えます。
6	Citizen's Education for Good Governance ① Basic Concepts~Governance	日本語になりにくい Governace の意味を考えていきます。

7	Citizen's Education for Good Governance ② Basic Concepts ~What dose Civil Society	“市民社会”とは何か、意義と役割に着いて考えます。
8	Citizen's Education for Good Governance ③ Basic Concepts~Learning about Democracu	民主主義、あるいはその過程について
9	Citizen's Education for Good Governance ③- 2 Basic Concepts ~Learning about Democracy	民主主義の基本的な柱を理解します。参加型学習のファシリテーターとしてのポイント②
10	Citizen's Education for Good Governance ④ Basic Concepts ~Citizenship	“住民”というだけでは表現出来ない“市民”“市民性”について考えます。
11	Citizen's Education for Good Governance ⑤ Basic Concepts ~ Rights Based Approach	国際協力の分野では標準化している“権利に基づくアプローチ”について知ります。
12	Citizen's Education for Good Governance ⑥ Basic Concepts ~ Local Governments and Governace	社会と個人の暮らしとを繋ぐもっとも近い自治体行政とガバナンスについて考えます
13	Citizen's Education for Good Governance ⑦ Basic Concepts ~ Traditional and Modern Form of Governace	“ガバナンス”の変化を捉え、なぜこれ考える事が必要なのかをふりかえります。
14	Governace & Accountability	人道支援団体の国際基準が示す“アカウントビリティ”を知り、ガバナンスを考えた意味を再考します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおくください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ/パートナーとの発表の準備が必要となります。国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】

The Sphere Project-Humanitarian Charter and Minimum Standards in Humanitarian Response
<http://www.spherehandbook.org>
Core Humanitarian Standard/ Guidance Notes and Indicators
<http://www.corehumanitarianstandard.org/files/files/CHS-Guidance-Notes-and-Indicators.pdf>
Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)
『ワールドスタディーズ-教え方学び方ハンドブック』『人権教育ファシリテーターハンドブック（基礎編・発展編・実践編）』『参加型で考える12のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

平常点と各回授業のふりかえりシート 35 %
個人/グループでの発表と成果物（模造紙作業やワークシート）35 %、
レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じるときもあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。
ファシリテーターの実践はより主体的な学習へのコミットメント（内容理解、スキルと態度）を高める機会としていってください。

【その他の重要事項】

国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準をはじめ、あらゆる活動にグローバルな文脈があり、影響があります。ガバナンス、市民社会等、慣れないコンセプトかもしれませんが、国際的な合意の文脈を理解する為の一つのステップとして学んでいきましょう。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。分担したアクティビティのファシリテーションをはじめ、授業への出席を重視します。部活等の欠席の理由は特別な場合を除き特に考慮しませんので、規定の出席確保を前提に授業に望んで下さい。

【授業中に求められる学習活動について】

A,B,C,D,E,F,G

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

アーティストと社会貢献

庄野 真代

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境、人権、医療、福祉、災害など多様な公共的課題に関するアーティストの社会貢献活動は世界的にみても 20 世紀半ばから歴史的蓄積があるが、そこから生きた学問を紡ぎ出す作業は未開拓である。そこで、この授業では、私自身の「音楽を通した社会貢献・支援活動」を積んだ経験とともに、社会貢献活動を推進しているアーティストが共生社会の実現にどう関わっているのかを考えながら、参加者自身の社会性を問い直す機会とする。さらに、アーティストと大学の協働による新たな社会貢献論を構想する。

【到達目標】

- ・アーティストの社会貢献活動の歴史、現状と課題について理解する。
- ・アーティストが社会貢献活動を通じて訴えたい現代社会の諸問題を考察する。
- ・アーティストの社会貢献活動を通して、自らの社会参加について思考力を高める。
- ・社会貢献活動の実践的な企画力を身につける。

【授業の進め方と方法】

まず「アーティスト」「社会貢献」という言葉の定義について理解を深め、アーティストが国際社会や日本で活動を展開してきた歴史的な経緯を確認する。さらに、現代社会におけるアーティストの多様な社会貢献活動を検討しながら、それらが社会や一般市民の考えにどのような影響をおよぼしていく可能性があるのかを探索。授業形式は、毎回のテーマに添った内容を解説しながら関連した音楽や映像を紹介し、それぞれが調べてきた豆情報を持ち寄って検討する。授業期間内に 1～2 回、ゲストスピーカーを迎える予定をしている。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講師の自己紹介と講義ガイダンス
第 2 回	アーティストとは？ 社会貢献とは？	芸術は人が豊かな精神生活を営む上で不可欠なもの。その担い手であるアーティストの定義や社会貢献の意味への理解を深める。
第 3 回	プロテストソングの誕生～アーティストと現代史（1）	1960 年代にアメリカのフォーク歌手らが政治的抗議の歌を歌い、ジョンレノンらによって他ジャンルに広がり、音楽が社会活動となった経緯について検討する。ビート・シーガーなど。
第 4 回	代表的アーティストの社会貢献と自己変容～アーティストと現代史（2）	イギリスとアイルランドのロック／ポップス界のスター達で結成された「ライブ・エイド」（1984 年）を契機に「USA フォー・アフリカ」「LIVE 8」などが作られ、多くのアーティストが慈善活動家として動き出した時代を考察する。ボブ・ゲルドフ、ボノなど。
第 5 回	社会貢献活動の軌跡～アーティストと現代史（3）	平和・環境・子ども・HIV/AIDS、貧困、災害支援、地域など、諸問題に取り組むアーティストの活動を知る。マイケルジャクソンなど。
第 6 回	国際社会とアーティスト～親善大使として役割	国や文化の違いを超えて交流できるアートの有用性を考察するとともに、国内外の親善大使として活動するアーティストがどのような働きをしているのかを探ってみる。アンジェリーナ・ジョリーなど。
第 7 回	東日本震災とアーティストの社会貢献活動	震災後、アーティストたちが被災地支援のために手がけたことを検証するとともに、各地における反応や成果、その継続性について検討する。レディガガなど。
第 8 回	アートと市民社会組織	アート（文化・芸術）の促進活動そのものが社会貢献活動になっている NPO／NGO、市民団体について検討する。
第 9 回	企業とアーティストの協働	企業や団体が行う社会貢献活動において、アーティストが関わる（チャリティイベントなど）ケースの企画意図や効果について考える。
第 10 回	コミュニティ形成とアーティストの役割	アートのある場所には人が集まり一時的なコミュニティができる。そこでのアーティストの果たす役割について検討する。
第 11 回	社会貢献活動の企画ワークショップ	アーティストが社会貢献する企画をたててみる。
第 12 回	アーティスト参加型プロジェクトのケース	「ピンクリボン」「ほっとけない世界のまじしきキャンペーン」「なんとかなきゃ！ プロジェクト 55 億人」など、啓蒙プロジェクトに参加してきたアーティストを検証する。

第 13 回	クラウドファンディングなどによる支援活動例	アーティストが社会貢献するための資金集めについて最近の動向を検証し、誰もが社会参加につながる方法を知る。
第 14 回	新たな知の創造と社会貢献活動の展望	授業内容に基づきながら、新たな社会貢献論を構想し、さらに、社会の触媒としてのアートから生まれた提言が、今後どのように市民社会で発展していくのかを探索。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

好きなアーティストの、本来の活動をとおした社会貢献、あるいは本業外での社会貢献活動を探してみよう。毎回、内容に添った豆情報一つ調べてくる。

【テキスト（教科書）】

資料を適宜、配布

【参考書】

その都度、紹介

【成績評価の方法と基準】

①リサーチレポート 30 %、②課題レポート 40 %、③授業内試験 30 % による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

現在活動中のアーティストの動画などの紹介が好評だったため、今期も新しい情報を提供しながら講義を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講師が主催しているチャリティイベントなどのボランティアスタッフを希望される方は歓迎します。

是非、実際の社会貢献プログラムを体験してみてください。

「人間環境特論（アーティストと社会貢献）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC300HA

国際社会学

新藤 慶

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、在日ブラジル人をめぐる状況を、日本とブラジルの両国の視点から理解することで、国際社会学における主要テーマであるトランスナショナルな移動と定住の状況について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

本授業を通じて、在日ブラジル人の移動と生活の実態を総合的な観点から理解することで、今日、世界的に生じているトランスナショナルな現象について理解し、自分なりに考察を進めることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

基本的には、資料に基づいた講義によって進める。ただし、リアクションペーパーに質問事項を記載してもらうことで、その質問に答えながら、受講生の関心に基づいた授業展開ができるよう心がける。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際社会学とは	国際社会学の考え方について概説する。
第 2 回	在日ブラジル人の増加と行政の対応	在日ブラジル人の増加の背景と行政の対応について概説する。
第 3 回	在日ブラジル人の労働と生活	在日ブラジル人の労働と生活の実態について講義する。
第 4 回	ブラジル系エスニック・ビジネスの展開	在日ブラジル人を対象としたエスニック・ビジネスについて講義する。
第 5 回	在日ブラジル人に対する地域住民の意識	在日ブラジル人に対する地域住民の意識について講義する。
第 6 回	在日ブラジル人と町内会活動	在日ブラジル人の集住地域における町内会の対応について講義する。
第 7 回	公立学校における在日ブラジル人教育	公立学校での在日ブラジル人の子どもに対する教育について講義する。
第 8 回	ブラジル人学校における在日ブラジル人教育	ブラジル人学校における在日ブラジル人の子どもに対する教育について講義する。
第 9 回	在日ブラジル人の保育	在日ブラジル人の子どもに対する保育について講義する。
第 10 回	ブラジル政府による教育支援	ブラジル政府による在日ブラジル人教育に対する支援について講義する。
第 11 回	大都市におけるデカセギの影響	ブラジルの大都市における日本へのデカセギの影響について講義する。
第 12 回	大都市近郊農村におけるデカセギの影響	ブラジルの大規模近郊農村における日本へのデカセギの影響について講義する。
第 13 回	僻地農村におけるデカセギの影響	ブラジルの僻地農村における日本へのデカセギの影響について講義する。
第 14 回	帰国児童生徒へのデカセギの影響	日本から帰国したブラジル人の子どもに対するデカセギの影響について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、授業で紹介した文献等で学習を深めることが挙げられる。それに加えて、国際社会学が扱う対象は、現代社会のさまざまなところで見つけることができるため、普段から国際社会学的な関心を持ちながら生活することも重要となる。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義資料を配布する。

【参考書】

宮島喬ほか編、2015、『国際社会学』有斐閣。
小内透編、2009、『講座トランスナショナルな移動と定住』（全 3 巻）、御茶の水書房。

【成績評価の方法と基準】

論述試験（70％）＋毎回のリアクションペーパー（30％）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、写真や図のさらなる活用の要望が出されていたので改善したい。また、遅刻者や私語への対応の不十分さも指摘されていたので、改善し、授業環境の整備に努めたい。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、グローバル・サステナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

PHL200HA

西欧近代批判の思想

越部 良一

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、西欧の近代とその思想に批判的に対峙する西洋の哲学思想をテーマとする。授業の目的は、西欧近代のいくつかの哲学思想を把握し、それへの批判がいかなる考え方によるのかを理解し、説明できること、これにより、西欧近代の影響を大きく受けている現代の日本社会を広く理解する視点を養うことである。

【到達目標】

西欧近代批判として、この授業では主として2つの視点から学んでゆく。一つは、西欧の古典思想からの視点であり、もう一つは西欧近代思想自身からの視点である。これにより、西欧近代への批判を、人間を超えた存在（イデア、神など）の尊重と、人間中心主義に対する批判という方向で把握することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。まず、西洋思想の源泉であり、古典であって、近代西欧批判の視点を提供するものとして、古代ギリシャのプラトンの哲学と聖書（キリスト教）の思想を取り上げ、次に近代西洋の代表的思想として、功利主義、デカルト、ヘーゲルなどをみていく。そのうえで、そうした近代思想と批判的に対峙するものとして、キルケゴール、ニーチェなどの思想をみてゆきたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	西欧近代思想の特徴とその批判	西洋近代の特徴など、この講義の全体の概観
第 2 回	プラトンの思想Ⅰ	人間の魂の在り方と正義
第 3 回	プラトンの思想Ⅱ	様々な国家体制と民衆制（民主制）批判
第 4 回	聖書の思想	人の戒めを超える神の命令
第 5 回	功利主義の思想	最大多数の最大幸福
第 6 回	デカルトの思想	自然支配者としての人間
第 7 回	ヘーゲルの思想Ⅰ	人間理性は絶対者（神）である
第 8 回	ヘーゲルの思想Ⅱ	人間精神（＝神）の展開としての歴史
第 9 回	マルクス主義	マルクス主義における人間中心主義
第 10 回	キルケゴールⅠ	現代の批判（神を見失うことと主体性の喪失）
第 11 回	キルケゴールⅡ	ヘーゲル哲学批判（人間精神は神でない）
第 12 回	ニーチェⅠ	「神は死んだ」（「ニヒリズム」としての近代西洋批判）
第 13 回	ニーチェⅡ	近代西洋の大衆化批判
第 14 回	授業のまとめ	まとめと展望、及び試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

解説書や概論ではなく、自分で興味を持った授業でとりあげる思想家の著作（むろん翻訳でよい）に少しでも接することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。必要に応じて、思想家の言葉を引用したプリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％くらい）と期末試験（60％くらい）によって成績を評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

近代日本は西欧近代の影響を大きく受けているから、近現代の日本の思想状況と照らし合わせる視点を背景にしながら講義するつもりである。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

仏教思想

高堂 晃壽

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

仏教の基礎概念について大枠を把握する。
アジアの文化の様々な分野に浸透し、多大な影響を与えている仏教の思想について考えてゆきたい。

一口に仏教といっても、内容は極めて広汎である。したがって本講では、仏教の基本概念とその思想的な展開についての概観を中心として講義を行う。仏教の基礎概念より始め、原始仏教、大乘仏教諸学派の基本的内容を把握していきたい。時間的制約もあり、インド仏教史の概略を跡付けることが主な作業となる。東アジア仏教については、簡略に触れるのみとなる。

【到達目標】

日本の文化の形成に多大な影響を及ぼした大乘仏教の概略を把握することを目標とする。

社会人として知っておきたい仏教の基本を習得したい。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。
初期仏教から始めて、主として大乘仏教の概略を解説してゆく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	なぜ仏教を学ぶか	東アジアにおける仏教の位置づけ。
第 2 回	仏教の基礎(1)	「仏」（ブッダ）とは何か。 ゴータマ・ブッダの生涯。
第 3 回	仏教の基礎(2)	「法」（ダルマ）とは何か。 三法印と四諦。
第 4 回	仏教の基礎(3)	「僧」（サンガ）とは何か。 仏教教団の概要。
第 5 回	仏教教団の分裂と展開	根本分裂と部派仏教の思想。
第 6 回	大乘仏教(1)	大乘とは何か。 大乘仏教の概略。
第 7 回	大乘仏教(2)	大乘仏教の展開。 般若経典と中観派の概略。
第 8 回	大乘仏教(3)	法華経の概略。
第 9 回	大乘仏教(4)	浄土経典の概略。
第 10 回	大乘仏教(5)	華嚴経の概略。
第 11 回	大乘仏教(6)	唯識の概略。
第 12 回	大乘仏教(7)	如来蔵思想の概略。
第 13 回	大乘仏教(8)	密教の概略。
第 14 回	大乘仏教(9)	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書の該当項目の内容を、講義の前後に確認することを、準備学習、復習とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。
必要に応じて、プリントを配布する。

【参考書】

中村元・三枝充恵『バウッダ』（講談社学術文庫）
三枝充恵『インド仏教思想史』（講談社学術文庫）

【成績評価の方法と基準】

学期末のテスト 70 %
平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度より開講につき、なし。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

日本美術史論

豊田 和平

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、まず日本美術史の全体を、絵画史を中心に概観する。学生のこれまでの学習体験により、日本美術史に対する知識に不均衡があることが予想されるため、まず日本美術史に対する教室内での共通認識を深め、わが国の美術史に対する理解と愛着を醸成したい。さらに、各時代の美術を学び摂取することで新日本画の創造を目指した近代日本画に焦点をあわせ、その発展の歴史をたどる。近代日本画の美術史的な意義を考察することは、日本美術史における各様式を再確認することにつながる。また、近代日本画とその豊富な諸資料をもとに、絵画に対する読解力を養う。

【到達目標】

私たちの先人が生み出してきた美術の流れを、特に絵画史についてたどることで、わが国の伝統と文化の特色の一端を味わい理解することを目指す。諸資料の講読などによってさまざまな日本美術の用語と美術史に関する基礎知識を理解し、日本の絵画に対する教養を身につけることを目的とする。さらに講義で取り上げる絵画に関する意見を表現するトレーニングなどを通して、美術作品の読解力を養うことを目標とする。

【授業の進め方と方法】

授業では、近世以前の日本美術史、特に絵画の各様式における作品例を概観する。そのうち近代における「日本画」の成立とその歴史的経過をふまえ、近代日本画の系譜が、日本美術史上どのような意義をもっているのかを検討する。その際、多数の近代日本画作品の画像を紹介する。さらに絵画のほかにも、美術史上の出来事、作者の履歴や制作態度などを探る手がかりとなる史料も利用する。最低限の素養として、絵画に関する事項を丹念に調べる姿勢とともに、史料読解に積極的に取り組む姿勢が必要となる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本美術のながれ～日本美術の”特色”は何か	本講義の導入として、日本美術の特色と言えるものは何か、検討する。
第 2 回	日本美術のながれ～日本美術の一系譜としての”近代日本画”	前回に引き続き、日本絵画史研究の導入として、近代日本画というジャンルが、日本絵画史上に有する意義を考察する。
第 3 回	日本美術史の概観、古墳時代から奈良時代	主として古墳時代から奈良時代における絵画の代表例を概観する。
第 4 回	日本美術史の概観、平安時代～鎌倉南北朝時代	主として平安時代から鎌倉南北朝時代における絵画の代表例を概観する。
第 5 回	日本美術史の概観、室町時代～安土桃山時代	主として室町時代から安土桃山時代における絵画の代表例を概観する。
第 6 回	日本美術史の概観、江戸時代	江戸時代における絵画の代表例を概観する。
第 7 回	”日本画”のイメージ～重要文化財指定などによる”歴史化”	文化勲章を受章した近代日本画家や、重要文化財に指定された近代日本画作品を通して、現在実際に近代日本画がどのように評価されているかを概観する。
第 8 回	伝統的な”日本画”のすがた、かたち～技法、材料、装丁などを中心に	日本の絵画の伝統的な技法、材料や装丁方法などを概観し、”すがた、かたち”の面から日本画に関する基礎知識を共有する。
第 9 回	近代日本画の”誕生”	明治初期における「日本画」の誕生の経緯を概観する。
第 10 回	懐古趣味の醸成と日本画	「日本画」誕生の経緯に関連して、明治 10 年代における文化的な風潮や美術史の動向について考察する。
第 11 回	東京美術学校の創設と草創期の近代日本画	東京美術学校開校前後の近代日本画壇の状況を概観する。
第 12 回	近代日本画の勢力～東京画壇の新派と旧派	明治末、とりわけ明治 40 年の文展開設の前後における、東京画壇の状況を概観する。
第 13 回	近代日本画の勢力～官展の京都画壇	明治末、とりわけ明治 40 年の文展開設の前後における、京都画壇の状況を概観する。
第 14 回	大正期の近代日本画	大正期の日本画壇、特に日本美術院の再興、金鈴社と国画創作協会の結成、帝国美術院の創設と帝展の開催について、それらの意義を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、必要に応じて配布されるプリントの内容を理解することが必要となる。準備学習としては、プリントに引用されている史料等を読み、聞き覚えのない用語の有無を把握し、出来る限り意味を調べておくことなどが必要となる。

【テキスト（教科書）】

テキストは、特に用いない。必要に応じて、プリント等を配付する。

【参考書】

小林忠『原色現代日本の美術 第2巻 日本美術院』1979年、小学館／内山武夫『原色現代日本の美術 第3巻 京都画壇』1978年、小学館／細野正信『原色現代日本の美術 第4巻 東京画壇』1978年、小学館／高階秀爾、陰里鉄郎、田中日佐夫・編『日本美術全集 第22巻 洋画と日本画』1992年、講談社／根崎光男・監、講談社野間記念館、財団法人野間文化財団・編『美のながれ ― 講談社野間記念館名品図録』2005年、財団法人野間文化財団。このほか、講義に関連のある美術展覧会等の情報とともに、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（試験期間中）の成績による（100%）。期末試験では、近代日本画に関する基礎的知識と、近代日本画作品を解説する力との、それぞれの修得の到達度を問うこととなる。

【学生の意見等からの気づき】

講義の各回において、できるだけ多くの近代日本画作品の画像を紹介していきます。

【その他の重要事項】

・講義では、場合によっては、聞き覚えのない美術用語、歴史用語などが飛び交うことにもなるかと思いますが、せっかく受講する以上は、それら用語も丹念に調べるなど、積極的に参加することを期待します。
・旧科目名称「日本美術の系譜」を修得済の場合、本科目は履修できません。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ART200HA

西洋美術史論

板橋 美也

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスのジャポニスム―日本がどのように眺められてきたのか

【到達目標】

近年、日本のアニメや食べ物、ファッションなどが海外で大きな注目を集めていますが、こうした海外での日本の事物に対する高い関心は、19世紀半ばの日本の開国直後にも、ジャポニスムという形をとって存在していました。この時期、様々な欧米諸国との通商関係の成立とともに、多くの人や物が日本から流れ出し、特に日本の美術工芸品が欧米で大きな注目を集めました。そして、欧米諸国の芸術家たちは、自分たちの創作活動のインスピレーションの源の一つとして日本の美術工芸品を眺め、また、その時々自分の支持する美術思想を正当化するため日本の美術工芸品について論じたのです。本講義は、このジャポニスムという現象が1860年代から1930年代までのイギリスでどのような変遷を遂げ、その中で日本がどのように眺められてきたのかを考えます。そうすることで、1860年代から1930年代のイギリス美術・デザインの諸潮流とジャポニスムの変遷について理解すること、ある文化が他文化の諸要素を取り入れるときに生じる異文化間交流のあり方について自分の考えを述べるができるようになることを目指します。

【授業の進め方と方法】

まず、「日本美術」の諸要素をイギリスの芸術家たちが取り入れた際に前提としていたイギリス側の背景（美術潮流）を解説します。そのうえで、その美術潮流に身を置いていた芸術家・批評家による「日本美術」観を、彼らの発表した文章や作品を通して考えます。また、講義内容を踏まえて自分の考えを簡潔にまとめたリアクション・ペーパーを授業時に随時書いてもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ジャポニスム前史	シノワズリーからジャポニスムへ
第2回	デザイン改革運動におけるジャポニスム（1）	デザイン改革運動の背景説明
第3回	デザイン改革運動におけるジャポニスム（2）	Christopher Dresser その他の「日本美術」観を分析
第4回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム（1）	ゴシック・リヴァイヴァルの背景説明
第5回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム（2）	William Burges その他の「日本美術」観を分析
第6回	唯美主義におけるジャポニスム（1）	唯美主義の背景説明
第7回	唯美主義におけるジャポニスム（2）	James McNeill Whistler その他の「日本美術」観を分析
第8回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム（1）	アーツ・アンド・クラフツ運動の背景説明
第9回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム（2）	Frank Morley Fletcher その他の「日本美術」観を分析
第10回	1910年日英博覧会	日本政府による「日本美術」の表象
第11回	モダニズムにおけるジャポニスム	Roger Fry その他の「日本美術」観を分析
第12回	民芸運動をめぐる日英交流（1）	民芸運動の背景説明
第13回	民芸運動をめぐる日英交流（2）	Bernard Leach その他の「日本美術」観を分析
第14回	試験	授業内容に基づいた試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントと授業中にとったノートをもとに、毎回授業後によく復習をしておいてください。

【テキスト（教科書）】

プリントを適宜配布します。

【参考書】

世田谷美術館編、『JAPANと英吉利西（いぎりす）日英美術の交流 1850-1930』展』、世田谷美術館、1992年
谷田博幸、『唯美主義とジャパニズム』、名古屋大学出版会、2004年
小野文子、『美の交流―イギリスのジャポニスム』、技報堂出版、2008年

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

スクリーンに映し出した作品を鮮明に見せようとすると、黒板前の照明を暗くせざるを得ないので、その点ご了承ください。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

LIT200HA

日本詩歌の伝統

日原 傳

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」の実作を体験する機会も設ける予定である。

【到達目標】

- ・「俳句」の定型詩としての規則を理解する。
- ・「俳句」の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。
- ・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。
- ・主だった季語の季節を知る。

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回テーマを設けて、日本の詩歌の作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者には毎回俳句の実作を提出してもらい、提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	俳句の三要素	俳句の約束事～定型・季語・切字／実作（俳句）
第 2 回	季語の重層性	発句と俳句、歳時記の世界、「季語」について／実作（俳句）
第 3 回	切れについて	俳諧の発句、芭蕉の追い求めたもの
第 4 回	再び切れについて	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」／実作（俳句）
第 5 回	座の文学Ⅰ	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第 6 回	座の文学Ⅱ	正岡子規の場合／実作（俳句）
第 7 回	正岡子規の俳句革新	『俳諧大要』より、「写生」について、吟行という作句法／実作（俳句）
第 8 回	川柳と俳句	川柳と俳句の違い／実作（俳句）
第 9 回	短歌と俳句	短歌と俳句の違い／実作（短歌）
第 10 回	高濱虚子とその弟子たち	鑑賞（ホトトギスの俳人たち）／実作（俳句）
第 11 回	自由律俳句・新傾向俳句・新興俳句	鑑賞（自由律俳句・新傾向俳句・新興俳句）／実作（俳句）
第 12 回	前衛俳句	鑑賞（前衛俳句）／実作（俳句）
第 13 回	現代俳句	鑑賞（現代俳句）／実作（俳句）
第 14 回	国際俳句	鑑賞（国際俳句）／実作（俳句）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自作の俳句（毎回3句ほど）を作り、持参する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）
山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）
平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）
藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）
片山由美子ほか『俳句教養講座』第1～3巻（角川学芸出版）
日原傳『365日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂）
佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー）
Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill）
馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社）
岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度・提出作品） 70％
最終レポート 30％

【学生の意見等からの気づき】

提出された実作を素材として解説する時間を多くとりたい。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

HIS300HA

日本環境史論Ⅰ

根崎 光男

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：人と自然の環境史

本授業では、人と自然との歴史的なかわりを、近世日本の政治・経済・生活・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の環境史研究の新しい成果を取り入れながら、歴史を「覚える」だけでなく、「考える」能力を身につける方法を紹介していく。また資料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要資料を提示して、資料から具体的な歴史像を描き出せるように工夫する。

【到達目標】

この講義では、日本環境史を理解するために必要となる知識の習得や歴史的事実の調べ方、およびその全体像の論理的構成方法を学ぶ。また自然・環境などにかかわる根拠資料を踏まえて解説する。人と自然とのかわりを歴史的に知るために、地域性や時代性を意識しながら、豊かで多様な価値観に支えられた環境史の具体像を構築する能力を養うことを目標とする。

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として講義形式で進め、その理解度を把握するため時としてリアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境歴史学とは	環境歴史学の歩みとその役割について学ぶ
第 2 回	人の暮らしと山林利用	人の暮らしと山林利用の関係について学ぶ
第 3 回	山林荒廃と人間社会への影響	山林荒廃の要因を地域の多様な事例を通して学ぶ
第 4 回	自然をめぐる環境思想	近世の環境思想を山林荒廃の論理から学ぶ
第 5 回	山林保護をめぐる政策と地域慣行	幕府の山林保護政策の歩みとその具体的な内容について学ぶ
第 6 回	持続可能な山林保護の諸相	幕府・諸藩・地域社会で実践された山林保護の諸相について学ぶ
第 7 回	植林をめぐる政策と地域性	各地域で実践された植林政策の歴史の多様性について学ぶ
第 8 回	共有資源の利用と紛争	山野河海的所有・利用をめぐる幕府の裁定方針について学ぶ
第 9 回	山野河海の入会慣行	山野河海の入会利用の多様なあり方と入会権の特質について学ぶ
第 10 回	狩猟の歴史と自然環境保全	狩猟の歴史と自然環境保全とのかわりについて学ぶ
第 11 回	狩猟の文化と地域社会	狩猟文化の歩みと地域社会とのかわりについて学ぶ
第 12 回	農業と害鳥獣対策	鳥獣被害対策と領主・地域社会の対応関係について学ぶ
第 13 回	人間と鳥獣との共生関係	人間と鳥獣との多様な関係から共生のあり方について学ぶ
第 14 回	公害と領主・地域社会	公害の多様性と領主・地域社会とのかわりについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストのテーマごとの史料を事前に読んでおくこと。
テーマに関連する参考文献を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011 年）

【参考書】

『生類憐みの世界』（根崎光男、同成社、2006 年）
『犬と鷹の江戸時代』（根崎光男、吉川弘文館、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）とリアクションペーパー（10%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論Ⅰ

辻 英史

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパ各国の都市における生活世界と周囲の自然環境の変化を、空間利用、食糧供給、保養、衛生など、さまざまな角度から考察する。これにより、ヨーロッパの地理的歴史的な条件のなかでの人々の生活の展開や意識の成り立ちをさぐるとともに、人間社会と環境の共生がいかに達成されてきたのかを理解する。

【到達目標】

ヨーロッパの都市の歴史的発展を、そこに暮らす人々の生活世界がどのように時代によって変化してきたか、また人間と自然環境との関係はどのように変化してきたかを考察することで、ヨーロッパだけでなく日本を含む世界の他地域の都市社会の歴史や文化的独自性について考察を広げる視座を提供する。

【授業の進め方と方法】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパの都市を対象として、都市の景観および都市内部での住民の生活世界、それを取り巻く自然環境との関係について、各地域で特徴のある事象をいくつかとりあげて解説していく。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品を取りあげて紹介していく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：ヨーロッパ都市の環境史について	環境という観点からヨーロッパ都市の歴史を考える際に重要な概念・方法論を紹介する。
第 2 回	古代都市から中世都市へ	古代都市から中世都市への変化と、中世都市独特の景観について。
第 3 回	近世絶対主義のもとでの都市の造形	近世になると強大な権力を手にした君主は、都市空間の造形に取り組んだ。それが都市の生活にもたらした影響を分析する。
第 4 回	近代都市の出現と都市計画	近代都市の特徴と、各国でおこなわれた国家権力の主導する大規模な都市改造／拡大の事業について
第 5 回	都市の拡大と交通	道路、鉄道、河川交通など、都市の内部および都市と近郊を結ぶ交通の発展と都市の人口規模の増大
第 6 回	都市と食料供給	人口が密集する都市に食糧を供給するという問題はいかにして対処されたのか。ヨーロッパの食の歴史の中に位置づける。
第 7 回	都市における水と衛生問題	上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水との関わりと、衛生と清潔さの歴史。
第 8 回	都市と自然・災害	都市の外部に広がる自然のとらえ方は近世から近代にかけてどのように変化したか。災害への見方を例に考える。
第 9 回	都市と緑	都市内の公園・緑地の役割の変化を追う。住民の保養・休養から、教養と学習、政治活動の場まで。
第 10 回	20 世紀の都市問題	20 世紀前半から後半にかけて、都市社会の機能変化と、景観および生活空間の変化を関連づける。
第 11 回	田園都市と郊外の開発	20 世紀初頭から各国で都市郊外でのニュータウン建設の試みが始まった。その課題と問題点をあきらかにする。
第 12 回	20 世紀後半の都市改造	第二次世界大戦後の都市では、戦災からの復興や自動車化と消費社会化などの新しい傾向への対応として、どのような対策がおこなわれたのか。
第 13 回	現代における都市の再生	1980 年代ごろから、都市内部および郊外ニュータウンの衰退が問題となってきた。これに対する再生の試みを紹介する。
第 14 回	まとめ：日本とヨーロッパの都市社会と環境	ヨーロッパの都市社会の発展の過程と日本のそれとを比較検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（100 %）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるので、見やすい位置を選んで着席すること。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ART200HA

比較演劇論 I

平野井 ちえ子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。受講希望者多数の場合、選抜を行なう可能性もあるので、第 1 回目の授業には必ず出席してください。

【到達目標】

演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養います。

【授業の進め方と方法】

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、非常に密度の濃い講義形式となります。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能です。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、受講希望者多数の場合、選抜を行います。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第 2 回	歌舞伎海外公演（1）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第 3 回	歌舞伎海外公演（2）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第 4 回	何もない空間	能やギリシャ悲劇を対象に、観客の想像力について考えます。
第 5 回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、屋体くずしなど、歌舞伎舞台の仕掛けを学びます。
第 6 回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考えます。
第 7 回	歌舞伎のせりふ	聞かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学びます。
第 8 回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能について、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察します。
第 9 回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察します。
第 10 回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（1）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第 11 回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（2）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第 12 回	歌舞伎と文楽	歌舞伎と文楽の『熊谷陣屋』を比較考察します。
第 13 回	総括	春学期の学習内容の復習。期末試験の予告。
第 14 回	期末試験（記述式）	13 回までの講義内容について、理解度・知識定着度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週の講義範囲については、必ず配布プリントの下読みをして参加してください。また、日頃から舞台芸術に親しむ姿勢が必要です。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示します。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBS プリタニカ
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】 40 %

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します）。

ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出していただきます）。

【期末試験】 60 %

参照不可の記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

B T O 3 0 9 教室での授業です。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
・2011 年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。
・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

環境表象論 I

梶 裕史

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にどう捉えるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。

「文化的景観」は、地域の特色ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために 1992 年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も 2005 年に新文化財として文化財保護法に採り入れています。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適応して形成された伝統的な生活・生業（農林水産業や鉱工業）を表わす景観の持続可能性を尊びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特色ある生活文化資産を今後どのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であるといえます。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

【到達目標】

・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できること。
・「景観は」見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながる可以多いということに気付けること。

【授業の進め方と方法】

ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPT や OHC（書画カメラ）を使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることにメインではないと思って下さい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	「景観」とは何か、導入の説明
第 2 回	ユネスコの「世界遺産」事業概説（「文化的景観」導入の経緯）	併せて国内の世界遺産を紹介
第 3 回	文化的景観の定義	ユネスコ、日本（文化財保護法）
第 4 回	文化財保護法の既存の文化財との比較	「環境」、持続可能性重視の新視点
第 5 回	文化的景観の多面的な効用①	国土の自然環境保全、生物多様性保全ほか
第 6 回	「文化的景観」保全の多面的効用②	日本型エコツーリズム・エコミュージアム等との関連
第 7 回	事例紹介① 近江八幡から学ぶべきこと	重要文化的景観第 1 号
第 8 回	事例紹介② a 宗教・信仰の聖地	熊野三山、沖縄の御嶽、富士山等
第 9 回	事例紹介② b 古典文芸の名所	既存の文化財「名勝」との関連、松島等
第 10 回	前回② b の拡大解釈—その場にはないもの、見えないものが作り出す魅力	文学作品、映画、アニメが創る作品舞台の魅力／「ことば」が景観を創る／心の中のイメージの重要性 など
第 11 回	生きて変化する文化財として (1)	「循環する自然」（＝季節の周期変化）に即した生活文化の意義
第 12 回	生きて変化する文化財として (2)	「伝統」の非固定性／「有機的に進化する」景観。四万十川や沖縄県竹富島を事例に
第 13 回	「伝統」継承のための階層的発想	「無形」の文化尊重の潮流とも関連づけて
第 14 回	まとめ（「視覚」のみから「五感」の景観へ／「感覚環境のまちづくり」との関連）	総括とともに、概念進化の可能性を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。

【テキスト（教科書）】

授業のなかで随時配布するプリントをもって代えます。

【参考書】

梶裕史「『文化的景観』の特質と可能性」（小島聡・西城戸誠編『フィールドから考える地域環境』第 5 章、ミネルヴァ書房、2012）ほか、授業のなかで紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 75 %、リアクションペーパー・授業マナー等 25 %（授業の初回に、授業マナーについて等諸注意を書いたプリントを配布します。）

【学生の意見等からの気づき】

私語への厳しい注意についてはおおむね好評ですが、時にそのために授業が中断して（当然ながら）雰囲気が悪くなることがあります。しかし大教室で常時静粛な授業環境を確保する効果があるため、方針は変えません。また、「雑談」「余談」的なくだけた話のときは別です。休憩的な意味合いもありますので、くつろいで、その話題に関連して適度に隣の友人と話したり、笑ったりして楽しんでください。要は、真剣に話しているときもくつろぎの時間も、私と一対一で向き合っている感覚で聴いてもらうのがベストだと思います。

また、写真等をたくさんお見せしますが、専用の時間を設けるというかたちではなく、見ながら講義していきます。室内に照明のついたままの状態で見えるため、鮮明さの点で見にくい場合もあるかと思いますが、画像は補助的な情報提供にすぎず、授業の理解に差し支えることはありません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・日本の伝統文化をサステイナビリティの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。
・旧科目名称「環境表象論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

CUA200HA

環境人類学 I

高橋 五月

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学 I では、人間と自然の関係について探求してきた国内外の人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景をもとに多様に存在する人間と環境の関係について学ぶ。また、環境人類学のアプローチを用いて身近な環境問題について議論し、文化的側面を理解することの重要性についての理解を深める。

【到達目標】

本講義では、身近な環境問題について文化人類学のアプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係についての知識とグローバルな視点を深めることに加え、クリティカルシンキングを養うことを目的にする。

【授業の進め方と方法】

映像資料を随時活用しながら講義をおこなう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明する。
第 2 回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介する。
第 3 回	文化生態学とは？	環境人類学の「父」であるジュリアン・シュチュワードの研究を紹介する。
第 4 回	民族生態学とは？	人間と環境の関係を民族学的に考察する研究を紹介する。
第 5 回	生態人類学とは？	ロイ・ラバポートによる宗教儀式と生態との関係についての研究を紹介する。
第 6 回	狩猟採集文化	狩猟や採集という文化を通して人間と環境の関係について講義する。
第 7 回	中間試験	中間試験を行う。
第 8 回	複合社会	文化的変容が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第 9 回	地下環境	鉱物採取（石炭、ウラン、石油、ダイヤモンド）と環境問題との接点を講義する。
第 10 回	地球温暖化	気候変動が人間と環境に与える影響について講義する。
第 11 回	人口と環境	人口の増減が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第 12 回	生物の多様性	生物多様性が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第 13 回	環境思想と運動	環境思想と環境運動から見た人間と環境の関係について講義する。
第 14 回	消費者文化	大量消費社会が生み出す環境問題について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第 1 回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。
（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

【テキスト（教科書）】

授業内に紹介します

【参考書】

パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30％）、中間・期末筆記試験（70％）。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメを配ってほしいというリクエストがあったのですが、ノートテイキングも学びのうちという教育理念を持っているのでレジュメの配布は今後もしません。板書の時間は十分にとりますので、自分なりの授業ノートを作成し、学びに繋げてください。

私語をやめてもらうにはどうすればいいのか、悩んでいます。大教室なので教壇からヒソヒソ話を察知することは難しいのですが、より良い教室環境をつくる工夫をしていきたいと思っています。

映像資料も利用しながらの授業が好評だったので、今後も同様のスタイルで授業を進めたいと思います。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

PHL200HA

現代思想と人間 I

竹本 研史

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代社会思想

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。そこで本講義では、現代社会思想および映画作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

【到達目標】

人間環境学部の学生として、さまざまな学問領域で「サステイナビリティ」に関する学習を進めていくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の承譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【授業の進め方と方法】

講義形式で起こないますが、授業中ならびにリアクションペーパー提出による質疑・次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がけます。単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	個人の自由と反植民地主義（1）	ジャン＝ポール・サルトルの思想（1）——『存在と無』を中心に
第 2 回	個人の自由と反植民地主義（2）	ジャン＝ポール・サルトルの思想（2）——『弁証法的理性批判』を中心に
第 3 回	個人の自由と反植民地主義（3）	ジャン＝ポール・サルトルの思想（3）——『ユダヤ人問題についての考察』、『黒いオルフェ』を中心に
第 4 回	個人の自由と反植民地主義（4）	ハンナ・アーレントの思想（1）——『全体主義の起源』を中心に
第 5 回	フェミニズムの思想（1）	フランツ・ファノンの思想——『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に
第 6 回	フェミニズムの思想（2）	オランブ・ド・グージュ、メアリ・ウルストンクラフト、J・S・ミルの思想を中心に
第 7 回	全体主義批判と人間性の問題（1）	シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想——『第二の性』を中心に
第 8 回	全体主義批判と人間性の問題（2）	フランク・パヴロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』を中心に
第 9 回	全体主義批判と人間性の問題（3）	ハンナ・アーレントの思想（1）——『全体主義の起源』を中心に
第 10 回	全体主義批判と人間性の問題（4）	ハンナ・アーレントの思想（2）——『エルサレムのアイヒマン』、クロード・ランズマン『ショア』、ロニー・ブローマン／エイアル・シヴァン『スベチャリスト』を中心に
第 11 回	規律と権力（1）	ハンナ・アーレントの思想（3）——『人間の条件』、『革命について』を中心に
第 12 回	規律と権力（2）	ミシェル・フーコーの思想——『監視と処罰』を中心に
第 13 回	規律と権力（3）	ミシェル・フーコーの思想——『性の歴史』を中心に
第 14 回	まとめ	ミシェル・フーコーの思想——『社会は防衛しなければならない』、『安全・領土・人口』、『生政治の誕生』を中心に 今学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

市野川容孝・宇城輝人編『社会的なもののために』、ナカニシヤ出版、2013 年。
宇野重規『西洋政治思想史』、有斐閣、2013 年。

坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』、名古屋大学出版会、2014 年。
坂本治也編『市民社会論——理論と実証の最前線』、法律文化社、2017 年。
仲正昌樹編『政治思想の知恵——マキアヴェリからサントラまで』、法律文化社、2013 年。
同編『現代社会思想の海図（チャート）——レーニンからバトラーまで』、法律文化社、2014 年。
山脇直司『公共哲学とは何か』、ちくま新書、2004 年。
同『社会思想史を学ぶ』、ちくま新書、2009 年。
同『公共哲学からの応答——3・11 の衝撃の後で』、筑摩選書、2011 年。
ほか
*各思想家の思想に関する参考文献などは教場で随時紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出するコメントシート（20%）＋学期末試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくします。また、記号の使い方、ポイントの大きさなどにも留意いたします。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

2016 年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅰ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

HIS300HA

日本環境史論Ⅱ

横濱 文孝

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸の都市環境について
本授業では、江戸の都市環境の全体像を、政治・経済・生活・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の環境史の新しい成果を取り入れながら、歴史を「覚える」だけでなく、「考える」能力を身につける方法を紹介していく。また資料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要資料を提示して、資料から具体的な歴史像を描き出せるように工夫する。

【到達目標】

この講義では、日本環境史を理解するために必要となる知識の習得や歴史的事実の調べ方、およびその全体像の理論的構成方法を学ぶ。また都市・環境などにかかわる根拠資料を踏まえて解説する。江戸という地理的条件や日本の伝統的な生活文化を意識しながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史や文化の具体像を構築する能力を養うことを目標とする。

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として講義形式で進め、その理解度を把握するため時としてリアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー江戸の都市環境について	江戸の町の歴史の基礎とその特質を学ぶ
第 2 回	江戸の都市化と地域の特徴	江戸の町の都市化を開発・人口増大などの環境変化から学ぶ
第 3 回	都市環境の変化と都市計画	江戸の都市計画を環境思想などの視点から学ぶ
第 4 回	行政と地域社会	江戸の行政組織の多様性とその特質、および問題点を学ぶ
第 5 回	町の運営と地域コミュニティ	江戸の町の運営と地域コミュニティのありようを学ぶ
第 6 回	市民生活と住環境	住民の住環境の歴史的変遷を通して身分差別のありようを学ぶ
第 7 回	市民生活と衣食環境	衣食のありようやそれを支えた江戸周辺地域との関係性を学ぶ
第 8 回	産業の発達と地域社会	物直し産業の業態と同業組織の特質について学ぶ
第 9 回	巨大都市とゴミ問題	ゴミ問題の発生と住民生活との関係について学ぶ
第 10 回	江戸のゴミ処理システム	幕府のゴミ処理システムの運用と課題を学ぶ
第 11 回	火災と地域社会	災害都市江戸のありようを学ぶ
第 12 回	江戸の消防と防火対策	江戸の火災と幕府・町方の消防組織のあり方と多様な防火対策について学ぶ
第 13 回	市民生活と水問題	江戸の上下水道について学ぶ
第 14 回	江戸の生活文化と都市空間	江戸の住民生活と信仰・娯楽との関係性を癒し空間の視点から学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストのテーマごとの史料を事前に読んでおくこと。
テーマに関連した参考文献を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011 年）

【参考書】

『「環境」都市の真実』（根崎光男著、講談社＋α 新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）とリアクションペーパー（10%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

辻 英史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の持続可能な発展のためには、その社会の集団アイデンティティが重要な役割を演じる。集団アイデンティティは、歴史や文化・自然などに関して成員の間で保有される共通のイメージや認識に基づいて形成され、その社会が全体としておこなうさまざまな決定に影響を与える。

この授業では、とくに過去の歴史に対する認識の確立に大きな努力を払ってきたドイツの事例を学ぶことを通じて、集団アイデンティティが作り出される上での重要な要素や問題点について理解し、またこの領域における日本の問題点について考察する。

【到達目標】

この授業では、近現代のドイツを中心に、ヨーロッパの他国や日本と比較しながら、この集団アイデンティティの問題に取り組む。ドイツにおいて歴史や文化、伝統、自然などがどのように認識されイメージされていたのかを時代を追って明らかにし、それによって各時代にどのような集団アイデンティティが形成されていったのかを時代状況とともに理解する。

その際、集団アイデンティティは決して単一のものではなく、複数のそれらが競合して社会内外の対立を増幅したりあるいは和解させたりする作用を持つこと、また特定の政治勢力や集団の利益のために利用される可能性もあることにふれ、その可能性と危険について理解することもまた本授業の目標である。

【授業の進め方と方法】

毎回資料として同時代文献や統計を用いるほか、理解の助けとなる文化遺産や芸術作品の図像・写真・映像などを紹介する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：集合記憶と集団アイデンティティ	テーマに関する理論的な説明と、予備知識の解説を行う。
第 2 回	国民意識の誕生と集合記憶の創造	近世において小国分立状態の中でのドイツ人意識とアイデンティティの誕生について。
第 3 回	19 世紀ドイツの集合アイデンティティ①	19 世紀のドイツにおいて、国民国家成立の前後で、どのような集団アイデンティティが形成されたか。まず過去の歴史に対する認識をあつかう。
第 4 回	19 世紀ドイツの集合アイデンティティ②	19 世紀のドイツにおいて、国民国家成立の前後で、どのような集団アイデンティティが形成されたか。続いて文化や自然、芸術をあつかう。
第 5 回	120 世紀初頭の歴史認識をめぐる政治的闘争	第一次世界大戦期から戦間期にかけての国内外での政治的対立が激しくなった時期におけるアイデンティティ間の葛藤をあつかう。
第 6 回	ナチスによる「政治の美学化」と過去の利用	1933 年に政権を獲得したナチスは集団アイデンティティを巧みに構築し利用した。その手法を分析する。
第 7 回	第二次世界大戦後の東西ドイツにおける集合アイデンティティ	第二次世界大戦後成立した東西ドイツにおける、それぞれの集団アイデンティティをめぐる状況を明らかにする。
第 8 回	ナチズムの過去をめぐる東西ドイツの取り組み	ナチスや第二次大戦に関する過去への認識が戦後ドイツの中でどのように集団アイデンティティとなっていたかを明らかにする。
第 9 回	68 年運動とドイツ人のアイデンティティの変動	ドイツ社会を大きく変えたと言われる学生運動後の西ドイツ社会の変容と、それによる集団アイデンティティの変化を検証する。
第 10 回	統一後のドイツ社会における東ドイツの過去の位置づけ	1990 年の東西再統一後は東ドイツという過去をどのように集団アイデンティティの中に位置づけるかという問題が生じた。
第 11 回	地域社会とその集団的アイデンティティ	ドイツの多様な地域社会と、その住民の集団アイデンティティとの関係について。
第 12 回	ドイツの自然保護と景観	開発規制と記念物保護、自然保護など、現代ドイツの自然景観を守る運動が、集団アイデンティティにどのように影響を与えているか。
第 13 回	過去の記憶に関する新しいプロジェクトと論争	近年ドイツ社会のなかで見られるようになった、ナチズムの過去への反省の姿勢を修正しようとする傾向と、それに反対する動きを取りあげる。
第 14 回	結論：ドイツと日本における集団アイデンティティのあり方との比較	日本における集団アイデンティティの作られ方や過去のイメージについて考え、ドイツのそれらと対照する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

別途指示する参考書のほか、授業の進度に応じて『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読んでおく、授業内容への理解が深まるであろう。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるので、見やすい位置を選んで着席すること。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも受講可能である。
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ART300HA

比較演劇論Ⅱ

平野井 ちえ子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

春学期講義「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品・関連芸術への鑑賞眼を養います。

【授業の進め方と方法】

演劇各ジャンル・関連芸術の代表的な作品について鑑賞・討論・解説し、受講者の鑑賞眼を養います。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明します。
第 2 回	歌舞伎海外公演（3）	平成中村座海外公演について考察します。
第 3 回	劇場とは何か	芸能の「場」と観客の想像力について考察します。
第 4 回	スペクタクルの役割：歌舞伎を中心として	古典歌舞伎とスーパー歌舞伎のスペクタクルについて考察します。
第 5 回	ジャンル横断的考察（1）	能と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 6 回	ジャンル横断的考察（2）	文楽と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 7 回	ジャンル横断的考察（3）	歌舞伎と落語：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 8 回	ジャンル横断的考察（4）	歌舞伎と映画：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 9 回	翻案劇とは何か	明治期のシェイクスピア受容を初めとして、ジャンルとしての翻案劇のあり方を考察します。
第 10 回	東西の流血シーン	ヨーロッパの演劇と比較して、歌舞伎の「殺し場」の特徴を考えます。
第 11 回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を軸として、演劇におけるリアリズムと様式表現について考えます。
第 12 回	演劇の季節感	歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品を考察します。
第 13 回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察のまとめ。期末試験の予告。
第 14 回	期末試験（記述式）	13 回までの講義内容について、理解度・知識定着度・鑑賞力を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週の講義範囲については、必ず配布プリントの下読みをして参加してください。また、日頃から舞台芸術に親しむ姿勢が必要です。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示します。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ―日本人の美意識―』 TBS プリタニカ
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】 40%

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します）。

ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出していただきます）。

【期末試験】 60%

参照不可の記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。ただし、学習の分量は多いので、2013年度以降の「比較演劇論Ⅱ」では、春学期の「比較演劇論Ⅰ」を受講していない学生の履修は一切認めていません。

【学生が準備すべき機器他】

BTO309教室での授業です。

【その他の重要事項】

- ・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
- ・2011 年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。
- ・春学期の「比較演劇論Ⅰ」を履修していない学生の履修は、一切認めません。
- ・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

環境表象論Ⅱ

梶 裕史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「五感」が形づくる表象・風景：「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】

・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できること。
・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であること）を理解できること。

【授業の進め方と方法】

「文化的景観」については、「環境表象論Ⅰ」のシラバス参照。表象論Ⅰと連続性が強いので、まずその概要の復習から入り、その後は便宜的に世間一般の五分類に沿って、項目を設けます。授業計画各回のテーマは視覚・聴覚中心にみえますが、特に「音風景」の中で嗅覚・触覚・味覚の話題も盛り込んでゆきます。「五感」はふつうは本人がリアルタイムに実体験する感覚を指し、これによる表象は「知覚表象」「感覚表象」などと呼ばれますが、持続可能な地域づくりには、「記憶表象」「想像表象」と呼ばれる類で、かつ個人を超えた地域の集団的な心意に関わるものが重要と考えて、クローズアップしてゆきます。そしてその資料として、日本の伝統的な文学や民間伝承を紹介する時間も多くとる予定です。
授業の形式は、ふつうの講義形式。表象論Ⅰ同様、現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、Ⅰに引き続き、視覚的画像をみることがメインではなく、むしろ春学期以上に「目に見えないもの」を重視した内容になります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：「五感」のエコロジーと文化的景観	「環境表象論Ⅰ」の概要の復習も兼ねて
第 2 回	日本の「いろ」の話（1）	日本文化における色彩、配色の特色
第 3 回	日本の「いろ」の話（2）	日本文化における「色づかい」の二面性
第 4 回	日本の「いろ」の話（3）	3 回のまとめ。日本人にとって「いろ」とは何か
第 5 回	光と影・闇（1）	「光環境」・灯りに配慮したエコなまちづくり
第 6 回	光と影・闇（2）	「エコ」の視点からの陰翳・闇の魅力と重要性
第 7 回	音の風景とは何か	サウンドスケープと日本文化との関わり・総論（1）
第 8 回	日本人の「風景を聴く」伝統	サウンドスケープと日本文化との関わり・総論（2）
第 9 回	環境省「残したい日本の音風景 100 選」を窓口に（1）	「自然」の音風景の具体例
第 10 回	「残したい日本の音風景 100 選」を窓口に（2）	生き物に関わる音風景の具体例
第 11 回	「残したい日本の音風景 100 選」を窓口に（3）	生業や交通などに関わる具体例。におい・触覚・味覚との融合感覚。
第 12 回	「残したい日本の音風景 100 選」を窓口に（4）	伝統祭事に関わる具体例。におい・触覚・味覚との融合感覚。
第 13 回	方言をめぐる	音風景の一種として、地域文化の核である地域のことばに注目
第 14 回	総括一人間の「身体性」（内なる環境）重視と感覚環境のまちづくり	環境表象論Ⅰのポイントも含めたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。

【テキスト（教科書）】

授業のなかで随時配布するプリントをもって代えます。

【参考書】

環境表象論Ⅰに同じ。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 75 %、リアクションペーパー・授業マナー等 25 %（授業の初回に、授業マナーについて等諸注意を書いたプリントを配ります）。

【学生の意見等からの気づき】

授業環境については、環境表象論Ⅰとはほぼ同様です。
昨年度は、春学期の「表象論Ⅰ」の授業を計画通り完了できなかったため、表象論Ⅱの前半に、本来はⅠで話すべき内容を話し、その結果、一部がシラバスとは異なる内容になったことが反省点です。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

CUA300HA

環境人類学Ⅱ

高橋 五月

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅱでは、「サステイナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在どのような課題が生じているのか、事例と人類学的アプローチをもとに講義し、議論する。

【到達目標】

本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライスメイトと議論しながら、学生が自分なりに「サステイナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

映像資料を随時活用しながら講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明する
第2回	サステイナビリティとは？（1）	サステイナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義する
第3回	サステイナビリティとは？（2）	持続可能な社会とは何か？これまで実行された方策とその課題について講義する
第4回	コモンズ（1）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論する
第5回	コモンズ（2）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論する
第6回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論する
第7回	中間試験	筆記の中間試験を行う
第8回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇や海洋汚染などの問題と持続可能な水産業について講義・議論する
第9回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論する
第10回	里山・里海	里山・里海が目指すサステイナビリティの意味やあり方について講義・議論する
第11回	災害	災害とサステイナビリティの関係について講義・議論する
第12回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステイナビリティの意味やあり方について講義・議論する
第13回	アンソロポシオン	アンソロポシオンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について探求する最新の人類学的研究について講義・議論する
第14回	まとめ：地球の見方	地球の見方をテーマに、環境人類学Ⅱの総括をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。
（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

【テキスト（教科書）】

資料を配付する。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30％）、中間・期末筆記試験（70％）。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメを配ってほしいというリクエストがあったのですが、ノートテイキングも学びのうちという教育理念を持っているのでレジュメの配布は今後もしません。板書の時間は十分に取りますので、自分なりの授業ノートを作成し、学びに繋げてください。

大教室の授業なのですが、リアクションペーパーなどを活用して学生同士の意見交換ができるように工夫しています。自分の考えをまとめたり、他学生の意見を知ることを楽しんでくれた学生が多かったのは嬉しいです。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

CUA300HA

環境人類学Ⅲ

高橋 五月

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅲは、定員制（上限40名）です。定員を超える希望があった場合は、第一回授業内で志望理由書を書いて提出していただき、選考します。選考結果は同日中に掲示します。授業では、講義に加えて、学生によるプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションを取り入れたアクティブラーニングを実践します。授業のイメージとしては、講義とゼミが合わさったような感じです。質問等がある方は、第1回ガイダンスに出席する、または教員にメールで連絡を下さい。積極的な応募をお待ちしています！

2018年度のテーマは災害人類学です。災害の文化・社会的側面について日本国内外の文化人類学的研究をもとに学びます。災害とは何か。リスクとは何か。復興とは何か。私たちは、災害にまつわるキーワードについて、知っているようで、その意味について深く考えずに使用していることが多々あります。本授業では、震災にまつわるキーワードの意味を多角的に探求することで、その先に見えてくる文化や社会システムについて考察することを目指します。従って、本授業の目的は、キーワードを「正しく定義すること」ではありません。学生が自ら疑問を探求し、考察する力を身につけること、またその力を磨くことが最終的な目的です。

【到達目標】

- 1）災害人類学の議論や視点について基礎的な知識を取得する
- 2）災害にまつわるキーワードについて、批判的に考察する力を取得する
- 3）国内外の災害事例についての基本的な知識を取得する

【授業の進め方と方法】

アクティブラーニングを実践するために定員制をとります。

授業は、講義に加え、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションを行います。プレゼンテーションは、5つのテーマから1つを学生各自が選び、新聞記事などを調査し、自分なりの考えを発表します。テーマは例えば、「日本で最古の災害とは何か」などがあります。「正しい答え」はないので、学生各自が調査をもとに得た知識をクラスメイトと共有し、議論することが目的です。グループワークのテーマは、災害ミュージアムです。国内外の災害事例ごとにグループ分けをし、オリジナルの災害ミュージアム構想をつくり、発表します。ミュージアムづくりを通して、災害を記録すること、記憶すること、伝えることの意味について理解を深めることを目的とします。この授業ではディスカッションの機会を多く設けます。自分の考えを自分の言葉で表現出来るスキル、また人の意見を自分の考えと対比させながら考察を深めるスキルを磨くことが目的です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の目的や進め方について、また定員制と選考についての説明をする
第2回	震災人類学の意義（1）	文化人類学者が災害を研究する意義について講義、討論する
第3回	震災人類学の意義（2）	文化人類学者が災害を研究する意義について、具体的な事例研究をもとに更に理解を深める
第4回	「災害」とは何か（1）	「災害」とは何か。その意味を探索。
第5回	「災害」とは何か（2）	「災害」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探索。
第6回	「災害」とは何か（3）	「災害」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探索。
第7回	「リスク」と「安全」の意味（1）	「リスク」とは何か。「安全」とは何か。その意味を探索。
第8回	「リスク」と「安全」の意味（2）	「リスク」とは何か。「安全」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探索。
第9回	「復興」の意味（1）	「復興」とは何か。その意味を探索。
第10回	「復興」の意味（2）	「復興」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探索。
第11回	「復興」の意味（3）	「復興」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探索。
第12回	災害ミュージアム（1）	グループごとに災害ミュージアムの構想をまとめ、発表する
第13回	災害ミュージアム（2）	グループごとに災害ミュージアムの構想をまとめ、発表する
第14回	期末試験	授業内期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業の前日までに読み、感想文（300字程度）を授業支援システムにアップしましょう。

（復習）期末試験の問題は講義で使用する文献、映画、および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業支援システムにアップする

【成績評価の方法と基準】

文献感想文（20%）、個人プレゼンテーション（20%）、グループワーク（20%）、平常点（20%）、期末試験（20%）

【学生の意見等からの気づき】

2017年度に初めて開講した授業でしたが、議論が中心の授業を通して、学生はお互いに学び合い、視野を広げる機会を楽しんでくれたようで嬉しそうです。2018年度の授業も楽しみにしています。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

PHL300HA

現代思想と人間Ⅱ

竹本 研史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「労働」の思想的系譜
ランスでは、リセ（高校）の最終学年で哲学を学ぶことが必修とされています。大学入学資格試験に当たるバカロレアにおいても、人文系であれ、社会科学系であれ、自然科学系であれ、哲学は受験必須科目であり、生徒たちは4時間かけて、ディセルタションというフランス式小論文の形式で問題に取り組んでいます。

本講義では、人間環境学部、ならびに学部の主軸理念である「サステイナビリティ」の学問内容とも関わりの深いテーマを選び、みなさんと一緒に考えていきます。今年度は、2016年度バカロレア試験の理系の選択問題だった「労働を減らせば、より善く生きることになるのか (Travailler moins, est-ce vivre mieux ?)」をテーマとして設定します。

ただし、あくまで大学の学部専門科目として、それにふさわしいレベルで「労働」についての思想的知識を身につけたうえで、設定したテーマについてみなさんが見解を示すことが目的です。

社会では「働き方」について見直されつつある昨今、改めて「労働」とは何かについて根本的に考えてみましょう。

【到達目標】

人間環境学部の学生として、さまざまな学問領域で「サステイナビリティ」に関する学習を進めていくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

*「労働」についての思想的系譜を把握したうえで、その知識を基にして「労働を減らせば、より善く生きることになるのか」という問題設定に対して自分自身の見解を示すことができるようになること。

*その際に、日本語のかたちであれ、ディセルタションの形式を身につけて、論理的に上記に関する見解を論じることができること。

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑+次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにいたします。

思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	映画作品から考える「労働」	タルデンヌ兄弟『サンドラの週末』、ケン・ローチの作品などを中心に
第2回	近代の思想家が見る「労働」(1)	ジョン・ロックの労働所有権論と十分性条件
第3回	近代の思想家が見る「労働」(2)	ルソーの『人間不平等起源論』と『社会契約論』における「労働」について
第4回	近代の思想家が見る「労働」(3)	アダム・スミスの労働価値説
第6回	近代の思想家が見る「労働」(4)	ヘーゲルにおける「主人と奴隷の弁証法」および、市民社会と労働について
第7回	近代の思想家が見る「労働」(5)	初期社会主義者と「産業社会」
第7回	近代の思想家が見る「労働」(6)	カール・マルクス『ドイツ・イデオロギー』、『共産主義者宣言』、『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』など
第8回	近代の思想家が見る「労働」(7)	カール・マルクス『資本論』
第9回	近代の思想家が見る「労働」(8)	マックス・ヴェーバー、プロテスタンティズムと禁欲的労働
第10回	現代の思想家が見る「労働」(1)	ハンナ・アーレント、ジャン＝ポール・サルトル、ミシェル・フーコーそれぞれの労働論を春学期の復習も兼ねて学び直す
第11回	現代の思想家が見る「労働」(2)	ジル・ドゥルーズの「管理社会」論
第12回	現代の思想家が見る「労働」(3)	アントニオ・ネグリ／マイケル・ハートの「非物質的労働」と「マルチチュード」論
第13回	現代の思想家が見る「労働」(3)	イヴァン・イリイチの「シャドウ・ワーク」論
第14回	まとめ	今学期のテーマに関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

市野川容孝・渋谷望編『労働と思想』、堀之内出版、2015 年。
 ラース・スヴェンセン『働くことの哲学』小須田健訳、紀伊國屋書店、2016 年。
 立正大学文学部哲学科編『哲学 はじめの一步：働く』、春風社、2017 年。
 市野川容孝・宇城輝人編『社会的なもののために』、ナカニシヤ出版、2013 年。
 宇野重規『西洋政治思想史』、有斐閣、2013 年。
 坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』、名古屋大学出版会、2014 年。
 坂本治也編『市民社会論——理論と実証の最前線』、法律文化社、2017 年。
 仲正昌樹編『政治思想の知恵——マキャベリからサンデルまで』、法律文化社、2013 年。
 同編『現代社会思想の海図（チャート）——レーニンからバトラーまで』、法律文化社、2014 年。
 山脇直司『公共哲学とは何か』、ちくま新書、2004 年。
 同『社会思想史を学ぶ』、ちくま新書、2009 年。
 同『公共哲学からの応答——3・11 の衝撃の後で』、筑摩選書、2011 年。
 はか
 ＊各思想家の思想に関する参考文献などは教場で随時紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出するコメントシート（20％）＋学期末試験（80％）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくします。また、記号の使い方、ポイントの大きさなどにも留意いたします。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

2016 年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

BSC200HA

サイエンスカフェⅠ

石井 利典

カテゴリ：基幹 ｜ 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 ｜ 曜日・時限：土 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように、高校の「化学基礎」と「化学」の復習からはじめます。さらに、よりクオリティの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学もできるだけ授業に取り入れてゆきます。

【到達目標】

高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を受講するときに必要とする、基礎化学理論を習得することを目指します。

【授業の進め方と方法】

化学の基本的な理論、必要な数値計算法、知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 章 物質を構成するミクロな世界	原子の構造と性質、化学結合と分子間力
第 2 回	第 2 章 化学変化と量的関係	物質質量、化学反応式
第 3 回	第 3 章 酸と塩基	溶液 pH の計算、酸と塩基の反応、中和滴定
第 4 回	第 4 章 酸化と還元（1）	酸化剤と還元剤の反応、酸化還元滴定
第 5 回	第 4 章 酸化と還元（2）	COD（化学的酸素要求量）値 および DO（溶存酸素量）値の測定原理
第 6 回	第 5 章 有機化学の基礎（1）	有機化合物の命名法、異性体、有機化合物の構造と性質
第 7 回	第 5 章 有機化学の基礎（2）	炭化水素の反応、アルコールの反応、エステル・アミドの構造
第 8 回	第 6 章 身近な有機化合物（1）	脂肪酸の種類、脂肪と脂肪油
第 9 回	第 6 章 身近な有機化合物（2）	単糖類、二糖類、多糖類の構造と性質
第 10 回	第 6 章 身近な有機化合物（3）	アミノ酸、タンパク質の種類と立体構造
第 11 回	第 6 章 身近な有機化合物（4）	合成繊維、合成樹脂、合成ゴム
第 12 回	第 7 章 酵素	酵素、補酵素、補欠分子族のはたらき
第 13 回	第 8 章 核酸	DNA と RNA の構造、遺伝子発現のしくみ
第 14 回	期末テスト	第 1 回講義～第 13 回講義の内容に関する筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の最初の 10 分間程度は、前回授業の確認テストを行います。前回の授業内容を配布したプリント類、ノートで必ず確認してください。欠席者は授業支援システムにログインして、その日に配布したプリント類を各自ダウンロードしてください。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを授業にて配布します。授業で取り扱ったすべてのプリント類は、授業支援システムからダウンロードできます。

【参考書】

高等学校で使用している『化学基礎』と『化学』の教科書（出版社は問わない）を入手することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

毎授業時に実施する確認テスト（10 分間程度）（50％）と期末試験（50％）の合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境科学に関連するテーマとともに、身近な科学に関するテーマも多く取り扱ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにアクセスできる情報機器

【その他の重要事項】

「自然環境科学の基礎（化学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

BAB200HA

サイエンスカフェⅢ

高田 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みについて、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けることを目的とします。

【到達目標】

以下の 3 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①野生生物の生活と生存戦略
- ②生物の進化と適応
- ③生物多様性の意義

【授業の進め方と方法】

「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第 2 回	鳥類の生態 1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第 3 回	鳥類の生態 2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第 4 回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第 5 回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第 6 回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第 7 回	生物の進化 1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第 8 回	生物の進化 2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第 9 回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第 10 回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第 11 回	海洋と沿岸の生物 1	クジラとイルカ、サメ
第 12 回	海洋と沿岸の生物 2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁
第 13 回	生物を取り巻く新技術	バイオリング、衛星活用、遺伝子技術
第 14 回	生物多様性	生物多様性とは、レジリエンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

PHY200HA

サイエンスカフェⅣ

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：物質とエネルギーの理解から環境問題へ

本科目は文系の皆さんに物理学という分野の内容について慣れ親しんでもらうための科目である。日常のありふれた現象を眺めることにより、物理学は、(1) 我々の生活に密接に関連していること、そして (2) 環境問題に直結しその本質的なところを理解するためには必須の内容であること、を「直感的に」学んでいく。物理嫌いの人や高校で物理を履修してこなかった人の受講を大歓迎する。もちろん物理を学んできた人も同様である。高校で習うような（難しい？）式を扱うことはほとんどしない。環境問題を考えるには「地球」というシステムとそこで行われている人間活動「人為」の特徴を「自然法則」に照らして理解する必要がある。この授業の目的はその 3 つの内容を理解するための基礎的事項を学習することにある。

【到達目標】

物質とエネルギーに関する内容について、物理学的な知識が環境問題を考察するための基礎であることが理解できるようになることを目標とする。なお授業内容に関係する分野は、運動と力・エネルギー、物質と熱現象、気体、波動、電流と回路、電界と磁界、原子と原子核などであり、高校物理の内容をほぼ網羅するものとなっている。

【授業の進め方と方法】

視聴覚教材や実験のデモンストレーションを見ながら学習していく。文系の学生、物理を苦手としている学生にわかりやすい授業となるように留意したいと考えている。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。なぜ物理は環境問題を考察するための基礎となるのか？
第 2 回	スピードガンで測ろう 1（落下するボールの運動と力学、シミュレーション付）	運動の法則と何か？ エネルギーとは何か？ 位置（高さ）と運動（速度）の間のエネルギー変換について。
第 3 回	スピードガンで測ろう 2（振り子運動・放物運動と力学、シミュレーション付）	エネルギーは保存される。ジュール（J）、ワット（W）などの基本単位の超入門。人間はエネルギーに約 100W の電球と同じ、など。
第 4 回	熱とエネルギーを理解しよう 1（エネルギーの種類と変換、地球に降り注ぐ太陽エネルギーの大きさを測る）	異なった形態のエネルギーと変換について。温度とは？ 比熱とは？ cal と J について。太陽定数の大きさと地球・宇宙の間のエネルギー収支を知ろう。
第 5 回	熱とエネルギーを理解しよう 2（気体の性質、エンジンなどの熱機関の原理を理解する）	気体の圧力、体積、温度などの関係（ボイル・シャルルの法則）を理解する。気象現象の考察。熱機関（熱から仕事への変換）と熱効率について。
第 6 回	熱とエネルギーを理解しよう 3（熱の伝わり方を見る、金属棒を伝わる熱＋空気の流れにより伝わる熱＋電気ストーブによる加熱）	伝熱の 3 形態「熱伝導」「対流」「熱放射」を理解する。地球システムと熱との関係は？ 人間活動と熱との関係は？
第 7 回	物質の三態と状態変化を調べよう 1（氷の融解・水の蒸発と潜熱、地球上に存在する水の役割について）	物質の三態（液体、固体、気体）の存在を理解する。状態変化に伴って出入りする潜熱の測定。地球上における水の大循環の役割は？ 生命体維持における水の役割は？
第 8 回	物質の三態と状態変化を調べよう 2（水の密度と膨張率＋氷の密度と浮力、氷の融解現象について）	水の温度と体積との関係を理解する。水に浮かんだ氷の融解に伴う水位の変化を調べる。海水温の上昇は海面上昇に関係しているのか？ 氷山の融解は海面上昇の原因なのか？
第 9 回	波の性質を知ろう（横波と縦波を観察する、自然の中に現れる様々な波を調べる）	横波と縦波、周期と振動数（周波数）、波長と振幅、波の重ね合わせなどの基礎事項を理解する。音や光の性質などの考察。地震波や海波などの理解。
第 10 回	電気回路の性質を調べてみよう（電流、電圧、抵抗の超入門、抵抗線を通る電流による熱発生（ジュール熱）について）	乾電池、導線、抵抗などによる回路作りとオームの法則、キルヒホッフの法則などの理解。抵抗率とは？ 電力系統網における送電ロスに熱に転化する。

第 11 回	磁石を使って電気を作ろう & 電池を使って磁石をつろう (電界と磁界について、モーターと発電機の原理を知る)	モーターのしくみを理解する。電磁誘導と発電の原理を理解する。電磁波とは何か？ 可視光線、赤外線、紫外線、電波、X 線なども電磁波の仲間。
第 12 回	原子・分子を理解しよう (原子の構造とエネルギー、核分裂と原子力発電のしくみについての超入門)	原子核と電子、中性子と陽子、放射線と放射能、Bq (ベクレル) と Sv (シーベルト) などについての解説。原子力発電とウラン、セシウム、プルトニウムなどについて。
第 13 回	物質・エネルギーの保存則と拡散則を知ろう 1 (水と湯の間の熱移動 + 水中に落とされたインク拡散などの現象からエントロピーの概念へ)	熱は高温側から低温側へ、インクは部分から全体へ拡散する。物質とエネルギーの「量の保存」と「質の劣化」の直感的理解。
第 14 回	物質とエネルギーの保存則と拡散則を知ろう 2 (LED 電球と白熱電球の熱発生について)	なぜ LED 電球は白熱電球に比べて省エネなのか？ エネルギー変換にはロス (損失) が伴う。エネルギーの最後の行き場は「熱」。人間活動のエントロピー的解釈超入門。総括として、物理学と環境問題および持続可能という概念との関係性について考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】
毎回、授業時に作成したノートを復習してください。

【テキスト (教科書)】
テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】
開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】
授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
様々な現象についての教材や実験のデモンストレーションをプロジェクターに映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】
くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお薦めします。「自然環境科学の基礎 (物理学)」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

SHS200HA

地球科学史 I

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】
近代の科学的地球観 (地質学) の登場以前の略画的地球観の歴史を概観する。

【到達目標】
略画的地球観を非科学的として否定的に取り扱うのではなくて、今日の我々の日常的な地球に対する見方・考え方に大きな影響を与えているものとして理解することをめざす。

【授業の進め方と方法】
神話的世界の自然観を概観し、古代ギリシアの自然哲学的な地球観・自然観から、キリスト教的な世界観を経て、中世・ルネサンス期の西欧世界の地球観を明らかにし、17 世紀の科学革命期から 18 世紀の地球像を評述することによって、略画的地球観の重要性を明らかにする。

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第 2 回	古代世界の自然観	天地創造神話
第 3 回	古代ギリシアの地球観 (1)	ミレトス学派からプラトン
第 4 回	古代ギリシアの地球観 (2)	アリストテレスとリュケイオンの弟子たち
第 5 回	ヨーロッパ古代・中世前半の地球観	キリスト教世界の教父たち
第 6 回	中世・ルネサンス期の地球観	大航海時代と世界地図の製作
第 7 回	科学革命期の地球観 (1)	デカルトの『哲学原理』(1644) の地球論
第 8 回	科学革命期の地球観 (2)	ステノの『プロドロムス』(1669) の科学的地球観
第 9 回	科学革命期の地球観 (3)	ライプニッツの『プロトガイア』(1691) 啓蒙主義の時代の地球観
第 10 回	18 世紀の地球観 (1)	ビュフォン：デカルト的地球論から近代地質学への移行期
第 11 回	18 世紀の地球観 (2)	ヴェルナー：近代地質学誕生前夜の火成説
第 12 回	18 世紀の地球観 (3)	ハットン：近代地質学誕生前夜の火成説
第 13 回	地質学と聖書	火成説対水成説：玄武岩論争
第 14 回	授業の総括	全体の概説史的説明

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】
授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト (教科書)】
使用しない。

【参考書】
授業の進行に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (50 %) と平常点 (50 %) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【その他の重要事項】
本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】
人間文化コース (旧・環境文化創造コース)、環境サイエンスコース

SHS200HA

地球科学史Ⅱ

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地質学の誕生から地球科学・地球惑星科学へ至る道を検証して、地球科学の現状を明らかにする。

【到達目標】

地震学を含めて地球科学の可能性と限界を歴史的観点から理解することをめざす。

【授業の進め方と方法】

18世紀末からプレートテクトニクス誕生までの200年間、それぞれの時代の人々が地球表層の岩石圈というもっとも基本的な自然環境をどのように理解しようとしてきたのかを、人が本当に地球をかけがえのない星として理解するためのに必要な科学のあるべき姿とは何かを念頭に置きながら説明していく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	地層と化石	スミスとキュヴィエ：岩相層序学から生（化石）層序学へ
第3回	地質学の原理	ライエルとバックランド：洪水主義対河川主義：激変主義と斉一主義
第4回	地層と時代	Dinosaur (恐竜) の発見と時間の発見
第5回	地質学と進化論	地質学者ダーウィンの『種の起源』(1859)
第6回	地球の年齢	ダーウィンとケルビン卿：地球年代論争：地質学対物理学
第7回	19世紀末の地質学	ジュース：地球冷縮説：先駆的なグローバル・テクトニクスの登場
第8回	20世紀前半の地質学	シュティレ：地角斜造山論：グローバル・テクトニクスの完成
第9回	地球科学の誕生	地質学と物理学と化学：アイソスタシー説と地震学
第10回	大陸移動説（1）	生物地理学と地質学
第11回	大陸移動説（2）	ヴェーゲナーの大陸移動説
第12回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命（1）	大陸移動説の復活：海洋底拡大説
第13回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命（2）	プレート・テクトニクスの登場
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）と平常点（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

BOM200HA

環境健康論Ⅰ

朝比奈 茂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代西洋医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。我が国は世界有数の長寿国である一方で、健康寿命を延ばすことがこれからの課題とされている。今後高齢化社会が進むにつれて、課題とされる健康寿命の延長に何か必要であるか？健康で過ごすにはどうすればよいのか？適度な運動、自然素材の食事、十分な睡眠など、自らが考え実践できることは沢山ある。

本講義では、普段何気なく過ごしているその内容に焦点をあて、いかに生活習慣が大事であるかを、がんに関する多目的コホート研究などの資料をもとに考察していく。

【到達目標】

1. 「持続可能な環境重視の社会」を構築するために、環境と健康の対応関係を理解できる。
2. ホメオスタシスと病気の関連性について述べることができる。
3. 日本人の死因について述べるができる。
4. 人間のがんに関わる要因について説明する。
5. 創傷の治癒過程について説明できる。
6. 免疫の働きと役割について説明できる。
7. 腸内細菌と免疫系の関係を述べるができる。
8. 食べることの重要性を述べるができる。
9. 治癒を促進する食品が説明できる。
10. 治癒と排出の関係を説明できる。
11. 治癒を妨げるものを列挙できる。
12. こころが治癒に果たす役割などについて説明できる。
13. 自らの健康感を述べるができる。

【授業の進め方と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVDを用いて視覚的に効率よい知識の伝達を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	ホメオスタシスと病気ー病気になる人となりにくい人ー	人間に備わっているホメオスタシスの意義について説明し、病気との関連性を検討する。
第3回	がんの基礎知識Ⅰ	人のがんに関わる要因について説明する。
第4回	がんの基礎知識Ⅱ	がんに関する多目的コホート研究から飲酒、喫煙に関わる内容を解説する。人のがんに関わる要因について説明する。
第5回	免疫系と自律神経系：免疫力アップは腸内細菌の元気から	がんに関する多目的コホート研究から食生活、運動習慣に関わる内容を解説する。
第6回	治癒の本質：治癒の3局面（反応・再生・適応）	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを説明する。また免疫系と自律神経系との関わりを腸内細菌の働きと合わせて考察する。
第7回	創傷の治癒：線維の増殖、瘢痕の成熟、組織修復による合併症	創傷の治癒を例にあげ、人間に備わっている治癒能力（自然治癒力）について解説し、治癒のプロセスである反応・再生・適応について説明する。
第8回	食べることの重要性：なぜ人は食べ続けるのだろうか？	組織損傷の治癒過程について、炎症が果たす役割および組織修復にかかわる一連の流れ、修復時に起こる合併症などを解説する。
第9回	治癒を促進する食生活：免疫力をあげる食品類	人は食物を材料としてエネルギーを作り出し、それによって生命活動を維持している。人間が行う消化と吸収について解説する。
第10回	摂取と排出：排出不足が病気を招く	食生活が健康にとって如何に重要であるかを述べ、総カロリー、脂肪、たんぱく質、野菜と果物、食物繊維と治癒との関連性をを解説する。

第 11 回	治癒力を妨げるもの：人間が作った化学物質	自然治癒力を妨げるものに、エネルギー不足、循環不足、有害物質、老化などがある。これらの要因と免疫力の関連性について解説する。
第 12 回	有害物質から身を守る	水質汚染、空気汚染、有害食品、その他の有害物質は、からだ備わっている治癒力を低下させ、病気の発生因子となる。これらの要因をさけ上手に生活をおくる方法を検討する。
第 13 回	こころが治癒に果たす役割：治癒とこころの相関関係（笑いが地球を救う）	精神的および感情的な出来事と治癒反応との間に相関関係があることを示し、これまでに起こった事例をあげ、こころが治癒系に与える影響について解説する。
第 14 回	成熟した成人になるために：治療は外から、治癒は内から	治療（cure, treatment）と治癒（healing）の相違点を示し、もし病気になるっても治療者に依存するのではなく、内から治癒が生じるようなプログラムに取り組み、行動をとるよう解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する

【参考書】

健康・体力づくりハンドブック 名取 礼二 監修 大修館書店
人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社
癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫
補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書
標準東洋医学 仙頭正四郎 金原出版

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

BOM200HA

環境健康論Ⅱ

朝比奈 茂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

補完代替医療とは、一言で説明すると「現代西洋医学領域外の医学・医療体系の総称」である。近年、NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎として、生命の特徴である多様性、個別性、一回性を重視する補完代替医療分野に多大の研究費を費やしはじめた。またアメリカ、ヨーロッパ諸国を中心として、世界各国の伝統医療の見直しながされ、多くの人が日常的にとりいれ、その効果を実感している。

本講義では、世界におよそ 600 種あると言われている補完代替医療のうち、代表的ないくつかの伝統医療を取り上げ、その特徴や功罪などを説明する。また、必要に応じて現代西洋医学との融合、または使い分けできる思考、姿勢を身につけることで、幅広い視点から環境と健康問題に取り組む可能性を追究する。

【到達目標】

1. 補完代替医療の健康観について説明できる。
2. 世界の伝統医療についてその特徴を説明できる。
3. 代表的な補完代替医療を列挙でき、その内容を概説できる。
4. 代表的な補完代替医療の特徴、長所および短所を説明できる。
5. 現代西洋医学と補完代替医療を比較し、それぞれの特徴を説明できる。
6. 東洋医学の根幹である「気」の概念を理解できる。
7. 陰陽論、五行学説について概説できる。
8. 鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明できる。
9. ホメオパシーの特徴、長所および短所を説明できる。
10. エネルギー療法について実践例を挙げて説明できる。

【授業の進め方と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVD を用いて視覚的に効率よい知識の伝達を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第 2 回	補完代替医療の健康観Ⅰ	NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）の研究、取組、世界の現状などを紹介する。
第 3 回	補完代替医療の健康観Ⅱ	ドイツのがん治療の現状を DVD を視聴しながら解説する。
第 4 回	補完代替医療システムⅠ：中国伝統医学Ⅰ	中国伝統医療である東洋医学について、発祥と発展、健康観や哲学などを解説する。また現代西洋医学との相違を提示し、検討する。
第 5 回	補完代替医療システムⅠ：中国伝統医学Ⅱ	東洋医学の基本概念である陰陽五行論、経穴と経絡、気血水（津液）について説明する。
第 6 回	補完代替医療システムⅠ：中国伝統医学Ⅲ	東洋医学分野の内系医学に属する鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明し、実際に鍼・灸治療を行いその効果を体験する。
第 7 回	補完代替医療システムⅠ：中国伝統医学Ⅳ	東洋医学分野の寒傷系医学に属する湯液療法の特徴、効果、用い方について説明する。具体例として 7 種類の生薬を使用する葛根湯を実際に調合、煎じてそれを服用する実習を行う。
第 8 回	補完代替医療システムⅠ：ホメオパシー	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第 9 回	補完代替医療システムⅠ：インド伝統医学（アーユルヴェーダ、ヨガ）	インド地域を中心として発達した 5000 年の歴史があるアーユルヴェーダ、ヨガについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第 10 回	精神・身体相互介入による医療Ⅰ：瞑想法、呼吸法	精神および身体相互介入による医療に位置付けられている瞑想について、科学的な視点から捉えるとともに、日本の「禪」との関連性を解説する。
第 11 回	生物学的療法Ⅰ：マクロビオティック、ハーブなど	世界の多くの著名人、有名人などが行っていると言われている、「マクロビオティック」について、健康観や哲学、長所や短所などを概説し、実際にその調理方法を解説する。
第 12 回	手技および身体を介する療法Ⅰ：按摩・指圧・マッサージ	按摩・指圧・マッサージについて、その発祥と発展、施術の法則と方法、特徴的な手技、長所と短所などを説明する。

第 13 回	手技および身体を介する療法 ：カイロプラクティック、オステオパシー、リフレクソロジー	カイロプラクティック、オステオパシー、リフレクソロジーについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。
第 14 回	エネルギー療法 ：ヒーリングタッチ	ヒーリングタッチについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する。

【参考書】

補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書
ホメオパシー医学への招待 松本丈二著 フレグランスジャーナル社
標準東洋医学 仙頭正四郎 金原出版
近代中国の伝統医学 ラルフ・C・クロイツァー著 創元社
傷寒論を読もう 高山宏世著 東洋学術出版社
アーユルヴェーダとヨガ 上馬場和夫著 金芳堂
人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

INE200HA

エネルギー論 I

北川 徹哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

【到達目標】

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. 現代のエネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	エネルギーとは	エネルギーの定義と歴史、世界のエネルギー情勢
第 2 回	エネルギーの資源、流通、消費	1 次エネルギーと 2 次エネルギー、各種資源の輸入と流通、各種エネルギーの消費動向
第 3 回	エネルギーを表す量、単位	熱量、仕事、パワー、電力量などの意味と表現
第 4 回	熱とエネルギー	エネルギー保存とジュールの実験
第 5 回	熱と力	サイクルとは何か、熱力学第 1 ・第 2 ・第 3 法則
第 6 回	エネルギー使用と仕事	カルノーサイクルの構成、サイクルがする仕事と効率
第 7 回	エントロピー	エントロピーとは何か
第 8 回	熱エネルギーの移動	エントロピーと熱との関係、エントロピー増大の法則
第 9 回	熱から電力への変換	熱と水の関係、発電で用いられるサイクル
第 10 回	電力の需要と供給	送電・配電、電力の需給バランス
第 11 回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第 12 回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第 13 回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第 14 回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の内容を事前に学習しておく和良好的。第 1 ～ 3 回：エネルギー・資源の用語と単位、第 4 回：ジュールの実績、第 5 ～ 8 回：前回の講義内容の見直し、第 9 回：水の性質、第 1 0 ～ 1 3 回：我が国の電力会社と発電所、第 1 4 回：原子力の時事問題

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50 %）：各種エネルギーの特性に関する課題により、主として到達目標 2 の達成度を評価する。
試験（50 %）：各種資源とエネルギー利用形態、エネルギーと社会との関係などの知識を問うものであり、到達目標 1 ～ 3 全般の習得度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

エネルギー分野は広範囲な内容を含み、楽しく学べます。科学的な内容については焦点を絞って取り上げます。わからないところは質問しましょう。本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

ENV200HA

環境モデル論 I

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境基礎論として「地球」と「人為」を考える
モデルとは自然界や人間社会などで起きている現象、そこに働いている法則、様々な対象間の相互関係等を分析しそのエッセンスを人間にとって分かりやすく表現したものである。環境問題を考察するには、地球システムと人間活動の特徴を理解しそれらの関連性を分析することが必要である。地球上に生起する環境問題はどのような自然法則に支配されて（制約を受けて）いる結果なのか？ 本科目では物質とエネルギーという観点から「地球システム」と「人為」の特徴を把握し、それらを「定常開放システム」としてモデル化する。ライフサイクルアセスメントやエコロジカルフットプリントなどの具体的な指標（手法）についても触れることにより人間活動の特徴を調べていく。本科目の内容を通して眺めてみると、物質とエネルギーは量的に保存されるが質的に劣化する（空間的に拡散する）という特徴を意識することが環境問題を考察するための「鍵」となっていることが理解されるであろう。本科目は「物質循環」や「持続可能」という問題を科学的に捉えるための基礎という位置づけにもなっている。

【到達目標】

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。地球システムとその上で行われている人間活動の特徴を科学的に考察するための背景を知ることが目標である。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大分理解できるようになるであろう。

【授業の進め方と方法】

理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえようような授業としたいと考えている。画像、映像などのビジュアルな教材等をできるだけ使用しながら進めていく予定である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明について。関連する他の科目（サイエンスカフェ IV、統計とデータ分析、環境モデル論 II など）の概要と本科目との関連性についての解説。
第 2 回	玩具「水飲み鳥」はどのようなモデルなのか？	資源として「水」を飲み、排出物として「水蒸気」を大気中に拡散させる水飲み鳥の運動のメカニズムについて。水という物質の「量の保存」と「質の劣化」についてのイメージをつかむ。そこには地球システムならびに人間活動の特徴が凝縮している。孤立系と開放系そして定常とは？
第 3 回	地球というシステムを眺める（宇宙から微生物までを考える）	太陽と地球そしてエネルギーを概観する。太陽定数と地球のエネルギー収支。光合成のメカニズムと炭水化物（糖）。生態系と炭素・窒素などの物質循環。水の大循環と地球の放熱。生物（生産者、消費者、分解者）は物質循環に対してどのような役割を担っているのか？
第 4 回	物質と人為を考える（人間活動による物質とその移動について）	工業製品等の生産とその消費活動のプロセスを例にして、資源の採取から廃棄処分に至る過程を考察する。物質はどのように変化し最後はどこに行くのか？ 廃棄物を焼却処理すると減容化するが、はたして物質は消えて無くなったのか？
第 5 回	エネルギーと人為を考える（人間活動によるエネルギーの変化とその移動について）	エネルギー資源の採取から変換、利用に至るプロセスを考察する。エネルギーはどのように変換され、最後はどこに行くのか？ エネルギーは消費されると消えて無くなるものなのか？
第 6 回	自然の法則と環境 1	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。これらの法則は「地球システム」、「人為」とどのように関係しているのか？ エントロピーとは何か？ エクセルギーとは何か？ 環境系のモデルとしての定常開放系について。
第 7 回	自然の法則と環境 2	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。エントロピーが増大するとはどのようなことか？ ゴミ捨て場はエントロピーのたまり場。エントロピー増大の結果としての環境問題について。

第 8 回	ライフサイクルアセスメント（LCA）に見る人為の熱力学 1	人間活動の特徴をLCAの立場から考察する。ライフサイクルとは何か？ インベントリ分析、システム境界などの解説。物質・エネルギーの保存則と拡散則はLCAではどのように表現されているか？
第 9 回	ライフサイクルアセスメント（LCA）に見る人為の熱力学 2	製品やサービスに対する環境影響評価の具体例を用いて考察する。資源採掘、加工・変換、運搬、消費（使用）、廃棄、回収、処分などのプロセスと物質・エネルギーの流れについて。
第 10 回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る 1	人間活動による環境負荷の大きさをエコロジカルフットプリント指標で測る。資源消費・廃棄物等排出の量と土地面積への変換について。野菜の室内栽培（野菜工場）の環境負荷はどれくらいなのか？ 露地栽培とはどちらが負荷は少ないのか？
第 11 回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る 2	人類のエコロジカルフットプリントの増大と地球の扶養力について。地球は今そこで行われている人間活動を支え扶養する力（容量）を持っているのか？
第 12 回	持続可能性への考察 1	資源量と廃棄物を受け取る空間の有限性（地球の有限性）と成長の限界について考察する。自然界における物質循環と人工的な物質循環の考察。クロウズド・ループ・インダストリは存在するのか？ ゼロエミッションは可能なのか？ そもそも永久機関は存在するのか？ エントロピー増大則に伴う人為の「壁」について。
第 13 回	持続可能性への考察 2	玩具「水飲み鳥」再登場。広い空間では動き続ける水飲み鳥だが、狭い空間に置くと動きが止まる。狭い空間で動きを持続させる方法はあるのか？ エントロピーの増大と廃棄、そして循環と持続の考察へ。環境系のエッセンスを分析しモデル化する。
第 14 回	総括	講義内容をまとめ、参加者による総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論 II」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお薦めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェ IV」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することをお薦めします。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境基礎論として「循環」と「持続」を考える
本科目では持続可能とは何か？という問題を自然科学的な観点からより具体的に考えることをテーマとする。自然界にはおいては物質・エネルギーは保存されているが、様々な現象はこの保存則だけによって支配されているわけではない。物事が進むにはその方向（時間の矢）があり、それらは拡散する（言い換えるとエントロピーは増大する）という特徴を持っている。系を持続可能とするためにはこの増大したエントロピーを廃棄し続ける必要がある。持続という言葉はシステムの時間経過に対する不変性（安定性）を意味するものであり、その問題を考察するためには対象系の状態遷移の様子（時間発展、ダイナミックス）を調べるのがひとつのアプローチであろう。本科目では、自然界において観察されているいくつかの現象や具体例を眺めてみることにより定常開放システムが持続していくための条件等を探ることとする。そのため比較的容易に理解できるシステムダイナミックス（SD）手法を習得し様々な系のダイナミックスをシミュレーション体験する。フィードバック機構とその役割、時間遅れの影響などについて理解を深める。さらには持続可能というテーマに対しエントロピー増大則などを含め熱力学的考察をおこなう。

【到達目標】

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。自然界で観察されている幾つかの現象を再現しそれを分析する力を身につけることを目標としている。またエントロピーの概念を習得し、物質循環などの問題に結び付けて考察ができるようになることも目標のひとつである。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大分理解できるようになるであろう。

【授業の進め方と方法】

理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえるような授業としたい。情報教室を使用し、特に EXCEL を利用することが多くなる。授業では、ほぼ毎回 EXCEL についての演習を行う時間を設ける予定である。EXCEL をより高度利用したいと考えている方にとっても有意義な内容となるであろう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と受講者の決定について
第 2 回	情報教室の利用のしかた	情報実習室環境の説明と各種ソフトウェア＋ネットワークの利用のしかたについて
第 3 回	EXCEL ラーニング	表計算機能、グラフ機能、データベース機能の使用法を習得する。
第 4 回	成長の限界 1	ローマクラブ「成長の限界」(1972) と世界モデルの紹介。人口、食糧、工業生産、資源消費量などの成長とその限界について。幾何級数成長（指数関数的成長）のメカニズムを銀行預金、利子返済などの簡単な例で体感する。
第 5 回	成長の限界 2	細菌増殖モデルとそのシミュレーションについて。限られたスペースで増殖する細菌の増殖曲線（S 字型曲線、ロジスティック曲線）にこめられた成長と限界のメカニズムの分析。細菌数増加と残されたスペース（栄養）の減少との関係について。
第 6 回	成長の限界 3	喰う者と喰われる者（例えばウサギとヤマネコ）に関する個体数変動のダイナミックスについて。ロトカ・ヴォルテラによる捕食と被食（2 体）の競合関係と正・負フィードバックの効果の分析。自然界が持っている持続性のメカニズムを解析する。
第 7 回	成長の限界 4	喰う者喰われる者の拡張としての多体間の個体数変動のダイナミックスについて。3 体、4 体間の競合と持続性を解析する。
第 8 回	システムダイナミックス（SD）入門 1	様々な問題の構造とその分析、原因と結果の因果関係の分析、シナリオの描画、モデルの検証などについて。SD で使用される記号とフローの描き方。レベル（ストック、状態）とレイト（流量）、フロー（流れ）、情報、コンバータ、ソース、システム境界等の概念と計算手法の習得について。

第 9 回 システムダイナミックス（SD）入門 2

第 10 回 複雑系の世界 1

第 11 回 複雑系の世界 2

第 12 回 循環と持続を考える

第 13 回 エントロピーの概念について

第 14 回 総括

具体例をもとにして SD 計算を EXCEL 上で体験する。正と負のフィードバック（因果関係）ループの理解。時間遅れの構造とそれがシステム与える影響（効果）の理解。それにより「持続する」を考察する。
複雑系とカオス理論について。決定論と確率論、初期値敏感性（バタフライ効果）と予測（不）可能性、ロジック写像とリターンマップなどの理解。決定論カオス（非線形力学）と環境問題との関係性を考察する。
複雑系とフラクタルについて。自己相似性、フラクタル次元などの理解とグラフィックスによる描画。自然界においてフラクタル構造はなぜ出現するか？などを考察する。株価の変動、地震のエネルギーなどもフラクタル分布。本科目で見てきたダイナミックスの特徴を熱力学的側面から浮き彫りにする。フィードバックと時間遅れ、多体間の競争・競合、非線形力学等のメカニズムとエントロピー論との関連性について。
情報理論の紹介。情報量とエントロピーの概念、情報の役割・価値と確率について。エントロピーが最大になるとはどのようなことか？エントロピーの直観的理解と持続するということとの関連について。
ローマクラブ「成長の限界」(1972)、「限界を超えて」(1992)、「成長の限界 人類の選択」(2004) をどのように読むか？ナチュラル・ステップ「ナチュラル・チャレンジ」(1998) の言う持続可能な社会のための条件をどのように解釈するか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

受講時の積極性 50%、最終授業時に出席するレポートの充実度 50%。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報教室を利用します。受講にあたっては皆さんのパソコン経験の有無は問いません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論Ⅰ」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェⅣ」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することをお勧めします。本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

ENV300HA

環境科学Ⅰ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染（ばいじん、硫酸酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
- ・土壌汚染（原因、対策技術）
- ・廃棄物（法律上の定義と現状）
- ・リサイクル（意義と現状）
- ・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染・その 1（第 1 章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第 3 回	大気汚染・その 2（第 1 章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道（第 2 章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽（第 2 章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁（第 3 章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染（第 3 章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭（第 4 章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音（第 4 章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第 10 回	廃棄物・その 1（第 5 章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第 11 回	廃棄物・その 2（第 5 章）	産業廃棄物
第 12 回	リサイクル（第 5 章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第 13 回	有害物質とリスク（第 6 章）	有害の意味、リスクの意味と大小
第 14 回	基準の決め方（第 6 章）	環境基準と排出基準

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？ 人間環境論集，第 16 巻，第 1 号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します（100 %）。受講生がおおむね 100 名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。講義中に質問事項などを記述し提出してもらいますが、評価とは関係しません。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

ENV300HA

環境科学Ⅱ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・中国の資源と環境
- ・環境国際協力

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第 2 回	オゾン層・その 1（第 7 章）	紫外線、フロンガス
第 3 回	オゾン層・その 2（第 7 章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第 4 回	気候変動・その 1（第 8 章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第 5 回	気候変動・その 2（第 8 章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第 6 回	気候変動・その 3（第 8 章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第 7 回	気候変動・その 4（第 8 章）	緩和策
第 8 回	気候変動・その 5（第 8 章）	適応策
第 9 回	越境大気汚染（第 9 章）	酸性雨の化学、影響、光化学オキシダント
第 10 回	中国の環境と資源・その 1（第 11 章）	人口、食料と水資源
第 11 回	中国の環境と資源・その 2（第 11 章）	エネルギー、公害、政策
第 12 回	環境の評価（第 12 章）	環境アセスメント
第 13 回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ボリシー
第 14 回	環境国際協力	事例研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します（100 %）。受講生がおおむね 100 名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。講義中に質問事項などを記述し提出してもらいますが、評価には関係しません。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

環境科学Ⅲ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土 1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・ベースメタルとレアアース

【授業の進め方と方法】

パワーポイントとレジュメを用いて講義を行います。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第 2 回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第 3 回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第 4 回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第 5 回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第 6 回	エネルギー（3）	石炭、水力
第 7 回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第 8 回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第 9 回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第 10 回	リンと窒素	循環、機能、存在
第 11 回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第 12 回	遺伝資源	食料、医薬品
第 13 回	金属（1）	銅、鉄、アルミニウム、鉛
第 14 回	金属（2）	レアアース、レアメタル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するレジュメを使って復習してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第 15 巻第 2 号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します（100%）。講義時間中に質問事項などを記述・提出してもらうことがありますが、評価には関係しません。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

自然環境論Ⅳ

中井 達郎

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は、自然環境に取り巻かれ、それを基盤にして生存し、生活しています。しかし、近年さまざまな原因により自然環境が劣化し、人間社会への悪影響が生じています。この授業では、そのような自然環境の劣化の現状を知り、その原因を考えます。さらには自然環境保全の必要性とそのための方策を考えます。そして自然環境保全のためには、生態学、地生態学などの自然科学のみならず人文・社会科学的も含むさまざまなアプローチから、また身の回りの身近な地域レベルから地球規模までの幅広い視点から理解しようとするこの重要性を学び、人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の 4 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①環境保全のための基本概念である生態系
- ②生物多様性保全とそのための方策
- ③地域レベルから地球規模レベルまでを関連づけて総合的とらえることの重要性
- ④持続可能な自然利用の重要性とそのための方策

【授業の進め方と方法】

「生態系」、「社会変化と自然環境」、「生物多様性保全」、「地域での自然環境のとりえ方」、「持続可能な自然利用とそれを基本とした社会」などについて、国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより学びます。自然科学的視点と人文・社会科学的視点を含む総合的かつ論理的な理解とそれに基づいて、自然とのつきあい方を考える能力を高めていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「環境」とは？ 自然環境保全とは？	「環境」とは何かを整理、認識した上で、現代社会で大きな課題となっている環境問題、自然環境保全の内容とその根底に共通する「持続可能性」についての議論を行う。
第 2 回	生態系とは（1）循環	自然環境を理解し、また地球環境問題や公害問題も含む環境保全全般において重要な基本概念である「生態系」について解説する。
第 3 回	生態系とは（2）関係性	前回に引き続き、「生態系」について解説する。
第 4 回	生物多様性 (biodiversity) とは？	自然環境保全において重要なキーワードである「生物多様性」について解説する。そして生物多様性を保全することが、自然環境保全に根幹にあることを示す。
第 5 回	生物種の多様性の危機	近代から現代にかけて、急速に進行する生物種の絶滅、それは生物多様性の危機である。その現状を解説する。
第 6 回	絶滅の原因と人間活動	現在進行している多くの生物種の絶滅は人間活動に起因することを示すとともに、現在行われている対策について紹介する。
第 7 回	生態系の多様性・地域の多様性	生物多様性保全において、地域生態系の多様性を保全が極めて重要である。地域生態系の多様性を成立させている空間的、時間的背景を含めその保全の重要性を解説する。
第 8 回	里やまと生物多様性（1）里やまとは	近年、生物多様性保全の視点から注目されている「里やま」について解説する。
第 9 回	里やまと生物多様性（2）人間活動が維持する生物多様性	「里やま」における伝統的自然利用とそれが生む生物多様性について紹介するとともに、持続可能な自然利用のありかたを考える。
第 10 回	都市の自然：自然環境・生物多様性の回復をめざして	すでに劣化してしまった都市の自然について、そのような場所における生物多様性の「回復」の必要性和活動の事例を紹介する。
第 11 回	サンゴ礁に見る地球環境保全と生物多様性保全（1）：サンゴ礁の生物多様性	授業担当者の専門であるサンゴ礁の自然と人間のかかわりを紹介する。まず、サンゴ礁生態系の構造と生物多様性について解説する。
第 12 回	サンゴ礁に見る地球環境保全と生物多様性保全（2）：地球温暖化とサンゴ礁	現在世界各地のサンゴ礁は人為的インパクトによって劣化している。サンゴ礁保全を通じて、地域レベルの生物多様性保全の解決は地球規模の生物多様性保全・環境保全につながることを学ぶ。

- 第 13 回 人間にとっての生物多様性：なぜ自然環境保全が必要か？
- 第 14 回 自然環境保全と持続可能な自然利用を基本とする社会にむかって
- これ以前の授業でも折に触れて言及する「人間にとっての生物多様性」の必要性について整理を行った上で、どのような保全が目指されているかを学ぶ。自然環境保全・生物多様性保全のゴールは、持続可能な自然利用を基本においた社会形成であるとする。現在行われている生物多様性保全の制度うちのいくつかを紹介しその課題と将来への方向性を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃接するメディアや日常生活において、自然環境に関わる情報や科学的な話題などに関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

本講義は応用的内容を含みますので、基礎的な知識や理解として自然環境科学の基礎（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を併せて受講することを勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

DES300HA

自然環境政策論Ⅰ

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の 2 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題

②人間による影響を減らすために取り組まれている主な保全対策

【授業の進め方と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第 2 回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第 3 回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第 4 回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第 5 回	陸水域をめぐる諸課題	河川・湖沼生態系の特性、水生生物、富栄養化と水質問題
第 6 回	鳥獣をめぐる諸課題	海洋鳥と大陸鳥、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第 7 回	自然環境をめぐる難題：貴重種 1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第 8 回	自然環境をめぐる難題：貴重種 2	種の保存法に関する事例、種の再導入
第 9 回	自然環境をめぐる難題：外来種 1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第 10 回	自然環境をめぐる難題：外来種 2	淡水における外来種問題など
第 11 回	日本の自然環境保全政策 1	自然公園、自然環境保全地域
第 12 回	日本の自然環境保全政策 2	鳥獣保護区、ワイルドライフマネジメント
第 13 回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、国内外の事例、グリーンインフラ
第 14 回	里山と生物多様性	里山の特徴と変貌、生物多様性とは、生態系サービス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、環境サイエンスコース

DES300HA

自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立と、今後の新たな政策の可能性について考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み
- ③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国におけるユニークな保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化
第2回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水・森林と人との関わり、開発と自然保護の対立
第3回	環境影響評価 1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価 2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント、生態学と環境計画
第5回	法によらない保全メカニズム	自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第6回	海外の自然環境政策に学ぶ 1	フランスの地方自然公園とエコミューゼ、ドイツのビオトープ
第7回	海外の自然環境政策に学ぶ 2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ 3	欧州の農業環境政策、環境支払い、エコロジカルネットワーク
第9回	国際的な取り組み 1	ラムサール条約、世界遺産条約、生物多様性条約
第10回	国際的な取り組み 2	ワシントン条約と象牙問題の事例
第11回	国際的な取り組み 3	世界農業遺産、ジオパーク
第12回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット、自然資本
第13回	エコツーリズム	エコツーリズムとは、インタープリテーション、管理型観光と自主型観光、野生生物を生かした事例
第14回	地域資源の活用	自然の価値を高める経済的な循環事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

INE300HA

エネルギー論Ⅱ

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

元来、エネルギーは自然を源として自然に帰ってゆくという再生循環の輪の中にあった。再生可能エネルギーという言葉が脚光を浴びるようになったのは、環境問題がクローズアップされ始めた近年のことである。本講義ではエネルギーを環境問題の視点から眺めつつ、開発と導入が進みつつある再生可能エネルギーの仕組みや特徴について、我が国と諸外国での導入状況を比較しながら理解してゆく。

【到達目標】

1. エネルギーと環境問題との結びつきを説明できる。
2. 各種再生可能エネルギーの仕組みを説明できる。
3. 再生可能エネルギーの効率、環境負荷低減効果、課題を説明できる。

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題とエネルギー	エネルギーの環境対策と国の方針（電力を中心に）
第2回	再生可能エネルギーの定義と分類	再生可能エネルギーとは、新エネルギーの種類
第3回	水資源	水資源の循環、河川の性質
第4回	水力発電	水力発電の種類と仕組み、落差、中小水力発電
第5回	海水の動きを利用する発電	波力、潮力、潮流・海流による発電
第6回	風と風車	風車のタイプと性能、風がもつエネルギー、発電用風車の仕組み
第7回	風力発電	風況、パワーカーブ、発電量予測、風車と音
第8回	太陽光の特性、太陽光発電に適した物質	太陽光がもつエネルギー、太陽電池セルとシリコン
第9回	太陽光発電の発電量	太陽光発電の仕組みと種類、フィード・イン・タリフ
第10回	太陽光の熱、太陽熱発電	太陽熱の熱利用、太陽熱発電の種類と仕組み
第11回	バイオマス	バイオマスの種類と分類、バイオマスの賦存量
第12回	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの利用技術と課題、バイオマスエネルギーの利用事例
第13回	自然の温度を利用したエネルギー	地熱資源と地熱発電、海洋温度差発電
第14回	燃料電池	(B)EVとFC(E)Vなどのエコカーのバラエティ、燃料電池の仕組みと種類、家庭用燃料電池、水素インフラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の内容を事前に学習しておく和良好的。第1回：エネルギーのCO₂換算、第2回：再生可能エネルギーの種類、第3～5回：水の高さ・速さとエネルギーの関係、第6～7回：風力発電の時事問題、第8～10回：太陽光・太陽熱利用の時事問題、第11～12回：バイオマス利用の時事問題、第13回：地球内部と海洋の構造、第14回：エコカーの時事問題

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50％）：各種再生可能エネルギーの利用方法に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。試験（50％）：各種再生可能エネルギーの仕組みや原理、環境問題への貢献などに関する知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

再生可能エネルギーには話題が豊富です。また、再生可能エネルギーのほとんどは、実は昔からあったということを実感して欲しいと思います。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

EAE300HA

大気と社会Ⅰ

九本 美紀

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気象や気候は古代より人間生活に密着したものであり、常に人間生活に影響を及ぼしてきました。「大気と社会Ⅰ」においては、人間が住む空間において気候がどのように形成されているのか、気候の構成要素や表現方法についてと、日本の気象災害の事例を中心に気候や気象の人間社会への影響について学んでいきます。

【到達目標】

1. 気候の構成要素から、日本の気候の特徴を説明することができる。
2. 日本の主な気象災害について、その要因も含めて説明できる。
3. 身近な生活において、どのように気候の影響を受けているのか、考えることができる。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式で行います。授業内で適宜ミニレポートを提出してもらいます。質問も随時受け付けます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	気象・気候の基礎	気候風土—人間を取巻く環境としての気候、気象と気候の違い、二十四節気七十二候
第 2 回	大気の種類	大気の垂直構造、大気大循環、地球の熱収支と水収支
第 3 回	気候の表現方法 1	気候要素と気候因子、気候のスケール、気候指数
第 4 回	気候の表現方法 2	世界の気候区分、日本の気候区分、平年値と年候、静気候と動気候
第 5 回	日本の気候 1	気象観測の方法、日本の気象観測網
第 6 回	日本の気候 2	日本周辺の気圧配置と季節による分類、シンギュラリティ
第 7 回	局地風	海陸風、日本の局地風（フェーン、だし風、おろし風）と風害、屋敷林、自然エネルギーへの転換
第 8 回	生物季節	生物季節観測、桜前線、紅葉前線、温量指数
第 9 回	春の気象災害	春の天気図パターンとメイストーム（雹、竜巻、ダウンバースト）
第 10 回	夏の気象災害 1	梅雨の天気図パターンと集中豪雨、やませと冷害
第 11 回	夏の気象災害 2	盛夏期の天気図パターンと猛暑、干害
第 12 回	秋の気象災害 1	秋の天気図パターンと台風
第 13 回	秋の気象災害 2	秋雨前線、霧
第 14 回	冬の気象災害	冬の天気図パターンと山雪・里雪、局地不連続線

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

天気予報や新聞、インターネットなど身近な気象・気候情報に関心を持っておくようにしてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。随時、プリントを配布します。

【参考書】

荒木健太郎『雲の中では何が起きているのか』ベレ出版
 その他、授業内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（70 %）、授業内のミニレポート＋平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

平常点も成績に反映するようにします。

【その他の重要事項】

旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境Ⅰ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

EAE300HA

大気と社会Ⅱ

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気と社会Ⅰに引き続き、大気と人間、社会、都市との関係について網羅的に学ぶ。大気と社会Ⅱにおいては、大気と人の生活環境との関わりに重点をおいて講義する。

【到達目標】

1. 大気運動による物質輸送と社会との関係について説明できる。
2. 都市独特の気象と大気の動きとの関係を説明できる。
3. 人間生活で利用している気流について説明できる。

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大気と人間環境	人の暮らしと大気
第 2 回	汚染物質の大気拡散	大気汚染物質の種類、広域大気汚染、気温と大気汚染
第 3 回	ストリートキャニオン	都市における沿道の景観、沿道大気汚染、地形が作る大気環境、大気汚染の環境基準
第 4 回	ヒートアイランド	ヒートアイランドの性質、都市キャノピー、クールアイランドからの冷氣放出
第 5 回	クリマアトラスと風の道	ドイツ・シュツットガルトの風の道、気候情報に基づく都市計画・環境計画、風の道をつくるには
第 6 回	飛砂、風食	地表層土砂の挙動、風紋、飛砂対策、砂漠の拡大
第 7 回	黄砂の飛来	黄砂の発生源、黄砂の飛来性状と被害、アメリカ・中東・オーストラリアなどのダストストーム
第 8 回	スギ花粉の飛散	スギ花粉の性質、花粉の観測方法、スギ花粉飛散状況と天候、アメリカ乾燥地域のタンブルウィード
第 9 回	住居環境と気流（1）	室内で発生する汚染物質、室内にいる人間からの CO2 放出が室内環境に及ぼす影響、換気と通風の違い、換気施設と換気計画
第 10 回	住居環境と気流（2）	通風による室内環境の変化、人間の代謝と快適感・温冷感
第 11 回	火災と大気	都市計画法第 9 条、延焼と市街地火災、火災旋風（ファイヤー・トルネード）、火災の熱と大気
第 12 回	鉄道・自動車と大気	車両の形と転覆、強風による交通マヒ・事故、鉄道の運行規制とその発回回数減少のための対策、高速鉄道のトンネル微気圧波
第 13 回	農作物と大気（1）	受粉と気流、光合成と大気、気流による農作物の倒伏、飛来塩分による塩害
第 14 回	農作物と大気（2）	地域独自の気象特性を利用した農業、霜害とその防止、気温逆転層

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の内容を事前に学習しておく。第 1～3 回：大気汚染物質の種類、第 3～5 回：都市の気候、第 6～8 回：砂粒子の大きさと形、第 9～10 回：屋内の空気管理、第 11 回：地震の 2 次災害、熱の種類、第 12 回：列車や自動車の形状・構造、第 13～14 回：地域の気候

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点評価（100 %）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題（2、3 回程度）を通じ、到達目標 1～3 の習得度を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

大気と人の生活に関する様々な話題を取り上げますので、楽しんで受講してください。

旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境Ⅱ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

ASS300HA

食と農の環境学 I

西川 邦夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済発展段階が先進国段階に到達した現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学の立場から検討する。日本農業の現状を理解するに際して、置かれている国際的連関に基づく制約条件、及び農業の持続可能性に留意する。

【到達目標】

農業経済学の基本的な知識を身につけるとともに、日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、論理的に表現することができる。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。農業経済学の理論的な解説とともに、現場での事例の紹介に比重を置く。教員と受講生の双方向の対話を重視する。講義の終わりにアクションペーパーへの記入を行い、次回講義で紹介する。（受講人数によって変更する場合がある）

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ：現代日本における農業問題の枠組み	先進国段階に到達した日本農業が直面している問題と取るべき政策について、理論的に解説する。
第 2 回	GATT ウルグアイ・ラウンドと先進国の農政改革	1990 年代以降の先進国の農政改革と、それを規定した GATT ウルグアイ・ラウンドについて解説する。
第 3 回	WTO ドーハ・ラウンドの展開と国際貿易交渉の多層化	現在も継続中の WTO ドーハラウンドの失敗をもたらした要因と、代替策としての FTA の広がりを解説する。
第 4 回	TPP の政治経済学	日本が主導的な役割を果たした TPP の交渉過程において、国内・国際的どのような政治経済学的特質が見られたのか検証する。
第 5 回	アメリカの農業政策とカリフォルニア稲作	日本農業にとって最大の競争相手となるアメリカの農業政策と、カリフォルニア州の稲作の実態について解説する。
第 6 回	国際農産物市場の現局面と日本の農産物貿易	国際農産物市場の現局面と、日本の農産物貿易の状況を、特に食料安全保障に注目して解説する。
第 7 回	日本経済の構造転換と米政策	日本農業において最も重要な農産物である米について、経済の構造転換の影響を受けた家計との関係から考察する。
第 8 回	農業労働力の脆弱化と就農ルートの多様化	農業労働力の高齢化・引退と、新規参入者等による補充の動きについて解説する。
第 9 回	農地流動化と農地制度改革	離農に伴う農地流動化の進展と、それを促進するための農地制度改革について解説する。
第 10 回	日本農業を支える多様な担い手	日本農業を支える「担い手」の経営展開について、地域的多様性に留意しながら解説する。
第 11 回	農業者に対する支援システム	農業者を支援してきた農業協同組合と協同農業普及事業について、その役割と課題を解説する。
第 12 回	条件不利地域農業と農山村政策	条件不利地域農業としての中山間地域農業が抱える問題と、求められる政策について解説する。
第 13 回	農業と環境	農業と環境の関係について、理論・実態・政策の関連を解説する。
第 14 回	エピローグ：日本農業は持続可能なのか？	これまでの講義の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

成績評価はテスト形式であるため、毎回のレジュメの見直しが効果的である。また、興味関心を養うために、新聞で農業関係の記事があったら、読んでおくことを勧める。国際経済、地域経済、環境経済に関連した他の講義を合わせて履修することも勧める。

【テキスト（教科書）】

- ①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012 年（本体 2,600 円＋税）。
- ②速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002 年（4,200 円＋税）。

【参考書】

農林水産省『食料・農業・農村白書』（各年版）（www.aff.go.jp/j/wpaper/）。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 100 %
（受講人数によって変更する場合がある）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーで出された意見を、積極的に講義に盛り込んでいきたい。また、講義前後での教員への質問も歓迎する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布、レポートの提出等で授業支援システムを積極的に活用する予定であるので、コンテンツの更新には常に注意すること。具体的な活用方法については、講義で指示する。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

食と農の環境学Ⅱ

船戸 修一

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食料の生産基盤である「農山村（中山間地域）」を自然環境の仕組みや環境問題から考える。

【到達目標】

自然環境の仕組みや環境問題から「農山村（中山間地域）」を将来的に維持していくための方策を理解する。

【授業の進め方と方法】

「農山村（中山間地域）」は、人間の生活に必要な物資（食べ物や材木など）を生産する場所である。また、棚田や森林は、水源を涵養し、自然環境や景観の維持に貢献している。このように農山村は、環境保全機能を果たし、都市部に住む人たちの生活や暮らしにも寄与している。しかし、現在、このような地域では、高齢化による農林業の担い手不足、耕作放棄地の増加、過疎や限界集落など深刻な問題に直面している。そこで、この授業では、このような諸問題成立の背景を踏まえ、自然環境や環境問題から「農山村（中山間地域）」を考察し、これらの地域を将来的に維持するための方策を理解する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに～なぜ「農山村（中山間地域）」を問うのか？	現代社会において「農山村（中山間地域）」を考える意義について学習する。
第 2 回	高度経済成長と地域社会（Ⅰ）～都市と農村の所得格差はいつ広がったのか？	戦後の農村社会の変容を高度経済成長との関連で学習する。
第 3 回	高度経済成長と地域社会（Ⅱ）～戦後の「ALLWAYS 三丁目の夕日」の時代は本当に美しかったのか？	「農村から都市へ」の戦後の人口移動を高度経済成長との関連で学習する。
第 4 回	高度経済成長と地域社会（Ⅲ）～農民層出身者はなぜ都市労働者になっていったのか？	第一次産業就業者数の減少を高度経済成長との関連で学習する。
第 5 回	林業と地域社会～森林問題はなぜ都市住民と関係あるのか？	戦後社会における人間と森林との関わりの変容について学習する。
第 6 回	ムラ（村）と過疎～テレビ番組「田舎に泊まろう！」には映らない田舎の現実とは？	「過疎」問題の成立を高度経済成長との関連で学習する。
第 7 回	「限界集落」を解決するために（Ⅰ）～“限界集落”の誤解とは？	「限界集落」という言葉の登場背景について学習する。
第 8 回	「限界集落」を解決するために（Ⅱ）～“他出子”を活かした中山間地域づくりの有効性とは？	人間関係（家族関係）から限界集落問題の解決可能性について学習する。
第 9 回	「限界集落」を解決するために（Ⅲ）～グリーン・ツーリズムでなぜ農山村は疲弊するのか？	グリーン・ツーリズムの成立背景とその功罪について学習する。
第 10 回	「限界集落」を解決するために（Ⅳ）～中山間地域づくりに“移住者（よそ者）”が果たす役割とは？	田園回帰志向の高まりと移住者が農山村の集落維持のために果たす役割について学習する。
第 11 回	「限界集落」を解決するために（Ⅴ）～中山間地域づくりに“高齢者”や“農村女性”が果たす役割とは？	農業の活性化・農山村の維持のために高齢者や農村女性をエンパワメントする取り組みについて学習する。
第 12 回	地域政策と地域社会（Ⅰ）～戦後の地域振興策（＝地域開発）はなぜインフラ整備が中心だったのか？	戦後の地域政策の変容について学習する。
第 13 回	地域政策と地域社会（Ⅱ）～市町村合併は中山間地域づくりにとって良かったのか？	「平成の大合併」による地域社会の変容について学習する。
第 14 回	地域政策と地域社会（Ⅲ）～中山間地域づくりにとって必要なものは何か？	中山間地域において行政・企業・家族機能が縮小する中で求められる地域づくりの方向性について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで、授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

参考文献は、授業で毎回紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポートの内容を 90 %、授業後に課すリアクションペーパーの内容を 10 % として評価する。なお受講者の人数次第では、評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの授業では出席をとらなかったため、授業を欠席する学生がいたようである。そこで積極的な授業参加を促すために、毎回ではないが、授業後にリアクションペーパーを課したいと考えている。

【その他の重要事項】

旧科目名称「人間環境特論（農と食から考える現代日本社会）」を修得済の場合、本科目は履修はできない。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

ASS300HA

食と農の環境学Ⅲ

吉田 岳志

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

農政改革が国政の課題に取り上げられ農業問題が注目されているが、これらを理解するために、地域の自然条件と立地条件によって営まれている様々な農業の実態、農政の変遷、食料自給率の変遷、食品の安全性問題、農業技術の発展とそれに伴う課題、地球環境問題等の新たな課題と農業・農村の関係などについて基本的なことを学ぶ。

【到達目標】

①農政の変遷、②食料自給率や食品の安全性確保の現状と課題、③農業生産を支える技術の発展と課題、④産業としての農業生産活動と環境保全機能の関係、⑤地球環境問題に対応した農業生産、⑥新たな農業生産の展望、等について講義と意見交換を通じて、農業問題に関する多面的なものの見方を身につける。

【授業の進め方と方法】

（概要）

スライドを用いた講義を主体とし、併せて講義のレジュメを配付する。また、出席調査票に記載される当日の講義についての質問や意見を、次の講義の際に紹介しコメントや回答することによって、理解を深めるようにする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の農業	わが国で行われているさまざまな農業の形態を紹介します。
第 2 回	農業生産及び農業政策の推移	戦後 70 年の農業生産の推移を技術の発展や政策の推移に着目しながら講義します。
第 3 回	農村の現状と課題	農業の担い手問題、農村の多面的機能、それが損なわれている現状、鳥獣害対策等について講義します。
第 4 回	食料自給率	世界の食料問題、食料自給率の推移、海外との比較、食料自給率が低い要因、食料自給率向上に向けた取組等について講義します。
第 5 回	食品の安全問題	様々な危害要因と食品の安全性との関係、リスク分析の考え方等を講義します。
第 6 回	農業生産資材	農業機械、農薬、肥料等の農業生産資材の役割と課題について講義します。
第 7 回	バイオテクノロジーと農業Ⅰ	バイオテクノロジーの農業分野（作物）での活用について講義します。
第 8 回	バイオテクノロジーと農業Ⅱ	バイオテクノロジーの農業分野（畜産、食品工学等）での活用について講義します。
第 9 回	持続的農業生産	環境保全型農業、有機農業等持続的農業生産方式の現状と課題について講義します。
第 10 回	生物多様性と農業	農業生産活動が生物多様性に与える負荷と生物多様性を保全する役割、国際的な取り組みについて講義します。
第 11 回	地球温暖化と農業	農業生産活動による温室効果ガス発生状況、地球温暖化防止、温暖化適用技術等について講義します。
第 12 回	技術開発・普及と知的財産の保護・活用	農業部門における技術開発・普及及び新品種等知的財産の保護・活用の仕組みと課題、IT 化やロボット化等新しい農業技術について講義します。
第 13 回	国際化の進展と農業農村の展望	TPP 問題等農産物の輸入自由化問題への対応及び農業・農村の現場で起きている新しい取り組みを紹介しながら、今後の農業の展望について講義します。
第 14 回	時事問題	震災対応を含め、農政改革で話題になっている農協問題等について、最新の状況を講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌、テレビ等で報じられる農業問題を見たり聞いたりしながら、疑問点や気づいた点をメモしておいてください。

【テキスト（教科書）】

毎回、講義する主な項目を列記したレジュメを配り、パワーポイントを使って講義しますので、テキストは使いません。

【参考書】

農業白書（平成 27 年度食料・農業・農村の動向）
 農林水産省の HP で閲覧できます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

「考え方が分かりやすかった」についての学生の評価が低いようなので（以前のアンケート）、伝える情報量を減らして、毎回の授業の結びに、その日の講義のエッセンスを伝えるようにする。

また、講義の冒頭の時間を利用して、前回の講義に対する主な質問（出席調査票に記入）に対する回答を行い、学生の理解を深める。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

公害防止管理論 I

大岡 健三

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

河川や海、地下水など身近な水環境の基本知識をビジュアルを活用して学ぶ。水環境や汚染浄化、環境法の基礎が理解できる人材育成をめざす。同時に文系学生、特に物理化学を学んでいない学生を対象に公害防止管理者国家資格の取得準備に役立つ知識も分かりやすく解説する。企業経営や環境行政、国際活動などで環境の知識は不可欠であり、社会人として持つべきやや高度な実務知識を本講座で取得する。なお、国家試験を受験しない一般学生も興味深く学ぶことができる授業内容とする。

【到達目標】

マスコミ報道で耳にする環境キーワードが十分理解でき、環境系学部卒にふさわしい水環境の原理原則を学ぶ。環境汚染の実態および物理化学処理や生物処理などの浄化処理技術を基礎から習得する。汚れた廃水が無色透明に浄化できる仕組みなど水質管理技術に加え、米国の環境科学や過去の汚染事故、報道記事なども交えて国際レベルの環境問題も学ぶことができ、社会で役立つ環境の技術と法令の実務スキルの理解を深める。さらに授業では公害防止管理者国家試験レベルの基本問題を解く訓練も行う。

【授業の進め方と方法】

毎回教材を配布してスライドで説明する。各論では、講師が国内外で取材した産業公害の実例、有害物質、汚染メカニズム等を理解して、環境問題の基礎と環境法令を学ぶ。同時に、水質浄化技術の基礎を学ぶことによって水に関する環境保全手法を習得する。毎回学生のコメントや要望を聞いて次回講義に反映する。なお成績評価は、授業内を行う簡単な小テストと平常点で行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地球温暖化と水環境、廃棄物問題、さらにベトナム、マレーシア、ネパール及び米国の環境と公害防止	現地取材の写真を見て、環境汚染、浄化対策及び公害防止の側面から評価分析する。当講座全体の概要と授業について説明。
第 2 回	環境基本法と水質環境基準	環境基本法の概要を中心に水質環境基準について解説する。公害防止者管理法等の各論についても触れる。
第 3 回	水質汚濁防止法と排水基準	水質汚濁防止法に関する概説と企業が実際に遵守すべき法令の具体的解説。
第 4 回	日本の水質汚濁の現状と原因 主因は工場排水ではない	水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を中心に研究。
第 5 回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染とは何か？	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水汚染の発生メカニズムを理解する。
第 6 回	物理化学的処理法 1 凝集沈殿	処理計画及び工場排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法をわかりやすく解説。
第 7 回	物理化学的処理法 2 浮上分離、ろ過など	工場排水を浄化するための傾斜版、浮上分離、ろ過などの原理を学ぶ。マイクロバブル手法など最新技術にも触れる。
第 8 回	化学的処理法、酸化還元	化学処理法を学ぶ。pH 調整、酸化と還元、膜分離などの基本知識も解説。
第 9 回	好気性微生物処理法	排水を浄化するための好気性微生物を利用する処理法の基礎を学ぶ。
第 10 回	嫌気性微生物処理法、汚泥の脱水技術	嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説する。各種処理法によって生じる余剰汚泥の脱水技術を学ぶ。
第 11 回	高度処理法、活性炭処理等	排水を浄化するための活性炭利用など高度な処理法および最新技術を応用した各種処理法について学ぶ。
第 12 回	処理装置の維持管理	物理化学的処理の維持管理。活性汚泥処理の維持管理など。
第 13 回	水質管理のパラメータと水質測定の基礎	BOD/COD、pH、DO 溶存酸素などの知識の整理。試料採取など水質測定の基礎。水質汚濁物質についてまとめ。
第 14 回	環境法令など授業の復習	授業の要点復習および小テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Web 公開されている公害防止管理者等国家試験の過去問を授業中に使用する。なお、国家試験受験希望者は市販の書籍またはインターネット検索により予習復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布

【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」
発行所 （一社）産業環境管理協会
「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」
発行所 （一社）産業環境管理協会

「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」
発行所 （一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

授業内で小テストを行い、平常点と合わせて総合点で判定する。配分は小テストが 80%、平常点 20%。
A + : 100-90 A : 89-80 B : 79-70
C : 69-60 D : 59 点以下で不合格。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の質問や意見を適宜提供してもらい可能な限り次回授業に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントによる映像を利用

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、環境サイエンスコース

ENV300HA

公害防止管理論Ⅱ

大野 香代

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の健康や生活環境保全のためには、企業の公害防止管理が必要不可欠である。また、近年は地球温暖化防止の観点より、工場の生産活動に伴い排出される二酸化炭素等の温暖化物質を削減することも企業の重要な責務となっている。

我が国は 1960 年代の高度経済成長期に深刻な公害問題を抱え、また 1970 年代に二度のオイルショックを経験したことにより、汚染物質排出抑制技術や省エネ技術は国際的に高い技術を有している。本講座では、近年の大気環境状況や問題と課題、排ガス中の汚染物質の除去方法、省エネ技術、測定方法などの技術的事項を中心に学ぶ。

【到達目標】

大気環境状況や問題と課題、排ガス中の汚染物質の除去方法、省エネ技術、測定方法などの技術的事項の概要を学び、企業における環境管理の重要性を理解する。

【授業の進め方と方法】

前半は大気汚染メカニズム、大気汚染防止法等の環境法規などの環境保全の知識を学び、後半は燃焼管理方法、排ガス処理技術、測定法等の排ガス管理・処理技術を学ぶ。温暖化問題について課題レポートを提出し、グループディスカッションで問題定義や課題解決の方法を学ぶ。定期試験ではなく、授業内に行う試験と平常点で成績評価を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大気汚染の歴史と現状	日本の公害問題の歴史と近年の大気環境問題について。
第 2 回	大気関係の法律	環境基本法や大気汚染防止法、公害防止管理者法について概要を学ぶ。
第 3 回	グループワーク 課題 気候変動の緩和と適応	企業が行える気候変動への取り組みについて考える。
第 4 回	大気汚染メカニズム、地球環境問題	大気汚染の発生メカニズムと地球環境問題の概要・大気汚染物質とその発生源、発生のプロセスについて。
第 5 回	排ガスの大気拡散モデル	排ガスの大気拡散について。
第 6 回	燃焼管理技術①	燃料の種類や燃料計算について。
第 7 回	燃焼管理技術②	効率的な燃焼管理方法について。ボイラー等の燃焼装置、空気比の管理、燃焼管理のための各種測定技術について。
第 8 回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術について。
第 9 回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物の排出低減方法及び処理技術について。
第 10 回	除じん集じん技術	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除く技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除く技術。
第 11 回	有害物質の除去技術	排ガス中のカドミウムや鉛、塩化水素、水銀等の有害物質の除去方法について。
第 12 回	排ガス中汚染物質の測定方法	ばい塵、硫黄酸化物、窒素酸化物の測定方法について。
第 13 回	大規模工場におけるばい煙処理技術と省エネ技術	火力発電所、鉄鋼等の大規模大施設における排ガス処理技術及び省エネ技術について。
第 14 回	まとめと授業内試験	まとめと授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新・公害防止の技術と法規 大気編の関連箇所を事前に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回の授業に補助資料を配付する。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規 大気編
発行所 （社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

レポート（20%）、筆記試験（80%）の総合点で判定する。

A+：100-90 A：89-80 B：79-70 C：69-60 D：59 点以下で不合格

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果が出ていなので、記述できない。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、環境サイエンスコース

ENV300HA

廃棄物・リサイクル論

鍋木 儀郎

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物は社会を映す鏡であり、超高齢化、自然災害の激甚化などの社会の変化に対応して想定すべき廃棄物問題とその解決策は次世代を担う学生が自らの問題として考える必要がある。この講義では、そのための基礎として「廃棄物処理はみんなの責任」と言われるのはなぜなのか、循環型社会の形成が推進されている背景事情は何なのかなどを理解するため、今日の環境問題を俯瞰しつつ廃棄物に関して過去と現在を比較検討するとともに法制度、技術等の廃棄物・リサイクルを考える基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

廃棄物問題は複雑・多様で簡単には片付かない。社会の変化、それに伴う生活や製品の変化、産業構造の変化、自然災害の激化などが種々に廃棄物問題を生む。法的には「廃棄物」の定義の難しさ、処理責任を負うべき排出者のみでは解決できない製品の高度化・多様化に対応できる社会システムの政策誘導などの課題がある。そこで社会の変化と廃棄物の発生・処理との関係を学び、廃棄物に関するテーマについて過去と現在との比較考察をし、生活に身近な廃棄物がどこでどう処理されるかを知り、処理技術の基礎を学ぶ。そのうえで法における廃棄物の定義と有価物の差異を学ぶとともに廃棄物処理法と各種リサイクル法規の考え方を学ぶ。加えて災害環境研究などの現状を学ぶ。これらをもとにしてリサイクルなど 3 R 政策の現状と意義、今後の廃棄物対策のあり方等を考えるための知識と考える力を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

毎回の講義資料をもとにして講義を進め、日常生活、歴史と文化、法律、経済、技術などの様々な側面から廃棄物問題の基礎的知識を学ぶ。毎回の出席表に各自のコメントなどを記入するリアクションペーパーを用いる方式により、廃棄物問題についての考察を深める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	全体構成と進め方	まず講義の全体像を説明。今日の環境問題全般について俯瞰したうえで廃棄物・リサイクル問題にフォーカスする。
第 2 回	社会の変化による廃棄物の排出等への影響	政府の白書等をもとにして社会の変化を認識しそれによって廃棄物の排出等がどのように影響されるかを学ぶ
第 3 回	ごみ処理の昔と今	明治時代の東京、大阪や中世のバリの廃棄物再生利用を学びリサイクルの価値観の変化について知識を得る。
第 4 回	廃棄物処理の法制度の基本	廃棄物処理法の仕組みと基本的な考え方について知識を得る。
第 5 回	廃棄物処理はみんなの責任	国民、事業者、自治体、国がそれぞれどのような法的責任を有しているかについて知識を得る。
第 6 回	一般廃棄物処理の体系	一般廃棄物処理と産業廃棄物処理との制度上の違いとその背景や実態などについて知識を得る。
第 7 回	産業廃棄物処理の体系	産業廃棄物処理の制度などについての知識を得る。
第 8 回	特別管理廃棄物の処理の考え方	P C B 廃棄物などを具体例として特別管理廃棄物制度の意義や処理方法についての知識を得る。
第 9 回	廃棄物処理の技術の基本的原則	安定化、無害化、減量化という過去から現在まで継続して重要である基本的原則の背景や必要性を知る。
第 10 回	中間処理技術と最終処分技術、リサイクル技術	焼却などの中間処理技術、埋め立て技術、リサイクル技術など環境産業、環境技術の現状を学ぶ。
第 11 回	有害廃棄物処理技術	有害な特性を持つ物質の処理技術について学ぶ。
第 12 回	災害環境研究の現状と見通し	東日本大震災を契機として行われている災害環境研究の現状と今後の見通しについて学ぶ
第 13 回	まとめとレポートの出題	講義全体の内容をまとめるとともに、講義内容全体の理解を深めて考える力をつけるためのレポートを出題する
第 14 回	授業時間内小テスト	授業内容の理解とそれらを踏まえた考察力の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

より効果的に講義が受講できるように、各自が住んでいる自治体で日常どのようなごみの分別・ごみ出しをすべきなのか、自治体のホームページや回覧板などで見ておくと良い。新聞報道等でごみ処理やリサイクルなどの記事があったら注意深く読みなぜ記事のようなことが起こっているのか考える訓練をしておくとう良い。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布する。

【参考書】

環境・循環型社会・生物多様性白書
 「人間とごみ」カトリース・ド・シルギー著 新評論
 「明治日本のごみ対策」溝入茂著 リサイクル文化社
 「ごみ減量 全国自治体の挑戦」服部美佐子著 丸善

【成績評価の方法と基準】

参加姿勢、提出レポートの内容、小テストの結果により総合的に評価する。成績評価要素ごとの配分は小テスト40%、レポート45%、平常点15%とする。小テストは配布資料、ノート、参考書などの紙資料は何でも持ち込み自由だが、モバイルパソコン、スマートフォン、携帯電話などの情報機器の使用は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

各講義時間の終了時に提出してもらう出席票に書き込まれる各自のコメントや質問を次回の講義に反映できるようにし、双方向の講義の実施を図る。

【学生が準備すべき機器他】

携帯電話、スマホ等を含めたすべての情報機器について講義時間中の使用は認めない。

【その他の重要事項】

- ・小テストにおいては配布する資料やノートなどの持込を可とする。
- ・旧科目名称「リサイクル論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。
- ・講義内容は入れ替えがあり得ます。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、環境サイエンスコース

SEE300HA

環境教育論

野田 恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年深刻化する環境問題を解決するアプローチのひとつである環境教育およびESD（持続可能な開発のための教育）について学び、持続可能な社会の構築における環境教育の意義や役割、可能性や限界について自分なりの考えを深める。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法についての知識を身に付け、環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。また、環境教育実践へつながる関心や意欲をはぐくみ、自分なりにプログラムや教材を考える視点や基礎を身に付ける。

【授業の進め方と方法】

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。授業では対話型および参加型の手法を用いる。毎回のテーマに即した資料を読み自主学習を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：「わたしと環境教育」	本講義のねらい・進め方についてのオリエンテーションと自分の環境教育の経験を振り返る。
第2回	環境教育とは何か？	環境教育について、その意義や理論的背景について学び、なぜ環境教育を学ぶのか考える。
第3回	環境教育の歴史	環境教育についての国際的取り組みと日本の環境教育の歴史を概括する。
第4回	ESD と SDG s	持続可能な開発とは何か、ESD(持続可能な開発のための教育)とは何か、講義を通じて考える。
第5回	自然保護教育と自然体験学習	日本の環境教育のルーツである自然保護教育とその発展形態である自然体験学習について学ぶ。
第6回	自然学校と地域づくり	自然に関わる環境教育、特に自然学校と持続可能な地域づくりの可能性について解説する。
第7回	公害教育・1	公害から学ぶとともに、日本の公害教育のルーツのひとつである公害教育について学ぶ。公害教育教材を体験する。
第8回	公害教育・2	公害から学ぶとともに、日本の公害教育のルーツのひとつである公害教育について学ぶ。沼津三島の住民運動について触れる。
第9回	SDG s とソーシャルアクション	持続可能な開発を実現する方法について考え環境教育とESDについてさらに深める。
第10回	環境教育のラディカルさを考える	環境教育に対して批判的な論考を読み考えを発展させる。
第11回	環境教育とは何か（グループワーク）	これまでの講義を振り返り、環境教育とは何か自分なりの考えをまとめる。また受講者同士のディスカッションを通じて考えを深める。
第12回	環境教育プログラムを考えてみよう	社会教育施設や学校における環境教育について学ぶとともに、環境教育プログラムを作成する。
第13回	環境教育プログラムを考える（ワークショップ）	作成した環境教育プログラムを紹介しあう。
第14回	まとめ	これまでの授業のまとめ・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに紹介する。参考資料を授業支援システムを通じて配布する。

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
 『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編
 『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版
 『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協

【成績評価の方法と基準】

毎時間出す課題とグループワークや授業への参加・態度を評価の対象にする。詳細は以下のとおり

●授業 1～10 回ワークシートを配布するので取り組む。ワークシートはすべて 11 回のグループワークに参加時に回収する。(配分 70%：ワークシートの課題にしっかり答えられているか、授業で扱ったポイントを踏まえて書かれているかを評価の基準とします。自筆のみ可とし、他の受講者のもの写したり代筆とみなされるものは評価の対象にしません。作成方法や評価基準の詳細は第 1 回の授業時に指示します)

●12 回・13 回で環境教育プログラムを作成しグループワークに参加し提出する。(配分 20% 作成方法と評価基準は 12 回の授業中に指示します)

●平常点 (10% 授業態度など)

成績評価や課題について詳細を説明しますので、第 1 回目の授業に出席するようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度からの変更点 → 授業前後の学習に取り組むように、今年は「ワークシート」として毎時間課題を出すようにしました。しっかり取り組み学習を深めてください。

【学生が準備すべき機器他】

太い文字が書けるサインペン (黒以外でも可。黄色や蛍光色など見えにくい色は不可) を常備してください。

【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第 1 回目の授業に出席するようにしてください。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

CAR200HA

キャリア入門

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Understanding job careers.

【到達目標】

This class aims to give students an opportunity to study what the job career is, why they should learn it, and how it should be made. By so doing, this subject will give students hints to consider about their own careers and help them understand issues about career making and make their own careers in the future.

【授業の進め方と方法】

This class will be run in English and basically in the form of lecture. The lecture will take up various topics in regard to career making. Students are supposed to read materials in advance, prepare to ask questions and answer the questions asked by the lecturer. Also, students will be required to make presentations in class. One or two guest speakers may be invited if possible. The lecture will deal with issues mainly in Japan and English speaking countries focusing on career making in the global stage.

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Intorduction to career studies	What career studies are will be discussed.
week 2	Why career studies?	It will be discussed why we should study job careers.
week 3	Words and expressions for career studies	Before the start of career studies, students will check English words and expressions needed for career studies. This will be continued for 10 to 15 minutes in the subsequent sessions.
week 4	Japanese employment practices (1)	The basic features of Japanese employment practices will be discussed.
week 5	Japanese employment practices (2)	The lecture will give an overview of how Japanese students find a job.
week 6	International students at Hosei	Students will look at international students at Hosei University in the past and now.
week 7	Global careers (1) how to make a global career	The employment by the Japanese companies of kikokusei and Japanese students studying overseas who wish to make a job career in the global stage.
week 8	Global careers (2) global human resources	The Japanese companies' attitude to the employment of overseas students studying at Japanese universities.
week 9	Career changes	Students will think about career changes they may face and experience in life.
week 10	Women's career and its international comparison	Women's career is different from men's and the difference varies from country to country. Students will learn why it is so.
week 11	How to make a job career (1)	Presentation by students about their own career in the future.
week 12	How to make a job career (2)	Continued from the previous week.
week 13	Employment situation in the global business area in Japan	Employment situation in the global business area will be discussed. Or if available, a guest speaker may be invited and talk his/her job experience.
week 14	Final exam.	Final examination and commentary on it.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are supposed to read materials carefully in advance and make clear what they cannot understand and should be ready to ask questions, answer questions asked by the lecturer or make comments on the lecturer's talk.

【テキスト (教科書)】

Reading materials are provided from time to time prior to the lectures. This class does not use a particular textbook.

【参考書】

References will be presented at the beginning of the class.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will be made by short exams (20%) and by a final exam or an essay (80%). Students will frequently have a short exam in class. Also, the final exam will be conducted in the final session or students instead may be required to submit an essay of around 3,000 words.

【学生の意見等からの気づき】

The lecturer will try to invite one or two guest speakers because students are interested in listening to talk by people who have various job experiences.

【学生が準備すべき機器他】

Nothing.

【その他の重要事項】

Japanese students have been learning English for many years. This class will offer a challenging opportunity to learn something (job careers) in English, not to learn the English language itself.

Those who intend to take this subject must attend the first class and follow the instructions from the lecturer.

If the number of students who intend to take this subject is more than 15 at the first class, priority will be given to the students of the Faculty of Sustainability Studies and some sort of selection will be made for students from the other Faculties.

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

ARSI300HA

グローバルスタディーズ I

吉田 秀美

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが日常生活で購入している商品は、様々な原材料を加工して作られています。例えば、大豆は味噌や豆腐の材料であるだけでなく、マーガリン、ファーストフードの揚げ油、スナック菓子、石鹸、インク、バイオ燃料にまで使われています。

本授業では、こうした原材料（世界の市場で大量に取引される商品＝コモディティ）を入り口として、環境、貿易、食料、エネルギー、歴史、ODA、企業やNGOの活動などについて学びます。授業を通じて、各自が自分なりの歴史観や世界観を形成していくための基礎的能力を身に付けることを目指します。

【到達目標】

- 1) 身近なモノを事例として、生産地や生産者その他のステイクホルダーに関する具体的なイメージを持ち、社会・経済の動き方を理解する。
- 2) 文献や統計資料（英文含む）を読みこなす力を身につける。
- 3) ウェブサイト上にある情報を丸のみせず、情報発信者の立場や目的を客観的に判断して使いこなす力を身につける。
- 4) 調べて得た知識を基礎としつつ、独自の視点で課題や解決策を提案する力を身につける。

【授業の進め方と方法】

本授業はグループワークを中心とした演習形式で進めますので、毎回、積極的に参加する意欲のある受講者を期待します。受講希望者が25名を超過する場合は、第1回目の授業で簡単な英文和訳・英作文のテストを行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、進め方や資料の探し方についての説明、基礎知識の講義、受講希望者が多い場合は選考テスト
第2回	講義：パーム油のサプライチェーンについて	生産者から消費者までの流れや課題を学ぶ
第3回	グループワーク：大豆をめぐる各国のステイクホルダー（1）	グループ研究を進めるうえで必要な基礎知識、データの集め方などを学ぶ
第4回	グループワーク：大豆をめぐる各国のステイクホルダー（2）	集めた情報を統合して、課題の全体像をつかむ
第5回	グループワーク：大豆の生産（1）	国ごとに異なる生産者の多様性や課題を知る
第6回	グループワーク：大豆の生産（2）	国ごとに異なる生産者の多様性や課題を知る
第7回	グループワーク：大豆の流通	大豆がグローバルに取引される構造を理解する
第8回	グループワーク：大豆を使った加工食品	大豆がどのように加工され消費者に届くかを理解する
第9回	グループワーク：世界の食糧需給と農業	遺伝子組み換え技術や有機農業について議論する
第10回	グループワーク：援助とビジネス	大豆に関連する開発援助プロジェクトやビジネスについて理解を深める
第11回	農林水産物の生産と環境に関する文献と議論、発表テーマの決定	各自の関心に合わせ、発表のグループ分けを行う
第12回	映画鑑賞	関連分野のドキュメンタリー映画の鑑賞と議論
第13回	発表・議論（1）	受講者が設定したテーマの発表（1）
第14回	発表・議論（2）	受講者が設定したテーマの発表（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する文献やウェブサイト事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

「WWF Report 2014 拡大する大豆栽培—影響と解決策」

概況把握のため表記テキストを使用しますが、様々な視点の文献や統計資料を各回で紹介します。

WWF (2012) 「生きている地球のためのより良い生産」

【参考書】

本郷豊・細野昭雄 (2012) 「ブラジルの不毛の大地『セラード』開発の奇跡」 (JICA プロジェクト・ヒストリー) ダイアモンド社

【成績評価の方法と基準】

参加姿勢（予習とグループワークへの貢献）（40%）、グループ発表（2回）（30%）、レポート（2回）（30%）を基本とします。

予習への取り組み状況、任意提出の英文和訳などの取り組み状況によって加減します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度と同じ材料を扱いますが、授業時間の変更に伴い、授業内でのグループワークや意見発表する時間を増やし、正式なグループ発表の回数を減らします。

文献を読んだり、ネットで調べ物をして、といった予習をして、グループワークが活性化されますので、積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に文献調査が必要な場合は、パソコン等を準備するよう指示します。資料の配布や課題提出のために、授業支援システムを活用します。

【その他の重要事項】

グローバル・スタディーズⅠではモノと環境の関わりに重点を置き、Ⅱではモノと人の移動の関わりに重点を置きます。連続履修をすると理解が深まります。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

ARSI300HA

グローバルスタディーズⅡ

吉田 秀美

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちにとって身近な食品である砂糖は、歴史の中で人の移動に大きな影響を与えてきました。本授業では砂糖がもたらした人の移動について、主要な生産国の歴史と現在直面している課題を考察します。授業を通じて各自が自分なりの歴史観や世界観を形成していくための基礎的能力を身に付けることを目指します。

【到達目標】

- 1) 現代の社会の成り立ちには歴史的経緯があることを理解し、その知識をふまえて現代の国境を超える人の移動について考察する。
- 2) 文献や統計資料を読みこなす力を身につける。
- 3) ウェブサイト上にある情報を丸のみせず、情報発信者の立場や目的を客観的に判断して使いこなす力を身につける。

【授業の進め方と方法】

本授業はグループワークを中心とした演習形式で進めますので、毎回、積極的に参加する意欲のある受講者を期待します。受講希望者が 25 名を超過する場合は、第 1 回目の授業で簡単な英文和訳・英作文のテストを行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的、進め方や資料の探し方についての説明、基礎知識の講義、受講希望者が多い場合は選考テスト
第 2 回	講義：カカオ（1）	カカオと人の移動の歴史
第 3 回	講義：カカオ（2）	チョコレート産業と CSR
第 4 回	文献講読と発表（1）	大航海時代を新大陸の側から見る
第 5 回	文献講読と発表（2）	砂糖プランテーションがアフリカと新大陸にもたらした影響
第 6 回	文献講読と発表（3）	イギリスの砂糖と紅茶の歴史を知る
第 7 回	文献講読と発表（4）	奴隷貿易廃絶運動から奴隷の解放まで
第 8 回	文献講読と発表（5）	年季奉公者について
第 9 回	文献講読と発表（6）	現代の砂糖と労働をめぐる課題
第 10 回	映画鑑賞	関連分野のドキュメンタリー映画の鑑賞と議論
第 11 回	人の移動に関する文献講読と議論（1）	日本からの移民と日本にきた外国人
第 12 回	人の移動に関する文献講読と議論（2）	外国人技能実習制度
第 13 回	人の移動に関する文献講読と発表（1）	各自が設定したテーマで発表する（1）
第 14 回	人の移動に関する文献講読と発表（2）	各自が設定したテーマで発表する（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する文献やウェブサイトを事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

川北稔（1996）「砂糖の世界史」（岩波ジュニア新書）
 ラッセル・キング（ほか著、竹沢尚一郎・稲葉奈々子・高畑幸（訳）（2011）「移住・移民の世界地図 移動する人びと」丸善出版

【参考書】

エリザベス・アボット（2011）「砂糖の歴史」河出書房新社
 WWF（2012）「生きている地球のためのより良い生産」

【成績評価の方法と基準】

参加姿勢（40%）、発表（2 回）（30%）、レポート（2 回）（30%）を基本とします。予習への取り組み状況、任意提出の英文和訳などの取り組み状況によって加点します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度アンケートでは、「世界的なつながりや時代的なつながりを学び、物事を少し俯瞰して見られるようになった」という回答がありました。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に文献調査が必要な場合は、パソコン等を準備するよう指示します。資料の配布や課題提出のために、授業支援システムを活用します。

【その他の重要事項】

グローバル・スタディーズⅠではモノと環境の関わりに重点を置き、Ⅱではモノと人の移動の関わりに重点を置きます。連続履修すると理解が深まります。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

ローカルスタディーズⅠ

船戸 修一

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「農山村（中山間地域）」の現状と課題について考える。

【到達目標】

「農山村（中山間地域）」の現状と課題を理解するだけでなく、その問題解決策まで考える。

【授業の進め方と方法】

本授業では、「地域」を「農山村（中山間地域）」に絞り、農山村の根幹的産業である農林業や農山村の集落の現状と課題について理解することを目標にする。さらに、その学習だけでなく、その問題解決までも構想できるようになることも目標にする。本授業では、テキストとして、①日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007 年）、②日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007 年）を使い、毎回、それぞれ 1 章分を受講生に発表をしてもらい、その解説と説明をしたうえで、全員で討論を行う。なお、本授業は「食と農の環境学Ⅱ」を履修していることを受講条件とし、またゼミ形式を導入するため受講者の定員を 30 名程度にする。もし受講希望者が定員超過する場合は、第 1 回目の授業でテストを行い、その成績上位から受講生を選抜する。テスト問題は「食と農の環境学Ⅱ」の内容から出題する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価を説明する。
第 2 回	テキストの輪読・発表・討論 (1)	『むらの社会を研究する』の「村落空間」をとりあげる。
第 3 回	テキストの輪読・発表・討論 (2)	『むらの社会を研究する』の「都市化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「むらにとっての資源とは」をとりあげる。
第 4 回	テキストの輪読・発表・討論 (3)	『むらの社会を研究する』の「農業の近代化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「集団的土地利用」をとりあげる。
第 5 回	テキストの輪読・発表・討論 (4)	『むらの社会を研究する』の「過疎化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「水をめぐる排除と協同」をとりあげる。
第 6 回	テキストの輪読・発表・討論 (5)	『むらの社会を研究する』の「縮小化する世帯・家族と家の変化」、『むらの資源を研究する』の「森林問題と林野資源の可能性」をとりあげる。
第 7 回	テキストの輪読・発表・討論 (6)	『むらの社会を研究する』の「今、農村家族の問題は何か」、『むらの資源を研究する』の「日本における農政の変遷と地域政策」をとりあげる。
第 8 回	テキストの輪読・発表・討論 (7)	『むらの社会を研究する』の「農山村の開発に伴う環境破壊」、『むらの資源を研究する』の「農業技術と自然」をとりあげる。
第 9 回	テキストの輪読・発表・討論 (8)	『むらの社会を研究する』の「自然環境と歴史環境の保全活動」、『むらの資源を研究する』の「近代農法の成果と限界」をとりあげる。
第 10 回	テキストの輪読・発表・討論 (9)	『むらの社会を研究する』の「農村女性とパートナーシップ」、『むらの資源を研究する』の「有機農業をめぐるむらのコンフリクト」をとりあげる。
第 11 回	テキストの輪読・発表・討論 (10)	『むらの社会を研究する』の「担い手としての高齢者」、『むらの資源を研究する』の「農村の多元的価値を『引き出す』ツーリズムを目指して」をとりあげる。
第 12 回	テキストの輪読・発表・討論 (11)	『むらの社会を研究する』の「限界集落論からみた集落の変動と山村の再生」、『むらの資源を研究する』の「農業共同化の背景と生産組織の展開」をとりあげる。
第 13 回	テキストの輪読・発表・討論 (12)	『むらの社会を研究する』の「戦後農政の展開とむら」、『むらの資源を研究する』の「家族構成の変化と兼業化」をとりあげる。
第 14 回	テキストの輪読・発表・討論 (13)	『むらの社会を研究する』の「農業者として生きる都市住民の転身」、『むらの資源を研究する』の「農の経営から地域経営へ」をとりあげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業内容について復習しておくこと。また次回の授業で内容も読んで、予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007 年）
日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007 年）

【参考書】

参考文献は、授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（発表内容、討論への参加姿勢など）を 50 % として評価する。さらに学期末に課すレポートを 50 % として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ形式で授業を進めるため、なるべく多くの履修学生の意見に耳を傾けたいと考えている。

【その他の重要事項】

本講義の内容は「食と農の環境学Ⅱ」の応用である。よって「食と農の環境学Ⅱ」を履修していることを本講義の履修条件とする。なお、受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行う。受講希望者には、必ず初回授業に出席を求める。

「地球環境ケーススタディⅠ」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SOS300HA

ローカルスタディーズⅡ

後藤 純

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローカルスタディーズは、ひとことでいえば、まちづくり（最近の流行では、コミュニティ・デザイン）の理論と技法について学びます。日本は少子高齢社会に突入していますが、住みよいまちをつくるには、住民やコミュニティの構成員が自らのリソースを提供して行うまちづくりが必要です。これまでは、行政が単独で計画をつくってきましたが、これからは行政だけでなく、住民自治組織、企業等が連携できるフレームワークづくりが重要となります。本授業ではまちづくり（＝コミュニティ・デザイン）の方法論を学ぶとともに、コミュニティ・デザインに関する理論、技術、制度について基礎知識を獲得し、理解を深めます。

【到達目標】

コミュニティ・デザイン（まちづくり）に関する理論、技術、制度について基礎知識を習得する。この知識をもとに身近なまちづくりの事例を調査分析できるようにする。さらには、分析の結果として、10年、20年先を見すえた、望ましい解決策を提示することができるようになる。これらをレポートにまとめることで、個人的なスキル（技能）を超えて、社会的技術としてのコミュニティ・デザインの技法を身につけることが到達目標です。

【授業の進め方と方法】

もはやゼロから都市を形成していくことは不可能です。既に先人が創りこんできた制度及び空間の上に、現在の都市が形成されており、これを再び地域に住む人々が解釈・再解釈して次の時代の制度及び空間を構築していきます。本授業では2030年の超高齢社会を念頭におきながら、都市における参加・協働のまちづくり実践について考えます。これからの日本社会を支える皆さんには、特に（1）コミュニティ・デザインの基礎的な制度や空間を読み解くポイントを学んでいただき、次に（2）市民・住民の地域に対する意思やニーズを把握するポイントについて学んでいただきます。また（3）課題解決・地域形成のためにどのような社会経済的実現方法が考えうるのか、具体ケースをみながら、考えて行きます。（4）本授業では各人調査テーマの一つ決め、講義で学んだことを踏まえつつ、（1）～（3）に注意して、自ら問いを立てて、自ら解決策を検討していただきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、単位の取り方などを説明します。
第2回	超高齢社会の都市と課題	10年後、20年後、私たちの社会はどのように変わっていくのか。予測が出来れば、対策もしやすい。超高齢社会という観点からみたコミュニティの変化を学びます。
第3回	コミュニティ・デザインとはなにか	コミュニティとは何か？ どのように考えればよいのか？ コミュニティ・デザインの歴史の変遷から基礎論を学びます。
第4回	コミュニティ・デザインの技法	コミュニティ・デザインの具体的な技法を学びます。住民ワークショップを行い、地域活性化イベントを行うことは、コミュニティデザインではありません。
第5回	コミュニティ・デザインの歴史的展開	1960年代～今日までのコミュニティ・デザイン（日本型まちづくり）の歴史を学びます。歴史を学ぶと、これから先の正確な展開予測が出来ます。
第6回	コミュニティ・デザインにおける主体論、主体形成及び組織形成の理論と技術	よきコミュニティは、短期間では出来ません。コミュニティの担い手の育成とともにコミュニティが育っていくことが重要です。時間軸を踏まえた、主体形成の理論と技術について学びます。
第7回	小レポートの報告	最終レポートについて、どのようなテーマで書くのか企画書をA4×1枚以内で作成し、発表、教員とディスカッションを行います。
第8回	住民参加、協働の理論	コミュニティ・デザインは、多様な主体が関わります。多様な主体の参加、協働がなぜ必要なのか、その社会的背景、理論について学びます。
第9回	新しい公共性と都市空間のガバナンス	多様な主体が関わった結果として、新しい社会や価値をどのように創造すればよいのか。新しい公共性、ガバナンスという観点から考えます。
第10回	コミュニティ・デザインの事例分析1	空き家の活用、コミュニティカフェ、サードプレイスなど居場所づくりの事例を学びます。
第11回	コミュニティ・デザインの事例分析2	震災復興におけるコミュニティ・デザインの課題と今後の展望について学びます。

第12回	コミュニティ・デザインの仕組みを考える	最終レポートに向け、これまでの事例分析を踏まえ、各自の考えるまちづくりの仕組みについて議論します。
第13回	コミュニティ・デザインの事例分析3	高齢者の生活を最期まで支える地域包括ケアのまちづくりについて考えます。
第14回	成果発表	レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・都市におけるコミュニティ・デザインの実践について、参考文献に挙げたコミュニティデザイン学を副読本として利用してください。
・まちづくりについて興味を持ちつつ、自分で問いを立てて自分で答えを導き、様々な人と議論を通して合理的な判断をしていく思考訓練を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しませんが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付します。

【参考書】

・小泉秀樹編著（2016）コミュニティデザイン学：一その仕組みづくりから考える一、東京大学出版会
・東京大学高齢社会総合研究機構編著（2014）地域包括ケアのまちづくり、東京大学出版会
・住民主体の都市計画ーまちづくりへの役立て方、学芸出版社
・新時代の都市計画- 市民社会とまちづくり、ぎょうせい
その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、小レポート10%、最終レポート50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

少人数でディスカッションをしながら進めて欲しいとの意見がありました。授業はディスカッションの時間を多くとりながら進めたいと思います。受講のモチベーションが維持できるように、わかりやすく進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影します。

【その他の重要事項】

定員は最大20名です。受講希望者が多数の場合には、第1回目の授業で選抜を行います。学ぶことともに、考えることの多い授業にしたいと思います。「地球環境ケーススタディⅡ」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

MAN300HA

環境マネジメントスタディーズ I

池原 庸介

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模の環境課題である気候変動問題、およびその抑制を目的とした対策は、社会を構成するすべての人間活動や生態系に影響を及ぼします。気候変動問題に軸足を置いた国内外の政策動向や、いわゆる非国家主体と呼ばれる自治体・企業・投資家・NPO（非営利組織）等の取り組みに焦点をあてて講義を行います。

【到達目標】

履修者は、気候変動問題を正しく理解し、2015 年に成立した国際枠組み『パリ協定』の下で、世界が脱炭素社会の実現に向けてどのように取り組んでいるか、政府や企業、非営利組織など様々な観点から、包括的に理解を深めることができます。

【授業の進め方と方法】

本講義では、社会科学・自然科学の両面から気候変動問題およびその解決に向けた世界の取り組みの全体像を概観します。

まず最初に、気候変動問題の実情と科学的な将来予測などについて学び、この問題の解決に向けて国連会議でどのような議論・交渉が行われているかを理解します。さらに、パリ協定において重視されている非国家主体が進めている脱炭素社会に向けた様々な取り組みと意義について理解を深めていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 深刻化する気候変動問題	講義の進め方 気候変動問題とは
2	気候変動の科学①	IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第 5 次評価報告書が示す将来予測、炭素予算など
3	気候変動の科学②	予測される気候変動の影響
4	国連気候変動枠組み条約と国際交渉	国際的な気候変動交渉の流れ
5	京都議定書下での政策動向	法的拘束力を持つ削減目標と柔軟性メカニズム
6	パリ協定の成立	国際合意の難しさ、全員参加型の気候変動対策、脱炭素に向けた取り組み
7	パリ協定下での各国の政策動向	主要各国の気候変動・エネルギー政策
8	日本の気候変動・エネルギー政策	日本の中長期目標と課題、世界からの評価
9	非国家主体による気候行動①	非国家主体による取り組みの重要性、リマ・パリ行動アジェンダ
10	非国家主体による気候行動②	世界の産業界の動向、意欲的な各種イニシアチブ
11	非国家主体による気候行動③	ESG 投資、化石燃料に対する投資引き上げ
12	世界のエネルギー政策	『脱炭素』を実現する世界のエネルギーのあり方
13	再生可能エネルギー普及拡大の動き	各国の再生可能エネルギー政策、企業などによる再生可能エネルギーの活用
14	試験、まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義資料は、次の授業までに必ず復習をしておきます。後の授業の理解度が高まります。

※ 気候変動は、裾野が広く且つ複雑な環境問題であるため、まずは企業の取り組みやエネルギーなど関心のあるところから学習を始め、少しずつ深掘りしていくことが重要です。下記の参考書を活用し、徐々に全体像をとらえるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

毎回、担当教員が作成した印刷資料を配布します。

【参考書】

- 小西雅子 『地球温暖化は解決できるのかーパリ協定から未来へ!』 岩波ジュニア新書、2016 年
- 諸富徹、浅岡美恵 『低炭素経済への道』 岩波新書、2010 年
- 植屋 治紀 『これからのエネルギー』 岩波ジュニア新書、2013 年
- 小宮山 宏、山田 興一 『新ビジョン 2050 地球温暖化、少子高齢化は克服できる』 日経 BP 社、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト含む）：50%

期末試験：50%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自らの考えを論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

担当教官の経験等に基づく国連会議の話題や企業の取り組み事例などが分かり易かったとの反応が多かったため、今年度もそうした内容を盛り込むように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は原則として、授業支援システム上に掲載します。それらを閲覧する場合はパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

環境マネジメントスタディーズⅡ（秋学期）の履修予定者は、本科目を事前に履修することを推奨します。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN300HA

環境マネジメントスタディーズⅡ

池原 庸介

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境マネジメントスタディーズⅠで学んだことをベースに、気候変動問題をはじめ、森林の違法伐採や水産物の過剰漁獲などの問題にも範囲を広げ、人間活動が地球環境に与えている負荷を理解し、持続可能な社会の実現に向けて求められる解決策、課題等について、演習（ゼミ）形式で理解を深めていきます。

【到達目標】

履修者は、人間活動が地球環境に与えている負荷の大きさを示す指標『エコロジカル・フットプリント』を用いて地球環境の実情を理解し、森や海を守り、気候変動問題を解決していくために何が必要かを自ら考えることができるようになります。

【授業の進め方と方法】

人間活動、特に企業活動や生活者の消費行動が、どのようなかたちで地球環境に負荷を与えているかに焦点を当て、毎回様々なトピックの資料を読み議論を行う演習（ゼミ）形式で理解を進めていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス エコロジカルフットプリント	LPI（生きている地球指数）、EF（エコロジカル・フットプリント）を通じて地球環境の現状を理解
2	気候変動問題の解決に向けて	パリ協定、脱炭素に向けた世界の取り組み
3	企業の温暖化対策①	企業の取り組みを評価する際に重視すべき視点
4	企業の温暖化対策②	発表とディスカッション
5	企業の温暖化対策③	発表とディスカッション
6	企業の温暖化対策④	発表とディスカッション
7	企業の温暖化対策⑤	発表とディスカッション
8	企業の温暖化対策⑥	発表とディスカッション
9	持続可能な森林資源の活用に向けて①	森を守る調達・消費行動
10	持続可能な森林資源の活用に向けて②	森を守る調達・消費行動
11	持続可能な森林資源の活用に向けて③	ロールプレイとディスカッション
12	持続可能な水産資源の活用に向けて①	海を守る調達・消費行動
13	持続可能な水産資源の活用に向けて②	海を守る調達・消費行動
14	試験、まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業の温暖化対策については、下記の【参考書】に示す『企業の温暖化対策ランキング』の報告書の中から関心のある業種を選び、少しずつ読み進めていきます。各社の取り組みレベルを見極める力が養われ、この分野の理解が深まります。

※ 気候変動は、裾野が広く且つ複雑な環境問題であるため、まずは関心のある分野から学習を始め、少しずつ深掘りしていくことが重要です。日ごろから、関連するニュースや記事などを読み、興味関心のある分野を増やしていくことも大切です。

【テキスト（教科書）】

原則として、担当教員が作成した印刷資料を配布します。

【参考書】

● WWF ジャパン『企業の温暖化対策ランキング』各編報告書（電気機器編、食料品編など）

※ 各編の報告書は、いずれもウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能。
<https://www.wwf.or.jp/activities/2017/10/1392731.html>

● WWF『生きている地球レポート 2016』

※ レポートは、ウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能。

<https://www.wwf.or.jp/activities/2016/10/1341727.html>

● 小西雅子『地球温暖化は解決できるのかーパリ協定から未来へ!』 岩波ジュニア新書、2016 年

【成績評価の方法と基準】

①平常点：50%

②期末試験：50%

①企業の環境対策について調査し発表します（調査するポイントなどについては、授業内であらかじめ解説します）。

②各回で取り上げた内容を通じて地球環境の実情を理解し、与えられた課題に対して自らの考えを論理的に展開しているかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

発表とグループディスカッション、ロールプレイなどを通じて、結果的にとても理解が深まったという声が多くあったため、今年度も継続してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は原則として、授業支援システム上に掲載します。それらを閲覧する場合はパソコンが必要です。また、発表資料の作成にもパソコンが必要。

【その他の重要事項】

環境マネジメントスタディーズⅠ（春学期）を事前に履修することを推奨します。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

HSS211LB

スポーツビジネス論Ⅰ

岩村 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：3～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるスポーツの意味と価値を、主にビジネスの側面から総合的に解説したい。オリンピックや、サッカー W 杯のような大きなイベントのメカニズムをはじめ、地域スポーツ振興、広告とスポーツの関係なども取り扱う。

【到達目標】

受講学生にとって、ビジネスとしてのスポーツを成立させている要因や、スポーツ団体の運営を支えるメカニズム、及び、今後のスポーツの展望について、体系的な知識の取得ができるように構成する。
スポーツがビジネスの考え方や手法を取り入れることで、運営基盤の強化など、良い側面が生まれると同時に、ゆきすぎた商業主義が弊害を生むこともある。その双方への理解が深まることを期待したい。

【授業の進め方と方法】

スポーツビジネスでの成功や失敗の実際事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ（放送や、権利など）について、特に重点的な講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代社会とスポーツ	「見るスポーツ」と「するスポーツ」 スポーツの世界
第 2 回	マーケティングとスポーツ	理論 なぜスポーツが注目されるか
第 3 回	スポーツビジネス、スポーツマーケティングの実際	大型スポーツイベントのケーススタディ 展望や問題点
第 4 回	スポーツ団体の運営の仕組み	各種競技団体の実態や課題
第 5 回	オリンピックの運営の仕組み	ビジネスとしてのオリンピック
第 6 回	ワールドカップ サッカーの仕組み	ビジネスとしてのワールドカップ
第 7 回	競技団体とスポンサー	企業のスポンサーシップ理論とスポーツ
第 8 回	広告会社の役割	広告会社のスポーツ部門の仕事
第 9 回	人気スポーツと財政基盤	野球、すもう、バレーボール、スケート、フェンシング、ラグビーなどの競技の個別分析
第 10 回	テレビなどのメディアとスポーツ	放映権とスポーツ番組 権利ビジネス
第 11 回	報道とスポーツ	ニュースとスポーツの関係
第 12 回	インターネット状況とスポーツビジネス	新しいメディアとスポーツ デジタルメディアとスポーツの振興の可能性
第 13 回	スポーツと消費者	マーケティングの問題意識とスポーツの接点
第 14 回	現代社会にとってのスポーツの意味	歴史と現在 スポーツビジネスの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常から、スポーツのビジネス側面に関心を持つこと。
資金の調達や、クラブ運営の方法、広告の活用など。
試合結果だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ネットなどでスポーツビジネスに関する情報や記事に目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第 6 版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義―スポーツはいかにして市場の商品となったか」創文企画

【参考書】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第 6 版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義―スポーツはいかにして市場の商品となったか」創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 30%、小テスト 30%、学期末の課題 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につき記載なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HSS212LB

スポーツビジネス論Ⅱ

岩村 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：3～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるか、を学ぶ。
授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。
受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論Ⅰ」の履修者が望ましい（条件ではありません）。

【到達目標】

受講者は、最新のスポーツビジネスの理論や知見を習得できる。
現在のスポーツ界が抱える課題の発見とその解決策を考案しながら、より深く、スポーツの状況を理解する。
一連のプレゼンテーション関連作業（企画書のまとめ方や、発表の仕方など）を通じ、発表スキルの習得の機会ともなる。

【授業の進め方と方法】

スポーツ界の抱える課題（東京オリンピックの成功、知られていないスポーツの今後の振興、メディアの活用など）に関し、それぞれの問題点を探る。課題の解決に向けての戦略や手法を学びとる。
また、編成したグループごとに（全員がどこかのグループに所属）、選択した課題へのソリューションを発見し、考えをまとめて発表することを通じ、実践的な理解を深めたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツビジネスの基本 スポーツを巡る課題の発見と設定	①スポーツチームの経営 ②メディアとのよりよい関係づくり ③スポンサーシップ ④そのほか
第 2 回	課題の解説①	スポーツビジネスの課題の発見 チーム編成の方法（解説） チームの運営と役割分担をどう行うか
第 3 回	課題の解説②	メディアリレーション （スポーツをメディアの関係）
第 4 回	課題の解説③	スポンサーシップ （スポーツとスポンサーの関係）
第 5 回	課題の解説④ 発表グループ分け	チーム編成 リーダーや役割分担の決定 テーマの決定 議論の進め方
第 6 回	プレゼンテーションの仕方	課題の認識 発表のまとめ方 発表の仕方
第 7 回	グループ発表①	実際の発表（一講義時に、2 から 3 グループ程度：以下同様） 質疑とコメント
第 8 回	グループ発表②	質疑とコメント
第 9 回	中間総括	スポーツを巡る課題の整理 プレゼンテーションのテクニックと必要なポイント
第 10 回	グループ発表③	質疑とコメント
第 11 回	グループ発表④	質疑とコメント
第 12 回	プレゼンテーションの総括 優秀チームの発表	課題の整理 発見点の整理と確認 コメント
第 13 回	スポーツビジネス理論に 何ができるか	現状のスポーツの課題と対応理論
第 14 回	職業としてスポーツを選択することの可能性	スポーツに関わる職業 統計 スポーツに関わるライフプラン設計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間以外に、個別のグループでの簡単な調整や準備が必要です。
受講登録人数にもよりますが、およそ、10 人程度で一つのグループを編成し、共同でプレゼンテーション（発表）を行うこととします。
グループには必ず参加してもらいます。

【テキスト（教科書）】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第 6 版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義―スポーツはいかにして市場の商品となったか」創文企画

【参考書】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第 6 版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義―スポーツはいかにして市場の商品となったか」創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 30%、グループ活動の参加状況 30%、小テスト 20%、グループ発表 20%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につき記載なし

OTR200HA

人間環境セミナー「持続可能な開発目標（SDGs）と私たち」

人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」（以下 SDGs）について、多様な分野で実現に向け取り組んでいる専門家の講義を受ける。それらを通じ、SDGs についての理解を深めると同時に、各人が自身の関心分野を切り口に、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。

【到達目標】

グローバルな射程を持ち、多様かつ一部は実現に困難が予想される目標も含んだ SDGs については、主に国際機関、政府や NGO / NPO が主体的に活動するものと思われがちである。しかし SDGs では、民間企業や市民がその担い手として重要であると認識されている。持続可能な社会について学ぶ当学部の学生として、① SDGs に関する基礎的な知識を持ち、人に説明することができるようになること、② SDGs にあげられた各種課題を「自分ごと」として捉えることができる当事者としての意識を涵養すること、が本セミナーの目標である。

【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、SDGs に関わって実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、受講者の SDGs や現代社会における課題に対する意識や理解が深まることが期待される。

受講者は各回にコメントペーパー（講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの）の記入と提出が求められる。

また、同時に可能な範囲でアクティブラーニングの要素を取り入れた回を設け、受講者の思い、考え、意見などを発信する機会も設ける予定である。担当：渡邊誠、小島聡、武貞稔彦

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	セミナーの目的、進め方等の説明。講義の全体像の解説。
第 2 回	セミナー	外部講師による講義
第 3 回	セミナー	外部講師による講義
第 4 回	セミナー	外部講師による講義
第 5 回	セミナー	外部講師による講義
第 6 回	セミナー	外部講師による講義
第 7 回	セミナー	外部講師による講義
第 8 回	セミナー	外部講師による講義
第 9 回	セミナー	外部講師による講義
第 10 回	セミナー	外部講師による講義
第 11 回	セミナー	外部講師による講義
第 12 回	セミナー	外部講師による講義
第 13 回	セミナー	外部講師による講義
第 14 回	試験	これまでのセミナー内容に関する試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：次週以降のテーマにつき自分なりの予備知識を得て、質問や意見等を用意しておく。

復習：講義で配布されたプリントや、聴講した内容について復習し、いっそうの理解や興味を深めていく。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント（資料）が配布される。

【参考書】

外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）：40%

テスト・レポート：60%

なお、原則として、4 回以上無断で欠席した者は、成績評価を行わない。

講義中のスマートフォンの使用は禁止する（授業改善アンケートへの回答作業は除く）。パソコン・タブレットの使用については許可制とする。ルールを守らない場合は、平常点で減点対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選ぶ。

【その他の重要事項】

講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。

本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および学部ウェブサイトで発表する。

なお、来年度以降のセミナー開催予定については「履修の手引き」に掲載している。

人間環境セミナー「グローバル人材の就職」

人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル人材の育成と採用および活用について、その実際を知る。

【到達目標】

いま政府はグローバル人材の育成や採用について、積極的に発言し、政策化している。そうした動きが出てきたのは 2010 年前後のことである。もちろんそれ以前にもあったが、具体的な政府の行動として現れたのはそのころのことであった。その後、日本人留学生や外国人留学生の採用や活用が活発化し、多かれ少なかれ、いま学生はそのことを意識せざるを得ない状況に置かれている。そうしたなかで、グローバル人材の採用や活用の実態を知ること、それがいかに学生たちのキャリア形成につながるのかを考えること、それが本セミナーの目標である。

【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、企業の採用人事に関係する部署、人材サービス会社で活躍しておられる方々、およびグローバル人材として活躍しておられる方々を講師にお招きし、グローバル人材の採用や活用の実際について、経験に基づいてグローバル人材活用の実際だけでなく、それにかかわる考え方、見方等についてもお話しいただく。学生の積極的な参加による質疑応答を通して、グローバル人材の育成や採用、活用について何を学べるのか、それを学生が今後のキャリア形成にどうつなげられるのかについて考える。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	セミナーのねらいと進め方、各回の講師と講義タイトルの紹介（担当：長峰・長谷川）
第 2 回	グローバル人材入門	グローバル人材の採用や活用にかかわる歴史的な流れや、過去 10 数年の政府や企業の動きについて学ぶ。（担当：長峰・長谷川）
第 3 回	金融 1	金融業界における実情について：外部講師による講義
第 4 回	金融 2	前週の続き：外部講師による講義
第 5 回	商社 1	商社における実情について：外部講師による講義
第 6 回	商社 2	前週の続き：外部講師による講義
第 7 回	電機メーカー 1	電機メーカーにおける実情について：外部講師による講義
第 8 回	電機メーカー 2	前週の続き：外部講師による講義
第 9 回	電機メーカー 3	前週の続き：外部講師による講義
第 10 回	百貨店	百貨店における実情について：外部講師による講義
第 11 回	スーパー	スーパーにおける実情について：外部講師による講義
第 12 回	人材サービス業 1	人材サービス業における実情について：外部講師による講義
第 13 回	人材サービス業 2	前週の続き：外部講師による講義
第 14 回	グローバル人材の採用と活用を総合的にみる	これまでの講義を通して学んだことを振り返り、将来のキャリア形成にどうつながるのか考える。（担当：長峰・長谷川）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示された参考資料を事前に学習し、各回の授業で講師から配布された資料を復習して理解し、次週の授業での質問等に応じられるよう準備すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて講師の方々が提供する資料を配布し、使用する。

【参考書】

上記と同じ。

【成績評価の方法と基準】

受講生には毎週短いコメントペーパーを書いてもらう。また、最後にはレポートも書いてもらう（レポートのテーマは授業で指示する）。評価は毎時間のコメントペーパー（40%）とレポートの内容（40%）、および平常点（20%）でおこなう。なお、4 回以上無断で欠席した者、レポート未提出の者は、成績評価の対象にならない。

【学生の意見等からの気づき】

初めてのテーマであるため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

学生のみさんには十分に関心が持てる内容になると考えます。講師の話をよく聞き、積極的に質問するようにしてください。

ただし、企画後、お願いしている講師の方々が配置転換や遠隔地への転勤などで予定していた講義ができなくなり、企画変更が余儀なくされることも予想されます。それは避けたいことでもあり、その結果、企画に変更が生じることもあることは留意してください。

なお、セミナーの詳しいテーマ及び外部講師、あるいは変更等については、掲示板及び学部ウェブサイトで発表します。とくにウェブサイトは適宜チェックするようにしてください。

人間環境セミナー「野鳥を通して考える人と社会の未来」

人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域の自然環境を最も実感しやすい物差し生物である“野鳥”をテーマとし、野鳥と人間活動や地域社会との共生と軋轢に関わる様々な様相を学ぶことを通して、自然と人・社会の望ましい関係について学ぶことを目的とします。

【到達目標】

以下の 3 点を目標とします。

- ①野鳥を取り巻く様々な問題や取り組みに関して知識を得、その要点を理解すること。
- ②事例等を通して多角的な視点から自然と人・社会の関係を捉えること。
- ③自然と人・社会との持続的な共生に向けて、今後の望ましい在り方について考えを深めること。

【授業の進め方と方法】

この講義では、公益財団法人日本野鳥の会等の専門家をお招きして、具体的なトピックスについての講演を聴講します。各講師の豊かな経験と知見に触れることで、受講者の視野が広がることを期待しています。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	セミナーのねらいと進め方、各テーマの説明、日本野鳥の会や日本の野鳥の概要など本セミナー受講に当たっての基本的なこと
第 2 回	野鳥観察から始まる環境保護	日本野鳥の会の歴史、野鳥観察の楽しみ、野鳥の視点から地域の環境について考える
第 3 回	なぜ野鳥が密猟されるのか	密猟の背景、密猟との闘いの歴史、密猟撲滅の取り組み、日本以外の実態など
第 4 回	地域に根差したバードサンクチュアリ（野鳥の聖域）作り	日本野鳥の会による日本初のサンクチュアリづくりから今日まで、環境学習の取り組み、地域の文化・社会との関わりなど
第 5 回	ツルと人間との共生	北海道でのタンチョウ保護活動、九州・四国に飛来するマナヅル、ナベヅルの生態とその保全など
第 6 回	コウノトリを育む地域社会	兵庫県豊岡市におけるコウノトリを核とした地域づくりの取り組みとその課題など
第 7 回	人の英知で希少種の絶滅回避に挑む	北海道のシマフクロウ、伊豆諸島のカンムリウミスズメとアカコッコなど、なぜ絶滅に瀕しどう保全するのか
第 8 回	渡り鳥を守る国際的な取り組み	水鳥と草原性の鳥をめぐる課題と取り組み、ラムサール条約・渡り鳥条約・フライウェイ等の国際的な取り組みなど
第 9 回	里山とオオタカ・サシバ	里山の自然、オオタカの減少と回復、地域とオオタカとの共生など
第 10 回	放射線による野鳥への影響	原子力発電所の事故と鳥類・自然環境・地域社会への影響について
第 11 回	野鳥から見た自然再生エネルギー	風力発電による野鳥への影響と取り組み、メガソーラー事業と野鳥、自然再生エネルギーの今後など
第 12 回	鳥インフルエンザと野鳥保護	鳥インフルエンザとは何か、野鳥との関わり、私たちはどう対処すべきかなど
第 13 回	野鳥を守る仕組み	鳥獣保護管理法・種の保存法・生物多様性基本法・環境アセスメントなどの日本における野鳥と関わる法制度の仕組みなど
第 14 回	試験	各回の講師が示したポイントや問題となっている要点等について筆記試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で配布されたプリント、講義の内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。外部講師が必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

参考書は外部講師が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、平常点 50 %、期末試験 50 %です。
出席は毎回とります。10 分以上の遅刻・早退・途中退室は欠席扱いとします。
4 回以上の欠席は成績評価の対象外となりますので注意してください。

また講義中の携帯電話・スマートフォンの使用は禁止です。注意に従わない場合は減点または欠席扱いとなることがあるので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講演後に講師への質問の時間が設けられますので、積極的に質問してください。講師の方々は丁寧に回答くださいますので、理解を深められるはずです。なお、外部講師の都合で講師やテーマの内容が変更、および順序が変わることがあります。

フィールドスタディ

人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外のさまざまな「現場（フィールド）」を訪問し、人間環境学部での多様な学びに関連するテーマについて、直接的に触れ、実習を行う。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育プログラムであり、課題解決型学習（PBL）のひとつでもある。

【到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、当該フィールドにおけるトピックス、テーマに関する知識を習得するとともに、人間環境学部で学ぶ自らの問題意識を高めることができること。

【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会などを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第 2 回～	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第 4 回		現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計 4 日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には 1 週間から 10 日前後に及ぶこともある。
第 5 回～	現地実習・観察	現地体験の総括講義、報告会等。
第 10 回		
第 11 回	事後講義	
～第 13 回		
第 14 回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【テキスト（教科書）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。
参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合には、原則として費用は返還されない。

キャリアチャレンジ

人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部が協定を結んだ団体先へのインターンを通して、その団体の活動内容とその背景を理解するとともに、キャリア形成に資する知識、経験を身につける。

【到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

本科目は、人間環境学部が独自に連携する自治体、NPO等の団体に研修派遣するインターンシップ型の科目であり、自分で研修先を見つける科目である「インターンシップ」とは異なります。本科目は学生自身が現地に行き、受け入れ団体の研修プログラムに参加します。現地実習は夏期休暇中と春期休暇中に行い、授業実施期間に学内で事前研修と事後研修を行います。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	キャリアチャレンジ説明会（春・秋セメスターで各一回行います）	履修を希望する場合、必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、単位取得はできません。
第 2 回	キャリアチャレンジ・事前研修	キャリアチャレンジの内容についての事前研修を行います。内容については受け入れ団体によって異なります。
第 3 回～	キャリアチャレンジ実習	受け入れ団体での研修。
第 12 回		
第 13 回	キャリアチャレンジ・事後研修（1）	キャリアチャレンジの内容についての事後研修を行います。内容は受け入れ団体によって異なりますが、主に研修内容のプレゼンテーションを行います。
第 14 回	キャリアチャレンジ・事後研修（2）	事後研修会におけるプレゼンテーションを踏まえて、レポートの提出、および講評会を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集（参考文献や資料）を行い実習の効果を高めることが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

個別に指導します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80％）・レポート（20％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、参加した学生からの意見や要望を考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【その他の重要事項】

自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を考えている学生に推奨し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。

「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、2017 年度から「選択必修科目」（6 単位）の対象科目になります。

OTR400HA

研究会修了論文

人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：4年／2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Aタイプ研究会を原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆することが目標となる。

【授業の進め方と方法】

各A研究会の中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	同上
第4回	テーマの設定と構成③	同上
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	同上
第7回	資料の収集③	同上
第8回	資料の収集④	同上
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	同上
第11回	情報の整理③	同上
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	同上
第14回	執筆③	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【関連の深いコース】

すべてのコース

OTR400HA

コース修了論文

人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：4年／2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、コース修了論文を執筆することが目標となる。

【授業の進め方と方法】

指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	同上
第4回	テーマの設定と構成③	同上
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	同上
第7回	資料の収集③	同上
第8回	資料の収集④	同上
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	同上
第11回	情報の整理③	同上
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	同上
第14回	執筆③	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コース修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②コース修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、コース修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。
- ③Aタイプ研究会受講者は登録できない。

【関連の深いコース】

すべてのコース

Co-creative Workshop A I

竹原 正篤

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop provides multidisciplinary learning for dealing with the significant development challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and Japanese students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop project together. In this workshop, participants will tackle sustainability issues which involve business and their stakeholders. Through group work, students will come up with viable solution for the sustainability issues.

Examples of the cases discussed in previous workshop include:

A global hamburger chain company faces criticism for destroying the environment in developing countries by unsustainable farming. This is beginning to impact on their hamburger sales. As CSR manager for the company, you need to work with company's stakeholders to solve this problem. Students were divided into four teams and discussed to come up with viable solution.

【到達目標】

By the end of the semester, students should be able to:

- (1) identify and analyze sustainability problems,
- (2) interact proactively and collaborate among diverse participants
- (3) reach and design collaborative solutions

【授業の進め方と方法】

Students will participate in the group work with diverse fellow learners. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to obtain solutions. Opportunities for concentrated efforts to research and effective presentations will be also given.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Ice-breaking and introduction of participants, selection if necessary.
Week 2	Basics	Basic knowledge in corporate sustainability
Week 3	Case No.1(1) Issue Introduction	Issue Introduction to case (problem) No.1 and defining the issue
Week 4	Case No.1 (2) Stakeholders	Stakeholder analysis
Week 5	Case No.1 (3) Problem analysis	Analyze the issue focusing on causal relationship
Week 6	Case No.1 (4) Solution	Generate ideas and reach collaborative solution
Week 7	Case No.1 (5) Business Project Design	Design realistic and effective business projects to solve sustainability issue
Week 8	Case No.1 (6) Presentation In class	Presentation of solutions and feedback from participants
Week 9	Case No.2 (1) Issue Introduction	Issue Introduction to case (problem) No.2 and defining the issue
Week 10	Case No.2 (2) Stakeholders	Stakeholder analysis
Week 11	Case No.2 (3) Problem Analysis	Analyze the issue focusing on causal relationship
Week 12	Case No.2 (4) Solution	Generate ideas and reach collaborative solution
Week 13	Case No.2 (5) Business Project Design	Design realistic and effective business projects to solve sustainability issue
Week 14	Case No.2 (6) Presentation In class	Presentation of solutions and feedback from participants

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials, to do necessary research and to prepare for contributing to group work.

【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in the class.

【参考書】

Additional resources will be introduced in the class,if necessary.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of active class participation (30%), contribution to the group work and presentations (40%), and submit of reflection sheet (30%).

Note that students who miss 4 classes or more cannot receive credit.

【学生の意見等からの気づき】

Multiple student comments for 2017 workshop emphasized the importance of proactive contribution to the group work.

Free riding will not be tolerated so students who plan to take this workshop should make sure they will actively participate in the group work and entire class activities.

【学生が準備すべき機器他】

When group work starts, students often need to use laptop computers.

【その他の重要事項】

(1)As all the classes and group works will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties.

(2)Please note selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students who are interested in taking this workshop should attend the first class.

Co-creative Workshop A II

竹原 正篤

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop provides multidisciplinary learning for dealing with the significant challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop project together. In this class, participants will discuss sustainability issues in the field of “Business” and try to come up with solutions through various group work. Examples of cases students will tackle in the workshop are: (1) achieving local revitalization in rural area by tackling social problems with social business type of approach, and (2) ensuring environmental and social sustainability in global supply chain of companies.

【到達目標】

By the end of the semester, students should be able to:

- 1) identify and analyze sustainability problems in given cases,
- 2) interact proactively and collaborate with diverse participants,
- 3) reach and design collaborative solutions and present in the class,
- 4) share various solutions in the class for further discussion of the issues.

【授業の進め方と方法】

Students will participate in the group work with diverse fellow learners. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to obtain solutions. Opportunities for concentrated efforts to research and effective presentations will be also given. Methods and Schedule will be subject to change based on discussion with participants.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Ice-breaking and introduction of participants, selection if necessary.
2	Basics	Basic knowledge in business environment
3	Case No.1(1) Issue	Introduction to case (problem) No.1 and defining the issue
4	Case No.1 (2)Stakeholders	Stakeholder analysis
5	Case No.1 (3)Problem analysis	Analyze the issue focusing on causal relationship
6	Case No.1 (4)Solution	Generate ideas and reach collaborative solution
7	Case No.1 (5)Presentation	In class presentation of solutions and feedback from participants
8	Case No.2 (1) Issue	Introduction to case (problem) No.2 and defining the issue
9	Case No.2 (2)Stakeholders	Stakeholder analysis
10	Case No.2 (3)Problem Analysis	Analyze the issue focusing on causal relationship
11	Case No.2 (4)Objective Analysis (Project Design)	Analyze the objectives to solve the issue and design the project
12	Case No.2 (5)Solution	Generate ideas and reach collaborative solution
13	Case No.2 (6)Presentation	Presentation of solutions and feedback from participants
14	Summary and reflection	Reflection on interaction and group works for further study

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials, to do necessary web-site research and to prepare for contributing to group work.

【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in the class.

【参考書】

Additional resources will be introduced in the class, if necessary.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), performance in the group work (30%), presentations and over-all contribution to the class (40%).

Please note that students who miss 4 classes or more cannot pass the subject.

【学生の意見等からの気づき】

Collecting students' on-going feedback, progress of the class might change.

【学生が準備すべき機器他】

As students will be asked to make discussion summary each week, bringing personal computers are expected.

【その他の重要事項】

(1) Note that selection may be done in the first class if the number of participants is too large. Students interested in participating should attend the first class.

(2) As all the classes and group works will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties to keep up with the class. In that case, students are expected to make additional efforts to improve their English skills.

Co-creative Workshop B I

松村 智雄

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop provides multidisciplinary learning for dealing with the significant development challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and Japanese students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop projects together. In this class, participants will discuss the globalized world based on "Utopia for Realists: The Case for a Universal Basic Income, Open Borders, and a 15-Hour Workweek" by Rutger Bregman (Dutch historian). He argues that the remedies for contemporary global inequality are as appeared in the title of his book. Participants will read and understand his arguments. However, the most important is to critically discuss his arguments through own research in class. Students will collaborate (in pair work and/or group work) to understand problems concerning these issues and propose prescriptions based on academic research.

【到達目標】

By the end of the semester, students are expected to be able to:
 a. identify and analyze sustainability problems.
 b. interact proactively and collaborate among diverse participants.
 c. propose prescriptions based on academic research.

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group work with diverse fellow learners. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to obtain solutions. Opportunities for concentrated efforts to research and effective presentations will be also given. Methods and Schedule will be subject to change based on discussion with participants.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	orientation	ice-breaking and introduction of participants, practice of group work
2	basic income and work style 1	reading the text by Rutger Bregman on basic income, understanding the contents precisely
3	basic income and work style 2	further discussion, using visual materials and reading the text
4	basic income and work style 3	reading on work style that Rutger Bregman argues.
5	basic income and work style 4	preparation for the presentation on the arguments by Rutger Bregman (presentation training)
6	basic income and work style 5	presentation on the viewpoints of Rutger Bregman.
7	open borders 1	reading the text on "open borders"
8	open borders 2	continue reading the text and understanding the author's viewpoints
9	open borders 3	presentation guided by the instructor (learning basic skill of presentation)
10	open borders 4	presentation on the idea of "open borders" (learning basic skill of presentation)
11	pair work 1	exploring further information on basic income, work style, and open borders for eliminating global inequality in pair work
12	pair work 2	continue the research and writing paper in pair work for sharing knowledge amongst all the participants
13	group work	preparation for the presentation based on the research conducted in the previous pair work with purpose of considering solutions for global inequality
14	final presentation	presentation of each group. The general theme is "solutions for global inequality"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials, to do necessary research and to prepare for contributing to group work.

【テキスト（教科書）】

Rutger Bregman, 2016, Utopia for Realists: The Case for a Universal Basic Income, Open Borders, and a 15-Hour Workweek, Correspondent.

【参考書】

Additional resources will be introduced in the class.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), performance in the group works (20%), and presentations (50%).

【学生の意見等からの気づき】

More organized discussion time for pair work and group work.

OTR200HA

Co-creative Workshop B II

松村 智雄

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Co-existence in the multiethnic society: Southeast Asia. Southeast Asia has an astounding diversity in ethnic, religious and other factors. The area which has welcomed various immigrants from China, India, Middle East, European countries, Japan and other areas in the world, has developed its own logic which is essential for the sustainable coexistence in diversity, circumventing conflicts. This course consists of reading texts on ethnic and religious coexistence in Southeast Asia and discussion so that we all together understand the problems to be solved in current Southeast Asia and consider possible prescriptions to tackle the problems.

【到達目標】

By the end of the semester, students are expected to be able to

- identify and analyze sustainability problems.
- interact proactively and collaborate among diverse participants.
- propose prescriptions based on academic research

【授業の進め方と方法】

Students will participate in the group work with diverse fellow learners. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to obtain solutions. Opportunities for concentrated efforts to research and effective presentation will be also given. Methods and schedule will be subject to change based on discussion with participants.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	diversity of Southeast Asia 1	introduction of Southeast Asia
2	diversity of Southeast Asia 2	Islam in Southeast Asia
3	reading papers 1	introduction: Islam and cultural diversity in Southeast Asia
4	reading papers 2	the case study of migration from South Thailand to Malaysia
5	reading papers 3	Islamic basic education in Thailand where Muslims are minority
6	reading papers 4	Muslim face-veiling in the Da'wa movement
7	reading papers 5	controversy of universal human rights versus local perceptions and Muslim gender practices in the Philippines
8	reading papers 6	the re-emergence of Islam in the context of Muslim separatism
9	reading papers 7	the case of the Rohingya refugees in Malaysia
10	reading papers 8	Islamic financial institutions and CSR activity
11	preparation for the presentation 1	students prepare materials for the presentation
12	preparation for the presentation 2	students prepare materials for the presentation
13	presentation 1	presentation and discussion
14	presentation 2, concluding remarks	presentation and discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials, to do necessary research and to prepare for contributing to group work.

【テキスト（教科書）】

Ikuya Tokoro ed. Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia, Research Institute for Languages and Cultures of Asia Africa (ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies, 2015. (copies of papers are distributed as needed.)

【参考書】

Additional resources will be introduced in the class.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), performance in the group works (20%), presentations (50%).

【学生の意見等からの気づき】

new class in 2017-18

OTR200HA

Field Workshop

人間環境学部教員

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

A "field workshop" is designed to explore a particular capacity-building environment about sustainability off-campus. Participating students in a field workshop will visit one of the distinctive facilities in different parts of Japan or elsewhere and meet the people who are engaged in various "real" issues.

【到達目標】

Students will be able to understand better how to relate classroom knowledge and skill to real-life agenda through a field workshop.

【授業の進め方と方法】

Each field workshop consists of both a field trip itself and ex-ante and ex-post on-campus classes held for preparations and appraisals. Since field workshops differ from one another in their content, applicants are advised to find detailed information about each field workshop when announced.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Outlines of a field workshop
2-4	Preparatory classes	Advance knowledge and preparation of the field workshop
5-11	Fieldwork	Minimum requirement of 4 day stays on site. The program's total trip days may stretch to a week or so depending upon locations of the sites and its content.
12-13	Ex-post classes	Reviews and reflections
14	Report Writing	Writing and submitting an assigned report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Appropriate instruction is provided in orientation, etc.

【テキスト（教科書）】

Same as above.

【参考書】

Same as above.

【成績評価の方法と基準】

Same as above.

【学生の意見等からの気づき】

No comments are to be collected for field workshops.

【その他の重要事項】

Participants have to bear the costs of transportation, lodging, insurance, etc.

Cancellation of the participation is, in principle, not allowed after the enrollment is finalized. Furthermore, there is no refund made for the paid expenses if the cancellation is due to personal reasons.

In addition, this course is to be canceled if there is no participant from SCOPE.

OTR400HA

SCOPE Seminar

佐伯 英子

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Sociology of Gender

This course explores the meanings of sex and gender, and deepens our understanding of how they affect the experiences of people in society.

【到達目標】

Through gender perspectives, this course aims to critically engage with the ways in which masculinity and femininity have been constructed socially, politically, culturally, and historically. By tracing life course of men and women, we will elucidate the significance of gender in our everyday lives. By examining historical changes, international comparisons, and data and cases from Japan, we will aim to cultivate critical perspectives that challenge typically taken-for-granted perceptions about gender.

【授業の進め方と方法】

Each class consists of a short lecture, students' presentations on assigned readings, and discussions.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Overview of the course
Week 2	Socialization in early childhood	How we learn to "do gender"
Week 3	Education	Hidden curriculum in schools
Week 4	Gender and sexuality	How the gender norms and heteronormativity are linked
Week 5	Popular culture and media	Representation of men and women
Week 6	Work	Paid work and unpaid work; segregation and inequality
Week 7	Family	Gendered division of labor in household; Housework and parenting
Week 8	Mid-term presentations	Student presentations on individual project
Week 9	Reproduction	Reproductive health and rights
Week 10	Globalization	Marginalization of women in the global capitalist economy
Week 11	Violence	Myths and reality about intimate and sexual violence
Week 12	Feminism	Challenges to the status quo and movement for gender equality
Week 13	Presentations	Oral presentations of research projects
Week 14	Conclusion	Reflections and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read assigned articles and complete assignments in a timely manner.

【テキスト（教科書）】

Texts will be assigned during the class.

【参考書】

Kimmel, Michael. 2016. The Gendered Society. Cary, NC: Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

Participation 30%; presentations on the reading 20%; individual project 50%

【学生の意見等からの気づき】

n/a (This seminar will be offered for the first time)

【学生が準備すべき機器他】

n/a

【その他の重要事項】

In order to have access to all the information and course materials necessary, everyone taking this course is required to sign up in the H'etudes (<https://hcms.hosei.ac.jp/portal>). All the assignment must be submitted through this website. I may also send occasional announcements and messages as well. For this reason, it is critical that you check your university email account regularly and actively use this website.

OTR400HA

SCOPE Seminar

佐伯 英子

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Gender and Society

Through gender perspectives, this course aims to critically engage with the ways in which masculinity and femininity have been constructed socially, politically, culturally, and historically. This course explores the meanings of sex and gender, and deepens our understanding of how they affect the experiences of people in society. By examining historical changes and international comparisons, we aim to cultivate critical perspectives that challenge typically taken-for-granted perceptions about gender.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students will be able to:

1. Learn how to examine society through a gender perspective.
2. Decipher the ways in which social institutions and representations of groups and individuals are drawn from socio-cultural assumptions about gender.
3. Understand how social class, race/ethnicity, and sexuality shape gender.
4. Define terms and concepts critical to the field of gender studies.
5. Apply such concepts to their individual experiences and to the broader society.
6. Communicate effectively about gender issues in both writing and speech, drawing upon reading materials, discussions, and lectures.

【授業の進め方と方法】

Each class meeting consists of discussions and activities led by discussion leaders (assigned in the beginning of the semester) as well as short lectures by the instructor. As a preparation for the seminar, all students will read selected reading materials each week and write short reflections on the course website (a paragraph or longer). In addition to full class participation, students are required to complete writing assignments and oral presentations associated with individual research project.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Overview of the course; What is gender?; What is femininity and what is masculinity?
Week 2	Representation of gender in media	Student presentations and lecture about how femininity and masculinity are represented in various media
Week 3	Socialization	How we learn to "do gender"; how children learn their expected gender performance through their toys, clothes, and interactions with others
Week 4	Education	Formal and hidden curriculums; history of home economic classes; treatment of girls and boys in school; representations of gender in textbooks; gender dynamics among educators
Week 5	Gender and sexuality	Compulsory heterosexuality; sexualization and objectification of the young female body; physiological making, gender identity, and sexual orientations; LGBTQ experiences
Week 6	Workshop on body image, gender, and representation	Preparation for body image presentations on the Week 7
Week 7	Body image	Student presentations on the analysis of women's magazines; beauty ideals and market; eating disorder
Week 8	Reproductive health and rights	Contraceptives and abortion rights; pronatalism; eugenics and forced sterilization
Week 9	Work	Regular and irregular employment; M-curve; income inequality; ideals and realities on equal opportunity; harassment at workplace; death by overwork; declining birthrate and issues of work

Week 10	Family	Gendered division of labor; paid and unpaid labor; socialization
Week 11	Violence	Sexual crime and violence; intimate violence; violence in public place; attack on victims; rape myths
Week 12	Feminism	Women's political participation in a historical perspective; history of feminism in Japan and abroad; feminism today
Week 13	Student presentations	Oral presentations of individual research project
Week 14	Conclusion	Reflection and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Understanding of materials through discussions is one of the most important aspects of learning experience in this course. For this reason, it is crucial that students come to class on time, having read the assigned materials (and complete writing assignments when specified), and fully prepared to participate.

【テキスト（教科書）】

Texts will be assigned during the class.

【参考書】

Connell, R. W. 2014. Gender: In World Perspective. New York: Polity.
Fujimura-Fanselow, Kumiko (editor). 2011. Transforming Japan: How Feminism and Diversity Are Making a Difference. The Feminist Press at CUNY.

Kimmel, Michael and Amy Aronson (editor). 2000. The Gendered Society Reader. New York: Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

Participation in class 30%

Writing assignments 20%

Individual research project 50%

(Proposal 5%; Bibliography assignment 5%; 1st draft 15%; Final presentation 10%; Final draft 15%)

【学生の意見等からの気づき】

n/a (This course will be offered for the first time)

【学生が準備すべき機器他】

n/a

【その他の重要事項】

In order to have access to all the information and course materials necessary, everyone taking this course is required to sign up in the course website, H'etudes (<https://hcms.hosei.ac.jp/portal>). All the assignments must be submitted through this website. I may also send occasional announcements and messages as well. For this reason, it is critical that you check your university email account regularly and actively use this website.

OTR400HA

SCOPE Seminar

竹原 正篤

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We human being are facing serious problems such as environmental degradation, poverty and various forms of inequalities. Governments alone cannot solve those problems anymore, therefore there is growing expectation for businesses and civil society to play more important roles to solve those problems. Under such circumstances, increasing numbers of global companies are tackling those problems as their business, together with their stakeholders to accelerate the transition to a more sustainable world. Companies are uniquely positioned to work with their stakeholders across their value chains to deliver high-impact business solutions to the challenging sustainability issues. Through this seminar, we learn various efforts of global companies on challenges on earth, how they are creating shared values(CSV) with their stakeholders and enhancing their corporate values. We will also make a comparative study of sustainability strategy of US, European, Asian and Japanese companies.

【到達目標】

This course offers students opportunities to have deeper understanding of global sustainability and the role of business. More specifically, we aim at achieving following goals.

- (1) Learn global sustainability challenges and how companies are maximizing their competitive advantage by tackling social and environmental problems.
- (2) Train logical thinking skill to consider systematically by setting agenda individually and collecting, analyzing necessary information
- (3) Train skill to form our own opinion and effectively communicate to others.

【授業の進め方と方法】

The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. During the first half of the seminar, to acquire basic knowledge on global sustainability and role of companies, we will review several sustainability reports issued by major global companies, and related literatures/reports. (The summary of those materials will be reported by students). During the second half of the seminar, students will conduct research on a topic of their interest and are expected to share the research findings with other members of the seminar.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course
2	Reading academic literatures 1	Short lectures and discussions
3	Reading academic literatures 2	Short lectures and discussions
4	Reading academic literatures 3	Short lectures and discussions
5	Reading academic literatures 4	Short lectures and discussions
6	Reading academic literatures 5	Short lectures and discussions
7	Reading academic literatures 6	Short lectures and discussions
8	Reading academic literatures 7	Short lectures and discussions
9	Student presentations 1	Student presentation and discussions
10	Student presentations 2	Student presentation and discussions
11	Student presentations 3	Student presentation and discussions
12	Student presentations 4	Student presentation and discussions
13	Student presentations 5	Student presentation and discussions
14	Student presentations 6	Student presentation and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to attend each class fully prepared and complete all assignments on time.

【テキスト（教科書）】

Materials will be disseminated in class.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Attendance and active participation: 50%
Presentations 50%

【学生の意見等からの気づき】

Unlike lecture, seminar can be more flexible therefore student's positive participation and constructive feedback is important to make the seminar more productive. Based on our learning in 2017 seminar, we will be aiming at being more proficient in using theoretical framework to analyze corporate sustainability topic.

【学生が準備すべき機器他】

As students are required to make presentation in the seminar, laptop computer is necessary.

【その他の重要事項】

In this seminar, all discussions will be conducted in English therefore students who are thinking of taking this seminar need to have advanced English communication skills.

OTR400HA

SCOPE Seminar

竹原 正篤

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar offers students opportunities to acquire knowledge and skill to analyze the role of business to contribute to global issues described in the SDGs, U.N. Sustainable development Goals. As governments alone cannot solve those problems such as climate change, poverty and various forms of inequalities, there is growing expectation for businesses and civil society to play more important roles. Companies are uniquely positioned to work with their stakeholders across their value chains to deliver high-impact business solutions to the challenging sustainability issues. Through this seminar, we learn various efforts of global companies on challenges on earth, how they are creating shared values(CSV) and enhancing their corporate values.

【到達目標】

We aim at achieving following goals:

- (1) Learn global sustainability challenges and how companies are creating shared values(CSV) and enhancing their corporate values.
- (2) Train logical thinking skill to consider systematically by setting agenda individually and collecting, analyzing necessary information
- (3) Understand the importance of theory or theoretical framework and actually utilize them to gain insight.

【授業の進め方と方法】

The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. During the first half of the seminar, to acquire basic knowledge on global sustainability and role of companies, we will review several sustainability reports issued by major global companies, and related literatures/reports. (The summary of those materials will be reported by students). During the second half of the seminar, students will conduct research on a topic of their interest and are expected to share the research findings with other members of the seminar.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation Reading academic literatures 1	Introduction to the course Short lectures and discussions
2	Reading academic literatures 2	Short lectures and discussions
3	Reading academic literatures 3	Short lectures and discussions
4	Reading academic literatures 4	Short lectures and discussions
5	Reading academic literatures 5	Short lectures and discussions
6	Reading academic literatures 6	Short lectures and discussions
7	Reading academic literatures 7	Short lectures and discussions
8	Student presentations 1	Student presentation and discussions
9	Student presentations 2	Student presentation and discussions
10	Student presentations 3	Student presentation and discussions
11	Student presentations 4	Student presentation and discussions
12	Student presentations 5	Student presentation and discussions
13	Student presentations 6	Student presentation and discussions
14	Student presentations 7	Student presentation and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to attend each class fully prepared and complete all assignments on time.

【テキスト（教科書）】

Materials will be disseminated in class.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Active participation: 50% Presentations 50%

【学生の意見等からの気づき】

Based on our learning in 2017 fall seminar, we will be aiming at being more proficient in theoretical framework to analyze corporate sustainability topic.

【学生が準備すべき機器他】

As students are required to make presentation in the seminar, laptop computer is necessary.

【その他の重要事項】

In this seminar, all discussions will be conducted in English therefore students who are thinking of taking this seminar need to have advanced English communication skills.

Unlike lecture, seminar can be more flexible therefore student's positive participation and constructive feedback is important to make the seminar more productive.

OTR400HA

研究会 (A)

朝比奈 茂

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「なぜ人間は○○○だろうか？」といった素朴な疑問をもとに、文献資料より人間の生理的・心理的な仕組みや働きについて調査し、自らが問題を提示し解決しようとする理論と方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 研究テーマを選定し、レポート内にて自分の意見を述べることができる。
2. 文献購読をし、その内容をまとめ、ゼミ員に対して発表できる。
3. グループ内で、ディスカッションができる。

【授業の進め方と方法】

設定したテーマに関する資料や文献を収集し、問題点や疑問点を列挙し、グループ内で共有する。グループ内では、集まった多くの情報を統合して、最終的にグループの意見として発表し、レポートを作成する。

授業は主に SGD（スモールグループディスカッション）形式を用いて行う。全体では毎回一人ずつ、全員の前で文献（日本語、英語どちらも良い）講読を行い、発表の技術を身につける。グループそれぞれが目標やテーマを決め、調査および討論を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要、ねらい、到達目標を明示し、年間スケジュールの確認を行う。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第 2 回	文献検索、プレゼンテーション、レポート作成	テーマ選びから文献検索、プレゼンテーション、レポート作成に関する説明を行なう。
第 3 回	テーマ設定、意見交換	グループ分けを行い、役割分担を決める。
第 4 回	文献講読、意見交換	今後の計画を立てる。グループワークを行う。
第 5 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。グループワークを行う。
第 6 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。グループワークを行う。
第 7 回	中間発表	文献を講読し、意見交換を行う。グループごとに、これまで話し合った内容を発表する。
第 8 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 9 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。グループワークを行う。
第 10 回	文献講読、発表資料の作成	文献を講読し、意見交換を行う。グループワークを行う。
第 11 回	文献講読、発表資料の作成	文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 12 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 13 回	(1) 最終発表（報告会）	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 14 回	(1) 最終発表（報告会）	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 15 回	ガイダンス	秋学期のスケジュール確認を行うとともに、夏季休暇中に提示した課題の発表を行う。
第 16 回	研究（調査）テーマ検討および決定	秋学期に行う、研究（調査）テーマを各々で検討し、決定する。
第 17 回	資料収集および講読	図書館やインターネットを通じて、資料を収集する。仕入れた文献を整理して内容を理解する。
第 18 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 19 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 20 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 21 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。

第 22 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 23 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 24 回	DVD 鑑賞	環境全般に関する DVD を視聴し、各々が感じたこと、考えたことを、グループに分けディベート形式で討論する。
第 25 回	レクリエーション（スポーツ大会）	スポーツ活動を通じて、ゼミ員相互のコミュニケーションを図る。
第 26 回	外部講師による講演会	現在社会で活躍している講師（学外）を招聘し講義を行う。
第 27 回	卒業論文報告会	4 年生による卒業論文の発表を行う。
第 28 回	卒業論文報告会	4 年生による卒業論文の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・設定したテーマに関する資料を図書館、WEB を活用して調べておく。
- ・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
- ・思いついた疑問をそのままにしないで、調べるように習慣づける。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

- ・その科学が成功を決める リチャード・ワイズマン 文春文庫

【成績評価の方法と基準】

授業の参画状況（50 %）、プレゼンテーション（25 %）、レポート（25 %）を総合して判断する

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に学生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業終了時に、次回の予告を行うことで、自宅での学習機会を増やすことにつなげる。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

OTR400HA

研究会（A）

板橋 美也

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術・デザインと異文化交流の歴史

【到達目標】

美術・デザインの歴史や日本の異文化交流の歴史についての理解を深めます。また、クラスでの発表とその準備作業を通して、資料収集・分析能力や調査内容の概要を報告する能力を養います。研究会での様々な活動を通して、自らの文化・自明のものだと思っていた文化を新たな視点から捉えなおしてみましょう。

【授業の進め方と方法】

- (1) 指定した文献や作品に関するディスカッションを通して、美術・デザインや異文化交流の歴史について皆で考えます。
 - (2) 発表担当者が各自の関心にもとづいて調べた内容の発表をし、それについてゼミ生全員でディスカッションをします。
- いずれの場合も、ゼミ生それぞれが自分の考えや疑問点を積極的に発言することが求められます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の内容、進め方についての説明
第 2 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 3 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 4 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 5 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 6 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 7 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 8 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 9 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 10 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 11 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 12 回	グループ発表	教員が指定したテーマに関するグループ発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 13 回	グループ発表	教員が指定したテーマに関するグループ発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 14 回	春学期のまとめ	春学期に学んだことを復習・総括します
第 15 回	秋学期へのガイダンス	秋学期の内容と進め方についての説明
第 16 回	4 年生による研究紹介	4 年生が各自行っている研究に関する短い発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 17 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 18 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 19 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 20 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 21 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 22 回	4 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 23 回	4 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 24 回	3 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 25 回	3 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 26 回	2 年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション

第 27 回	2 年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 28 回	1 年間のまとめ	1 年間で学んだことを復習・総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定されたテキストの範囲をよく読んでおき、授業中のディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、研究発表に際しては、自らの問題意識にもとづいて主体的に調査を行います。

【テキスト（教科書）】
随時指定します。

【参考書】
必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
研究会への貢献度（発表の内容、授業中の発言、参加態度など）と年度末のレポートから総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
授業中は遠慮せずに発言しましょう。

【関連の深いコース】
人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA
研究会（A）

岡松 暁子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法・国際環境法の研究を通して、国際平和（国際紛争の解決、環境問題の改善、よりよい社会の実現）について考える。

【到達目標】
1. 自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論する。
2. 卒業時には、研究会修了論文を提出する。

【授業の進め方と方法】
1. 国際法および国際環境法に関連する文献講読、判例研究
2. 個人の研究報告
3. その他（時事問題に関する討論、ディベート等）
*受講者の関心に応じ、下記の計画通りに進行しないこともある。
*校外授業及び合宿を行う（場所、内容等は受講者の希望を考慮して決める）。
*サブゼミで、読書会、映画鑑賞会、講演会等を行う。

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび打ち合わせ	年間計画
第 2 回	報告および討論 (1)	グループ報告と討論
第 3 回	報告および討論 (2)	グループ報告と討論
第 4 回	報告および討論 (3)	グループ報告と討論
第 5 回	報告および討論 (4)	グループ報告と討論
第 6 回	報告および討論 (5)	グループ報告と討論
第 7 回	報告および討論 (6)	グループ報告と討論
第 8 回	報告および討論 (7)	グループ報告と討論
第 9 回	報告および討論 (8)	グループ報告と討論
第 10 回	報告および討論 (9)	グループ報告と討論
第 11 回	報告および討論 (10)	グループ報告と討論
第 12 回	報告および討論 (11)	グループ報告と討論
第 13 回	報告および討論 (12)	グループ報告と討論
第 14 回	報告および討論 (13)	グループ報告と討論
第 15 回	ゼミ合宿	研究会修了論文中間報告、ディベート、ディスカッション
第 16 回	打ち合わせ	秋学期の研究計画
第 17 回	研究報告 (1)	個別報告と討論
第 18 回	研究報告 (2)	個別報告と討論
第 19 回	研究報告 (3)	個別報告と討論
第 20 回	研究報告 (4)	個別報告と討論
第 21 回	研究報告 (5)	個別報告と討論
第 22 回	研究報告 (6)	個別報告と討論
第 23 回	研究報告 (7)	個別報告と討論
第 24 回	研究報告 (8)	個別報告と討論
第 25 回	研究報告 (9)	個別報告と討論
第 26 回	研究報告 (10)	個別報告と討論
第 27 回	研究報告 (11)	個別報告と討論
第 28 回	研究報告 (12)	個別報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の十分な予習

【テキスト（教科書）】
開講時に指示

【参考書】
適宜指示

【成績評価の方法と基準】
平常点、レポート

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同じように行います。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース

研究会 (A)

梶 裕史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「文化的景観」とエコツーリズム

「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、各自の現地調査を通じて事例研究を行う。現地調査（各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する）で選ぶフィールドについては、特定の一か所に限らないテーマ設定のしかたもある。

【到達目標】

「環境表象論ⅠⅡ」の内容を、自主的な現地調査の体験によって実感的に理解すること。また、前年度の沖縄離島ゼミ合宿の体験や、他のゼミ生の研究発表など様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、研究成果を「共有」できるようになること。

【授業の進め方と方法】

「授業計画」の通り、参加者個々の研究発表とその後の質疑応答・ディスカッションが中心となります。（ただし、「到達目標」に記した通り、他のゼミ生の研究とのつながりを見つけられ、「共有」できることが大切です。）

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	年間オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第 2 回	個人研究発表①	発表は 1 人 30 以内程度、題材は主として昨年度の研究成果に基づき、発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第 3 回	個人研究発表②	(例) 竹富島の「住」と景観 その 1
第 4 回	個人研究発表③	(例) 竹富島の「住」と景観 その 2
第 5 回	個人研究発表④	(例) 竹富島の「住」と景観 その 3
第 6 回	個人研究発表⑤	(例) 竹富島の「衣」（伝統的な染織の文化）その 1
第 7 回	個人研究発表⑥	(例) 竹富島の「衣」（伝統的な染織の文化）その 2
第 8 回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想①	各自、現段階の構想を簡潔に発表
第 9 回	個人研究発表⑦	(例) 竹富島の「食」の文化 その 1
第 10 回	個人研究発表⑧	(例) 竹富島の「食」の文化 その 2
第 11 回	個人研究発表⑨	(例) 竹富島の祭事・行事と「うつぐみ」精神
第 12 回	個人研究発表⑩	(例) 竹富島の「観光文化」の歩みと将来
第 13 回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想②	夏休み前の中間報告
第 14 回	個別指導	個別に提出する現地訪問計画書に基づく
第 15 回	秋学期オリエンテーション	スケジュール説明、夏休み中の個人研究の各自ふりかえり等
第 16 回	個人研究発表⑪	題材は昨年度または今年度（夏休み等）の研究成果に基づく。発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第 17 回	個人研究発表⑫	(例) 離島のエコツーリズムと環境保全
第 18 回	個人研究発表⑬	(例) 離島の伝統芸能・祭事とアイデンティティー
第 19 回	個人研究発表⑭	(例) 港町の産業遺産（倉庫）を活用したツーリズム
第 20 回	個人研究発表⑮	(例) 宿場町の景観保全とツーリズム
第 21 回	個人研究発表⑯	(例) 農家民泊とグリーンツーリズム
第 22 回	個人研究発表⑰	(例) 里山における五感の環境教育（体験プログラム）
第 23 回	個人研究発表⑱	(例) 文芸の名作を活かしたツーリズム
第 24 回	個人研究発表⑲	(例) アニメツーリズム（フィルムツーリズム）の試み
第 25 回	個人研究発表⑳	(例) アート・ツーリズム（アートを活かした地域づくり、感性価値創造）
第 26 回	グループワーク①	個々の成果の共有につながるテーマを学生が自主設定
第 27 回	グループワーク②	前回の続きとまとめ（学生の自主作業）
第 28 回	学年末論文の構想発表（タイトル・要旨・仮目次等）と個別指導	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、現地調査の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。なお、3・4年生は先輩として 2 年生（4 限参加）の指導も行うことが求められます。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容および学年末論文 65 %、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等 35 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。
- ・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に適った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声が、定評としてあります。
- ・学部のフィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・この金曜 5 限研究会は、前年度からの継続参加者（3・4 年生）が履修登録対象となります。

【関連の深いコース】

人間文化コースまたはローカル・サステイナビリティコース

カテゴリ: **政策** | 配当年次／単位: **2～4 年／4 単位**
 開講セメスター: **年間授業** | 曜日・時限: **金 4**

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ: 海・離島の「文化的景観」とエコツーリズム
 「文化的景観」という考え方をベースに、離島・海辺固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、夏休みに企画・実施する「沖縄離島ゼミ合宿」(訪問先＝八重山諸島)での調査・体験を活かして事例研究をおこなう。

【到達目標】

「環境表象論Ⅱ」の内容を、ゼミ合宿時の現地調査・体験によって実感的に理解すること。また、この刺激で自主的にフィールドワークを計画する意欲を高めると同時に、沖縄に限らず様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけれられ、個々の研究成果を共有できるようになること。

【授業の進め方と方法】

「授業計画」に示すように、教室では同学年の共同作業 (共同研究発表の準備) や個人研究発表とその後の質疑応答、意見交換など、グループワークが中心となります。春学期は主として、夏休みに実施する沖縄離島ゼミ合宿の事前学習、秋学期は主として、合宿の成果をまとめる共同作業を行なってもらう予定です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第 2 回	沖縄・八重山離島についてのガイダンス	合宿で訪問する地域について概観的な予備学習
第 3 回	導入課題の小発表 (グループワーク)	竹富島を訪ねる旅を想定した自主企画 (日帰り／1泊)
第 4 回	講義とグループワーク①	竹富島の集落景観 (有形部分) の価値Ⅰ
第 5 回	講義とグループワーク②	伝統文化継承と「観光」の両立 その経緯
第 6 回	講義とグループワーク③	島の針路選択の成功
第 7 回	講義とグループワーク④	集落景観の価値Ⅱ (無形部分) 祭事・行事の意義など
第 8 回	講義とグループワーク⑤	「うつくみの心」と観光文化 (第 2 回からのまとめ)
第 9 回	講義とグループワーク⑥	竹富島の「循環する自然」に即した生活文化
第 10 回	個別小発表	現地で調べたいテーマについて／合宿のグループ分け
第 11 回	講義とグループワーク⑦	石垣島白保集落について 概観
第 12 回	講義とグループワーク⑧	白保の「サンゴ礁文化継承」の地域活動についてー竹富島との共通点・相違点
第 13 回	夏合宿の打ち合わせ①	島の方々と交流するにあたっての留意事項等
第 14 回	夏合宿の打ち合わせ②	各自のヒアリングの質問候補の紹介・共有のグループワーク

通年

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期オリエンテーション	合宿を振り返り、その成果をまとめたポスター作成 (ゼミ相談会用) と共同発表に向けた打ち合わせ
第 16 回	共同作業① (ポスター作成)	構成 (コンテンツ)、見出し、解説文、写真選定等
第 17 回	共同作業② (ポスター作成)	小グループ毎に、前回の細部をつめる
第 18 回	共同作業③ (ポスター完成)	ゼミ相談会のポイント打ち合わせ
第 19 回	共同作業④ (共同プレゼンの準備)	ポスター作業の収穫をもとに、年末に発表する内容の準備を始める
第 20 回	共同作業⑤ (共同プレゼンの準備)	前回の続き。
第 21 回	共同作業⑥ (共同プレゼンの準備)	レジュメ完成
第 22 回	共同作業⑦ (共同プレゼンの準備)	プレゼン予行練習
第 23 回	個人研究発表① (学年末論文作成の準備)	個別に合宿の成果を発表。1 人 20 以内で 1 回 2～3 人程度。第 1 グループ (例) 伝統的な食文化と健康
第 24 回	個人研究発表② (学年末論文作成の準備)	上記に同じ。第 2 グループ (例) 「住」の景観と連帯感・共同規範
第 25 回	個人研究発表③ (学年末論文作成の準備)	第 3 グループ (例) 祭事・芸能と共同体の規範、絆
第 26 回	個人研究発表④ (学年末論文作成の準備)	第 4 グループ (例) 伝統を活かすツーリズムと、破壊する観光開発 (リゾート問題)

第 27 回 2 年生共同発表
 第 28 回 個別論文指導

3・4 年生も参加、聴講
 グループワークを行う中で、一人一人を呼んで教員がアドバイス

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自、合宿の準備にあたる予備知識や現地情報の収集 (主に春学期)。授業内 (教室) 以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容および学年末論文 65 %、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等 35 %。

【学生の意見等からの気づき】

- ・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。
- ・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に適った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声が、定評としてあります。
- ・学部フィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・「環境表象論Ⅱ」を未履修の人は、今年度中に受講してください。
- ・この金曜 4 限研究会は 2・3 年の新規参加者が履修登録対象になります。

【関連の深いコース】

人間文化コースまたはローカル・サステイナビリティコース

研究会（A）

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーは社会にとって血液であり、ほぼ永遠に考え続けなければならない重要な課題である。本研究会においては、国内外のエネルギー政策や技術の過去・現在、エネルギーと人間とのかかわり、エネルギーの未来像について勉強してゆく。

【到達目標】

- 1. 我が国におけるエネルギー政策の重要性を説明できる。
- 2. エネルギーと環境負荷軽減、人の暮らしとの関係を説明できる。
- 3. 交通・運輸、居住空間などにおけるエネルギーの現状と課題について説明できる。

【授業の進め方と方法】

前半は、指定したテキストあるいは資料を用いて各自の担当部分を決めて輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分の内容を理解して、その他の文献も参照しながら内容をまとめ、発表に臨む。後半には、春学期の輪講で得た知識をベースに個人あるいはグループごとにテーマを設定して課題に取り組む。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト・資料の内容	輪読するテキスト・資料の内容と社会・エネルギーとの関連性、輪読担当部分の取り決め
第 2 回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 3 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 4 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 5 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 6 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 7 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 8 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 9 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 10 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 0 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 11 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 0 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 12 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 13 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 14 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 15 回	調査テーマの選定	調査グループの決定、前半の輪読をヒントに調査テーマを考案、構想発表の準備
第 16 回	調査テーマの構想発表・討論（その 1）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第 1 回）
第 17 回	調査テーマの構想発表・討論（その 2）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第 2 回）
第 18 回	調査と分析（その 1）	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 19 回	調査と分析（その 2）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第 20 回	調査と分析（その 3）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第 21 回	中間発表・討論（その 1）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第 1 回）
第 22 回	中間発表・討論（その 2）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第 2 回）
第 23 回	調査と分析（その 4）	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 24 回	調査と分析（その 5）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 25 回	調査概要書の作成について	調査概要書のフォーマットと注意事項の説明
第 26 回	調査概要書の執筆	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆

第 27 回	調査概要書の執筆・最終発表の準備	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆、最終発表の準備
第 28 回	調査概要書の提出・最終発表	各自あるいは各グループより調査概要書の提出、最終発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 ～ 1 4 回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習
- 第 1 5 回：エネルギーと社会に関する時事問題・課題の抽出
- 第 1 6 ～ 1 7、2 1 ～ 2 2 回：発表用スライドなどの作成、発表の練習
- 第 1 8 ～ 2 0、2 3 ～ 2 4 回：各種文献・レポート・インタビューなどによる調査と分析
- 第 2 5 ～ 2 7 回：調査概要書の執筆・データ整理
- 第 2 7 ～ 2 8 回：発表用スライドなどの作成、発表の練習、調査概要書のリバイス

【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（調査概要書）（30 %：論述の適切さ、到達目標 1 ～ 3 への到達度）、発表（40 %：スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1 ～ 3 への到達度）、議論（30 %：説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1 ～ 3 への到達度）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

おおむね好評でした。

【その他の重要事項】

楽しく、じっくりと勉強します。また、知識を脳裏に固定化するには質問するのが一番です。わからないことは遠慮せずに質問し、スッキリさせてゆきましょう。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース、ローカル・サステイナビリティコース

研究会 (A)

國則 守生

カテゴリ: 政策 | 配当年次/単位: 2~4 年 / 4 単位
開講セメスター: 年間授業 | 曜日・時限: 火 3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境経済学の考え方や手法への理解および批判的検討を通じて、現実の環境問題への適用を考える。環境へのその他のアプローチとの比較なども行う。

【到達目標】

地球環境問題などの環境問題に対して、どのように対処してゆけばよいのかについて、主として環境経済学の観点から、発表、議論、批判的検討などを行い、各人がその発表力および応用力を身につけることを目標とする。その際、学生間での協働を活発に行い、お互いが向上することを目指す。

【授業の進め方と方法】

研究会は演習形式で行う。研究会では、問題意識をもって、環境経済学などのテキスト、記事等の輪読を中心に、ディスカッションを行う。サブゼミ、ゼミ合宿なども実施し、総合力の獲得を目指す。4 年生は研究会修了論文作成のための経過報告なども実施する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方について討議
第 2 回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第 3 回	文献講読 (1)	報告および討論
第 4 回	文献講読 (2)	報告および討論
第 5 回	文献講読 (3)	報告および討論
第 6 回	文献講読 (4)	報告および討論
第 7 回	文献講読 (5)	報告および討論
第 8 回	文献講読 (6)	報告および討論
第 9 回	文献講読 (7)	報告および討論
第 10 回	文献講読 (8)	報告および討論
第 11 回	文献講読 (9)	報告および討論
第 12 回	文献講読 (10)	報告および討論
第 13 回	文献講読 (11)	報告および討論
第 14 回	春学期総括	春学期学習のまとめ
第 15 回	研究会修了論文中間発表	発表会への参加と発表・討議
第 16 回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第 17 回	文献講読 (12)	報告および討論
第 18 回	文献講読 (13)	報告および討論
第 19 回	文献講読 (14)	報告および討論
第 20 回	文献講読 (15)	報告および討論
第 21 回	文献講読 (16)	報告および討論
第 22 回	文献講読 (17)	報告および討論
第 23 回	文献講読 (18)	報告および討論
第 24 回	文献講読 (19)	報告および討論
第 25 回	文献講読 (20)	報告および討論
第 26 回	文献講読 (21)	報告および討論
第 27 回	研究会修了論文発表	発表会への参加と発表・討議
第 28 回	秋学期総括	秋学期学習のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

以下の各項目を必ず、実施する。

- 1) 演習ノートを用意し、毎週、決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
- 2) サブゼミに出席する。
- 3) ゼミ合宿に参加する。
- 4) 各種課題を提出する。
- 5) 4 年生は、研究会修了論文執筆を基本とする。

【テキスト (教科書)】

環境経済学のテキスト (授業時に指示する)。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (80 %) および各人のテーマの取組姿勢と提出されたレポート等執筆 (20 %) によって総合評価する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

【学生の意見等からの気づき】

不明な点などを明らかにし、議論のなかで解明を目指したい。研究会修了論文執筆に関し、参考となる事項も研究会のなかで適宜紹介したい。サブゼミでの作業内容と連携を強化したい。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース (グローバル・サステナビリティコースも可)

研究会 (A)

國則 守生

カテゴリ: 政策 | 配当年次/単位: 2~4 年 / 4 単位
開講セメスター: 年間授業 | 曜日・時限: 火 2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ミクロ経済学などの考え方の理解・習得を基礎的なレベルから行う (自分の言葉で理解・判断する能力と他人と協力して解決する能力の獲得を図る)。

【到達目標】

重要な経済学の基礎的な考え方を集中して学び、環境政策を考えるために必要な素養を、発表、議論、批判的検討を通じて獲得することを目指す。

【授業の進め方と方法】

研究会は演習形式で行う。研究会では、ミクロ経済学などのテキストを全員で輪読し、それに関してディスカッションを行う。経済学に関するベーシックで重要な考え方、捉え方をしっかりと身につけるため、お互いとの意見交換を重視する。また、毎週サブゼミを実施し、ゼミの先輩とグループで調査・研究・発表を行う。ゼミ合宿ではサブゼミなどで行った調査・研究を進展させ、全体で議論する。

幅広い素養を身につけるため、副読本として環境に関する文献も積極的に読み、感想を発表する。4 年生の研究会修了論文作成のための経過報告なども実施する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方について討議
第 2 回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第 3 回	文献講読 (1)	報告および討論
第 4 回	文献講読 (2)	報告および討論
第 5 回	文献講読 (3)	報告および討論
第 6 回	文献講読 (4)	報告および討論
第 7 回	文献講読 (5)	報告および討論
第 8 回	文献講読 (6)	報告および討論
第 9 回	文献講読 (7)	報告および討論
第 10 回	文献講読 (8)	報告および討論
第 11 回	文献講読 (9)	報告および討論
第 12 回	文献講読 (10)	報告および討論
第 13 回	文献講読 (11)	報告および討論
第 14 回	春学期総括	春学期学習のまとめ
第 15 回	課題発表	指定された課題図書読書の発表
第 16 回	文献講読 (12)	報告および討論
第 17 回	文献講読 (13)	報告および討論
第 18 回	文献講読 (14)	報告および討論
第 19 回	文献講読 (15)	報告および討論
第 20 回	文献講読 (16)	報告および討論
第 21 回	文献講読 (17)	報告および討論
第 22 回	文献講読 (18)	報告および討論
第 23 回	文献講読 (19)	報告および討論
第 24 回	文献講読 (20)	報告および討論
第 25 回	文献講読 (21)	報告および討論
第 26 回	文献講読 (22)	報告および討論
第 27 回	文献講読 (23)	報告および討論
第 28 回	秋学期総括	秋学期学習のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1) 演習ノートを用意し、毎週、決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
- 2) サブゼミに出席する。
- 3) ゼミ合宿に参加する。
- 4) 各種課題を提出する。
- 5) 4 年生になると、研究会修了論文執筆を基本とする。

【テキスト (教科書)】

ミクロ経済学のテキスト (授業時に指示する)。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (80 %) および各人のテーマの取り組み姿勢と提出されたレポート等執筆 (20 %) によって総合評価する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

【学生の意見等からの気づき】

最初の時期にできるだけ各学生の意見が積極的に発せられるように、雰囲気作りに配慮したい。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース (グローバル・サステナビリティコースも可)

OTR400HA

研究会 (A)

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会では、「持続可能な地域社会の創造」をテーマとして、特に 21 世紀に入って国内そして世界で注目されている地域の「ソーシャルイノベーション」について、持続可能性における環境・経済・社会の 3 領域を全て視野に入れ、統合的に検討しながら、市民・NPO・自治体などのステークホルダーの参加・協働を展望する。研究会の目的と意義は、地域実践を含む高度なアクティブ・ラーニングを通して、「持続可能な地域社会」について深く理解しながら、「社会人基礎力」などの名称で呼ばれる大学生としての総合的な能力を構築することである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。
・研究会の共通テーマ、学生の個人テーマに関する知識を獲得する。
・時事問題に関する知識を獲得し、現代社会を理解するための知見を涵養する。
・問題発見及び分析能力、対応策の立案能力を涵養する。
・地域実践に関する企画運営能力を身につける。
・研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
・文章力を涵養する。
・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングである PBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流を行いながら、調査研究を実施し政策提言を含む報告書にまとめる。さらに基礎的な能力構築のために、ワークショップ技法の習得、書評の執筆、時事問題に関する討論などを日常の研究会に組み込む。さらに、学生の個人研究では、各人が地域社会に関する任意のテーマを設定してゼミ研究論文を作成する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会のミッションと運営方針、テーマ、1 年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する報告と共有	前年度の共通テーマの成果について報告した上で、質疑応答により共有する。
第 3 回	本年度の共通テーマの確認	本年度の共通テーマについて、背景と目的、想定される調査研究課題などを確認する。
第 4 回	文献講読（1）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読（2）	同上。
第 6 回	文献講読（3）	同上。
第 7 回	文献講読（4）	同上。
第 8 回	文献講読（5）	同上。
第 9 回	文献講読（6）	同上。
第 10 回	文献の総括と秋学期の方向性の検討	文献全体を総括しながら、共通テーマに関する知見を整理し、秋学期の調査研究課題への視点を共有する。
第 11 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 12 回	個人テーマの報告（2）	同上。
第 13 回	個人テーマの報告（3）	同上。
第 14 回	地域連携プロジェクトの確認	夏期に実施する地域連携プロジェクトの目的と内容を確認する。
第 15 回	地域連携プロジェクトの検証	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて検証し、秋学期の共通テーマに反映する知見を共有する。
第 16 回	共通テーマの確認	秋学期に調査研究を行う共通テーマについて確認する。
第 17 回	共通テーマの調査研究（1）	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 18 回	共通テーマの調査研究（2）	同上。
第 19 回	共通テーマの調査研究（3）	同上。
第 20 回	共通テーマの調査研究（4）	同上。
第 21 回	共通テーマの中間報告	共通テーマに関する調査研究の進捗状況と知見について全体で確認し、本年度の最終成果に向けて調整を行う。
第 22 回	共通テーマの調査研究（5）	担当グループごとの報告と質疑応答、議論を行う。

第 23 回	共通テーマの調査研究（6）	同上。
第 24 回	共通テーマの最終報告と総括	共通テーマについて各グループが最終報告を行った上で、提言報告書の作成に向けて、全体を総括しながら、本年度の成果を全員で共有する。
第 25 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告（2）	同上。
第 27 回	個人テーマの報告（3）	同上。
第 28 回	1 年間のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現について検証する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の時間外学習を行う。
・文献の事前学習、時事問題の情報収集、書評の作成。
・共通テーマに関する事前のグループワーク。
・個人テーマに関する論文執筆のための調査研究。

【テキスト（教科書）】

開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、個人テーマへの取り組み姿勢とゼミ論文の執筆（30 %）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特定地域に関する PBL（問題発見・解決型学習）を進めることについて、答えのない問題に取り組むこと、さらにチームとしての協働は能力構築にとって意義があると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）の学生を対象としています。
したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース

研究会 (A)

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
 開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会の基本的なテーマは、「持続可能な地域社会の創造」である。特に「ソーシャル・イノベーション」といわれるテーマについて、ローカルな視点で理論やケースを検討しながら地域実践に参画する。また共通テーマ以外に、各人が個人テーマとして研究会修了論文の執筆に向けた調査研究を行う。研究会の目的と意義は、共通テーマへの取り組みを通して、「社会人基礎力」などの名称で呼ばれる大学生としての総合的な能力を構築しながら、自らの卒業後のキャリアイメージを模索すること、さらに研究会修了論文を完成させることである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・共通テーマ、個人テーマに関する知識を獲得する。
- ・論文作成能力を身につける。
- ・問題発見及び分析能力、対応策の立案能力を涵養する。
- ・研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
- ・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングである PBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流に参画する。さらに、研究会修了論文については各人がそれぞれのテーマに取り組み、成果については公開のプレゼンテーションも行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、1 年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する確認	前年度の共通テーマの成果について確認する。
第 3 回	本年度の共通テーマに関する検討	本年度の共通テーマについて、調査研究の内容、地域連携プロジェクトとの関連性などを検討する。
第 4 回	文献講読（1）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読（2）	同上。
第 6 回	地域連携プロジェクトの企画（1）	夏期に実施する地域連携プロジェクトのイメージと素案について検討する。
第 7 回	文献講読（3）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 8 回	文献講読（4）	同上。
第 9 回	地域連携プロジェクトの企画（2）	夏期に実施する地域連携プロジェクトの基本設計について検討する。
第 10 回	文献の総括	文献の内容を総括し、共通テーマに関する知見を共有する。
第 11 回	地域連携プロジェクトの企画（3）	夏期に実施する地域連携プロジェクトの実施設計について検討する。
第 12 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 13 回	個人テーマの報告（2）	同上。
第 14 回	地域連携プロジェクトの企画（3）	夏期に実施する地域連携プロジェクトの企画内容を調整する。
第 15 回	秋学期の方向性の確認	秋学期の共通テーマの方向性を確認する。
第 16 回	地域連携プロジェクトの検証（1）	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて、成果と知見、課題などについて検証し、今後を展望する。
第 17 回	地域連携プロジェクトの検証（2）	同上。
第 18 回	ソーシャルイノベーション・ミニ F S（1）	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第 19 回	地域連携プロジェクトをふまえた提言作成（1）	夏期に実施した地域連携プロジェクトをふまえた提言の作成に着手する。
第 20 回	地域連携プロジェクトをふまえた提言作成（2）	夏期に実施した地域連携プロジェクトをふまえた提言の作成作業を行う。
第 21 回	ソーシャルイノベーション・ミニ F S（2）	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第 22 回	地域連携プロジェクトの提言作成（3）	夏期に実施した地域連携プロジェクトをふまえた提言案を確認し内容を調整する。
第 23 回	ソーシャルイノベーション・ミニ F S の総括	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを検証し知見を確認する。

第 24 回	ソーシャルイノベーションとキャリア形成	夏期に実施した地域連携プロジェクトや地域におけるソーシャルイノベーション・ミニ F S をふまえて、自らのキャリア形成について議論する。
第 25 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告（2）	同上。
第 27 回	個人テーマの報告（3）	同上。
第 28 回	研究会のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現と各人の「社会人基礎力」の涵養についてふりかえる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の時間外学習を行う。

- ・文献の事前学習。
- ・地域連携プロジェクトの企画。
- ・研究会修了論文執筆のための調査研究。

【テキスト（教科書）】

- ・開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、研究会修了論文に関する個人テーマへの取り組み姿勢（30 %）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

PBL（問題発見・解決型学習）として、地域で実践し、その成果に関する報告書作成などに取り組むことは、かなりの負担ですが、チームとして協働しながら、かつ学外の組織や人々と連携することで、責任について体感し、研究会を通して、いわゆる「社会人基礎力」を育んでいると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）に登録した学生を対象としています。したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

杉戸 信彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然界は時として災害をもたらします。その姿は、われわれの理解と考え方で大きく変わってきます。本研究会では、自然環境（主に地形環境や地震発生環境）と土地条件、土地の歴史などについて、自然災害という側面を重視しながら主に自然地理学的な観点から考え、人間社会のあり方を見つめなおします。

【到達目標】

自然環境の地域的差異とその要因、歴史的変遷を理解しながら、自然環境が人間社会に与える影響を多面的に読み解く見識を培うこと。自然と人間のかかりあいに関わる視野をひろげること。災害の多い日本列島で生きるうえで妥当な自然観を養うこと。調査法や発表法を身につけること。地図を理解すること。

【授業の進め方と方法】

座学に加え、野外実習や課題演習、グループワーク、個人研究を行います。個人研究ではテーマや地域を設定して取り組みレポートを作成します。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、土地条件、土地の歴史、土地利用、プレート境界、活断層、長期予測、ハザードマップ、災害の歴史、インフラ、防災教育、地域性、メカニズム、歴史的変遷などです。学生の皆さんの主体的な興味関心と情熱がベースになります。はじめは漠然としていても構いませんが、学びを積極的にすすめ、意義深いテーマや重要な地域にたどりつくよう期待します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	趣旨説明
第 2 回	講義	文献等検索法、論文の作成法・発表の方法
第 3 回	時の話題	発表、質疑応答、討論
第 4 回	文献講読	意見交換
第 5 回	文献講読	発表、質疑応答、討論
第 6 回	課題演習	机上作業
第 7 回	野外実習	フィールド巡検
第 8 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 9 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 10 回	グループワーク	意見交換
第 11 回	グループワーク	発表、質疑応答、討論
第 12 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 13 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 14 回	総括	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	趣旨説明
第 16 回	個人研究	研究方針の報告と質疑応答、討論
第 17 回	文献講読	意見交換
第 18 回	文献講読	発表、質疑応答、討論
第 19 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 20 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 21 回	課題演習	机上作業
第 22 回	野外実習	フィールド巡検
第 23 回	グループワーク	意見交換
第 24 回	グループワーク	発表、質疑応答、討論
第 25 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 26 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 27 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 28 回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の収集・分析や事前調査、発表準備、復習、追加調査、とりまとめ等を行う。

【テキスト（教科書）】

担当教員から配布ほか

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

知識や応用力、思考力に加え、基礎力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明あるいは効果的な進め方を心がけます。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース、ローカル・サステナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

ストックウェル・エスター

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

* Mass Media Research *

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

【到達目標】

This course gives an introduction to current theoretical and practical debates regarding the role of the mass media in today's society. Some of the topics covered include media businesses, the dual role of the media as information source and entertainment, research into short-term and long-term effects of the media, media audiences, and mass communication models. During the course, students will learn how to question the degree to which the media influence us versus how we use the media to fit our preconceived ideas.

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. In the first semester, students will mainly learn theory and an overview of the different aspects in mass communication. In the second semester, students will do their own research project regarding mass media effects.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of Mass Media Research
第 2 回	Mass Media & Society	Mass communication vs. mass media / Mass media industries
第 3 回	Mass Media & Society	The changing technologies / The new media environment
第 4 回	Theories of Mass Media Studies	General theories of mass media / The role of theories
第 5 回	Theories of Mass Media Studies	The goals of mass media theory / Development of mass media effects theories
第 6 回	Theories of Mass Media Effects	General trends in effects theories / The Bullet Theory / The Limited-Effects Model
第 7 回	Theories of Mass Media Effects	Moderate effects theories / The Powerful Effects Model / Specific theories of mass media effects
第 8 回	Agenda Setting	The Chapel Hill study / The media agenda and reality / Applications of agenda setting
第 9 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 10 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 11 回	Persuasion in Mass Media	Persuasive effects of the media
第 12 回	Media Stereotypes & Bias	Effects of media stereotypes / Newspaper and foreign affairs / Sex role stereotypes / Racial stereotypes
第 13 回	Children Behavior & Mass Media	The presence of violent content / The causal link between viewing violence and behaving aggressively
第 14 回	Class Presentations and Feedback	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 15 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 16 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis

第 17 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 18 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 19 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 20 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 21 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 22 回	Method	Data Collection / Entry data
第 23 回	Method	Data Collection / Entry data
第 24 回	Method	Data Collection / Entry data
第 25 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 26 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 27 回	Interpretation of Results	Understand the meaning of the results from the data
第 28 回	Class Presentations and Feedback	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after class for review purposes in the first semester. For the second semester, they will need to write a weekly learning journal to keep a record of their research progress.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】

David R. Croteau and William D. Hoynes (2013). Media/Society: Industries, Images, and Audiences. SAGE Publications.
John V. Pavlik and Shawn McIntosh (2014). Converging Media: A New Introduction to Mass Communication (4th Edition). Oxford University Press.
Shirley, Biagi (2014). Media/Impact: An Introduction to Mass Media. Wadsworth: Thomson.

【成績評価の方法と基準】

1st Semester: Assessment will consist of in-class participation, a presentation, a take-home exam and a written assignment.
2nd Semester: Assessment will consist of 10 weekly learning journals, a summary of literatures, a group presentation and a group research paper.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【その他の重要事項】

This class is open to students who have taken グローバルコミュニケーション or 'Stockwell's ゼミ B (Human Communication) before.

【関連の深いコース】

人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然のもつ豊かな魅力に触れるとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題を解決に導く方策について探求することをテーマとします。その際、環境の視点と地域社会や経済活動との関わりを中心に、加えて国際的視点や海外事例、他の環境問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識を上積みする基盤を作り、その上に各自の問題意識を組み立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

以下の 4 点を身に付けることを目標とします。

- ①自然環境に関する幅広い知識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
- ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考査し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習／ゼミ合宿とサブゼミによるプロジェクト学習を通じてフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います（※プロジェクト学習のテーマ例：都市緑地・水辺・野鳥・東京湾・里山と農・生き物文化など）
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	テーマ 1 : グループ研究 1	事前学習
第 3 回	テーマ 1 : グループ研究 2	グループ討議
第 4 回	テーマ 1 : グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 5 回	テーマ 1 : グループ研究 4	グループ討議
第 6 回	テーマ 1 : グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 7 回	テーマ 1 : グループ研究 6	発表と総括講義
第 8 回	テーマ 2 : グループ研究 1	事前学習
第 9 回	テーマ 2 : グループ研究 2	グループ討議
第 10 回	テーマ 2 : グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 11 回	テーマ 2 : グループ研究 4	グループ討議
第 12 回	テーマ 2 : グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 13 回	テーマ 2 : グループ研究 6	発表と総括講義
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	テーマ 3 : ディベート 1	事前学習
第 17 回	テーマ 3 : ディベート 2	グループ討議
第 18 回	テーマ 3 : ディベート 3	ディベート第 1 回
第 19 回	テーマ 3 : ディベート 4	グループ討議
第 20 回	テーマ 3 : ディベート 5	ディベート第 2 回
第 21 回	テーマ 3 : ディベート 6	発表とまとめ
第 22 回	テーマ 4 : 個人・グループ研究 1	事前学習
第 23 回	テーマ 4 : 個人・グループ研究 2	グループ内プレゼン
第 24 回	テーマ 4 : 個人・グループ研究 3	グループ討議
第 25 回	テーマ 4 : 個人・グループ研究 4	グループ討議と中間発表
第 26 回	テーマ 4 : 個人・グループ研究 5	グループ討議
第 27 回	テーマ 4 : 個人・グループ研究 6	発表と総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってもらいます。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してもらいます。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然のもつ豊かな魅力に触れるとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題を解決に導く方策について探求することをテーマとします。その際、環境の視点と国際的な視点や海外の事例を中心に、加えて地域社会や経済活動の視点、他の環境問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識を上積みする基盤を作り、その上に各自の問題意識を組み立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

以下の 4 点を身に付けることを目標とします。

- ①自然環境に関する幅広い知識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
- ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考査し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習／ゼミ合宿とサブゼミによるプロジェクト学習を通じてフィールドに学び企画力・実践力・分析力を養います（※プロジェクト学習テーマ例：都市緑地・水辺・野鳥・東京湾・里山と農・生き物文化など）
- ④自らの関心テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	テーマ 1：グループ研究 1	事前学習
第 3 回	テーマ 1：グループ研究 2	グループ討議
第 4 回	テーマ 1：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 5 回	テーマ 1：グループ研究 4	グループ討議
第 6 回	テーマ 1：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 7 回	テーマ 1：グループ研究 6	発表と総括講義
第 8 回	テーマ 2：グループ研究 1	事前学習
第 9 回	テーマ 2：グループ研究 2	グループ討議
第 10 回	テーマ 2：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 11 回	テーマ 2：グループ研究 4	グループ討議
第 12 回	テーマ 2：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 13 回	テーマ 2：グループ研究 6	発表と総括講義
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	テーマ 3：ディベート 1	事前学習
第 17 回	テーマ 3：ディベート 2	グループ討議
第 18 回	テーマ 3：ディベート 3	ディベート第 1 回
第 19 回	テーマ 3：ディベート 4	グループ討議
第 20 回	テーマ 3：ディベート 5	ディベート第 2 回
第 21 回	テーマ 3：ディベート 6	発表とまとめ
第 22 回	テーマ 4：個人・グループ研究 1	事前学習
第 23 回	テーマ 4：個人・グループ研究 2	グループ内プレゼン
第 24 回	テーマ 4：個人・グループ研究 3	グループ討議
第 25 回	テーマ 4：個人・グループ研究 4	グループ討議と中間発表
第 26 回	テーマ 4：個人・グループ研究 5	グループ討議
第 27 回	テーマ 4：個人・グループ研究 6	発表と総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってもらいます。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してもらいます。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース、グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

高橋 五月

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Aゼミのテーマは「人と環境の文化人類学」です。人間と環境の関係について、文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生も自らエスノグラフィーを用いたフィールドワークを行い、関心がある問題テーマについて調査研究を行い、卒業論文を作成する。

【到達目標】

- 1) 人間と環境の関係について、先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2) エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) 現地調査を通して、エスノグラフィーの実践的なスキルを得る
- 4) エスノグラフィックな視点と思考を磨き、普段「当たり前」として過ごされてしまう物事に埋め込まれている複雑な文化的側面に面白さを見出し、「問い」を組み立てるスキルを養う

【授業の進め方と方法】

ゼミ生の卒論研究テーマに関連する先行研究を講読と意見交換をしながら、エスノグラフィーと文化人類学的理論についての理解を深める。また、学生は各自で卒論研究のフィールドワークを引き続き実行すると同時に、先行研究の講読と意見交換を参考にしながら卒論研究での理論的議論の発展に努める。また、ゼミでは各自の卒論研究の経過を報告し、他学生や教員からのコメントや質問を随時卒論執筆に反映させる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介とゼミの進め方、課題についての説明。文献講読の司会担当決め。
第 2 回	本年度の卒論研究計画の発表（1）	各自の卒論研究について、本年度の調査計画書を提出し、発表する
第 3 回	本年度の卒論研究計画の発表（2）	各自の卒論研究について、本年度の調査計画書を提出し、発表する
第 4 回	先行研究の講読（1）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 5 回	先行研究の講読（2）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 6 回	先行研究の講読（3）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 7 回	先行研究の講読（4）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 8 回	先行研究の講読（5）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 9 回	先行研究の講読（6）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 10 回	先行研究の講読（7）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 11 回	先行研究の講読（8）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 12 回	先行研究の講読（9）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 13 回	先行研究の講読（10）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 14 回	前期のまとめ	期末課題の提出、発表。中間発表の順番決め。
第 15 回	卒論研究中間発表（1）	卒論研究の中間発表
第 16 回	卒論研究中間発表（2）	卒論研究の中間発表
第 17 回	卒論研究中間発表（3）	卒論研究の中間発表
第 18 回	卒論研究中間発表（4）	卒論研究の中間発表
第 19 回	先行研究の講読（11）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 20 回	先行研究の講読（12）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 21 回	先行研究の講読（13）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする

第22回	先行研究の講読（14）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第23回	先行研究の講読（15）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第24回	先行研究の講読（16）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第25回	先行研究の講読（17）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第26回	先行研究の講読（18）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第27回	卒論発表（1）	卒論提出予定者による研究成果発表
第28回	卒論発表（2）	卒論提出予定者による研究成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献は必ず読み、感想文（300字程度）を授業支援システムにアップロードすし、ゼミ当日は積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にす。フィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。加えて、卒論研究に関連する先行文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを執筆する。

【テキスト（教科書）】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社（2010）

【参考書】

随時授業内でお知らせします

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、文献発表（20％）、課題（50％）

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見：「文献購読の際にすこし何人かで集まりグループワーク的なものがあっても形式としては面白いかなと思いました。」
教員からの回答：いい案ですね。2018年度のゼミでグループワークも導入したいと思います。

【関連の深いコース】

人間文化コース、グローバル・サステナビリティコースなど

OTR400HA

研究会（A）

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2018 年度は、途上国における最大の課題である「貧困」について、その歴史、現状、対策などを、より深く考察し、先進国における「貧困」の姿と重ね合わせながら議論を行います。

【到達目標】

本研究会では、（ア）開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、（イ）自らの意見を持ちそれを人に伝え、（ウ）途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像／構想できるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明やプレゼンテーションの機会、からなります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第2回	基礎文献の輪読（1）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第3回	基礎文献の輪読（2）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第4回	基礎文献の輪読（3）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第5回	基礎文献の輪読（4）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第6回	基礎文献の輪読（5）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第7回	基礎文献の輪読（6）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第8回	グループディスカッション 課題1（1）	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第9回	グループディスカッション 課題1（2）	グループ発表および全体ディスカッション
第10回	グループディスカッション 課題2（1）	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第11回	グループディスカッション 課題2（2）	グループ発表および全体ディスカッション
第12回	グループディスカッション 課題3（1）	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第13回	グループディスカッション 課題3（2）	グループ発表および全体ディスカッション
第14回	まとめ：「貧困」とは。	春学期の演習の総括を行う。
第15回	秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第16回	「問題」を「解決する」とは？（1）	「貧困問題」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。（1）
第17回	「問題」を「解決する」とは？（2）	「問題」の捉え方－フレーミング について学ぶ。
第18回	データ収集について	「貧困」にまつわる文献やデータの収集方法について学ぶ。
第19回	グループディスカッション 課題4（1）	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第20回	グループディスカッション 課題4（2）	グループ発表および全体ディスカッション
第21回	グループディスカッション 課題5（1）	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第22回	グループディスカッション 課題5（2）	グループ発表および全体ディスカッション
第23回	グループディスカッション 課題6（1）	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第24回	グループディスカッション 課題6（2）	グループ発表および全体ディスカッション
第25回	グループディスカッション 課題7（1）	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。

第 26 回	グループディスカッション 課題 7 (2)	グループ発表および全体ディスカッション (1)
第 27 回	グループディスカッション 課題 7 (3)	グループ発表および全体ディスカッション (2) (フィードバックを含む)
第 28 回	年間の学びのまとめ	「貧困問題」について理解できたことでできなかったことを整理し、今後の学びや行動の計画を考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

ゼミ開講前に平田 オリザ (著) 「わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か (講談社現代新書 2177) を一読しておくことが望ましい。他は研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究会への出席および議論への貢献、期末レポートを勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生同士のコミュニケーションをより頻繁に行いたいとの意見および、個人としての意見発表のスキル向上への配慮の要望があったことから、人数と時間の制約の中での議論の進め方について留意したい。

【その他の重要事項】

サブゼミの実施および内容については原則学生の意思に委ねます。開講する場合は原則金曜日 6 限としますが、これも学生の決定によります。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会 (A)

竹本 研史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自由、人権、民主主義、平等、所有、他者、差別、権力、平和、労働、貧困、正義、ジェンダー、セクシュアリティなどの現代社会の問題を考察するために必要な諸概念は、これまでの長い思想的・文化的な伝統のなかで数多くの議論が積み重ねられてきました。

本研究会では、ヨーロッパや近現代日本の思想を初めとする人文科学の文献や映画や美術作品などの分析を通じて、こうした諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討、理解しながら、それらの現代社会における意義を考察することを目標としています。

2018 年度の前半は、社会の諸相について日本の基礎的研究文献を講読し、後半では、「贈与」や「交換」をテーマに古典を精読する予定です。

【到達目標】

(1) ヨーロッパや近現代日本の思想や文学、文化に関する文献の正確な読解力の定着。ならびに、「人間」「社会」「民主主義」をはじめとする諸概念それぞれ自体が、どのような歴史的負荷を帯びているか把握すること。

(2) 個々の問題の発見、必要な情報の収集・分析、論理的な考察、成果の表現（発表や討議を通じた意見表明の方法、レポート作成を通じた論文執筆の方法）。

【授業の進め方と方法】

(1) ヨーロッパや近現代日本の人文科学の文献の精読（学生による発表＋教員による背景知識の解説＋ゼミ全体で議論）。

(2) 秋学期の個人研究発表。

(3) 学期に 1 回、事前学習のうえ、首都圏の映画館・美術館・博物館などでプチ FS。

(4) ゼミ合宿（9 月ないし 2 月を予定）。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方
第 2 回	テキストの精読 A (1)	社会の諸相に関する日本の基礎的文献の講読 (1)
第 3 回	テキストの精読 A (2)	社会の諸相に関する日本の基礎的文献の講読 (2)
第 4 回	テキストの精読 A (3)	社会の諸相に関する日本の基礎的文献の講読 (3)
第 5 回	テキストの精読 A (4)	社会の諸相に関する日本の基礎的文献の講読 (4)
第 6 回	テキストの精読 A (5)	社会の諸相に関する日本の基礎的文献の講読 (5)
第 7 回	学外学習事前学習会 (1)	第 8 回でおこなう学外学習に必要な予備知識を講義
第 8 回	学外学習 (1)	映画館・美術館などで作品などを鑑賞
第 9 回	グループ学習	今年度のテーマに関連する概念に関する調査・発表
第 10 回	テキストの精読 B (1)	贈与や交換に関する古典の精読 (1)
第 11 回	テキストの精読 B (2)	贈与や交換に関する古典の精読 (2)
第 12 回	テキストの精読 B (3)	贈与や交換に関する古典の精読 (3)
第 13 回	テキストの精読 B (4)	贈与や交換に関する古典の精読 (4)
第 14 回	研究会修了論文中間発表	4 年生を対象とした卒論中間発表
第 15 回	レポート合評会 (1)	2 年生それぞれの夏休みレポートについて教員・学生も交えて討論する（前編）
第 16 回	レポート合評会 (2)	3 年生それぞれの夏休みレポートについて教員・学生も交えて討論する（後編）
第 17 回	テキストの精読 B (5)	贈与や交換に関する古典の精読 (5)
第 18 回	テキストの精読 B (6)	贈与や交換に関する古典の精読 (6)
第 19 回	テキストの精読 B (7)	贈与や交換に関する古典の精読 (7)
第 20 回	テキストの精読 B (8)	贈与や交換に関する古典の精読 (8)
第 21 回	テキストの精読 B (9)	贈与や交換に関する古典の精読 (9)
第 22 回	テキストの精読 B (10)	贈与や交換に関する古典の精読 (10)
第 23 回	テキストの精読 B (11)	贈与や交換に関する古典の精読 (11)
第 24 回	学外学習事前学習会 (2)	第 25 回でおこなう学外学習に必要な予備知識を講義
第 25 回	学外学習 (2)	映画館・美術館などで作品などを鑑賞
第 26 回	3 年生研究構想発表 (1)	3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論（前編）
第 27 回	2 年生研究構想発表 (2)	3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論（後編）
第 28 回	まとめ	1 年間の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 授業で扱う文献は熟読のうえ、疑問点を整理し、専門用語などは事前に調べておくこと。

(2) 思想、文学、文化に関する文献を渉猟し、映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、マンガ、スポーツ、お笑いなどを積極的に鑑賞、観戦すること。

(3) 最低週 1 回は、人文・社会科学分野の文献を数多く揃えている書店や古本屋を覗いてみることに。

【テキスト（教科書）】

授業当初はプリント。後半で扱う古典については教場で指示する。

【参考書】

教場にて指示。

【成績評価の方法と基準】

(1) 2、3 年生は、授業中に年間 2 回の個人発表と積極的な議論への参加、および夏・冬 2 回のレポート、年 5 回のブックレポートの提出。

(2) 4 年生は、授業中の積極的な議論への参加、および研究会研究会修了論文の中間報告、研究会修了論文、夏学期 3 回のブックレポートの提出。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【その他の重要事項】

人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース所属学生のみ受講が可能である。

【関連の深いコース】

人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

田中 勉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローカルな環境問題の社会学

【到達目標】

参加者それぞれが個人テーマを設定し研究を行う。地域社会の研究手法および環境問題への社会的アプローチの仕方を学び、それを具体的な事例に適用して考察することを目的とする。文献購読、資料収集、論文作成、発表の順序で段階を追って各自の関心に基づき着実に前進できるようにする。今年度参加者は 4 年次生のみであるので、「研究会修了論文」の作成が最終目的となる。

【授業の進め方と方法】

はじめに文献・資料を参考にいくつかのテーマでグループ討議を行い、社会的な思考法、分析のための概念枠組み、基礎概念などについて理解を深め、各自の研究課題への応用をはかる。次いで、「研究会修了論文」作成へ向けて、参考文献・資料の検索、論文構想を発表、コメント・質疑などをふまえて論文執筆を進める。随時個別面談を行い、文献・資料の検索、現地調査に関する指導などを行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	年間計画策定	年間スケジュールを作成する。昨年度の個人研究の進捗状況を確認。
第 2 回	文献発表①	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第 3 回	文献発表②	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第 4 回	文献発表③	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第 5 回	GWまとめ	グループワークのまとめ。
第 6 回	研究会修了論文作成①	修了論文構想発表①
第 7 回	研究会修了論文作成②	修了論文構想発表②
第 8 回	研究会修了論文作成③	修了論文構想発表③
第 9 回	研究会修了論文作成④	論文作成法講義。執筆要項を配布して論文形式の理解を深める。
第 10 回	研究会修了論文作成⑤	修了論文中間報告①
第 11 回	研究会修了論文作成⑥	修了論文中間報告②
第 12 回	研究会修了論文作成⑦	修了論文中間報告③
第 13 回	研究会修了論文作成⑧	修了論文中間報告④
第 14 回	春学期まとめ	論文作成進捗状況の確認。夏期休暇期間の課題の確認。
第 15 回	研究会修了論文作成⑨	修了論文、最終構想発表①
第 16 回	研究会修了論文作成⑩	修了論文、最終構想発表②
第 17 回	研究会修了論文作成⑪	修了論文、最終構想発表③
第 18 回	研究会修了論文作成⑫	修了論文、最終構想発表④
第 19 回	研究会修了論文作成⑬	修了論文発表と討論。
第 20 回	研究会修了論文作成⑭	修了論文発表と討論。
第 21 回	研究会修了論文作成⑮	修了論文発表と討論。
第 22 回	研究会修了論文作成⑯	修了論文発表と討論。
第 23 回	研究会修了論文作成⑰	修了論文発表と討論。
第 24 回	研究会修了論文作成⑱	修了論文発表と討論。
第 25 回	研究会修了論文作成⑲	修了論文発表と討論。
第 26 回	研究会修了論文発表①	修了論文最終発表①
第 27 回	研究会修了論文発表②	修了論文最終発表②
第 28 回	研究会修了論文発表③	修了論文最終発表③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修了論文のテーマ選定、文献・資料検索を行う。社会調査（インタビュー・調査票調査）を行う場合は個別に指導する。

【テキスト（教科書）】

宮内泰介「グループディスカッションで学ぶ社会学トレーニング」三省堂
関・中澤ほか「環境の社会学」有斐閣

【参考書】

筒井・前田「社会学入門」有斐閣
小島・西城戸編「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房
西城戸・舩戸編「環境と社会」人文書院
森岡清志 編「地域の社会学」有斐閣
藤村正之「考えるヒント」弘文堂
日本環境社会学会「環境社会学研究」新曜社

【成績評価の方法と基準】

修了論文作成のための発表、ディスカッションへの参加度などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

修了論文作成への動機づけを高める工夫をします。

【その他の重要事項】

各回の時間配分は変更されることがあります。

研究会（A）

谷本 勉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大森荘蔵の科学哲学を手がかりにして科学とは何か、人間とは何かを探究する。

【到達目標】

「心」の問題を中心に据えて、世界、自然、環境について批判的に考える力を得ることを目指す。

【授業の進め方と方法】

大森荘蔵の種々の哲学エッセーをそれぞれ担当して読解した後、皆で議論して、理解を深めていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第 2 回	イントロダクション 1	「夢まぼろし」 「記憶について」
第 3 回	イントロダクション 2	「真実の百面相」 「心の中」
第 4 回	イントロダクション 3	「ロボットの申し分」 「夢見る脳、夢みられる脳」
第 5 回	イントロダクション 4	イントロダクションの総括のための議論と解説
第 6 回	初期大森哲学 1	「哲学的知見の性格」
第 7 回	初期大森哲学 2	「他我の問題と言語」
第 8 回	初期大森哲学 3	「言語と集合」
第 9 回	初期大森哲学 4	初期大森哲学の前半の総括のための議論と解説
第 10 回	初期大森哲学 5	「決定論の論理と、自由」
第 11 回	初期大森哲学 6	「知覚の因果説検討」
第 12 回	初期大森哲学 7	「知覚風景と科学的世界像」
第 13 回	初期大森哲学 8	初期大森哲学の後半の総括のための議論と解説
第 14 回	春学期総括	それぞれの描く大森哲学 1
第 15 回	秋学期の展望	夏休みのレポートの発表と議論
第 16 回	中期大森哲学 1	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」 1
第 17 回	中期大森哲学 2	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」 2
第 18 回	中期大森哲学 3	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」 3
第 19 回	中期大森哲学 4	「科学の畏」
第 20 回	中期大森哲学 5	「虚想の公認を求めて」
第 21 回	中期大森哲学 6	中期大森哲学の総括のための議論と解説
第 22 回	後期大森哲学 1	「過去の制作」
第 23 回	後期大森哲学 2	「ホーリズムと他我問題」
第 24 回	後期大森哲学 3	「脳と意識の無関係」
第 25 回	後期大森哲学 4	「時は流れず－時間と運動の無縁」
第 26 回	後期大森哲学 5	「後の祭り」を祈る－過去は物語」 「自分と出会う－意識こそ人と世界を隔てる元凶」
第 27 回	後期大森哲学 6	後期大森哲学の総括のための議論と解説
第 28 回	秋学期総括	それぞれの描く大森哲学 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】

『大森荘蔵セレクション』（平凡社ライブラリー、2011 年）
『物と心』（ちくま学芸文庫、2015 年）

【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

担当部分の発表の内容と議論への参加の態度を加味して、総合的に評価する。
平常点（50%）とレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでの指摘を授業に反映していく。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

研究会 (A)

辻 英史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界と日本の生活保障——社会福祉と市民社会
グローバル化と新自由主義経済の拡大により日本を含む世界各地域で格差社会が進み、多様な生き方が可能になる反面、貧困や孤立の問題が大きくなっている。

病氣や加齢、失業、子育てといったライフイベントのために生活が不安定化してしまった人々を、どのように支え、地域社会やコミュニティに包摂していくのか、それぞれの社会で模索が続いている。

【到達目標】

このゼミでは、ヨーロッパおよび日本を中心に、社会的な弱者の生活を支えるために、どのような試みがおこなわれてきたのかを、それぞれの地域の事情に即して比較して考察します。医療や介護、就労、成人教育、出産・育児といったさまざまな生活局面について、行政や法律・制度だけでなく、人間相互の助け合いのあり方や NPO・NGO といった市民社会の活動を含めて幅広く扱います。

【授業の進め方と方法】

両学期とも、前半はテーマに関する重要な文献の購読をおこない、後半は春学期はグループワーク、秋学期はディベートをおこなう。その準備や個別の研究相談のために必要に応じてサブゼミを開講する（隔週で週 1 回程度を予定）。またゼミ合宿を開催する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介とゼミの説明
第 2 回	研究発表	3・4 年生の研究発表
第 3 回	研究発表	3・4 年生の研究発表
第 4 回	研究発表	3・4 年生の研究発表
第 5 回	文献講読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第 6 回	文献講読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。。
第 7 回	文献講読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第 8 回	文献講読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第 9 回	グループワーク	グループワークのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第 10 回	グループワーク	グループワークをおこなう。
第 11 回	グループワーク	グループワークをおこなう。
第 12 回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第 13 回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第 14 回	まとめ	全体討論およびゼミ合宿準備
第 15 回	オリエンテーション	ゼミ合宿の準備をかねる。
第 16 回	卒論中間報告	4 年生が卒論の中間報告をおこなう。
第 17 回	卒論中間報告	4 年生が卒論の中間報告をおこなう。
第 18 回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第 19 回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第 20 回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第 21 回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第 22 回	ディベートテーマ決め	ディベートのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第 23 回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第 24 回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第 25 回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第 26 回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第 27 回	卒論最終報告	4 年生対象の卒論完成報告。
第 28 回	まとめ・反省	2・3 年生は 1 年間の学習内容を総括し翌年度の学習テーマを決める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミのなかでは参加者の個別の関心にそのまま合致した内容を扱うことは少ないので、各自の自主的な努力が重要である。自分の関心に即して文献を調べ、資料を集めるなど調査し、報告の準備をすること。

また、文献講読の際は、必ず事前にテキストを用意し、読んでくること。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業中に指示する。

【参考書】

宮本太郎『福祉政治』有斐閣、2008 年
小熊英二ほか『平成史』（増補新版）河出書房新社、2014 年。
金子充『入門貧困論』明石書店、2017 年。
神野直彦ほか『「分かち合い」社会の構想』岩波書店、2017 年。
宮本太郎『共生保障』岩波新書、2017 年。
山崎史郎『人口減少と生活保障』中公新書、2017 年。
ほか、必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（20 %）、研究報告、グループワーク、ディベートなどでの貢献（30 %）、秋学期末のレポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステナビリティコース

研究会 (A)

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2018 年度は、環境関連の CSR を研究します。

【到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③日経新聞「きょうのことば」の記憶、④米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 15 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	環境関連の英文 CSR に関する発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

【テキスト（教科書）】

CSR に関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

研究会 (A)

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2018 年度は、環境関連の CSR を研究します。

【到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③日経新聞「きょうのことば」の記憶、④米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 15 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	環境関連の英文 CSR に関する発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

【テキスト（教科書）】

CSR に関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業生活をととして労働環境を考える。

【到達目標】

本研究会での学習や作業をととして、学生たちが卒業後就職してからかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや個別研究成果の発表、議論、レポートがある。

【授業の進め方と方法】

春学期は基本的な知識の習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告し、それに基づいて議論する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果をレジュメにまとめて発表し、授業内での議論をふまえて最終的にレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメの作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか等について学習する。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム 伝統と変化1	日本的雇用システムの特徴と歴史について学ぶ。この回ではいわゆる終身雇用に焦点を当て、歴史的な変化についても学ぶ。
第5回	日本の雇用システム 伝統と変化2	日本的雇用システムのなかの年功制（賃金と昇進）に焦点を当て、歴史的な変化も踏まえて学ぶ。
第6回	日本の雇用システム 伝統と変化3	日本の企業内組合は海外では見られない、最も日本的な社会システムのひとつだといってよい。この回ではその特徴についてみていく。
第7回	日本の雇用システムの新たな側面	歴史的にみれば、成果主義の雇用管理（賃金と昇進）は日本的雇用システムのなかの新しい側面といってよい。この回ではそれについて学ぶ。
第8回	日本の雇用システムとジェンダー	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負うとされ、海外諸国との比較でもそれが指摘されている。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたのかについて学ぶ。
第9回	日本の雇用システムと非正規雇用、格差	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここではなぜ非正規雇用が増大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	日本の雇用システムと労働時間（1）	日本の労働時間は長いと言われ、実際、いまだに過労死や過労自殺がおこっている。ここでは日本の労働時間の実際をみる。
第11回	日本の雇用システムと労働時間（2）	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間はいかに関係し、また他の原因は何か等について考える。
第12回	大学生の就職1（日本の就職の特徴）	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第13回	大学生の就職2（グローバル人材）	近年グローバル人材への関心が高まっている。グローバル人材とは何か、企業はなぜグローバル人材に注目するのか、採用の実態はどうか等について考える。
第14回	日本の雇用システムの特徴	日本の雇用システムの特徴をまとめて整理し、トータルに理解できるようにする。
第15回	秋学期のテーマの確認	春学期での学びをもとに各自がおこなう個別テーマを確認し、研究の進め方等について個別にアドバイスをする。

第16回	研究の進め方とレポートの書き方	各自が読んだレポートの書き方の新書を参考に、改めてレポートの書き方の形式や引用の仕方等について学ぶ。
第17回	学生による研究発表1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第18回	学生による研究発表2	上記に同じ
第19回	学生による研究発表3	上記に同じ
第20回	学生による研究発表4	上記に同じ
第21回	学生による研究発表5	上記に同じ
第22回	学生による研究発表6	上記に同じ
第23回	学生による研究発表7	上記に同じ
第24回	学生による研究発表8	上記に同じ
第25回	学生による研究発表9	上記に同じ
第26回	レポートの途中経過報告	学生は80%程度完成したレポートの途中経過を報告し、修正や追加についての指示を受け、完成に向けての作業の指針とする。
第27回	学生による研究発表10	上記研究発表に同じ
第28回	完成版レポートの提出	完成版のレポートを提出。最終チェックを受け、マイナーな修正指示があればそれにしたがって完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んで、わからないことをチェックし、授業中に質問したりコメントを加えたりして、意見を言えるようにしておくこと。秋学期は、発表予定者が事前に指示する発表内容に関連した資料を読んで、春学期同様、授業内での議論に参加できるよう準備しておくこと。夏期休暇中の課題：夏期休暇中に後期発表の計画を立てて、教員に提示する。夏期のゼミ合宿を行う場合はそこで行う。

【テキスト（教科書）】

春学期は基本的に本の1章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は開講時に指示する。労働環境論ⅠおよびⅡで使った副教材はゼミでも参考資料として使う。

秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣ブックス、2012年。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 参加姿勢、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

修了論文作成において、より早い時期からの計画的な指導が必要。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナブルコース

研究会 (A)

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を講読しながら、実証的な社会学研究を自ら行うためのノウハウを理解する。

【到達目標】

本研究会では、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を集中的に講読し、「環境」「都市」「地域」に対する社会的なまなざし、アプローチの特徴を学ぶ。また、社会調査の基本的な方法論と実践を踏まえた上で、研究会参加者自らの関心から「自分で調べ」、最終的に研究会修了論文（もしくは（ゼミレポート））を執筆することを目的とする。

【授業の進め方と方法】

研究会参加者の関心に従い、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究（国内外）を決定し、全員で講読する。また、自分でテーマを設定し、研究会修了論文を執筆する。なお、研究会修了論文のテーマは、必ずしも環境や環境問題に特化しなくてもかまわない。研究会参加者の問題関心を重要視する。本やインターネットを「カットアンドペースト」してまとめるといった類の「レポート」ではなく、あくまでも「自分で調べる」という営みによって生み出された「論文」を目指す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションの実施。演習の年間計画を立てる。
第 2 回	文献購読 (1)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 3 回	文献購読 (2)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 4 回	文献購読 (3)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 5 回	文献購読 (4)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 6 回	文献購読 (5)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 7 回	文献購読 (6)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 8 回	研究会修了論文（ゼミレポート）中間報告 (1)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 9 回	文献購読 (7)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 10 回	文献購読 (8)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 11 回	文献購読 (9)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 12 回	文献購読 (10)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 13 回	文献購読 (11)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 14 回	文献購読 (12)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 15 回	研究会修了論文（ゼミレポート）中間報告 (2)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 16 回	文献購読 (13)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 17 回	文献購読 (14)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 18 回	文献購読 (15)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 19 回	文献購読 (16)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。

第 20 回	研究会修了論文（ゼミレポート）中間報告 (3)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 21 回	研究会修了論文（ゼミレポート）中間報告 (4)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 22 回	文献購読 (17)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 23 回	文献購読 (18)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 24 回	文献購読 (19)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 25 回	文献購読 (20)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 26 回	研究会修了論文（ゼミレポート）中間報告 (5)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 27 回	研究会修了論文（ゼミレポート）中間報告 (6)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 28 回	研究会修了論文（ゼミレポート）中間報告 (7)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の講読。および、研究会修了論文執筆に向けた一連の作業（文献講読、調査、論文執筆等）

【テキスト（教科書）】

随時、指定する。

【参考書】

随時、指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点。ただし、社会人学生で 2018 年度から研究会に参加する者は春学期、秋学期にゼミレポートの提出を求める。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本演習は火曜日 6 時限目にサブゼミとして延長して実施することがある。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース

研究会（A）

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会の〈環境〉の中で特に「農」「水」「エネルギー」と〈人〉のかかわりを巡る課題に対して、実証的な研究の手法を学びながら、社会調査を行い、実践的な課題解決をする力を養う。

【到達目標】

地域社会の「農」「水」「エネルギー」と〈人〉のかかわり方を再考し、その関係性の再構築のための実践に着目した調査研究を実施する。また、首都圏近郊および中山間地域・被災地などをフィールドにするほか、生活協同組合（生活クラブ生協）の実践に関わりながら、調査研究を行う。

【授業の進め方と方法】

本授業は、3つの部分から構成される。

- 1) 文献講読：フィールドや調査テーマに関連した文献を講読する。
- 2) 現地視察：文献講読と並行しながら、首都圏や東京都の中山間地域における農林業ならびに集落についての現地視察を行う。
- 3) グループに分かれての調査研究の実施：テーマの設定、現地調査、報告書・論文の執筆、プレゼンテーションを行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションを実施する。
第 2 回	文献購読（1）：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 3 回	文献購読（2）：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 4 回	文献購読（3）：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 5 回	文献購読（4）：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 6 回	文献購読（5）：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 7 回	現地視察	調査地域の視察を実施する。
第 8 回	調査グループの設定、テーマの選定（1）	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 9 回	調査グループの設定、テーマの選定（2）	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 10 回	グループ中間発表会	グループ別に調査テーマの方向性について報告し合い、議論をする。
第 11 回	調査準備・予備調査（1）	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 12 回	調査準備・予備調査（2）	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 13 回	調査準備・予備調査（3）	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 14 回	調査準備・予備調査（4）	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 15 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告と今後の方向性について報告し合い、議論をする。
第 16 回	各グループにおける調査（1）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 17 回	各グループにおける調査（2）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 18 回	各グループにおける調査（3）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 19 回	各グループにおける調査（4）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 20 回	各グループにおける調査（5）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 21 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告を行い、議論をする。
第 22 回	各グループにおける調査（6）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。

第 23 回	各グループにおける調査（7）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 24 回	各グループにおける調査（8）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 25 回	各グループにおける調査（9）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 26 回	各グループにおける調査（10）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 27 回	グループの発表・報告書作成（1）	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 28 回	グループの発表・報告書作成（2）	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の講読やフィールドワークを課す。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、指定する

【成績評価の方法と基準】

授業やフィールドワークへの参加姿勢、プレゼンテーションや調査報告書の内容などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は月曜日 5 時限目にサブゼミとして延長して行う場合もある。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース

研究会 (A)

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境問題への歴史学的アプローチ

環境史の教養を深めるために、日本の歴史上、生じたさまざまな環境問題を歴史学という学問を活用して、その歴史事実の把握と歴史評価を行えるようにする。そのために、歴史資料の読解、古文書の解読、グループ学習、フィールド調査、各自の研究発表を行い、環境史研究を進める。

【到達目標】

日本の歴史上における環境問題や現代の歴史的環境の保全を解決するための教養を身につける。このなかで、ゼミ生は環境史研究のテーマを自ら見つけて調査研究し、4 年時に研究会修了論文を提出することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

この授業は、指定されたテーマに関連した歴史資料・古文書の読解、フィールドの調査、各自の調査・研究に基づく発表、研究レポート・研究会修了論文の執筆といった一連の作業を、演習形式により行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションー環境史研究の調査と方法	本研究会の目標の周知と環境史研究の文献探索、調査方法、研究方法などを学ぶ
第 2 回	史料読解①	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 3 回	史料読解②	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 4 回	史料読解③	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 5 回	大学周辺フィールドスタディ①	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える。
第 6 回	調査研究のグループ発表①	指定した課題を分析し、グループ別に発表する。
第 7 回	調査研究のグループ発表②	指定した課題を分析し、グループ別に発表する。
第 8 回	古文書解読①	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 9 回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 10 回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 11 回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 12 回	特定テーマ中間発表④	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 13 回	特定テーマ中間発表⑤	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 14 回	特定テーマ中間発表⑥	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 15 回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う。
第 16 回	大学周辺フィールドスタディ②	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える。
第 17 回	史料読解④	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 18 回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 19 回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 20 回	調査研究のグループ発表③	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第 21 回	調査研究のグループ発表④	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第 22 回	古文書解読②	指定された古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 23 回	特定テーマ研究発表①	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 24 回	特定テーマ研究発表②	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 25 回	特定テーマ研究発表③	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 26 回	特定テーマ研究発表④	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

- 第 27 回 特定テーマ研究発表⑤ 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 28 回 特定テーマ研究発表⑥ 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付した歴史資料・古文書を事前に解読・分析する。
グループ・個人の調査研究にかかわる文献を収集・分析する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%)、発表・レポート (30%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

調査研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

研究会（A）

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR（企業の社会的責任）や Business Ethics（経営倫理）を中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

【到達目標】

CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の分野で実証的アプローチによる研究を行い、4年生は研究会修了論文、2・3年生は日経ストックリーグレポートを作成します。

【授業の進め方と方法】

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得しディベート能力も涵養します。秋学期は、複数のチームを編成し日経新聞と野村証券が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ・ストックリーグ ・卒業論文	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要 卒業論文の執筆スケジュール
第 2 回	企業と社会に関する文献 講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	企業と社会に関する文献 講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	企業と社会に関する文献 講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	企業と社会に関する文献 講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	ストックリーグ 第 1 回テーマ報告	テーマの方向性について報告
第 7 回	ESG 投資文献購読①	担当者による報告と全体討議
第 8 回	ESG 投資文献購読②	担当者による報告と全体討議
第 9 回	ESG 投資文献購読③	担当者による報告と全体討議
第 10 回	ストックリーグ 第 2 回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告
第 11 回	ESG 投資文献購読④	担当者による報告と全体討議
第 12 回	財務分析文献購読①	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 13 回	財務分析文献購読②	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 14 回	財務分析文献購読③	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 15 回	ストックリーグ 第 3 回テーマ報告	ファンドテーマの決定 企業調査の方法・スケジュールの報告
第 16 回	ストックリーグ グループ中間報告①	これまでの分析結果の報告
第 17 回	卒業論文中間報告①	卒論テーマ・論文構成の発表
第 18 回	ストックリーグ活動①	チーム活動の報告
第 19 回	ストックリーグ活動②	チーム活動の報告
第 20 回	ストックリーグ活動③	チーム活動の報告
第 21 回	ストックリーグ中間報告②	ユニバースの発表
第 22 回	ストックリーグ活動④	企業ヒアリング
第 23 回	ストックリーグ活動⑤	企業ヒアリング
第 24 回	ストックリーグ活動⑥	企業ヒアリング
第 25 回	ストックリーグ中間報告③	ポートフォリオの完成
第 26 回	卒業論文中間報告③	卒業論文の予備報告
第 27 回	ストックリーグ活動⑦	レポート作成
第 28 回	ストックリーグ活動⑧	レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

【テキスト（教科書）】

研究会の開講前に掲示します。

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

〔共通評価〕ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度

〔個別評価〕4 年生：卒業論文

2・3 年生：ストックリーグのレポート

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

研究会（A）

日原 傳

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

名勝と文学作品の関係を探る。

【到達目標】

- ・日本の自然や歴史について理解を深める。
- ・名勝の成立に関わる文学作品や関連文献を捜し、読み解くことを通して、調べる力・発表する力をつける。
- ・各自研究テーマを設定してレポートや論文を執筆し、文章を書く力を高める。

【授業の進め方と方法】

・最初の授業で名勝に関するいくつかの文献を紹介する。テキストに決めた紀行文について、担当箇所を各自に割り当てる。担当者は割り当てられた本文、および関連する文献について可能な限り調べて報告する。それを踏まえて、皆で議論する。

・テキストを輪読する過程で、各自が個人の研究テーマを決め、最終レポートや研究会修了論文の執筆に結びつける。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	紀行文と名勝	テキストの説明。参考文献の紹介。
第 2 回	文献講読	テキスト輪読
第 3 回	文献講読	テキスト輪読
第 4 回	文献講読	テキスト輪読
第 5 回	文献講読	テキスト輪読
第 6 回	文献講読	テキスト輪読
第 7 回	文献講読	テキスト輪読
第 8 回	文献講読	テキスト輪読
第 9 回	文献講読	テキスト輪読
第 10 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 11 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 12 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 13 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 14 回	文献講読	テキスト輪読
第 15 回	文献講読	テキスト輪読
第 16 回	文献講読	テキスト輪読
第 17 回	文献講読	テキスト輪読
第 18 回	文献講読	テキスト輪読
第 19 回	文献講読	テキスト輪読
第 20 回	文献講読	テキスト輪読
第 21 回	文献講読	テキスト輪読
第 22 回	文献講読	テキスト輪読
第 23 回	文献講読	テキスト輪読
第 24 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 25 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 26 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 27 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 28 回	総合討論	年間の研究活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各自に割り当てた紀行文の担当箇所について、可能な限り調べ、レジュメを作成する。
- ・各自テーマを決め、論文執筆のために文献を収集する。
- ・論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、発表内容）70％
最終レポート 30％

【学生の意見等からの気づき】

研究会修了論文に関して、個別に面談指導する時間を早くから設ける。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

研究会（A）

平野井 ちえ子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、文化政策・アートマネジメントの現状を考えます。

【到達目標】

1. 地域に暮らす人々の生活とそれぞれの地に固有の文化活動との関わりを理解することです。
2. 基本的な知識と方法論を身につけた後、とくに自信をもって語れる得意ジャンルまたはエリアをもつことが必要です。
3. 文化というソフトウェアから地域を考える姿勢が大切です。

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行います。春学期後半には、参加者各自に舞台芸術鑑賞レポートの作成と発表を求めます。秋学期の前半は、文化政策とそのケーススタディの基本書を輪読します。秋学期後半には、参加者各自が設定した地域の文化のケーススタディを指導します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 能・狂言（講義・討論）	1 年間の流れを概説します。また、春学期の舞台芸術鑑賞レポートについて説明します。 能舞台の構造を説明した後、能と狂言について、それぞれの物語性・演技の型・視聴覚効果の特徴などを講義します。映像資料について意見交換します。
第 2 回	歌舞伎（講義・討論）	歌舞伎の舞台構造を説明した後、「時代物」「世話物」「所作物」について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第 3 回	文楽（講義・討論）	文楽と歌舞伎を対照的に考察します。映像資料について意見交換します。
第 4 回	現代演劇 1（講義・討論）	翻訳劇の承譜について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第 5 回	最新舞台情報・舞台芸術鑑賞レポート作成指導	舞台芸術情報の探し方を指導します。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第 6 回	現代演劇 2（講義・討論）	現代日本の劇作家・演出家について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第 7 回	民俗芸能（講義・討論）	日本の民俗芸能について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第 8 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（1）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 9 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（2）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 10 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（3）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 11 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（4）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 12 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（5）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 13 回	フィールドワーク文献購読・討論（1）	『フィールドワーク 一書を持って街へ出よう』1. フィールドワークとは何か 2. フィールドワークの論理
第 14 回	フィールドワーク文献購読・討論（2）	『フィールドワーク 一書を持って街へ出よう』3. フィールドワークの実際 4. ハードウェアとソフトウェア
第 15 回	文献講読・討論（『入門文化政策』1）	1. 文化政策の観点からの京都観光論 2. 国際観光と文化政策 3. 地域文化資源と文化マネジメント（富山の事例）
第 16 回	文献講読・討論（『入門文化政策』2）	1. 市民と自治体による文化芸術創造都市づくり（横浜の事例） 2. 中山間地域の文化政策 3. 文化政策とその担い手
第 17 回	文献講読・討論（『入門文化政策』3）	1. 格差社会における文化政策 2. ライフスタイルのための文化政策 3. 文化政策としてのミュージアム・マネジメント
第 18 回	文献講読・討論（『入門文化政策』4）	1. 活動の現場からみた公と民の協働論 2. 市民文化の創造環境を目指して 3. 公共施設の運営と指定管理者制度

第 19 回	文献講読・討論（『入門文化政策』5）	1. 文化創造拠点としての宗教空間 2. 「政策科学」のこれからと文化政策への期待
第 20 回	地域の文化レポート作成指導（1）	調査方法や論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第 21 回	地域の文化レポート作成指導（2）	どのようなテーマ設定が可能か、ケーススタディを紹介します。
第 22 回	地域の文化レポート作成指導（3）	参加者各自が設定したレポートテーマとアイデアの詳細を交換します。
第 23 回	地域文化レポート発表・討論（1）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 24 回	地域文化レポート発表・討論（2）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 25 回	地域文化レポート発表・討論（3）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 26 回	地域文化レポート発表・討論（4）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 27 回	地域文化レポート発表・討論（5）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 28 回	総括	2018年度のゼミを振り返り、講義・文献講読・舞台芸術鑑賞レポート・劇場レポートの各項目と相互の関係について、ディスカッションとフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読の予習（発表者はレジュメの準備）
舞台芸術鑑賞とフィールド調査（レポート作成）

【テキスト（教科書）】

井口貢（2008）『入門文化政策 地域の文化を創るということ』ミネルヴァ書房
佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク ―書を持って街へ出よう―』新曜社

【参考書】

青山昌文（2015）『舞台芸術への招待』放送大学教育振興会
大笹吉雄（1999）『劇場が演じた劇』教育出版株式会社
舞台芸術財団演劇人会議（2005）『シンポジウム・劇場芸術の地平』舞台芸術財団演劇人会議
SPAC（1999）『劇場とは何か 新しい文化活動の創出に向けて』SPAC
平野井（2006）『小鹿野歌舞伎の現在』『法政大学人間環境論集』第6巻第2号
平野井（2007）『SPACの地域性と国際性』『法政大学人間環境論集』第7巻第2号

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50％
参加態度、口頭発表（テキスト輪読分と、各期末レポートの概略について）
【期末レポート】50％
春学期は、舞台芸術鑑賞レポート
秋学期は、文化発信の「場」のレポート

【学生の意見等からの気づき】

好評です。今後も、学生の自主性を尊重し、地域と芸術をバランスよく論じ合う交流の場としていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

BT0309教室での授業です。

【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術論文を検索する Google Scholar というサイトのトップには「巨人の肩の上に立つ」という言葉が出てきます。築きあげられた先人の知識の上に私たちが立っているという意味です。先人の知識とは本であり論文です。本を読むことは知的生活をする上での基本です。このゼミでは本を読むことで巨人の肩の上に立つことを目指します。

【到達目標】

年間に10冊以上の本を読んで要旨か書評をまとめることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

書籍の内容と分量に応じて2週から3週に1冊、本を指定します。その要旨もしくは書評を期日までに授業支援システムに提出してください。2017年度の書籍は『メディア・バイアス』『チェインジング・ブルー』『自動車の社会的費用』『効かない健康食品』『環境問題と世界史』『はじめての福島学』『気候変動を理學する』『喰いつくされるアフリカ』などです。

なお、書籍は各自が購入するか図書館から借りるかなどして、自力で調達してください。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	顔合わせ、自己紹介など
第2回	1冊目1	読書
第3回	1冊目2	要旨か書評を提出
第4回	1冊目3	議論
第5回	2冊目1	読書
第6回	2冊目2	要旨か書評を提出
第7回	2冊目3	議論
第8回	3冊目1	読書
第9回	3冊目2	要旨か書評を提出
第10回	3冊目3	議論
第11回	4冊目1	読書
第12回	4冊目2	要旨か書評を提出
第13回	4冊目3	議論
第14回	5冊目1	読書
第15回	5冊目2	要旨か書評を提出
第16回	夏休み課題図書（6冊目）	議論
第17回	7冊目1	読書
第18回	7冊目2	要旨か書評を提出
第19回	7冊目3	議論
第20回	8冊目1	読書
第21回	8冊目2	要旨か書評を提出
第22回	8冊目3	議論
第23回	9冊目1	読書
第24回	9冊目2	要旨か書評を提出
第25回	9冊目3	議論
第26回	10冊目1	読書
第27回	10冊目2	要旨か書評を提出
第28回	10冊目3	議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4年生は卒業研究を進めてください。

【テキスト（教科書）】

適宜、指定します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

要旨・書評の提出状況（100％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく幅広い分野をカバーするように課題本を選定します。

【関連の深いコース】

主たる関連コースは環境サイエンスコースとローカル・サステイナビリティコースですが、他コースに登録している学生もコース変更をせずに履修できます。

研究会 (A)

下井倉 ともみ

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地球温暖化とその周辺」

地球環境／地球温暖化対策／省エネ／エネルギー問題／エコ技術 など、地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。

【到達目標】

地球温暖化とその周辺について理解を深めます。たとえば温暖化政策や温暖化対策と称しているものが本当に正しいか、これらを検証する力を身につけることを目標とします。そのために、客観的に事実やデータにもとづいて定量的に解析し、考察する力をつけます。

【授業の進め方と方法】

最近の活動内容は以下の通りです。2018 年度はサイエンスコミュニケーションを大きなテーマにしますが、詳細はゼミ内の話し合いで決めます。「環境速報」（通年）…環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。「文献輪講」（前期）…地球温暖化に関する文献を輪講します。文献は毎年異なります。近年では、IPCC 評価報告書、エネルギー白書、原子力・自然エネルギーに関する書籍、科学技術社会論（STS）の書籍、省庁発行の資料、環境白書を輪講しました。「研究報告」（後期）…個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。「グループワーク」（逐次）…特定のテーマについてグループで研究します。近年では、環境展における企業研究、文献調査、キャンパスの放射線量調査を行いました。「報告書」（年度末）…1 年間の成果をまとめた報告書を提出します。4 年生は研究会修了論文（卒論）を提出します。必要に応じてサブゼミを火曜 6 限に行うことがあります。上記の他に親睦会などが行われます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	打ち合わせ	研究会運営について打ち合わせをします。
第 2 回	環境速報 文献輪講 グループワーク	環境速報と文献輪講を行います。グループワークを話し合います。
第 3 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 4 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 5 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 6 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 7 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 8 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 9 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 10 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 11 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 12 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 13 回	グループワーク発表	春学期のグループワークの成果を発表します。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめをします。
第 15 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 16 回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。グループワークについて話し合います。
第 17 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 18 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 19 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 20 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 21 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 22 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。

第 23 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 24 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 25 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 26 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 27 回	グループワーク発表	グループワークの発表を行います。
第 28 回	まとめ	1 年間のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動で学外で調査を実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示をします。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加姿勢、発表と議論の姿勢、年度末報告書にもとづき総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

ピアレビューは好評なので今年度も引き続きピアレビューを行います。グループワークを充実させます。

【学生が準備すべき機器他】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動では、学外で調査を実施することがあります。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース 他

研究会（A）

児玉 ゆう子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 3

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために
ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが可能となる。

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上（2）	同上（2）
第 5 回	同上（3）	同上（3）
第 6 回	同上（4）	同上（4）
第 7 回	同上（5）	同上（5）
第 8 回	同上（6）	同上（6）
第 9 回	同上（7）	同上（7）
第 10 回	同上（8）	同上（8）
第 11 回	同上（9）	同上（9）
第 12 回	同上（10）	同上（10）
第 13 回	同上（11）	同上（11）
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 16 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（12）	研究発表とディスカッション（12）
第 17 回	同上（13）	同上（13）
第 18 回	同上（14）	同上（14）
第 19 回	同上（15）	同上（15）
第 20 回	同上（16）	同上（16）
第 21 回	同上（17）	同上（17）
第 22 回	同上（18）	同上（18）
第 23 回	同上（19）	同上（19）
第 24 回	同上（20）	同上（20）
第 25 回	同上（21）	同上（21）
第 26 回	同上（22）	同上（22）
第 27 回	同上（23）	同上（23）
第 28 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の参加態度により評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていく。

【その他の重要事項】

2 年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成する。

児玉 ゆう子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために
ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが可能となる。

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上（2）	同上（2）
第 5 回	同上（3）	同上（3）
第 6 回	同上（4）	同上（4）
第 7 回	同上（5）	同上（5）
第 8 回	同上（6）	同上（6）
第 9 回	同上（7）	同上（7）
第 10 回	同上（8）	同上（8）
第 11 回	同上（9）	同上（9）
第 12 回	同上（10）	同上（10）
第 13 回	同上（11）	同上（11）
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 16 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（12）	研究発表とディスカッション（12）
第 17 回	同上（13）	同上（13）
第 18 回	同上（14）	同上（14）
第 19 回	同上（15）	同上（15）
第 20 回	同上（16）	同上（16）
第 21 回	同上（17）	同上（17）
第 22 回	同上（18）	同上（18）
第 23 回	同上（19）	同上（19）
第 24 回	同上（20）	同上（20）
第 25 回	同上（21）	同上（21）
第 26 回	同上（22）	同上（22）
第 27 回	同上（23）	同上（23）
第 28 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、春学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の参加態度により評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていく。

【その他の重要事項】

2 年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成する。

OTR400HA

研究会 (A)

渡邊 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：文系の立場から科学技術政策へ向けて多角的に考える
 「人」と「環境問題」の関連について具体的な事例をもとに幅広く考察し、環境問題の論点や視点の持ち方を研究していきます。科学技術の進歩とは何か？を意識しながらその将来像や政策の方向について考えていきます。科学技術政策の立案・決定プロセスにおいて市民参加を伴うオープンな検討方式の重要性について考察します。参加者同士で調査・報告・討論しながら人間と科学技術の関係性と政策の進め方などについて考察を深めます。具体的な調査内容は授業時に相談しながら選定します。

【到達目標】

今日我々が抱えている環境問題を科学技術の進歩の結果としてとらえ、その歴史や役割などを考察し、我々のライフスタイルなどと結びつけながら総合的に考える力を養うことを目標としています。自らが問題・課題を発見し、調査・検討するという体験を通して、自分の意見をしっかりと持ち、説得力のある表現（プレゼンテーション）ができるようになることも目標としています。

【授業の進め方と方法】

1 年間の授業内容はおおむね次の通りです。春学期には主として数名からなるグループを作り調査や討論を進めその研究内容を報告します。さらにゼミ生全員でディスカッションを行うことにより、お互いの問題意識やそれに関わる知識を全員で共有します。秋学期には、各個人が研究テーマを定め、それについて調査・研究を進め、報告と討論を行います。科学技術とその政策に関連する具体事例について調査し多角的に考察を行います。4 年生は「研究会修了論文」を提出することを前提としていますが、その中間発表と最終報告も行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1 年間の授業計画についての打ち合わせを行う。
第 2 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 3 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 4 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 5 回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 6 回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 7 回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 8 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 9 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 10 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 11 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 12 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 13 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 14 回	グループ研究の総括	グループ研究のまとめと総合討論を行う。
第 15 回	個人研究のためのガイダンス	テーマ選定のための検討を行う。
第 16 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 17 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 18 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 19 回	卒論の中間報告 (4 年生)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告と質疑応答を行う。
第 20 回	卒論の中間報告 (4 年生)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告と質疑応答を行う。
第 21 回	卒論の中間報告 (4 年生)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告と質疑応答を行う。
第 22 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究の調査内容について報告する。
第 23 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究の調査内容について報告する。
第 24 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究の調査内容について報告する。

- 第 25 回 個人研究の報告と検討 (2,3 年生) 個人研究の調査内容について報告する。
- 第 26 回 卒論の最終報告 (4 年生) 研究会修了論文 (卒論) の最終報告と質疑応答を行う。
- 第 27 回 卒論の最終報告 (4 年生) 研究会修了論文 (卒論) の最終報告と質疑応答を行う。
- 第 28 回 卒論の最終報告 (4 年生) 研究会修了論文 (卒論) の最終報告と質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究あるいは個人研究を進めるための調査、検討、資料作成を行うこととします。発表に際してはあらかじめレジュメを作成し提出します。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容および討論参加の積極性など 60%、提出されたレポート内容など 40%。

【学生の意見等からの気づき】

基礎事項などについては、なるべくわかりやすい説明となるよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションのための PC などは各自用意してください。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

研究会 (B)

岡松 暁子

カテゴリ: 政策 | 配当年次/単位: 2~4 年 / 2 単位
開講セメスター: 春学期 | 曜日・時限: 木 4

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際法・国際環境法に関する英語の文献や裁判の判決を講読し、関連する問題についての討論を行う。

国際社会の諸問題について、英語で発表を行う。

【到達目標】

専門領域における英語文献を抵抗なく購読できるようになること。

国際問題について、英語で討論できるようになること。

【授業の進め方と方法】

・参加者の関心のあるテーマについて、英語の文献を全員で講読する。

・国際社会の諸問題について、英語で発表し、討論を行う。

* 受講者の人数や関心により、必ずしも計画通りに進行しないことがある。

* 必要に応じてサブゼミを行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび打ち合わせ	講読文献と鑑賞映画の選定
第 2 回	文献購読 (1)	文献講読と討論
第 3 回	文献購読 (2)	文献講読と討論
第 4 回	文献購読 (3)	文献講読と討論
第 5 回	文献購読 (4)	文献講読と討論
第 6 回	文献購読 (5)	文献講読と討論
第 7 回	文献購読 (6)	文献講読と討論
第 8 回	映画鑑賞会 (1)	映画鑑賞と討論
第 9 回	時事問題 (1)	時事問題の討論
第 10 回	時事問題 (2)	時事問題の討論
第 11 回	時事問題 (3)	時事問題の討論
第 12 回	時事問題 (4)	時事問題の討論
第 13 回	時事問題 (5)	時事問題の討論
第 14 回	映画鑑賞会 (2)	映画鑑賞と討論
第 15 回	まとめ	まとめ
第 16 回	ガイダンスおよび打ち合わせ	講読文献と鑑賞映画の選定
第 17 回	文献購読 (7)	文献講読と討論
第 18 回	文献購読 (8)	文献講読と討論
第 19 回	文献購読 (9)	文献講読と討論
第 20 回	文献購読 (10)	文献講読と討論
第 21 回	文献購読 (11)	文献講読と討論
第 22 回	文献購読 (12)	文献講読と討論
第 23 回	映画鑑賞会 (3)	映画鑑賞と討論
第 24 回	時事問題 (6)	時事問題の討論
第 25 回	時事問題 (7)	時事問題の討論
第 26 回	時事問題 (8)	時事問題の討論
第 27 回	時事問題 (9)	時事問題の討論
第 28 回	時事問題 (10)	時事問題の討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の予習

【テキスト (教科書)】

受講者と相談の上、その都度指示する

【参考書】

受講者と相談の上、その都度指示する

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース

研究会 (B)

金藤 正直

カテゴリ: 政策 | 配当年次/単位: 2~4 年 / 4 単位
開講セメスター: 年間授業 | 曜日・時限: 金 4

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本研究会では、ビジネスモデルや企業および地域を主体とした事業 (ビジネス) に関する文献の内容分析とともに、それに関連する現地調査 (フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査) を通じて、「地域の持続的成長のためのビジネスデザイン」の方法論を学習していくことを目的とする。

【到達目標】

本研究会では、企業や地域のビジネスに関する現状分析や問題への解決策の考察を通して、経済・経営系の基礎知識、分析能力、論理力などといった研究会 (A) や今後社会で活躍するために必要とされる基礎的な能力を身につけていくことを目標としています。

【授業の進め方と方法】

【春学期】

□ ビジネスモデルに関する著書や論文に基づいて、持続可能なビジネスモデルをデザインする技法を学習する。

□ 学習したビジネスモデルの視点から、現在国内外で注目されている企業や地域を主体としたビジネスの現状を分析するとともに、その企業や地域をさらに持続的に成長していくために何が必要かを検討し、明らかにしてもらいます。

【秋学期】

□ 新たな文献のサーベイや、春学期で取り上げた企業や地域の事業関係者に対してアンケート調査やヒアリング調査を実施し、当該ビジネスの現状や問題を明らかにするとともに、その問題への解決策を検討し、提案してもらいます。

□ 春学期および秋学期の研究・調査の成果を、事業関係者に報告 (最終報告) するとともに、研究・調査レポート (あるいは PC ソフト (アプリ)・仕様書など) にもまとめてもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 研究・調査の目標設定	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。 また、各自 1 年間の目標を検討し、設定してもらう。
第 2 回	研究・調査のための諸文献の分析方法 (A)	テキストや他の著書を用いて、主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第 3 回	研究・調査のための諸文献の分析方法 (B)	論文や報告書などを用いて主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第 4 回	諸文献の分析内容の報告・議論①	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 5 回	諸文献の分析内容の報告・議論②	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 6 回	諸文献の分析内容の報告・議論③	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 7 回	諸文献の分析内容の報告・議論④	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 8 回	研究・調査テーマ (研究対象とする事業) の選定・検討方法	研究・調査テーマ (研究対象とする事業) の選定・検討方法を説明するとともに、実際にその事業を選定し、検討していく作業を行う。
第 9 回	研究・調査テーマの分析方法	第 7 回までの講義内容に基づいて、第 8 回で選定・検討した研究・調査テーマ (研究対象とする事業) を分析していくための方法を説明する。
第 10 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論①	研究・調査テーマ (研究対象とする事業) を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 11 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論②	研究・調査テーマ (研究対象とする事業) を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 12 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論③	研究・調査テーマ (研究対象とする事業) を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 13 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論④	研究・調査テーマ (研究対象とする事業) を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 14 回	小 括	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していく。
第 15 回	研究・調査に関する報告会 (A)	春学期中に取り組んだ研究・調査の取組内容を報告し、それを全員で議論する。
第 16 回	研究・調査に関する報告会 (B)	春学期中に取り組んだ研究・調査の取組内容を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 17 回	現地調査の方法 (A)	現地調査 (フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査) の方法を説明する。

第 18 回	現地調査の方法 (B)	現地調査 (フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査) のための調査票の作成方法を説明するとともに、実際に調査票の作成作業も行う。
第 19 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤－ 1	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 20 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤－ 2	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 21 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤－ 3	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 22 回	製品・商品の生産・販売店の調査 (A)	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第 23 回	製品・商品の生産・販売店の調査 (B)	第 22 回で調査した結果を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 24 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑥	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ (研究対象とする事業) を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 25 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑦	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ (研究対象とする事業) を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 26 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑧	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ (研究対象とする事業) を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 27 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑨	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ (研究対象とする事業) を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 28 回	総括 研究・調査テーマの検討 内容の整理	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していくとともに、その内容を研究・調査計画書やそれをもとに作成されるレポートに活かしていく方法を説明する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本研究会では、諸文献の分析や実践的な取組みを通して、研究・調査テーマの決定、研究・調査の目的・視点・方法、研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法などを学習し、研究会 (A) や今後社会で活躍するための基礎的な能力をしっかりと身に付けていきますので、大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。

【テキスト (教科書)】

使用するテキストは第 1 回に紹介します。
また、毎回パワーポイントを用いて報告してもらいますので、レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

チームあるいはそのメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・討論への参加 (発言内容) (20 %)
- ・報告用配布レジュメの内容 (20 %)
- ・報告内容 (プレゼンテーション能力) (30 %)
- ・研究・調査レポート (あるいは PC ソフト (アプリ)・仕様書など) (30 %)

【学生の意見等からの気づき】

毎年、ゼミ生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成されるチームでの研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、ローカル・サステナビリティコース

OTR400HA

研究会 (B)

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

気象は私たちにとって身近なものであり、私たちが地表で社会生活を営んでいる限りは必然的につき合っていく存在である。また、多くの企業ではその収益が気象の影響を受けるなど、気象と経済・経営とにも密接な関係がある。この研究会では、気象の基礎、ならびに気象と人間、社会、経済の関係について勉強する。

【到達目標】

1. 人の生活・社会・企業と気象とのかかわりを説明できる。
2. 様々な気象の特徴やしくみについて説明できる。
3. 気象における環境問題について説明できる。

【授業の進め方と方法】

テキストを 2 冊ほど選び、各自の担当部分を決めて春学期は 1 冊目を、秋学期は 2 冊目を輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分を理解して内容をまとめて臨み、発表する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト (1) の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第 2 回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 3 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 4 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 5 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 6 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 7 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 8 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 9 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 10 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 11 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 12 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 13 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 14 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 15 回	テキスト (2) の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第 16 回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 17 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 18 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 19 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 20 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 21 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 22 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 23 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 24 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 25 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 26 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 27 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 28 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第 1～28 回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習

【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %：スライドなどの良好度，説明の正確さ，質疑応答の適切さ，到達目標1～3への達成度），議論（50 %：説明の正確さ，質疑応答の適切さ，到達目標1～3への達成度）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

自分がわからない部分は，ほかの人もわからないものです。わからないことを皆で学ぶのがゼミなのです。気象に興味はあっても今まで踏み込むチャンスがなかった学生さん，気象予報士に興味がある学生さん，一緒に勉強してゆきましょう。

【関連の深いコース】

どのコースでも可

OTR400HA

研究会（B）

ストックウェル・エスター

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

* Human Communication *

Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

【到達目標】

This course combines both theory and practice, and provides an overview of the different aspects of human communication. We will cover fundamental theories to explain features of interpersonal relationships, groups, organizational relationships, cultural diversity, cultural attitudes, groups and persuasion, mass media, and the effects of the media on receivers. Students will learn to question why some forms of communication work and why others fail. Individual, social and technological aspects of communication are examined from theoretical and practical points of view.

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of human communication
第 2 回	Introduction of Communication	Definition of communication / Components of communication / Types of communication
第 3 回	Introduction of Communication Studies	Models of communication / The goal of studying communication
第 4 回	Self, Perception & Communication	What occurs in perception? / How do we perceive others? / What is self-awareness?
第 5 回	Self, Perception & Communication	How does perception affect communication and sense of self?
第 6 回	Verbal Communication	What is language? / Characteristics of language
第 7 回	Verbal Communication	How can language be an enhancement and an obstacle to communication?
第 8 回	Non verbal Communication	What is non-verbal communication? / How are verbal and non-verbal communication related? / What are non-verbal codes?
第 9 回	Non verbal Communication	Why are non-verbal codes difficult to interpret? / How can we improve our non-verbal communication?
第 10 回	Listening & Critical thinking	Misconceptions about listening / The listening process / Four types of listening / Critical listening
第 11 回	Writing Workshop	Planning & writing a short essay
第 12 回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper
第 13 回	Presentation Workshop	Planning & preparing oral presentation / Presentation techniques
第 14 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.
第 15 回	Fundamental Communication Studies	Overview of the course, online activity, and overview of fundamentals of communication
第 16 回	Interpersonal Communication	The nature of communication in interpersonal relationships
第 17 回	Interpersonal Communication	Essential interpersonal communication behaviour / How to improve interpersonal relationships

第 18 回	Small group Communication	The types & functions of small groups / The role of leadership in small groups
第 19 回	Small group Communication	Theoretical approaches to group leadership / Establishing culture in small groups
第 20 回	Intercultural Communication	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture
第 21 回	Intercultural Communication	Potential problems in intercultural communication / Characteristics of different cultures / Strategies for improving intercultural communication
第 22 回	Organizational Communication	Type of organisations & organisational structures / Communication Network
第 23 回	Organizational Communication	Organisational Assimilation / The dark side of workplace communication
第 24 回	Mass Communication	Synchronous communication / Asynchronous communication / CMC and the communication process
第 25 回	Mass Communication	Mass media organisations / Agenda-setting, Gatekeeping, and Social Reality / Theories of media effects
第 26 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 27 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 28 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】

Adler, R., & Rodman, G. (2013). Understanding Human Communication (9th Edition). New York: Oxford.

Joseph A. DeVito (2014). Human Communication: The Basic Course (13th Edition). Pearson.

Pearson, J., Nelson, P., Titsworth, S., & Harter, L. (2013). Human Communication. Boston: McGraw Hill.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to participate actively in class. Assessment is based on weekly class participation, writing online forum postings, presentations and written assignments. Students will not be assessed on their English language skills, but rather on their knowledge of the content of the classes.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【関連の深いコース】

人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（B）

高橋 五月

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Bゼミのテーマは「エスノグラフィーで学ぶ人と環境」です。人間と環境の関係について、文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生自らエスノグラフィーを用いたフィールドワークを行い、関心がある問題テーマについて調査研究を行い、調査論文を作成する。

【到達目標】

- 1）人間と環境の関係について、先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2）エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3）フィールドワークの実践的なスキルを得る
- 4）先行研究レビューを参考にしながら調査データを分析し、調査論文にまとめる

【授業の進め方と方法】

春学期は、先行研究を講読しながら、エスノグラフィーの入門書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自のフィールドワークの準備、調査計画を行う。フィールドワークは各自の調査計画に応じて、夏季・冬季休暇中および学期中に実施する。秋学期は、先行研究を講読し、先行研究レビューを作成しながら、フィールドワークで収集したデータの分析を調査論文としてまとめ、発表する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介とゼミのテーマ、進め方、課題についての説明、文献講読の発表担当を決める
第 2 回	エスノグラフィー入門（1）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 3 回	エスノグラフィー入門（2）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 4 回	エスノグラフィー入門（3）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 5 回	エスノグラフィー入門（4）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 6 回	エスノグラフィー入門（5）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 7 回	エスノグラフィー入門（6）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 8 回	エスノグラフィー入門（7）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 9 回	エスノグラフィー入門（8）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 10 回	エスノグラフィー入門（9）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 11 回	エスノグラフィー入門（10）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 12 回	エスノグラフィー入門（11）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 13 回	エスノグラフィー入門（12）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 14 回	前期のまとめ	前期のまとめ、各自の調査計画作成を発表、提出する。
第 15 回	ガイダンス	後期の進め方についての説明
第 16 回	調査研究の中間報告（1）	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第 17 回	調査研究の中間報告（2）	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第 18 回	調査研究の中間報告（3）	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第 19 回	調査研究の中間報告（4）	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する

第20回	エスノグラフィー分析 (1)	関連先行研究文献を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第21回	エスノグラフィー分析 (2)	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第22回	エスノグラフィー分析 (3)	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第23回	エスノグラフィー分析 (4)	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第24回	エスノグラフィー分析 (5)	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第25回	エスノグラフィー分析 (6)	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第26回	研究成果の発表 (1)	調査論文を発表し、討論する
第27回	研究成果の発表 (2)	調査論文を発表し、討論する
第28回	研究成果の発表 (3)	調査論文を発表し、討論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献は必ず熟読して演習に臨み、積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にしておく。調査準備とフィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。研究テーマに関連する先行研究文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを随時アップデートすること。

【テキスト（教科書）】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社（2010）

【参考書】

随時授業内でお知らせします

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（30％）、文献発表（20％）、調査計画、現地調査、調査論文（50％）

【学生の意見等からの気づき】

現地調査を自ら計画して遂行するのは苦労も多いが、楽しさと達成感を得られるということを学生も感じ取ってくれているようで嬉しいです。

【関連の深いコース】

どのコースの学生でも履修可能

OTR400HA

研究会（B）

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2018年度は、途上国、先進国を問わず人類の生存と文明の存続に必須の「水」をテーマに持続可能な社会のあり方についての議論を深めます。受講者が何が持続可能な社会なのかについて、深く考えかつ具体的に行動できるようにすることを目指します。

【到達目標】

本研究会では、(ア)開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ)自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ)途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像／構想できるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c) 参加者の意見表明やプレゼンテーションの機会、からなります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第2回	何が「問題」か？	「水問題」に関する基礎文献を読み、何が「問題」なのかについて意見交換する。
第3回	誰にとって「問題」か？	「水問題」に関する基礎文献を読み、誰にとって「問題」なのかについて意見交換する。
第4回	グループディスカッション課題1（身近な水問題）	「水問題」に関する基礎文献を読み、身近な水問題について意見交換する。(1)
第5回	グループディスカッション課題1（身近な水問題）	「水問題」に関する基礎文献を読み、身近な水問題について意見交換する。(2)
第6回	グループディスカッション課題1（身近な水問題）	「水問題」に関する基礎文献を読み、身近な水問題について意見交換する。(3)
第7回	グループディスカッション課題2（日本における水問題）(1)	「水問題」に関する基礎文献を読み、日本における水問題について意見交換する。(1)
第8回	グループディスカッション課題2（日本における水問題）(2)	「水問題」に関する基礎文献を読み、日本における水問題について意見交換する。(2)
第9回	グループディスカッション課題3（日本における水問題）(1)	「水問題」に関する基礎文献を読み、日本における水問題について意見交換する。(3)
第10回	グループディスカッション課題3（日本における水問題）(2)	「水問題」に関する基礎文献を読み、日本における水問題について意見交換する。(4)
第11回	グループディスカッション課題4（途上国における水問題）(1)	「水問題」に関する基礎文献を読み、途上国における水問題について意見交換する。(1)
第12回	グループディスカッション課題4（途上国における水問題）(2)	「水問題」に関する基礎文献を読み、途上国における水問題について意見交換する。(2)
第13回	グループディスカッション課題4（途上国における水問題）(3)	「水問題」に関する基礎文献を読み、途上国における水問題について意見交換する。(3)
第14回	「水問題」とは？	春学期の学びの総括を行う。
第15回	秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第16回	「問題」を「解決する」とは？ (1)	「水問題」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(1)
第17回	「問題」を「解決する」とは？ (2)	「水問題」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(2)
第18回	「問題」の捉え方を学ぶ	「水問題」に関する基礎文献を読み、「問題」の捉え方－フレーミング－について学ぶ。
第19回	グループディスカッション課題5（過去における水問題）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第20回	グループディスカッション課題5（過去における水問題）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。

第 21 回	グループディスカッション課題 6（現代における水問題）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 22 回	グループディスカッション課題 6（現代における水問題）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 23 回	グループディスカッション課題 7（途上国における水問題）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 24 回	グループディスカッション課題 7（途上国における水問題）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 25 回	グループディスカッション課題 8（途上国における水問題）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 26 回	グループディスカッション課題 8（途上国における水問題）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。(1)
第 27 回	グループディスカッション課題 8（途上国における水問題）(3)	グループ発表および全体ディスカッション。フィードバックを含む。(2)
第 28 回	年間の学びの総括	「水問題」について理解できた点、できなかった点を整理し、今後の学びや行動の計画を考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究会での議論への貢献（70 %）、期末レポート（30 %）にて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過去には、ゼミ生同士のコミュニケーションをより頻繁に行いたいとの意見および、個人としての意見発表のスキル向上への配慮の要望があったことから、人数と時間の制約の中での議論の進め方について留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（B）

田中 勉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 5・6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

千代田区の地域環境政策（CES・千代田エコシステム）の研究と実践

【到達目標】

このゼミは 2006 年に法政大学が千代田区と締結した「事業協力協定」に基づき設置された特別の科目です。千代田区における「個人の環境配慮行動を促進する仕組み」を研究し、企画・実践することを目的としています。大学外の関係者との連携により視野を広げていきます。これまでの研究と実践活動の実績をもとに、さらなる改善を目指して進めます。

【授業の進め方と方法】

まず千代田区の地域特性を把握するために区の統計資料や文献を学び、区の関係者（区役所・企業・NPO）からの聞き取りを行う。このゼミの特徴は、区内の関係者と協働して実践活動を行うことにある。千代田区温暖化対策課やCES推進協議会が開催する環境イベントへの参加などをとおして「CES（千代田エコシステム）」の周知・普及をはかる。またキャンパス内でも活動し、環境へ配慮した行動・生活スタイルの実践を呼びかける。参加者の関心に基づく「個人研究」の発表とレポート作成を行う。なお、このゼミは参加者が役割分担して運営するのが特徴である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	メンバー確認、CES について	ゼミメンバーを確認し、主要な役割分担を相談する。 環境マネジメントシステムとは何か、CES の特色について、説明と質疑。
第 2 回	ゼミの経過（報告書）講義	2017 年度活動について前年度メンバーから報告・説明を行う。
第 3 回	千代田区の特性①	千代田区の地域特性を資料により理解する。
第 4 回	千代田区の特性②	前週の説明を受けて、質疑応答を行う。
第 5 回	区役所担当者による講義	区の環境政策（温暖化対策条例・環境モデル都市など）について講義を受ける。
第 6 回	CES 推進協議会事務局への聞き取り	CES 推進協議会の事務局の担当者による協議会の活動内容についての説明と質疑。
第 7 回	プログラムミーティングと実践①	2018 年度春学期および年間の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第 8 回	プログラムミーティングと実践②	活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第 9 回	プログラムミーティングと実践③	プログラムを決定。 実施グループメンバーへの割り振り。
第 10 回	プログラムミーティングと実践④	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 11 回	プログラムミーティングと実践⑤	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 12 回	プログラムミーティングと実践⑥	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 13 回	プログラムミーティングと実践⑦	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 14 回	夏期休暇中活動の打ち合わせ	夏期休暇中のイベントについて、日程の確認と参加者の確定、および秋学期のスケジュールについて確認。
第 15 回	夏期休暇中活動の報告、秋学期計画	夏期休暇中のイベントについて、参加者より実施報告。スケジュールの確認。
第 16 回	プログラムミーティングと実践⑧	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 17 回	プログラムミーティングと実践⑨	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 18 回	プログラムミーティングと実践⑩	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 19 回	講演会（講師：未定）	行政・企業・NPO などの環境への取り組み事例を学ぶ。
第 20 回	千代田研究①	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第 21 回	千代田研究②	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第 22 回	千代田研究③	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第 23 回	年度活動報告書作成会議①	報告書の構成と原稿執筆の分担、編集委員の決定。
第 24 回	千代田研究④	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第 25 回	千代田研究⑤	個人研究の追加発表。
第 26 回	プログラムミーティング⑪	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。

第 27 回	プログラムミーティング ⑫	各プログラムグループごとに実行プランのふり回り行い、活動評価を行う。
第 28 回	年度活動報告書作成会議 ②および年間活動ふり回り	報告書内容決定。ふり回り記録作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ時間以外に、各種イベント参加、区内施設見学や「講演会」「まちあるき」などを実施します。いずれもゼミ生自身で企画・実施します。ただし各自の時間の都合で参加することを原則としているので、他の授業には支障がありません。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。必要に応じて区政資料などを配布する。

【参考書】

杉浦淳吉「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版
石原ほか「まちづくりを学ぶ」有斐閣
ほかにイベントごとに資料を作成、配布する。

【成績評価の方法と基準】

活動参加・役割関与（40％）、個人研究発表（40％）、研究レポート（20％）を総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

個人・グループ研究の発表および討論の時間を増やし、研究の深化をはかります。

【その他の重要事項】

このゼミは5・6限目の2時限連続で行います。1時限だけの登録はできません。

【関連の深いコース】

コースを限定しません

OTR400HA

研究会（B）

谷本 有美子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本テーマは「自治体で働くということ」です。卒業後に自治体で公共政策の担い手となることを目指す学生のために、公務員予備校などで主に学ぶ一次の筆記試験対策とは異なる観点からキャリアデザインを支援する研究会です。またこの研究会における経験を通じて、論述やグループ討議、最終面接などの二次試験以降の対応力を高めること、さらに学生が自治体職員になった場合に必要となる政策形成能力の基礎を身につけることも目的としています。

【到達目標】

第1に自治体職員のキャリアイメージを形成すること、第2に自治体職員になるための目的意識を涵養すること、第3に市民性を備え、広い視野を持って地域課題に対応できる能力への理解を深めることです。

【授業の進め方と方法】

現在、自治体で求められている人物像に関する講義、地域課題に関する広い視野やコミュニケーション能力を身につけるための時事問題に関するテーマ討論、ゲストスピーカー（現職の自治体職員等）の講義と対話、地域の課題に取り組んだ自治体の政策事例の検討、特定地域の課題と政策動向に関する調査・新たな政策アイデアの検討と報告、必要に応じ現地調査などを組み合わせていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会の進め方についての説明と、受講者の意見交換を通じて自治体職員に対する各人のイメージを共有する
第2回	自治体の政策課題の発見（1）	最近の報道から自治体に関連しそうな課題を受講生が持ち寄り、グループでその対策アイデアを検討する
第3回	自治体の政策課題の発見（2）	第2回の内容を発表し、全体で討議する
第4回	自治体職員のミッションとは？	自治体職員が働く現場の事例から、仕事のミッションについて考える
第5回	ケース分析「自治体職員の仕事」	ビデオやテキスト等の事例を題材に自治体職員の仕事に必要な能力についてグループで討議、発表する
第6回	自治体の現場課題を考える～政策形成思考のトレーニング（1）	自治体現場の最前線の政策課題について、グループディスカッションを通じて解決策を探る
第7回	自治体の現場課題を考える～政策形成思考のトレーニング（2）	第6回の内容を発表し、全体で討議する
第8回	自治体職員（ゲストスピーカー）に聞く（1）	現職の自治体職員をゲストスピーカーとして招き、職務の実際やキャリアについて聞き取りを行う
第9回	自治体職員（ゲストスピーカー）に聞く（2）	現職の自治体職員をゲストスピーカーとして招き、職務の実際やキャリアについて聞き取りを行う
第10回	自治体職員としてのキャリア形成を考える	前年度受講者から進路選択の実際について聞き取り、キャリア形成について考える
第11回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成（1）	受講生各自が仮の志望自治体を選び、関心のある政策を調べて、自身がどのように携わり、キャリアを形成したいかについてのプレゼンテーションを行う
第12回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成（2）	第11回の続き
第13回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成（3）	第11・12回の続き
第14回	総括討論	学習した内容を振り返りつつ、自治体職員の役割・あるべき姿などについて総括的に討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テーマ討論や講義内容に関する事前学習
- ・ゲストスピーカーからの聞き取りのための事前学習
- ・関心を持った自治体の政策や地域資源等についての情報収集

【テキスト（教科書）】

各回のテーマに応じて、必要な印刷物を配付します。

【参考書】

稲継裕昭『地方自治入門』（有斐閣）、今井照『地方自治講義』（ちくま新書）の他、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

課題の履行と提出、参加姿勢による総合評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

自治体の仕事の実際に触れられる機会を可能な限り提供します。
グループ討議で他の受講生と共に学びながら報告内容をまとめる経験を積み、発表の機会を通じてプレゼンテーション技術が向上できるようなサポートをします。

【関連の深いコース】

全てのコースが対象

OTR400HA

研究会（B）

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。

【到達目標】

受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にでてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、現実に用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取りたいと思います。難しい箇所は、担当教員が解説いたします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	英文契約書の背景（1）	国際契約書と英語等
第 2 回	英文契約書の背景（2）	仲裁、準拠法、国際裁判管轄等
第 3 回	契約書の英語（1）	接続詞、助動詞等
第 4 回	契約書の英語（2）	特殊な用語法（1）、小テスト
第 5 回	契約書の英語（3）	特殊な用語法（2）、小テスト
第 6 回	契約書の英語（4）	特殊な用語法（3）、小テスト
第 7 回	契約書の英語（5）	特殊な用語法（4）、小テスト
第 8 回	契約書の英語（6）	売買契約書（1）、小テスト
第 9 回	契約書の英語（7）	売買契約書（2）、小テスト
第 10 回	契約書の英語（8）	売買契約書（3）、小テスト
第 11 回	英文契約の読解（1）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 12 回	英文契約の読解（2）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 13 回	英文契約の読解（3）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 14 回	英文契約の読解（4）	実際の英文契約読解（班による発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書で指定された小テストの箇所（一定の長さの条文や単語）を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときに和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。

【テキスト（教科書）】

宮野準治・飯泉恵美子著『英文契約書の基礎知識』（ジャパンタイムズ社、1997年）、配布プリント。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです。小テストの結果、班の発表等で評価します。なお、3回以上欠席したり、小テストの勉強や発表準備をしてこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、丁寧に英文契約の読み方を解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

研究会（B）

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業生活をととして労働環境を考える。

【到達目標】

本研究会での学習や作業をととして、学生たちが卒業後就職してからかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや個別研究成果の発表、議論、レポートがある。

【授業の進め方と方法】

春学期は基本的な知識の習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告し、それに基づいて議論する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果をレジュメにまとめて発表し、授業内での議論をふまえて最終的にレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメの作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか等について学習する。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム 伝統と変化1	日本的雇用システムの特徴と歴史について学ぶ。この回ではいわゆる終身雇用に焦点を当て、歴史的な変化についても学ぶ。
第5回	日本の雇用システム 伝統と変化2	日本的雇用システムのなかの年功制（賃金と昇進）に焦点を当て、歴史的な変化も踏まえて学ぶ。
第6回	日本の雇用システム 伝統と変化3	日本の企業内組合は海外では見られない、最も日本的な社会システムのひとつだといつてよい。この回ではその特徴についてみていく。
第7回	日本の雇用システムの新たな側面	歴史的にみれば、成果主義の雇用管理（賃金と昇進）は日本的雇用システムのなかの新しい側面といつてよい。この回ではそれについて学ぶ。
第8回	日本の雇用システムとジェンダー	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負うとされ、海外諸国との比較でもそれが指摘されている。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたのかについて学ぶ。
第9回	日本の雇用システムと非正規雇用、格差	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここではなぜ非正規雇用が増大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	日本の雇用システムと労働時間（1）	日本の労働時間は長いと言われ、実際、いまだに過労死や過労自殺がおこっている。ここでは日本の労働時間の実状をみる。
第11回	日本の雇用システムと労働時間（2）	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間はいかに関係し、また他の原因は何か等について考える。
第12回	大学生の就職1（日本の就職の特徴）	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第13回	大学生の就職2（グローバル人材）	近年グローバル人材への関心が高まっている。グローバル人材とは何か、企業はなぜグローバル人材に注目するのか、採用の実態はどうか等について考える。
第14回	日本の雇用システムの特徴	日本の雇用システムの特徴をまとめて整理し、トータルに理解できるようにする。
第15回	秋学期のテーマの確認	春学期での学びをもとに各自がおこなう個別テーマを確認し、研究の進め方等について個別にアドバイスをする。

第16回 研究の進め方とレポートの書き方

第17回 学生による研究発表1

第18回 学生による研究発表2

第19回 学生による研究発表3

第20回 学生による研究発表4

第21回 学生による研究発表5

第22回 学生による研究発表6

第23回 学生による研究発表7

第24回 学生による研究発表8

第25回 学生による研究発表9

第26回 レポートの途中経過報告

第27回 学生による研究発表10

第28回 完成版レポートの提出

各自が読んだレポートの書き方の新書を参考に、改めてレポートの書き方の形式や引用の仕方等について学ぶ。学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。

上記に同じ

上記に同じ

上記に同じ

上記に同じ

上記に同じ

上記に同じ

上記に同じ

上記に同じ

学生は80%程度完成したレポートの途中経過を報告し、修正や追加についての指示を受け、完成に向けての作業の指針とする。

上記研究発表に同じ

完成版のレポートを提出。最終チェックを受け、マイナーな修正指示があればそれにしたがって完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んで、わからないことをチェックし、授業中に質問したりコメントを加えたりして、意見を言えるようにしておくこと。秋学期は、発表予定者が事前に指示する発表内容に関連した資料を読んで、春学期同様、授業内での議論に参加できるよう準備しておくこと。夏期休暇中の課題：夏期休暇中に後期発表の計画を立てて、教員に提示する。夏期のゼミ合宿を行う場合はそこで行う。

【テキスト（教科書）】

春学期は基本的に本の1章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は開講時に指示する。労働環境論ⅠおよびⅡで使った副教材はゼミでも参考資料として使う。

秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣ブックス、2012年。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 参加姿勢、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

修了論文作成において、より早い時期からの計画的な指導が必要。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会 (B)

根崎 光男

カテゴリ: 政策 | 配当年次/単位: 2~4 年 / 4 単位

開講セメスター: 年間授業 | 曜日・時限: 月 5

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ: 環境問題への歴史学的アプローチ

環境史の教養を深めるために、日本の歴史上、生じたさまざまな環境問題を歴史学という学問を活用して、その歴史事実の把握と歴史評価を行えるようにする。そのために、歴史資料の読解、古文書の解読、グループ学習、フィールド調査、各自の研究発表を行い、環境史研究を進める。

【到達目標】

日本の歴史上における環境問題や現代の歴史的環境の保全を研究するための能力を養う。このなかで、ゼミ生は環境史研究のテーマを自ら見つけて調査研究し、研究レポートを提出することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

この授業は、指定されたテーマに関連した歴史資料・古文書の読解、フィールドの調査、各自の調査・研究に基づく発表、研究レポートの執筆といった一連の作業を、演習形式により行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・環境史研究の調査と方法	本研究会の目標の周知と環境史研究の文献探索、調査方法、研究方法などを学ぶ。
第 2 回	史料読解①	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 3 回	史料読解②	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 4 回	史料読解③	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 5 回	大学周辺フィールドスタディ①	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える。
第 6 回	史料読解のグループ学習①	指定した課題の調査結果を、グループ別に発表する。
第 7 回	史料読解のグループ学習②	指定した課題の調査結果を、グループ別に発表する。
第 8 回	古文書解読①	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 9 回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 10 回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 11 回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 12 回	特定テーマ中間発表④	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 13 回	特定テーマ中間発表⑤	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 14 回	特定テーマ中間発表⑥	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 15 回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う。
第 16 回	大学周辺フィールドスタディ②	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える。
第 17 回	史料読解④	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 18 回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 19 回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 20 回	調査研究のグループ発表③	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第 21 回	調査研究のグループ発表④	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第 22 回	古文書解読②	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 23 回	特定テーマ研究発表①	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 24 回	特定テーマ研究発表②	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 25 回	特定テーマ研究発表③	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 26 回	特定テーマ研究発表④	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

第 27 回 特定テーマ研究発表⑤ 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

第 28 回 特定テーマ研究発表⑥ 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配付した歴史史料・古文書を事前に解読・分析する。
グループ・個人の調査研究テーマの文献収集・分析を行う。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%)、発表・研究レポート (30%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

調査研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

研究会（B）

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR（企業の社会的責任）や Business Ethics（経営倫理）を中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

【到達目標】

CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の基礎知識を習得し、日経新聞・野村証券主催のストックリーグに参加して企業評価とバーチャルトレードを経験します。その成果を基にレポートを作成してコンテストにチャレンジします。

【授業の進め方と方法】

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、ストックリーグに必要な知識を習得します。秋学期は、チームを編成しストックリーグに参加します。ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファン드를組成しバーチャルトレードを行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ・スケジュール ・ストックリーグ	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要
第 2 回	企業と社会に関する文献 講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	企業と社会に関する文献 講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	企業と社会に関する文献 講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	企業と社会に関する文献 講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	ストックリーグ 第 1 回テーマ報告	テーマの方向性について報告
第 7 回	ESG 投資文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 8 回	ESG 投資文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 9 回	ESG 投資文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 10 回	ストックリーグ 第 2 回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告
第 11 回	ESG 投資文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 12 回	財務分析文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 13 回	財務分析文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 14 回	財務分析文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 15 回	ストックリーグ 第 3 回テーマ検討	フアンドテーマ決定企業の調査手法・ 調査スケジュールの報告
第 16 回	ストックリーグ中間報告 ①	これまでの分析結果の報告
第 17 回	卒業論文中間報告①	卒業論文テーマ・論文構成の発表
第 18 回	ストックリーグ活動①	チームの活動報告
第 19 回	ストックリーグ活動②	チームの活動報告
第 20 回	ストックリーグ活動③	チームの活動報告
第 21 回	ストックリーグ中間報告 ②	ユニバースの発表
第 22 回	ストックリーグ活動④	企業ヒアリング
第 23 回	ストックリーグ活動⑤	企業ヒアリング
第 24 回	ストックリーグ活動⑥	企業ヒアリング
第 25 回	ストックリーグ中間報告 ③	ポートフォリオの完成
第 26 回	卒業論文中間報告③	卒業論文の予備報告
第 27 回	ストックリーグ活動⑦	レポート作成
第 28 回	ストックリーグ活動⑧	レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

【テキスト（教科書）】

研究会の開講前に掲示します。

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

〔共通評価〕ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度

〔個別評価〕ストックリーグのレポート

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

研究会（B）

日原 傳

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時間：金 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

松尾芭蕉の『おくの細道』を読む。

【到達目標】

- ・江戸時代の旅の実態について理解を深める。
- ・芭蕉の創作の工夫について学ぶ。
- ・俳諧に関する基本的な知識を習得する。
- ・日本の名勝について知る。
- ・自分の力で文献を調べ、読み解く力をつける。

【授業の進め方と方法】

最初の時間にテキストの『おくのほそ道』及び『曾良随行日記』等の関連資料について説明する。その上で、参加者に担当箇所を割り振る。担当者は割り当てられた本文、および関連する文献について可能な限り調べて報告する。それを踏まえて、皆で議論する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	テキストについて	『おくのほそ道』及び『曾良随行日記』等の関連資料の説明。
第 2 回	文献講読	テキスト輪読
第 3 回	文献講読	テキスト輪読
第 4 回	文献講読	テキスト輪読
第 5 回	文献講読	テキスト輪読
第 6 回	文献講読	テキスト輪読
第 7 回	文献講読	テキスト輪読
第 8 回	文献講読	テキスト輪読
第 9 回	文献講読	テキスト輪読
第 10 回	文献講読	テキスト輪読
第 11 回	文献講読	テキスト輪読
第 12 回	文献講読	テキスト輪読
第 13 回	文献講読	テキスト輪読
第 14 回	総合討論	研究会活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの該当箇所を下読みし、議論の種を見つけておく。
- ・担当者は担当箇所に関して、可能な限り調べ、レジュメを作成する。

【テキスト（教科書）】

頼原退蔵・尾形汎訳注『新版 おくのはそ道』（角川ソフィア文庫）

【参考書】

授業の進行に合わせて、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度・発表）70％
最終レポート 30％

【学生の意見等からの気づき】

和本リテラシーの基礎も学ぶ。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

研究会 (B)

横内 恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わが国の環境法のうち行政法分野の法制度や判例について調査をし、ディスカッションやディベートを通して深く考え、理解することを目指します。また、受講者各自で研究テーマを設定し、主体的に研究して4年生終了時まで論文を書き上げることを目指します。

【到達目標】

本研究会では、(1) 国内環境法の主要分野についての知識を習得すること、(2) 受講者各自で設定した研究テーマについて、よく調べて発表し、皆で議論すること、(3) 学部4年次には、研究会修了論文を提出し、その内容について発表することを目指します。

【授業の進め方と方法】

環境法に関する文献講読や判例研究、個人の研究報告とディスカッション、ディベート等の様々な方法で進めていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本研究会のテーマについて解説し、受講者の春学期の報告スケジュールを決定する
第2回	環境行政法 (1)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第3回	環境行政法 (2)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第4回	環境行政法 (3)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第5回	環境行政法 (4)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第6回	環境行政法 (5)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第7回	環境行政法 (6)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第8回	環境行政法 (7)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第9回	環境行政法 (8)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第10回	環境行政法 (9)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第11回	環境行政法 (10)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第12回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第13回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第14回	まとめ	春学期の復習を行う
第15回	秋学期の研究計画	各受講者の研究テーマについて協議し、報告スケジュールを決定する
第16回	研究報告 (1)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第17回	研究報告 (2)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第18回	研究報告 (3)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第19回	研究報告 (4)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第20回	研究報告 (5)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第21回	研究報告 (6)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第22回	研究報告 (7)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第23回	研究報告 (8)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第24回	研究報告 (9)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第25回	研究報告 (10)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第26回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第27回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第28回	まとめ	秋学期の総復習を行い、次年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告準備にあたっては、事前に文献調査をしっかりと行ってください。適宜、受講生に課題を出すこともあります。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第4版〕』（弘文堂、2017年）。

【参考書】

大塚直『環境法〔第3版〕』（有斐閣、2010年）。

淡路剛久、大塚直、北村喜宣編『環境判例百選〔第2版〕』（有斐閣、2011年）。

その他、必要に応じて研究会中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

総合評価（目安としては、平常点85%、課題15%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

横内 恵

カテゴリ: 政策 | 配当年次/単位: 2~4 年 / 4 単位

開講セメスター: 年間授業 | 曜日・時限: 金 4

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

新しい科学技術によってどのような被害が生じ得るかが完全には予測できないという、科学的不確実性を伴うリスクの問題が深刻となっている。とりわけ環境問題としては、遺伝子技術、ナノテク、新規の化学物質、電磁波、原子力のリスクが挙げられるが、AI・ロボット技術の実装に伴って生じ得る環境問題もある。このような新たなリスク事象を法的にいかに制御し得るのかについて、文献を購読し、議論して、理解を深めることを本研究会の目的とする。

【到達目標】

科学技術・リスク論について、とりわけその法理論的な諸問題について、理論状況ある程度把握し、理解を深めることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

受講者が事前に課題文献の該当箇所を熟読し、その上で、その内容についてディスカッションを行う。なお、ディスカッションに入る前に、報告者が、課題文献の該当箇所の概要について報告を行い、内容を確認することとします。学期末には、課題文献の内容をもとにディバートのテーマを設定して、ディバートを行う。毎回、受講者全員が積極的な姿勢で参加することが求められる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本研究会のテーマについて解説し、課題文献を決定する
第 2 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 3 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 4 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 5 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 6 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 7 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 8 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 9 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 10 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 11 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 12 回	ディバート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディバートを行う
第 13 回	ディバート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディバートを行う
第 14 回	春学期まとめ	春学期の総復習を行う
第 15 回	オリエンテーション	春学期の復習をし、秋学期の課題文献を決定する
第 16 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 17 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 18 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 19 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 20 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 21 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う

第 22 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 23 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 24 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 25 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 26 回	ディバート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディバートを行う
第 27 回	ディバート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディバートを行う
第 28 回	まとめ	1 年間の復習を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、報告担当者だけでなく全受講者が、課題文献を熟読してください。課題文献に関連して紹介された参考文献についても、適宜、読んでもらいます。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて指定・紹介します。

【成績評価の方法と基準】

総合評価 (目安としては、平常点 70 %、課題 20 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース、サステナブル経済・経営コース (旧・エコ経済経営コース)

研究会（B）

渡邊 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ:科学技術社会について考える（書籍・文献等の講読を中心に）
科学技術社会を考えるための素養を身に付けることを目標に、様々な書籍、文献、新聞などの講読を行います。またそれにもとづいて各自の関心のあるテーマについての報告と討論を行うことにより、コミュニケーション力を修得します。科学技術の意義と役割、歴史、様々な問題点と将来像などについて考察し政策との関連について考えます。環境問題をより深く眺め、諸学問分野の垣根を超えた学際的な発想ができるようになることを目指します。

【到達目標】

幅広く具体的な内容に触れながら科学技術という断面から人と社会についてより深く考えることができるようになることが目標です。この研究会は理科系の学生向けに開設されたものではありません。科学とは何か？科学技術とは何か？を文系の立場から考察し、科学技術政策を模索、決定し遂行するための方法などについて考えることを目指します。新聞あるいは雑誌、各種統計資料を含む様々な情報を読み解くことができるようになることも目標としています。

【授業の進め方と方法】

幾つかの書籍を講読しその内容について報告します。また新聞、雑誌、その他各種資料を参考にして、各自の関心のあるテーマについて報告し討論します。少人数教室での質疑応答、意見交換、ディスカッションなどを経験することにより、自分が自らの意見をもち、説得力のある主張を展開していくための力を身に付けたいと考えています。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と進め方の確認を行う。
第 2 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する。
第 3 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する。
第 4 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する。
第 5 回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第 6 回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第 7 回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第 8 回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第 9 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 10 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 11 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 12 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 13 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 14 回	総括	春学期の授業内容についての総合討論を行う。
第 15 回	個人研究のためのガイダンス	研究テーマ選定のための考え方について。
第 16 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第 17 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第 18 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第 19 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第 20 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第 21 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 22 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 23 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 24 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 25 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 26 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 27 回	総括（1）	共通テーマを設定し総合討論を行う。
第 28 回	総括（2）	共通テーマを設定し総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

書籍、各種資料の内容把握と文献収集、事前調査、報告のための資料作成などを行います。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容および討論参加の積極性など 60%、提出されたレポート内容など 40%。

【学生の意見等からの気づき】

文系の立場であるということを常に意識して、わかりやすい説明となるよう留意します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

2018年度
人間環境学部

I L A C 科目/
市ヶ谷基礎科目シラバス

2017年度以降入学者用

●0群(導入)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
基盤科目			
キャリアデザイン入門	各2	平林 正樹	183
		平林 正樹	183
		斉藤 貴久	183
		斉藤 貴久	183
		徳山 誠	184
		徳山 誠	184
		齋藤 典子	184
キャリアデザイン応用	各2	平林 正樹	184
		徳山 誠	185
		徳山 誠	185
法政学への招待	2	高柳 俊男／小林 ふみ子	185
リベラルアーツ科目			
法政学の探究LB	2	古俣 達郎	186
法政学の探究LA	2	高柳 俊男／古俣 達郎	186

●1群(人文科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
基盤科目			
日本古典文学A／B	各2	表 きよし	187
		園 明美	187
		成島 知子	188
		成島 知子	188
日本近・現代文学A／B	各2	川鍋 義一	189
		川鍋 義一	189
日本文学A／B	各2	島田 雅彦	190
		村山 龍	190
外国文学A／B	各2	D. ハイデンライヒ	191
		近江屋 志穂	191
		吉井 涼子	192
		吉井 涼子	192
		梁 禮先	192
文章論	各2	浅沼 博	193
		西元 康雅	193
		川鍋 義一	193
		川鍋 義一	194
		川鍋 義一	194
言語学A／B	各2	西元 康雅	195
		板井 美佐	195
		江村 裕文	195
		板井 美佐	196

●1群(人文科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
哲学Ⅰ／Ⅱ	各2	滝口 清栄	196
		計良 隆世	197
		計良 隆世	197
		山口 誠一	198
		伊藤 功	198
		谷口 力	198
		大西 正人	199
		近堂 秀	199
		越部 良一	200
		白根 裕里枝	200
倫理学Ⅰ／Ⅱ	各2	越部 良一	201
		佐藤 英明	201
		伊藤 直樹	202
		田島 樹里奈	202
		杉本 隆久	203
		森村 修	203
		越部 良一	204
論理学Ⅰ／Ⅱ	各2	大西 正人	204
		白根 裕里枝	205
		計良 隆世	205
		鶴澤 和彦	206
		大貫 義久	207
		滝口 清栄	207
		菅沢 龍文	207
		計良 隆世	208
東洋史Ⅰ／Ⅱ	各2	齋藤 勝	208
		齋藤 勝	209
		芦沢 知絵	209
		齋藤 勝	210
		芦沢 知絵	210
西洋史Ⅰ／Ⅱ	各2	中村 純	211
		中村 純	211
		中村 純	211
		中村 純	212
日本史Ⅰ／Ⅱ	各2	永田 一	212
		根崎 光男	212
		小口 雅史	213
		小口 雅史	213
		真辺 美佐	214
		小口 雅史	214
		永田 一	215
		根崎 光男	215

※ 開講セメスター、担当教員は暫定のものです。必ず「時間割」で確認してください。

※ ILAC科目の教室および担当者変更、休講情報については「市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)掲示板」にて随時お知らせします。

2017年度以降入学者用

●1群(人文科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
宗教論Ⅰ／Ⅱ	各2	若林 明彦	216
		酒井 健	216
		若林 明彦	216
芸術 A／B	各2	武田 昭彦	217
		小澤 慶介	217
		福島 由美	218
リベラルアーツ科目			
日本文学と文化LA／LB／LC／LD／LE／LF／LG／LH	各2	阿部 真弓	218
		今泉 隆裕	218
		伊海 孝充	219
		榎本 正樹	219
外国文学と文化LA／LB／LC／LD／LE／LF	各2	篠原 学	220
		日原 傳	221
		大崎 さやの	221
文学と社会LA／LB／LC／LD／LE／LF	各2	梶 裕史	222
		白戸 満喜子	222
		中澤 忠之	223
音声学Ⅰ	各2	江村 裕文	223
哲学ⅠⅠ／ⅠⅡ	各2	大西 正人	223
		白根 裕里枝	224
倫理学ⅠⅠ／ⅠⅡ	各2	森村 修	224
		佐藤 英明	225
		杉本 隆久	225
		伊藤 直樹	226
		田島 樹里奈	226
論理学ⅠⅠ／ⅠⅡ	各2	佐々木 護	227
東洋史ⅠⅠ／ⅠⅡ	各2	岡安 勇	227
		北川 香子	228
西洋史 LA／LB	各2	宮崎 亮	228
		宮崎 亮	229
		渡辺 知	229
		渡辺 知	230
日本史ⅠⅠ／ⅠⅡ	各2	横濱 文孝	230
		浜田 久美子	231
		貫井 裕恵	231
		池田 真歩	232
宗教論ⅠⅠ／ⅠⅡ	各2	須藤 孝也	232

●2群(社会科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
基盤科目			
法学Ⅰ／Ⅱ	各2	山本 圭子	233
		内藤 淳	233
		前川 佳夫	234
		権 敬殷	234
		石川 澄雄	235
		水野 圭子	235
		金子 匡良	236
		内藤 淳	236
		前川 佳夫	237

●2群(社会科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
法学(日本国憲法)	各2	金子 匡良	237
		石川 澄雄	238
経済学Ⅰ／Ⅱ	各2	玉之内 直	238
		西崎 文平	239
		梅溪 健児	239
		水野 和夫	239
		玉之内 直	240
心理学Ⅰ／Ⅱ	各2	浅川 希洋志	240
		櫻井 登世子	241
		小島 弥生	241
		海部 紀行	242
		浅川 希洋志	242
		小島 弥生	243
		海部 紀行	243
		櫻井 登世子	244
地理学Ⅰ／Ⅱ	各2	高木 正	244
		前川 明彦	244
		米家 志乃布	245
		長沢 利明	245
		前畑 明美	245
政治学Ⅰ／Ⅱ	各2	平良 好利	246
		崔 先鎬	246
		平良 好利	247
		高橋 和則	247
		崔 先鎬	247
		面 一也	248
		岡崎 加奈子	248
		高橋 和則	249
		菅野 撰子	249
		高橋 徹	249
社会学Ⅰ／Ⅱ	各2	高橋 徹	250
		塚田 修一	250
		徐 玄九	251
		橋本 みゆき	251
		徐 玄九	252
		徐 玄九	252
		ベル 裕紀	253
		梅村 絢美	253
		岩原 紘伊	253
文化人類学	各2	長沢 利明	254
		ベル 裕紀	254
		梅村 絢美	254
		阿部 朋恒	254
		岩原 紘伊	254
		中島 成久	255
		阿部 朋恒	255

2017年度以降入学者用

●2群(社会科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
社会思想Ⅰ／Ⅱ	各2	犬塚 元	255
		福田 名津子	255
		洪 貴義	256
		網谷 壮介	256
		熊沢 敏之	257
		福田 名津子	257
リベラルアーツ科目			
経済学 LA／LB	各2	中平 千彦	258
		水野 和夫	258
		陳 文挙	259
心理学 LA／LB	各2	海部 紀行	259
		海部 紀行	260
地理学 LA／LB／LC／LD	各2	米家 志乃布	260
		片岡 義晴	261
		高木 正	261
		長沢 利明	262
		前川 明彦	262
政治学 LA／LB	各2	木村 正俊	262
社会学 LA／LB／LC／LD	各2	片上 平二郎	263
		徐 玄九	263
文化人類学L	各2	ベル 裕紀	264
		長沢 利明	264
		岩原 紘伊	264
		梅村 絢美	264
		ベル 裕紀	265
		梅村 絢美	265
		阿部 朋恒	265
		岩原 紘伊	265
		中島 成久	266
		阿部 朋恒	266
社会思想LA／LB	各2	洪 貴義	266
		洪 貴義	266

●3群(自然科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
基盤科目			
教養数学 A/B	各2	平田 康史	268
		平田 康史	268
		小木曾 岳義	269
		小木曾 岳義	269
		池田 宏一郎	270
		倉田 俊彦	270
		佐藤 洋祐	271
		佐藤 洋祐	271
		江口 直日	272
		江口 直日	272

●3群(自然科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
基礎数学Ⅰ／Ⅱ	各2	若井 健太郎	273
		松田 直祐	273
		池田 宏一郎	273
		若井 健太郎	274
		松田 直祐	274
		倉田 俊彦	275
入門物理学 A／B	各2	井坂 政裕	275
		吉灘 好	275
		井坂 政裕	276
		鈴木 裕武	276
		石川 壮一	277
		石川 壮一	277
		井坂 政裕	278
		鈴木 裕武	278
入門生物学 A／B	各2	木原 章	279
		木原 章	279
		水澤 博	280
		町田 郁子	281
		宇野 真介	281
		宇野 真介	282
		木原 章	282
		水澤 博	283
入門化学 A／B	各2	向井 知大	283
		小林 令子	284
		中田 和秀	284
		中田 和秀	285
		御代川 貴久夫	285
		小林 令子	285
		中田 和秀	286
		御代川 貴久夫	286
サイエンス・ラボA／B	各2	各担当者	287
天文学 A／B	各2	福島 登志夫	287
		下井倉 ともみ	287
		福島 登志夫	288
科学史 A／B	各2	谷本 勉	288
		大橋 由紀夫	288
		谷本 勉	289
		谷本 勉	289
リベラルアーツ科目			
数学特講LA／LB	各2	安東 祐希	289
発展数学ⅠⅠ／ⅠⅡ	各2	池田 宏一郎	290
		倉田 俊彦	290
教養物理学LA	各2	石川 壮一	291

※ 開講セメスター、担当教員は暫定のものです。必ず「時間割」で確認してください。

※ ILAC科目の教室および担当者変更、休講情報については「市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)掲示板」にて随時お知らせします。

2017年度以降入学者用

●3群(自然科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
教養生物学 LA/LB/LC	各2	水澤 博	291
		水澤 博	291
		本川 達雄	292
		本川 達雄	292
		本川 達雄	292
		本川 達雄	293
		本川 達雄	293
		本川 達雄	293
教養化学 LA/LB	各2	向井 知大	293
		中島 弘一	293
		中島 弘一	294
		西村 直美	294

●4群(外国語)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
リベラルアーツ科目			
ドイツの文化と社会 LA/LB	各2	内田 俊一	295
ドイツ語の世界 LA/LB	各2	D ハイデンライヒ	295
フランスの文化と社会 LA/LB	各2	篠原 学	295
フランス語の世界 LA/LB	各2	竹本 研史	296
フランス生活文化論 LA/LB	各2	徳井 淑子	296
ロシア語の世界 LA/LB	各2	佐藤 千登勢	297
		小西 昌隆	297
中国の文化と社会 LA/LB/LC/LD	各2	山本 律	297
		鈴木 直子	298
中国語の世界 LA/LB	各2	渡邊 大	298
スペイン語の世界 LA/LB	各2	塩崎 公靖	298
朝鮮の文化と社会 LA/LB	各2	李 英美	299
日本の文化と社会 LA/LB	各2	小宮 修太郎	299
日本語の世界 LA/LB	各2	小宮 修太郎	300
基盤科目			
英語			
English1-Ⅰ／Ⅱ	各1	北原 ルック 明子	300
		小泉 和弘	301
		吉江 秀和	301
		今井 澄子	302
		根本 怜奈	302
		舟橋 美香	303
		北原 ルック 明子	303
		小泉 和弘	303
		吉江 秀和	304
		今井 澄子	304
		根本 怜奈	305
		舟橋 美香	306
		青山 恵子	306
		青山 恵子	306

●4群(外国語)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
English2-Ⅰ／Ⅱ	各1	小堀 洋	306
		磯部 芳恵	307
		大曲 陽子	307
		吉川 直澄	307
		高橋 佳江	308
		今井 澄子	308
		小堀 洋	309
		磯部 芳恵	309
		大曲 陽子	310
		吉川 直澄	310
		高橋 佳江	311
		今井 澄子	311
		ストックウエル・エスター	311
		ストックウエル・エスター	312
入門英語 (SSI) Ⅰ／Ⅱ	各1	山崎 暁子	312
		前川 裕	313
		須藤 祐二	313
Oral Communication Ⅰ／Ⅱ	各1	板橋 美也	313
		ロバート G ジェイムズ	314
English through Movies and Drama Ⅰ／Ⅱ	各1	平野井 ちえ子	314
		舟橋 美香	315
TOEIC® Ⅰ／Ⅱ	各1	平野井 ちえ子	315
		板橋 美也	315
英検準備 Ⅰ／Ⅱ	各1	青山 恵子	316
Business Communication Ⅰ／Ⅱ	各1	今井 澄子	316
Computer Assisted English Learning Ⅰ／Ⅱ	各1	塩谷 幸子	317
ドイツ語			
ドイツ語1-Ⅰ／Ⅱ	各1	辻 英史	317
		辻 英史	318
ドイツ語2-Ⅰ／Ⅱ	各1	佐藤 公紀	318
		佐藤 公紀	318
ドイツ語3-Ⅰ／Ⅱ	各1	平松 英人	319
		宮城 学	319
入門ドイツ語 (SSI) Ⅰ／Ⅱ	各1	浦田 智	320
		宮城 学	321
ドイツ語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	アネット グルーバー	321
ドイツ語表現法Ⅰ／Ⅱ	各1	ウテ シュミット	321
ドイツ語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	D ハイデンライヒ	322
時事ドイツ語Ⅰ／Ⅱ	各1	辻 英史	322
検定ドイツ語Ⅰ／Ⅱ	各1	佐々木 宗夫	323
ドイツ語補講1-Ⅰ／Ⅱ	各1	佐々木 宗夫	323
ドイツ語補講2-Ⅰ／Ⅱ	各1	高橋 恵子	324

2017年度以降入学用

●4群(外国語)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
基盤科目			
フランス語			
フランス語1-Ⅰ／Ⅱ	各1	稲垣 正久	324
		竹本 研史	324
フランス語2-Ⅰ／Ⅱ	各1	竹本 研史	325
		野村 訓子	325
フランス語3-Ⅰ／Ⅱ	各1	畑中 敏夫	326
		柴崎 秀徳	326
フランス語3-Ⅰ／Ⅱ(インテンシブ)	各1	近江屋 志徳	326
フランス語コミュニケーション(初級)Ⅰ／Ⅱ	各1	ニコラ ガイヤール	328
フランス語視聴覚(入門)Ⅰ／Ⅱ	各1	村松 マリ エマニュエル	328
フランス語視聴覚(初・中級)Ⅰ／Ⅱ	各1	中村 美緒	328
時事フランス語Ⅰ／Ⅱ	各1	近江屋 志徳	329
検定フランス語(初級)Ⅰ／Ⅱ	各1	瀬戸 和子	329
フランス語補講1-Ⅰ／Ⅱ	各1	森本 謙子	329
フランス語補講2-Ⅰ／Ⅱ	各1	森本 文彦	330
ロシア語			
ロシア語1-Ⅰ／Ⅱ	各1	佐藤 裕子	330
ロシア語2-Ⅰ／Ⅱ	各1	佐藤 裕子	331
ロシア語3-Ⅰ／Ⅱ	各1	佐藤 裕子	331
ロシア語補講1-Ⅰ／Ⅱ	各1	佐藤 裕子	333
ロシア語補講2-Ⅰ／Ⅱ	各1	佐藤 裕子	333
中国語			
中国語1-Ⅰ／Ⅱ	各1	高堂 晃壽	334
		賀 蘭	334
		高堂 晃壽	334
		賀 蘭	335
中国語2-Ⅰ／Ⅱ	各1	賀 蘭	335
		日原 傳	335
		賀 蘭	336
		日原 傳	336
中国語コミュニケーション基礎Ⅰ／Ⅱ	各1	薄 宏	340
中国語コミュニケーション初級Ⅰ／Ⅱ	各1	蔣 彥婷	341
		陳 洲挙	341
中国語作文初級Ⅰ／Ⅱ	各1	康 鴻音	341
中国語視聴覚初級Ⅰ／Ⅱ	各1	劉 渴氷	342
資格中国語初級Ⅰ／Ⅱ	各1	青木 正子	342
中国語補講1Ⅰ／Ⅱ	各1	池田 麻希子	342
		千野 明日香	343
		千野 明日香	343
中国語補講2Ⅰ／Ⅱ	各1	陳 洲挙	343
		余 瀾	344
		劉 光赤	344

●4群(外国語)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
スペイン語			
スペイン語1-I／II	各1	月野 楓子	345
		月野 楓子	346
スペイン語2-I／II	各1	松尾 俊輔	346
		松尾 俊輔	346
スペイン語3-I／II	各1	日高 憲三	347
		長谷川 悦夫	347
スペイン語コミュニケーションI／II	各1	瓜谷 アウロラ	348
時事スペイン語I／II	各1	佐々木 直美	348
スペイン語講読I／II	各1	大西 亮	348
スペイン語補講1-I／II	各1	佐々木 直美	349
		若林 大我	349
スペイン語補講2-I／II	各1	長谷川 悦夫	350
		大西 亮	350
		田澤 耕	350
朝鮮語			
朝鮮語1-I／II	各1	黒澤 朋子	352
朝鮮語2-I／II	各1	富所 明秀	352
朝鮮語3-I／II	各1	新谷 あゆり	353
朝鮮語3C-I／II (コミュニケーション)	各1	梁 禮先	355
朝鮮語4B-I／II (視聴覚)	各1	新谷 あゆり	355
日本語			
日本語1-I／II	各1	板井 美佐	356
日本語2-I／II	各1	山本 そのこ	357
日本語3-I／II	各1	板井 美佐	357
日本語4-I／II	各1	尾形 太郎	357

●5群(保健体育)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
基盤科目			
スポーツ総合演習/スポーツ総合演習S	各2	各担当者	359
リベラルアーツ科目			
健康の科学LA/LB	各2	清野 諭	359
		谷本 都栄	359

※ 開講セメスター、担当教員は暫定のものです。必ず「時間割」で確認してください。

※ ILAC科目の教室および担当者変更、休講情報については「市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)掲示板」にて随時お知らせします。

2016年度以前入学者用

●0群(導入)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
キャリアデザイン入門	各2	平林 正樹	183
		平林 正樹	183
		斉藤 貴久	183
		斉藤 貴久	183
		徳山 誠	184
		徳山 誠	184
		齋藤 典子	184
キャリアデザイン応用	各2	平林 正樹	184
		徳山 誠	185
		徳山 誠	185
		平林 正樹	185
法政学への招待	2	高柳 俊男／小林 ふみ子	185
法政学の探究B	2	古俣 達郎	186
法政学の探究A	2	高柳 俊男／古俣 達郎	186

●1群(人文科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
文学Ⅰ／Ⅱ	各2	表 きよし	187
		園 明美	187
		成島 知子	188
		成島 知子	188
		川鍋 義一	189
		川鍋 義一	189
		島田 雅彦	190
		村山 龍	190
		D. ハイデンライヒ	191
		近江屋 志穂	191
		吉井 涼子	192
		吉井 涼子	192
		梁 禮先	192
		阿部 真弓	218
		今泉 隆裕	218
		伊海 孝充	219
		榎本 正樹	219
		篠原 学	220
		日原 傳	221
		大崎 さやの	221
		梶 裕史	222
		白戸 満喜子	222
		中澤 忠之	223
文章論Ⅰ	各2	浅沼 博	193
		西元 康雅	193
		川鍋 義一	193
		川鍋 義一	194
		川鍋 義一	194
		西元 康雅	195

●1群(人文科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
哲学Ⅰ／Ⅱ	各2	滝口 清栄	196
		計良 隆世	197
		計良 隆世	197
		山口 誠一	198
		伊藤 功	198
		谷口 力	198
		大西 正人	199
		近堂 秀	199
		越部 良一	200
		白根 裕里枝	200
		大西 正人	223
		白根 裕里枝	224
倫理学Ⅰ／Ⅱ	各2	越部 良一	201
		佐藤 英明	201
		伊藤 直樹	202
		田島 樹里奈	202
		杉本 隆久	203
		森村 修	203
		越部 良一	204
		森村 修	224
		佐藤 英明	225
		杉本 隆久	225
論理学Ⅰ／Ⅱ	各2	伊藤 直樹	226
		田島 樹里奈	226
		大西 正人	204
		白根 裕里枝	205
		計良 隆世	205
		鶴澤 和彦	206
		大貫 義久	206
		滝口 清栄	207
		菅沢 龍文	207
		計良 隆世	208
東洋史Ⅰ／Ⅱ	各2	佐々木 護	227
		齋藤 勝	208
		齋藤 勝	209
		芦沢 知絵	209
		齋藤 勝	210
		芦沢 知絵	210
		岡安 勇	227
西洋史Ⅰ／Ⅱ	各2	北川 香子	228
		中村 純	211
		中村 純	211
		中村 純	211
		中村 純	212
		宮崎 亮	228
		宮崎 亮	229
		渡辺 知	229
		渡辺 知	230

※ 開講セメスター、担当教員は暫定のものです。必ず「時間割」で確認してください。

※ ILAC科目の教室および担当者変更、休講情報については「市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)掲示板」にて随時お知らせします。

2016年度以前入学者用

●1群(人文科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
日本史Ⅰ／Ⅱ	各2	永田 一	212
		根崎 光男	212
		小口 雅史	213
		小口 雅史	213
		真辺 美佐	214
		小口 雅史	214
		永田 一	215
		根崎 光男	215
		横濱 文孝	230
		浜田 久美子	231
		貫井 裕恵	231
		池田 真歩	232
宗教論Ⅰ／Ⅱ	各2	若林 明彦	216
		酒井 健	216
		若林 明彦	216
		須藤 孝也	232
芸術Ⅰ／Ⅱ	各2	武田 昭彦	217
		小澤 慶介	217
		福島 由美	218

●2群(社会科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
法学Ⅰ／Ⅱ	各2	山本 圭子	233
		内藤 淳	233
		前川 佳夫	234
		権 敬殷	234
		石川 澄雄	235
		水野 圭子	235
		金子 匡良	236
		内藤 淳	236
		前川 佳夫	237
		金子 匡良	237
		石川 澄雄	238
法学(日本国憲法)	各2		
経済学Ⅰ／Ⅱ	各2	玉之内 直	238
		西崎 文平	238
		梅溪 健児	239
		水野 和夫	239
		玉之内 直	240
		中平 千彦	258
		水野 和夫	258
		陳 文挙	259
心理学Ⅰ／Ⅱ	各2	浅川 希洋志	240
		櫻井 登世子	241
		小島 弥生	241
		海部 紀行	242
		浅川 希洋志	242
		小島 弥生	243
		海部 紀行	243
		櫻井 登世子	244
		海部 紀行	259
		海部 紀行	260

●2群(社会科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
地理学Ⅰ／Ⅱ	各2	高木 正	244
		前川 明彦	244
		米家 志乃布	245
		長沢 利明	245
		前畑 明美	245
		米家 志乃布	260
		片岡 義晴	261
		高木 正	261
		長沢 利明	262
		前川 明彦	262
政治学Ⅰ／Ⅱ	各2	平良 好利	246
		崔 先鎬	246
		平良 好利	247
		高橋 和則	247
		崔 先鎬	247
		面 一也	248
		岡崎 加奈子	248
		高橋 和則	249
		木村 正俊	262
社会学Ⅰ／Ⅱ	各2	菅野 撰子	249
		高橋 徹	249
		高橋 徹	250
		塚田 修一	250
		徐 玄九	251
		橋本 みゆき	251
		徐 玄九	252
		徐 玄九	252
		片上 平二郎	263
		徐 玄九	263
文化人類学Ⅰ	各2	ベル 裕紀	253
		梅村 絢美	253
		岩原 紘伊	253
		長沢 利明	254
		ベル 裕紀	254
		梅村 絢美	254
		阿部 朋恒	254
		岩原 紘伊	254
		中島 成久	255
		阿部 朋恒	255
文化人類学Ⅱ	各2	ベル 裕紀	264
		長沢 利明	264
		岩原 紘伊	264
		梅村 絢美	264
		ベル 裕紀	265
		梅村 絢美	265
		阿部 朋恒	265
		岩原 紘伊	265
		中島 成久	266
		阿部 朋恒	266

2016年度以前入学者用

●2群(社会科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
社会思想Ⅰ／Ⅱ	各2	犬塚 元	255
		福田 名津子	255
		洪 貴義	256
		網谷 壮介	256
		熊沢 敏之	257
		福田 名津子	257
		洪 貴義	266
		洪 貴義	266

●3群(自然科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
教養数学 A／B	各2	平田 康史	268
		平田 康史	268
		小木曾 岳義	269
		小木曾 岳義	269
		池田 宏一郎	270
		倉田 俊彦	270
		佐藤 洋祐	271
		佐藤 洋祐	271
		江口 直日	272
		江口 直日	272
		安東 祐希	289
基礎数学Ⅰ／Ⅱ	各2	若井 健太郎	273
		松田 直祐	273
		池田 宏一郎	273
		若井 健太郎	274
		松田 直祐	274
		倉田 俊彦	275
原子から宇宙までⅠ／Ⅱ	各2	井坂 政裕	275
		吉灘 好	275
		井坂 政裕	276
		鈴木 裕武	276
		石川 壮一	277
		石川 壮一	277
		井坂 政裕	278
		鈴木 裕武	278
		吉灘 好	279
		石川 壮一	291

●3群(自然科学)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
生命科学Ⅰ／Ⅱ	各2	木原 章	279
		木原 章	280
		水澤 博	280
		町田 郁子	281
		宇野 真介	281
		宇野 真介	282
		木原 章	282
		水澤 博	283
		水澤 博	283
		水澤 博	291
		本川 達雄	292
		本川 達雄	292
		本川 達雄	292
		本川 達雄	293
		本川 達雄	293
物質と環境Ⅰ／Ⅱ	各2	向井 知大	283
		小林 令子	284
		中田 和秀	284
		中田 和秀	285
		御代川 貴久夫	285
		小林 令子	285
		中田 和秀	286
		御代川 貴久夫	286
		向井 知大	293
		中島 弘一	293
		中島 弘一	294
サイエンス・ラボA／B	各2	各担当者	287
天文学Ⅰ／Ⅱ	各2	福島 登志夫	287
		下井倉 ともみ	287
		福島 登志夫	288
科学史Ⅰ／Ⅱ	各2	谷本 勉	288
		大橋 由紀夫	288
		谷本 勉	289
		谷本 勉	289
発展数学Ⅰ／Ⅱ	各2	池田 宏一郎	290
		倉田 俊彦	290

※ 開講セメスター、担当教員は暫定のものです。必ず「時間割」で確認してください。

※ ILAC科目の教室および担当者変更、休講情報については「市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)掲示板」にて随時お知らせします。

2016年度以前入学者用

●4群(外国語)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
総合科目			
ドイツの文化と社会Ⅰ／Ⅱ	各2	内田 俊一	295
フランスの文化と社会Ⅰ／Ⅱ	各2	篠原 学	295
ロシアの文化と社会Ⅰ／Ⅱ	各2	佐藤 千登勢	297
		小西 昌隆	297
中国の文化と社会Ⅰ／Ⅱ	各2	山本 律	297
		鈴木 直子	298
朝鮮の文化と社会Ⅰ／Ⅱ	各2	李 英美	299
日本の文化と社会Ⅰ／Ⅱ	各2	小宮 修太郎	299
英語			
English1-Ⅰ／Ⅱ	各1	北原 ルック 明子	300
		小泉 和弘	301
		吉江 秀和	301
		今井 澄子	302
		根本 怜奈	302
		舟橋 美香	303
		北原 ルック 明子	303
		小泉 和弘	303
		吉江 秀和	304
		今井 澄子	304
		根本 怜奈	305
		舟橋 美香	305
		青山 恵子	305
		青山 恵子	306
English2-Ⅰ／Ⅱ	各1	小堀 洋	306
		磯部 芳恵	307
		大曲 陽子	307
		吉川 直澄	307
		高橋 佳江	308
		今井 澄子	308
		小堀 洋	309
		磯部 芳恵	309
		大曲 陽子	310
		吉川 直澄	310
		高橋 佳江	311
		今井 澄子	311
English2-Ⅰ／Ⅱ(上級)	各1	ストックウェル・エスター	311
		ストックウェル・エスター	312
入門英語Ⅰ／Ⅱ	各1	山崎 暁子	312
		前川 裕	313
		須藤 祐二	313
Oral CommunicationⅠ／Ⅱ	各1	板橋 美也	313
		ロバート G ジェイムズ	314
English through Movies and DramaⅠ／Ⅱ	各1	平野井 ちえ子	314
		舟橋 美香	315
TOEIC(R)Ⅰ／Ⅱ	各1	平野井 ちえ子	315
		板橋 美也	315
英検準備Ⅰ／Ⅱ	各1	青山 恵子	316
Business CommunicationⅠ／Ⅱ	各1	今井 澄子	316
Computer Assisted English LearningⅠ／Ⅱ	各1	塩谷 幸子	317

●4群(外国語)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
ドイツ語			
ドイツ語1-Ⅰ／Ⅰ	各1	辻 英史	317
		辻 英史	318
ドイツ語2-Ⅰ／Ⅱ	各1	佐藤 公紀	318
		佐藤 公紀	318
ドイツ語3-Ⅰ／Ⅱ	各1	平松 英人	319
		宮城 学	319
★ドイツ語4-Ⅰ／Ⅱ(重点)	各1	岡田 恒雄	319
		外山 知子	320
		遠藤 浩介	320
スポーツ・ドイツ語Ⅰ／Ⅱ	各1	浦田 智	320
		宮城 学	321
ドイツ語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	アネット グルーバー	321
ドイツ語表現Ⅰ／Ⅱ	各1	ウテ シュミット	321
ドイツ語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	D ハイデンライヒ	322
時事ドイツ語Ⅰ	各1	辻 英史	322
検定ドイツ語Ⅰ／Ⅱ	各1	佐々木 宗夫	323
ドイツ語補講1-Ⅰ／Ⅱ	各1	佐々木 宗夫	323
ドイツ語補講2-Ⅰ／Ⅱ	各1	高橋 憲子	324
フランス語			
フランス語1-Ⅰ／Ⅱ	各1	稲垣 正久	324
		竹本 研史	324
フランス語2-Ⅰ／Ⅱ	各1	竹本 研史	325
		野村 訓子	325
フランス語3-Ⅰ／Ⅱ	各1	畑中 敏夫	326
		柴崎 秀徳	326
★フランス語3-Ⅰ／Ⅱ(重点)	各1	近江屋 志徳	326
★フランス語4-Ⅰ／Ⅱ(重点)	各1	森本 文彦	327
		ヴァリエンス コリース	327
★フランス語5-Ⅰ／Ⅱ(重点)	各1	岡村 民夫	327
フランス語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	ニコラ ガイヤール	328
フランス語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	村松 マリ エマニュエル	328
フランス語視聴覚Ⅲ／Ⅳ	各1	中村 美緒	328
時事フランス語Ⅰ／Ⅱ	各1	近江屋 志徳	329
検定フランス語Ⅰ／Ⅱ	各1	瀬戸 和子	329
フランス語補講1-Ⅰ／Ⅱ	各1	森本 謙子	329
フランス語補講2-Ⅰ／Ⅱ	各1	森本 文彦	330
フランス語補講3-Ⅰ／Ⅱ	各1	楠本 重行	330

【注】履修パターン2、3の学生は★のついた重点科目を履修してください。
詳細は、「履修の手引き」の各入学年度の「市ヶ谷基礎科目の履修」→「2. 基礎科目4群(外国語)」を読み、確認してください。

2016年度以前入学者用

●4群(外国語)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
ロシア語			
ロシア語1-Ⅰ／Ⅱ	各1	佐藤 裕子	330
ロシア語2-Ⅰ／Ⅱ	各1	佐藤 裕子	331
★ロシア語3-Ⅰ／Ⅱ【注2】	各1	佐藤 裕子	331
★ロシア語4-Ⅰ／Ⅱ(重点)	各1	木部 敬	332
★ロシア語5-Ⅰ／Ⅱ(重点)	各1	三神 エレーナ	332
ロシア語補講1-Ⅰ／Ⅱ	各1	佐藤 裕子	333
ロシア語補講2-Ⅰ／Ⅱ	各1	佐藤 裕子	333
334			
中国語1-Ⅰ／Ⅱ	各1	高堂 見壽	334
		賀 蘭	334
		高堂 見壽	334
		賀 蘭	335
中国語2-Ⅰ／Ⅱ	各1	賀 蘭	335
		日原 傳	335
		賀 蘭	336
		日原 傳	336
中国語3-Ⅰ／Ⅱ	各1	陳 洲拳	337
		王 翠莉	337
		三田村 圭子	337
		葉 進	338
★中国語4-Ⅰ／Ⅱ(重点)	各1	三田村 圭子	338
		葉 会	338
		薄 宏	339
		余 瀾	339
		周 重雷	340
		祝 振媛	340
中国語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	薄 宏	340
		蔣 彥婷	341
		陳 洲拳	341
中国語表現Ⅰ／Ⅱ	各1	康 鴻音	341
中国語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	劉 渴水	342
検定中国語Ⅰ／Ⅱ	各1	青木 正子	342
中国語補講Ⅰ／Ⅱ	各1	池田 麻希子	342
		千野 明日香	343
		千野 明日香	343
		陳 洲拳	343
		余 瀾	344
		劉 光赤	344
中国語補講3Ⅰ／Ⅱ	各1	青木 正子	344
		沈 小南	345
		沈 小南	345

【注】履修パターン2、3の学生は★のついた重点科目を履修してください。
詳細は、「履修の手引き」の各入学年度の「市ヶ谷基礎科目の履修」→「2. 基礎科目4群(外国語)」を読み、確認してください。

【注2】ロシア語3-Ⅰ／Ⅱは、ロシア語3-Ⅰ／Ⅱ(重点)として履修することができます。

●4群(外国語)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
スペイン語			
スペイン語1-Ⅰ／Ⅱ	各1	月野 楓子	345
		月野 楓子	346
スペイン語2-Ⅰ／Ⅱ	各1	松尾 俊輔	346
		松尾 俊輔	346
スペイン語3-Ⅰ／Ⅱ	各1	日高 憲三	347
		長谷川 悦夫	347
スペイン語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	瓜谷 アウロラ	348
時事スペイン語Ⅰ／Ⅱ	各1	佐々木 直美	348
スペイン語講読Ⅰ／Ⅱ	各1	大西 亮	348
スペイン語補講1・2-Ⅰ／Ⅱ	各1	佐々木 直美	349
		若林 大我	349
		長谷川 悦夫	350
		大西 亮	350
		田澤 耕	350
スペイン語補講3-Ⅰ／Ⅱ	各1	大貫 良史	350
★スペイン語4-Ⅰ／Ⅱ(重点)	各1	オスノ イジヤネス デ ササクボ エルマヘネス	351
		オスノ イジヤネス デ ササクボ エルマヘネス	351
		長谷川 悦夫	351
朝鮮語			
朝鮮語1-Ⅰ／Ⅱ	各1	黒澤 朋子	352
朝鮮語2-Ⅰ／Ⅱ	各1	富所 明秀	352
朝鮮語3-Ⅰ／Ⅱ	各1	新谷 あゆり	353
★朝鮮語3-Ⅰ／Ⅱ(重点)	各1	富所 明秀	353
		富所 明秀	353
		富所 明秀	353
★朝鮮語4-Ⅰ／Ⅱ(重点)	各1	梁 禮先	354
		梁 禮先	354
		梁 禮先	354
朝鮮語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	梁 禮先	355
朝鮮語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	新谷 あゆり	355
朝鮮語講読Ⅰ／Ⅱ	各1	高橋 梓	355
朝鮮語表現Ⅰ／Ⅱ	各1	神谷 丹路	356
日本語			
日本語1-Ⅰ／Ⅱ	各1	板井 美佐	356
日本語2-Ⅰ／Ⅱ	各1	山本 そのこ	357
日本語3-Ⅰ／Ⅱ	各1	板井 美佐	357
日本語4-Ⅰ／Ⅱ	各1	尾形 太郎	357

●5群(保健体育)

科目名	単位	担当教員	掲載頁
スポーツ総合演習	各2	各担当者	359
健康の科学Ⅰ／Ⅱ	各2	清野 論	359
		谷本 都栄	359

CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2016 年度以前入学者
平林 正樹	
授業コード：Q0431	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0431	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは?」「学ぶとは?」「働くとは?」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での 4 年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2016 年度以前入学者
平林 正樹	
授業コード：Q0432	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0432	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは?」「学ぶとは?」「働くとは?」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での 4 年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2016 年度以前入学者
斉藤 貴久	
授業コード：Q0433	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0433	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは?」「学ぶとは?」「働くとは?」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での 4 年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2016 年度以前入学者
斉藤 貴久	
授業コード：Q0434	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0434	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは?」「学ぶとは?」「働くとは?」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での 4 年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2016 年度以前入学者
徳山 誠	
授業コード：Q0435	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0435	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは?」「学ぶとは?」「働くとは?」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での4年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2016 年度以前入学者
徳山 誠	
授業コード：Q0436	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0436	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは?」「学ぶとは?」「働くとは?」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での4年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2016 年度以前入学者
齋藤 典子	
授業コード：Q0437	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0437	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは?」「学ぶとは?」「働くとは?」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での4年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2016 年度以前入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2017 年度以降入学者
平林 正樹	
授業コード：Q0451	2016 年度以前入学者
授業コード：Q0451	2017 年度以降入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会の中に存在する仕事についての理解を深めることがこの講義の目的です。一般に学生たちは、消費財を扱っている企業についてはイメージできますが、そういった企業が活動するために必要な資材や機械設備を提供している企業については、存在すら知らないのが実情です。世の中にはどのような仕事があるのかを具体的に知ることによって、将来の職業選択に活かしてほしいと思います。そして、この講義をインターンシップ先の選定やインターンシップに行く際の事前情報として使うことができます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学生生活を通して、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2016 年度以前入学者
徳山 誠	
授業コード：Q0452	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0452	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会の中に存在する仕事についての理解を深めることがこの講義の目的です。一般に学生たちは、消費財を扱っている企業についてはイメージできますが、そういった企業が活動するために必要な資材や機械設備を提供している企業については、存在すら知らないのが実情です。世の中にはどのような仕事があるのかを具体的に知ることによって、将来の職業選択に活かしてほしいと思います。そして、この講義をインターンシップ先の選定やインターンシップに行く際の事前情報として使うことができます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学生活を通して、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2016 年度以前入学者
徳山 誠	
授業コード：Q0453	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0453	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会の中に存在する仕事についての理解を深めることがこの講義の目的です。一般に学生たちは、消費財を扱っている企業についてはイメージできますが、そういった企業が活動するために必要な資材や機械設備を提供している企業については、存在すら知らないのが実情です。世の中にはどのような仕事があるのかを具体的に知ることによって、将来の職業選択に活かしてほしいと思います。そして、この講義をインターンシップ先の選定やインターンシップに行く際の事前情報として使うことができます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学生活を通して、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2016 年度以前入学者
平林 正樹	
授業コード：Q0454	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0454	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会の中に存在する仕事についての理解を深めることがこの講義の目的です。一般に学生たちは、消費財を扱っている企業についてはイメージできますが、そういった企業が活動するために必要な資材や機械設備を提供している企業については、存在すら知らないのが実情です。世の中にはどのような仕事があるのかを具体的に知ることによって、将来の職業選択に活かしてほしいと思います。そして、この講義をインターンシップ先の選定やインターンシップに行く際の事前情報として使うことができます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学生活を通して、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

IDN100LA	
法政学への招待	2017 年度以降入学者
IDN100LA	
法政学への招待	2016 年度以前入学者
高柳 俊男、小林 ふみ子	
授業コード：Q0501	2017 年度以降入学者
授業コード：P0701	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ようこそ法政大学へ！ 法政が好きという人も、よくわからない…という人も、まずは今の法政大学がどのようにしてできあがったのかについて知ってみませんか？ 自分の学ぶ大学や学部がいつ、どのように作られたのか、そこにどんな想いや物語があったのか、聞いてみたいくはないでしょうか？

1880（明治 13）年に設立された東京法学社から発展した法政大学は、実は記録のうで法律学校を起源として現存する日本の私立大学のなかで、もっとも早く作られたことが知られています。

この授業では、創立以来 140 年弱の歴史をふりかえるとともに、普段の授業では触れることない、校歌のなりたち、古くからの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積や図書館の個人文庫、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、さまざまな角度から法政大学に迫ります。最後には学生たち自身で未来の法政大学を考え、総長に提言する機会も用意しています。

科目責任者 2 名のコーディネートのもと、毎回異なるゲスト講師の講義を聞き、クイズ形式でその内容をふりかえります。ときおり動画を交えたり、学部・学年を超えてディスカッションしたりなど、変化に富んだ授業です。法政で学ぶ友人も増やし、受講生の皆さんがここで学ぶ未来にますます希望がもてるようになることをめざしています。それはみなさん自身が将来の目標やキャリアを考えることにもつながるかもしれません。

到達目標 ・法政大学の歴史と現在を、日本近現代史の流れのなかで理解する。

・歴史のなかで培われてきた法政大学らしさ（法政大学憲章に表されています）を考え、それを自分の将来を構想する糧とする。

・上位科目「法政学の探究 LA・LB」を受講する場合、その前提となる知識を得る。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 40 %、テキストおよび授業中の振り返りクイズ等を

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

もとに出題する期末試験 60 %を基準にして、総合的に評価します。
期末試験のうち選択問題については、5 割以上の正答が単位取得の最低ラインです。

IDN200LA	
法政学の探究 L B	2017 年度以降入学者
IDN100LA	
法政学の探究 B	2016 年度以前入学者
古俣 達郎	
授業コード：Q0503	2017 年度以降入学者
授業コード：P0703	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では法政大学の歴史に関するテキストをゼミナール形式で講読していきます。

今期は、「学生」に焦点をあて、卒業生の回想や法大生に関する記事などを読解することによって、法政大学の歴史を「学生」の観点から「読み直し」ます。

明治期の法律学校時代の学生とはどのような存在だったのか、大正末から昭和初期に体育会・文化系団体などの学生活動が一斉にはじまったのはなぜか、戦時下において学生たちは戦争についてどのように考えていたのか、戦前の留学生の学生生活はどのようなものだったのか、法政大学に女子学生が誕生したのはいつだったのか、バブル期の学生生活はどのようなものであったのか、戦前・戦中・戦後の法大生像にはどのような変遷があるのか、そして、法大生の特質・独自性とは何か。これらのテーマを資料（映画・アニメなどの映像資料も含む）に基づいて、科目担当者とともに検証していきます。

各学部の専門ゼミの履修が始まる前に、法政大学をテーマとして発表や議論などゼミナール形式の授業に慣れる機会にもなるでしょう

到達目標 法政大学はその創立者たちが若き法学徒であり、その後の歴史においても学生たちの主体的な活動によって発展していった大学です。かつての法大生の先進的な取り組みに学ぶことによって、法大生としての主体性、批判的な視野や独立性、そして、多様性と「他者」に開かれた精神を涵養することを目的とします。

成績評価の方法と基準 平常点とテキスト報告（各 50 %）にて判断します。

IDN200LA	
法政学の探究 L A	2017 年度以降入学者
IDN100LA	
法政学の探究 A	2016 年度以前入学者
高柳 俊男、古俣 達郎	
授業コード：Q0504	2017 年度以降入学者
授業コード：P0704	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、「法政学への招待」をすでに受講し、法政大学が経てきた 140 年近い歴史と現状について一通りの理解をもつ学生を主対象に、本学ゆかりの特定の人物を媒介に、法政大学についてより深く考える場を提供する発展科目として設定しました（今年度から内容を大幅変更）。

「法政学への招待」における学習で、本学が 1880 年の創立以来、どのような歩みを経てきたのか、その中で時代の要請にも応えつつどのような変化があったのかに関しては、一応の理解が得られていると思います。その前提の上に、本授業では、法政大学で教えた教員や、学んだ学生を具体的に取り上げます。教員の場合なら、その人物が法政大学でどのような教育研究に携わったのか、そのことで本学や社会の発展にいかに関与したか、などを追います。卒業生の場合なら、本学で何を学んだのか、あるいは学んだことをその後の本人の人生や、社会に向けてどう役立てたかなどについて、探求することになるでしょう。

法政大学ゆかりの特定の人物を詳しく追うことで、「自由と進歩」の理念や、時代のフロンランナー養成を掲げる法政大学の歴史と現在が、より具体性を帯びて理解できることになるはずです。

到達目標 本学の経てきた道を、具体的な人物に即して、実証的・実

感的に把握できることを目指します。時代の大きな流れの中で、本学ゆかりのその人物が何に興味をもち、どんな活動をし、何を目指し、何に悩んだかなど、時代の雰囲気を受講生個々人の知性と感性で感じられるようにします。それを、自分の学生生活や将来像へとつなげて考える契機を得るよう努めます。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 40 %、学期末のレポート 60 %を基準にして、総合的に評価します。受講者数によっては若干の変更があるかもしれませんが、その場合は授業の場でお知らせします。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LIT100LA	
日本古典文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：中世文学を読み解く	
表 きよし	
授業コード：Q1001	2017 年度以降入学者
授業コード：P1001	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本古典文学の代表的な作品である『平家物語』を読み、一の谷合戦・屋島合戦・壇の浦合戦という三つの合戦を通して平氏が滅亡に追い込まれていく様子を考察する。登場する人物たちの活躍がどのように描かれているかを細かく分析するとともに、その合戦の持つ意味を作者がどのようにとらえているかを明らかにする。『平家物語』が語られた作品であることに留意しながら、言葉による表現の可能性を探る。

到達目標 『平家物語』の多彩な登場人物の個性、さまざまな合戦などの出来事の内容、『平家物語』という作品の特色を理解し説明することができる。古典文学作品の面白さを味わうことができる。

成績評価の方法と基準 様々な人物の描から方が理解できたか、合戦の様子を把握することができたか、『平家物語』の持つ特色が十分に理解できたかどうかを論述式の試験で問う。試験の点数（80％）と、リアクションペーパーの記述内容など授業への参加態度（20％）を総合して成績評価を行う。

LIT100LA	
日本古典文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：中世文学を読み解く	
表 きよし	
授業コード：Q1002	2017 年度以降入学者
授業コード：P1002	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中世において悲劇的な英雄として人気を集めた源義経と弁慶を取り上げ、『平治物語』『義経記』『お伽草子』などの古典文学作品や、能・歌舞伎などの古典芸能における二人の描かれ方やその変化を比較検討し、人々が二人の英雄に求めた理想像を、作者が作品を通してどのように表現しようとしているかを明らかにする。これらの考察を通して、文学作品成立の背景にある様々な伝説や、文学作品が伝説の流布に果たした役割を考える。

到達目標 義経・弁慶伝説の内容を把握・理解し、説明することができる。人々がどのような思いを込めてこれらの伝説を生み出し流布させていったかを考えるとともに、古典文学や古典芸能の面白さを味わうことができる。

成績評価の方法と基準 古典文学作品に描かれる義経・弁慶伝説の内容が理解できたか、こうした伝説が生まれた背景を考えることができたか、古典文学作品の面白さを人に伝えられるかを論述式の試験で問う。試験の点数（80％）と、リアクションペーパーの記述内容など授業への参加態度（20％）を総合して成績評価を行う。

LIT100LA	
日本古典文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：かぐや姫の「実像」	
園 明美	
授業コード：Q1003	2017 年度以降入学者
授業コード：P1005	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 『竹取物語』は、現存する我が国最古の物語である。この物語については、おとぎ話の「かぐや姫のお話」として、幼い頃に絵本や紙芝居で親しんだ人も多いであろう。また、2013年末にはアニメ映画化されて話題になった。しかし、原典である『竹取物語』を読む機会は、意外に少ないのではないかと。

実は、原典の『竹取物語』には、おとぎ話やアニメーションのかぐや姫とはかけ離れた、驚くべき言動をするかぐや姫の姿や、他の登場人物たちの滑稽な言動、あるいはいわゆる「おやじギャグ」のような表現が随所に見られるのである。本授業では、『竹取物語』の原典を読むことを通して、学生諸君それぞれの「かぐや姫像」「『竹取物語』像」を見出してほしい。

到達目標 『竹取物語』のストーリー展開を、原典の本文を中心に追いながら、おとぎ話やアニメーションに描かれた姿との比較や、背景となる史実や当時の習慣等を知ることを通して、理解を深めてゆく。なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

成績評価の方法と基準 授業最終日に試験を行い、答案内容によって評価する。（90％）ただし、学生諸君との協議により、レポートによって評価する形にする場合もある。平常点は最終評価の参考とする。（10％）ただし、特別な理由もなく出席率が60％以下という場合は、評価の対象外とするので注意すること。

LIT100LA	
日本古典文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：平安貴族の「優雅な(?)」生活	
園 明美	
授業コード：Q1004	2017 年度以降入学者
授業コード：P1006	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「平安時代のイメージは？」と聞かれたら、多くの人が「優雅」と答えるのではないだろうか。確かに、日常的に華やかな衣装を身に纏い、和歌を詠み合う優雅な姿も、平安貴族の一面であろう。しかし、平安時代の文学作品にも、人を妬んだり陥れたり、笑いやにしたり、口汚く罵ったり・・・という、生々しい人間の姿が描かれているものもある。本授業では、そんな「優雅な」平安時代の文学作品の表現を通して、「優雅」の一言では収まりきれない平安時代の一面を浮き彫りにしてみたい。

到達目標 平安時代の物語や随筆・日記等の文学作品の中から興味深いエピソードを含む記事を抜粋・紹介し、当時の貴族たちの「生の姿」を探ってゆく。なお、授業は講義形式で進める。また、受験勉強の古文ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

成績評価の方法と基準 授業最終日に試験を行い、答案内容によって評

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

値する。(90%)
ただし、学生諸君との協議により、レポートによって評価する形にする場合もある。
平常点は最終評価の参考とする。(10%)ただし、特別な理由もなく出席率が60%以下という場合は、評価の対象外とするので注意すること。

LIT100LA	
日本古典文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：伊勢物語を読む	
成島 知子	
授業コード：Q1005	2017 年度以降入学者
授業コード：P1007	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 平安時代の歌物語である伊勢物語を、主人公とされる在原業平の一生に添って、とくに恋の章段を中心に読んでいく。それを通して和歌と物語という、文学を代表する 2 つのジャンルについて、考察するとともに 1000 年以上昔の人の心の動きを読み取り、文学の価値、意味について考えていく。

到達目標 和歌という 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取り、その中に納まりきれない情報を伝えたいという思いから成立した歌物語の世界を理解、享受し、現代の小説中心の文学のあり方との違いやつながりをも視野にいれて考察していきたい。
古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 学期末に、事前に発表した問題テーマについての論述テスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ 100%。評価のポイントは、設定された問題テーマについて自分なりに考察し、それが論理的にの論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。
ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

LIT100LA	
日本古典文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：伊勢物語をその享受から派生した作品とともに読む	
成島 知子	
授業コード：Q1006	2017 年度以降入学者
授業コード：P1008	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 伊勢物語を、とくに後の文学作品への影響が顕著な章段を中心に読む。同主題のものが、どう変化していくかを、大和物語や能の作品と比較ながら、日本文学、文化における伊勢物語の位置づけ、価値などを考える。

到達目標 古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。
文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。
文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という 2 面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

成績評価の方法と基準 学期末のレポート。テーマは伊勢物語、そのものについて、もしくはその享受について 4000 字相当。これがほぼ評価の 100%。作品を踏まえての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。

また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

LIT100LA	
日本古典文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：伊勢物語を読む	
成島 知子	
授業コード：Q1007	2017 年度以降入学者
授業コード：P1009	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 平安時代の歌物語である伊勢物語を、主人公とされる在原業平の一生に添って、とくに恋の章段を中心に読んでいく。それを通して和歌と物語という、文学を代表する 2 つのジャンルについて、考察するとともに 1000 年以上昔の人の心の動きを読み取り、文学の価値、意味について考えていく。

到達目標 和歌という 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取り、その中に納まりきれない情報を伝えたいという思いから成立した歌物語の世界を理解、享受し、現代の小説中心の文学のあり方との違いやつながりをも視野にいれて考察していきたい。
古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 学期末に、事前に発表した問題テーマについての論述テスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ 100%。評価のポイントは、設定された問題テーマについて自分なりに考察し、それが論理的にの論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。
ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

LIT100LA	
日本古典文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：伊勢物語をその享受から派生した作品とともに読む	
成島 知子	
授業コード：Q1008	2017 年度以降入学者
授業コード：P1010	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 伊勢物語を、とくに後の文学作品への影響が顕著な章段を中心に読む。同主題のものが、どう変化していくかを、大和物語や能の作品と比較ながら、日本文学、文化における伊勢物語の位置づけ、価値などを考える。

到達目標 古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。
文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。
文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という 2 面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

成績評価の方法と基準 学期末のレポート。テーマは伊勢物語、そのものについて、もしくはその享受について 4000 字相当。これがほぼ評価の 100%。作品を踏まえての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。
また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

LIT100LA	
日本近・現代文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本近・現代文学の問題作を読む	
川鍋 義一	
授業コード：Q1009	2017 年度以降入学者
授業コード：P1011	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 【日本近・現代文学の問題作を読む】
近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき3回程度の授業で進行します。

到達目標 教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。
・近現代日本文学になじむこと。
・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかに
かかわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身
とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常
点20%で評価します。

LIT100LA	
日本近・現代文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本近・現代文学の問題作を読む	
川鍋 義一	
授業コード：Q1010	2017 年度以降入学者
授業コード：P1012	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 【日本近・現代文学の問題作を読む】
近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき3回程度の授業で進行します。

到達目標 教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。
・近現代日本文学になじむこと。
・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかに
かかわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身
とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常
点20%で評価します。

LIT100LA	
日本近・現代文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本近・現代文学の問題作を読む	
川鍋 義一	
授業コード：Q1011	2017 年度以降入学者
授業コード：P1013	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 【日本近・現代文学の問題作を読む】
近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき3回程度の授業で進行します。

到達目標 教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。
・近現代日本文学になじむこと。
・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかに
かかわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身
とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常
点20%で評価します。

LIT100LA	
日本近・現代文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本近・現代文学の問題作を読む	
川鍋 義一	
授業コード：Q1012	2017 年度以降入学者
授業コード：P1014	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 【日本近・現代文学の問題作を読む】
近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき3回程度の授業で進行します。

到達目標 教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。
・近現代日本文学になじむこと。
・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかに
かかわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身
とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常
点20%で評価します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LIT100LA	
日本文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
島田 雅彦	
授業コード：Q1013	2017 年度以降入学者
授業コード：P1015	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文学にまつわる通念をはずし、能動的かつ創造的に読むことを指導し、訓練する。履修者諸君が主に日本の近現代小説に秘められた欲望を掘り起こすことを手伝う。受験までの「現代国語」を越え、多様な作品解釈に向けて、知性を解放することを目指す。文学は活用次第では政治経済を凌ぐ実学たりうるし、文学史を踏まえれば、議論でも優位に立つことができる。

到達目標 日本近代文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。

成績評価の方法と基準 筆記試験を行う。質疑や討論への参加も平常点として評価されよう。評価基準は筆記試験 80 %、平常点 20 %とする。

LIT100LA	
日本文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
島田 雅彦	
授業コード：Q1014	2017 年度以降入学者
授業コード：P1016	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文学にまつわる通念をはずし、能動的かつ創造的に読むことを指導し、訓練する。履修者諸君には主に日本で広く、長く読まれて来た西洋古典の必読書と向き合い、世界史の中の文学の役割を認識してもらう。漠然と、あるいは確固たる意思を持って、文章を書きたいと考える人、また人文系教養に飢えている人々の履修、聴講を歓迎する。文学は活用次第では政治経済を凌ぐ実学たりうるし、文学史を踏まえれば、議論でも優位に立つことができる。

到達目標 世界文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。

成績評価の方法と基準 筆記試験を行う。質疑や討論への積極的な参加もまた評価されよう。評価基準は筆記試験 80 %、平常点 20 %とする。

LIT100LA	
日本文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：〈コトバ〉と文学	
授業コード：Q1015	2017 年度以降入学者
授業コード：P1017	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文学テキストは人の手によって編まれた〈コトバ〉の集積体である。日本語という〈コトバ〉を用いて何が語られているのか、さらになぜその〈コトバ〉が用いられているのか、私たちが当たり前のこととして見過ごしているところに実は大きな意味が隠されていることもある。話者の態度や社会通念などさまざまなものが〈コトバ〉の意味を操作し、構築し、連関を紡いでるのだ。本講義ではこうした問題意識をもとに、日本近代文学の分析を通じて〈コトバ〉というものの働きを学んでいく。

到達目標 本講義では明治以後の日本近代文学のテキストを用いて、社会と人間と文学の関わりを問うことを目的としている。講義を通じて文学テキストが娯楽であると同時に高度な学問の対象でもあることを考えていく。これによって多角的に物ごとをとらえ、思考する力を養う。

成績評価の方法と基準 ・授業中に課すコメントペーパーを含む授業への積極的な貢献度（出席等）：30 %
・授業内試験：70 %
以上を考慮し、総合的に判断する。

LIT100LA	
日本文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本近代文学	
授業コード：Q1016	2017 年度以降入学者
授業コード：P1018	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） これまで学問は人文科学分野と自然科学分野とに大別され、それぞれで極めて精緻な研究が行われてきた。日本近代文学も「〈日本〉の〈近代〉の文学」という枠組みがあり、そのなかでさらに細分化されて研究が進められている。しかし、現在、狭い枠組みにとらわれず、いくつもの他領域を横断することによって新しい知見が生み出されるようになっていく。そこで本講義では文学テキストを通じて様々な問題系へと認識を拡げることが目的とする。

到達目標 本講義を通じて、具体的なテキストを精読することで多様な問題を考える柔軟な思考を養っていききたい。文学テキストが「文学愛好者」のためだけのものではなく、限りなく広く開かれたものであることを学んで欲しい。

成績評価の方法と基準 ・授業中に貸すコメントペーパーを含む授業への積極的な貢献度（平常点）：30 %
・授業内試験 70 %
以上を考慮し、総合的に判断する。

LIT100LA	
外国文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：ヨーロッパ文学と旅	
D. ハイデンライヒ	
授業コード：Q1017	2017 年度以降入学者
授業コード：P1019	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代ギリシャ神話『オデュッセイア』から、スウィフト『ガリヴァー旅行記』、モンテーニュ『エッセー』、アイヒェンドルフ『偷しき放浪児』など、旅と文学との関係は世界文学を貫く重要な題材の一つである。

春学期の授業では様々な文学形式（英雄叙事詩、日記、エッセー、風刺小説、教養小説等）における旅の系譜について考えます。

到達目標 ・文学の題材と形式の関係を知ること。
・「旅」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
・異文化理解能力を高める。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）：60%

学期末試験：40%

受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。

LIT100LA	
外国文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：ヨーロッパ文学と「変身」	
D. ハイデンライヒ	
授業コード：Q1018	2017 年度以降入学者
授業コード：P1020	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ローマ詩人オウィディウス『変身物語』から、カフカの『変身』とステイーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』など、変身をテーマにした作品は今も多くの読者を惹き付けてやまない。この授業はヨーロッパ変身物語の異なる時代と異なる語圏の数例を取り上げながら、この題材を比較文学的な視点から論じる。

到達目標 ・今日的な視点から「変身」の意義を捉え直すこと。
・「変身」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
・異文化理解能力を高める。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）：60%

学期末試験：40%

受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。

LIT100LA	
外国文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
近江屋 志穂	
授業コード：Q1019	2017 年度以降入学者
授業コード：P1021	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス文学の読み方を基礎から学びたい学生を対象とします。作品は日本語で読みます。
フランスのパカロレアの国語筆記／口述試験をテーマとし、関連する文学作品を読んでいきます。一年間で筆記試験の4種類の課題、および口述試験の内容と解き方を理解するとともに、そこで取り上げられる作家／作品について学びます。春学期は「テキスト解釈」およびエミール・ゾラを中心に扱います。

到達目標 ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ
・大学入試における記述式問題／口述試験について、フランスの事例を理解する
・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

成績評価の方法と基準 平常点 20%、期末試験 80%

LIT100LA	
外国文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
近江屋 志穂	
授業コード：Q1020	2017 年度以降入学者
授業コード：P1022	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス文学の読み方を基礎から学びたい学生を対象とします。作品は日本語で読みます。
フランスのパカロレアの国語筆記／口述試験をテーマとし、関連する文学作品を読んでいきます。一年間で筆記試験の4種類の課題および口述試験の内容と解き方を理解するとともに、そこで取り上げられる作家／作品について学びます。秋学期は「総括」「小論文」「創作作文」およびモーパッサン、バルザック、ヴィクトル・ユゴーを中心に扱います。

到達目標 ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ
・大学入試における記述式問題／口述試験について、フランスの事例を理解する
・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

成績評価の方法と基準 平常点 20%、期末試験 80%

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LIT100LA	
外国文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：中国古典に親しむ	
吉井 涼子	
授業コード：Q1021	2017 年度以降入学者
授業コード：P1023	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代のものから中国文学の粋とも言われる唐詩までを主な対象とし、詩人のエピソードや時代背景・文化などに関連させつつ読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。また、中国詩を鑑賞する上で必要な基本的知識（五言・七言、絶句・律詩や押韻・平仄）を学ぶ。

到達目標 これから先中国古典詩に興味を持った際に、使うべき字書や辞書がわかるようになる。漢詩を鑑賞するために必要な知識とスキルを習得する。漢詩をはじめ中国古典は難しいイメージを持ててしまいがちだが、実はコツを掴めば親しみやすいものであることがわかるようになる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーを主とする平常点を30%、期末試験の点数を70%として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

LIT100LA	
外国文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：中国古典に親しむ	
吉井 涼子	
授業コード：Q1022	2017 年度以降入学者
授業コード：P1024	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に漢代のものから、物語性の高い唐代の伝奇小説に至るまで、多くの話に触れ人物のエピソードを知り、その当時の時代背景や文化などと一緒に読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。

到達目標 物語性の高い作品を実際に多く読むことで、中国古典全般に対する理解を深めることができる。そこで読み解いた知識にとスキルにより、更に中国古典を楽しむ素地と教養を培う。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーを主とする平常点を30%、期末試験の点数を70%として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

LIT100LA	
外国文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日中比較	
吉井 涼子	
授業コード：Q1023	2017 年度以降入学者
授業コード：P1027	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日中の文学作品及び日中の交流史に関連する文献などを比較・鑑賞することで、他国の文章・文学作品のみならず、自国のものに対しても多角的な視点で読めるようになるための講

義である。

到達目標 日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることができる。
自国の文化への理解もより深めることができる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーを主とする平常点を30%、期末試験の点数を70%として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

LIT100LA	
外国文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日中比較	
吉井 涼子	
授業コード：Q1024	2017 年度以降入学者
授業コード：P1028	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日中の文学を比較・鑑賞することで、他国の文学のみならず自国のものに対しても、多角的な視点で読めるようになる。日本と中国それぞれの古典を学ぶことで、他の文学作品を読むに際しても、より楽しめるような知識と教養を得る。

到達目標 精読を通して日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることができる。これから先日本と中国の古典に興味を持った際に、自身の力で読解するスキルを学ぶことができる。自国の文化への理解もより深めることができる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーを主とする平常点を30%、期末試験の点数を70%として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

LIT100LA	
外国文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日韓文化交流と理解	
梁 禮先	
授業コード：Q1025	2017 年度以降入学者
授業コード：P1029	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日韓の文化や興味あるテーマを取り上げて、日韓両国のより理解を深めて行くことを目指していきます。文化や問題などを比較してみることで、新しい発見や将来が見えてきます。また、現在の日韓の若者たちの興味ある問題や題材を、若者目線で幅広く取り上げて、日韓両国の交流を向上させて行くことが目的です。韓国留学生たちの積極的参加も歓迎します。

到達目標 日韓の文化や習慣・歴史の差などを比較しながら総合理解していくことを目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点・レポートなど 50%、期末レポート 50%。
(学生たちの積極的な授業参加・意見なども参考にします)
合計 100%

LIT100LA	
外国文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日韓文化交流と理解	
梁 禮先	
授業コード：Q1026	2017 年度以降入学者
授業コード：P1030	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期の授業を踏まえて、韓国と日本の文化や話題や問題について、様々な視点から問題を捉えていきます。現在の日韓の若者のトレンドも多く取り上げていきます。

到達目標 常に、現在の日韓のトレンドを取り上げつつ、その問題や将来性や日韓両国の交流の方向性を考えることを目指すことで、日韓のこれからの未来への活発な交流のきっかけをつくることが授業の目指す目標です。

成績評価の方法と基準 平常点・レポートなど 50%、期末レポート 50% (積極的授業内の意見なども参考にします) 合計 100%

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：簡潔な文章を書く	
浅沼 博	
授業コード：Q1061	2017 年度以降入学者
授業コード：P1227	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 簡潔な文章は、簡潔な文によって構成されている。ここでは実用文という観点から、「わかりやすく書くこと」を学ぶ。

到達目標 平易な短文によって段落をつくる。さらに段落をうまく連結させることで、わかりやすい実用文を構成することができる。文章とは「わかりやすく書くもの」という認識を深める。

成績評価の方法と基準 各単元にそって進めていくため平常授業の演習を重視する。したがって平常点を 60%、期末レポートを 40% とする。演習やレポートについては、テキストにそった「わかりやすさ」を評価基準とする。

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
西元 康雅	
授業コード：Q1062	2017 年度以降入学者
授業コード：P1228	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語の読み書きを修得する。とりわ

【重要】ILAC 科目 / 市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ず Web シラバスを確認してください。 本冊子は、Web シラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

け本授業では、映像やインタビューを基に書き言葉（エッセーや小論文）に置き換える。

到達目標 ①日本語についての知識と理解を深める。
②文章の歴史的社会的背景を知ることで、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

成績評価の方法と基準 平常点 30 点、提出物 30 点、期末課題 40 点

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：留学生を主な対象とするクラス	
川鍋 義一	
授業コード：Q1063	2017 年度以降入学者
授業コード：P1229	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
留学生対象クラス	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語を「書く」力、日本語を「読む」力をつけよう。
川鍋義一担当の「文章論」は他の曜日・時限にもありますが、このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。川鍋義一担当の「文章論」受講を希望する留学生、海外での生活が長く日本語に大きな不安を抱える日本人学生なども、このクラスを受講してください。
(留学生が他の曜日・時限の、川鍋義一担当の「文章論」受講を妨げるものではありません。)

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、日本の大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（5 回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50%、提出物の点数・漢字テストの点数 50% で評価します。
1 回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：留学生を主な対象とするクラス	
川鍋 義一	
授業コード：Q1064	2017 年度以降入学者
授業コード：P1230	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
留学生対象クラス	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語を「書く」力、日本語を「読む」力をつけよう。
川鍋義一担当の「文章論」は他の曜日・時限にもありますが、このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。川鍋義一担当の「文章論」受講を希望する留学生、海外での生活が長く日本語に大きな不安を抱える日本人学生なども、このクラスを受講してください。
(留学生が他の曜日・時限の、川鍋義一担当の「文章論」受講を妨げるものではありません。)

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、日本の大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（5 回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50%、提出物の点数・漢字テストの点数 50% で評価します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

1 回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：通常クラス	
川鍋 義一	
授業コード：Q1065	2017 年度以降入学者
授業コード：P1221	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法・環・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「書く」力、「読む」力をつけよう。
このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（5 回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）5 0 %、提出物の点数・漢字テストの点数 5 0 % で評価します。
1 回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：通常クラス	
川鍋 義一	
授業コード：Q1066	2017 年度以降入学者
授業コード：P1222	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法・環・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「書く」力、「読む」力をつけよう。
このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（5 回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）5 0 %、提出物の点数・漢字テストの点数 5 0 % で評価します。
1 回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：通常クラス	
川鍋 義一	
授業コード：Q1067	2017 年度以降入学者
授業コード：P1223	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文・営・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「書く」力、「読む」力をつけよう。
このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（5 回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）5 0 %、提出物の点数・漢字テストの点数 5 0 % で評価します。
1 回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：通常クラス	
川鍋 義一	
授業コード：Q1068	2017 年度以降入学者
授業コード：P1224	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文・営・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「書く」力、「読む」力をつけよう。
このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（5 回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）5 0 %、提出物の点数・漢字テストの点数 5 0 % で評価します。
1 回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

【重要】ILAC 科目 / 市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ず Web シラバスを確認してください。本冊子は、Web シラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
西元 康雅	
授業コード：Q1069	2017 年度以降入学者
授業コード：P1225	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語の読み書きの基礎を身につける。とりわけ本授業では実践的な「書く力」を修得する。

到達目標 ①日本語についての知識と理解を深める。
②文章の歴史的社会的背景を知ること、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

成績評価の方法と基準 平常点 30 点、提出物 30 点、期末レポート 40 点

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
西元 康雅	
授業コード：Q1070	2017 年度以降入学者
授業コード：P1226	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語の読み書きを修得する。とりわけ本授業では、映像やインタビューを基に書き言葉（エッセーや小論文）に置き換える。

到達目標 ①日本語についての知識と理解を深める。
②文章の歴史的社会的背景を知ること、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

成績評価の方法と基準 平常点 30 点、提出物 30 点、期末課題 40 点

LNG100LA	
言語学 A	2017 年度以降入学者
LNG100LA	
言語学 I	2016 年度以前入学者
板井 美佐	
授業コード：Q1081	2017 年度以降入学者
授業コード：P1203	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年以降入学生＞法・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞法・国 1-4 年生、文・営 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

LNG100LA	
言語学 B	2017 年度以降入学者
LNG100LA	
言語学 II	2016 年度以前入学者
板井 美佐	
授業コード：Q1082	2017 年度以降入学者
授業コード：P1204	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年以降入学生＞法・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞法・国 1-4 年生、文・営 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前半は日本語の歴史、文法などを概観することで日本語の特徴を捉える。後半は異文化理解という視点から、言語と文化、社会、心理、教育の関係を理解する。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、日本語の特徴、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

LNG100LA	
言語学 A	2017 年度以降入学者
LNG100LA	
言語学 I	2016 年度以前入学者
板井 美佐	
授業コード：Q1083	2017 年度以降入学者
授業コード：P1205	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞文 1 年生、法・営・国 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

LNG100LA	
言語学 B	2017 年度以降入学者
LNG100LA	
言語学 II	2016 年度以前入学者
江村 裕文	
授業コード：Q1084	2017 年度以降入学者
授業コード：P1206	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞文 1 年生、法・営・国 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この科目は「言語学」といいます。言語学は、人間の言語とはいかなるものであるのか、について知見を積み重ねてきました。この授業では、まずヒトが言語とどう向かい合ってきたかという「言語学史」的に歴史的に概観します。

次いで、「言語学」としての特徴的な概念等について紹介します。

最後に、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられる

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

かを考えます。

- 到達目標** 1 「言語」についてのヒトの営みについての一般的な知見を得ること。
2 「言語学」の方法についての基礎的な知識を身に着けること。
3 「コミュニケーション」における「言語」の位置づけについて、正しい知識を身に着けること。
4 結果として、「言語学」の枠組みや思考法について、大まかでもいいから認識を深めること。

成績評価の方法と基準 試験の得点100点満点で評価します。

LNG100LA	
言語学 A	2017 年度以降入学者
LNG100LA	
言語学 I	2016 年度以前入学者
板井 美佐	
授業コード：Q1085	2017 年度以降入学者
授業コード：P1207	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞営 1 年生、法・文・国 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようなものか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、言語学の内容について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

LNG100LA	
言語学 B	2017 年度以降入学者
LNG100LA	
言語学 II	2016 年度以前入学者
板井 美佐	
授業コード：Q1086	2017 年度以降入学者
授業コード：P1208	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞営 1 年生、法・文・国 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前半は日本語の歴史、文法などを概観することで日本語の特徴を捉える。後半は異文化理解という視点から、言語と文化、社会、心理、教育の関係を理解する。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、日本語の特徴、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

PHL100LA	
哲学 I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学 I	2016 年度以前入学者
滝口 清栄	
授業コード：Q1091	2017 年度以降入学者
授業コード：P1051	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決すること目的とします。本講義では、このテーマを踏まえながら、環境と共生という現代的視点から、哲学的テーマをとりあげます。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
本講義では、環境と共生をめぐる哲学史的アプローチ、そして現代の理論的問題を明らかにすることを通して、これからの世界を生きる人間と社会のあり方を考える手がかりが得られることをめざします。

成績評価の方法と基準 セメスター末のレポートないし試験を基準として、平常点も参考とします。

PHL100LA	
哲学 II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学 II	2016 年度以前入学者
滝口 清栄	
授業コード：Q1092	2017 年度以降入学者
授業コード：P1052	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。
本講義では、近代ドイツの哲学者ヘーゲルを通して、このような問題にアプローチします。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
本講義では、ヘーゲル哲学をメインにすえて、認識、存在、人間、社会などの根本にある問題を扱います。これらを通して、常識をつねに問い返す哲学的思考に触れることができるでしょう。こうして得られた思考様式が、現代の問題を考える大切なツールになることをめざします。

成績評価の方法と基準 セメスター末のレポートないし試験を基準として、平常点も参考とします。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
計良 隆世	
授業コード：Q1093	2017 年度以降入学者
授業コード：P1053	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年Ⅰ～Ⅱ組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。また、比較思想的考察により、東西両哲学思想それぞれの思考法等の特徴と差異についても学ぶ予定です。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：
・アイデア説の哲学史上の意味と問題点
・原理・真理等についての東西両哲学思想それぞれの考え方の特徴と差異
・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（80％）と平常点（20％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
計良 隆世	
授業コード：Q1094	2017 年度以降入学者
授業コード：P1054	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年Ⅰ～Ⅱ組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。
この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。また、比較思想的考察により、原理・真理等に関する東西両哲学思想の考え方の違いについても触れる予定です。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
・「神」・「真理」・「ニヒリズム対応法」等についての東西両哲学思想それぞれの特徴と差異。

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（80％）と平常点（20％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
計良 隆世	
授業コード：Q1095	2017 年度以降入学者
授業コード：P1055	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年Ⅲ～Ⅳ組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。また、比較思想的考察により、東西両哲学思想それぞれの思考法等の特徴と差異についても学ぶ予定です。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：
・アイデア説の哲学史上の意味と問題点
・原理・真理等についての東西両哲学思想それぞれの考え方の特徴と差異
・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（80％）と平常点（20％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
計良 隆世	
授業コード：Q1096	2017 年度以降入学者
授業コード：P1056	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年Ⅲ～Ⅳ組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。
この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。また、比較思想的考察により、原理・真理等に関する東西両哲学思想の考え方の違いについても触れる予定です。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
・「神」・「真理」・「ニヒリズム対応法」等についての東西両哲学思想それぞれの特徴と差異。

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（80％）と平常点（20％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
山口 誠一	
授業コード：Q1097	2017 年度以降入学者
授業コード：P1057	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ I 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

成績評価の方法と基準 セメスター末の授業内試験 (70%) を基準として、平常評価 (30%) も参考とします。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
山口 誠一	
授業コード：Q1098	2017 年度以降入学者
授業コード：P1058	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ I 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、現代哲学の基本問題を、哲学的映像とスクリーン投射テキストでできるだけ平明に解説します。

到達目標 今期は、学生が常識批判の方法としての懐疑を、ヘーゲル哲学の学習を通して深めることができます。

成績評価の方法と基準 セメスター末の授業内試験を基準 (70%) として、平常評価 (30%) も参考とします。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
伊藤 功	
授業コード：Q1099	2017 年度以降入学者
授業コード：P1059	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

成績評価の方法と基準 セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。配分は試験 70 %、平常点 30 % です。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
伊藤 功	
授業コード：Q1100	2017 年度以降入学者
授業コード：P1060	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。配分は試験 70 %、平常点 30 % です。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
谷口 力	
授業コード：Q1101	2017 年度以降入学者
授業コード：P1061	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを通読しながら、「世界」、および、「世界」に関する論理的な問題（存在論や認識論）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

- ・古代ギリシャ哲学における世界の原理について理解する。
- ・大陸合理論における世界の構造について理解する。
- ・イギリス経験論における世界の認識について理解する。
- ・近代ドイツ哲学における世界の説明について理解する。
- ・19～20 世紀哲学における世界の解釈について理解する。
- ・現代分析哲学における世界の分析について理解する。

成績評価の方法と基準 セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、基本的に、平常点 50%、期末試験 50% で評価します。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
谷口 力	
授業コード：Q1102	2017 年度以降入学者
授業コード：P1062	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを通読しながら、「心」、および、「心」に関する倫理的な問題（価値や生き方）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
・古代ギリシャ哲学における心の原理について理解する。
・大陸合理論における心の構造について理解する。
・イギリス経験論における心の認識について理解する。
・近代ドイツ哲学における心の説明について理解する。
・19～20 世紀哲学における心の解釈について理解する。
・現代分析哲学における心の分析について理解する。

成績評価の方法と基準 セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、基本的に、平常点 50%、期末試験 50%で評価します。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
大西 正人	
授業コード：Q1103	2017 年度以降入学者
授業コード：P1063	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 J ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。特にこのⅠの講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

成績評価の方法と基準 期末に参照可のテストをおこなう予定。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
大西 正人	
授業コード：Q1104	2017 年度以降入学者
授業コード：P1064	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 J ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間の欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子を見ます。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

成績評価の方法と基準 期末に参照可のテストをおこなう予定。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
近堂 秀	
授業コード：Q1105	2017 年度以降入学者
授業コード：P1065	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国際文化学部 1 年/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、人間の知のあり方を、広くて新しい視野から考えることを目的とします。

到達目標 哲学の基本的性格と歴史と基本問題の概観を通して、知ることの意味を捉え直します。

成績評価の方法と基準 授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 %で評価します。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
近堂 秀	
授業コード：Q1106	2017 年度以降入学者
授業コード：P1066	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：国際文化学部 1 年/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の根本問題を、イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。カントの世界市民主義の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、哲学の観点から時代状況について考える力を身につけることを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 %で評価します。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
越部 良一	
授業コード：Q1107	2017 年度以降入学者
授業コード：P1067	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 L ～ N 組、環 1 年/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義は哲学の歴史上の基本的性格と基本問題を概観する。この概観によって、哲学的な教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広く新しい視野から考え、探求することとする。特にこの講義では、主として近現代の西洋及び日本の哲学思想家の基本問題を学んでゆく。

到達目標 哲学の基本的性格と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解し説明できること。特に、人間存在（自己）の哲学的なあり方と人間を超える存在との関わりを理解し、説明できること。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験（60 % くらい）と平常点（40 % くらい）の 2 つにより総合的に評価する予定である。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
越部 良一	
授業コード：Q1108	2017 年度以降入学者
授業コード：P1068	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 L ～ N 組、環 1 年/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、主要学説を手がかりにしながら解明してゆく。哲学が存在意識を変革して、自己と世界の新しい見方、気づきを得てゆくものであることを踏まえて、主として近現代の西洋及び日本の哲学思想家の思考を見てゆく。

到達目標 主要な哲学思想家の根本問題を学習することを通して、存在意識の変革としての哲学を理解し、説明できること。特に、人間存在と人間を超える存在との関わりを、近現代社会の哲学的な問題、状況をも意識しつつ、理解し、説明できること。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験（60 % くらい）と平常点（40 % くらい）の 2 つにより総合的に評価する予定である。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
白根 裕里枝	
授業コード：Q1109	2017 年度以降入学者
授業コード：P1069	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：キャリアデザイン学部 1 年/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学というと難しいという印象があるかもしれないが、何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指している。善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、幸せのために、哲学を学ぶことが必要とされている。

到達目標 学生は、まずはオーソドックスな哲学の基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上での基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。哲学はあらゆる学問の基礎である。何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大なる信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

成績評価の方法と基準 平常点（40 %）と学期末試験（60 %）によって評価する。出席は 3 分の 2 以上。試験は、手書きのノートの持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式である。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
白根 裕里枝	
授業コード：Q1110	2017 年度以降入学者
授業コード：P1070	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：キャリアデザイン学部 1 年/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学Ⅱでは、「Ⅲ. 哲学と宗教」、「Ⅳ. 哲学と幸福」について考察する。宗教というと嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。

宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴らしい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることでもあるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探究する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと思っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？ 幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

到達目標 西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教というもの

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

0%くらい)の2つにより総合的に評価する予定である。試験は定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等には注意すること。

PHL100LA	
倫理学 I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 I	2016 年度以前入学者
佐藤 英明	
授業コード: Q1123	2017 年度以降入学者
授業コード: P1103	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	
履修対象: 法 1 年 I ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施する(ノート・テキストなどの参照不可)。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこなう(試験 60%・小テスト 40%)。

PHL100LA	
倫理学 II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 II	2016 年度以前入学者
佐藤 英明	
授業コード: Q1124	2017 年度以降入学者
授業コード: P1104	2016 年度以前入学者
開講時期: 秋学期	
履修対象: 法 1 年 I ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的問題を取り上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学 (allied ethics)」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学 I で学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施する(ノート・テキストなどの参照不可)。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこなう(試験 60%・小テスト 40%)。

について、付かず離れずに見る視点を確保することができるだろう。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つめようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」と「知る」とこととの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か? どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか? 古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知ることがいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが、理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

成績評価の方法と基準 平常点 (40 %) と学期末試験 (60 %) によって評価する。出席は 3 分の 2 以上。試験は手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式。

PHL100LA	
倫理学 I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 I	2016 年度以前入学者
越部 良一	
授業コード: Q1121	2017 年度以降入学者
授業コード: P1101	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	
履修対象: 法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理学上の根本思考を取り上げて、各学生がそれぞれの立場で倫理的な問題を考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを倫理的なさまざまな観点に基づいて考察できることを目的とする。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋の代表的な倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し、説明できることを目標とする。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験 (60% くらい) と平常点 (40% くらい) の 2 つにより総合的に評価する予定である。試験は定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等には注意すること。

PHL100LA	
倫理学 II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 II	2016 年度以前入学者
越部 良一	
授業コード: Q1122	2017 年度以降入学者
授業コード: P1102	2016 年度以前入学者
開講時期: 秋学期	
履修対象: 法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、実践的に応用していくための倫理学である。この授業は、特にその中から生命倫理学と環境倫理学を主に取り上げて、多様な価値観が交錯する中で生ずる倫理的問題を見ながら、そうした価値観の相違の中で、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的状況を考慮しながら考察し、理解することを目的とする。特に、この授業は「生命倫理学」及び「環境倫理学」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学 I で学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用し、もしくは新しくしてゆくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験 (60% くらい) と平常点 (40% くらい) の 2 つにより総合的に評価する予定である。試験は定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等には注意すること。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
伊藤 直樹	
授業コード：Q1125	2017 年度以降入学者
授業コード：P1105	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組・法 1 年 Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 学期末にテストを行なう。
成績評価の基準は次のようにする。
授業への貢献度 30 %；小テスト 20 %；テスト 50 %

PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
伊藤 直樹	
授業コード：Q1126	2017 年度以降入学者
授業コード：P1106	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組・法 1 年 Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題を取り上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 学期末にテストを行なう。
成績評価の基準は次のようにする。
授業への貢献度 30 %；小テスト 20 %；テスト 50 %

PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
田島 樹里奈	
授業コード：Q1127	2017 年度以降入学者
授業コード：P1107	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で学問的な知識を得て、試験に合格することで完結するものではない。倫理学の知は、個々人が主体的に考え、私たちが生きる日常生活の様々な場面で思考し、活用することによってこそ自分自身の糧となる。そのため、この授業では身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるようにしたい。単なる知識を身につけるだけでなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることも視野に入れている。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、社会の中で一人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。そのさいに、現実社会や日常生活で起きている様々な出来事が、いかに倫理的問題と密接に結びついているかを自らの頭で考えながら取り組むことで、実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 毎授業ごとのリアクションペーパー（20 %）、期末試験またはレポート（80 %）

PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
田島 樹里奈	
授業コード：Q1128	2017 年度以降入学者
授業コード：P1108	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題を取り上げながら、異なる文化で生きる他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるようにしたい。単なる知識を身につけるだけでなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることも視野に入れている。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちがグローバルな社会の中で、一人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。そのさいに、現実社会や日常生活で起きている様々な出来事が、いかに倫理的問題と密接に結びついているかを自らの頭で考えながら取り組むことで、実践的な知を獲得することを目指す。特にこの授業は、いわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえる。

成績評価の方法と基準 毎授業ごとのリアクションペーパー（20 %）、期末試験またはレポート（80 %）

PHL100LA	
倫理学 I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 I	2016 年度以前入学者
杉本 隆久	
授業コード：Q1129	2017 年度以降入学者
授業コード：P1109	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることでは終わりでない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 平常点 20%、小論文 20%、期末試験 60%。
授業へ積極的・意欲的に参加しているかどうか、小論文では講義で扱った問題に関する議論を十分に理解した上で自分の考えを明確に表現できているかどうか、試験では習得した知識についての的確に説明できているかどうかの評価の基準となる。

PHL100LA	
倫理学 II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 II	2016 年度以前入学者
杉本 隆久	
授業コード：Q1130	2017 年度以降入学者
授業コード：P1110	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題を取り上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学 I で学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 平常点 20%、小論文 20%、期末試験 60%。
授業へ積極的・意欲的に参加しているかどうか、小論文では講義で扱った問題に関する議論を十分に理解した上で自分の考えを明確に表現できているかどうか、試験では習得した知識についての的確に説明できているかどうかの評価の基準となる。

PHL100LA	
倫理学 I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 I	2016 年度以前入学者
森村 修	
授業コード：Q1131	2017 年度以降入学者
授業コード：P1111	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～W 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることでは終わりでない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 ・定期試験（80 %）に加え、小テスト（20 %）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

PHL100LA	
倫理学 II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 II	2016 年度以前入学者
森村 修	
授業コード：Q1132	2017 年度以降入学者
授業コード：P1112	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S～W 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題を取り上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学 I で学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 定期試験（80 %）に加え、小テスト（20 %）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
越部 良一	
授業コード：Q1133	2017 年度以降入学者
授業コード：P1113	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理学上の根本思考を取り上げて、各学生がそれぞれの立場で倫理的な問題を考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを倫理的なさまざまな観点に基づいて考察できることを目的とする。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋の代表的な倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し、説明できることを目標とする。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験（60％くらい）と平常点（40％くらい）の2つにより総合的に評価する予定である。試験は定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等には注意すること。

PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
越部 良一	
授業コード：Q1134	2017 年度以降入学者
授業コード：P1114	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、実践的に応用していくための倫理学である。この授業は、特にその中から生命倫理学と環境倫理学を主に取り上げて、多様な価値観が交錯する中で生ずる倫理的な問題を見ながら、そうした価値観の相違の中で、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的状況を考慮しながら考察し、理解することを目的とする。特に、この授業は「生命倫理学」及び「環境倫理学」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用し、もしくは新しくしてゆくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験（60％くらい）と平常点（40％くらい）の2つにより総合的に評価する予定である。試験は定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等には注意すること。

PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
大西 正人	
授業コード：Q1141	2017 年度以降入学者
授業コード：P1081	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちえているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。倫理学は、その手助けをします。

到達目標 本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

成績評価の方法と基準 授業中に解いた問題を中心とした期末テストを行う。

PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
大西 正人	
授業コード：Q1142	2017 年度以降入学者
授業コード：P1082	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちえているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。倫理学は、その手助けをします。

到達目標 本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

成績評価の方法と基準 授業中に解いた問題を中心とした期末テストを行う。

PHL100LA	
論理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
白根 裕里枝	
授業コード：Q1143	2017 年度以降入学者
授業コード：P1083	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 我々は何を考え、何を行なうにしても、まず論理的に正しく考えなくては、いつどこで誤り、不幸な結果を招くかわからない。では「論理的に正しい」とか「矛盾している」とはということなのか。論理学は、我々の思考のあり方を反省し、その原理と規則を明らかにし、正しい判断をもたらすための学問です。

到達目標 概念、命題、推理について、その基礎を学びます。論理的に考える方法を身に付けることは、何を学ぶ上でも大変に重要であって、これなくしてはいかなる学問も成立しません。レポートなどを書く上でも言葉や論理に気をつけるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（40 %）と学期末試験の成績（60 %）によって評価する。出席は 3 分の 2 以上。

PHL100LA	
論理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
白根 裕里枝	
授業コード：Q1144	2017 年度以降入学者
授業コード：P1084	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学（Ⅰ）で学んだ「概念」や「命題」を元にして、論理学Ⅱでは、主として「推理」をめぐる、論理学の基礎を学ぶ。直接推理、三段論法、仮言推理、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることを目的とする。特に、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学んでゆきます。

到達目標 実際に問題を解いてみることを通して、思考の見事な規則性を確認するとともに、いかに自分が安易な思い込みや思い違いの中で日々暮らしているか、気づくだろう。「勉強したら試験に受かるが、勉強しないと試験に受からない」のかどうか……。論理的思考の基礎を身に付けることは、レポートを書く際にも役立つ。帰納法や誤謬論など、われわれの思考のパターンと、そのあるべき姿について広く学ぶことができる。

成績評価の方法と基準 平常点（40 %）と学期末試験の成績（60 %）によって評価する。出席は 3 分の 2 以上。

PHL100LA	
論理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
計良 隆世	
授業コード：Q1145	2017 年度以降入学者
授業コード：P1085	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A～X 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。論理学Ⅰでは、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

到達目標 正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（80 %）、平常点（20 %）に基づき評価。

学期末筆記試験においては、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方と答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

PHL100LA	
論理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
計良 隆世	
授業コード：Q1146	2017 年度以降入学者
授業コード：P1086	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A～X 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学Ⅱでは、アリストテレスに始まる伝統的論理学が修正・拡張されて成立したと見なされる現代論理学（記号論理学）の基礎を学び、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

到達目標 春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 現代論理学（記号論理学）の学習の基本となる命題論理学を学び、日常文（命題）を自分で記号化し、文の論理的構造を明確に理解する。
2. 命題論理学における、妥当な推論を行うための基礎的な知識と技法とを自然演繹を通して習得し、基本的な推論問題（命題証明問題）を自力で解く。
3. 自然演繹の推論規則を順々に学んでいくことで、論理の世界がどのような構造になっているのかについても理解する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

成績評価の方法と基準 2回的小テスト（筆記試験）の成績（80％）と平常点（20％）に基づき評価。
2回的小テストにおいては、いずれも、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
小テストの採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

PHL100LA	
論理学 I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学 I	2016 年度以前入学者
鵜澤 和彦	
授業コード：Q1147	2017 年度以降入学者
授業コード：P1087	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学 I の授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を扱い、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

到達目標 ①正しい推理のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。
②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理（三段論法）の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。
③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

成績評価の方法と基準 ①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 % の割合で総合評価する。課題プリントと期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、A+(100-90 点)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下) とし、合格は A+、A、B、C とします。
A+：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。
A：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する理解が認められる。
B：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理学的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。
C：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理学的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。
D：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

PHL100LA	
論理学 II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学 II	2016 年度以前入学者
鵜澤 和彦	
授業コード：Q1148	2017 年度以降入学者
授業コード：P1088	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学 II の授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、論理学 I（伝統的論理学）で学習した内容を踏まえて、現代の記号論理学（命題論理学）の習得を目的とします。

到達目標 ①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。
②真理表や帰謬法を用いて推論の妥当性を判定することができる。
③命題内部の論理構造を的確に把握することができる。
④仮説構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 ①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②最後に行う秋学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 % の割合で総合評価します。課題プリントと期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、A+(100-90 点)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下) とし、合格は A+、A、B、C とします。
A+：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。
A：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する理解が認められる。
B：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理学的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。
C：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理学的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。
D：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

PHL100LA	
論理学 I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学 I	2016 年度以前入学者
大貫 義久	
授業コード：Q1149	2017 年度以降入学者
授業コード：P1089	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように自分の意思を正しく表現して伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。私たちは普段から思考（推理）していますが、多くの場合、その推理は誤っています。この講義は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなるこ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

となのか、また、論理的に正しく思考し表現するためには、どのようにしたらよいのかということ、基礎から順に学んでゆきます。

到達目標 説明と練習問題によって、論理的に思考し表現する方法が実際に身につくようにすることが、到達目標です。学期末試験は、正しく論理的に思考し表現する力が、身についたかを見ます。

成績評価の方法と基準 授業の取り組み（20％）と学期末試験（80％：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明してゆきます。

PHL100LA	
論理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
大貫 義久	
授業コード：Q1150	2017 年度以降入学者
授業コード：P1090	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義は、春学期の復習をした上で、「推理」の説明から始めます。特に「判断の変形による直接推理」を扱い、この推理が日常の曖昧な表現（言い方）を正確なものにするのに大いに役立つことを、丁寧に説明してゆきます。例えば、いま私が「毎回出席したら単位は取れます」と言ったとします。この言い方は一見して正しいもののように思われますが、しかしこの言い方自体に曖昧さが含まれているのです。つまり「毎回出席しなくても単位が取れる」可能性を実は含んでしまっているのです。それでは、この言い方をどのように言い換えれば、正しい表現になるのでしょうか。そういった言語表現の正しい仕方を、この授業では学び、実際に身につくようにしてゆきます。本格的な推理である三段論法についても学び、最後に、現代論理学へと導きます。論理学は、分かってくると、とても面白くなります。

到達目標 説明と練習問題によって、論理的に正しく思考し、表現する方法を実際に身につけることが、授業の目標です。春学期よりも少し複雑な論理的思考（推理）を正しく行う方法を身につけます。試験では、複雑な論理的思考を正しく行うことができるかを見ます。

成績評価の方法と基準 授業への取り組み（20％）と学期末の授業内試験（80％：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り授業に出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明してゆきます。

PHL100LA	
論理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
滝口 清栄	
授業コード：Q1151	2017 年度以降入学者
授業コード：P1091	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 伝統的論理学が扱う内容を、概念に始まり、命題、命題間の関係、そして命題の変形、虚偽論とかたちで検討していきます。日本では、論理的思考力をメインにあつかう科目は、ようやく大学でとりあげられます。この機会を利用して、しっかりした論理的思考の訓練をしてください。

到達目標 人は毎日、言葉を用いて生活しています。人は、自分が文法にしたがって発話していると、とくに思っていない。しかし、文法をよく知るようにになれば、言葉への関心や理解が深まり、言葉を通して、その人の能力もよりよく発揮されるようになるでしょう。論理についても同じことが言えます。論理的に考えるときに、そのさまざまな規則を学ぶことによって、人は自分の思考能力を高めたり、ある

いは自分を表現し他者に伝達する力を身につけることができます。本講義は受講生のみなさんが論理学を学ぶことを通して、このようになってくれればと思っています。春学期と秋学期はつながっていますので、通年で受講することをすすめます。

成績評価の方法と基準 各学期のなかで、2 回的小テストをおこない、それらを総合して各学期の成績を出します（第一回小テスト、第二回小テスト、計 90 点）、授業への参加度 10 点。

PHL100LA	
論理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
滝口 清栄	
授業コード：Q1152	2017 年度以降入学者
授業コード：P1092	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 伝統的論理学の、三段論法、両刀論法（ジレンマ）、科学的発見の論理としての帰納法、そして現代の記号論理学として命題論理学の初歩を扱う。

到達目標 人は毎日、言葉を用いて生活しています。人は、自分が文法にしたがって発話していると、とくに思っていない。しかし、文法をよく知るようにになれば、言葉への関心や理解が深まり、言葉を通して、その人の能力もよりよく発揮されるようになるでしょう。論理についても同じことが言えます。論理的に考えるときに、そのさまざまな規則を学ぶことによって、人は自分の思考能力を高めたり、あるいは自分を表現し他者に伝達する力を身につけることができます。本講義は受講生のみなさんが論理学を学ぶことを通して、このようになってくれればと思っています。春学期と秋学期はつながっていますので、通年で受講することをすすめます。

成績評価の方法と基準 各学期のなかで、2 回的小テストをおこない、それらを総合して各学期の成績を出します。第一回小テスト、第二回小テストの計 90 点、授業への参加度 10 点とします。

PHL100LA	
論理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
菅沢 龍文	
授業コード：Q1153	2017 年度以降入学者
授業コード：P1093	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 【主題】西洋の伝統的論理学の基礎
— 「思考の 3 原則」から「ジレンマ」まで—

到達目標 《知識》正しい推理のための基礎的な知識を得る。
《態度》論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につける。
《技能》論理的に正しく推理する能力をつける。
（1）図形で即座に論理的に正しい判断や推理ができる。
（2）論理的に筋道の通った考え方ができる。
（3）論理的に相手を理解し、相手を説得できる。

成績評価の方法と基準 （1）平常点（参加姿勢、確認プリントの評価など）
（2）全体についての春学期試験の点数
（1）を 70％、（2）を 30％の割合で総合評価する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PHL100LA	
論理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
菅 沢 龍文	
授業コード：Q1154	2017 年度以降入学者
授業コード：P1094	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） [テーマ] 科学の論理、文の論理。
[到達目標] 科学的な知識について考え、現代論理学の基礎を習得する。

到達目標 《知識》現代論理学の初歩的な知識を得る。
《態度》科学的な考え方を身につける。
《技能》論理的な推理力をつける。

成績評価の方法と基準 (1) 平常点（参加姿勢、確認プリントの評価など）、(2) 全体についての秋学期試験の点数、これら (1) を 70 % (2) を 30 % の割合で総合して評価する。

PHL100LA	
論理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
計良 隆世	
授業コード：Q1155	2017 年度以降入学者
授業コード：P1095	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。論理学Ⅰでは、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

到達目標 正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
 2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。
- 上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みれば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（80 %）、平常点（20 %）に基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
成績評価方法として主たる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方
で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

PHL100LA	
論理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
計良 隆世	
授業コード：Q1156	2017 年度以降入学者
授業コード：P1096	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学Ⅱでは、アリストテレスに始まる伝統的論理学が修正・拡張されて成立したと見なされる現代論理学（記号論理学）の基礎を学び、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

到達目標 春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 現代論理学（記号論理学）の学習の基本となる命題論理学を学び、日常文（命題）を自分で記号化し、文の論理的構造を明確に理解する。
 2. 命題論理学における、妥当な推論を行うための基礎的な知識と技法とを自然演繹を通して習得し、基本的な推論問題（命題証明問題）を自力で解く。
 3. 自然演繹の推論規則を順々に学んでいくことで、論理の世界がどのような構造になっているのかについても理解する。
- 上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みれば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

成績評価の方法と基準 2 回の小テスト（筆記試験）の成績（80 %）と平常点（20 %）に基づき評価。
2 回の小テストにおいては、いずれも、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
小テストの採点基準は、授業中に指示した仕方
で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

HIS100LA	
東洋史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅰ	2016 年度以前入学者
齋藤 勝	
授業コード：Q1161	2017 年度以降入学者
授業コード：P1131	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ N 組・国 1 年・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

到達目標 漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中で
の位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解と
まとめ方を評価の対象にするつもりです。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

HIS100LA	
東洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
齋藤 勝	
授業コード：Q1162	2017 年度以降入学者
授業コード：P1132	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A～N 組・国 1 年・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

到達目標 現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA	
東洋史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅰ	2016 年度以前入学者
齋藤 勝	
授業コード：Q1163	2017 年度以降入学者
授業コード：P1133	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組、文 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

到達目標 漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA	
東洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
齋藤 勝	
授業コード：Q1164	2017 年度以降入学者
授業コード：P1134	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組、文 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

到達目標 現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA	
東洋史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅰ	2016 年度以前入学者
芦沢 知絵	
授業コード：Q1165	2017 年度以降入学者
授業コード：P1135	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P～X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱う。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいくかに普及したかについて扱う。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱う。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱う。

到達目標 前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験 100 %
講義で扱った内容から主に論述問題を出題する。

HIS100LA	
東洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
芦沢 知絵	
授業コード：Q1166	2017 年度以降入学者
授業コード：P1136	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P～X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱う。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱う。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱う。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱う。

到達目標 近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史を

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

もとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験 100 %
講義で扱った内容から主に論述問題を出題する。

HIS100LA	
東洋史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史 I	2016 年度以前入学者
齋藤 勝	
授業コード：Q1167	2017 年度以降入学者
授業コード：P1137	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

到達目標 漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA	
東洋史 II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史 II	2016 年度以前入学者
齋藤 勝	
授業コード：Q1168	2017 年度以降入学者
授業コード：P1138	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

到達目標 現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA	
東洋史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史 I	2016 年度以前入学者
芦沢 知絵	
授業コード：Q1169	2017 年度以降入学者
授業コード：P1139	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかに関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

到達目標 前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験 100 %
講義で扱った内容から主に論述問題を出題する。

HIS100LA	
東洋史 II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史 II	2016 年度以前入学者
芦沢 知絵	
授業コード：Q1170	2017 年度以降入学者
授業コード：P1140	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

到達目標 近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験 100 %
講義で扱った内容から主に論述問題を出題する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

の文化を、西欧世界の人々はどのようにして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

到達目標 西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA	
西洋史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 I	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1181	2017 年度以降入学者
授業コード：P1151	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシアの文化を、西欧世界の人々はどのようにして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

到達目標 西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA	
西洋史 II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 II	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1182	2017 年度以降入学者
授業コード：P1152	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「デモクラシー：古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めています。

到達目標 古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA	
西洋史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 I	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1183	2017 年度以降入学者
授業コード：P1153	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシア

HIS100LA	
西洋史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 I	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1185	2017 年度以降入学者
授業コード：P1155	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ Y 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシアの文化を、西欧世界の人々はどのようにして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

到達目標 西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1186	2017 年度以降入学者
授業コード：P1156	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ Y 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「デモクラシー：古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めています。

到達目標 古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA	
西洋史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史Ⅰ	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1187	2017 年度以降入学者
授業コード：P1157	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシアの文化を、西欧世界の人々はどうのようにして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

到達目標 西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1188	2017 年度以降入学者
授業コード：P1158	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「デモクラシー：古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政

の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めています。

到達目標 古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA	
日本史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅰ	2016 年度以前入学者
永田 一	
授業コード：Q1201	2017 年度以降入学者
授業コード：P1171	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたつたときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点（20 %）、期末試験（80 %）により評価する。

HIS100LA	
日本史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016 年度以前入学者
根崎 光男	
授業コード：Q1202	2017 年度以降入学者
授業コード：P1172	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要

史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。平常点を考慮することもあります（10％予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA	
日本史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史 I	2016 年度以前入学者
小口 雅史	
授業コード：Q1203	2017 年度以降入学者
授業コード：P1173	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A～J 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。平常点を考慮することもあります（10％予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的にとらえることができたかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA	
日本史 II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史 II	2016 年度以前入学者
小口 雅史	
授業コード：Q1204	2017 年度以降入学者
授業コード：P1174	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A～J 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。平常点を考慮することもあります（10％予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA	
日本史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史 I	2016 年度以前入学者
小口 雅史	
授業コード：Q1205	2017 年度以降入学者
授業コード：P1175	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。平常点を考慮することもあります（10％予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的にとらえることができたかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA	
日本史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016 年度以前入学者
小口 雅史	
授業コード：Q1206	2017 年度以降入学者
授業コード：P1176	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。

平常点を考慮することもあります（10％予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA	
日本史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅰ	2016 年度以前入学者
真辺 美佐	
授業コード：Q1207	2017 年度以降入学者
授業コード：P1177	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A～N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 宿題（50％）期末試験（50％）

HIS100LA	
日本史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016 年度以前入学者
真辺 美佐	
授業コード：Q1208	2017 年度以降入学者
授業コード：P1178	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A～N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 宿題（50％）期末試験（50％）

HIS100LA	
日本史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅰ	2016 年度以前入学者
小口 雅史	
授業コード：Q1209	2017 年度以降入学者
授業コード：P1179	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面

から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたつたときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。平常点を考慮することもあります（10％予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的にとらえることができたかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA	
日本史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016 年度以前入学者
小口 雅史	
授業コード：Q1210	2017 年度以降入学者
授業コード：P1180	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。

平常点を考慮することもあります（10％予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA	
日本史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅰ	2016 年度以前入学者
永田 一	
授業コード：Q1211	2017 年度以降入学者
授業コード：P1181	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたつたときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）、期末試験（80％）により評価する。

HIS100LA	
日本史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016 年度以前入学者
根崎 光男	
授業コード：Q1212	2017 年度以降入学者
授業コード：P1182	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：国環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90 % 予定）。

平常点を考慮することもあります（10 % 予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

PHL100LA	
宗教論Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論Ⅰ	2016 年度以前入学者
若林 明彦	
授業コード：Q1221	2017 年度以降入学者
授業コード：P1211	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「宗教」を「人間とは何か」という人間学的地平に置くことによって、人間の本性から生み出される一つの文化現象として宗教を理解することを学ぶ。

到達目標 人類史における宗教の発生とその形態について基本的な知識を学び、その延長線上にあるユダヤ教、キリスト教、仏教、イスラームといった主要な宗教への理解を深めていく。さらに、神道の形成史を辿ることによって、日本人の宗教観の根底にあるものを学ぶ。

成績評価の方法と基準 授業内試験 90%、平常点 10%

PHL100LA	
宗教論Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論Ⅱ	2016 年度以前入学者
若林 明彦	
授業コード：Q1222	2017 年度以降入学者
授業コード：P1212	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ①既成宗教、民間信仰を問わず、私たちが「宗教」あるいは「宗教的なもの」と見なしている様々な行為・活動、観念、制度、規範などから普遍的なものを取り上げ、その意味と構造について知る。

②人間の知性において、非合理的、非理性的と見なされがちな宗教的思考が合理的、理性的思考の典型である科学的思考とどのように関係しているかを知る。

到達目標 ①宗教現象の中から「祈り」、「神話」、「世界観・他界観」、「儀礼」、「祝祭」を取り上げその意味と構造について知る。

②近代科学がなぜ西欧においてのみ誕生したのか、そこには古代ギリシャの合理主義思想だけでなく、オリエント文明地発祥の呪術的知の体系とキリスト教の唯一神教的世界観の影響があったことを知る。

成績評価の方法と基準 試験 90%、平常点 90%

PHL100LA	
宗教論Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論Ⅰ	2016 年度以前入学者
酒井 健	
授業コード：Q1223	2017 年度以降入学者
授業コード：P1213	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 1-4 年生・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代エジプトの多神教に始まって、キリスト教、仏教、イスラーム教などの宗教の発生と形態について基本的な見方を学び、宗教の本質への理解を深めていく。

到達目標 宗教の基本を客観的に学んで、「生きるとは何か」「人間とは何か」という人文系の学問の大前提の問題へ理解を深める。

成績評価の方法と基準 「生きるとは何か」「人間とは何か」という基本的な問題をどの程度考察しているかによって成績評価をくだす。毎回のレスポンス・ペーパー（50%）と期末の論述試験（50%）が成績評価の具体的目安になる。

PHL100LA	
宗教論Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論Ⅱ	2016 年度以前入学者
酒井 健	
授業コード：Q1224	2017 年度以降入学者
授業コード：P1214	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 1-4 年生・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 神（あるいはカミガミ）と人間の関係を中心に主要な宗教現象を学び、さらに古代から近代までの歴史のなかで宗教が果たした役割について考察していく。

到達目標 宗教に対する基本的な見方（例えば「聖なるもの」と「俗なるもの」、「ハレ」と「ケ」）を学び、さらに世界の歴史に眼を向けて宗教現象を広い視点で捉えていく。

成績評価の方法と基準 宗教の基本的な見方をどれだけ習得できたかに応じて成績評価を行う。

毎回のレスポンス・ペーパー（50%）と期末の論述試験（50%）が成績評価の具体的目安になる。

PHL100LA	
宗教論Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論Ⅰ	2016 年度以前入学者
若林 明彦	
授業コード：Q1225	2017 年度以降入学者
授業コード：P1215	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 2-4 年生・キ 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「宗教」を「人間とは何か」という人間学的地平に置くことによって、人間の本性から生み出される一つの文化現象として宗教を理解することを学ぶ。

到達目標 人類史における宗教の発生とその形態について基本的な知識を学び、その延長線上にあるユダヤ教、キリスト教、仏教、イスラーム

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

といった主要な宗教への理解を深めていく。さらに、神道の形成史を辿ることによって、日本人の宗教観の根底にあるものを学ぶ。

成績評価の方法と基準 授業内試験 90%、平常点 10%

PHL100LA	
宗教論Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論Ⅱ	2016 年度以前入学者
若林 明彦	
授業コード：Q1226	2017 年度以降入学者
授業コード：P1216	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 2-4 年生・キ 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ①既成宗教、民間信仰を問わず、私たちが「宗教」あるいは「宗教的なもの」と見なしている様々な行為・活動、観念、制度、規範などから普遍的なものを取り上げ、その意味と構造について知る。

②人間の知性において、非合理的、非理性的と見なされがちな宗教的思考が合理的、理性的思考の典型である科学的思考とどのように関係しているかを知る。

到達目標 ①宗教現象の中から「祈り」、「神話」、「世界観・他界観」、「儀礼」、「祝祭」を取り上げその意味と構造について知る。

②近代科学がなぜ西欧においてのみ誕生したのか、そこには古代ギリシャの合理主義思想だけでなく、オリエント文明地発祥の呪術的知の体系とキリスト教の唯一神教的世界観の影響があったことを知る。

成績評価の方法と基準 試験 90%、平常点 10%

ART100LA	
芸術 A	2017 年度以降入学者
ART100LA	
芸術 I	2016 年度以前入学者
武田 昭彦	
授業コード：Q1231	2017 年度以降入学者
授業コード：P1231	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「イメージとかたち」がテーマだが、具体的にはキュビズムの芸術作品を通して、その構造を学ぶ。

到達目標 アブストラクト（抽象芸術）は、20 世紀初頭のキュビズム（立体主義）の運動から始まる。以後、ダダ・シュルレアリスムの運動へと展開していくこの流れを、主要な芸術家や批評家の証言や作品のスライドを通して学生諸君が理解できるようになることが目標である。

成績評価の方法と基準 平常点（30 %）と記述試験（70 %）で評価する。

ART100LA	
芸術 B	2017 年度以降入学者
ART100LA	
芸術Ⅱ	2016 年度以前入学者
武田 昭彦	
授業コード：Q1232	2017 年度以降入学者
授業コード：P1232	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「イメージとかたち」がテーマである。秋学期はシュルレアリスムを学ぶが、具体的にその詩・絵画・彫刻・オブジェをみてゆく。

到達目標 春学期のキュビズムからの流れをつかむことも必要だが、シュルレアリスムそれ自体を学び、よく使われる「シュール (sur)」という言葉の真の意味を理解できるようになることが目標である。

成績評価の方法と基準 平常点（30 %）と試験（70 %）で評価の予定。

ART100LA	
芸術 A	2017 年度以降入学者
ART100LA	
芸術 I	2016 年度以前入学者
小澤 慶介	
授業コード：Q1233	2017 年度以降入学者
授業コード：P1233	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 1-4 年生・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 歴史だけではなく、哲学思想や社会学、文化人類学など他の学問領域からも捉えることで、同時代を映し出すものとしての芸術について考える。それは、複雑で多様な現代の社会を見通す力を養うことでもある。

到達目標 近代における芸術の変容を、それを成立させている社会や時代思潮の変化とともに追う。その過程で、芸術や近代社会、またそれらの関係を考察する力を養う。

成績評価の方法と基準 授業内試験を実施

ART100LA	
芸術 B	2017 年度以降入学者
ART100LA	
芸術Ⅱ	2016 年度以前入学者
小澤 慶介	
授業コード：Q1234	2017 年度以降入学者
授業コード：P1234	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 1-4 年生・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1990 年代以降加速したグローバリゼーションと芸術の関係について考察する。政治や経済、福祉などと密接に関係する芸術と場づくりをとおして、芸術のみならず現代の社会の構えについて理解を深める。

到達目標 政治や経済と密接な関係をもつ現代美術のあり方と、時代の先行指標となり既存の価値に問いを投げかける現代美術のあり方を踏まえ、現代のグローバル化した世界とともに芸術の可能性を探る思考力と洞察力を養う。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 授業内試験を実施

ART100LA	
芸術 A	2017 年度以降入学者
ART100LA	
芸術 I	2016 年度以前入学者
福島 由美	
授業コード：Q1235	2017 年度以降入学者
授業コード：P1235	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：< 2017 年度以降入学生> 営・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、< 2016 年度以前入学生> 環 2-4 年生・キ 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「音楽は何故人の心を魅了するのか」

到達目標 本講座の目標は、音楽の素晴らしさを感じ取ること。真の音楽体験とは、作曲家にまつわる内的・外的な出来事の結晶である作品を、それぞれの人のファンタジーと想像力とにより自ら体験してみることです。音楽の記念碑への感動と尊敬の念を紹介し、さらに美学的に問いかけたいと思います。

成績評価の方法と基準 レポート課題 50 %、平常点 50 %（コンサートへの参加 [演奏、スタッフ、プログラム作成、指揮、司会等]・感想文の提出を含む）により、総合的に評価します。

ART100LA	
芸術 B	2017 年度以降入学者
ART100LA	
芸術 II	2016 年度以前入学者
福島 由美	
授業コード：Q1236	2017 年度以降入学者
授業コード：P1236	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：< 2017 年度以降入学生> 営・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、< 2016 年度以前入学生> 環 2-4 年生・キ 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「音楽は何故人の心を魅了するのか」

到達目標 「音楽は何故人の心を魅了するのか」という問いを根本モチーフとして、作曲家（作品）、演奏家（再現者）、聴衆（追体験者）それぞれの立場を考慮に入れて、「美学的音楽体験」について考察します。担当教員のフルート奏者としての実体験をふまえて、授業を進めていきます。

本講座の目標は、音楽の素晴らしさを感じ取ること。

成績評価の方法と基準 レポート課題 50 %、平常点 50 %（コンサートへの参加 [演奏、スタッフ、プログラム作成、指揮、司会等]・感想文の提出を含む）により、総合的に評価します。

LIT200LA	
日本文学と文化 L A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：絵画化された『源氏物語』	
阿部 真弓	
授業コード：Q1301	2017 年度以降入学者
授業コード：P1031	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 絵巻の鑑賞方法等について解説した後、院政期に作られたとされる国宝『源氏物語絵巻』について講義します。種々の源氏絵、また現代のマンガ等とも比較しながら、『源氏物語』

がどのように解釈され、絵画化されてきたかを考察します。『源氏物語絵巻』を学ぶことを通し、日本の古典文学や美術に関する理解を深めます。

到達目標 ①絵巻に関する基礎的な知識を習得する。

②『国宝 源氏物語絵巻』の特質を理解する。

③平安時代の人々が『源氏物語』をどのように解釈し、イメージしたかについて理解する。

④現代に至るまで、『源氏物語』がどのように絵画化されてきたか、源氏絵の様相を理解する。

成績評価の方法と基準 学期末に行う試験（70 %）、平常点（30 %）によって評価します。試験は【到達目標】①～④に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収する出席調査票によって、授業の理解度を確認します。

LIT200LA	
日本文学と文化 L B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：説話のメディア展開	
阿部 真弓	
授業コード：Q1302	2017 年度以降入学者
授業コード：P1032	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 安珍・清姫伝説として知られる、道成寺にまつわる説話について講義します。絵巻や能・歌舞伎の題材として有名なこの説話が、これまで人々にどのように享受されてきたのかについて学び、日本の古典文学や古典芸能に関する理解を深めます。

到達目標 ①説話文学の特質について理解する。

②絵巻に関する基礎的な知識を習得する。

③能、歌舞伎など古典芸能に関する基礎的な知識を習得する。

成績評価の方法と基準 学期末に行う試験（70 %）、平常点（30 %）によって評価します。試験は【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収する出席調査票によって、授業の理解度を確認します。

LIT200LA	
日本文学と文化 L C	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本仏教と能楽	
今泉 隆裕	
授業コード：Q1303	2017 年度以降入学者
授業コード：P1033	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では能（謡曲）とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。

俳句や短歌が固定した形式をもつゆえに、かえって人々の想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式をもっている。この形式（話の枠）に、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されていることはいうまでもない。どのような状況下で、どのようなことがこの芸能に要請されたのか。どのような歴史社会の影響を受けたためにそれらの形式が確立され、その形式からどのような想像力が新たに促がされたのか。

本講義では、とくに能と宗教文化（おもに日本仏教）との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。

とはいえ、能に関する知識はそれほど一般的ではない。はじめの数回、能楽に関する入門の内容をふまえることになる。また時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える機会も持たたい。

そのうち勸進興行と能という視点から、一般的に「夢幻能」といわれる

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

もの、なかでも幽霊を主人公（シテ）とする曲を主に扱う。また、離ればなれになった親子の再開を描く、いわゆる「親子物狂能」を取り上げ、その周辺の事柄を紹介する。

※夢幻能に関する講義が「日本文学と文化LC」（旧「文学I」）、おもに親子物狂能に関する講義が「日本文学と文化LD」（旧「文学II」）となる予定である。ただし、講義内容はその都度変更する場合がある。

到達目標 能楽に関する基本的な知識を身につけることを目指す。と同時に、文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか、また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか、その一端を垣間見る。

成績評価の方法と基準 出席状況と、学期末の授業内レポートを持って評価する。目安としてはレポート 80 %、平常 20 %とする。ただし、出席状況だけでは判断しない。したがって、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。出席はあくまでレポートの評価を補うものとしします。
講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

LIT200LA		
日本文学と文化LD		2017 年度以降入学者
LIT100LA		
文学II		2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本仏教と能楽		
今泉 隆裕		
授業コード：Q1304		2017 年度以降入学者
授業コード：P1034		2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期		

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では能（謡曲）とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。
俳句や短歌が固定した形式をもつゆえに、かえって人々の想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式をもっている。この形式（話の枠）に、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されていることはいうまでもない。どのような状況下で、どのようなことがこの芸能に要請されたのか。どのような歴史社会の影響を受けたためにそれらの形式が確立され、その形式からどのような想像力が新たに促がされたのか。

本講義では、とくに能と宗教文化（おもに日本仏教）との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。
とはいえ、能に関する知識はそれほど一般的ではない。はじめの数回、能楽に関する入門的内容をふまえることになる。また時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える機会も持ちたい。

そののち勧進興行と能という視点から、一般的に「夢幻能」といわれるもの、なかでも幽霊を主人公（シテ）とする曲を主に扱う。また、離ればなれになった親子の再開を描く、いわゆる「親子物狂能」を取り上げ、その周辺の事柄を紹介する。

※夢幻能に関する講義が「日本文学と文化LC」（旧「文学I」）、おもに親子物狂能に関する講義が「日本文学と文化LD」（旧「文学II」）となる予定である。ただし、講義内容はその都度変更する場合がある。

到達目標 能楽に関する基本的な知識を身につけることを目指す。と同時に、文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか、また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか、その一端を垣間見る。

成績評価の方法と基準 出席状況と、学期末の授業内レポートを持って評価する。目安としてはレポート 80 %、平常 20 %とする。ただし、出席状況だけでは判断しない。したがって、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。出席はあくまでレポートの評価を補うものとしします。
講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

LIT200LA		
日本文学と文化LE		2017 年度以降入学者
LIT100LA		
文学I		2016 年度以前入学者
サブタイトル：		
伊海 孝充		
授業コード：Q1305		2017 年度以降入学者
授業コード：P1035		2016 年度以前入学者
開講時期：春学期		

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の幽霊に纏わる伝承・物語について学ぶ。「幽霊の物語」と一口で言っても、その話が生まれた時代や伝播した環境によって、その姿には大きな隔たりがある。この授業では、物語が生まれた土壌について学ぶのと同時に、幽霊が何を表現しているのかを考えていく。

到達目標 授業内容は、専門的な文学研究の領域にも及ぶが、専門外の学生にもわかるように説明していく。本講義では、日本の物語がどのような土壌で生まれ、どのような媒介を通して現代まで伝わってきたのかを知ることを目標としている。単に「昔話」の一言では括れない、豊潤な世界を体感してほしい。

成績評価の方法と基準 コメントカードの評価 70 %
学期末レポート 30 %

LIT200LA		
日本文学と文化LF		2017 年度以降入学者
LIT100LA		
文学II		2016 年度以前入学者
サブタイトル：		
伊海 孝充		
授業コード：Q1306		2017 年度以降入学者
授業コード：P1036		2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期		

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の天狗に纏わる伝承・物語について学ぶ。天狗は人間に危害を加える〈悪〉として描かれる物語がある一方で、人間に幸いをもたらす〈善〉なる存在としても描かれることがある。それはなぜか。本講義では、その天狗の両義性を学ぶと同時に、人間は天狗に何を投影したのかを考えていく。

到達目標 授業内容は、専門的な文学研究の領域にも及ぶが、専門外の学生にもわかるように説明していく。本講義では、日本の鬼がどのような形成され、どのような媒介を通して現代まで伝わってきたのかを知ることを目標としている。昔話の本質を知り、それを後代へ伝えてほしい。

成績評価の方法と基準 コメントカードの評価 70 %
学期末レポート 30 %

LIT200LA		
日本文学と文化LG		2017 年度以降入学者
LIT100LA		
文学I		2016 年度以前入学者
サブタイトル：現代日本文学と映像表現		
榎本 正樹		
授業コード：Q1307		2017 年度以降入学者
授業コード：P1037		2016 年度以前入学者
開講時期：春学期		

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「現代日本文学」を原作として映画化された作品（場合によってはその一部）を観賞した上で、原作の小説を

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

講読します。2017 年に劇場公開された以下の 10 作品のうち、6 作品をとりあげる予定です（作品の配列は劇場公開日順）。
同一の物語内容を含んだ文学表現と映像表現を比較対照し検討することで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現や技法について考え、「文学固有の表現とは何なのか？」という視点で小説を読む力の獲得を目指します。
伊藤計劃『虐殺器官』（村瀬修功監督）
初野晴「ハルチカ」シリーズ（市井昌秀監督）
森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』（湯浅政明監督）
最果タヒ『夜空はいつでも最高密度の青色だ』（石井裕也監督）
和田竜『忍びの国』（中村義洋監督）
住野よる『君の隣臓をたべたい』（月川翔監督）
東野圭吾『ナミヤ雑貨店の奇蹟』（廣木隆一監督）
島本理生『ナラタージュ』（行定勲監督）
米澤穂信『氷菓』（安里麻里監督）
又吉直樹『火花』（板尾創路監督）
＊劇場公開順。本リストの中からセレクトします。

到達目標 現代日本文学の幅広いジャンルの小説を深く読むことを通して、作品の中に描かれたテーマやモチーフを抽出し、整理し、分析することができるようになります。多種多様な作家の言葉の世界と向き合うことで日本語の奥深さを知るとともに、作中で展開される作家の思考のプロセスを解説し、論述することができますようになります。
さらに、個人の生き方や家族関係や社会システム、性、生、死、ジェンダー、歴史などの問題について考える力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現や異なるメディア間の相互接続性について理解します。

成績評価の方法と基準 レポートで評価します（100％）。
試験や小テストはありません。
レポートは最終授業時に提出となります。レポート内容は、「授業でとりあげた作品の中から一作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。
分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

LIT200LA	
日本文学と文化 LH	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：新海誠の文学世界	
榎本 正樹	
授業コード：Q1308	2017 年度以降入学者
授業コード：P1038	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 新海誠監督のアニメーション映画『君の名は。』は、アニメーション界や映画界を超えた 2016 年最大のヒット作品として多くの観客の共感を得ました。国内観客動員数 1,900 万人を突破、興行収入 250 億円を超える大ヒットとなり、邦画興行収入歴代 2 位を記録、アジア圏では 7 冠達成を記録し、日本のみならず世界各国の記録を塗り替えることになりました。昨年から、デビュー 15 周年を記念した「新海誠展『ほしのこえ』から『君の名は。』まで」が、日本各地を巡回中です。アニメーションの枠を超えた表現者として新海誠という存在をとらえる必要があります。
新海誠というクリエイターの名前を、『君の名は。』で初めて知った人があるかもしれませんが、新海監督のキャリアは 2000 年代初頭に遡ることができます。新海作品の根底にあるのは「言葉」に重きを置いた世界造形、言い換えれば「文学」への強い視線です。人と人の間の繊細なコミュニケーションを丁寧に描くその筆致は、「アニメーションという表現手段を用いた文学」と形容可能なものです。
新海誠は「アニメーション監督」であるとともに「小説家」でもあります。新海は自身の手で代表作をノベライゼーション（小説化）していますが、それらは単に映像作品のストーリーを言葉に置き換えたものではなく、小説作品として自立しています。同一の作者によるアニメ版と小説版を比較検討することで、映像表現と小説表現の違いを検証することが可能です。
本講義では、新海誠の初期作品から最新作まで入手可能な映像作品を参観しつつ、「新海誠の文学世界」を紐解いていきます。同時代の先端的な

表現者である新海誠の主要作品を「網羅的に」観賞し、かつ「分析的」に解説する経験を通して、作品批評のための技術を獲得します。

到達目標 アニメーション作品を分析的に解説し、表現や仕掛けや物語構造などについて、自分の言葉で論述できるレベルを目指します。関連資料を参照し、さまざまな他者のコメントに目を通し、作品のモデルとなった場所に実際に赴くことで、各作品の背景にある文化的、歴史的、地理的背景について深く学び、対象を客観的に論じる力を得ます。

成績評価の方法と基準 レポートで評価します（100％）。
試験や小テストはありません。
レポートは最終授業時に提出です。レポート内容は、「授業でとりあげた作品の中から一作品または複数の作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。
分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

LIT200LA	
外国文学と文化 L A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：西洋の芸術家小説（絵画篇）	
篠原 学	
授業コード：Q1309	2017 年度以降入学者
授業コード：P1039	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、芸術家の人生を描いた西洋の文学作品、とくに小説を扱います。西洋文学の一ジャンルとしての小説のなかで、芸術家の生き様はさまざまな表象を与えられてきました。その多様性は、それ自体芸術であろうとする小説が、みずからの美的な存在意義を模索し、確立するうえで必要とした多様な思索のあとを反映している、と言えるでしょう。
春学期では、とくに画家の人生を主題的に描いた小説のなかから、バルザックの『知られざる傑作』とゾラの『制作』、そしてモームの『月と六ペンス』を翻訳で読み、その芸術論を吟味すると同時に、小説としての構造やテーマを分析します。また、それぞれの作品の背後に、どのような芸術哲学の流れが存在しているのかも踏まえて、思弁的な議論の糸口を見出していきます。余裕があれば、（比較によって理解を深めるために）日本の芸術家小説にも触れる予定です。

到達目標 小説のなかで展開される芸術論に触れつつ、その問題意識を引き受け、みずからのことばで芸術について論じる力を涵養します。とくに、春学期に開講されるこの科目では、論述における立論のしかたを学びます。この授業を履修することによって、ある程度抽象度の高いテーマをもった論述をおこなう、基礎的な力をつけることができます。また、さまざまな批評的アプローチを知ること、メディアに対する感性を磨くことにもなるでしょう。

成績評価の方法と基準 毎回提出していただくアクションペーパーで、主体的に取り組んでいるかどうかを判断します。（40％）
また、学期末にレポートを書いていただきます。（60％）授業のなかで説明した論述の書き方を踏まえているかどうか、授業との関連性が明確であるかどうかをもとに、判断します。
授業への参加状況（発言・質問など）も、成績評価にあたっては加味されます。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LIT200LA	
外国文学と文化 L B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：西洋の芸術家小説（文学篇）	
篠原 学	
授業コード：Q1310	2017 年度以降入学者
授業コード：P1040	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、芸術家の人生を描いた西洋の文学作品、とくに小説を扱います。西洋文学の一ジャンルとしての小説のなかで、芸術家の生き様はさまざまな表象を与えられてきました。その多様性は、それ自体芸術であろうとする小説が、みずからの美的な存在意義を模索し、確立するうえで必要とした多様な思索のあとを反映している、と言えるでしょう。
秋学期では、とくに小説家の人生を主題的に描いた小説のなかから、ジッダの『贖金づくり』をとりあげ、それとの関連づけにおいて、堀辰雄の『風立ちぬ』、およびカルヴィーノの『冬の夜ひとり旅の旅人』を読みます。これらの作品に共通する「ためらいながら書く」というモチーフが、文学をめぐるどのような言説の蓄積を背景にもつのか、それを探りつつ、具体的な作品分析をおこないます。作品のなかで展開される小説論が、その作品自体の生成にかかわっていく創作のダイナミズムにも着目していきます。

到達目標 小説を読むことの楽しみを損なうことなく、それについて批評的に語れるようになることを目指します。批評の言語を洗練させることによって、「よかった」「感動した」以外のことばで文学を語ることができるようになります。また、抽象度の高いテーマで、思弁的な論述を展開する力がつきます。授業のなかで得られる知識は、広告などを含む言語的なメディアに対するリテラシーを育むうえでも、役に立ちます。

成績評価の方法と基準 毎回提出していただくリアクションペーパーで、主体的に取り組んでいるかどうかを判断します。（40％）
また、学期末にレポートを書いていただきます。（60％）授業のなかで説明した論述の書き方を踏まえているかどうか、授業との関連性が明確であるかどうかをもとに、判断します。
授業への参加状況（発言・質問など）も、成績評価にあたっては加味されます。

LIT200LA	
外国文学と文化 L C	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：漢詩を作る	
日原 傳	
授業コード：Q1311	2017 年度以降入学者
授業コード：P1041	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初心者には漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩（七言絶句）の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して春夏秋冬の風物を詠じた漢詩（歳時詩）を季節に沿って鑑賞してゆきます。この春学期の授業では主に春から夏にかけての風物を詠じた漢詩を鑑賞します。

到達目標 ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
・近体詩の規則を理解し、それに従って漢詩の実作をする。
・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

成績評価の方法と基準 平常点（授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作）70％ 最終レポート 30％

LIT200LA	
外国文学と文化 L D	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：漢詩を作る	
日原 傳	
授業コード：Q1312	2017 年度以降入学者
授業コード：P1042	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初心者には漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩（七言絶句）の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して春夏秋冬の風物を詠じた漢詩（歳時詩）を季節に沿って鑑賞してゆきます。この秋学期の授業では主に秋から冬にかけての風物を詠じた漢詩を鑑賞します。

到達目標 ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
・近体詩の規則を理解し、それに従って漢詩の実作をする。
・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

成績評価の方法と基準 平常点（授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作）70％ 最終レポート 30％

LIT200LA	
外国文学と文化 L E	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
大崎 さやの	
授業コード：Q1313	2017 年度以降入学者
授業コード：P1043	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） イタリア・オペラに親しむ（1）

到達目標 イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）50％、期末試験 50％

LIT200LA	
外国文学と文化 L F	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
大崎 さやの	
授業コード：Q1314	2017 年度以降入学者
授業コード：P1044	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） イタリア・オペラに親しむ（2）

到達目標 イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）50％、期末試験 50％

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LIT200LA	
文学と社会 L A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本文学と民俗	
梶 裕史	
授業コード：Q1315	2017 年度以降入学者
授業コード：P1045	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「民俗」（民間伝承）とは、ある地域社会、特定のコミュニティのごくふつうの人々の暮らしの中で集団的に形づくられ、時代を超えて伝えられてきた暮らしぶりや心の持ち方を指します。「地域（ローカル）」の範囲は、小さくは一つの集落、大きくは世界（グローバル）の中の日本という「地域」といったように、さまざま設定できます。この授業では世界の中の日本、という視野のもと、こうした「民間伝承」を研究対象とする「民俗学」を採り入れた日本文学研究の世界を、『万葉集』『古事記』『日本書紀』『風土記』『古今和歌集』『源氏物語』等、主として上代・中古の文学の中から事例を選んで紹介します。民俗学的な日本文学研究とは、個々の作者・作品の個性や創意、時代性を超えて、現代の私たちの心の底にまで伝わっていると考えられるような集団の心性を、残された言語表現を通じて探ろうとするものである、といえるでしょう。このような性格のため、「個」（一作者や作品）の芸術性の追究といったことを期待する人には、不向きと思われるます。

到達目標 ・一般的な文学研究に比べて、民俗学的に文学を見る方法の特色・意義を知り、視野を広げられること。
・科目名が示すように、人文科学と社会科学の融合領域を扱う分野に触れ、学際的なアプローチの一例を学べること。

成績評価の方法と基準 期末試験 85 %。授業態度（基本的なマナー）15 %。

LIT200LA	
文学と社会 L B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本文学と民俗	
梶 裕史	
授業コード：Q1316	2017 年度以降入学者
授業コード：P1046	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 梶「文学と社会 LA」と同じです。ただし具体的な内容は「授業計画」に記す通り、異なります。A よりも「民俗」（＝民間伝承）の部分に重点を置いた内容になります。「文学」発生の母胎としての性格を未だによく保持しており、日本文学の「古代性」を考える上で重要なヒントになるとされる沖縄離島の祭事・信仰をクローズアップして紹介する回が多くなり、時間があればそれを材料に、伝統文化を活かしたエコな地域形成に祭事や言語伝承が果たす役割なども考察したいと思っています。

到達目標 ・一般的な文学研究に比べて、民俗学的に文学を見る方法の特色・意義を知り、視野を広げられること。
・科目名が示すように、人文科学と社会科学の融合領域を扱う分野に触れ、学際的なアプローチの一例を学べること。

成績評価の方法と基準 期末試験 85 %。授業態度（基本的なマナー）15 %

LIT200LA	
文学と社会 L C	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：江戸の文学と出版	
白戸 満喜子	
授業コード：Q1319	2017 年度以降入学者
授業コード：P1241	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では江戸時代の文学作品『御存商売物』を通読します。作品を通して江戸の出版文化の多様性に触れていきます。江戸という地域・時代に暮らした人々が手にしていた、読んでいた、眼にしていた、時には聴いていたさまざまなメディアを、実際に読んだり聴いたりすることで江戸を体感します。

到達目標 江戸時代の特徴的な文化や慣習・感覚をテキスト『御存商売物』を通じて理解することが目標。
くずし字（変体仮名）で書かれた簡単な出版・印刷物を判読できるようになることがもう一つの目標です。

成績評価の方法と基準 レポート 40 % 筆記試験（最後の授業時に一回）40 % 平常点（授業への参加・発言）20 % として評価します。詳細は開講時にお知らせします。

LIT200LA	
文学と社会 L D	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：江戸の見立絵本を読む	
白戸 満喜子	
授業コード：Q1320	2017 年度以降入学者
授業コード：P1242	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） くずし字で書かれた【見立絵本】『滑稽絵姿合』のオリジナル（原典）を受講生全員で分担し、読解・解釈をします。見立とは、江戸時代の演劇・俳諧・絵画などに共通する趣向で、一見関連性のない二つのものを組み合わせ、そのギャップを楽しむ手法です。江戸の文学作品における連想力を読み説き、歴史的背景を探ることが目的です。

到達目標 くずし字で書かれた文章（ひらかなの部分）を判読し、どのような見立が扱われているか解釈することが各受講生の目標です。各自の担当部分について、漢字以外を翻字すること、①何が共通点か②何が対比になっているかについて考察し、総合的にテキスト全体を理解することが目標になります。

成績評価の方法と基準 発表時の内容 30 % レポート 40 % 平常点（授業への参加・発言）30 % として評価します

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LIT200LA	
文学と社会 L E	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本近代現代文学—小説を読む技術	
中澤 忠之	
授業コード：Q1321	2017 年度以降入学者
授業コード：P1243	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 小説を読むとき、私たちはどんなところを重視するでしょう。たとえば、泣けるかどうかとか、感情移入できるかどうか、とかいったところでしょうか。実際、これまで中学校や高校の現国の授業では、主人公の心情を素直に読み取るトレーニングを受けてきたはずですが、しかし、小説の書き方・読み方は一様ではありません。この講義は、小説の書き方・読み方には多様性があることを知り（夏目漱石とライトノベルを優劣関係ではなく多様性の一つとして捉えること）、それを身に付ける土台作りとなるでしょう。そのためにはまず、小説の成り立ちをおさらいすることからはじめます。そして文学史にしたがって、小説の書き方・読み方が変化し、新たな書き方・読み方の発見が文学史を豊かに形成してきたことを確認します。戦前の文学史がメインですが、最近の文学史にも積極的にふれます。マンガや映画、美術など、文学に隣接するジャンルにもしばしば言及したい。

到達目標 創作物を単に主観的に受容するのではなく、対象化して評価する技術と教養を身に付け、作品受容の許容範囲が広がることを目指します。文学に関心がある学生はもちろん、ポップカルチャーやサブカルチャーのジャンルに関心がある学生も歓迎します。

成績評価の方法と基準 最後に行う期末試験が評価の主要な対象となります。授業への参加度（平常点）も評価したい。評価の割合は期末試験が 70 %、平常点を 30 % とします。

LIT200LA	
文学と社会 L F	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：文学表現の政治性・社会性	
中澤 忠之	
授業コード：Q1322	2017 年度以降入学者
授業コード：P1244	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 普段何気なく読んでいる小説が、きわめて政治的で社会的なものであるということを考えたことがあるでしょうか。文学作品は、人畜無害な単なるフィクションではありません。ときに世の中の差別や偏見を生み出し助長するものであり、特定の個人や集団を傷つけるものでもあります。あるいはまた、社会秩序を乱すとして批判される過激な暴力や性表現も無視できないでしょう。もちろんその一方で、社会の差別や偏見と戦ってきた歴史も、文学にはあります。文学作品における、こういった政治的かつ社会的な側面を、本講義では取り上げます。素材は性表現と差別表現がメインです。メディア環境が激変している昨今の事情に対応させて、取り上げる表現は文学のみならず、映画やマンガなど多岐にわたる予定です。現在進行形の話題も積極的に扱います。

到達目標 これまでなんとなくイメージしてきた表現の自由や表現の暴力性といった概念を、法規制や表現史を通して具体的に捉えられる教養の獲得を到達目標とします。文学に関心がある学生のみならず、法律等社会の制度設計に関心のある学生も歓迎します。

成績評価の方法と基準 最後に行う期末試験が評価の主要な対象となります。授業への参加度（平常点）も評価したい。評価の割合は期末試験が 70 %、平常点を 30 % とします。

LNG200LA	
音声学 L	2017 年度以降入学者
LNG100LA	
言語学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：一般音声学入門	
江村 裕文	
授業コード：Q1362	2017 年度以降入学者
授業コード：P1202	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営国 1～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「言語」は、音声の形式という表現面と意味の形式という内容面が結びついた言語記号が単位であるようなシステムであり、このシステムの解明を対象とする学問分野のことを「言語学」と称します。

この「言語」の表現面の「音声」を扱う分野を「音韻論」と称します。「音韻論」は言語の音声の形式面を対象とします。これのに対して、言語の音声の実質面を扱うのが「音声学」です。つまり「音声学」は、この言語の表現面である音声の実質を対象とする経験科学です。

この授業では、言語音（「単音」）の記述方法および記述された記号の実現化（再現つまり実際に発音できるようになること）を授業内容とします。

到達目標 この授業では、「音声学」の記述方法である IPA の方法論的な考え方を身につけ、IPA を音声化したり、実際の音声を IPA によって記述するための基礎的な技能を訓練することを目的とします。

補足として、音声の形式面である「音韻論」（「音素論」）にも触れます。

成績評価の方法と基準 平常点 40 点、（理論）試験の得点 30 点、（実施）試験の得点 30 点、合計 100 点で評価します。ただし、必要に応じてレポートを課すことがあります。その場合はそのレポートも評価に反映します。

PHL200LA	
哲学 L I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
大西 正人	
授業コード：Q1381	2017 年度以降入学者
授業コード：P1071	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決すること目的とします。特にこの I の講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何か切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

成績評価の方法と基準 期末に参照可のテストをおこなう予定。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PHL200LA	
哲学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
大西 正人	
授業コード：Q1382	2017 年度以降入学者
授業コード：P1072	2016 年度以前入学者
開講時期： 秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間的欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子を見ます。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

成績評価の方法と基準 期末に参照可のテストをおこなう予定。

PHL200LA	
哲学ⅠⅠ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル： 哲学の源流を辿って	
白根 裕里枝	
授業コード：Q1383	2017 年度以降入学者
授業コード：P1073	2016 年度以前入学者
開講時期： 春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学というとな難しいという印象があるかもしれないが、何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指している。善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、幸せのために、哲学を学ぶことが必要とされている。

到達目標 学生は、まずは哲学のオーソドックスな基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上での、基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。哲学はあらゆる学問の基礎である。何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大なる信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

成績評価の方法と基準 平常点（40％）と学期末試験（60％）によって評価する。出席は3分の2以上。試験は、手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式である。

PHL200LA	
哲学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル： 哲学から考える宗教と人間の幸福	
白根 裕里枝	
授業コード：Q1384	2017 年度以降入学者
授業コード：P1074	2016 年度以前入学者
開講時期： 秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学Ⅱでは、「Ⅲ. 哲学と宗教」、「Ⅳ. 哲学と幸福」について考察する。宗教というと嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。

宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴らしい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることでもできるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探求する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと思っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

到達目標 西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教というものについて、付かず離れずに見る視点を確保することができるだろう。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つめようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」とこと「知る」とことの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か？ どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか？古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知ることがいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが、理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

成績評価の方法と基準 平常点（40％）と学期末試験（60％）によって評価する。出席は3分の2以上。試験は手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式。

PHL200LA	
倫理学ⅠⅠ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル： 正義とケアのグローバル倫理——障害者・動物という境界を越えて	
森村 修	
授業コード：Q1391	2017 年度以降入学者
授業コード：P1119	2016 年度以前入学者
開講時期： 春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本科目「倫理学ⅠⅠ」は、「倫理学Ⅰ」で学んだことを、さらに高度に専門的に学ぶために設けられている。ちなみに「倫理学ⅠⅠ」では、「倫理学ⅠⅡ」へと継続するテーマとして、「ケアと正義のグローバル倫理」の観点に基づき、「ケアとは何か」という問いから、「誰が誰をケアするのか」、さらに「グローバル・エシックスにおけるケア倫理学とは何か」という問いへとシフトしながら、様々な「ケアの倫理」の考察を概観する。

まずは、「ケアの倫理」の重要概念として、倫理学における「ケア」概念を検討する。その際に、自己と他者、自己へのケア・他者へのケアという観点から、「ケアの倫理」の基礎を学んでいく。その流れのなかで、「倫理学ⅠⅡ」における「グローバル正義とケアの倫理」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比、さらには「法と感情」の問題や「グローバ

ル正義とケアの倫理」への進展を検討することにした。

結果的に、新しい「ケアのグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的な目標である。

《授業の目的》

「ケアと正義のグローバル倫理」を通して、現代社会の倫理性の問題を哲学的・倫理的に分析する力を得ることができる。

- 到達目標** (1)「倫理学」という学問について、近隣諸学(哲学、法学、宗教学、政治学など)との違いを説明することができる。
(2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理」との異同について比較することができる。
(3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べるができる。
(4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

成績評価の方法と基準 基本的に、期末試験で評価する(80%)が、小テスト(20%)を課すことも考えている。

PHL200LA	
倫理学 L II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル: 法と感情の倫理——ケアのグローバル倫理	
森村 修	
授業コード: Q1392	2017 年度以降入学者
授業コード: P1120	2016 年度以前入学者
開講時期: 秋学期	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 《授業の概要》

本科目「倫理学 L II」は、「倫理学 II」で学んだことを、さらに高度に専門的に学ぶために設けられている。ちなみに「倫理学 L II」では、「倫理学 L I」と継続し、関連するテーマとして「ケアと正義のグローバル倫理」の観点に基づき、「正義とは何か」という問いから、「誰の何のための正義なのか」、さらに「法はいかなる正義観に基づくか」という問いを考えていく。その際に、ケアにとって重要な「感情/情動の倫理」と法との関係の問題へとシフトしながら、様々な「ケアと正義の倫理」の考察を行なう。

《授業の目的》

「ケアのグローバル倫理」を通して、現代社会の倫理性の問題を哲学的・倫理的に分析する力を得ることができる。

- 到達目標** (1)「倫理学」という学問について、近隣諸学(哲学、法学、宗教学、政治学など)との違いを説明することができる。
(2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理」との異同について比較することができる。
(3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べるができる。
(4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。
(5) 感情/情動と法との結びつきについて、「ケアの倫理」の観点から考察することができる。

成績評価の方法と基準 基本的には、期末試験で評価する(80%)が、小テスト(80%)を課すことも考えている。

PHL200LA	
倫理学 L I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル: 生命誕生に関する倫理学	
佐藤 英明	
授業コード: Q1393	2017 年度以降入学者
授業コード: P1121	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) この講義では、おもに人の生命誕生に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学びます。

到達目標 いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自ら思索を深めることを目指します。

成績評価の方法と基準 原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施します(ノート・テキストなどの参照不可)。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこないます(試験 60%・小テスト 40%)。

PHL200LA	
倫理学 L II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル: 人の死の倫理学	
佐藤 英明	
授業コード: Q1394	2017 年度以降入学者
授業コード: P1122	2016 年度以前入学者
開講時期: 秋学期	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) この講義では、おもに人の死に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学びます。

到達目標 いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自らの思索を深めることを目指します。

成績評価の方法と基準 原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施します(ノート・テキストなどの参照不可)。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこないます(試験 60%・小テスト 40%)。

PHL200LA	
倫理学 L I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル: 「他者」の倫理学	
杉本 隆久	
授業コード: Q1395	2017 年度以降入学者
授業コード: P1123	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 倫理学とは人間の行動の規範についての、あるいは人間の行動を評価する基準についての探求であるといえるが、そもそも倫理学においては他者を問題にすることなくして、人間の行動やその規範について考えることなどできない。本講義では、他者とは何かに注目することで、従来の倫理学を批判的に捉え直し、差異、暴

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

力、責任、正義などの倫理学的な問題についての理解を深める。
特に、メルロ＝ポンティ、レヴィナス、デリダの倫理学的な議論について学ぶことで倫理学の応用的な知識を習得し、倫理学的な問題について自らの力で考えることができるようになることを目的とする。

到達目標 ・倫理学における発展的・応用的な知識を習得する。
・倫理学的問題に対する思考力・判断力を養う。

成績評価の方法と基準 平常点 20%、小論文 20%、期末試験 60%。
授業へ積極的・意欲的に参加しているかどうか、小論文では講義で扱った問題に関する議論を十分に理解した上で自分の考えを明確に表現できているかどうか、試験では習得した知識について的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

PHL200LA	
倫理学ⅡⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：「他者」の倫理学	
杉本 隆久	
授業コード：Q1396	2017 年度以降入学者
授業コード：P1124	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学とは人間の行動の規範についての、あるいは人間の行動を評価する基準についての探求であるといえるが、そもそも倫理学においては他者を問題にすることなくして、人間の行動やその規範について考えることなどできない。本講義では、他者とは何かに注目することで、従来の倫理学を批判的に捉え直し、差異、暴力、責任、正義などの倫理学的な問題についての理解を深める。
特に、メルロ＝ポンティ、レヴィナス、デリダの倫理学的な議論について学ぶことで倫理学の応用的な知識を習得し、倫理学的な問題について自らの力で考えることができるようになることを目的とする。

到達目標 ・倫理学における発展的・応用的な知識を習得する。
・倫理学的問題に対する思考力・判断力を養う。

成績評価の方法と基準 平常点 20%、小論文 20%、期末試験 60%。
授業へ積極的・意欲的に参加しているかどうか、小論文では講義で扱った問題に関する議論を十分に理解した上で自分の考えを明確に表現できているかどうか、試験では習得した知識についての的確に説明できているかどうかで評価の基準となる。

PHL200LA	
倫理学ⅡⅠ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
伊藤 直樹	
授業コード：Q1397	2017 年度以降入学者
授業コード：P1115	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

到達目標 講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらう。

成績評価の方法と基準 学期末にレポートを提出してもらう。
成績評価の基準は次のようにする。
平常点 35%；レポート 65%

PHL200LA	
倫理学ⅡⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
伊藤 直樹	
授業コード：Q1398	2017 年度以降入学者
授業コード：P1116	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者、なかでも「あなた」とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

到達目標 講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらう。

成績評価の方法と基準 学期末にレポートを提出してもらう。
成績評価の基準は次のようにする。
平常点 35%；レポート 65%

PHL200LA	
倫理学ⅡⅠ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
田島 樹里奈	
授業コード：Q1399	2017 年度以降入学者
授業コード：P1117	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）(life)とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。そして、生／死を通して、私たち人間とはどのような存在であるかをじっくり倫理的な視点から考え直していきたい。

かつて人間の生命は、「神のみが知る」ものであった。ただ、現代においては、自然界に生まれた生命に人間の科学技術が介入することは当たり前になってきた。もちろん、科学技術による人工的な生命操作は、明らかに反自然的な行為である。しかし今や私たちの日常生活において、医療技術は欠かすことができない。医療技術の進歩によって、多くの命が救われてもいる。

毎日のニュースでは、様々な事件や事故が報道され、被害者や犠牲者が尊い命を失っている。私たちの命は、いつどこでどのように失われるか、私たちには予測できない。そして、いくら周到に予防していても、予期せぬ時に、私たちの命が突如失われる可能性はさけられない。だからこそ、本授業を通じて、身近な家族や恋人、親しい友人や、大切な人たちの命がいかに尊いものであるか、今一度考え直すきっかけにしたい。

なお本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

到達目標 ① 生命、死、存在、医療、看護、QOL などの言葉を、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。② 医療現場、患者および患者家族側、生命倫理学の多様な価値観を学ぶことで、様々な立場の考え方を多角的に把握する力を身につける。③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。

成績評価の方法と基準 毎授業ごとのリアクションペーパー（20%）、期末試験またはレポート（80%）

PHL200LA	
倫理学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
田島 樹里奈	
授業コード：Q1400	2017 年度以降入学者
授業コード：P1118	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）（life）とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。とりわけ本授業の後半では、宗教の視点から生命倫理を考察することにより、様々な宗教的思想を背景にした死生観と生命倫理観を学んでいく。そもそも宗教は生死と密接に関わり、それぞれの仕方で「あの世／この世」「現世／来世」を語ってきた。本授業ではこれら全てを網羅することはできないが、私たちが今・ここで生きることの意義や、死や死後を考察するための手掛かりとして、それぞれの宗教的思想の意義を検討していきたい。

倫理学という学問領域は、私たちの日常生活や生きること・死ぬことに直接関わる部分を含んでいる。それゆえ、本授業を通じて、受講生各自が関心を持ったテーマに対して、積極的にアプローチをすることで、それぞれの興味・関心を深めていながら、死生観や生命観を構築し、さらに倫理的な問題意識を持って学問的に掘り下げてもらいたい。

以上の観点を持って、受講生各自が本授業を通して、私たち人間とはどのような存在であるか、生きるとは、死ぬとはどういうことなのかをじっくり倫理的な視点から考え直していくきっかけを提供していきたい。それゆえ本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

到達目標 ① 生命、死、人格、医学、宗教などの言葉を、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。② 多様な生命の在り方や、宗教的思想を背景とした多様な価値観を学ぶことで、様々な立場から生命倫理を考える力を身につける。③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。

成績評価の方法と基準 毎授業ごとのリアクションペーパー（20％）、期末試験またはレポート（80％）

PHL200LA	
論理学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：論理的読解のトレーニング	
佐々木 護	
授業コード：Q1411	2017 年度以降入学者
授業コード：P1097	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論点が明確で、筋の通った議論や文章は「論理的」だと言われます。この授業では、分野を問わず多様な文章を論理的に把握し、それを吟味検討したうえで、自分の見解を論理的に表現する訓練を行います。論理的読解力や論述力を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上で大いに役立つはずです。

到達目標 本授業の到達目標は以下の2点です。
（1）新聞記事や新書レベルの文章を読み、そこから論証構造を抽出し、的確な要約を行うことができる。
（2）上記の文章を吟味検討し、自分の見解を論理的に展開することができる。

成績評価の方法と基準 原則として期末試験の成績で評価します。これは最終的な学習到達状況を成績評価に反映するためです。評価基準については、授業中に何度か実施する小論文課題の評価基準を参考にしてください。

PHL200LA	
論理学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：批判的思考のトレーニング	
佐々木 護	
授業コード：Q1412	2017 年度以降入学者
授業コード：P1098	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） クリティカル・シンキング（批判的思考）教育の一環として、複数の視点から仮説を立てたり、対立する意見も視野に入れつつ望ましい問題解決策を見出すトレーニングを行います。自分が自明とする考えからいったん距離を置き、異なる他者の考えにも目を向ける態度を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上で大いに役立つはずです。

到達目標 本授業の到達目標は以下の2点です。
（1）統計資料などを手がかりに仮説を立て、それに基づく解決策を提示することができる。
（2）与えられたテーマに関して、対立する意見も視野に入れつつ、説得力ある見解論述を展開することができる。

成績評価の方法と基準 原則として期末試験の成績で評価します。これは最終的な学習到達状況を成績評価に反映するためです。評価基準については、授業中に何度か実施する小論文課題の評価基準を参考にしてください。

HIS200LA	
東洋史ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
岡安 勇	
授業コード：Q1421	2017 年度以降入学者
授業コード：P1141	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国古代の国家構造については皇帝を頂点とする一元的支配（＝個人的人身支配）という概念で理解されている。しかし皇帝権力の絶対性の側面を強調すると、その絶対的権力を打倒して新王朝が出現する王朝交替のメカニズムを解明する糸口が見失われてしまう。また「例外において本質が顕現する」（C. シュミット）と言われるように、皇帝支配における例外的措置としてこれまであまり顧みられることのなかった王朝の「賓・客」（旧王朝の子孫）の存在とその待遇問題について注目して新たに中国古代の国家構造を明らかにしてみたい。つまり、本授業では中国古代の国家構造を「二王の後（旧王朝の子孫）」の視点から解明する。

漢文講読の経験の有無にかかわらず、中国に興味関心のある学生が本授業を受講することによって、これまでにない中国古代の国家構造を理解することができる。

到達目標 中国古代（おもに堯・舜・禹の伝説時代から殷・周・秦・漢・三国時代）の社会・思想のうち興味深い事柄が理解できる。また、そのような社会や思想を理解した上で、一般に知られていない中国古代の「二王の後」の存在も明らかになる。「二王の後」の視点から中国古代の王朝交替のメカニズムが明快に理解できるようになる。なお、授業では現代に溶け込んでいる中国古代の故事なども取り上げるので、これまでもとは違う知識が得られる。また、授業で漢文を読むことになるが、初心者でも次第に漢文の読み方が上達すると考えられる。試験では授業で扱った漢文史料を引用して自分自身で中国古代の王朝交替のメカニズムをこれまでにない視点から説明することが出来るようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験：70％
平常点：30％（毎時間、授業の理解度確認のための小テスト実施）

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

合計：100 %
成績は平常点と期末試験で評価するが、試験では講義で使用するテキストやプリントとその説明のためにとったノートがなければ解答できないと思われる。すなわち出席を重視するゆえんである。なお、試験問題は授業の個々の内容から出題する。

HIS200LA	
東洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
岡安 勇	
授業コード：Q1422	2017 年度以降入学者
授業コード：P1142	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期では、王朝の「賓・客」（旧王朝の子孫）の存在とその待遇問題について注目して中国古代の国家構造の解明を行ったが、秋学期ではこれとは反対に禅譲されて新王朝を樹立した者の、旧王朝末期における君臣関係というこれまであまり扱われることのなかった例外的措置について取り上げ、中国古代の新旧両王朝一体となった国家構造を明らかにしてみたい。そこで本授業では中国古代の国家構造を席次という序列関係を手掛かりにして解明を試みる。

なお、この解明には君臣間、賓主間という性質の異なる席次の序列関係も重要な手掛かりとなるが、人口に膾炙した『史記』の有名な「鴻門の会」はその代表例として取り上げることになるので、親しみやすいと思われる。対象学生は春学期と同じ。

到達目標 中国古代に行われていた席次（席に座る順序）を用いるというこれまで考えられなかった視点から王朝交替のメカニズムを解明する糸口を見いだすことが出来る。
一般にもよく知られている鴻門の会での項羽と劉邦の席がどのようにして決まったのか興味のある問題であるが、この点についてはビデオを用いることによって、視覚的に理解ができる。
中国古代の席次が理解できれば、皇帝が西面することがいかに異例のことだったのかが分かり、するとこれまで考えても見なかった王朝交替のメカニズムが判明することにもつながる。
なお、秋学期でも春学期と同じように、授業では現代に溶け込んでいる中国古代の故事なども取り上げるので、これまでとは違う知識が得られる。また、授業で漢文を読むことになるが、初心者でも次第に漢文の読み方が上達すると考えられる。
試験では授業で扱った漢文史料を引用して自分自身で中国古代の王朝交替のメカニズムをこれまでにない視点から説明することが出来るようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験：70 %
平常点：30 %（毎時間、授業の理解度確認のための小テスト実施）
合計：100 %
成績は平常点と期末試験で評価するが、試験では講義で使用するテキストやプリントとその説明のためにとったノートがなければ解答できないと思われる。すなわち出席を重視するゆえんである。なお、試験問題は授業の個々の内容から出題する。

HIS200LA	
東洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：植民地時代の東南アジア	
授業コード：Q1423	2017 年度以降入学者
授業コード：P1143	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現在のタイを除く東南アジア地域の大

部分が、19 世紀には欧米列強の植民地支配下にはいりました。このことはよく知られていますが、この時期に具体的にどのようなことが起こっていたのかは、あまり知られていないのではないのでしょうか。この授業では、さまざまな角度から植民地時代の東南アジア社会を見ていくことにより、現在の状況がいかに形作られていったかを学びます。

到達目標 この授業では、高校の世界史では得られなかった新たな知識として、植民地期の東南アジアに関する知識を身につけることを目的とします。

現在のアジア地域に関わる様々な問題を筋道立てて理解し、議論するための基礎的な知識や思考法を身につけることができるようにしていきます。

成績評価の方法と基準 平常点（30 %）、試験（70 %）

HIS200LA	
東洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：民話と歴史：カンボジア王朝年代記と口承伝承	
授業コード：Q1424	2017 年度以降入学者
授業コード：P1144	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「歴史は暗記科目だから難しい」という言葉をよく聞きます。なぜ自分の先祖に直接関係したわけでもない出来事を「私たちの歴史」として学び、覚えなければならないのか、不思議に思ったことはありませんか？ そもそも「歴史」とは何なのでしょう？ 偉人の功績や国家の大事件だけが「歴史」で、私たちの生活を取り巻く様々な変化・・・例えば「キツネにだまされた」という話を聞かなくなることは、「歴史」ではないのでしょうか？ 私たち自身の生活に対する関心が高まる今、これを考えてみることは大切だと思います。この授業ではカンボジアを題材に、人々の生活空間と深く関連して語られている物語と「歴史」の関係を考えていきたいと思っています。

到達目標 「歴史」をより身近なものとし、私たちの周辺にある様々な問題を筋道立てて理解し、議論するための知識を身につけることができるようにしていきます。

成績評価の方法と基準 平常点（30 %）、試験（70 %）

HIS200LA	
西洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
宮崎 亮	
授業コード：Q1431	2017 年度以降入学者
授業コード：P1159	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前8世紀から前5世紀末にいたる古代ギリシア史。

この講義の名称は「西洋史」となっているが、扱うのは古代ギリシア史（の一部）である。構成は次のように大きく3つに分かれる：1) イントロダクション（第1回～第2回）、2) 前古典期から前5世紀末のギリシア世界（第3回～第9回）、3) 古典期アテナイ社会の諸相（第10回～第13回）。

学生が古代ギリシア史についての基本的な知識（これは、私たちが「ヨーロッパ」や「EU」について考え、向き合う場合には、いまだに重要である）を獲得し、史料に基づいて考える姿勢を身につけること、それがこの授業の目的である。こうした思考法は、他の地域・他の時代の歴史事象を考える場合にも、応用が利くはずである。

到達目標 学生が古代ギリシアの重要な歴史事象を具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で第三者に説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

HIS200LA	
西洋史 L B	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
宮崎 亮	
授業コード：Q1432	2017 年度以降入学者
授業コード：P1160	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義の名称は「西洋史」となっているが、扱う内容は古代ギリシア史、それも当時ギリシアで行なわれていた運動競技会の歴史に焦点を当てる。

2020 年に東京で開催されるオリンピック大会が、今から2千年以上前のギリシアで行なわれていたオリュンピア競技祭（いわゆる「古代オリンピック」）をモデルにして始まったことは、比較的よく知られた事実に関するのではないだろうか。本講義では古代ギリシアの競技祭および体育とポリスとの関わりについて、史料に即しつつ、考察していく。全体の構成は：1）序論（第1～3回）、2）競技祭について（第4～9回）、3）体育とポリス社会（第10回以降）

到達目標 学生が古代ギリシアの運動競技についてを具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

成績評価の方法と基準 学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

HIS200LA	
西洋史 L A	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
宮崎 亮	
授業コード：Q1433	2017 年度以降入学者
授業コード：P1161	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前8世紀から前5世紀末にいたる古代ギリシア史。

この講義の名称は「西洋史」となっているが、扱うのは古代ギリシア史（の一部）である。構成は次のように大きく3つに分かれる：1）イントロダクション（第1回～第2回）、2）前古典期から前5世紀末のギリシア世界（第3回～第9回）、3）古典期アテナイ社会の諸相（第10回～第13回）。

学生が古代ギリシア史についての基本的な知識（これは、私たちが「ヨーロッパ」や「EU」について考え、向き合う場合には、いまだに重要である）を獲得し、史料に基づいて考える姿勢を身につけること、それがこの授業の目的である。こうした思考法は、他の地域・他の時代の歴史事象を考える場合にも、応用が利くはずである。

到達目標 学生が古代ギリシアの重要な歴史事象を具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

成績評価の方法と基準 学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で第三者に説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

HIS200LA	
西洋史 L B	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
宮崎 亮	
授業コード：Q1434	2017 年度以降入学者
授業コード：P1162	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義の名称は「西洋史」となっているが、扱う内容は古代ギリシア史、それも当時ギリシアで行なわれていた運動競技会の歴史に焦点を当てる。

2020 年に東京で開催されるオリンピック大会が、今から2千年以上前のギリシアで行なわれていたオリュンピア競技祭（いわゆる「古代オリンピック」）をモデルにして始まったことは、比較的よく知られた事実に関するのではないだろうか。本講義では古代ギリシアの競技祭および体育とポリスとの関わりについて、史料に即しつつ、考察していく。全体の構成は：1）序論（第1～3回）、2）競技祭について（第4～9回）、3）体育とポリス社会（第10回以降）

到達目標 学生が古代ギリシアの運動競技についてを具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

成績評価の方法と基準 学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

HIS200LA	
西洋史 L A	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
渡辺 知	
授業コード：Q1435	2017 年度以降入学者
授業コード：P1163	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

到達目標 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

成績評価の方法と基準 授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

HIS200LA	
西洋史ⅡB	2017年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2016年度以前入学者
サブタイトル：	
渡辺 知	
授業コード：Q1436	2017年度以降入学者
授業コード：P1164	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 19世紀～20世紀にかけてのイギリスの歴史を階級、ジェンダー、人種・民族、地域、帝国を切り口に概観し、近代イギリスの特徴を考えていくこととします。

到達目標 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

成績評価の方法と基準 授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20％、学期末の試験80％）。

HIS200LA	
西洋史ⅡA	2017年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2016年度以前入学者
サブタイトル：	
渡辺 知	
授業コード：Q1437	2017年度以降入学者
授業コード：P1165	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 16世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

到達目標 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

成績評価の方法と基準 授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20％、学期末の試験80％）。

HIS200LA	
西洋史ⅡB	2017年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2016年度以前入学者
サブタイトル：	
渡辺 知	
授業コード：Q1438	2017年度以降入学者
授業コード：P1166	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 19世紀～20世紀にかけてのイギリスの歴史を階級、ジェンダー、人種・民族、地域、帝国を切り口に概観し、近代イギリスの特徴を考えていくこととします。

到達目標 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

成績評価の方法と基準 授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20％、学期末の試験80％）。

HIS200LA	
日本史ⅡI	2017年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016年度以前入学者
サブタイトル：（近世社会の成立と確立）	
横濱 文孝	
授業コード：Q1441	2017年度以降入学者
授業コード：P1187	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） テーマ：近世社会の成立と確立
近世社会は、江戸幕府とその支配下にあった藩が統治した政治体制下の社会であり、封建支配体制が長期に持続した時代でもありました。本講座では、この近世という社会の特徴を様々な視点から掘り起こすことで、豊かな歴史像を提示したいと考えています。

到達目標 教科書を通して学んだ歴史は、年号や用語を丸ごと覚えるなど、苦手だ、面白くないといったイメージがあります。しかし、本来、歴史は様々な事象を、資料を通して読み解いていく創造する学問です。本講座は、特に豊富な資料を有する近世という時代を取り上げ、具体的な事例をあげながら、楽しく歴史を学び、考える力を養います。

成績評価の方法と基準 期末試験（80％）と平常点等（20％）をもとに評価します。

HIS200LA	
日本史ⅡⅡ	2017年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016年度以前入学者
サブタイトル：（近世の庶民文化）	
横濱 文孝	
授業コード：Q1442	2017年度以降入学者
授業コード：P1188	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） テーマ：近世の庶民文化
近世は、士農工商とする封建的な身分制社会でした。しかし、その一方

で文化は成熟し、時代とともに俳諧などの文芸を中心に大衆化するようになり、次第に身分の平準化をもたらしていきました。本講座は、その過程を探りつつ、庶民や下級武士層の文化にも触れながら、近世の文化の実像を考えてみたいと思います。

到達目標 従来、近世は封建的な身分制社会のもとに四民が厳格に編成されてきました。しかし、庶民の文化や文芸に触れることで、これまで教科書で学んできた時代とは別に、そこには豊かな歴史イメージを膨らますことができます。本講座では、当時の人々の生活を様々な資料を読み解きながら、歴史を学ぶ視点や研究の方法論などを培います。

成績評価の方法と基準 期末試験（80％）と平常点等（20％）をもとに評価します。

HIS200LA	
日本史ⅠⅠ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
浜田 久美子	
授業コード：Q1443	2017 年度以降入学者
授業コード：P1189	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 7～9 世紀を中心に古代日本と朝鮮半島諸国との対外交流史を、日本・中国・朝鮮半島の史料をもとに考える。

到達目標 古代東アジア外交の変遷を理解する。
史料を読み解き、先行研究を踏まえて論理的に実証するという歴史学の研究法を学ぶ。
参考図書の使い方や文献探索の方法を学び、レポートの作成方法を取得する。

成績評価の方法と基準 平常点に加え、学期末のレポートで評価。

HIS200LA	
日本史ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
浜田 久美子	
授業コード：Q1444	2017 年度以降入学者
授業コード：P1190	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 東大寺の大仏建立に関する史料を読み、奈良時代の政治や社会を学ぶ。

到達目標 東大寺の大仏建立についての知識を得る。
史料を読み解き、先行研究を踏まえて論理的に実証するという歴史学の研究法を学ぶ。
参考図書の使い方や文献探索の方法を学び、レポートの作成方法を取得する。

成績評価の方法と基準 平常点に加え、学期末のレポートで評価。

HIS200LA	
日本史ⅠⅠ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：史料で読み解く日本の中世Ⅰ	
貫井 裕恵	
授業コード：Q1445	2017 年度以降入学者
授業コード：P1183	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。＊日本史ⅠⅡもあわせて受講することを推奨します。

到達目標 ・「東寺百合文書」を通じて日本の中世社会への理解を深める。
・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
・くずし字に親しみ、解読できるようになる。

成績評価の方法と基準 レポートおよびレビューシートの内容、出席状況総合的に評価する。
出席（特別な理由のない限り、欠席は4回以下）・レポート提出が、単位取得に必須の要件となる。

HIS200LA	
日本史ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：史料で読み解く日本の中世Ⅱ	
貫井 裕恵	
授業コード：Q1446	2017 年度以降入学者
授業コード：P1184	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。＊日本史ⅠⅠもあわせて受講することを推奨します。同授業の発展的内容になります。

到達目標 ・「東寺百合文書」を通じて日本の中世社会への理解を深める。
・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
・くずし字に親しみ、解読できるようになる。

成績評価の方法と基準 レポートおよびレビューシートの内容、出席状況総合的に評価する。
出席（特別な理由のない限り、欠席は4回以下）・レポート提出が、単位取得に必須の要件となる。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

HIS200LA	
日本史 L I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：近代日本の政治と社会	
池田 真歩	
授業コード：Q1447	2017 年度以降入学者
授業コード：P1185	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、幕末から戦時期に至るまでの日本の歴史について、国内政治と対外関係の連関に注意を払いつつ理解を深めることを目指す。

到達目標 ①幕末以降の日本の歴史について、基礎的な知識を習得し、その概要を説明できる。
②幕末以降の日本の歴史について、主要な歴史事象の背景と帰結を、国内外の情勢に目配りしつつ説明できる。
③戦後日本の政治と社会が、戦前日本の政治と社会にいかん規定されたのかを説明できる。

成績評価の方法と基準 期末試験 80 %、リアクションペーパー 20 %

HIS200LA	
日本史 L II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：現代日本の政治と社会	
池田 真歩	
授業コード：Q1448	2017 年度以降入学者
授業コード：P1186	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、太平洋戦争の敗戦から現在に至るまでの日本の歴史について、国内政治と対外関係の連関に注意を払いつつ理解を深めることを目指す。

到達目標 ①戦後日本の歴史について、基礎的な知識を習得し、その概要を説明できる。
②戦後日本の歴史について、主要な歴史事象の背景と帰結を、国内外の情勢に目配りしつつ説明できる。
③冷戦の開始・展開・終結が、日本の政治と社会をいかに規定したかを説明できる。

成績評価の方法と基準 期末試験 80 %、リアクションペーパー 20 %

PHL200LA	
宗教論 L I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：宗教学と世俗化論	
須藤 孝也	
授業コード：Q1451	2017 年度以降入学者
授業コード：P1217	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 概要：様々な宗教の特徴を学ぶとともに、「宗教」という概念を用いることの難しさについても学ぶ。さらに宗教の趨勢を論じる「世俗化論」についても学ぶ。

目的：一口に「宗教」といっても、実際には多様な諸宗教があることを学ぶ。また宗教のあり方が歴史的に容れられてきたことと、宗教をめぐる現代の状況についても学ぶ。
意義：宗教は政治や哲学、文化など、宗教以外の様々な事柄と深く関連しています。そのため何を学ぶにしても、宗教についての知見は不可欠なものです。しかしながら、特に現代において、宗教の働きを見極めることは必ずしも容易ではないため、それを洞察するためにはある程度のトレーニングが必要となります。宗教を学ぶことは、自分とはなじみのうすい宗教を信仰する他者についての理解はもちろん、自己に対する理解を深めるためにも大いに役立ちます。

到達目標 ①各々の宗教の特徴を述べることができる。
②「宗教」という概念がはらむ諸問題について説明することができる。
③世俗化論について説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %：するどい指摘は求めません。積極的な取り組み、授業参加を求めます。
期末レポート 60 %：①授業で学んだこと、②文献から学んだこと、③自ら考察したこと、の3点を満たしたものを高く評価します。

PHL200LA	
宗教論 L II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：宗教の哲学の歴史	
須藤 孝也	
授業コード：Q1452	2017 年度以降入学者
授業コード：P1218	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 概要：主に宗教哲学の見地に立つて、宗教論の歴史を学ぶ。

目的：宗教は単に「非合理的なもの」ではないこと、様々な宗教理解、宗教批判、宗教擁護の理論が提示されてきたことを学び、現代の宗教理解に役立てる。

意義：宗教について哲学してきた西洋の歴史は、西洋人の思考を、今なお多かれ少なかれ規定している。異文化を理解しようとする試みのうち、宗教や哲学に関する理解は決して容易なものではないが、しかしやはり非常に重要なものである。また、西洋近代に大きな影響を受けた現代の日本人にとっても、それは同様に非常に重要なものである。

到達目標 ①各思想家がどのようなものとして宗教を捉えていたのかを説明することができる。
②彼らが、どこに宗教の限界と可能性を見出したのかを説明することができる。
③様々な宗教論を自らの理論構築に役立てることができる。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %：するどい指摘は求めません。積極的な取り組み、授業参加を求めます。
期末レポート 60 %：①授業で学んだこと、②文献から学んだこと、③自ら考察したこと、の3点を満たしたものを高く評価します。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
山本 圭子	
授業コード：Q2001	2017 年度以降入学者
授業コード：P2221	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

成績評価の方法と基準 法学全体に関わる一般的・包括的な知識を身につけ、日本国憲法の構造と基本原則を理解することを到達目標とする。期末試験（80%）、リアクションペーパーとミニテスト（20 %）で評価を行い、60 点以上に単位を付与する。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
山本 圭子	
授業コード：Q2002	2017 年度以降入学者
授業コード：P2222	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 法律を学んだことのない学生が、法学のエッセンスに触れ、大学の一般教養程度の法学の最も初歩的な部分を習得して、六法のエッセンスの部分に関する最もベーシックな理解を得ることをテーマとする。民法、刑法、商法、労働法、知的財産法の基礎を学ぶ。

到達目標 学生が大学生として最低限必要な法に関する知識を身につけ、法律的思考力（リーガルマインド）をつけていることを到達目標とする。民法、刑法、労働法、知的財産法、税法に関する課題を発見し、学説や判例を引いて、課題に関する自分の意見を論理的に述べるができることを目標とする。

成績評価の方法と基準 論述式の期末試験の得点（80 %）と、授業期間中のリアクションペーパー、宿題の評価（20 %）とを総合して評価する。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
内藤 淳	
授業コード：Q2003	2017 年度以降入学者
授業コード：P2223	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 I ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなくレポートを課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（試験もしくはレポートの点数を基礎に、コメント提出状況・内容に応じて 0～30 %程度の範囲で加減・減点する予定）。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
内藤 淳	
授業コード：Q2004	2017 年度以降入学者
授業コード：P2224	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 I ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなくレポートを課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（試験もしくはレポートの点数を基礎に、コメント提出状況・内容に応じて 0～30 %程度の範囲で加点・減点する予定）。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
前川 佳夫	
授業コード：Q2005	2017 年度以降入学者
授業コード：P2225	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 18 世紀後半から 19 世紀にかけて、イギリス産業革命の展開と同時期に形成される「近代市民法」は、やがて 19 世紀後半には遠く東アジアにまで波及した。本講義では、工業化が進展しつつあった当時の欧米諸国に形成されてくる「近代市民法」の基本的特徴をまずおさえ、現行の日本国憲法の基礎構造、その特徴、その考え方を学ぶ。その上で、現代の市民生活を支える法システム、権利保障のしくみ、裁判制度の果たす役割等について検討する。

到達目標 1. 欧米諸国に誕生し、やがてアジア地域や世界の国々に波及する近代市民法の基本的特徴を理解する。
2. 戦後誕生する日本国憲法の基礎構造とその考え方を理解する。
3. 現代の市民生活を支える法システム（民法、刑法その他の実定法の構造、権利保障のしくみ、裁判制度の意義）を理解する。
4. 国際人権規約を基軸とする国際人権保障の特徴について理解する。

成績評価の方法と基準 授業中の小テスト（場合によっては小レポート）20 %、期末試験 80 %。
講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
前川 佳夫	
授業コード：Q2006	2017 年度以降入学者
授業コード：P2226	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の多面的な法改革（昨年 6 月に公布された民法・債権法改正法、議論を呼ぶ憲法改正問題その他）の動きのなかで、現行の日本国憲法をはじめ、民法、刑法など数多くの実定法は、どのように変わろうとしているのだろうか。本講義では、現代の日本社会のなかで法はどのような役割を果たしているか、また、果たすべきかについて、日本社会が抱える喫緊の課題をとりあげながら検討する。

到達目標 1. 日本国憲法の現代的意義、現代の日本社会においていかなる役割を果たしているかを理解する。
2. 憲法改正論議や改正債権法などとおして、近時の法改革の動向を理解する。
3. これからの日本社会や市民生活のなかで、近代市民法はどのような役割を果たしていくか（いくべきか）を論じる力をもつ。
4. 世界人権宣言をはじめする国際人権法の発展について理解する。

成績評価の方法と基準 授業中の小テスト（場合によっては小レポート）20 %、期末試験 80 %。

講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
権 敬殷	
授業コード：Q2007	2017 年度以降入学者
授業コード：P2227	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身につけることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

到達目標 ① 法学の基本的な概念を理解し、基本的な法律用語の読み方と意味が分かる。
② 法学の思考様式について総合的な認識を持つ。
③ 憲法、民法、刑法等、代表的な法分野の基本原則と特徴を把握する。
④ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
⑤ 生活をする中で経験する様々な法律行為について、民法で定めている内容を中心にその全体像を学習する。

成績評価の方法と基準 満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 %の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
権 敬殷	
授業コード：Q2008	2017 年度以降入学者
授業コード：P2228	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身につけることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識を習得・理解する。主に、次の内容を到達目標とする。
① 人と人との関係を規律するルールを学習する。
② 人と物との関係を規律するルールを学習する。
③ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
④ 国際関係についてのルールを理解する。

成績評価の方法と基準 満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 %の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016年度以前入学者
石川 澄雄	
授業コード：Q2009	2017年度以降入学者
授業コード：P2229	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営1年E～J組/法文営国環キ2-4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日常生活上の身近な行為から企業間取引等に至るまで、法的な意味を持たないものはないと言えるほどに、我々は「法的な社会」に生きている。このようなものとして我々に関わる法について、歴史的な視点を踏まえながら法をめぐる今日的な諸問題に目を向け、法の意義や理念、目的、また役割や特質などを、他のルールと対比させながら探り、法というもののについての基本的な理解を得る。

到達目標 「法」は国家と密接不可分の関係にあるが、同時に、人々も「法」と密接に関わりながら日々を送っている。本講義では、とくに「法・国家・人間」のそれぞれの関係についての基本的な理解を得ることを目標とする。

成績評価の方法と基準 ①定期試験（のみ）による。
②なお、出席率が40%未満の者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても採点せずに「評価対象外」とするので注意されたい（従ってほぼ毎回出席は取るが、これは「受験資格」を確かめるためのもので、「出席点」を付けるためではない）。ちなみに「欠席理由」は考慮するので申し出てほしい。
③定期試験前に「試験についての注意」文を大学HPの「授業支援システム」に載せるので必ず目を通してほしい（載せる前に授業で知らせる）。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016年度以前入学者
石川 澄雄	
授業コード：Q2010	2017年度以降入学者
授業コード：P2230	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営1年E～J組/法文営国環キ2-4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日常生活上の身近な行為から企業間取引等に至るまで、法的な意味を持たないものはないと言えるほどに、我われは「法的な社会」に生きている。このようなものとして我われに関わる法について、歴史的な視点を踏まえながら法をめぐる今日的な諸問題を多く取り上げ、法の意義や理念、目的、また役割や特質などを、他のルールと対比させながら探り、法というもののについての基本的な理解を得る。さらにそれを踏まえて憲法の基本および「国際社会と法」についても言及する。

到達目標 「法的社会」の基本を眺めることを通じて、最小限ないし適度の法感覚や法意識、また法的思考（リーガルマインド・バランス感覚）等を養い、さらに我々がそのような社会で生活していることの意味をも知ること、総じて受講生の「法を見る目を養う」ことを目指す。

成績評価の方法と基準 ①定期試験（のみ）による。
②なお、出席率が40%未満の者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても採点せずに「評価対象外」とするので注意されたい（従ってほぼ毎回出席は取るが、これは「受験資格」を確かめるためのもので、「出席点」を付けるためではない）。ちなみに「欠席理由」は考慮するので申し出てほしい。
③定期試験前に「試験についての注意」文を大学HPの「授業支援システム」に載せるので必ず目を通してほしい（載せる前に授業で知らせる）。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016年度以前入学者
水野 圭子	
授業コード：Q2011	2017年度以降入学者
授業コード：P2231	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営1年K～U組/法文営国環キ2-4年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 今まで法律を学んだことがない学生を対象として、身近な法律問題について基本的な知識を習得する。アメリカ・イギリスなど英米法体系の国では、契約から法律を学び始めることが多いが、本講義においても、契約、すなわち、物を買う場合、お金を借りる場合、あるいは消費者としてのトラブル、クーリングオフなど個人と個人の間の契約における法律を中心に検討する。また、その時に応じた時事的な法律問題（前年度は冤罪、裁判員制度）も取り扱う。これらの問題に関連する憲法問題も取り扱う。

到達目標 具体的な事例を通じて、個人と個人と法律の関係について、理解し、社会の中で法律の役割を理解すること、法律によって、どのように個人の利益や権利が守られているのか理解することを授業の目的とする。また、簡単な法学検定の問題を解くことができるようにする。

成績評価の方法と基準 テストによる評価（90%）に加え、講義でみた映像資料に対するレポート課題（10%）によって評価を行います。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016年度以前入学者
水野 圭子	
授業コード：Q2012	2017年度以降入学者
授業コード：P2232	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営1年K～U組/法文営国環キ2-4年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 卒業後、あるいは、学生であってもアルバイトをする場合など、働くことと法律は様々なかわりを持っている。しかしながら、労働と法について学ぶ機会はとても少ない。本講義では、働くこととかわかる法律について、採用内定とその取り消し、アルバイトの場合の残業代の支給や有給休暇の取得など労働災害、採用内定とその取消など学生であってもかわりを持つ事例について、さらには、賃金、労働時間、転勤、解雇など重要な問題についても検討を行う。引き続き、働くことと関係する憲法の問題、働くことについてもボーダレスとなっているEUの仕組みなどを通じて、国際的な法律関係についても知識を深めることとしたい。

到達目標 発展的な契約である労働契約の仕組みと法的な規制についての知識を得ることによって、働く場合における法律関係について、正確な法的知識に基づく正しい理解ができる。
EUなどの国際法的な関係についても、労働という視点からEU指令、EU裁判所制度、EUの社会保障制度などについても法的な理解を深める。上述の点に関与する憲法的な論点について理論的に説明できるよう理解を深める。

成績評価の方法と基準 選択式・一部記述式のテスト（100点満点）で評価する。これに加えて、視聴覚教材を使用した際に提出するコメントを加点として加える。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
金子 匡良	
授業コード：Q2013	2017 年度以降入学者
授業コード：P2233	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する（100 %）。ただし、リアクションペーパーの提出状況やその内容に対する評価を 10 %程度加味することがある。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
金子 匡良	
授業コード：Q2014	2017 年度以降入学者
授業コード：P2234	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する（100 %）。ただし、リアクションペーパーの提出状況やその内容に対する評価を 10 %程度加味することがある。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
内藤 淳	
授業コード：Q2015	2017 年度以降入学者
授業コード：P2235	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ D 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなくレポートを課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（試験もしくはレポートの点数を基礎に、コメント提出状況・内容に応じて 0～30 %程度の範囲で加点・減点する予定）。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
内藤 淳	
授業コード：Q2016	2017 年度以降入学者
授業コード：P2236	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ D 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、
各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連
文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①
～④の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、
期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなくレポートを課した
りする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はそ
の評価を加味する（試験もしくはレポートの点数を基礎に、コメント提
出状況・内容に応じて 0～30 %程度範囲で加点・減点する予定）。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
前川 佳夫	
授業コード：Q2017	2017 年度以降入学者
授業コード：P2237	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 18 世紀後半から 19 世紀にかけて、
イギリス産業革命の展開と同時期に形成される「近代市民法」は、やが
て 19 世紀後半には遠く東アジアにまで波及した。本講義では、工業化
が進展しつつあった当時の欧米諸国に形成されてくる「近代市民法」の
基本的特徴をまずおさえ、現行の日本国憲法の基礎構造、その特徴、そ
の考え方を学ぶ。その上で、現代の市民生活を支える法システム、権利
保障のしくみ、裁判制度の果たす役割等について検討する。

到達目標 1. 欧米諸国に誕生し、やがてアジア地域や世界の国々に波及
する近代市民法の基本的特徴を理解する。
2. 戦後誕生する日本国憲法の基礎構造とその考え方を理解する。
3. 現代の市民生活を支える法システム（民法、刑法その他の実定法の構
造、権利保障のしくみ、裁判制度の意義）を理解する。
4. 国際人権規約を基軸とする国際人権保障の特徴について理解する。

成績評価の方法と基準 授業中の小テスト（場合によっては小レポート）
20 %、期末試験 80 %。
講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、
各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連
文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
前川 佳夫	
授業コード：Q2018	2017 年度以降入学者
授業コード：P2238	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：国・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の多面的な法改革（昨年 6 月に公
布された民法・債権法改正法、議論を呼ぶ憲法改正問題その他）の動き
のなかで、現行の日本国憲法をはじめ、民法、刑法など数多くの実定法
は、どのように変わろうとしているのだろうか。本講義では、現代の日
本社会のなかで法はどのような役割を果たしているか、また、果たすべ
きかについて、日本社会が抱える喫緊の課題をとりあげながら検討する。

到達目標 1. 日本国憲法の現代的意義、現代の日本社会においていかな
る役割を果たしているかを理解する。
2. 憲法改正論議や改正債権法などをとおして、近時の法改革の動向を理
解する。
3. これからの日本社会や市民生活のなかで、近代市民法はどのような役
割を果たしていくか（いくべきか）を論じる力をもつ。
4. 世界人権宣言をはじめとする国際人権法の発展について理解する。

成績評価の方法と基準 授業中の小テスト（場合によっては小レポート）
20 %、期末試験 80 %。

LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2016 年度以前入学者
金子 匡良	
授業コード：Q2031	2017 年度以降入学者
授業コード：P2251	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 下記の目標を達するため、授業期間の
初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げ解説
した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や
権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原
則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕
組みの 3 つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法
一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的
な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講
義を進める。

到達目標 おもに初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する
理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとす
る。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい
理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわ
せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家の市民として、
また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業
の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し
て、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド
（法的思考）」の涵養も目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」の達成度を
評価する（100 %）。ただし、リアクションペーパーの提出状況やその内
容に対する評価を 10 %程度加味することがある。

LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2016 年度以前入学者
金子 匡良	
授業コード：Q2032	2017 年度以降入学者
授業コード：P2252	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 下記の目標を達するため、授業期間の
初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げ解説
した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や
権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原
則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕
組みの 3 つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法
一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的
な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講
義を進める。

到達目標 おもに初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する
理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとす
る。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい
理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわ
せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家の市民として、
また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業
の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し
て、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド
（法的思考）」の涵養も目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」の達成度を
評価する（100 %）。ただし、リアクションペーパーの提出状況やその内

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

容に対する評価を 10 %程度加味することがある。

LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2016 年度以前入学者
石川 澄雄	
授業コード：Q2033	2017 年度以降入学者
授業コード：P2253	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主として「法と国家・社会」との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を軸としてその基本的な理解を得ることに努める。憲法に対する理解が一般人のみならず学生や為政者（！）においてすなお十分に浸透しているとはいえない状況にかんがみて、本講義ではその目的や理念等の「正確な理解」を得ることによって憲法を中心とした法体系の理解にまで及ぶ。

到達目標 日本国憲法を中心に、法というものについての基本的かつ一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法的社会」における様々な法関係に対して適切・妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（legal mind・法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

成績評価の方法と基準 ①定期試験（のみ）による。
②なお、出席率が 40 %未満の者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても採点せずに「評価対象外」とするので注意されたい（従ってほぼ毎回出席は取るが、これは「受験資格」を確かめるためのもので、「出席点」を付けるためではない）。ちなみに「欠席理由」は考慮するので申し出てほしい。
③定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム」に載せるので必ず目を通してほしい（載せる前に授業で知らせる）。

LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2016 年度以前入学者
石川 澄雄	
授業コード：Q2034	2017 年度以降入学者
授業コード：P2254	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主として「法と国家・社会」との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を軸としてその基本的な理解を得ることに努める。憲法に対する理解が一般人のみならず学生や為政者（！）においてすなお十分に浸透しているとはいえない状況にかんがみて、本講義ではその目的や理念等の「正確な理解」を得ることによって憲法を中心とした法体系の理解にまで及ぶ。

到達目標 日本国憲法を中心に、法というものについての基本的かつ一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法的社会」における様々な法関係に対して適切・妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（legal mind・法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

成績評価の方法と基準 ①定期試験（のみ）による。
②なお、出席率が 40 %未満の者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても採点せずに「評価対象外」とするので注意されたい（従ってほぼ毎回出席は取るが、これは「受験資格」を確かめるためのもので、「出席点」を付けるためではない）。ちなみに「欠席理由」は考慮するので申し出てほしい。
③定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム」に載せるので必ず目を通してほしい（載せる前に授業で知らせる）。

ECN100LA	
経済学Ⅰ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅰ	2016 年度以前入学者
玉之内 直	
授業コード：Q2041	2017 年度以降入学者
授業コード：P2031	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ I 組/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

到達目標 本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 50%+期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と（発表はしなかったものの）発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

ECN100LA	
経済学Ⅱ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
玉之内 直	
授業コード：Q2042	2017 年度以降入学者
授業コード：P2032	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ I 組/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解する。

到達目標 本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 50%+期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と（発表はしなかったものの）発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

ECN100LA	
経済学Ⅰ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅰ	2016 年度以前入学者
西崎 文平	
授業コード：Q2043	2017 年度以降入学者
授業コード：P2033	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 J ～ N 組・国 1 年/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 株価や為替レート、GDP の数字など、テレビやネットなどで経済のニュースが取り上げられない日はありませ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

きることの3点である。これにより、経済社会の課題について柔軟に発言できることを目指す。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパー 40%、期末試験 60% (期末試験の実施日は後日決定)

ECN100LA	
経済学Ⅱ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
梅溪 健児	
授業コード: Q2046	2017 年度以降入学者
授業コード: P2036	2016 年度以前入学者
開講時期: 秋学期	
履修対象: 法 1 年 S ~ Y 組/法文国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 授業はマクロ経済学を取り上げる。GDP (国内総生産) による経済全体の把握、消費や投資などの有効需要、経済政策と政府の役割、海外との取引などについて、体系的に理解できるようになることが目的である。

到達目標 目標は、①経済が特長的に成長するために必要なこと、②政府が経済成長に果たす役割、③経済データを正確に理解しそれが示唆する政策的意味について、自ら考える素養を身につけることの3点である。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパー 40%、期末試験 60% (期末試験の実施日は後日決定)

ECN100LA	
経済学Ⅰ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅰ	2016 年度以前入学者
水野 和夫	
授業コード: Q2047	2017 年度以降入学者
授業コード: P2037	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	
履修対象: 文 1 年 A ~ N 組・環 1 年・キ 1 年/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 経済学は第三の危機を迎えている。危機において参考になるのは、危機の時代の精神力を与えてくれる古典である。経済学と古典 (シェイクスピアなど) を参照しながら、21 世紀の経済的課題の原因を探る。さらに現実の統計データを読み取り力をも身につけ、その背後に隠れている問題点を経済の理論を使ってどのように説明できるかを学ぶことができる。

経済学Ⅰ (春学期) はミクロ経済学とマクロ経済学の基礎編を学び、経済学Ⅱ (秋学期) は現実の課題を経済理論でどう説明することできるかを学ぶ。

到達目標 この授業の目標は、「経済学の理論と日本経済の制度的側面や経済指標の実際のデータを解説する部分のバランスを取ることで、理論と実践を同時に身につけられるようにする」ことにある。

その上で、従来の常識にとらわれることなく、自ら日本経済の問題や課題を見つけ、それに対してどうすればいいのかを考える力を取得することを到達目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 40 % + 期末試験 60 %
受講態度は 4 回程度提出した質問票で評価

ん。デフレ脱却や財政再建、成長力の強化は重要な政策課題になっています。これらは一見すると難しく感じられますが、実は、就職のしやすさや賃金の動向、将来の年金など、私たちの生活に密接に関連した問題でもあります。経済学は、こうしたさまざまな経済問題を体系的に理解するために役立ちます。この授業では、基礎的な理論と統計データの見方を学び、現実の経済について自分なりに考える力を身につけることを目指します。

経済学Ⅰ (春学期) はミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を中心に学び、経済学Ⅱ (秋学期) では現実の経済問題と理論の関わりを中心に学びます。

到達目標 ①簡単な図や数式を使って初歩の経済理論が理解できる、②統計データが何を意味するのか理解できる、③経済指標の解説などのニュースが理解できる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパー (40%) + 期末試験 (60%)

ECN100LA	
経済学Ⅱ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
西崎 文平	
授業コード: Q2044	2017 年度以降入学者
授業コード: P2034	2016 年度以前入学者
開講時期: 秋学期	
履修対象: 法 1 年 J ~ N 組・国 1 年/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 株価や為替レート、GDP の数字など、テレビやネットなどで経済のニュースが取り上げられない日はありません。デフレ脱却や財政再建、成長力の強化は重要な政策課題になっています。これらは一見すると難しく感じられますが、実は、就職のしやすさや賃金の動向、将来の年金など、私たちの生活に密接に関連した問題でもあります。経済学は、こうしたさまざまな経済問題を体系的に理解するために役立ちます。この授業では、基礎的な理論と統計データの見方を学び、現実の経済について自分なりに考える力を身につけることを目指します。

経済学Ⅰ (春学期) はミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を中心に学び、経済学Ⅱ (秋学期) では現実の経済問題と理論の関わりを中心に学びます。

到達目標 ①簡単な図や数式を使って初歩の経済理論が理解できる、②統計データが何を意味するのか理解できる、③経済指標の解説などのニュースが理解できる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパー (40%) + 期末試験 (60%)

ECN100LA	
経済学Ⅰ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅰ	2016 年度以前入学者
梅溪 健児	
授業コード: Q2045	2017 年度以降入学者
授業コード: P2035	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	
履修対象: 法 1 年 S ~ Y 組/法文国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 経済学は多くの内容から構成されるが、本授業では最も基本であるミクロ経済学を学び、入門コースとして骨太な考え方を習得する。家計・企業・政府はどのような基準で経済活動の判断を行うのか、それらの取引により市場はどのような結果になるのかという観点に立って、経済社会の出来事を理解できるようになることが目的である。

到達目標 目標は、①身の回りの出来事の背景にある合理的な判断を知ること、②価格が変化する競争的な市場の意味を理解すること、③日々のニュースの表面的な内容だけでなく深層にあるメカニズムに納得で

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

ECN100LA	
経済学Ⅱ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
水野 和夫	
授業コード：Q2048	2017 年度以降入学者
授業コード：P2038	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・環 1 年・キ 1 年/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 経済学は第三の危機を迎えている。危機において参考になるのは、危機の時代の精神力を与えてくれる古典である。経済学と古典（シェイクスピアなど）を参照しながら、21 世紀の経済的課題の原因を探る。さらに、現実の統計データを読み取る力を身につけ、その背後に隠れている問題点を経済の理論を使ってどのように説明できるかを学ぶ。

経済学Ⅰ（春学期）はミクロ経済学とマクロ経済学の基礎編を学び、経済学Ⅱ（秋学期）は現実の課題を経済理論でどう説明することできるかを学ぶ。

到達目標 この授業の目標は、「経済学の理論と日本経済の制度的側面や経済指標の実際のデータを解説する部分のバランスを取ることで、理論と実践を同時に身につけられるようにする」ことにある。

その上で、従来の常識にとらわれることなく、自ら日本経済の問題や課題を見つけ、それに対してどうすればいいのかを考える力を取得することを到達目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 40 %+期末試験 60 %
受講態度は 4 回程度提出したリアクションペーパー（質問票）で評価

ECN100LA	
経済学Ⅰ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅰ	2016 年度以前入学者
玉之内 直	
授業コード：Q2049	2017 年度以降入学者
授業コード：P2039	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

到達目標 本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 50%+期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と（発表はしなかったものの）発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

ECN100LA	
経済学Ⅱ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
玉之内 直	
授業コード：Q2050	2017 年度以降入学者
授業コード：P2040	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解する。

到達目標 本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 50%+期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と（発表はしなかったものの）発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

PSY100LA	
心理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
浅川 希洋志	
授業コード：Q2071	2017 年度以降入学者
授業コード：P2061	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

到達目標 本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学Ⅱ」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 %となる。

もの特徴を概観し、子どもの具体的な心理について学ぶ。子どもの人間関係、社会性の発達を説明し、子どもの心理治療とこころの問題に言及する。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにする。

- 到達目標** ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
②児童（子ども）の心理を理解する。
③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

成績評価の方法と基準 期末試験 70 %、リアクションペーパー 30 %

PSY100LA	
心理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
浅川 希洋志	
授業コード：Q2072	2017 年度以降入学者
授業コード：P2062	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

到達目標 本講義では、「心理学Ⅰ」で取りあげたこころの理論とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学をとりあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達のモデルとしてのフロア理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 %となる。

PSY100LA	
心理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
櫻井 登世子	
授業コード：Q2073	2017 年度以降入学者
授業コード：P2063	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 I ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） はじめて心理学を学ぶ人を対象として、日本の児童（子ども）に焦点をあてながら、心の発達について解説していく。子どもとはどんな存在なのかについて考え、ことば・知性・思考・動機づけなどの子どもの具体的な心理を説明する。乳幼児や中学生と比べて、児童期の子どもがイメージできるようにする。

- 到達目標** 1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

成績評価の方法と基準 期末試験 70%、リアクションペーパー 30%

PSY100LA	
心理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
櫻井 登世子	
授業コード：Q2074	2017 年度以降入学者
授業コード：P2064	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 I ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の児童（子ども）の健全育成につながるために、子どものとらえ方、子ども時代の特徴、いまどきの子ど

PSY100LA	
心理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
小島 弥生	
授業コード：Q2075	2017 年度以降入学者
授業コード：P2065	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

到達目標 「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。また、受講者には心理学Ⅱを連続履修することを期待します。

成績評価の方法と基準 不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

PSY100LA	
心理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
小島 弥生	
授業コード：Q2076	2017 年度以降入学者
授業コード：P2066	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

到達目標 「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。

成績評価の方法と基準 不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PSY100LA	
心理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
海部 紀行	
授業コード：Q2077	2017 年度以降入学者
授業コード：P2067	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文１年Ａ～Ｎ組・キ１年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 多岐にわたる心理学のなかでも、アカデミックな領域を概観します。

知覚心理学，学習心理学，進化心理学，神経心理学，認知心理学，感情心理学，発達心理学，といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。
※参考：心理学Ⅱでは，パーソナリティ心理学，社会心理学，臨床心理学，といった分野を学びます。

到達目標 心理学とはどのようなものかを理解することが目標です。
ヒト（心）について，さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。
心理学的な視点で，自分のこと，周りのことを考えられるようになることをめざします。
「心」とは何か，といったことに関して，幾つかのキーワードを用いつつ，批判的に検討・検証し，記述できるようになります。

成績評価の方法と基準 試験点（100％）：授業内試験（当日配付・出題の試験用紙に記述）で評価します。
電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし，剽窃はアウト！）です。
テキストを持参すれば十分に回答できるものです。
理解度および各回の取り組み姿勢・態度の反映具合で採点します。

PSY100LA	
心理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
海部 紀行	
授業コード：Q2078	2017 年度以降入学者
授業コード：P2068	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文１年Ａ～Ｎ組・キ１年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 多岐にわたる心理学のなかでも，アカデミックな領域を概観します。

パーソナリティ心理学，社会心理学，臨床心理学，といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。
※参考：心理学Ⅰでは，知覚心理学，学習心理学，進化心理学，神経心理学，認知心理学，感情心理学，発達心理学，といった分野を学びます。

到達目標 心理学とはどのようなものかを理解することが目標です。
ヒト（心）について，さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。
心理学的な視点で，自分のこと，周りのことを考えられるようになることをめざします。
「心」とは何か，といったことに関して，幾つかのキーワードを用いつつ，批判的に検討・検証し，記述できるようになります。

成績評価の方法と基準 試験点（100％）：授業内試験（当日配付・出題の試験用紙に記述）で評価します。
電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし，剽窃はアウト！）です。
テキストを持参すれば十分に回答できるものです。
理解度および各回の取り組み姿勢・態度の反映具合で採点します。

PSY100LA	
心理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
浅川 希洋志	
授業コード：Q2079	2017 年度以降入学者
授業コード：P2069	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文１年Ｐ～Ｘ組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに，私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

到達目標 本講義では，フロイト，ユング，エリクソンの理論をとりあげ，それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また，「心理学Ⅱ」を連続履修することにより，さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し，展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって，「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」を連続履修することを期待する。このような授業を通して，最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。したがって，成績評価の「配分（％）」は期末試験 100％となる。

PSY100LA	
心理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
浅川 希洋志	
授業コード：Q2080	2017 年度以降入学者
授業コード：P2070	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文１年Ｐ～Ｘ組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに，私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

到達目標 本講義では，「心理学Ⅰ」で取りあげたこころの理論とは大きく立場の異なる行動主義心理学，ゲシュタルト心理学，人間性の心理学をとりあげ，それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また，人間発達のモデルとしてのフロー理論を紹介し，日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して，最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。したがって，成績評価の「配分（％）」は期末試験 100％となる。

PSY100LA	
心理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
小島 弥生	
授業コード：Q2081	2017 年度以降入学者
授業コード：P2071	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

到達目標 「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。また、受講者には心理学Ⅱを連続履修することを期待します。

成績評価の方法と基準 不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

PSY100LA	
心理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
小島 弥生	
授業コード：Q2082	2017 年度以降入学者
授業コード：P2072	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

到達目標 「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。

成績評価の方法と基準 不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

PSY100LA	
心理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
海部 紀行	
授業コード：Q2083	2017 年度以降入学者
授業コード：P2073	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 多岐にわたる心理学のなかでも、アカデミックな領域を概観します。

知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、認知心理学、感情心理学、発達心理学、といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学Ⅱでは、パーソナリティ心理学、社会心理学、臨床心理学、といった分野を学びます。

到達目標 心理学とはどのようなものを理解することが目標です。ヒト（心）について、さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。

心理学的な視点で、自分のこと、周りのことを考えられるようになることをめざします。

「心」とは何か、といったことに関して、幾つかのキーワードを用いつつ、批判的に検討・検証し、記述できるようになります。

成績評価の方法と基準 試験点（100％）：授業内試験（当日配付・出題の試験用紙に記述）で評価します。

電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし、剽窃はアウト！）です。

テキストを持参すれば十分に回答できるものです。

理解度および各回の取り組み姿勢・態度の反映具合で採点します。

PSY100LA	
心理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
海部 紀行	
授業コード：Q2084	2017 年度以降入学者
授業コード：P2074	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 多岐にわたる心理学のなかでも、アカデミックな領域を概観します。

パーソナリティ心理学、社会心理学、臨床心理学、といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学Ⅰでは、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、認知心理学、感情心理学、発達心理学、といった分野を学びます。

到達目標 心理学とはどのようなものを理解することが目標です。ヒト（心）について、さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。

心理学的な視点で、自分のこと、周りのことを考えられるようになることをめざします。

「心」とは何か、といったことに関して、幾つかのキーワードを用いつつ、批判的に検討・検証し、記述できるようになります。

成績評価の方法と基準 試験点（100％）：授業内試験（当日配付・出題の試験用紙に記述）で評価します。

電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし、剽窃はアウト！）です。

テキストを持参すれば十分に回答できるものです。

理解度および各回の取り組み姿勢・態度の反映具合で採点します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PSY100LA	
心理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
櫻井 登世子	
授業コード：Q2085	2017 年度以降入学者
授業コード：P2075	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） はじめて心理学を学ぶ人を対象として、日本の児童（子ども）に焦点をあてながら、心の発達について解説していく。子どもとはどんな存在なのかについて考え、ことば・知性・思考・動機づけなどの子どもの具体的な心理を説明する。乳幼児や中学生と比べて、児童期の子どもがイメージできるようにする。

到達目標 1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

成績評価の方法と基準 期末試験 70%、リアクションペーパー 30%

PSY100LA	
心理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
櫻井 登世子	
授業コード：Q2086	2017 年度以降入学者
授業コード：P2076	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：国環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の児童（子ども）の健全育成につながるために、子どものとらえ方、子ども時代の特徴、いまどきの子どもの特徴を概観し、子どもの具体的な心理について学ぶ。子どもの人間関係、社会性の発達を説明し、子どもの心理治療とこころの問題に言及する。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにする。

到達目標 ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
②児童（子ども）の心理を理解する。
③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

成績評価の方法と基準 期末試験 70 %、リアクションペーパー 30 %

GEO100LA	
地理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
高木 正	
授業コード：Q2111	2017 年度以降入学者
授業コード：P2091	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考える

ことの大切さを学びます。

到達目標 現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。

GEO100LA	
地理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
高木 正	
授業コード：Q2112	2017 年度以降入学者
授業コード：P2092	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

到達目標 現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。

GEO100LA	
地理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
前川 明彦	
授業コード：Q2113	2017 年度以降入学者
授業コード：P2093	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

到達目標 現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験（60 %）、レポート・平常点（40 %）で評価いたします。詳細については最初の授業時などで説明します。

成績評価の方法と基準 授業内試験で評価します。

GEO100LA	
地理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
前川 明彦	
授業コード：Q2114	2017 年度以降入学者
授業コード：P2094	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

到達目標 現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験（60％） レポートおよびリアクションシートなど（40％）で評価。これらについては、最初の授業時などで説明します。

GEO100LA	
地理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
米家 志乃布	
授業コード：Q2115	2017 年度以降入学者
授業コード：P2095	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

到達目標 現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 授業内試験で評価いたします。

GEO100LA	
地理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
米家 志乃布	
授業コード：Q2116	2017 年度以降入学者
授業コード：P2096	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

到達目標 現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

GEO100LA	
地理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
長沢 利明	
授業コード：Q2117	2017 年度以降入学者
授業コード：P2097	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

到達目標 現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末におこなわれる試験によって成績評価をおこないます。

GEO100LA	
地理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
長沢 利明	
授業コード：Q2118	2017 年度以降入学者
授業コード：P2098	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

到達目標 現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験とレポートによって成績評価をおこないます

GEO100LA	
地理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
前畑 明美	
授業コード：Q2119	2017 年度以降入学者
授業コード：P2099	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに海に関わる事象を取り上

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

げます。

到達目標 現代世界の様々な事象、とくに海に関わる事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点（50％）・期末試験（50％）
積極的な姿勢を評価する。

GEO100LA	
地理学Ⅱ	2017年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016年度以前入学者
前畑 明美	
授業コード：Q2120	2017年度以降入学者
授業コード：P2100	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営1年K～U組/法文営国環キ2-4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では、とくに「島」を取り上げて学びます。

到達目標 現代世界の諸地域、とくに「島」について、地誌的に考察することを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点（50％）・期末試験（50％）
積極的な姿勢を評価する。

POL100LA	
政治学Ⅰ	2017年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅰ	2016年度以前入学者
平良 好利	
授業コード：Q2161	2017年度以降入学者
授業コード：P2121	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文1年A～N組/法文営国環キ2-4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、民主主義、選挙、政党、議会、内閣といった政治学にとって重要なテーマを、やや原理的に考察すると同時に、それを踏まえて日本の政治を考察してみたい。

到達目標 政治学の基礎的概念を日本政治に則して説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）、レポート（40％）、期末試験（40％）

POL100LA	
政治学Ⅱ	2017年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅱ	2016年度以前入学者
平良 好利	
授業コード：Q2162	2017年度以降入学者
授業コード：P2122	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文1年A～N組/法文営国環キ2-4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、権力闘争、国益と国力、ナ

ショナリズム、政治と法、政治と道義、イデオロギー、軍縮、バランス・オブ・パワー、そして外交などにかかわる諸問題について、歴史を踏まえてやや原理的に考察し、戦争と平和の問題を考えてみたい。

到達目標 政治学、とりわけ国際政治学の基礎的概念について理解することができ、その基礎的概念を使って現実の政治を説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）、レポート（40％）、期末試験（40％）

POL100LA	
政治学Ⅰ	2017年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅰ	2016年度以前入学者
崔 先鎬	
授業コード：Q2163	2017年度以降入学者
授業コード：P2123	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法1年A～H組・キ1年/法文営国環キ2-4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

到達目標 「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

成績評価の方法と基準 参加度（＝レポートなどの提出物、30％）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70％）

POL100LA	
政治学Ⅱ	2017年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅱ	2016年度以前入学者
崔 先鎬	
授業コード：Q2164	2017年度以降入学者
授業コード：P2124	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法1年A～H組・キ1年/法文営国環キ2-4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

到達目標 「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後各自の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

成績評価の方法と基準 参加度（＝レポートなどの提出物、30％）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70％）

POL100LA	
政治学 I	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学 I	2016 年度以前入学者
平良 好利	
授業コード：Q2165	2017 年度以降入学者
授業コード：P2125	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、民主主義、選挙、政党、議会、内閣といった政治学にとって重要なテーマを、やや原理的に考察すると同時に、それを踏まえて日本の政治を考察してみたい。

到達目標 政治学の基礎的概念を日本政治に則して説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20 %）、レポート（40 %）、期末試験（40 %）

POL100LA	
政治学 II	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学 II	2016 年度以前入学者
平良 好利	
授業コード：Q2166	2017 年度以降入学者
授業コード：P2126	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、権力闘争、国益と国力、ナショナリズム、政治と法、政治と道義、イデオロギー、軍縮、バランス・オブ・パワー、そして外交などにかかわる諸問題について、歴史を踏まえてやや原理的に考察し、戦争と平和の問題を考えてみたい。

到達目標 政治学、とりわけ国際政治学の基礎的概念について理解することができ、その基礎的概念を使って現実の政治を説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20 %）、レポート（40 %）、期末試験（40 %）

POL100LA	
政治学 I	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学 I	2016 年度以前入学者
高橋 和則	
授業コード：Q2167	2017 年度以降入学者
授業コード：P2127	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 I ～ N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に政治制度とそれを支える原理、精神を中心にして政治学の基本を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

到達目標 ①主要国で共有している政治制度についての知識を得る。
②政治制度がいかなる原理に基づいているかを理解する。
③日本の政治制度についての基本的知識を獲得する。

成績評価の方法と基準 ・ 期末に実施する選択肢型試験（100%）

POL100LA	
政治学 II	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学 II	2016 年度以前入学者
高橋 和則	
授業コード：Q2168	2017 年度以降入学者
授業コード：P2128	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 I ～ N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に社会とその中にいる市民を中心にして政治学の基礎を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

到達目標 ①社会における利益（団体）の果たす役割についての知識を習得する。
②世論と民主主義についてを理解する。

成績評価の方法と基準 期末に実施する選択肢型試験（100%）

POL100LA	
政治学 I	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学 I	2016 年度以前入学者
崔 先鎬	
授業コード：Q2169	2017 年度以降入学者
授業コード：P2129	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

到達目標 「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

成績評価の方法と基準 参加度（=レポートなどの提出物、30%）+ 試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）

POL100LA	
政治学 II	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学 II	2016 年度以前入学者
崔 先鎬	
授業コード：Q2170	2017 年度以降入学者
授業コード：P2130	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

到達目標 「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

成績評価の方法と基準 参加度（＝レポートなどの提出物、30%）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）

POL100LA	
政治学Ⅰ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅰ	2016 年度以前入学者
面 一也	
授業コード：Q2171	2017 年度以降入学者
授業コード：P2131	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、必ずしも政治学専攻でない学生向けに書かれた入門書を手がかりとしながら、現代政治の理論と現実を全般的に概観する。政治は生きものなので、書物には載っていない現在進行形のアクチュアルな諸問題も、可能なかぎり積極的に取り扱う。授業全体を通じて、現在の政治が直面している課題と、望ましい未来の政治のあり方について、批判的に考察を進めたい。なお本授業では、国内体制を中心に取り上げる。

- 到達目標**
- 1 現代の政治理論と現実政治の動向を理解する。
 - 2 アクチュアルな政治問題の争点を把握する。
 - 3 現在の政治と未来の政治に関する批判的考察力を身につける。

成績評価の方法と基準 期末筆記試験（80 %）
リアクション・ペーパー（20%）

POL100LA	
政治学Ⅱ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅱ	2016 年度以前入学者
面 一也	
授業コード：Q2172	2017 年度以降入学者
授業コード：P2132	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、必ずしも政治学専攻でない学生向けに書かれた入門書を手がかりとしながら、現代政治の理論と現実を全般的に概観する。政治は生きものなので、書物には載っていない現在進行形のアクチュアルな諸問題も、可能なかぎり積極的に取り扱う。授業全体を通じて、現在の政治が直面している課題と、望ましい未来の政治のあり方について、批判的に考察を進めたい。なお本授業では、国際体制を中心に取り上げる。

- 到達目標**
- 1 現代の政治理論と現実政治の動向を理解する。
 - 2 アクチュアルな政治問題の争点を把握する。
 - 3 現在の政治と未来の政治に関する批判的考察力を身につける。

成績評価の方法と基準 期末筆記試験（80 %）。
リアクション・ペーパー（20%）。

POL100LA	
政治学Ⅰ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅰ	2016 年度以前入学者
岡崎 加奈子	
授業コード：Q2173	2017 年度以降入学者
授業コード：P2133	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ O 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 私たちの暮らす現代社会と政治との関係性とはいかなるものであり、私たちの生活にとって政治や政策はどのような意味や役割をもつのだろうか。本講義では、政治学の基礎的概念を身につけ、現代社会における政治的な事象についての基本的な理解を深めることを目的とする。

到達目標 本講義では以下の点を到達目標とする。
学生が現代社会の政治をめぐる制度や理論、歴史について、基本的な理解を得られること。
学生が政治的な事象について自ら思考する力を身につけること。
さらに、こうした理解や思考を文章としてまとめ、表現する力を養うこと。

成績評価の方法と基準 期末試験（65%）と平常点（35%）により総合的に評価する。平常点は、授業内レポートおよび授業内の取り組みにより構成される。

POL100LA	
政治学Ⅱ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅱ	2016 年度以前入学者
岡崎 加奈子	
授業コード：Q2174	2017 年度以降入学者
授業コード：P2134	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K ～ O 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代社会にはいかなる政治的な問題や課題があるのか。
本講義では、戦後の政党政治や自治体の政策について学ぶ中で、より具体的かつ身近な問題として政治を捉え、理解するとともに、社会におけるさまざまな問題を政治学的視点に基づき、制度・運用の両面から考察することを目指す。

到達目標 本講義では、以下の点を到達目標とする。
学生が現代社会における政治制度や歴史の変遷について、より深い知識と理解を得ること。
学生が今日の社会が直面している政治課題とは何か、自ら考察する力を養うこと。
自らの考察を表現し、文章化する能力を高めること。

成績評価の方法と基準 期末試験（65%）および平常点（35%）により、総合的に評価する。平常点は、授業内レポートおよび授業内の取り組みによる。

成績評価の方法と基準 期末試験 70%、平常点 30%

POL100LA	
政治学 I	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学 I	2016 年度以前入学者
高橋 和則	
授業コード：Q2175	2017 年度以降入学者
授業コード：P2135	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 Q ～ U 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に政治制度とそれを支える原理、精神を中心に政治学の基本を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

到達目標 ①主要国で共有している政治制度についての知識を得る。
②政治制度がいかなる原理に基づいているかを理解する。
③日本の政治制度についての基本的知識を獲得する。

成績評価の方法と基準 ・ 期末に実施する選択肢型試験（100%）

POL100LA	
政治学 II	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学 II	2016 年度以前入学者
高橋 和則	
授業コード：Q2176	2017 年度以降入学者
授業コード：P2136	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 Q ～ U 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に社会とそこにいる市民を中心に政治学の基礎を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

到達目標 ①社会における利益（団体）の果たす役割についての知識を習得する。
②世論と民主主義についてを理解する。

成績評価の方法と基準 期末に実施する選択肢型試験（100%）

SOC100LA	
社会学 I	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学 I	2016 年度以前入学者
菅野 摂子	
授業コード：Q2131	2017 年度以降入学者
授業コード：P2141	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

SOC100LA	
社会学 II	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学 II	2016 年度以前入学者
菅野 摂子	
授業コード：Q2132	2017 年度以降入学者
授業コード：P2142	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 期末テスト 70%、平常点 30%

SOC100LA	
社会学 I	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学 I	2016 年度以前入学者
高橋 徹	
授業コード：Q2133	2017 年度以降入学者
授業コード：P2143	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業を履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」を学びます。履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えて行くことを目的とします。

到達目標 この授業を履修する学生は、まず、社会学の基礎的な概念を学びます。続いて、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の興味のあるものを題材として、現代の社会について考えるという課題に取り組みます。

成績評価の方法と基準 授業内作業（50 %）と、期末試験または期末レポート（50 %）によります。授業内作業は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。期末試験または期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
高橋 徹	
授業コード：Q2134	2017 年度以降入学者
授業コード：P2144	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業を履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

到達目標 この授業を履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の興味のあるものを題材として、現在の社会について考えるという課題に取り組みます。

成績評価の方法と基準 授業内作業の内容評価（50 %）と、中間レポート（20 %）、及び期末試験または期末レポート（30 %）によります。授業内作業は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。中間レポートと期末試験または期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

SOC100LA	
社会学Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
高橋 徹	
授業コード：Q2135	2017 年度以降入学者
授業コード：P2145	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業を履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」を学びます。履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えて行くことを目的とします。

到達目標 この授業を履修する学生は、まず、社会学の基礎的な概念を学びます。続いて、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の興味のあるものを題材として、現代の社会について考えるという課題に取り組みます。

成績評価の方法と基準 授業内作業（50 %）と、期末試験または期末レポート（50 %）によります。授業内作業は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。期末試験または期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
高橋 徹	
授業コード：Q2136	2017 年度以降入学者
授業コード：P2146	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業を履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

到達目標 この授業を履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の興味のあるものを題材として、現在の社会について考えるという課題に取り組みます。

成績評価の方法と基準 授業内作業の内容評価（50 %）と、中間レポート（20 %）、及び期末試験または期末レポート（30 %）によります。授業内作業は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。中間レポートと期末試験または期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

SOC100LA	
社会学Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
塚田 修一	
授業コード：Q2137	2017 年度以降入学者
授業コード：P2147	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 平常点（出席およびコメントペーパー）を 30%、中間および期末の 2 回のレポートを 70%として評価する。

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
塚田 修一	
授業コード：Q2138	2017 年度以降入学者
授業コード：P2148	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 平常点（出席およびコメントペーパー）を 30%、中間および期末の 2 回のレポートを 70%として評価する。

SOC100LA	
社会学Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
徐 玄九	
授業コード：Q2139	2017 年度以降入学者
授業コード：P2149	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には（1）人々によって共有されている信念や行動パターンを理解できる。（2）人々の行為に込められた意味を把握することができる。（3）社会現象の記述に用いられる基礎概念を歴史的な文脈に沿って正しく理解できる。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
徐 玄九	
授業コード：Q2140	2017 年度以降入学者
授業コード：P2150	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には（1）社会現象の記述に用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解できる。（2）社会秩序を構想、強制、維持する基本原理について理解できる。（3）最終的には、社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける（＝教養を身に付ける）。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA	
社会学Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
橋本 みゆき	
授業コード：Q2141	2017 年度以降入学者
授業コード：P2151	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 教科書および授業時に配布するレジュメや文献、映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験 80%、平常点 20%

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
橋本 みゆき	
授業コード：Q2142	2017 年度以降入学者
授業コード：P2152	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 教科書および授業時に配布するレジュメや文献、映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験 80%、平常点 20%

SOC100LA	
社会学Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
徐 玄九	
授業コード：Q2143	2017 年度以降入学者
授業コード：P2153	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には (1) 人々によって共有されている信念や行動パターンを理解できる。(2) 人々の行為に込められた意味を把握することができる。(3) 社会現象の記述に用いられる基礎概念を歴史的な文脈に沿って正しく理解できる。

成績評価の方法と基準 平常点 (40%) と論述型の期末試験 (60%) で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
徐 玄九	
授業コード：Q2144	2017 年度以降入学者
授業コード：P2154	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には (1) 社会現象の記述に用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解できる。(2) 社会秩序を構想、強制、維持する基本原理について理解できる。(3) 最終的には、社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける (= 教養を身に付ける)。

成績評価の方法と基準 平常点 (40%) と論述型の期末試験 (60%) で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA	
社会学Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
徐 玄九	
授業コード：Q2145	2017 年度以降入学者
授業コード：P2155	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には (1) 人々によって共有されている信念や行動パターンを理解できる。(2) 人々の行為に込められた意味を把握することができる。(3) 社会現象の記述に用いられる基礎概念を歴史的な文脈に沿って正しく理解できる。

成績評価の方法と基準 平常点 (40%) と論述型の期末試験 (60%) で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
徐 玄九	
授業コード：Q2146	2017 年度以降入学者
授業コード：P2156	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には（1）社会現象の記述に用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解できる。（2）社会秩序を構想、強制、維持する基本原理について理解できる。（3）最終的には、社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける（＝教養を身に付ける）。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅰ	2016 年度以前入学者
ベル 裕紀	
授業コード：Q2191	2017 年度以降入学者
授業コード：P2171	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A～H 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

到達目標 学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 出席および毎回のリアクションペーパー 30%、最終授業での記述式試験 70 % で評価する。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅰ	2016 年度以前入学者
梅村 絢美	
授業コード：Q2193	2017 年度以降入学者
授業コード：P2173	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 I～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、文化人類学に関する複数のトピックを取りあげ、民族誌で描かれる事例や講師の調査経験とともに紹介します。これをふまえ、受講生自身が前提とする「ものの見方」を相対化し、他者との具体的な交渉を通じて自己を理解するという文化相対主義・関係論的アプローチを習得することを目指します。この過程から、支配的な価値・言説にとらわれることのない、他者との対称的かつ具体的な関係構築に根差したコミュニケーションとはいかなるものか、とも考えていきましょう。

到達目標 本授業は、以下の3つの到達目標のもと進めていきます。
（1）人類学の思考の枠組み・対象への接近方法についてさらなる理解を深める。
（2）受講者自身の思考の枠組みを相対化する視点を養い、グローバル規模に展開する様々な社会事象を広い視野でとらえる技法を身につける。
（3）人類学の思考の枠組みをもちいて、受講者自身の経験や身の回りの出来事をとらえ、発信する技法を身につける。

成績評価の方法と基準 授業の各回のリアクションペーパー（40%）と学期末レポート（60%）をもとに総合的に評価します。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅰ	2016 年度以前入学者
岩原 紘伊	
授業コード：Q2195	2017 年度以降入学者
授業コード：P2175	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文化人類学の学問的系譜や基本的な概念を説明したうえで、親族、ジェンダー、経済、宗教などのトピックを取り上げ、人間の多様性や共通点を知る。

到達目標 ①文化人類学の基本的な視座を理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、自己と異文化に生きる他者との間に何かしらの共通点や理解できる部分があるという考え方を身に付け、自己の文化について相対化してとらえられるようになる。

成績評価の方法と基準 コメントシートの内容（30%）と期末試験の点数（70%）により総合的に判断する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学 I	2016 年度以前入学者
長 沢 利明	
授業コード：Q2197	2017 年度以降入学者
授業コード：P2177	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 異文化理解の学問である文化人類学の基本的な考え方や概念を、生殖や家族、グローバリゼーションといったトピックを通して理解する。

到達目標 ①文化が持つ多様性と普遍性について知る。
②複眼的、相対的な視点から異文化と自文化を理解する力を身に付ける。

成績評価の方法と基準 試験の結果によって成績評価をおこなう。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学 I	2016 年度以前入学者
ペル 裕紀	
授業コード：Q2199	2017 年度以降入学者
授業コード：P2179	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

到達目標 学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 出席および毎回のリアクションペーパー 30%、最終授業での記述式試験 70 % で評価する。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学 I	2016 年度以前入学者
梅村 絢美	
授業コード：Q2201	2017 年度以降入学者
授業コード：P2181	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、文化人類学に関する複数のトピックをとりあげ、民族誌で描かれる事例や講師の調査経験とともに紹介します。これをふまえ、受講生自身が前提とする「ものの見方」を相対化し、他者との具体的交渉を通じて自己を理解するという文化相対主義・関係論的アプローチを習得することを目指します。この過程から、支配的な価値・言説にとらわれることのない、他者との対称的かつ具体的な関係構築に根差したコミュニケーションとはいかなるものか、ともに考えていきましょう。

到達目標 本授業は、以下の 3 つの到達目標のもと進めていきます。
(1) 人類学の思考の枠組み・対象への接近方法についてさらなる理解を深める。
(2) 受講者自身の思考の枠組みを相対化する視点を養い、グローバル規模に展開する様々な社会事象を広い視野でとらえる技法を身につける。
(3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、受講者自身の経験や身の回りの出来事をとらえ、発信する技法を身につける。

成績評価の方法と基準 授業の各回のリアクションペーパー（40 %）と学期末レポート（60 %）をもとに総合的に評価します。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学 I	2016 年度以前入学者
阿部 朋恒	
授業コード：Q2203	2017 年度以降入学者
授業コード：P2183	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ O 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 異文化への理解を深めることを通じてものの考え方や暮らし方が多様であることを知り、自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。この授業では、そのために役立つ視点と具体的な事例を、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら学んでいく。

到達目標 テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40 %）、筆記形式の期末試験（60 %）により評価する。なお、期末試験は学生自身が作成した紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学 I	2016 年度以前入学者
岩原 紘伊	
授業コード：Q2205	2017 年度以降入学者
授業コード：P2185	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 Q ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文化人類学の学問的系譜や基本的な概念を説明したうえで、親族、ジェンダー、経済、宗教などのトピックを取り上げ、人間の多様性や共通点を知る。

到達目標 ①文化人類学の基本的な視座を理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、自己と異文化に生きる他者の間に何かしらの共通点や理解できる部分があるという視点を身に付け、自己の文化について相対化してとらえられるようになる。

成績評価の方法と基準 コメントシートの内容（30 %）と試験の点数（70 %）により総合的に判断する。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学 I	2016 年度以前入学者
中島 成久	
授業コード：Q2207	2017 年度以降入学者
授業コード：P2187	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「人種・民族問題入門、米欧偏」というテーマで授業を行う。文化人類学を学ぶ上で、「人種・民族問題」をどのように考えるかは重要なイシューである。春学期は主に米欧における人種・民族問題を考える。

到達目標 グローバル化の現在、文化人類学を学ぶ上で、人種・民族へのスタンスの取り方は最も基本的な課題である。日本においては日常あまり意識のすることのないこの問題を世界の事例を通して学び、視野を広げることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業内試験（70%）＋平常点（30%）

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学 I	2016 年度以前入学者
阿部 朋恒	
授業コード：Q2209	2017 年度以降入学者
授業コード：P2189	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：環・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 異文化への理解を深めることを通じてものの考え方や暮らし方が多様であることを知り、自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。この授業では、そのために役立つ視点と具体的な事例を、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら学んでいく。

到達目標 テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40%）、筆記形式の期末試験（60%）により評価する。なお、期末試験は学生自身が作成した紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。

SOS100LA	
社会思想 I	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想 I	2016 年度以前入学者
犬塚 元	
授業コード：Q2211	2017 年度以降入学者
授業コード：P2201	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「社会思想」は、社会や共存をめぐるさまざまな考え（社会思想）や、その歴史（社会思想史）を学ぶ科目で

す。過去や他人の思想を学ぶことで、わたしたちの社会思想を豊かにすることをめざす科目です（特定の社会思想を押しつけるわけではありません）。「社会思想 I」のこのクラスでは、かならずしも理解が容易ではない一般的な社会思想史の通史でなく、理想社会論（ユートピア論）を主題にして、過去から現代までの社会思想をたどります。

到達目標 （1）古代から現代までの代表的なユートピア論について理解を深めて、人類がこれまでにどのように、どのような理想社会を論じてきたかを理解する。（2）社会や共存にかかわる論点・争点や、さまざまな論じ方を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（コメントペーパー、発言、貢献など。50点）、期末試験（50点）。授業への出席は単位修得の前提条件です。

SOS100LA	
社会思想 II	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想 II	2016 年度以前入学者
犬塚 元	
授業コード：Q2212	2017 年度以降入学者
授業コード：P2202	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「社会思想」は、社会や共存をめぐるさまざまな考え（社会思想）や、その歴史（社会思想史）を学ぶ科目です。過去や他人の思想を学ぶことで、わたしたちの社会思想を豊かにすることをめざす科目です（特定の社会思想を押しつけるわけではありません）。「社会思想 II」のこのクラスでは、かならずしも理解が容易ではない一般的な社会思想史の通史でなく、「社会思想史における女性／男性」をテーマにして、過去から現代までの社会思想史において女性／男性や性がどのように論じられてきたか、をたどります。

到達目標 （1）「社会思想史における女性／男性」について理解を深め、人類がこれまでにどのように女性／男性や性を論じてきたかを理解する。（2）ジェンダーやセクシャリティにかかわる論点・争点を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（コメントペーパー、発言、貢献など。50点）、期末試験（50点）。授業への出席は単位修得の前提条件です。

SOS100LA	
社会思想 I	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想 I	2016 年度以前入学者
福田 名津子	
授業コード：Q2213	2017 年度以降入学者
授業コード：P2203	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 I ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、哲学・政治学・経済学を軸に、古代ギリシアから 18 世紀までの西洋社会思想史を概観する。特に、宗教と世俗の秩序に同時に束縛され、自立性を持たなかった古代および中世の人間像が、ルネサンスと宗教改革・市民革命を経てこれを回復していく過程、それに呼応して近代的な政治理論の組み立てられていく過程を重視する。

過去の思想を理解するには、ある思想家の「頭のなか」と「文脈」を正確に描き出すことが必要であり、易しい作業ではない。だが、その努力は現実社会を自分の視点で眺めようとする際、私たちが他者を理解しようとする際に大きく役立つと考えている。

到達目標 古代ギリシアの政治思想を理解できる。
宗教と世俗の秩序対立が理解できる。
近代の国家観・社会観が理解できる。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験による。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016 年度以前入学者
福田 名津子	
授業コード：Q2214	2017 年度以降入学者
授業コード：P2204	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 I ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、哲学・政治学・経済学を軸に、フランス革命後から 20 世紀までの西洋社会思想史を概観する。特に、18 世紀啓蒙を経て文明が成熟期を迎えた次の展開、その多様性を重視する。

過去を思想を理解するには、ある思想家の「頭のなか」と「文脈」を正確に描き出すことが必要であり、易しい作業ではない。だが、その努力は現実社会を自分の視点で眺めようとする際、私たちが他者を理解しようとする際に大きく役立つと考えている。

到達目標 現代民主主義の展開を理解できる。
文明の到達点を積極面・消極面の双方から理解できる。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験による。

SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2016 年度以前入学者
洪 貴義	
授業コード：Q2215	2017 年度以降入学者
授業コード：P2205	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではハンナ・アーレントの思想を学びます。20 世紀初頭のヨーロッパにおける世界戦争と革命という困難な時代を、ユダヤ系ドイツ人として生きたアーレントは政治的思考について斬新で鮮烈な思考の足跡を残しています。

この授業では 19 世紀から 20 世紀にかけての政治経験を背景にして、アーレントの生涯を外観しながら、彼女の政治的思考を学ぶことを目的とします。

到達目標 世界戦争と革命の歴史的背景について理解すること、アーレントの思考スタイルに親しむこと、そして現代の政治状況についてアーレントとともに考える訓練をすることがこの授業の到達目標です。

成績評価の方法と基準 各授業の出席とコメントメールによる平常点 (40 %)、学期末レポート (60 %)

SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016 年度以前入学者
洪 貴義	
授業コード：Q2216	2017 年度以降入学者
授業コード：P2206	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではエドワード・W・サイードの思想を学びます。1935 年にエルサレムに生まれ、2003 年にアメリカに没したサイードは生涯をかけて「西洋」と「東洋」に分断された二項対立を突き崩そうと奮闘しました。ジャンパチスタ・ヴィーコとその文献学に学びながら、人文学と批評の使命に殉じたサイードの著作と思想を学ぶことがこの授業の目的です。

到達目標 サイードの生涯と彼が生きた歴史的 세계について理解すること、サイードの主要著作について理解を深めること、サイードから見た、わたしたちの生きる東アジア世界について理解を持つことを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 各授業ごとに提出するコメントメールによる出席とコメント内容 (40 %) と、期末レポート (60 %) によって評価します。

SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2016 年度以前入学者
網谷 壮介	
授業コード：Q2217	2017 年度以降入学者
授業コード：P2207	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この科目では西欧の社会思想史を学びます。社会思想史とは、これまで人びとが、人間や社会、政治についてどのように考察してきたのかを研究する学問です。春学期は社会契約論という考え方を学びます。過去の思想を理解することで、私たちが「当たり前」だと思っている社会のあり方や制度について批判的に問い直す視座を獲得することが目的です。

到達目標 本講義は社会契約論という考え方をテーマに、主に 17 世紀から現代の思想家までを取り上げます。社会契約論とは「私たちの社会は契約によって成り立っている」という発想です。これは、ちょっとぎょっとする考え方かもしれませんが、どうして国家に服従しなければならないのか、政治はどのように行われるべきか、どんな社会が正しい社会なのかといった問題を考える際に、非常に重要なツールとなります。代表的な思想家の考え方を理解し、それらの違いや特徴を説明できるようになることが目標です。

成績評価の方法と基準 平常点 (30 パーセント) + 期末試験 (70 パーセント) 平常点はリアクションペーパーを中心に、授業内での発言や質問、聴講態度を考慮します。

SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016 年度以前入学者
網谷 壮介	
授業コード：Q2218	2017 年度以降入学者
授業コード：P2208	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この科目では西欧の社会思想史を学びます。社会思想史とは、これまで人びとが、人間や社会、政治についてどのように考察してきたのかを研究する学問です。秋学期は公共性に関する思想史を学びます。過去を思想を理解することで、私たちが「当たり前」だと思っている社会のあり方や制度について、批判的に問い直す視座を獲得することが目的です。

到達目標 本講義では公共性という概念を歴史の中で検討することで、「公」と「私」の関係の望ましいあり方を考えます。到達目標は、(1) 古代と近代、現代で公共性概念にどのような違いが見られるか、(2) カント、アーレント、ハーバーマスの公共性概念とはどのようなものか、(3) 現代の公共性の問題は何かを理解し、自分の言葉で説明できるようになることです。

成績評価の方法と基準 平常点 (30 パーセント) + 期末試験 (70 パーセント) 平常点はリアクションペーパーを中心に、授業内での発言や質問、聴講態度を考慮します。

SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2016 年度以前入学者
熊沢 敏之	
授業コード：Q2219	2017 年度以降入学者
授業コード：P2209	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会思想の形成・流通・普及の過程を、日本における人文書の興亡とジャーナリズムの展開のなかで考える。敗戦後の 1945 年から 1980 年代まで、もっとも精彩を放ちながら戦後日本をリードした思想家と人文書、および出版社に焦点を合わせ、その思想が社会に与えたインパクトと意味を析出する。現役の出版人による戦後出版通史、人文学史。

到達目標 いまや古典となりつつある基本的な参考文献を読み、社会と思想とメディアの機能について「批判的」「批評的」な思考を培うこと。戦後人文学の興亡を見極めながら、自主的な読書と研究を実践できるようになること。

成績評価の方法と基準 成績評価は期末試験のみ (100 %)。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。試験は筆記・論述。

SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016 年度以前入学者
熊沢 敏之	
授業コード：Q2220	2017 年度以降入学者
授業コード：P2210	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 19 世紀のパリでは、成熟を始めた資本主義のもとで、ヨーロッパ随一の大都市文化が花開こうとしていた。20 世紀最高の思想家ヴァルター・ベンヤミンは、変貌するパリの根源的意味を問おうと、「パリ——十九世紀の首都」を書いた。この優れたエッセーを精読しながら、19 世紀パリに展開したさまざまなイメージを復元し、芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う、この変化の時代を思想的に読み解いていく。

到達目標 20 世紀最高のテキストを読み、社会と思想とメディアの機能、および文化と歴史の関連について、「批判的」「批評的」な思考を培うこと。とりわけ、論理とイメージが交錯する「エッセーの思想」の精髓に触れられるよう、パワーポイントの資料を見ながら忍耐強くテキストと向き合うこと。

成績評価の方法と基準 成績評価は期末試験のみ (100 %) 講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。試験は筆記・論述。

SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2016 年度以前入学者
福田 名津子	
授業コード：Q2221	2017 年度以降入学者
授業コード：P2211	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、哲学・政治学・経済学を軸に、古代ギリシアから 18 世紀までの西洋社会思想史を概観する。特に、宗教と世俗の秩序に同時に束縛され、自立性を持たなかった古代および中世の人間像が、ルネサンスと宗教改革・市民革命を経てこれを回復していく過程、それに呼応して近代的な政治理論の組み立てられていく過程を重視する。

過去を思想を理解するには、ある思想家の「頭のなか」と「文脈」を正確に描き出すことが必要であり、易しい作業ではない。だが、その努力は現実社会を自分の視点で眺めようとする際、私たちが他者を理解しようとする際に大きく役立つと考えている。

到達目標 古代ギリシアの政治思想を理解できる。
宗教と世俗の秩序対立が理解できる。
近代の国家観・社会観が理解できる。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験による。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016 年度以前入学者
福田 名津子	
授業コード：Q2222	2017 年度以降入学者
授業コード：P2212	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、哲学・政治学・経済学を軸に、フランス革命後から 20 世紀までの西洋社会思想史を概観する。特に、18 世紀啓蒙を経て文明が成熟期を迎えた次の展開、その多様性を重視する。

過去を思想を理解するには、ある思想家の「頭のなか」と「文脈」を正確に描き出すことが必要であり、易しい作業ではない。だが、その努力は現実社会を自分の視点で眺めようとする際、私たちが他者を理解しようとする際に大きく役立つと考えている。

到達目標 現代民主主義の展開を理解できる。
文明の到達点を積極面・消極面の双方から理解できる。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験による。

ECN200LA	
経済学Ⅱ A	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の基礎	
中平 千彦	
授業コード：Q2321	2017 年度以降入学者
授業コード：P2043	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義は、春学期開講『経済学ⅡA』(担当:中平)です。この講義で学んだ内容は、秋学期開講『経済学ⅡB』(担当:中平)に接続されます。

受講生の皆さんは、「経済学」に対してどのような印象を持っているのでしょうか？

経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競合する目的を考慮しながら決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。

春学期開講『経済学ⅡA』では、「ミクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」の基礎をコンパクトに解説し、受講生にそれらを速習してもらうことを目指します。

到達目標 ・ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の理論的基礎を説明できるようになる。
・ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学のに関する基本的問題を、社会科学的に思考・表現することができるようになる。

成績評価の方法と基準 ・[試験 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
・各種公式行事の出席などによる止むを得ない欠席は、申告によって出席扱いとすることがありますので、これに該当する可能性がある場合は、早期に講義担当者に相談してください。
・出席数が規定数を下回る場合は、特別な場合を除き、単位を認定しません。

ECN200LA	
経済学Ⅱ B	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：観光経済学	
中平 千彦	
授業コード：Q2322	2017 年度以降入学者
授業コード：P2044	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、応用経済学の一分野としての「観光経済学」を学びます。

観光経済学のトピックの中で、特に基本的フレームワークを形成する主要な項目を、ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の理論に立脚して理解することを目指します。

到達目標 ・観光経済学の基礎的事項を説明できるようになる。
・観光経済学に関する基本的問題をミクロ (マイクロ)・マクロ経済学理論に基づいて思考・表現することができるようになる。

成績評価の方法と基準 ・[試験 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
・各種公式行事の出席などによる止むを得ない欠席は、申告によって出席扱いとすることがありますので、これに該当する可能性がある場合は、早期に講義担当者に相談してください。
・出席数が規定数を下回る場合は、特別な場合を除き、単位を認定しません。

ECN200LA	
経済学Ⅱ A	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：経済学の考え方の根底にあるもの	
水野 和夫	
授業コード：Q2323	2017 年度以降入学者
授業コード：P2045	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 経済学とは、どのような考え方に基いて理論を構築しているかを身に着けることができる。近代経済学は、21 世紀の経済が抱える課題、たとえば、デフレ、ゼロ金利、長期停滞、そして格差・貧困問題などの原因をどうとらえ、どう対処しようとしているのかを学ぶことができる。

現実には、近代経済学はこれらの問題に対して有効な処方箋を提示できない。「近代経済学」を再検討することで、経済学にとって何が求められているのかを理解できるようになる。

到達目標 18 世紀後半に誕生した経済学の基本的概念は、そのときの時代環境とともに変化してきたことを学ぶことで、日本の「失われた 20 年」の背景を考えることができる。

なぜ、20 年にわたるデフレが続いているのか、ゼロ金利は何を意味しているのか、トランプ大統領誕生によりグローバリゼーションは曲がり角を迎えているのか否かを、自ら考える能力を身に付けることができる。

秋学期の「経済学ⅡB」を合わせて受講することで、春学期の到達目標がさらに高まる。

成績評価の方法と基準 受講態度 40 %・期末試験 60 %
受講態度は 4 回程度提出した質問票で評価

ECN200LA	
経済学Ⅱ B	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：経済学の根底にある倫理	
水野 和夫	
授業コード：Q2324	2017 年度以降入学者
授業コード：P2046	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 経済学は、元来倫理学、道徳学、法学と一体化することで、人間とは何かを考えようとする学問であった。19 世紀以降、そうした考え方が希薄化し、専門化の方向を選んだ。

21 世紀にはいつ、正統派経済学は様々な問題に有効な処方箋を提示できなくなりつつあり、再度、倫理学、道徳学、法学の関連性を問うことで、経済学の再構築を考察することができる。

到達目標 「近代経済学の再検討」を通じて、21 世紀の世界経済が抱える問題の背景、原因を考えることができる。さらに、「近代とはいかなる時代か」を考えることができるようになる。そして、近代が「発見」した社会とはいかなる概念であるかを考えることで、21 世紀の抱える課題を理解することができる。

春学期の「経済学ⅡA」で到達目標としたことをさらに高めることができる。

成績評価の方法と基準 受講態度 40 %+期末試験 60 %
受講態度は 4 回程度提出した質問票で評価

ECN200LA	
経済学Ⅱ A	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：東アジア経済発展論	
陳 文学	
授業コード：Q2325	2017 年度以降入学者
授業コード：P2041	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 21 世紀はアジアの時代だと言われており、中国やアジア新興国の台頭によってアジア地域のみならず、世界の政治経済、社会文化、安全保障の構図も変わりつつある。本講義では経済発展の基礎理論に基づき、東アジア経済発展の歴史、過程、経験と教訓などについて学ぶ。また、中国経済発展の諸要因および諸問題について考察する。さらに、日中経済の相互依存および東アジア地域経済統合の動きについて展望する。

到達目標 現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

成績評価の方法と基準 授業に対する理解、平時課題レポートおよび期末レポートの完成状況（70 %）
授業態度、演習・リアクションペーパー完成状況および平常点（30 %）

ECN200LA	
経済学Ⅱ B	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：中国経済発展論	
陳 文学	
授業コード：Q2326	2017 年度以降入学者
授業コード：P2042	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 21 世紀はアジアの時代だと言われており、中国やアジア新興国の台頭によってアジア地域のみならず、世界の政治経済、社会文化、安全保障の構図も変わりつつある。本講義では経済発展の基礎理論に基づき、中国が計画経済から市場経済への移行の背景、過程、経済高度成長の諸要因について分析する。また、中国経済の急成長は日中関係、東アジア地域に与える影響などについても議論する。

到達目標 現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

成績評価の方法と基準 授業に対する理解、平時課題レポートおよび期末レポートの完成状況（70 %）
授業態度、演習・リアクションペーパー完成状況および平常点（30 %）

PSY200LA	
心理学Ⅱ A	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：行動や出来事の原因を探る	
海部 紀行	
授業コード：Q2341	2017 年度以降入学者
授業コード：P2077	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） アカデミックな心理学〔行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベース）を踏まえて、より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学〕を学びます。
「弱くて頑張れない?」、「見つかりたくないけれど、存在は認められない?」、時折そんなふうに感じてしまうことがあるとしたら、それはなぜなのか…、どうしたらよいのだろうか…、といったことを考えます。

到達目標 行動や出来事の原因の探り方、そのとき起きる錯誤などを考えることが目標です。

知識を身につけるとともに、潜在的な可能性を生かす技能を鍛え、一面的な決めつけや思い込みにとらわれず、いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。
自ら問題（テーマ）を設定し、批判的な検討・検証のうえで、的確な意見を論じることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（20 %）：コメントによる「対話」や「議論」

試験点（80 %）：自由記述の小論文
講義に参加して気づいたこと、感じ思い考えたことなどをもとに、各自で問題（テーマ）を設定し、論じてください。
電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし、剽窃はアウト!）です。
テーマは適切か、記述に飛躍や矛盾がないか、批判的・主体的な意見を述べているか、といった観点で評価します。
平常点と試験点とは（悩み考えたことや講義の組み立てに関わった度合い、姿勢・態度の反映もみながら）総合的に採点します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PSY200LA	
心理学Ⅱ B	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：他者と自己による対人関係	
海部 紀行	
授業コード：Q2342	2017 年度以降入学者
授業コード：P2078	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） アカデミックな心理学〔行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベーシック）を踏まえて、より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学⇒臨床社会心理学〕を学びます。
「弱くて頑張れない?」、「見つかりたくないけれど、存在は認められない?」、時折そんなふうに感じてしまうことがあるとしたら、それはなぜなのか…、どうしたらよいのだろうか…、といったことを考えます。

到達目標 他者と自己とが織りなす対人関係、そこから生じる葛藤やストレスへの対処などを考えることが目標です。
知識を身につけるとともに、潜在的な可能性を生かす技能を鍛え、一面的な決めつけや思い込みにとらわれず、いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。
自ら問題（テーマ）を設定し、批判的な検討・検証のうえで、的確な意見を論じることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）：コメントによる「対話」や「議論」
試験点（80％）：自由記述の小論文
講義に参加して気づいたこと、感じ思考えたことなどをもとに、各自で問題（テーマ）を設定し、論じてください。
電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし、剽窃はアウト!）です。
テーマは適切か、記述に飛躍や矛盾がないか、批判的・主体的な意見を述べているか、といった観点で評価します。
平常点と試験点とは（悩み考えたことや講義の組み立てに関わった度合い、姿勢・態度の反映もみながら）総合的に採点します。

PSY200LA	
心理学Ⅱ A	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：行動や出来事の原因を探る	
海部 紀行	
授業コード：Q2343	2017 年度以降入学者
授業コード：P2079	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） アカデミックな心理学〔行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベーシック）を踏まえて、より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学⇒臨床社会心理学〕を学びます。
「弱くて頑張れない?」、「見つかりたくないけれど、存在は認められない?」、時折そんなふうに感じてしまうことがあるとしたら、それはなぜなのか…、どうしたらよいのだろうか…、といったことを考えます。

到達目標 行動や出来事の原因の探り方、そのとき起きる錯誤などを考えることが目標です。
知識を身につけるとともに、潜在的な可能性を生かす技能を鍛え、一面的な決めつけや思い込みにとらわれず、いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。
自ら問題（テーマ）を設定し、批判的な検討・検証のうえで、的確な意見を論じることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）：コメントによる「対話」や「議論」
試験点（80％）：自由記述の小論文

講義に参加して気づいたこと、感じ思考えたことなどをもとに、各自で問題（テーマ）を設定し、論じてください。
電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし、剽窃はアウト!）です。
テーマは適切か、記述に飛躍や矛盾がないか、批判的・主体的な意見を述べているか、といった観点で評価します。
平常点と試験点とは（悩み考えたことや講義の組み立てに関わった度合い、姿勢・態度の反映もみながら）総合的に採点します。

PSY200LA	
心理学Ⅱ B	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：他者と自己による対人関係	
海部 紀行	
授業コード：Q2344	2017 年度以降入学者
授業コード：P2080	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） アカデミックな心理学〔行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベーシック）を踏まえて、より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学⇒臨床社会心理学〕を学びます。
「弱くて頑張れない?」、「見つかりたくないけれど、存在は認められない?」、時折そんなふうに感じてしまうことがあるとしたら、それはなぜなのか…、どうしたらよいのだろうか…、といったことを考えます。

到達目標 他者と自己とが織りなす対人関係、そこから生じる葛藤やストレスへの対処などを考えることが目標です。
知識を身につけるとともに、潜在的な可能性を生かす技能を鍛え、一面的な決めつけや思い込みにとらわれず、いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。
自ら問題（テーマ）を設定し、批判的な検討・検証のうえで、的確な意見を論じることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）：コメントによる「対話」や「議論」
試験点（80％）：自由記述の小論文
講義に参加して気づいたこと、感じ思考えたことなどをもとに、各自で問題（テーマ）を設定し、論じてください。
電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし、剽窃はアウト!）です。
テーマは適切か、記述に飛躍や矛盾がないか、批判的・主体的な意見を述べているか、といった観点で評価します。
平常点と試験点とは（悩み考えたことや講義の組み立てに関わった度合い、姿勢・態度の反映もみながら）総合的に採点します。

GEO200LA	
地理学Ⅱ A	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：世界の風景と地域	
米家 志乃布	
授業コード：Q2351	2017 年度以降入学者
授業コード：P2107	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 授業の概要：世界の風景を地図やデータから読む
授業の目的：世界の様々な都市を素材として、現代社会と地域の関係を人文地理学的に考えることを目的とします。

到達目標 本授業では、世界の都市図に注目し、古地図と現在の地図を比較することから、都市の立地環境や都市形成の歴史を考察します。各都市における各地域の文化や遺産の在り方、現代社会と都市の関係について、その国や自治体の政策や都市に生活する人々の視点からもみてい

きます。本授業を通して、様々な地域の歴史・文化・経済・社会を総合的に捉え、単なる知識の吸収ではなく、地図をもとに地理学的に考える力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 授業内試験で評価します。

GEO200LA	
地理学 L B	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本の風景と地域	
米家 志乃布	
授業コード：Q2352	2017 年度以降入学者
授業コード：P2108	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 授業の概要：日本の風景を地図やデータから読む
授業の目的：日本の様々な都市を素材として、現代社会と地域の関係を人文地理学的に考えることを目的とします。

到達目標 本授業では、日本各地の都市図に注目し、古地図と現在の地図を比較することから、都市の立地環境や都市形成の歴史を考察します。都市における各地域の文化や遺産の在り方、現代社会と都市の関係について、自治体の政策や都市に生活する人々の視点からもみていきます。本授業を通して、様々な地域の歴史・文化・経済・社会を総合的に捉え、単なる知識の吸収ではなく、地図をもとに地理学的に考える力を養うことを目標とします。また、日本らしい風景とは何か、を考えるために、日本の遺産全般について、今後の保存に関する課題についても考えます。

成績評価の方法と基準 授業内試験で評価します。

GEO200LA	
地理学 L C	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
片岡 義晴	
授業コード：Q2353	2017 年度以降入学者
授業コード：P2109	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代世界の地域・社会問題を学んでいきます。

到達目標 食料、人口、貧困問題などを手がかりにして、現代世界の地域・社会問題を学んでいきます。それら問題が相互に関連し、問題を如何に複雑化させているのか、その構造を学んでいきます。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述形式の筆記試験）で成績評価（期末試験 100 %）します。

GEO200LA	
地理学 L D	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
片岡 義晴	
授業コード：Q2354	2017 年度以降入学者
授業コード：P2110	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の地域問題・社会問題について学んでいきます。

到達目標 日本の地域性、地域格差、地域開発、公害問題を手がかりにして、日本の地域問題・社会問題を学んでいきます。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述形式の筆記試験）で成績評価（期末試験 100 %）します。

GEO200LA	
地理学 L C	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
高木 正	
授業コード：Q2355	2017 年度以降入学者
授業コード：P2101	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 地理学そのものを学ぶというよりも、地理学を通じて現代世界の理解を深めるといったスタイルで勉強していきます。高校時代に地理科目を履修した経験がなくても構いません。ここでは世界情勢を大きく把握することを目的とします。

到達目標 現在、学生の皆さんが持っている歴史観・地域観・世界観をより確かなものにしていきます。

成績評価の方法と基準 試験で評価します。試験の方法は最初の授業で説明します。

GEO200LA	
地理学 L D	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
高木 正	
授業コード：Q2356	2017 年度以降入学者
授業コード：P2102	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 地理学 LD では、できるだけ多くの地域を取り上げて、その社会経済的な実態を地理的な視点からみていきます。

到達目標 アフリカと西アジアの現状を理解することで世界の多様性を認識します。

成績評価の方法と基準 試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

GEO200LA	
地理学Ⅰ A	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
長沢 利明	
授業コード：Q2357	2017 年度以降入学者
授業コード：P2103	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） さまざまなテーマを毎回ひとつずつ取り上げ、解説していく。全体を通して地理学的な物の見方や考え方を学ぶ。

到達目標 授業を通し、地理学的な物の見方と考え方をつかんでいくことがのぞましい。

成績評価の方法と基準 試験の成績によって評価をおこなう。

GEO200LA	
地理学Ⅰ B	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
長沢 利明	
授業コード：Q2358	2017 年度以降入学者
授業コード：P2104	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 授業では毎回ひとつずつ異なったテーマを取り上げて解説する。

到達目標 全体を通して地理学的な物の見方と考え方を学んでいく。

成績評価の方法と基準 試験およびレポートによって成績評価をおこなう。

GEO200LA	
地理学Ⅰ C	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：グローバリゼーション社会の地理学	
前川 明彦	
授業コード：Q2359	2017 年度以降入学者
授業コード：P2105	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 授業ではグローバリゼーション、人、地域社会等をキーワードに、世界や日本の少子高齢化や格差、雇用などの地域課題を地理学として、一緒に考えます。そして、学生自身が課題や問題意識を考え、多様なものの考え方ができることを目的としています。

到達目標 グローバリゼーションの中で、人や地域社会が格差・分断、また不寛容な社会になりつつあります。学生が、論理的に課題をみつけ、多様性を意識しながら自ら考え、解決の方向性に応用することを目標にしています。このため、身近な課題などから地理学的に考察することを目指していきたい。そして、1つの答えだけでなく柔軟に多様性を意識して考えることを最初の到達目標の1つにしたい。

成績評価の方法と基準 原則的には、期末試験（持ち込み可：60％）レポート（30％）授業中のコメントシートあるいはアクションペーパー（10％）最初の授業時等に詳細は説明します。

GEO200LA	
地理学Ⅰ D	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：地域社会の課題をどのように解決すべきか	
前川 明彦	
授業コード：Q2360	2017 年度以降入学者
授業コード：P2106	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、地域社会の課題を、人やコミュニティ中心の街づくりという視点をとおして、外国人やインバウンド観光等、さらには人との共生などに関連がある解決策モデル等を紹介しながら、解決方法の糸口や方法論を地理学ロジックで学びます。そこから学生自身が多様性のある社会という方向性で解決方法を模索、検討できることを目的としています。

到達目標 秋学期には春学期の問題意識や地域課題を解決方向へと踏み出したい。このため、街づくり、地域再生を主なテーマとし、学生が、地域社会に関連するコミュニティデザインやソーシャルビジネスなどから多様性のある様々な問題解決の方向性を示せることを到達目標としたい。そして、自らの考えをもち行動し、将来的には世界の地域社会を解決する一員になってほしい。

成績評価の方法と基準 期末試験もしくは授業内試験（持ち込み可：60％）、レポート（30％）授業中のコメントシート・平常点など（10％）で評価する。詳細に関しては最初の授業時等で話します。

POL200LA	
政治学Ⅰ A	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：「黄金の時代」の政治とボブ・ディラン	
木村 正俊	
授業コード：Q2371	2017 年度以降入学者
授業コード：P2137	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） テーマ：「黄金の時代」における政治とボブ・ディラン

ボブ・ディランというプリズムを通して「黄金の時代」のUSにける政治と、時代がボブ・ディランに与えた影響について考察を行い、政治に関する見方を養うことを目指します。

到達目標 20世紀後半のUSの社会と政治について知識を得ること。時代・社会・政治の変遷とボブ・ディランの変容について理解すること。USのフォークの政治との関係、およびビート・ジェネレーションの次世代に対する影響について理解すること。ジョン・レノンの音楽と政治との関係について理解すること。ボブ・ディランを中心にしながら20世紀のポピュラー・ミュージックに関する基礎知識を得ること。以上を踏まえて、政治について考察を深めること。

成績評価の方法と基準 授業前に調べたペーパー 40％授業で学んだ知識と自分の意見を論理的に展開する能力を確認するための試験 60％

POL200LA	
政治学Ⅰ B	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
木村 正俊	
授業コード：Q2372	2017 年度以降入学者
授業コード：P2138	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） テーマ：「黄金の時代」の終焉後の時代の政治と音楽

US における福音派の影響力の拡大とボブ・ディランの改宗の意味と、マンチェスターを基盤とするロック・ミュージシャンの活動を通して、「黄金の時代」の終焉時代の政治について考える。
イスラエルの国際的孤立について考える。

到達目標 現在、US の政治に大きな影響力を持つ福音派についての理解すること。

ボブ・ディランにとっての信仰を考察することによって、ユダヤ教とキリスト教についての基本的な知識と、宗教と政治の関係について理解すること。

新自由主義についての知識を得ること。

第二次世界大戦後から EU 離脱国民投票にいたる時期の UK 政治に関する知識を得ること。

以上を踏まえて、政治について考察を深めること。

成績評価の方法と基準 授業前に調べたペーパー 40 %

授業で学んだ知識と自分の意見を論理的に展開する能力を確認するための試験 60 %

SOC200LA	
社会学Ⅰ A	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：「平成」の社会を考える	
片上 平二郎	
授業コード：Q2361	2017 年度以降入学者
授業コード：P2159	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、日本の各時代の社会意識と対応したかたちでその時代におけるポピュラー文化の意味を読み解いていくことを考えています。現在の文化から時代を遡りつつ、さまざまなジャンルを横断しながら、ポピュラー文化を概観していきます。過去の文化を扱いながら、現在の文化とつながる部分、つながらない部分を意識しながら、社会と文化の関係を考察していきたいと思います。前期科目であるこの授業では「平成」という時代意識に注目して授業を行っていきます。

到達目標 時代意識の反映物としてさまざまな現代文化を解説することで、社会を理解するための1つの方法を学んでいきます。

また、文化研究の方法論的議論や時代比較などを通じて、自明なものを受け取られやすい「文化」を学問的に扱う方法を習得できます。

成績評価の方法と基準 レポート 60 %

リアクションペーパーなどの平常点 40 %

SOC200LA	
社会学Ⅰ B	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
片上 平二郎	
授業コード：Q2362	2017 年度以降入学者
授業コード：P2160	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、日本の各時代の社会意識と対応したかたちでその時代におけるポピュラー文化の意味を読み解いていくことを考えています。現在の文化から時代を遡りつつ、さまざまなジャンルを横断しながら、ポピュラー文化を概観していきます。過去の文化を扱いながら、現在の文化とつながる部分、つながらない部分を意識しながら、社会と文化の関係を考察していきたいと思います。後期科目であるこの授業では、「戦後」と呼ばれた時代について考えてみたいと思います。

到達目標 時代意識の反映物としてさまざまな現代文化を解説することで、社会を理解するための1つの方法を学んでいきます。

また、文化研究の方法論的議論や時代比較などを通じて、自明なものを受け取られやすい「文化」を学問的に扱う方法を習得できます。

成績評価の方法と基準 レポート 60 %

リアクションペーパーなどの平常点 40 %

SOC200LA	
社会学Ⅰ C	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：宗教（宗教的なもの）と社会の関係	
徐 玄九	
授業コード：Q2363	2017 年度以降入学者
授業コード：P2157	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「社会」を意味する「Society」には、個々人の自由と連帯の意味が含まれている。すなわち「社会」とは、個人を尊重する自律性と規範、意味、契約などに基づく連帯性の意味が共存している。この「社会」を研究対象とする社会学の主な主題は、(1)「社会秩序を可能にする基本原理の探求」(2)「近代（現代）社会の特殊性の解明」である。(1)は「社会」の両軸をなす「自律性」と「連帯性」がいかにバランスを取るかの問題であり、(2)は近代（現代）社会とはいかなる時代で、どのような問題を抱えており、その解決方向はいかに見出すかという問題である。

この授業では、社会学の主な主題のうち(2)「近代（現代）社会の特殊性の解明」のなかでも、とくに「宗教（宗教的なもの）と社会の関係」に焦点を当てる。今の世界を理解するために必要不可欠なのが宗教（宗教的なもの）にまつわる多角的な知見である。近代社会の登場に宗教が果たした役割を学びつつ、いまなお私たちの日常生活に影響力を及ぼし続けている宗教性を再認識することで宗教を理解する力を養うことがこの授業の目的である。

到達目標 (1)冠婚葬祭や年中行事の意味を再確認することができる。(2)労働観の変遷と宗教との関係が理解できる。(3)「近代」と呼ばれる歴史的な変化の一面に宗教が果たした役割を理解できる。

成績評価の方法と基準 平常点(40%)と論述型の期末試験(60%)で評価します。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価します。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、基本的には論述式ですが「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

SOC200LA	
社会学Ⅰ D	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：近代社会に内在する合理化の両義性	
徐 玄九	
授業コード：Q2364	2017 年度以降入学者
授業コード：P2158	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「社会」を意味する「Society」には、個人々の自由と連帯の意味が含まれている。すなわち「社会」とは、個人を尊重する自律性と規範、意味、契約などに基づく連帯性の意味が共存している。この「社会」を研究対象とする社会学の主な主題は、(1)「社会秩序を可能にする基本原理の探求」(2)「近代（現代）社会の特殊性の解明」である。(1)は「社会」の両軸をなす「自律性」と「連帯性」がいかにバランスを取るかの問題であり、(2)は近代（現代）社会とはいかなる時代で、どのような問題を抱えており、その解決方向はいかに見出すかという問題である。

この授業では、社会学の主な主題のうち (2)「近代（現代）社会の特殊性の解明」のなかでも、とくに「近代社会に内在する合理化の両義性」に焦点を当てる。具体的には、「合理化」の側面から近代社会の特徴を現代まで射程に入れて「近代社会の光と影」について学ぶ。主に取り上げるテーマは「世俗化論」、「合理化論」、「リスク社会論」である。これを通して、歴史の変化のなかで、何が省略され、何が稀少化され、何が凝縮されているのかについても考えとともに社会に対する問題意識の「再発見」のきっかけを作る。

到達目標 (1)「近代」とよばれる歴史的な変化の一面を思想と制度の両面で把握する。
(2)「世俗化論」・「合理化論」の相互関連を把握する。
(3)「リスク社会」としての一面をもつ現代社会の特徴を理解する。
(4) 最終的には、社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける（＝教養を身に付ける）。

成績評価の方法と基準 平常点（40％）と論述型の期末試験（60％）で評価します。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価します。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、基本的には論述式ですが「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：政治人類学	
ベル 裕紀	
授業コード：Q2382	2017 年度以降入学者
授業コード：P2172	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は、政治人類学的な研究を体系的に学習し、国家、グローバル化、移民、マイノリティ、アイデンティティ、多文化主義といった、現代の問題に関する理解を深める。

到達目標 学生は、国家と統治に関する理解を深めるとともに、政治人類学が培ってきた、社会の動態的な把握という視点を身に付け、安易な本質主義に陥らない社会の認識を身に付ける。それを通じて、政治的な過程としての「本質化」に敏感になり、またなぜそれが行われているのかを深く考察する視点を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 出席および毎回のリアクションペーパー 30%、最終授業での記述式試験 70 % で評価する。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
長沢 利明	
授業コード：Q2384	2017 年度以降入学者
授業コード：P2174	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 人間と文化との関係の構造的な理解

到達目標 文化人類学のもっとも基本的な研究課題としての「人間と文化との関係」を、さまざまな具体的テーマを提示しながら、考えていく。特に、文化の変容面・動態的側面に注目しつつ、生態環境・生活空間・儀礼構造・民間信仰・民族問題などの諸側面から、この問題を検討して試みることにする。この作業を通じて、文化人類学的なものの考え方や研究方法、分析視角などを学んでいくことにし、極力わかりやすい形で、それを講義して試みたい。

成績評価の方法と基準 学期末試験およびレポート提出によって、成績評価をおこなう。特にレポートの内容の評価に重点を置くので、すぐれたレポートを作成することがのぞましい。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：文化人類学を通して考える現在の地球	
岩原 紘伊	
授業コード：Q2386	2017 年度以降入学者
授業コード：P2176	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代の世界が直面する課題を、異文化理解の学問である文化人類学の視座を通して理解する。

到達目標 ①文化人類学的な視座がいかに現代の世界を知るうえで役立つかを理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、わたしたちと異文化に生きる他者の間にある文化の違いに由来する衝突について総体的に理解する視座を身に付ける。

成績評価の方法と基準 コメントシートの内容（30 %）と試験の点数（70 %）により総合的に判断する。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
梅村 絢美	
授業コード：Q2388	2017 年度以降入学者
授業コード：P2178	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は、「南アジアと身体」をテーマに、主にインドとスリランカにおける身体観やヘルスケア実践、伝統医療について紹介しながら、南アジア特有の身体の在り方について総合的に学習します。「遠い国に住む自分と関係ない人たちの出来事」として聞き流すのではなく、主体的に思考しながら受講してください。

到達目標 南アジア特有の身体観やヘルスケア実践、伝統医療のありよ

うについて理解し、自身の実体験と関連付けながら主体的に思考することを到達目標とする。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーの内容（４０％）と授業内試験（６０％）に基づき総合的に評価します。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：政治人類学	
ベル 裕紀	
授業コード：Q2390	2017 年度以降入学者
授業コード：P2180	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は、政治人類学的な研究を体系的に学習し、国家、グローバル化、移民、マイノリティ、アイデンティティ、多文化主義といった、現代の問題に関する理解を深める。

到達目標 学生は、国家と統治に関する理解を深めるとともに、政治人類学が培ってきた、社会の動態的な把握という視点を身に付け、安易な本質主義に陥らない社会の認識を身に付ける。それを通じて、政治的な過程としての「本質化」に敏感になり、またなぜそれが行われているのかを深く考察する視点を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 出席および毎回のリアクションペーパー 30%、最終授業での記述式試験 70 %で評価する。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
梅村 絢美	
授業コード：Q2392	2017 年度以降入学者
授業コード：P2182	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は、「南アジアと身体」をテーマに、主にインドとスリランカにおける身体観やヘルスケア実践、伝統医療について紹介しながら、南アジア特有の身体の内在性について総合的に学習します。「遠い国に住む自分と関係ない人たちの出来事」として聞き流すのではなく、主体的に思考しながら受講してください。

到達目標 南アジア特有の身体観やヘルスケア実践、伝統医療のありようについて理解し、自身の実体験と関連付けながら主体的に思考することを到達目標とする。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーの内容（４０％）と授業内試験（６０％）に基づき総合的に評価します。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：今日の文化人類学	
阿部 朋恒	
授業コード：Q2394	2017 年度以降入学者
授業コード：P2184	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文化人類学は他者理解のための方法であると同時に、自らが拠って立つ場所を見つめ直し、その未来を見通すために役立つ道具でもある。この授業では、開発や環境運動、科学技術の発達、食生活の多様化といった今日の世界に共通してみられるさまざまな現象に焦点を当てながら、そうした変化がたどる過程が多様であることを学ぶ。さらに、そうした学びを通じて、環境破壊や災害、政治経済的基盤の変動などわれわれが直面する大きな課題に対する思考の幅を広げることを目指す。

到達目標 テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40％）、期末試験（60％）により評価する。期末試験へのレジュメ、辞書、参考資料等の持ち込みは不可とする。ただし、期末試験では各回の授業内であらかじめ通知した問題（すべて論述形式）を出題するため、事前準備をしっかりと行うこと。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：文化人類学を通して考える現在の地球	
岩原 紘伊	
授業コード：Q2396	2017 年度以降入学者
授業コード：P2186	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代の世界が直面する課題を、異文化理解の学問である文化人類学の視座を通して理解する。

到達目標 ①文化人類学的な視座がいかに現代の世界を知るうえで役立つかを理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、わたしたちと異文化に生きる他者の間にある文化の違いに由来する衝突について総体的に理解する視線を身に付ける。

成績評価の方法と基準 コメントシートの内容（30％）と試験の点数（70％）により総合的に判断する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
中島 成久	
授業コード：Q2398	2017 年度以降入学者
授業コード：P2188	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「人種・民族問題入門、米欧編」というテーマで授業を行う。文化人類学を学ぶ上で、「人種・民族問題」をどのように考えるかは重要なイシューである。秋学期は主にアジア、アフリカにおける人種・民族問題を考える。

到達目標 グローバル化の現在、文化人類学を学ぶ上で、人種・民族へのスタンスの取り方は最も基本的な課題である。日本においては日常あまり意識することのないこの問題を世界の事例を通して学び、視野を広げることを目指す。

成績評価の方法と基準 平常点（30％）＋試験（70％）

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：今日の文化人類学	
阿部 朋恒	
授業コード：Q2400	2017 年度以降入学者
授業コード：P2190	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文化人類学は他者理解のための方法であると同時に、自らが抱って立つ場所を見つめ直し、その未来を見通すために役立つ道具でもある。この授業では、開発や環境運動、科学技術の発達、食生活の多様化といった今日の世界に共通してみられるさまざまな現象に焦点を当てながら、そうした変化がたどる過程が多様であることを学ぶ。さらに、そうした学びを通じて、環境破壊や災害、政治経済的基盤の変動などわれわれが直面する大きな課題に対する思考の幅を広げることを目指す。

到達目標 テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40％）、期末試験（60％）により評価する。期末試験へのレジュメ、辞書、参考資料等の持ち込みは不可とする。ただし、期末試験では各回の授業内であらかじめ通知した問題（すべて論述形式）を出題するため、事前準備をしっかりと行うこと。

SOS200LA	
社会思想ⅠA	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
洪 貴義	
授業コード：Q2401	2017 年度以降入学者
授業コード：P2213	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近代日本の東アジア認識について学びます。近代の日本は朝鮮半島、中国、台湾などの東アジア世界と無関係ではありえず、この領域をそれぞれ各国各国の個別史と考えることはできません。そこで

この授業では、幕末、明治期から昭和期までの、国際環境、日本を含む東アジアの政治史を背景に押さえながら、日本の思想家の東アジア認識と、それに対する朝鮮、中国からの応答を各時代の思想家の言説とその考えかたに即して学ぶことを目的とします。

到達目標 日本、東アジアの近代史の基礎を身につけること。また勝海舟、西郷隆盛、福沢諭吉、吉野作造、三木清、尾崎秀実、竹内好、谷川雁、梶村秀樹、森崎和江らの東アジアに関する考え方を理解することを授業の到達目標とします。

成績評価の方法と基準 各授業ごとの平常点（40％）と学期末のレポート（60％）の両方を成績評価の基準とします。

SOS200LA	
社会思想ⅠB	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
洪 貴義	
授業コード：Q2402	2017 年度以降入学者
授業コード：P2214	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 在日朝鮮人詩人、金時鐘（キム シジョン）の詩と思想を学びます。1929年に植民地下の朝鮮で生まれ、現在日本に生きる金時鐘の生涯は日本と朝鮮半島の近代史を背景にして両国の「あいだ」そのもののの中にあります。この授業ではこのような彼の生涯を追いながら、日朝関係史と同時に、その詩と思想を学びます。

到達目標 近現代の日本と朝鮮半島の歴史を理解すること。金時鐘の生涯を学びつつ、彼の詩と思想を理解すること。

成績評価の方法と基準 授業中に提出するコメントメール（40％）と、期末レポート（60％）によって評価します。

SOS200LA	
社会思想ⅠA	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
洪 貴義	
授業コード：Q2403	2017 年度以降入学者
授業コード：P2215	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではヨーロッパの近代社会思想史を学びます。

16世紀から19世紀初頭の思想家たち、例えばホッブズ、ルソー、カント、ヘーゲル、マルクスたちが生きた西洋の歴史を背景として、その上で各思想家の思考方法、政治社会の構成、個人と社会の関係や経済社会の構造などについての考えかたを学ぶことを目的とします。

到達目標 近代の骨格を作る思想家たちのものの見方、考え方を身につけること。

そのうえで、歴史的思考について学び、思想家たちの目を通して、現在わたしたちが生きている現代社会の政治、経済、社会のあり方を根本から、原理として考える目を養うことを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 各授業ごとの平常点（40％）と学期末のレポート（60％）の両方を成績評価の基準とします。

SOS200LA	
社会思想ⅠB	2017年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016年度以前入学者
サブタイトル：	
洪 貴義	
授業コード：Q2404	2017年度以降入学者
授業コード：P2216	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではヨーロッパにおける世紀転換期の思想史を学びます。

西洋の19世紀末から20世紀初頭という転換期の歴史を踏まえて、ニーチェ、ウエーバー、フロイト、ベンヤミン、アーレントらが根源から考察した人間、社会、歴史、芸術、政治についての思想史を学ぶことがこの授業の目的です。

到達目標 各思想家たちのものの見方、考え方を身につけること。

そのうえで、世紀転換期の歴史を理解し、もう一つの転換期である現代社会を彼らの目を通して自ら考えることができるようになることを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 各授業ごとの平常点（40％）と学期末のレポート（60％）の両方を成績評価の基準とします。

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
平田 康史	
授業コード：Q3001	2017 年度以降入学者
授業コード：P3401	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A～G 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
平田 康史	
授業コード：Q3002	2017 年度以降入学者
授業コード：P3402	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A～G 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
平田 康史	
授業コード：Q3003	2017 年度以降入学者
授業コード：P3403	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 H～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
平田 康史	
授業コード：Q3004	2017 年度以降入学者
授業コード：P3404	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 H～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答え

を求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人
間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
小木曾 岳義	
授業コード：Q3005	2017 年度以降入学者
授業コード：P3405	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組、国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学は言語であると言われており、実
際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数
学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理
解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情
報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼
鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、そ
れぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は
 H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには $H_{13},$
 G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになる
のは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得
られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750
通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同
式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
小木曾 岳義	
授業コード：Q3006	2017 年度以降入学者
授業コード：P3406	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組、国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学は言語であると言われており、実
際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散
数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方
を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、
情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局
を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達
を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくこと
で答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが
得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答え
を求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人
間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
小木曾 岳義	
授業コード：Q3007	2017 年度以降入学者
授業コード：P3407	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A・B・L～N・W・X 組、国 1 年、キ 1 年/法文営 国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学は言語であると言われており、実
際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数
学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理
解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情
報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼
鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、そ
れぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は
 H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには $H_{13},$
 G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになる
のは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得
られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750
通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同
式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
小木曾 岳義	
授業コード：Q3008	2017 年度以降入学者
授業コード：P3408	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A・B・L～N・W・X 組、国 1 年、キ 1 年/法文営 国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学は言語であると言われており、実
際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散
数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方
を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、
情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局
を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達
を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくこと
で答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが
得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答え
を求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人
間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
池田 宏一郎	
授業コード：Q3011	2017 年度以降入学者
授業コード：P3411	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
池田 宏一郎	
授業コード：Q3012	2017 年度以降入学者
授業コード：P3412	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
倉田 俊彦	
授業コード：Q3013	2017 年度以降入学者
授業コード：P3413	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 練習問題（40%）、試験（60%）

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
倉田 俊彦	
授業コード：Q3014	2017 年度以降入学者
授業コード：P3414	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答え

を求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 練習問題（40%）、試験（60%）

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
佐藤 洋祐	
授業コード：Q3015	2017 年度以降入学者
授業コード：P3415	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的の算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 **RSA** の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 **RSA** の仕組みについて理解する。

成績評価の方法と基準 小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
佐藤 洋祐	
授業コード：Q3016	2017 年度以降入学者
授業コード：P3416	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
佐藤 洋祐	
授業コード：Q3017	2017 年度以降入学者
授業コード：P3417	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的の算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 **RSA** の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 **RSA** の仕組みについて理解する。

成績評価の方法と基準 小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
佐藤 洋祐	
授業コード：Q3018	2017 年度以降入学者
授業コード：P3418	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：国環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
江口 直日	
授業コード：Q3019	2017 年度以降入学者
授業コード：P3419	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
江口 直日	
授業コード：Q3020	2017 年度以降入学者
授業コード：P3420	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
江口 直日	
授業コード：Q3021	2017 年度以降入学者
授業コード：P3421	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 E～I・P～V 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
江口 直日	
授業コード：Q3022	2017 年度以降入学者
授業コード：P3422	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 E～I・P～V 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答え

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

を求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
基礎数学 I	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学 I	2016 年度以前入学者
若井 健太郎	
授業コード：Q3031	2017 年度以降入学者
授業コード：P3451	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A～C 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本的性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
若井 健太郎	
授業コード：Q3032	2017 年度以降入学者
授業コード：P3452	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A～C 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学 I	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学 I	2016 年度以前入学者
松田 直祐	
授業コード：Q3033	2017 年度以降入学者
授業コード：P3453	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 D～F 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本的性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
松田 直祐	
授業コード：Q3034	2017 年度以降入学者
授業コード：P3454	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 D～F 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学 I	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学 I	2016 年度以前入学者
池田 宏一郎	
授業コード：Q3035	2017 年度以降入学者
授業コード：P3455	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 G～J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
池田 宏一郎	
授業コード：Q3036	2017 年度以降入学者
授業コード：P3456	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 G～J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2016 年度以前入学者
若井 健太郎	
授業コード：Q3037	2017 年度以降入学者
授業コード：P3457	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K～M 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
若井 健太郎	
授業コード：Q3038	2017 年度以降入学者
授業コード：P3458	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K～M 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2016 年度以前入学者
松田 直祐	
授業コード：Q3039	2017 年度以降入学者
授業コード：P3459	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 N～Q 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
松田 直祐	
授業コード：Q3040	2017 年度以降入学者
授業コード：P3460	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 N～Q 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2016 年度以前入学者
倉田 俊彦	
授業コード：Q3041	2017 年度以降入学者
授業コード：P3461	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 R～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本的性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
倉田 俊彦	
授業コード：Q3042	2017 年度以降入学者
授業コード：P3462	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 R～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙までⅠ	2016 年度以前入学者
井坂 政裕	
授業コード：Q3051	2017 年度以降入学者
授業コード：P3021	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A～G 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、現在の物理学や科学技術の基礎となっているニュートン力学について解説する。

身の回りの力学現象や天体の運動などがニュートン力学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

到達目標 ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 % と平常点 20 % で評価する。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙までⅡ	2016 年度以前入学者
井坂 政裕	
授業コード：Q3052	2017 年度以降入学者
授業コード：P3022	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A～G 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20 世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本講義を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

到達目標 ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
・宇宙の始まりからこれまでの進化を理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 % と平常点 20 % で評価する。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙までⅠ	2016 年度以前入学者
吉瀬 好	
授業コード：Q3053	2017 年度以降入学者
授業コード：P3023	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 H～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身近な現象、惑星の運動、21 世紀中の実現を期待される新技術などを通して、それらの現象に関連する力学の法則を学習する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

到達目標 ガリレイ、ケプラー、ニュートンをはじめとする物理学者によって確立された運動の法則と力の性質を学習する。現代物理学への大きな流れをつかみ、物理用語などに親しみ、物理の法則が身近な生活とどのように関わっているかを知ることが第一の目的とする。

成績評価の方法と基準 春学期の最終授業時の試験と授業に臨む姿勢で評価する。ただし、試験問題中の1題は事前に出題する。レポート用紙に解答して、授業内試験の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とする。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙までⅡ	2016 年度以前入学者
吉瀬 好	
授業コード：Q3054	2017 年度以降入学者
授業コード：P3024	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 H～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 熱と光は身近な現象でありながら意外に知らないことも多い。本講義では熱と光に関する現象と性質を知って、熱と光に関連した技術についても学習することを目的とする。

到達目標 熱と光が身近な生活とどのように関わっているかを知ることが第一の目標とする。また、熱や光の技術に関連した新しい現象にも興味を持つことも期待する。

成績評価の方法と基準 秋学期の最終授業時の試験で評価する。ただし、試験問題中の1題は事前に出題する。レポート用紙に解答して、授業内試験の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とする。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
井坂 政裕	
授業コード：Q3055	2017 年度以降入学者
授業コード：P3025	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、現在の物理学や科学技術の基礎となっているニュートン力学について解説する。
身の回りの力学現象や天体の運動などがニュートン力学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

到達目標 ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙までⅡ	2016 年度以前入学者
井坂 政裕	
授業コード：Q3056	2017 年度以降入学者
授業コード：P3026	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本講義を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

到達目標 ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
・宇宙の始まりからこれまでの進化を理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
鈴木 裕武	
授業コード：Q3057	2017 年度以降入学者
授業コード：P3027	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 物理学の根幹をなすニュートン力学とアインシュタインの特殊相対性理論の基礎を学ぶ。ニュートン力学では、身近な物体の運動を理解するための方法を知り、特殊相対性理論では、日常的な常識では理解できない宇宙の真理に迫る。物理学の基礎を学ぶと同時に物理的・科学的なものの見方も学ぶ。

到達目標 ニュートン力学によって身近な物体や人工衛星の運動が説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動を予想（計算）出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的常識を越えた宇宙の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

成績評価の方法と基準 平常評価（小テストなど、配分 40%）と期末試験（配分 60%）で評価する。小テストは配布プリントとノート、期末試験は自筆ノートのみ参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点ではなく、合計得点が 60 点以上の者を合格とする。単位認定のためには授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席が必要である。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで II	2016 年度以前入学者
鈴木 裕武	
授業コード：Q3058	2017 年度以降入学者
授業コード：P3028	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。ミクロの世界の代表である原子や馴染みのある光にかかわる現象と生活の役に立っている電気や磁気の話から、オーロラ、太陽の一生、ブラックホールなどの宇宙で起きている物理現象を解説する。宇宙空間で起きている物理現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

到達目標 放射線の基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている電磁氣的現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

成績評価の方法と基準 平常評価（小テストなど、配分 40%）と期末試験（配分 60%）で評価する。小テストは配布プリントとノート、期末試験は自筆ノートのみ参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点ではなく、合計得点が 60 点以上の者を合格とする。単位認定のためには授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席が必要である。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
石川 壮一	
授業コード：Q3059	2017 年度以降入学者
授業コード：P3029	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P～X 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ・本講義では、多岐にわたっている現代物理学の研究対象の中から、我々の身の回りで起きている力とか運動に関係している現象を支配している法則（ニュートンの法則）とその応用について、歴史的側面を概観しながら基礎を解説する。
・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

到達目標 ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々の身の回りで起きている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

成績評価の方法と基準 平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 8 割程度とする。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで II	2016 年度以前入学者
石川 壮一	
授業コード：Q3060	2017 年度以降入学者
授業コード：P3030	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P～X 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ・本講義では、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（昼気楼、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。
・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

到達目標 ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 8 割程度とする。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
石川 壮一	
授業コード：Q3061	2017 年度以降入学者
授業コード：P3031	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A～J 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ・本講義では、多岐にわたっている現代物理学の研究対象の中から、我々の身の回りで起きている力とか運動に関係している現象を支配している法則（ニュートンの法則）とその応用について、歴史的側面を概観しながら基礎を解説する。
・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

到達目標 ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々の身の回りで起きている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

成績評価の方法と基準 平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 8 割程度とする。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで II	2016 年度以前入学者
石川 壮一	
授業コード：Q3062	2017 年度以降入学者
授業コード：P3032	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A～J 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ・本講義では、熱（熱伝導、熱機関、…）、光（気圧機、虹、光通信、光電池、…）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。
・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

到達目標 ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 8 割程度とする。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
井坂 政裕	
授業コード：Q3063	2017 年度以降入学者
授業コード：P3033	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K～O 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、現在の物理学や科学技術の基礎となっているニュートン力学について解説する。
身の回りの力学現象や天体の運動などがニュートン力学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

到達目標 ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで II	2016 年度以前入学者
井坂 政裕	
授業コード：Q3064	2017 年度以降入学者
授業コード：P3034	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K～O 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背

後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20 世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。
本講義を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

到達目標 ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
・宇宙の始まりからこれまでの進化を理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
鈴木 裕武	
授業コード：Q3065	2017 年度以降入学者
授業コード：P3035	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 Q～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 物理学の根幹をなすニュートン力学とアインシュタインの特殊相対性理論の基礎を学ぶ。ニュートン力学では、身近な物体の運動を理解するための方法を知り、特殊相対性理論では、日常的な常識では理解できない宇宙の真理に迫る。物理学の基礎を学ぶと同時に物理的・科学的なものの見方も学ぶ。

到達目標 ニュートン力学によって身近な物体や人工衛星の運動が説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動を予想（計算）出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた宇宙の性質を理解する。物理学を学ぶことを通じて、理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

成績評価の方法と基準 平常評価（小テストなど、配分 40%）と期末試験（配分 60%）で評価する。小テストは配布プリントとノート、期末試験は自筆ノートのみ参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点ではなく、合計得点が 60 点以上の者を合格とする。単位認定のためには授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席が必要である。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで II	2016 年度以前入学者
鈴木 裕武	
授業コード：Q3066	2017 年度以降入学者
授業コード：P3036	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 Q～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。ミクロの世界の代表である原子や馴染みのある光にかかわる現象と生活の役に立っている電気や磁気の話から、オーロラ、太陽の一生、ブラックホールなどの宇宙で起きている物理現象を解説する。宇宙空間で起きている物理現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

到達目標 放射線の基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている電磁氣的現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

成績評価の方法と基準 平常評価（小テストなど、配分 40%）と期末試験（配分 60%）で評価する。小テストは配布プリントとノート，期末試験は自筆ノートのみ参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点ではなく、合計得点が 60 点以上の者を合格とする。単位認定のためには授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席が必要である。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
吉瀬 好	
授業コード：Q3067	2017 年度以降入学者
授業コード：P3037	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身近な現象、惑星の運動、21 世紀中の実現を期待される新技術などを通して、それらの現象に関連する力学の法則を学習する。

到達目標 ガリレイ、ケプラー、ニュートンをはじめとする物理学者によって確立された運動の法則と力の性質を学習する。現代物理学への大きな流れをつかみ、物理用語などに親しみ、物理の法則が身近な生活とどのように関わっているかを知ることを第一の目的とする。

成績評価の方法と基準 春学期の最終授業時の試験と授業に臨む姿勢で評価する。ただし、試験問題中の 1 題は事前に出題する。レポート用紙に解答して、授業内試験の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とする。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで II	2016 年度以前入学者
吉瀬 好	
授業コード：Q3068	2017 年度以降入学者
授業コード：P3038	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 熱と光は身近な現象でありながら意外に知らないことも多い。本講義では熱と光に関する現象と性質を知って、熱と光に関連した技術についても学習することを目的とする。

到達目標 熱と光が身近な生活とどのように関わっているかを知ることを第一の目標とする。また、熱や光の技術に関連した新しい現象にも興味を持つことも期待する。

成績評価の方法と基準 秋学期の最終授業時の試験で評価する。ただし、試験問題中の 1 題は事前に出題する。レポート用紙に解答して、授業内試験の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とする。

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
木原 章	
授業コード：Q3081	2017 年度以降入学者
授業コード：P3051	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。春学期の「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代生物学の基礎知識を学びながら、生物学が私達の生活や社会に対してどのような影響をもたらしているのか明らかにしていきます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりで無く、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることが判ってくることでしょう。

到達目標 本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力 は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA	
入門生物学 B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 II	2016 年度以前入学者
木原 章	
授業コード：Q3082	2017 年度以降入学者
授業コード：P3052	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

到達目標 本授業の到達目標は 2 つ有ります。まず、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。また、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

てもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
木原 章	
授業コード：Q3083	2017 年度以降入学者
授業コード：P3053	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。春学期の「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代生物学の基礎知識を学びながら、生物学が私達の生活や社会に対してどのような影響をもたらしているのか明らかにしていきます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりで無く、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることが判ってくることでしょう。

到達目標 本授業の到達目標は2つあります。第一に、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA	
入門生物学 B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 II	2016 年度以前入学者
木原 章	
授業コード：Q3084	2017 年度以降入学者
授業コード：P3054	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

到達目標 本授業の到達目標は 2 つ有ります。まず、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。また、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
水澤 博	
授業コード：Q3085	2017 年度以降入学者
授業コード：P3055	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A～X 組、環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 我が国では、文系の学生が理科を学習する機会は少ない。しかし、21 世紀に入って以降、次々と新しい生命の秘密が解き明かされ、私たちの生活や仕事に利用されるようになってきた。その結果、生命科学関連の産業が活況を呈し、生命科学の知識を必要とする機会は、日常生活から仕事の間まで、どんどん増えてきた。また、マスコミが報じるニュースでも、再生医療、遺伝子組換え食品、DNA 鑑別、iPS 細胞、iSC 細胞、抗生物質が効かない感染症、AIDS、デング熱、エボラ出血熱、中東呼吸器症候群（MERS）など、生命科学に関連する新しい用語が次々現れて報じられているのは知っているとおおり。このような時代となり、生命科学の知識について正しい理解や考え方を身につけておかないと、思いがけず大きな誤りを犯し、自分を不利にしてしまうという危険を抱え込むことにもなるだろうと思う。自分の身を守るためにも、分子レベルの生命像を正しく理解しておくことは重要だろ

うと、最近強く感じている。それよりも何よりも、新しく解き明かされた21世紀の生命像を学習することにより「私たちの体の中はそんなことになっていったのか」と驚き、感動するのではないだろうか。生命は物質であるということが示唆されて久しい。そして今、その物質がタンパク質、DNA、RNA、脂質、糖、などであることが明らかになった。そして、さらに、これらの部品が組み合わさって『細胞』という生命の最小単位が構築されていることも相当程度明らかになった。そして、驚くことは、私たちの体を作っている60兆個の細胞は、互いに協調しあって、一人の人間を作り上げ、それが日々の生活を送っているということなのである。原子から出発して、これらが生命を作りあげている様子を知り、理解することを目指して学習したい。

到達目標 生命の根源は細胞で、その細胞が60兆個集まってヒトの体を作っている。ヒトは1個の受精卵からスタートし、細胞分裂を繰り返して60兆個にまで増える。受精卵に存在する父と母に由来する1対のゲノムDNA(2n)は、複製と分離を繰り返して60兆個すべての細胞に均等に入ってゆく。つまり、60兆個全ての細胞にATGC文字で書かれた同じゲノムDNAが存在するのである。遺伝子文字で書かれた文章は細胞間でちょっと違っているということは無いのだろうか？1個の細胞から60兆個の細胞に数を増やしてゆく時に、文字の並びを間違えてしまうことは無いのだろうか？そして、DNAが複製する時に間違えることがあるとすれば、どういう原因で間違えるのだろうか、また間違えが起こると細胞に不都合はないのだろうか。また、DNAは細胞中でタンパク質を作っているのだが、細胞はみな同じタンパク質を作っているのだろうか？それとも、細胞ごとに違うタンパク質を作っているのだろうか、違うタンパク質を作るなら、それはどうやって違うタンパク質を作っているのだろうか。遺伝子の働きを理解することを通じて、こうした諸々の問題を説明できるようになることが目標である。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

BIO100LA	
入門生物学B	2017年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学Ⅱ	2016年度以前入学者
町田 郁子	
授業コード：Q3086	2017年度以降入学者
授業コード：P3056	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文1年A～X組、環1年/法文営国環キ2-4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学B」では、マクロレベルの生物学を学ぶことを目的とし、生物学を初めて学ぶことを想定して授業を展開します。地球上には、多種多様な生物が存在しており、生命活動を営んでいます。どのようにして多くの生物種が誕生するに至ったのか、また生物が共通して持つ機能や性質・種特有の特徴などについて学ぶことにより、生物が環境に適応し他の生物と共生していくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

到達目標 生物の多様性についての知識を会得し、近年大きな課題となっている生物多様性保全の重要性に関して理解を深めることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

成績評価の方法と基準 毎回の授業時に提出するショートレポート（50%）および期末試験（50%）。（必要に応じてレポート課題等を出した場合、それらも加味します。）

BIO100LA	
入門生物学A	2017年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学Ⅰ	2016年度以前入学者
宇野 真介	
授業コード：Q3087	2017年度以降入学者
授業コード：P3057	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営1年A～J組、キ1年/法文営国環キ2-4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講座では、DNAから細胞などのミクロレベルの生物学的現象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学的発展の歴史や科学技術などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。そうすることで、生物学の進歩が私たちの社会・暮らし・考え方にもたらした影響と共に、人間が生命というものをどのようにとらえてきた（とらえている）のかが見えてくると思います。

到達目標 本授業の到達目標は、以下の2点です。1) 人間社会の発展や価値観に影響を及ぼした生物学的な基礎知識の取得。2) 取得した情報を的確かつ簡潔に報告する表現力（文章力）の向上。

成績評価の方法と基準 成績評価は小テスト＝20%、提出課題＝30%、期末試験＝50%を基本とします。小テストは学期中旬に1回実施。提出課題として、指定された授業について300字程度の要約文を作成してもらいます。期末試験は、最終回の授業時間に実施します。
A+＝90%以上 A＝80～89% B＝70～79% C＝60～69% D（不合格）＝59%以下。

BIO100LA	
入門生物学B	2017年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学Ⅱ	2016年度以前入学者
宇野 真介	
授業コード：Q3088	2017年度以降入学者
授業コード：P3058	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営1年A～J組、キ1年/法文営国環キ2-4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的現象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。日常的に接する機会のある自然環境・資源関連のニュースなどの理解も深まるものと思います。

到達目標 本授業の到達目標は、以下の2点です。1) 社会的に重要視されている諸問題について、より深い理解に至るための基礎知識の取得。2) 取得した情報を的確かつ簡潔に報告する表現力（文章力）の向上。

成績評価の方法と基準 成績評価は小テスト＝20%、提出課題＝30%、期末試験＝50%を基本とします。小テストは学期中旬に1回実施。提出課題として、指定された授業について300字程度の要約文を作成してもらいます。期末試験は、最終回の授業時間に実施します。
A+＝90%以上 A＝80～89% B＝70～79% C＝60～69% D（不合格）＝59%以下。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
宇野 真介	
授業コード：Q3089	2017 年度以降入学者
授業コード：P3059	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学的発展の歴史や科学技術などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。そうすることで、生物学の進歩が私たちの社会・暮らし・考え方にもたらした影響と共に、人間が生命というものをどのようにとらえてきた（とらえている）のかが見えてくると思います。

到達目標 本授業の到達目標は、以下の 2 点です。1) 人間社会の発展や価値観に影響を及ぼした生物学的な基礎知識の取得。2) 取得した情報を的確かつ簡潔に報告する表現力（文章力）の向上。

成績評価の方法と基準 成績評価は小テスト＝ 20 %、提出課題＝ 30 %、期末試験＝ 50 % を基本とします。小テストは学期中旬に 1 回実施。提出課題として、指定された授業について 300 字程度の要約文を作成してもらいます。期末試験は、最終回の授業時間に実施します。
A+＝ 90 % 以上 A＝ 80～89 % B＝ 70～79 % C＝ 60～69 % D（不合格）＝ 59 % 以下。

BIO100LA	
入門生物学 B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 II	2016 年度以前入学者
宇野 真介	
授業コード：Q3090	2017 年度以降入学者
授業コード：P3060	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。日常的に接する機会のある自然環境・資源関連のニュースなどの理解も深まるものと思います。

到達目標 本授業の到達目標は、以下の 2 点です。1) 社会的に重要視されている諸問題について、より深い理解に至るための基礎知識の取得。2) 取得した情報を的確かつ簡潔に報告する表現力（文章力）の向上。

成績評価の方法と基準 成績評価は小テスト＝ 20 %、提出課題＝ 30 %、期末試験＝ 50 % を基本とします。小テストは学期中旬に 1 回実施。提出課題として、指定された授業について 300 字程度の要約文を作成してもらいます。期末試験は、最終回の授業時間に実施します。
A+＝ 90 % 以上 A＝ 80～89 % B＝ 70～79 % C＝ 60～69 % D（不合格）＝ 59 % 以下。

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
木原 章	
授業コード：Q3091	2017 年度以降入学者
授業コード：P3061	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。春学期の「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代生物学の基礎知識を学びながら、生物学が私達の生活や社会に対してどのような影響をもたらしているのか明らかにしていきます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりで無く、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることが判ってくることでしょう。

到達目標 本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力 は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

- 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
- 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
- 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA	
入門生物学 B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 II	2016 年度以前入学者
木原 章	
授業コード：Q3092	2017 年度以降入学者
授業コード：P3062	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

到達目標 本授業の到達目標は 2 つ有ります。まず、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。また、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

てもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
水澤 博	
授業コード：Q3093	2017 年度以降入学者
授業コード：P3063	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 我が国では、文系の学生が理科を学習する機会は少ない。しかし、21 世紀に入って以降、次々と新しい生命の秘密が解き明かされ、私たちの生活や仕事に利用されるようになってきた。その結果、生命科学関連の産業が活況を呈し、生命科学の知識を必要とする機会は、日常生活から仕事の間まで、どんどん増えてきた。また、マスコミが報じるニュースでも、再生医療、遺伝子組換え食品、DNA 鑑別、iPS 細胞、iSC 細胞、抗生物質が効かない感染症、AIDS、デング熱、エボラ出血熱、中東呼吸器症候群（MERS）など、生命科学に関連する新しい用語が次々現れて報じられているのは知っているとおおり。このような時代となり、生命科学の知識について正しい理解や考え方を身に付けておかないと、思いがけず大きな誤りを犯し、自分を不利にしてしまうという危険を抱え込むことになるだろうと思う。自分の身を守るためにも、分子レベルの生命像を正しく理解しておくことは重要だろうと、最近強く感じている。それよりも何よりも、新しく解き明かされた 21 世紀の生命像を学習することにより「私たちの体の中はそんなことになっていたのか」と驚き、感動するのではないだろうか。生命は物質であるということが示唆されて久しい。そして今、その物質がタンパク質、DNA、RNA、脂質、糖、などであることが明らかになった。そして、さらに、これらの部品が組み合わさって『細胞』という生命の最小単位が構築されていることも相当程度明らかになった。そして、驚くことは、私たちの体を作っている 60 兆個の細胞は、互いに協調しあって、一人の人間を作り上げ、それが日々の生活を送っているということなのである。原子から出発して、これらが生命を作りあげている様子を知り、理解することを目指して学習したい。

到達目標 生命の根源は細胞で、その細胞が 60 兆個集まってヒトの体を作っている。ヒトは 1 個の受精卵からスタートし、細胞分裂を繰り返して 6 0 兆個にまで増える。受精卵に存在する父と母に由来する 1 対のゲノム DNA (2n) は、複製と分離を繰り返して 6 0 兆個すべての細胞に均等に入ってゆく。つまり、6 0 兆個全ての細胞に A T G C 文字で書かれた同じゲノム DNA が存在するのである。遺伝子文字で書かれた文章は細胞間でちょっと違っているということは無いのだろうか？ 1 個の細胞から 6 0 兆個の細胞に数を増やしてゆく時に、文字の並びを間違えてしまうことは無いのだろうか？ そして、DNA が複製する時に間違えることがあるとすれば、どういう原因で間違えるのだろうか、また間違えが起こると細胞に不都合はないのだろうか。また、DNA は細胞中でタンパク質を作っているのだが、細胞はみな同じタンパク質を作っているのだろうか？ それとも、細胞ごとに違うタンパク質を作っているのだろうか、違うタンパク質を作るなら、それはどうやって違うタンパク質を作っているのだろうか。遺伝子の働きを理解することを通じて、こうした諸々の問題を説明できるようになることが目標である。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
水澤 博	
授業コード：Q3095	2017 年度以降入学者
授業コード：P3065	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 我が国では、文系の学生が理科を学習する機会は少ない。しかし、21 世紀に入って以降、次々と新しい生命の秘密が解き明かされ、私たちの生活や仕事に利用されるようになってきた。その結果、生命科学関連の産業が活況を呈し、生命科学の知識を必要とする機会は、日常生活から仕事の間まで、どんどん増えてきた。また、マスコミが報じるニュースでも、再生医療、遺伝子組換え食品、DNA 鑑別、iPS 細胞、iSC 細胞、抗生物質が効かない感染症、AIDS、デング熱、エボラ出血熱、中東呼吸器症候群（MERS）など、生命科学に関連する新しい用語が次々現れて報じられているのは知っているとおおり。このような時代となり、生命科学の知識について正しい理解や考え方を身に付けておかないと、思いがけず大きな誤りを犯し、自分を不利にしてしまうという危険を抱え込むことになるだろうと思う。自分の身を守るためにも、分子レベルの生命像を正しく理解しておくことは重要だろうと、最近強く感じている。それよりも何よりも、新しく解き明かされた 21 世紀の生命像を学習することにより「私たちの体の中はそんなことになっていたのか」と驚き、感動するのではないだろうか。生命は物質であるということが示唆されて久しい。そして今、その物質がタンパク質、DNA、RNA、脂質、糖、などであることが明らかになった。そして、さらに、これらの部品が組み合わさって『細胞』という生命の最小単位が構築されていることも相当程度明らかになった。そして、驚くことは、私たちの体を作っている 60 兆個の細胞は、互いに協調しあって、一人の人間を作り上げ、それが日々の生活を送っているということなのである。原子から出発して、これらが生命を作りあげている様子を知り、理解することを目指して学習したい。

到達目標 生命の根源は細胞で、その細胞が 60 兆個集まってヒトの体を作っている。ヒトは 1 個の受精卵からスタートし、細胞分裂を繰り返して 6 0 兆個にまで増える。受精卵に存在する父と母に由来する 1 対のゲノム DNA (2n) は、複製と分離を繰り返して 6 0 兆個すべての細胞に均等に入ってゆく。つまり、6 0 兆個全ての細胞に A T G C 文字で書かれた同じゲノム DNA が存在するのである。遺伝子文字で書かれた文章は細胞間でちょっと違っているということは無いのだろうか？ 1 個の細胞から 6 0 兆個の細胞に数を増やしてゆく時に、文字の並びを間違えてしまうことは無いのだろうか？ そして、DNA が複製する時に間違えることがあるとすれば、どういう原因で間違えるのだろうか、また間違えが起こると細胞に不都合はないのだろうか。また、DNA は細胞中でタンパク質を作っているのだが、細胞はみな同じタンパク質を作っているのだろうか？ それとも、細胞ごとに違うタンパク質を作っているのだろうか、違うタンパク質を作るなら、それはどうやって違うタンパク質を作っているのだろうか。遺伝子の働きを理解することを通じて、こうした諸々の問題を説明できるようになることが目標である。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
向井 知大	
授業コード：Q3111	2017 年度以降入学者
授業コード：P3081	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A～H 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 原子や分子の構造や特徴、物質からエネルギーが得られるしくみについて、主に化学の観点から学んでいきます。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

到達目標 自然現象や環境問題について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価します。(配分 100%)

CHM100LA	
入門化学 B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 II	2016 年度以前入学者
向井 知大	
授業コード：Q3112	2017 年度以降入学者
授業コード：P3082	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A～H 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 暮らしの中の物質と環境問題の原因について、化学の観点から学んでいきます。

到達目標 現象や物質について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、複雑な記号に見える有機物質の化学構造式から、その性質をある程度読み取ることができるようになることを目標に設定しています。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価します。(配分 100%)

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
小林 令子	
授業コード：Q3113	2017 年度以降入学者
授業コード：P3083	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 I～N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

到達目標 授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（100%）

CHM100LA	
入門化学 B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 II	2016 年度以前入学者
小林 令子	
授業コード：Q3114	2017 年度以降入学者
授業コード：P3084	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 I～N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、

有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

到達目標 授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、人体や環境に有害な化学物質について学習します。また、有害化学物質の管理について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（100%）

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
中田 和秀	
授業コード：Q3115	2017 年度以降入学者
授業コード：P3085	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立している。しかしながら、一人当りのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕している。春学期の本授業では核分裂エネルギー（原子力発電）について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。(100%)

CHM100LA	
入門化学 B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 II	2016 年度以前入学者
中田 和秀	
授業コード：Q3116	2017 年度以降入学者
授業コード：P3086	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられている。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料でもある。秋学期の本授業では文明の鍵である化石燃料について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。(100%)

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
中田 和秀	
授業コード：Q3117	2017 年度以降入学者
授業コード：P3087	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立している。しかしながら、一人当りのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕している。春学期の本授業では核分裂エネルギー（原子力発電）について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

CHM100LA	
入門化学 B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 II	2016 年度以前入学者
中田 和秀	
授業コード：Q3118	2017 年度以降入学者
授業コード：P3088	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられている。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料でもある。秋学期の本授業では文明の鍵である化石燃料について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
御代川 貴久夫	
授業コード：Q3119	2017 年度以降入学者
授業コード：P3089	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P～X 組、環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） (1) エネルギー保存則、エントロピー、エネルギーの変換といったエネルギー科学の基礎、(2) 化石燃料の種類、埋蔵量、化石燃料の資源としての将来性、熱汚染、(3) 核壊変、原子力発電所の原理と実際、放射性物質の生物への影響、(4) 太陽光エネルギー、地熱発電など更新性エネルギーの利用、(5) エネルギー収支の計算方法などについて解説する。

到達目標 エネルギーの利用が環境に及ぼす影響について理解すること。

成績評価の方法と基準 中間レポート × 2（40%）、学期末レポート（60 %）

CHM100LA	
入門化学 B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 II	2016 年度以前入学者
御代川 貴久夫	
授業コード：Q3120	2017 年度以降入学者
授業コード：P3090	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P～X 組、環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） (1) 大気、水、岩石圏の地球科学および生態学について基礎的な知識の説明、(2) SPM、SO_x、NO_x などによる大気汚染と対策技術、(3) 酸性雨の発生機構と環境への影響、(4) フロン類によるオゾン層の破壊と保護への国際協力、(5) 二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球の温暖化とその人類への影響、および (6) ダイオキシンのような化学物質による環境汚染、(7) リサイクルなどについて解説する。

到達目標 現在の環境問題の自然科学的側面を理解すること。

成績評価の方法と基準 中間レポート × 2（40%）、学期末レポート（60 %）

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
小林 令子	
授業コード：Q3121	2017 年度以降入学者
授業コード：P3091	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A～J 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

到達目標 授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（100%）

CHM100LA	
入門化学 B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 II	2016 年度以前入学者
小林 令子	
授業コード：Q3122	2017 年度以降入学者
授業コード：P3092	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A～J 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学の視点と思考を身に着けることを目的とします。

到達目標 授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、人体や環境に有害な化学物質について学習します。また、有害化学物質の管理について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（100%）

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
中田 和秀	
授業コード：Q3123	2017 年度以降入学者
授業コード：P3093	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立している。しかしながら、一人当りのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕している。春学期の本授業では核分裂エネルギー（原子力発電）について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

CHM100LA	
入門化学 B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 II	2016 年度以前入学者
中田 和秀	
授業コード：Q3124	2017 年度以降入学者
授業コード：P3094	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられている。この化石燃料の消費が多く、環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料でもある。秋学期の本授業では文明の鍵である化石燃料について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
御代川 貴久夫	
授業コード：Q3125	2017 年度以降入学者
授業コード：P3095	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） (1) エネルギー保存則、エントロピー、エネルギーの変換といったエネルギー科学の基礎、(2) 化石燃料の種類、埋蔵量、化石燃料の資源としての将来性、熱汚染、(3) 核壊変、原子力発電所の原理と実際、放射性物質の生物への影響、(4) 太陽光エネルギー、地熱発電など更新性エネルギーの利用、(5) エネルギー収支の計算法などについて解説する。

到達目標 エネルギーの利用が環境に及ぼす影響について理解すること。

成績評価の方法と基準 中間レポート × 2（40%）、学期末レポート（60 %）

CHM100LA	
入門化学 B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 II	2016 年度以前入学者
御代川 貴久夫	
授業コード：Q3126	2017 年度以降入学者
授業コード：P3096	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） (1) 大気、水、岩石圏の地球科学および生態学について基礎的な知識の説明、(2) SPM、SO_x、NO_x などによる大気汚染と対策技術、(3) 酸性雨の発生機構と環境への影響、(4) フロン類によるオゾン層の破壊と保護への国際協力、(5) 二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球の温暖化とその人類への影響、および (6) ダイオキシンのような化学物質による環境汚染、(7) リサイクルなどについて解説する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

到達目標 現在の環境問題の自然科学的側面を理解すること。

成績評価の方法と基準 中間レポート × 2 (40%)、学期末レポート (60%)

NAS100LA	
サイエンス・ラボ A	2017 年度以降入学者
NAS100LA	
サイエンス・ラボ A	2016 年度以前入学者
各担当者	
授業コード：各授業による	2017 年度以降入学者
授業コード：各授業による	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）掲示板参照）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

到達目標 自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

成績評価の方法と基準 試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

NAS100LA	
サイエンス・ラボ B	2017 年度以降入学者
NAS100LA	
サイエンス・ラボ B	2016 年度以前入学者
各担当者	
授業コード：各授業による	2017 年度以降入学者
授業コード：各授業による	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）掲示板参照）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じ

て体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

到達目標 自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

成績評価の方法と基準 試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

ASR100LA	
天文学 A	2017 年度以降入学者
ASR100LA	
天文学 I	2016 年度以前入学者
福島 登志夫	
授業コード：Q3171	2017 年度以降入学者
授業コード：P3111	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：< 2017 年度以降入学生>法・環 1 年、< 2016 年度以前入学生>人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

到達目標 宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に伝えられる程度に理解する。

成績評価の方法と基準 レポート課題（100%）による。

ASR100LA	
天文学 B	2017 年度以降入学者
ASR100LA	
天文学 II	2016 年度以前入学者
福島 登志夫	
授業コード：Q3172	2017 年度以降入学者
授業コード：P3112	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：< 2017 年度以降入学生>法・環 1 年、< 2016 年度以前入学生>人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

到達目標 天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

成績評価の方法と基準 レポート課題（100%）による。

ASR100LA	
天文学 A	2017 年度以降入学者
ASR100LA	
天文学 I	2016 年度以前入学者
下井倉 ともみ	
授業コード：Q3173	2017 年度以降入学者
授業コード：P3113	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：< 2017 年度以降入学生>営・キ 1 年、< 2016 年度以前入学生>人間環境 2-4 年・キャリアデザイン学部 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 宇宙・地球の全体像や形成の歴史を概観する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

到達目標 ・恒星、銀河、宇宙の構成に関する基礎知識を身に付ける。
・基本的な法則・原理が自然現象とどのように結びつき、我々がどのように宇宙を理解してきたのかを学ぶ。

成績評価の方法と基準 レポート (30%程度)、期末試験を行う (70 %程度)。また、授業中の問いかけに対する反応を成績評価に加味することがある。

ASR100LA	
天文学 B	2017 年度以降入学者
ASR100LA	
天文学 II	2016 年度以前入学者
下井倉 ともみ	
授業コード：Q3174	2017 年度以降入学者
授業コード：P3114	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 2-4 年・キャリアデザイン学部 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 太陽系、星間物質、星の進化・元素の合成と物質の輪廻、銀河、膨張する宇宙など、現代の科学が解明した宇宙の姿を紹介する。

到達目標 ・恒星、銀河、宇宙の構成に関する基礎知識を身に付ける。
・宇宙空間の諸現象について、その概要を学ぶ。

成績評価の方法と基準 レポート (30%程度)、期末試験を行う (70 %程度)。また、授業中の問いかけに対する反応を成績評価に加味することがある。

ASR100LA	
天文学 A	2017 年度以降入学者
ASR100LA	
天文学 I	2016 年度以前入学者
福島 登志夫	
授業コード：Q3175	2017 年度以降入学者
授業コード：P3115	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・国 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

到達目標 宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

成績評価の方法と基準 レポート課題（100％）による。

ASR100LA	
天文学 B	2017 年度以降入学者
ASR100LA	
天文学 II	2016 年度以前入学者
福島 登志夫	
授業コード：Q3176	2017 年度以降入学者
授業コード：P3116	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・国 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

到達目標 天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的で

ないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

成績評価の方法と基準 レポート課題（100％）による。

SHS100LA	
科学史 A	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 I	2016 年度以前入学者
谷本 勉	
授業コード：Q3181	2017 年度以降入学者
授業コード：P3121	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・国 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

到達目標 今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50％）と平常点（50％）によって評価する。

SHS100LA	
科学史 B	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 II	2016 年度以前入学者
谷本 勉	
授業コード：Q3182	2017 年度以降入学者
授業コード：P3122	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・国 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

到達目標 現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50％）と平常点（50％）によって評価する。

SHS100LA	
科学史 A	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 I	2016 年度以前入学者
大橋 由紀夫	
授業コード：Q3183	2017 年度以降入学者
授業コード：P3123	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 東アジアの伝統科学史について講義する。(科学史 A と B をあわせて、伝統科学と近代科学の全体を概観できることになる。)

到達目標 東アジアにおける社会と伝統科学の関係について理解を深める。

成績評価の方法と基準 平常点とレポート。

SHS100LA	
科学史 B	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 II	2016 年度以前入学者
大橋 由紀夫	
授業コード：Q3184	2017 年度以降入学者
授業コード：P3124	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代地中海世界・イスラーム世界の伝統科学史、および、近代科学成立発展史を講義する。（科学史 A と B をあわせて、伝統科学と近代科学の全体を概観できることになる。）

到達目標 近代科学の成立事情とともに、科学的な研究方法についても理解を深める。

成績評価の方法と基準 平常点とレポート。

SHS100LA	
科学史 A	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 I	2016 年度以前入学者
谷本 勉	
授業コード：Q3185	2017 年度以降入学者
授業コード：P3125	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

到達目標 今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50％）と平常点（50％）によって評価する。

SHS100LA	
科学史 B	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 II	2016 年度以前入学者
谷本 勉	
授業コード：Q3186	2017 年度以降入学者
授業コード：P3126	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

到達目標 現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50％）と平常点（50％）によって評価する。

SHS100LA	
科学史 A	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 I	2016 年度以前入学者
谷本 勉	
授業コード：Q3187	2017 年度以降入学者
授業コード：P3127	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 2-4 年・キャリアデザイン学部 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

到達目標 今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50％）と平常点（50％）によって評価する。

SHS100LA	
科学史 B	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 II	2016 年度以前入学者
谷本 勉	
授業コード：Q3188	2017 年度以降入学者
授業コード：P3128	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 2-4 年・キャリアデザイン学部 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

到達目標 現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50％）と平常点（50％）によって評価する。

MAT200LA	
数学特講 LA	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
安東 祐希	
授業コード：Q3201	2017 年度以降入学者
授業コード：P3423	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 線形代数学を学ぶ。特に、比例関係を複数の変数に拡張して得られる式について考察する。

到達目標 次のような計算ができ、さらにそれを応用することができる。
・行列演算と行列式計算
・逆行列の導出
「参考書」欄に紹介した書籍（3冊目）の問題から、応用例を一つ以下に挙げよう。
～～～

ある国では、インフルエンザが流行するのを防ぐために、予防接種をしたいと思っている。ただし、インフルエンザのウイルスには1と2の2

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

種類があるとし、ワクチン1はウイルス1に対しては85%の有効性をもち、ウイルス2に対しては70%の有効性をもっているものとし、またもう1つのワクチン2はウイルス1に対しては60%、ウイルス2に対しては90%の有効性をもっているものとする。いま、ウイルス1、2の比率がどうなっているかは全く分からないものとして、この国の「政府」が決定すべきワクチンの利用率を求めよ。

成績評価の方法と基準 到達目標に関する問題の解決能力を期末試験(60%)において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート(40%)において評価する。

MAT200LA	
数学特講 LB	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
安東 祐希	
授業コード：Q3202	2017 年度以降入学者
授業コード：P3424	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 線形代数学を学ぶ。特に、複数次変数に拡張した比例関係について、図形的理解を進める。

到達目標 次のような計算ができ、さらにそれを応用することができる。
・連立一次方程式の解法
・固有値と固有ベクトル
「参考書」欄に紹介した書籍（3冊目）の問題から、応用例の一つ以下に挙げよう。
～～～

ある大学の同窓会で、卒業生からの寄付金の状況を調査したところ、1つの年度に寄付をしてくれた卒業生のうちの80%がその次の年度にも寄付をしてくれ、1つの年度に寄付をしてくれなかった卒業生のうちの30%が次の年度には寄付をしてくれるということがわかったという。このとき、ある年度の卒業生だけに限って調べた場合、卒業の1年後、2年後、さらには一般にn年後に寄付をしてくれる人としてくれない人の割合を求め、それに従って、割合がどのように変化してゆくかについて説明せよ。

成績評価の方法と基準 到達目標に関する問題の解決能力を期末試験(60%)において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート(40%)において評価する。

MAT200LA	
発展数学 L I	2017 年度以降入学者
MAT200LA	
発展数学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
池田 宏一郎	
授業コード：Q3211	2017 年度以降入学者
授業コード：P3481	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～社会科学に必要不可欠な数学（1変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理的解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

到達目標 いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができ

る。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。また、2変数関数の微分を扱う秋学期科目「発展数学 II」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT200LA	
発展数学 L II	2017 年度以降入学者
MAT200LA	
発展数学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
池田 宏一郎	
授業コード：Q3212	2017 年度以降入学者
授業コード：P3482	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の变化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはすである。

到達目標 与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT200LA	
発展数学 L I	2017 年度以降入学者
MAT200LA	
発展数学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
倉田 俊彦	
授業コード：Q3213	2017 年度以降入学者
授業コード：P3483	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～社会科学に必要不可欠な数学（1変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理的解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

到達目標 いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。また、2変数関数の微分を扱う秋学期科目「発展数学 II」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 練習問題（80%）、平常点（20%）

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

MAT200LA	
発展数学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
MAT200LA	
発展数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
倉田 俊彦	
授業コード：Q3214	2017 年度以降入学者
授業コード：P3484	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～社会科学に必要な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の変化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはずである。

到達目標 与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

成績評価の方法と基準 練習問題（80%）、平常点（20%）

PHY200LA	
教養物理学ⅠA	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙までⅠ	2016 年度以前入学者
石川 壮一	
授業コード：Q3221	2017 年度以降入学者
授業コード：P3039	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） サブタイトルを「宇宙と地球」とする。我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようにになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

到達目標 ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。

PHY200LA	
教養物理学ⅠA	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙までⅠ	2016 年度以前入学者
石川 壮一	
授業コード：Q3222	2017 年度以降入学者
授業コード：P3040	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） サブタイトルを「宇宙と地球」とする。我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようにになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

到達目標 ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。

BIO200LA	
教養生物学ⅠA	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
水澤 博	
授業コード：Q3232	2017 年度以降入学者
授業コード：P3064	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の科学ニュースには『生命』や『健康』に関連する話題がとて多いことに気が付いているだろうか。毎日のことなので、特に多いという実感は無いのかもしれないがめっきり増えた。私が1960年代後半に大学（生物学科）に入学した当時、高校の先生方がこれからは生命科学の時代になると言っていたことを思い出す。そして50年後の今、確かにバイオの時代となった。かつて死の病と恐れられていた『がん』という病気が一部とは言え『治る』病気になってきたことは驚きである。実際、私の周囲にもガンに罹ったが治療して心配は無くなったと語ってくれる友人は多い。とても印象深いことは、若い方ががんに罹患した場合、子供を生むことが現実の課題になってきていることである。

もう一つ、生命科学の発展を後押しする発見がiPS細胞だ。このiPS細胞の登場は、常識をひっくり返した。遺伝子の働きによって、細胞が後戻りすることが有りうることを示したのだ。そして、基礎的な分子生物学研究の成果を元にiPS細胞の後戻りとがんの発生に共通性があることが明らかになった。

そこで、秋学期の教養生物学では、『iPS細胞』と『がん細胞』に焦点を当てて、細胞と遺伝子の結びつきについて学ぶことにする。今でも、がんに罹患すると不治の病であると信じ、非科学的な悪徳医療に騙されるケースも後を絶たない。科学的に見ることによって騙されない体質を作することは重要である。

到達目標 『がん』という病気と『iPS』細胞の共通性について、細胞に存在する様々なタンパク質や遺伝子がかかわっていることを理解することが目標である。また、ヒトの、発生、成長、分化の仕組みや、成長の逆行など、遺伝子とタンパク質の連携や、それらと生命とのかわりを理解することを目標とする。また、新しくわかってきた『病気が起こる仕組み』について理解を深めることも目標としたい。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

BIO200LA	
教養生物学ⅠA	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
水澤 博	
授業コード：Q3234	2017 年度以降入学者
授業コード：P3066	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の科学ニュースには『生命』や『健康』に関連する話題がとて多いことに気が付いているだろうか。毎日のことなので、特に多いという実感は無いのかもしれないがめっきり増えた。私が1960年代後半に大学（生物学科）に入学した当時、高校の

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

先生方がこれからは生命科学の時代になるよと言っていたことを思い出す。そして 50 年後の今、確かにバイオの時代となった。

かつて死の病と恐れられていた『がん』という病気が一部とは言え『治る』病気になってきたことは驚きである。実際、私の周囲にもガンに罹ったが治療して心配は無くなったと語ってくれる友人は多い。とても印象深いことは、若い方ががんに罹患した場合、子供を生むことが現実の課題になってきていることである。

もう一つ、生命科学の発展を後押しする発見が iPS 細胞だ。この iPS 細胞の登場は、常識をひっくり返した。遺伝子の働きによって、細胞が後戻りすることが有りうることを示したのだ。そして、基礎的な分子生物学研究の成果を元に iPS 細胞の後戻りとがんの発生に共通性があることが明らかになった。

そこで、秋学期の教養生物学では、『iPS 細胞』と『がん細胞』に焦点を当てて、細胞と遺伝子の結びつきについて学ぶことにする。今でも、がんにも罹患すると不治の病であると信じ、非科学的な悪徳医療に騙されるケースも後を絶たない。科学的に見ることによって騙されない体質を作ること重要である。

なお、本講義は、遺伝子、DNA、RNA、タンパク質、翻訳、転写など、高等学校・生物 I I 程度の知識を持っていることを前提として話します。

到達目標 『がん』という病気と『iPS』細胞の共通性について、細胞に存在する様々なタンパク質や遺伝子がかかわっていることを理解することが目標である。また、ヒトの、発生、成長、分化の仕組み、成長の逆行など、遺伝子とタンパク質の連携や、それらと生命とのかわりを理解することを目標とする。また、新しくわかってきた『病気が起こる仕組み』みについて理解を深めることも目標としたい。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

BIO200LA	
教養生物学 L B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
本川 達雄	
授業コード：Q3235	2017 年度以降入学者
授業コード：P3067	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 生物とはなんだろうか・「私」とはなんだろうか？　そういう根本的なことを考えるよすがとなるのがこの授業である。われわれは生物の一員であり、多様な生物たちがつくり上げている生物圏の中で生きている。よって、良い社会人として生きていくためには、生物としての私とは何かを知る必要があるし、また他の生物たちやそれらのつくっている生態系についても、ある程度の知識は必須だろう。生物には多様な仲間がいる。そのおのおのが独自の体のつくりをもち、それに基づき独自の生活をしている。これは各生物が独自の世界をもち、独自の「価値観」・「文化」をもって生きているといってもいい事態だと私は思う。今、生物多様性の減少が大きな問題になっているが、その背景には、多様な生物とわれわれがどう付き合うのかという、付き合い方に問題があると私は考えている。多様なものどう付き合うのかは、人間相手だけの問題ではないのである。この講義を通し、生物相手の「異文化交流」にも思いをいたせるようになってくれたら嬉しい。

到達目標 生物学の見方を通して、生物としての「私」とはどのようなものが理解できる。
なぜ多様な生物が存在可能なかが理解できる。
その多様性の中に見られる共通性についても理解できる。
なぜ多様性が大切かが理解できる。
以上の理解をもとに、自分の生き方・現代人の生き方を批判的に見直してみることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率 1 0 0 %）

BIO200LA	
教養生物学 L B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
本川 達雄	
授業コード：Q3237	2017 年度以降入学者
授業コード：P3069	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 生物とはなんだろうか・「私」とはなんだろうか？　そういう根本的なことを考えるよすがとなるのがこの授業である。われわれは生物の一員であり、多様な生物たちがつくり上げている生物圏の中で生きている。よって、良い社会人として生きていくためには、生物としての私とは何かを知る必要があるし、また他の生物たちやそれらのつくっている生態系についても、ある程度の知識は必須だろう。生物には多様な仲間がいる。そのおのおのが独自の体のつくりをもち、それに基づき独自の生活をしている。これは各生物が独自の世界をもち、独自の「価値観」・「文化」をもって生きているといってもいい事態だと私は思う。今、生物多様性の減少が大きな問題になっているが、その背景には、多様な生物とわれわれがどう付き合うのかという、付き合い方に問題があると私は考えている。多様なものどう付き合うのかは、人間相手だけの問題ではないのである。この講義を通し、生物相手の「異文化交流」にも思いをいたせるようになってくれたら嬉しい。

到達目標 生物学の見方を通して、生物としての「私」とはどのようなものが理解できる。
なぜ多様な生物が存在可能なかが理解できる。
その多様性の中に見られる共通性についても理解できる。
なぜ多様性が大切かが理解できる。
以上の理解をもとに、自分の生き方・現代人の生き方を批判的に見直してみることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率 1 0 0 %）

BIO200LA	
教養生物学 L B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
本川 達雄	
授業コード：Q3239	2017 年度以降入学者
授業コード：P3071	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 生物とはなんだろうか・「私」とはなんだろうか？　そういう根本的なことを考えるよすがとなるのがこの授業である。われわれは生物の一員であり、多様な生物たちがつくり上げている生物圏の中で生きている。よって、良い社会人として生きていくためには、生物としての私とは何かを知る必要があるし、また他の生物たちやそれらのつくっている生態系についても、ある程度の知識は必須だろう。生物には多様な仲間がいる。そのおのおのが独自の体のつくりをもち、それに基づき独自の生活をしている。これは各生物が独自の世界をもち、独自の「価値観」・「文化」をもって生きているといってもいい事態だと私は思う。今、生物多様性の減少が大きな問題になっているが、その背景には、多様な生物とわれわれがどう付き合うのかという、付き合い方に問題があると私は考えている。多様なものどう付き合うのかは、人間相手だけの問題ではないのである。この講義を通し、生物相手の「異文化交流」にも思いをいたせるようになってくれたら嬉しい。

到達目標 生物学の見方を通して、生物としての「私」とはどのようなものが理解できる。
なぜ多様な生物が存在可能なかが理解できる。
その多様性の中に見られる共通性についても理解できる。
なぜ多様性が大切かが理解できる。
以上の理解をもとに、自分の生き方・現代人の生き方を批判的に見直し

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

てみるができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率100％）

BIO200LA	
教養生物学 L C	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
本川 達雄	
授業コード：Q3242	2017 年度以降入学者
授業コード：P3068	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 動物の体はどんなふうに働いているの
だろうか。どうやって食物を摂って消化吸収し、酸素を取り入れ、体内
の恒常性を維持し、体温を保ち、情報を集め、判断し、行動を起こすの
か、それらの仕組みを学ぶ。専門分野で言えば「動物生理学」の全般を
学ぶことになる。

到達目標 自分の体の理解を通して、自分自身を理解できる。
自分自身の体のすごさを通して、自分を「尊敬」できるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率100％）

BIO200LA	
教養生物学 L C	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
本川 達雄	
授業コード：Q3244	2017 年度以降入学者
授業コード：P3070	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 動物の体はどんなふうに働いているの
だろうか。どうやって食物を摂って消化吸収し、酸素を取り入れ、体内
の恒常性を維持し、体温を保ち、情報を集め、判断し、行動を起こすの
か、それらの仕組みを学ぶ。専門分野で言えば「動物生理学」の全般を
学ぶことになる。

到達目標 自分の体の理解を通して、自分自身を理解できる。
自分自身の体のすごさを通して、自分を「尊敬」できるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率100％）

BIO200LA	
教養生物学 L C	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
本川 達雄	
授業コード：Q3246	2017 年度以降入学者
授業コード：P3072	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 動物の体はどんなふうに働いているの
だろうか。どうやって食物を摂って消化吸収し、酸素を取り入れ、体内
の恒常性を維持し、体温を保ち、情報を集め、判断し、行動を起こすの
か、それらの仕組みを学ぶ。専門分野で言えば「動物生理学」の全般を
学ぶことになる。

到達目標 自分の体の理解を通して、自分自身を理解できる。
自分自身の体のすごさを通して、自分を「尊敬」できるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率100％）

CHM200LA	
教養化学 L A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：エネルギーの科学	
向井 知大	
授業コード：Q3261	2017 年度以降入学者
授業コード：P3097	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 物質の変化には、エネルギーの出入り
が伴います。社会や生命はこれらを上手に利用することで活動していま
す。エネルギーを題材にして身の回りの現象や物質について理解を深め、
現在の我々の生活を支えている技術に対する興味を持って下さい。

到達目標 エネルギーについて原子核や電子の振る舞いをもとに理解し、
科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。エネ
ルギー問題に関する近年の話題について、自分なりの考察ができるよう
になることを目標にして下さい。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価します。(配分 100%)

CHM200LA	
教養化学 L A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：エネルギーの科学	
中島 弘一	
授業コード：Q3262	2017 年度以降入学者
授業コード：P3098	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではエネルギーと環境をテー
マに、エネルギーを作り出す仕組みとそれに伴う環境問題について理解
することを目標にします。
原子力は事故があったときの放射能漏れだけが問題なのではありません。
温室効果ガスと地球温暖化も理屈を知っておく必要があります。太陽電
池や燃料電池もそのメリット、デメリットを知っておく必要があります。
社会の一員として今後のエネルギー利用を、問題点を理解したうえで、自
らが適切に判断できる理解力を養います。

到達目標 原子力エネルギーとは何か、利用に際してどういう問題があ
るのかという知識が身につく。石油や石炭を燃やしてどのように電気に
変換されるのか？温暖化とどうリンクしているのかを理解できる。自然
エネルギーが抱える問題点は何か？水素を利用した燃料電池の特徴に関
する知識が得られる。また、現状残されている課題を知識として得るこ
とができる。

成績評価の方法と基準 毎時限、講義の最後に小テストを行い、その結
果（30％）と期末試験の成績（70％）をもとに評価する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

CHM200LA	
教養化学Ⅰ B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル： 環境化学	
中島 弘一	
授業コード：Q3263	2017 年度以降入学者
授業コード：P3099	2016 年度以前入学者
開講時期： 春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 科学技術の発達によって、人類は着実に生命のなぞを解き明かしつつあります。そして不完全ながらもその知識をもとに、多種多様な薬品、食品添加物、あるいは技術が生み出され応用されて来ています。ホルモンの仕組みから筋肉増強剤や避妊薬の開発、遺伝子操作による害虫や農薬に強い作物への改良、倫理的な問題が不透明なまま利用されているものも少なくありません。この授業では、はじめに過去の公害事例についてその原因等を概説した後、日用品や食品など、身の回りの化学物質についての環境問題を取り上げながら、生命を構成する物質（糖質、脂質、たんぱく質、核酸）の働きなどとの関連を解説します。

到達目標 過去の公害問題の概要を理解する。
生命に関係する物質がどういう分子構造をもち、どのような働きを持つて機能しているかを理解することができる。例えば、食事を取って、それがエネルギーに変換される、あるいは、身体そのものに変化する仕組みを理解できる。
体の中での物質の認識の仕組みを理解できる。例えば、免疫反応の仕組みや、でんぷんを消化できて、セルロースを消化できない理由を理解できる。
合成品が生命に与える影響を理解できる。

成績評価の方法と基準 基本的には期末試験の成績（90％）をもとにしますが、毎回出席を取り、授業への積極的な参加度（10％）も勘案します。

CHM200LA	
教養化学Ⅰ B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル： 環境問題を考えるための化学	
西村 直美	
授業コード：Q3264	2017 年度以降入学者
授業コード：P3100	2016 年度以前入学者
開講時期： 秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現在、地球が直面している環境問題は深刻である。環境問題を解決するためには、その問題点をメカニズムから理解することが大切である。そのためには基本的な化学の理解が必須である。本講座は環境問題を考えることを最終目的とするが、まずはこれに必須な化学の知識を身につけてもらうことを目的とした。

到達目標 最終的には現在地球が直面している問題点を理解してもらい、その解決策を探るために必要な知識としての化学を理解してもらうことが目標である。

成績評価の方法と基準 出席（20％）、小テスト（20％）、レポート（20％）、期末試験（40％）を総合的に評価します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

春学期はロマン主義とライン川を出発点として、様々な文学名所を体験しながら、ドイツ語とドイツ文化を探索。

到達目標 。「文学名所」というテーマを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
。映画の解釈方法を身につける。
。異文化理解能力を高める。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）： 60%

学期末試験： 40%

受講者数によって評価方法が変わる可能性がある。

ARSa200LA	
ドイツ語の世界 L B	2017 年度以降入学者
ARSa100LA	
ドイツ語の世界 II	2016 年度以前入学者
D. ハイデンライヒ	
授業コード：R4296	2017 年度以降入学者
授業コード：P0402	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） *Deutsche Charaktere, Figuren und Helden* 《ドイツのシンボルキャラクター》。秋学期はハーメルンの笛吹き男、ミュンヒハウゼン男爵、カスパー・ハザー：このようなドイツで生み出されたシンボルキャラクターが、なぜ世代を越え、国を越え多くの人々に愛されるのかという問いを考察しながらドイツ語とドイツ文化を探索。

到達目標 。「シンボルキャラクター」というテーマを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
。映画の解釈方法を身につける。
。異文化理解能力を高める。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）： 60%

学期末試験： 40%

受講者数によって評価方法が変わる可能性がある。

ARSa200LA	
フランスの文化と社会 LA	2017 年度以降入学者
ARSa300LA	
フランスの文化と社会 I	2016 年度以前入学者
篠原 学	
授業コード：R5291	2017 年度以降入学者
授業コード：P6661	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次： 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、フランスの文化と社会をさまざまな角度から検討します。春学期にはとくに芸術面に力点を置き、フランスの地理、食文化、美術、音楽、文学および思想について扱います。一般的なフランスのイメージから出発して、ときにはそれを大きく塗り替えながら、フランスという国についての知識を深めていくことが目標です。いわゆる「フランス料理」の本来の多様性、美術史における印象派の意義、音楽における古楽からクラシックへの展開、シャンソンの位置づけ、文学と思想の影響関係等々について学びます。フランスに関心のある学生を対象としており、フランス語を履修している必要はありません。

到達目標 この授業は、フランスに関する知識と関心を深めることを目標としています。この授業をつうじて、異文化理解への第一歩を踏み出すことができると同時に、観光やマスメディアなどの分野で役立つ基礎知識を学ぶことができます。また、自文化を相対化する視座を開くうえでも、フランス的なものの見方や文化的な価値観を知ることは非常に有効です。

ARSa200LA	
ドイツの文化と社会 LA	2017 年度以降入学者
ARSa200LA	
ドイツの文化と社会 I	2016 年度以前入学者
内田 俊一	
授業コード：R4297	2017 年度以降入学者
授業コード：P6659	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次： 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「ローレライ」や「野ばら」、「菩提樹」、シューベルトやブラームスらによる「子守歌」等々のドイツ歌曲は誰でも知っているでしょう。またドイツ民謡の歌詞だけを変えて、日本で唱歌として歌われてきたものは、かなりあります。メロディーを聴けば、ああ、あの曲かとわかるでしょう。CD等を使ってそのような歌の数々を鑑賞し、ドイツ語の歌詞を読んで味わい、できれば歌ってみることにしましょう。さらに、取り上げた曲の背後にある、成立当時の社会状況等についての解説も加えます。そのようにしてドイツ文化の一端に触れ、教養を深めることが目標です。

到達目標 ドイツの文化や社会についての知見を広げることができる。

成績評価の方法と基準 授業最終日に試験を行います。受講者数が少ない場合は、平常点のみの評価になるかもしれませんが、その場合でもドイツ語未習者には必ず試験（歌詞の和訳）を課します。成績評価基準：試験 50 % + 平常点 50 %

ARSa200LA	
ドイツの文化と社会 LB	2017 年度以降入学者
ARSa200LA	
ドイツの文化と社会 II	2016 年度以前入学者
内田 俊一	
授業コード：R4298	2017 年度以降入学者
授業コード：P6660	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次： 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続き、ドイツ語の歌を鑑賞し、歌詞を読んで味わい、できれば歌ってみることにしましょう。そのようにしてドイツの文化の一端に触れ、教養を深めることが目標です。なお、ドイツ語未修者の秋学期のみの履修は認めません。

到達目標 ドイツの文化や社会についての知見を広げることができる。

成績評価の方法と基準 授業最終日に試験を行います。受講者が少ない場合は平常点のみの評価になるかもしれませんが、その場合でも、ドイツ語未修者には必ず試験（歌詞の和訳）を課します。成績評価基準：試験 50 % + 平常点 50 %

ARSa200LA	
ドイツ語の世界 L A	2017 年度以降入学者
ARSa100LA	
ドイツ語の世界 I	2016 年度以前入学者
D. ハイデンライヒ	
授業コード：R4295	2017 年度以降入学者
授業コード：P0401	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） *Literarische Plätze* 《文学名所》

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 毎回提出していただくリアクションペーパーで、主体的に取り組めているかどうかを判断します。（40％）
また、学期末にレポートを書いていただきます。（60％）授業のなかで説明した論述の書き方を踏まえているかどうか、授業との関連性が明確であるかどうかをもとに、判断します。
授業への参加状況（発言・質問など）も、成績評価にあたっては加味されます。

ARSa200LA	
フランスの文化と社会 LB	2017 年度以降入学者
ARSa300LA	
フランスの文化と社会 II	2016 年度以前入学者
篠原 学	
授業コード：R5292	2017 年度以降入学者
授業コード：P6662	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、フランスの文化と社会をさまざまな角度から検討します。秋学期にはとくに法・制度面に力点を置き、フランスの言語、歴史、ライシテ（脱宗教性）、移民問題、パリテ（男女同数）、パックス（民事連帯契約）等について扱います。フランスの歴史を学んでいくと、現行の制度がどのような必然性をもって運用されているかがわかります。その観点から、フランスの政治・教育制度やライシテの理念、パリテやパックスの理想、さらにはヨーロッパにおけるフランスの位置どりについて学びます。また、最後には、こうした多面的なフランス社会を映し出す鏡としての、フランス映画を鑑賞します。フランスに関心のある学生を対象としており、フランス語を履修している必要はありません。

到達目標 この授業は、フランスに関する知識と関心を深めることを目標としています。この授業をつうじて、異文化理解への第一歩を踏み出すことができると同時に、観光やマスメディアなどの分野で役立つ基礎知識を学ぶことができます。また、自文化を相対化する視座を開くうえでも、フランス的なものの見方や文化的な価値観を知ることは非常に有効です。

成績評価の方法と基準 毎回提出していただくリアクションペーパーで、主体的に取り組めているかどうかを判断します。（40％）
また、学期末にレポートを書いていただきます。（60％）授業のなかで説明した論述の書き方を踏まえているかどうか、授業との関連性が明確であるかどうかをもとに、判断します。
授業への参加状況（発言・質問など）も、成績評価にあたっては加味されます。

ARSa200LA	
フランス語の世界 L A	2017 年度以降入学者
ARSa100LA	
フランス語の世界 I	2016 年度以前入学者
竹本 研史	
授業コード：R5271	2017 年度以降入学者
授業コード：P0403	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修対象：＜2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語は、英語の次に世界で使用されており、国際連合の公用語の 1 つにもなっています。ただし、「フランス語の世界」と銘打っておりますが、この授業は語学の授業というわけではありません。もちろん言語と文化は、密接な関係を有しております。しかしながら、世界の各地にはフランス語を基軸としながらも多様な文化が広がっているはずで、また、フランスそれ自体が多民族国家であり、「フランス文化」などと 1 つにくれるものではありません。そこで、本講義では、「フランス語圏文化」という観点から、視聴覚教材も積極的に利用しつつ、フランスを中心とする多様なフランス語圏の社

会や文化と一緒に解剖していきましょう。

到達目標 それぞれが豊かな広がりを持つ映画、音楽、美術、建築などの芸術文化を通じて、フランス語圏文化の多様さへの理解を深めることによって、多様な価値観を受容することを目的とします。

成績評価の方法と基準 各回に提出してもらったコメントシート [20%]、および学期末におこなう筆記試験 [80%] により評価。

ARSa200LA	
フランス語の世界 L B	2017 年度以降入学者
ARSa100LA	
フランス語の世界 II	2016 年度以前入学者
竹本 研史	
授業コード：R5272	2017 年度以降入学者
授業コード：P0404	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修対象：＜2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語は、英語の次に世界で使用されており、国際連合の公用語の 1 つにもなっています。ただし、「フランス語の世界」と銘打っておりますが、この授業は語学の授業というわけではありません。もちろん言語と文化は、密接な関係を有しております。しかしながら、世界の各地にはフランス語を基軸としながらも多様な文化が広がっているはずで、また、フランスそれ自体が多民族国家であり、「フランス文化」などと 1 つにくれるものではありません。そこで、本講義では、「フランス語圏文化」という観点から、視聴覚教材も積極的に利用しつつ、フランスを中心とする多様なフランス語圏の社会や文化と一緒に解剖していきましょう。

到達目標 海外県・海外領土なども含めたフランス国内の地方文化、ならびにフランス以外のフランス語圏の文化、そしてフランス社会に関する学習を通じて、ア・プリオリに捉えられてきた「フランス文化」を内部と外部から照射することで解体し、フランス語圏文化の多様さへの理解を深めることによって、多様な価値観を受容することを目的とします。

成績評価の方法と基準 各回に提出してもらったコメントシート [20%]、および学期末におこなう筆記試験 [80%] により評価。

ARSa200LA	
フランス生活文化論 LA	2017 年度以降入学者
徳井 淑子	
授業コード：R5293	2017 年度以降入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランスの生活文化について、特にファッション文化を対象とし、それを通してみえる生活感情の歴史を解説します。時代のファッションが、いかに時代の人びとの感性を示し、それが今日の生活のなかにいかに定着しているのか、日本人の感性との比較も視野に入れてフランスの生活文化の特質を示します。本講では特に色と文様の表象を切り口とします。

到達目標 ファッションあるいは風俗に関わるフランス語の歴史を学ぶことができます。また服飾表現の豊かさを知ることにより、現代ファッションを批評するちからを養うことができます。さらに服飾文化の分析をいかに行い、そこからなにがわかるのか、ファッションをテーマとして研究する際の資料の探し方、方法のあり方を身につけることができます。

成績評価の方法と基準 学期末試験（70％）
授業への参加度とリアクションペーパーによる理解度（30％）

ARSa200LA	
フランス生活文化論 LB	2017 年度以降入学者
徳井 淑子	
授業コード：R5294 開講時期：秋学期	2017 年度以降入学者
※定員制 履修可能年次： 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランスの生活文化について、特にファッション文化を対象とし、それを通してみえる生活感情の歴史を解説します。時代のファッションが、いかに時代の人びとの感性を示し、それが今日の生活のなかにいかに定着しているのか、日本人の感性との比較も視野に入れてフランスの生活文化の特質を示します。本講では特に異国・懐古趣味を中心に、またブランドやジェンダー規範など現代の問題にも言及します。

到達目標 ファッションあるいは風俗に関わるフランス語の歴史を学ぶことができます。また服飾表現の豊かさを知ることにより、現代ファッションを批評するちからを養うことができます。さらに服飾文化の分析をいかにに行い、そこからなにがわかるのか、ファッションをテーマとして研究する際の資料の探し方、方法のあり方を身につけることができます。

成績評価の方法と基準 学期末試験（70％）
授業への参加度とリアクションペーパーによる理解度（30％）

ARSa200LA	
ロシアの文化と社会 LA	2017 年度以降入学者
ARSa200LA	
ロシアの文化と社会 I	2016 年度以前入学者
佐藤 千登勢	
授業コード：R6243 授業コード：P6663 開講時期：春学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
※定員制 履修可能年次： 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくとも履修できます。**SA** ロシアに向かう予定の2年生は事前学習の一環として、必ず履修してください。
ロシアは、峻厳で美しい自然、深くて豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でパワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりです。

到達目標 この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレヴューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

成績評価の方法と基準 レヴューシート（50％）、期末レポート（50％）の基準により判断します。

ARSa200LA	
ロシアの文化と社会 LB	2017 年度以降入学者
ARSa200LA	
ロシアの文化と社会 II	2016 年度以前入学者
小西 昌隆	
授業コード：R6244 授業コード：P6664 開講時期：秋学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
※定員制 履修可能年次： 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期の授業に引き続き、ロシアの文化の多様性を見ていきます。春学期に得た情報を基に、さらにそこに新たな領域・ジャンルの知識を積み重ねていくことになりますので、各自がロシアのイメージを整理しつつ、吸収していったほしいと思います。

到達目標 この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレヴューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

成績評価の方法と基準 レヴューシート（50％）、期末レポート（50％）の基準により判断します。

ARSe200LA	
中国の文化と社会 L A	2017 年度以降入学者
ARSe200LA	
中国の文化と社会 I	2016 年度以前入学者
山本 律	
授業コード：R7447 授業コード：P6665 開講時期：春学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
※定員制 履修可能年次： 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。
映画は、その時代の社会を映し出します。

今学期は、近年中国で若者を中心に人気を博した映画を題材に、これらの映画がなぜ製作されたのか、なぜ人気を博したのかについて考えてみたいと思います。

到達目標 中国の文化と社会についての理解を深めます。

成績評価の方法と基準 平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60％、レポート 40％

ARSe200LA	
中国の文化と社会 L B	2017 年度以降入学者
ARSe200LA	
中国の文化と社会 II	2016 年度以前入学者
山本 律	
授業コード：R7448 授業コード：P6666 開講時期：秋学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
※定員制 履修可能年次： 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。
映画は、その国の文化と社会を映し出します。
今期では、中国文化を語るうえで欠くことのできない中国武術、いわ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

ゆるカンフー映画を題材に、なぜ中国でカンフー映画が人気を博しているのか、中国の人々はカンフー映画に何をみているのかについて考えていきたいと思います。

- 到達目標
- 中国の文化と社会についての理解を深めます。
- 成績評価の方法と基準
- 平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60％、レポート40％

ARSe200LA	
中国の文化と社会 L C	2017 年度以降入学者
ARSe200LA	
中国の文化と社会 I	2016 年度以前入学者
鈴木 直子	
授業コード：R7449	2017 年度以降入学者
授業コード：P6681	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、主に中国の演劇作品を通して、中国の文化や社会に対する知識や理解を深めることを目標としている。春学期は特に演劇からみた日中交流史について学んでいく。隣国である中国の人々が慣れ親しんできた文化とは一体どのようなものなのか。実際の作品に触れることで、中国の人々と共通の話題が生まれ、また自国の文化についても再認識する契機となる。日中交流の歴史から、これからの日中関係についても各自の考えを持ち、述べることができる。

作品鑑賞では字幕のない映像を使用することもあるので、中国語を履修していることが望ましい。

- 到達目標
1. 中国の演劇作品に描かれる時代背景や社会情勢を理解することができる。
2. 作品を通じて理解したことや疑問点を整理し、まとめることができる。
3. 自国の文化との相違点について比較し考察できる。
4. これまでの日中交流の歴史を回顧し、その上で今後の自分たちの時代の日中関係についても各自の考えを持ち、述べることができる。

成績評価の方法と基準 各回の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。最終授業時には記述式の期末試験を行う。
平常点（15 点）、リアクションペーパー（35 点）、期末試験（50 点）

ARSe200LA	
中国の文化と社会 L D	2017 年度以降入学者
ARSe200LA	
中国の文化と社会 II	2016 年度以前入学者
鈴木 直子	
授業コード：R7450	2017 年度以降入学者
授業コード：P6682	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、主に中国の演劇、映画作品を通して、中国の文化や社会に対する知識や理解を深めることを目標としている。秋学期は実際の演劇作品や映画を鑑賞していく。隣国である中国の人々が慣れ親しんできた文化とは一体どのようなものなのか。実際の作品に触れることで、中国の人々と共通の話題が生まれ、また自国の文化についても再認識する契機となる。

作品鑑賞では字幕のない映像を使用することもあるので、中国語を履修していることが望ましい。

- 到達目標
1. 中国の演劇作品に描かれる時代背景や社会情勢を理解することができる。
2. 作品を通じて理解したことや疑問点を整理し、まとめることができる。
3. 自国の文化との相違点について比較し考察できる。

成績評価の方法と基準 各回の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。最終授業時には記述式の期末試験を行う。

平常点（15 点）、リアクションペーパー（40 点）、期末試験（45 点）

ARSe200LA	
中国語の世界 L A	2017 年度以降入学者
ARSe100LA	
中国語の世界 I	2016 年度以前入学者
渡邊 大	
授業コード：R7445	2017 年度以降入学者
授業コード：P0407	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修対象：＜2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語ということばを通して、中国人や中国文化、また、中国という国について考えます。

到達目標 中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、中国語ということばを通してみえる世界が、日本語を通してみる世界とはいかに違うか、を実感してもらえればと思います。また、ことばについて知ること、我々自身についても新しい発見をしたり、新しいものの見方ができるような授業を心がけます。

成績評価の方法と基準 出席（2 割）、授業への取り組み（2 割）、試験（6 割）によって評価します。

ARSe200LA	
中国語の世界 L B	2017 年度以降入学者
ARSe100LA	
中国語の世界 II	2016 年度以前入学者
渡邊 大	
授業コード：R7446	2017 年度以降入学者
授業コード：P0408	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修対象：＜2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語を表記する文字体系である漢字にまつわることがらを通して、中国的思考法について考えます。

到達目標 中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、漢字という文字体系が、中国語や中国的思考法といかに結びついているのか、を理解してもらえればと思います。

成績評価の方法と基準 出席（2 割）、授業への取り組み（2 割）、レポート・試験（6 割）によって評価します。

ARSa200LA	
スペイン語の世界 L A	2017 年度以降入学者
ARSa100LA	
スペイン語の世界 I	2016 年度以前入学者
塩崎 公靖	
授業コード：R8305	2017 年度以降入学者
授業コード：P0409	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修対象：＜2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

到達目標 本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

とくに、言語・地域・文化を軸に、スペインやスペイン語圏の社会の多様性を学ぶことにより、既存の枠組みを再考し、多様性を有する社会のあり方について捉えなおすきっかけを提供したい。

成績評価の方法と基準 プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容と出席で総合評価する。
出席は毎回配布するコメントシートの提出をもって、出席とみなし、3回以上の欠席は不可とする。

ARSa200LA	
スペイン語の世界ⅠB	2017 年度以降入学者
ARSa100LA	
スペイン語の世界Ⅱ	2016 年度以前入学者
塩崎 公靖	
授業コード：R8306	2017 年度以降入学者
授業コード：P0410	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修対象：＜2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

到達目標 本講義では、また、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。とくに、言語・地域・文化を軸に、スペインやスペイン語圏の社会の多様性を学ぶことにより、既存の枠組みを再考し、多様性を有する社会のあり方について捉えなおすきっかけを提供したい。

成績評価の方法と基準 プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容と出席で総合評価する。
出席は毎回配布するコメントシートの提出をもって、出席とみなし、3回以上の欠席は不可とする。

ARSe200LA	
朝鮮の文化と社会 LA	2017 年度以降入学者
ARSe200LA	
朝鮮の文化と社会 I	2016 年度以前入学者
李 英美	
授業コード：R9289	2017 年度以降入学者
授業コード：P6667	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。
朝鮮・韓国の文化と社会に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、そのことによって自国の日本を客観的に見る目を育むことが授業の目的である。

到達目標 春学期には、朝鮮・韓国に関する入門書のテキストに沿って、朝鮮・韓国の文化と社会を概観する。

成績評価の方法と基準 レポート50%、平常点50%をもって総合的に評価する。

ARSe200LA	
朝鮮の文化と社会 LB	2017 年度以降入学者
ARSe200LA	
朝鮮の文化と社会Ⅱ	2016 年度以前入学者
李 英美	
授業コード：R9290	2017 年度以降入学者
授業コード：P6668	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では韓国・朝鮮の文化と社会全般について学ぶ。

韓国・朝鮮の文化と社会に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、そのことによって自国の日本を客観的に見る目を育むことが授業の目的である。

到達目標 秋学期には、主に現代韓国の文化と社会について、ひと通り概観することが到達目標である。

成績評価の方法と基準 レポート50%、平常点50%をもって総合的に評価する。

ARSe200LA	
日本の文化と社会 LA	2017 年度以降入学者
ARSe200LA	
日本の文化と社会 I	2016 年度以前入学者
小宮 修太郎	
授業コード：R3623	2017 年度以降入学者
授業コード：P6669	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 今日の日本社会の姿をいろいろな角度から見つめ、そこで起きている諸問題や私達の生き方について話し合い、ともに考えていく授業。留学生と日本人学生が集い、国際比較もしながら同時代の諸問題について語り合う。各回のテーマは、人生論的な問い、現代社会の諸問題、国際的なレベルの問題などで、受講者の希望の多いものが選ばれる。

到達目標 1. テーマに関する資料を調べ、わかりやすく発表することができる。
2. 討論の中で自分の考えをわかりやすく伝えることができる。
3. 異文化の人と話す中で相手の文化をよく理解し、自国の文化との違いをつかむことができる。

成績評価の方法と基準 期末にレポート形式の試験を行う。その結果と平常点（出席率と授業参加の態度と発表への評価）を総合して評価を決める。：レポートの評価（50%）、平常点の評価（50%）
出席率が60%以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

ARSe200LA	
日本の文化と社会 LB	2017 年度以降入学者
ARSe200LA	
日本の文化と社会 II	2016 年度以前入学者
小宮 修太郎	
授業コード：R3624	2017 年度以降入学者
授業コード：P6670	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 今日の日本社会の姿をいろいろな角度から見つめ、そこで起きている諸問題や私達の生き方について話し合い、ともに考えていく授業。留学生と日本人学生が集い、国際比較もしながら同時代の諸問題について語り合う。各回のテーマは、人生論的な問い、現代社会の諸問題、国際的なレベルの問題などで、受講者の希望の多いものが選ばれる。ただし、後半の3つの課題については時事問題の中で担当教師が選んだものを行う。

到達目標 1. テーマに関する資料を調べ、わかりやすく発表することができる。
2. 討論の中で自分の考えをわかりやすく伝えることができる。
3. 異文化の人と話す中で相手の文化をよく理解し、自国の文化との違いをつかむことができる。

成績評価の方法と基準 期末にレポート形式の試験を行う。その結果と平常点（出席率と授業参加の態度と発表への評価）を総合して評価を決める。:レポートの評価（50%）、平常点の評価（50%）
出席率が 60 %以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

ARSe200LA	
日本語の世界 LA	2017 年度以降入学者
ARSe100LA	
日本語の世界 I	2016 年度以前入学者
小宮 修太郎	
授業コード：R3621	2017 年度以降入学者
授業コード：P0413	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 2～4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞留学生のみ法文営キ 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） このクラスでは、留学生と日本人学生のための日本語学入門の授業を行う。言語は現代社会のコミュニケーションの道具でもあるが、過去の時代から受けつがれ、形成されてきた文化的な産物でもある。そのようにしてできた言語の諸側面を見つめながら、日本語への理解を深めてもらうのが主な目的である。留学生の皆さんにとっては、読んだり話したりする中で日本語の力を伸ばしていく場にもなると思う。

到達目標 1. 日本語の諸側面について体験をもとに考える力を身につける。
2. 話し合いの中で相手の意見をよく理解しつつ、自分の意見を言うことができる。
3. あるテーマについて、自分または自分たちが考えたことをわかりやすく発表することができる。

成績評価の方法と基準 予習宿題の提出率（25%）、期末テストの評価（25%）、平常点（50%）を総合して評価を決める。
出席率が 60%以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

ARSe200LA	
日本語の世界 LB	2017 年度以降入学者
ARSe100LA	
日本語の世界 II	2016 年度以前入学者
小宮 修太郎	
授業コード：R3622	2017 年度以降入学者
授業コード：P0414	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 2～4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞留学生のみ法文営キ 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） このクラスでは、留学生と日本人学生のための日本語学入門の授業を行う。言語は現代社会のコミュニケーションの道具でもあるが、過去の時代から受けつがれ、形成されてきた文化的な産物でもある。そのようにしてできた言語の諸側面を見つめながら、日本語への理解を深めてもらうのが主な目的である。留学生の皆さんにとっては、読んだり話したりする中で日本語の力を伸ばしていく場にもなると思う。

到達目標 1. 日本語の諸側面について体験をもとに考える力を身につける。
2. 話し合いの中で相手の意見をよく理解しつつ、自分の意見を言うことができる。
3. あるテーマについて、自分または自分たちが考えたことをわかりやすく発表することができる。

成績評価の方法と基準 予習宿題の提出率（25%）、期末テストの評価（25%）、平常点（50%）を総合して評価を決める。
出席率が 60%以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I	2016 年度以前入学者
北原 ルック 明子	
授業コード：R0601	2017 年度以降入学者
授業コード：E1501	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 1 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） You, Me and the World という教科書を通して世界でどのような問題が起こっているか、並びに環境に関する様々な問題について勉強をして行く。

到達目標 専門知識を生かしながらそれぞれの興味のある環境問題を通して英語で話せるようにして行きたい、読み書きはもちろんの事リスニング、スピーキングに重点を置きながら教科書の各ユニットを進める上でその課題をはなせるようにして行く。

成績評価の方法と基準 学期末試験 80 %、プレゼンテーション・課題 15 %、平常点 5 %を成績評価の基準とする。

ます。

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2016 年度以前入学者
北原 ルック 明子	
授業コード：R0602	2017 年度以降入学者
授業コード：E1502	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 1 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期同様環境問題について考えていく。

到達目標 専門知識を活かしながら環境問題を英語で話せるようにする。

成績評価の方法と基準 学期末試験 70%、平常点（授業態度、参加度、課題及び宿題の提出など）

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I	2016 年度以前入学者
小泉 和弘	
授業コード：R0603	2017 年度以降入学者
授業コード：E1503	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 2 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

到達目標 英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。また、基本的な英文を書けるようにする。

成績評価の方法と基準 試験 70%、授業への積極性 10%、課題 20%、セメスター内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2016 年度以前入学者
小泉 和弘	
授業コード：R0604	2017 年度以降入学者
授業コード：E1504	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 2 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。

到達目標 英文を正しく、早く読めるようにする。また、基本的な英文文を出来るようにする。

成績評価の方法と基準 試験 70%、課題 20%、授業への積極性 10%、1 セメスターで 4 回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になり

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I	2016 年度以前入学者
吉江 秀和	
授業コード：R0605	2017 年度以降入学者
授業コード：E1505	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 3 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） イギリスとアイルランドの文化について英語で学ぶテキスト『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

到達目標 テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

成績評価の方法と基準 確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2016 年度以前入学者
吉江 秀和	
授業コード：R0606	2017 年度以降入学者
授業コード：E1506	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 3 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） イギリスとアイルランドの文化について英語で学ぶテキスト『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

到達目標 テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

成績評価の方法と基準 確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみな

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

さない可能性があります)。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I	2016 年度以前入学者
今井 澄子	
授業コード：R0607	2017 年度以降入学者
授業コード：E1507	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 4 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

到達目標 800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、Writing・和訳などの課題 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点とし、60% 以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2016 年度以前入学者
今井 澄子	
授業コード：R0608	2017 年度以降入学者
授業コード：E1508	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 4 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

到達目標 800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、Writing・和訳などの課題 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点

の合計 100 点とし、60% 以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I	2016 年度以前入学者
根本 怜奈	
授業コード：R0609	2017 年度以降入学者
授業コード：E1509	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 5 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

到達目標 1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40%) によって総合的に評価する。
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2016 年度以前入学者
根本 怜奈	
授業コード：R0610	2017 年度以降入学者
授業コード：E1510	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 5 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

到達目標 1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメント

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

を含む平常点(40%)によって総合的に評価する。
4回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から30分以上の遅刻は欠席となる。遅刻2回は欠席1回分としてカウントする。

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I	2016 年度以前入学者
舟橋 美香	
授業コード：R0611	2017 年度以降入学者
授業コード：E1511	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 6 組	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 異文化理解、環境、人権についての英文を読み、現代の問題を読み解いていく。

到達目標 本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

成績評価の方法と基準 期末試験を85%、平常点を15%で計算します。

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2016 年度以前入学者
舟橋 美香	
授業コード：R0612	2017 年度以降入学者
授業コード：E1512	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 6 組	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 日本を代表する企業を取り上げたテキストで企業の努力と成功への秘訣を英語で読み解く。

到達目標 本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

成績評価の方法と基準 期末試験を85%、平常点を15%で計算します。

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I	2016 年度以前入学者
北原 ルック 明子	
授業コード：R0613	2017 年度以降入学者
授業コード：E1513	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 7 組	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 【授業の概要と目的 (何を学ぶか) / Outline and objectives】

You, Me and the World という教科書を通して世界でどのような問題が起こっているか、並びに環境に関する様々な問題について勉強をして行く。

到達目標 【到達目標 / Goal】

専門知識を生かしながらそれぞれの興味のある環境問題を通して英語で話せるようにして行きたい。読み書きはもちろんの事リスニング、スピー

キングに重点を置きながら教科書の各ユニットを進める上でその課題をはなせるようにして行く。

成績評価の方法と基準 学期末試験80%、プレゼンテーション・課題15%、平常点5%を成績評価の基準とする。

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2016 年度以前入学者
北原 ルック 明子	
授業コード：R0614	2017 年度以降入学者
授業コード：E1514	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 7 組	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 春学期同様環境問題について考えていく。

到達目標 専門知識を活かしながら環境問題を英語で話せるようにする。

成績評価の方法と基準 学期末試験70%、平常点 (授業態度、参加度、課題及び宿題の提出など)

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I	2016 年度以前入学者
小泉 和弘	
授業コード：R0615	2017 年度以降入学者
授業コード：E1515	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 8 組	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) ジャンルを限定せず、4技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

到達目標 英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。また、基本的な英文を書けるようにする。

成績評価の方法と基準 試験70%、授業への積極性10%、課題20%、セメスター内で、4回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2016 年度以前入学者
小泉 和弘	
授業コード：R0616	2017 年度以降入学者
授業コード：E1516	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 8 組	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) ジャンルを限定せず、4技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

- 到達目標** 英文を正しく、早く読めるようにする。また、基本的な英作文を出来るようにする。
- 成績評価の方法と基準** 試験 70 %、課題 20 %、授業への積極性 10 %、
1セメスターで4回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I	2016 年度以前入学者
吉江 秀和	
授業コード：R0617	2017 年度以降入学者
授業コード：E1517	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 9 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） イギリスとアイルランドの文化について英語で学ぶテキスト『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

- 到達目標** テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

成績評価の方法と基準 確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2016 年度以前入学者
吉江 秀和	
授業コード：R0618	2017 年度以降入学者
授業コード：E1518	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 9 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） イギリスとアイルランドの文化について英語で学ぶテキスト『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

- 到達目標** テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

成績評価の方法と基準 確認テストや予習の状況などで判断する授業への

の取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I	2016 年度以前入学者
今井 澄子	
授業コード：R0619	2017 年度以降入学者
授業コード：E1519	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 10 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

到達目標 800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは1パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験60%、平常点40%。平常点は授業参加度10%、リスニング小テスト平均点10%、Writing・和訳などの課題20%を原則とする。よって、評価点は試験60点、平常点40点の合計100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも0点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。なお、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2016 年度以前入学者
今井 澄子	
授業コード：R0620	2017 年度以降入学者
授業コード：E1520	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 10 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

到達目標 800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは1パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

指す。

成績評価の方法と基準 期末試験60%、平常点40%。平常点は授業参加度10%、リスニング小テスト平均点10%、Writing・和訳などの課題20%を原則とする。よって、評価点は試験60点、平常点40点の合計100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも0点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。なお、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I	2016 年度以前入学者
根本 怜奈	
授業コード：R0621	2017 年度以降入学者
授業コード：E1521	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 11 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

到達目標 1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験(60%)、授業態度・授業内に課した課題(ライティング課題の提出と発表を重視)や小テストと各回のコメントを含む平常点(40%)によって総合的に評価する。
4回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から30分以上の遅刻は欠席となる。遅刻2回は欠席1回分としてカウントする。

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2016 年度以前入学者
根本 怜奈	
授業コード：R0622	2017 年度以降入学者
授業コード：E1522	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 11 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

到達目標 1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。

4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験(60%)、授業態度・授業内に課した課題(ライティング課題の提出と発表を重視)や小テストと各回のコメントを含む平常点(40%)によって総合的に評価する。
4回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から30分以上の遅刻は欠席となる。遅刻2回は欠席1回分としてカウントする。

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I	2016 年度以前入学者
舟橋 美香	
授業コード：R0623	2017 年度以降入学者
授業コード：E1523	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 12 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 賛否両論の社会問題をを読んで聞き、論理的な思考力と読解力を養う。

到達目標 本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

成績評価の方法と基準 期末試験を85%、平常点を15%で計算します。

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2017 年度以降入学者
舟橋 美香	
授業コード：R0624	2017 年度以降入学者
授業コード：E1524	2017 年度以降入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 12 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英語で書かれた関西から起業した日本の企業についての紹介文を読み、企業の多様性と企業のさまざまな取り組みを読み解いていく。

到達目標 本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

成績評価の方法と基準 期末試験を85%、平常点を15%で計算します。

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I (上級)	2016 年度以前入学者
青山 恵子	
授業コード：R0625	2017 年度以降入学者
授業コード：E1561	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部上級クラス	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 幅広いトピックの英文テキストを多読する。さらに、アカデミック・ライティングの基礎を学び、インプットをアウトプットに接続していく

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

- 到達目標** 1 各テキストのテーマと論旨を正確に理解できるようになること
2 学んだ内容の要約と各自の意見を英語で書けるようになること
- 成績評価の方法と基準** Active class participation (10%); Home assignment (20%); and final test (70%)

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II (上級)	2016 年度以前入学者
青山 恵子	
授業コード: R0626	2017 年度以降入学者
授業コード: E1562	2016 年度以前入学者
開講時期: 秋学期	
人間環境学部上級クラス	

- 授業の概要と目的 (何を学ぶか)** 「英語を読む」から「英語で読む」への転換を図りながら、引き続きインプットとアウトプットを接続する
- 到達目標** 1 幅広い分野のトピックを「英語で読む」ことができるようになること
2 論理的構成を持つ複数のパラグラフが書けるようになること
- 成績評価の方法と基準** Active class participation (10%); Writing assignment (20%); and final test (70%)

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I (上級)	2016 年度以前入学者
青山 恵子	
授業コード: R0627	2017 年度以降入学者
授業コード: E1563	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	
人間環境学部上級クラス	

- 授業の概要と目的 (何を学ぶか)** 幅広いトピックの英文テキストを多読する。さらに、アカデミック・ライティングの基礎を学び、インプットをアウトプットに接続していく
- 到達目標** 1 各テキストのテーマと論旨を正確に理解できるようになること
2 学んだ内容の要約と各自の意見を英語で書けるようになること
- 成績評価の方法と基準** Active class participation (10%); Home assignment (20%); and final test (70%)

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II (上級)	2016 年度以前入学者
青山 恵子	
授業コード: R0628	2017 年度以降入学者
授業コード: E1564	2016 年度以前入学者
開講時期: 秋学期	
人間環境学部上級クラス	

- 授業の概要と目的 (何を学ぶか)** 「英語を読む」から「英語で読む」への転換を図りながら、引き続きインプットとアウトプットを接続する

- 到達目標** 1 幅広い分野のトピックを「英語で読む」ことができるようになること
2 論理的構成を持つ複数のパラグラフが書けるようになること
- 成績評価の方法と基準** Active class participation (10%); Writing assignment (20%); and final test (70%)

LANe100LA	
English 2 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - I	2016 年度以前入学者
小堀 洋	
授業コード: R0631	2017 年度以降入学者
授業コード: E1531	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	
人間環境学部英語 1 組	

- 授業の概要と目的 (何を学ぶか)** 4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。
- 具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

- 到達目標** 当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするできるようになります。そして、単に人前で話すだけでなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。
- 成績評価の方法と基準** 期末試験 (30%)、授業内プレゼンテーション (70%) の合計で評価します。
60 点以上で合格です。
4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

LANe100LA	
English 2 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - II	2016 年度以前入学者
小堀 洋	
授業コード: R0632	2017 年度以降入学者
授業コード: E1532	2016 年度以前入学者
開講時期: 秋学期	
人間環境学部英語 1 組	

- 授業の概要と目的 (何を学ぶか)** 4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。
- 具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

- 到達目標** 当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするできるようになります。そして、単に人前で話すだけでなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができますようになります。

成績評価の方法と基準 期末試験（30%）、授業内プレゼンテーション（70%）の合計で評価します。

60点以上で合格です。

4回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。

毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

LANe100LA	
English 2 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - I	2016 年度以前入学者
磯部 芳恵	
授業コード：R0633	2017 年度以降入学者
授業コード：E1533	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 2 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） TOEIC テキストを使いリスニング力の増強をするとともに、会話表現を学びながら論理的に構成されたプレゼンテーションができるコミュニケーション力を養う。

到達目標 TOEIC650 点を旨す。

・ペアワークを通して、会話表現を練習しながら、自分の考えを表現し、学期末には効果的なプレゼンテーションができるようにする。

成績評価の方法と基準 授業内テスト（30 %）、プレゼンテーション、提出物（40 %）、平常点、授業態度（30 %）を総合的に評価する。遅刻、欠席は厳しく取り扱い、欠席は減点とする。正当な理由がある場合はそれを証明する書類を提出すること。欠席 4 回以上は評価の対象としない。

LANe100LA	
English 2 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - II	2016 年度以前入学者
磯部 芳恵	
授業コード：R0634	2017 年度以降入学者
授業コード：E1534	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 2 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） TOEIC テキストでリスニング力を増強するとともに、会話表現を学びながら論理的に構成されたプレゼンテーションができるコミュニケーション力を養う。

到達目標 ・TOEIC テスト 650 点を旨す。

・ペアワークを通して、会話表現を練習しながら、自分の考えを表現し、学期末には効果的なプレゼンテーションができるようにする。

成績評価の方法と基準 授業内テスト（30 %）、プレゼンテーション、提出物（40 %）、平常点、授業態度（30 %）を総合的に評価する。遅刻、欠席は厳しく取り扱い、欠席は減点とする。正当な理由がある場合はそれを証明する書類を提出すること。欠席 4 回以上は評価の対象としない。

LANe100LA	
English 2 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - I	2016 年度以前入学者
大曲 陽子	
授業コード：R0635	2017 年度以降入学者
授業コード：E1535	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 3 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） CNN International シリーズ 2018 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

到達目標 タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に付けることも目指す。

成績評価の方法と基準 提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

LANe100LA	
English 2 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - II	2016 年度以前入学者
大曲 陽子	
授業コード：R0636	2017 年度以降入学者
授業コード：E1536	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 3 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） CNN International シリーズ 2018 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

到達目標 タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に付けることも目指す。

成績評価の方法と基準 提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

LANe100LA	
English 2 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - I	2016 年度以前入学者
吉川 直澄	
授業コード：R0637	2017 年度以降入学者
授業コード：E1537	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 4 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 映像を楽しみながら、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を伸ばす土台を作る。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。春学期では正確さを求め、論理的思考力・文化教養・言語知識の習得を行なう。

到達目標 大抵のハリウッド映画なら英語音声でそれなりに楽しむことができる。短い会話、ニュース、アナウンス、ナレーションなどが聞き

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

とれ、自分の意思を伝える表現力がつく。

成績評価の方法と基準 期末試験 (40%)、宿題 (20%)、平常点 (20%)、授業に対する主体的な参加と貢献 (20%) などを総合して評価する。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

LANe100LA	
English 2 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - II	2016 年度以前入学者
吉川 直澄	
授業コード：R0638	2017 年度以降入学者
授業コード：E1538	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 4 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続いて、音声上の英語運用能力に主眼を置いて、映像を楽しみつつ、4 技能をバランス良く伸ばすための基礎力の仕上げにかかる。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

到達目標 大抵のハリウッド映画なら英語音声でも楽しむことができる。映画の背景にあるアメリカの文化に関する知識が深まる。通常会話であれば、要点を理解し、適切に応答できるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験 (40%)、宿題 (20%)、平常点 (20%)、授業に対する主体的参加と貢献 (20%) などを総合して評価する。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に参加すること。欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

LANe100LA	
English 2 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - I	2016 年度以前入学者
高橋 佳江	
授業コード：R0639	2017 年度以降入学者
授業コード：E1539	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 5 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 5 文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとめた内容の文章を作って発表できることを目標とする。

到達目標 誤字脱字、ケアレスミスをなくしていく。

成績評価の方法と基準 期末試験 80 %・小テスト・レポート課題 10 %・平常点 10 %。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。妥当な理由なく 4 回連続欠席した者、学期半ばで 4 回以上欠席した者（遅刻の換算も含め）は、名簿から削除する。

LANe100LA	
English 2 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - II	2016 年度以前入学者
高橋 佳江	
授業コード：R0640	2017 年度以降入学者
授業コード：E1540	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 5 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 5 文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとめた内容の文章を作って発表できることを目標とする。

到達目標 誤字脱字、ケアレスミスをなくしていく。

成績評価の方法と基準 期末試験 80 %・小テスト・レポート課題 10 %・平常点 10 %。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。妥当な理由なく 4 回連続欠席した者、学期半ばで 4 回以上欠席した者（遅刻の換算も含め）は、名簿から削除する。

LANe100LA	
English 2 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - I	2016 年度以前入学者
今井 澄子	
授業コード：R0641	2017 年度以降入学者
授業コード：E1541	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 6 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

到達目標 さまざまな職業生活に関するインタビューを収録した DVD 教材や、TOEIC ® 形式のリスニングテスト教材を使い、聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成することで、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキング、発音訓練を行い、スピーチ力をつける。

成績評価の方法と基準 平常点 50 % (授業参加度 10 %、Listening 小テスト平均点 10 %、プレゼンテーション原稿 Writing 10 %、スピーチ音声 10 %、その他授業内課題 10 %)、期末試験 50 %。よって、評価点は試験 50 点、平常点 50 点で、合計 100 点とし、60 %以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0 点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

LANe100LA	
English 2 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - II	2016 年度以前入学者
今井 澄子	
授業コード：R0642	2017 年度以降入学者
授業コード：E1542	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 6 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

到達目標 さまざまな職業生活に関するインタビューを収録した DVD 教材や、TOEIC ®形式のリスニングテスト教材を使い、聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成することで、自分の言いたいことを英語表現力を高める。また、写真説明スピーキング、発音訓練を行い、スピーチ力をつける。

成績評価の方法と基準 平常点 50 % (授業参加度 10 %、Listening 小テスト平均点 10 %、プレゼンテーション原稿 Writing 10 %、スピーチ音声 10 %、その他授業内課題 10 %)、期末試験 50 %。よって、評価点は試験 50 点、平常点 50 点で、合計 100 点とし、60 %以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0 点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

LANe100LA	
English 2 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - I	2016 年度以前入学者
小堀 洋	
授業コード：R0643	2017 年度以降入学者
授業コード：E1543	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 7 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

到達目標 当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

成績評価の方法と基準 期末試験 (30%)、授業内プレゼンテーション (70%) の合計で評価します。60 点以上で合格です。
4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

LANe100LA	
English 2 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - II	2016 年度以前入学者
小堀 洋	
授業コード：R0644	2017 年度以降入学者
授業コード：E1544	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 7 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

到達目標 当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

成績評価の方法と基準 期末試験 (30%)、授業内プレゼンテーション (70%) の合計で評価します。60 点以上で合格です。
4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

LANe100LA	
English 2 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - I	2016 年度以前入学者
磯部 芳恵	
授業コード：R0645	2017 年度以降入学者
授業コード：E1545	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 8 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） TOEIC テキストを使いリスニング力の増強をするとともに、会話表現を学びながら論理的に構成されたプレゼンテーションができるコミュニケーション力を養う。

到達目標 TOEIC650 点を目指す。
・ベアワークを通して、会話表現を練習しながら、自分の考えを表現し、学期末には効果的なプレゼンテーションができるようにする。

成績評価の方法と基準 授業内テスト (30 %)、プレゼンテーション、提出物 (40 %)、平常点、授業態度 (30 %) を総合的に評価する。遅刻、欠席は厳しく取り扱い、欠席は減点とする。正当な理由がある場合はそれを証明する書類を提出すること。欠席 4 回以上は評価の対象としない。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANe100LA	
English 2 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - II	2016 年度以前入学者
磯部 芳恵	
授業コード：R0646	2017 年度以降入学者
授業コード：E1546	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 8 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） TOEIC テキストでリスニング力を増強するとともに、会話表現を学びながら論理的に構成されたプレゼンテーションができるコミュニケーション力を養う。

到達目標 ・TOEIC テスト 650 点を目指す。
・ペアワークを通して、会話表現を練習しながら、自分の考えを表現し、学期末には効果的なプレゼンテーションができるようにする。

成績評価の方法と基準 授業内テスト (30 %)、プレゼンテーション、提出物 (40 %)、平常点、授業態度 (30 %) を総合的に評価する。遅刻、欠席は厳しく取り扱い、欠席は減点とする。正当な理由がある場合はそれを証明する書類を提出すること。欠席 4 回以上は評価の対象としない。

LANe100LA	
English 2 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - I	2016 年度以前入学者
大曲 陽子	
授業コード：R0647	2017 年度以降入学者
授業コード：E1547	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 9 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） CNN International シリーズ 2018 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

到達目標 タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に付けることも目指す。

成績評価の方法と基準 提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

LANe100LA	
English 2 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - II	2016 年度以前入学者
大曲 陽子	
授業コード：R0648	2017 年度以降入学者
授業コード：E1548	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 9 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） CNN International シリーズ 2018 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく

到達目標 タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する

る社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に付けることも目指す。

成績評価の方法と基準 提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

LANe100LA	
English 2 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - I	2016 年度以前入学者
吉川 直澄	
授業コード：R0649	2017 年度以降入学者
授業コード：E1549	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 10 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 映像を楽しみながら、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を伸ばす土台を作る。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。春学期では正確さを求め、論理的思考力・文化教養・言語知識の習得を行なう。

到達目標 大抵のハリウッド映画なら英語音声でそれなりに楽しむことができる。短い会話、ニュース、アナウンス、ナレーションなどが聞きとれ、自分の意思を伝える表現力がつく。

成績評価の方法と基準 期末試験 (40%)、宿題 (20%)、平常点 (20%)、授業に対する主体的な参加と貢献 (20%) などを総合して評価する。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

LANe100LA	
English 2 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - II	2016 年度以前入学者
吉川 直澄	
授業コード：R0650	2017 年度以降入学者
授業コード：E1550	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 10 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続いて、音声上の英語運用能力に主眼を置いて、映像を楽しみつつ、4 技能をバランス良く伸ばすための基礎力の仕上げにかかる。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

到達目標 大抵のハリウッド映画なら英語音声でも楽しむことができる。映画の背景にあるアメリカの文化に関する知識が深まる。通常会話であれば、要点を理解し、適切に応答できるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験 (40%)、宿題 (20%)、平常点 (20%)、授業に対する主体的な参加と貢献 (20%) などを総合して評価する。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に参加すること。欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成することで、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキング、発音訓練を行い、スピーチ力をつける。

成績評価の方法と基準 平常点50%（授業参加度10%、Listening小テスト平均点10%、プレゼンテーション原稿Writing10%、スピーチ音声10%、その他授業内課題10%）、期末試験50%。よって、評価点は試験50点、平常点50点で、合計100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も0点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。なお、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

LANe100LA	
English 2- I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2- I	2016 年度以前入学者
高橋 佳江	
授業コード：R0651	2017 年度以降入学者
授業コード：E1551	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 11 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 5 文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとめた内容の文章を作って発表できることを目標とする。

到達目標 誤字脱字、ケアレスミスをなくしていく。

成績評価の方法と基準 期末試験 80 % ・小テスト・レポート課題 10 % ・平常点 10 %。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。妥当な理由なく 4 回連続欠席した者、学期半ばで 4 回以上欠席した者（遅刻の換算も含め）は、名簿から削除する。

LANe100LA	
English 2- II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2- II	2016 年度以前入学者
高橋 佳江	
授業コード：R0652	2017 年度以降入学者
授業コード：E1552	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 11 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 5 文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとめた内容の文章を作って発表できることを目標とする。

到達目標 誤字脱字、ケアレスミスをなくしていく。

成績評価の方法と基準 期末試験 80 % ・小テスト・レポート課題 10 % ・平常点 10 %。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。妥当な理由なく 4 回連続欠席した者、学期半ばで 4 回以上欠席した者（遅刻の換算も含め）は、名簿から削除する。

LANe100LA	
English 2- I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2- I	2016 年度以前入学者
今井 澄子	
授業コード：R0653	2017 年度以降入学者
授業コード：E1553	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部英語 12 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

到達目標 さまざまな職業生活に関するインタビューを収録した DVD 教材や、TOEIC ® 形式のリスニングテスト教材を使い、聴解力および

LANe100LA	
English 2- II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2- II	2016 年度以前入学者
今井 澄子	
授業コード：R0654	2017 年度以降入学者
授業コード：E1554	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部英語 12 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

到達目標 さまざまな職業生活に関するインタビューを収録した DVD 教材や、TOEIC ® 形式のリスニングテスト教材を使い、聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成することで、自分の言いたいことを英語表現力を高める。また、写真説明スピーキング、発音訓練を行い、スピーチ力をつける。

成績評価の方法と基準 平常点50%（授業参加度10%、Listening小テスト平均点10%、プレゼンテーション原稿Writing10%、スピーチ音声10%、その他授業内課題10%）、期末試験50%。よって、評価点は試験50点、平常点50点で、合計100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も0点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。なお、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

LANe100LA	
English 2- I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2- I （上級）	2016 年度以前入学者
ストックウェル・エスター	
授業コード：R0655	2017 年度以降入学者
授業コード：E1571	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部上級クラス	

授業の概要と目的（何を学ぶか） The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

到達目標 This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation,

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

centred around listening, pronunciation and communication strategies.

成績評価の方法と基準 Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%).

LANe100LA	
English 2 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - II (上級)	2016 年度以前入学者
ストックウェル・エスター	
授業コード：R0656	2017 年度以降入学者
授業コード：E1572	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部上級クラス	

授業の概要と目的（何を学ぶか） The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

到達目標 This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

成績評価の方法と基準 Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%).

LANe100LA	
English 2 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - I (上級)	2016 年度以前入学者
ストックウェル・エスター	
授業コード：R0657	2017 年度以降入学者
授業コード：E1573	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部上級クラス	

授業の概要と目的（何を学ぶか） The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

到達目標 This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

成績評価の方法と基準 Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%).

LANe100LA	
English 2 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 - II (上級)	2016 年度以前入学者
ストックウェル・エスター	
授業コード：R0658	2017 年度以降入学者
授業コード：E1574	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部上級クラス	

授業の概要と目的（何を学ぶか） The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

到達目標 This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

成績評価の方法と基準 Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%).

LANe100LA	
入門英語 (SSI) I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
入門英語 I	2016 年度以前入学者
山崎 暁子	
授業コード：R0801	2017 年度以降入学者
授業コード：E0501	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法文営国環 1～4 年（SSI 生のみ）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英文法の基礎を復習しながら、会話や短い文章のリスニング、発音練習を行なう。会話で学んだ表現を応用して発話することで、日常的な英語表現を身につける。

到達目標 英語の音に慣れ、日本語の音との違いを意識することで、聞き取りと発音の能力を高める。英文の基本的な構造を理解して、簡単な英文を読み、書き、発話できるようになる。

成績評価の方法と基準 平常点 30 %、予習・宿題 20 %、筆記試験 50 %。第 1 回の授業で選抜のためのアンケートを実施するので、必ず出席すること。登録期間終了後の欠席は原則的に 3 回までとする。遅刻・早退は減点の対象とする。

LANe100LA	
入門英語 (SSI) II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
入門英語 II	2016 年度以前入学者
山崎 暁子	
授業コード：R0802	2017 年度以降入学者
授業コード：E0502	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法文営国環 1～4 年（SSI 生のみ）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英文法の基礎を復習しながら、会話や短い文章のリスニング、発音練習を行なう。会話で学んだ表現を応用して発話することで、日常的な英語表現を身につける。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

た、挨拶や自己紹介など、身の回りの日常会話のための表現を身につけるようにする。

成績評価の方法と基準 学期末試験 50 %、授業時の応答や参加度 50 %。
4 回以上欠席した者は、成績評価の対象から外れる。また、遅刻 2 回で欠席 1 回に換算するので、注意すること。
授業に出ていても、予習を行っていない、または、演習に積極的に参加しない受講生は出席と認めないことがある。

到達目標 英語の音に慣れ、日本語の音との違いを意識することで、聴き取りと発音の能力を高める。英文の基本的な構造を理解して、簡単な英文を読み、書き、発話できるようになる。

成績評価の方法と基準 平常点 30 %、予習・宿題 20 %、筆記試験 50 %。
履修希望者は必ず第 1 回の授業に出席すること。登録期間終了後の欠席は原則的に 3 回までとする。遅刻・早退は減点の対象とする。

LANe100LA	
入門英語 (SSI) I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
入門英語 I	2016 年度以前入学者
前川 裕	
授業コード：R0803	2017 年度以降入学者
授業コード：E0503	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法文営国環 1～4 年 (SSI 生のみ)	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) スポーツサイエンスインスティテュート所属学生のための英語であり、それ以外のものは受講できない。学生は基礎的な文法力および英会話力を身につけることを目的とする。

到達目標 スポーツ選手である学生が、海外等に出たときに、ある程度外国の競技者と英語で話ができるようになるために必要な英語基礎力の養成を目指す。

成績評価の方法と基準 平常点 (60 %)、授業内試験 (40 %)

LANe100LA	
入門英語 (SSI) II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
入門英語 II	2016 年度以前入学者
前川 裕	
授業コード：R0804	2017 年度以降入学者
授業コード：E0504	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法文営国環 1～4 年 (SSI 生のみ)	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) スポーツサイエンスインスティテュート所属学生のための英語であり、それ以外のものは受講できない。学生は基礎的な文法力および英会話力を身につけることを目的とする。

到達目標 スポーツ選手である学生が海外での競技生活が可能になる程度の英語力の養成を目指す。

成績評価の方法と基準 平常点 (60 %)、授業内試験 (40 %)

LANe100LA	
入門英語 (SSI) I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
入門英語 I	2016 年度以前入学者
須藤 祐二	
授業コード：R0805	2017 年度以降入学者
授業コード：E0505	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法文営国環 1～4 年 (SSI 生のみ)	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) SSI の学生のなかで英語を苦手とする学生に、英語の基本から解説と演習を行う。

到達目標 受講生は、英語の基本的な構造を理解できるようにする。ま

LANe100LA	
入門英語 (SSI) II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
入門英語 II	2016 年度以前入学者
須藤 祐二	
授業コード：R0806	2017 年度以降入学者
授業コード：E0506	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法文営国環 1～4 年 (SSI 生のみ)	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) SSI の学生のうち英語を苦手とする学生に、英語の基本から解説と演習を行う。春学期よりも多少難しい文法項目まで範囲に収め、基礎的な英語の運用能力の習得を目指す。

到達目標 受講生は、英語の基本的な構造を理解できるようにする。また、挨拶や自己紹介だけでなく、時制や適切な語句の選択等などを通じて、春学期よりも多少高い英語表現能力を身につけるようにする。

成績評価の方法と基準 学期末試験 50 %、授業時の応答や参加度 50 %。
4 回以上欠席した者は、成績評価の対象から外れる。また、遅刻 2 回で欠席 1 回に換算するので、注意すること。
授業に出ていても、予習を行っていない、または、演習に積極的に参加しない受講生は出席と認めないことがある。

LANe200LA	
Oral Communication I	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
Oral Communication I	2016 年度以前入学者
板橋 美也	
授業コード：R2601	2017 年度以降入学者
授業コード：E1701	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：人間環境学部 2～4 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 英語で会話を続けられるようになるう

到達目標 この授業は、英語の文法を知っていても実際の会話でそれを十分活かすことができなかったり語彙数が少なかったりするために、英語での会話が長続きしない、という問題を克服し、初歩的な文型や語彙を用いながら英語での会話を続けるための様々な方法を習得することを目指します。

成績評価の方法と基準 授業への取り組みの積極度 (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANe200LA	
Oral Communication II	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
Oral Communication II	2016 年度以前入学者
板橋 美也	
授業コード：R2602	2017 年度以降入学者
授業コード：E1702	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英語で語ることができるようになろう

到達目標 私たちは日常生活で知らず知らずのうちに、自分の経験したこと、見たこと、聞いたことについて、様々な「お話」を語っていますが、同じことを英語でできたら楽しいと思いませんか。この授業は、初歩的な文型や語彙を用いながら英語で「お話」を語るための様々な方法を習得することを目指します。

成績評価の方法と基準 授業への取り組みの積極度 (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

LANe200LA	
Oral Communication I	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
Oral Communication I	2016 年度以前入学者
ロバート・G・ジェイムズ	
授業コード：R2603	2017 年度以降入学者
授業コード：E1703	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） To promote the development of communication skills in English

到達目標 To promote the ability of students to interact in English and discuss a wide range of non-specialists topics as they relate to their own experience and opinions.

成績評価の方法と基準 Grading based on attendance and 2 speeches

Attendance : 40%

2 x Speech performance : 2 x 15%

2 x Speech content : 2 x 15%

LANe200LA	
Oral Communication II	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
Oral Communication II	2016 年度以前入学者
ロバート・G・ジェイムズ	
授業コード：R2604	2017 年度以降入学者
授業コード：E1704	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） To develop Communication skills in English.

到達目標 To promote the ability of students to interact in English and discuss a wide range of non-specialists topics as they relate to their own experience and opinions.

成績評価の方法と基準 Grading based on attendance and 2 speeches

Attendance: 40%

2 x Speech performance: 2 x 15%

2 x Speech content: 2 x 15%

LANe200LA	
English through Movies and Drama I	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
English through Movies and Drama I	2016 年度以前入学者
平野井 ちえ子	
授業コード：R2611	2017 年度以降入学者
授業コード：E1705	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） *Notting Hill* により口語表現を学びます。この作品は軽い恋愛映画ですが（だからこそ）、日常会話に応用し易い比較的平易な表現を豊富に含んでいます。また、映画の台詞からイギリス英語とアメリカ英語の違いも学びます。

到達目標 1. 口語表現に親しみ、応用できるよう習得する。
2. **Authentic** な英語に対するリスニング力を向上させる。
3. シナリオを読むことに慣れる。
4. 場面や人物について、英語で描写できるようにする。

成績評価の方法と基準 平常点 (50 %) と期末試験 (50 %) から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

LANe200LA	
English through Movies and Drama II	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
English through Movies and Drama II	2016 年度以前入学者
平野井 ちえ子	
授業コード：R2612	2017 年度以降入学者
授業コード：E1706	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） *Notting Hill* により口語表現を学びます。この作品は軽い恋愛映画ですが（だからこそ）、日常会話に応用し易い比較的平易な表現を豊富に含んでいます。また、映画の台詞からイギリス英語とアメリカ英語の違いも学びます。

到達目標 1. 口語表現に親しみ、応用できるよう習得する。
2. **Authentic** な英語に対するリスニング力を向上させる。
3. シナリオを読むことに慣れる。
4. 場面や人物について、英語で描写できるようにする。

成績評価の方法と基準 平常点 (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

内容・言語スキルを系統的に学んでいきます。

到達目標 TOEIC®の概要を理解しスコアを伸ばすことが目的であることは言うまでもありませんが、その場限りの丸暗記や戦略本位の勉強でなく、いかに長期的視野に立って実用英語の力を養うか、を念頭に授業を運営していきます。

成績評価の方法と基準 平常点（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

LANe200LA	
TOEIC®Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
TOEIC®Ⅱ	2016 年度以前入学者
平野井 ちえ子	
授業コード：R2622	2017 年度以降入学者
授業コード：E1710	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期の学習を踏まえて、秋学期はとくにビジネスシーンを意識した内容に取り組みます。秋学期終了時には、TOEIC®で問われる分野知識・言語スキルを一通り網羅できるよう、系統的に学んでいきます。

到達目標 TOEIC®の概要を理解しスコアを伸ばすことが目的であることは言うまでもありませんが、その場限りの丸暗記や戦略本位の勉強でなく、いかに長期的視野に立って実用英語の力を養うか、を念頭に授業を運営していきます。12月のTOEIC®本試は全員に受験していただきます。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と期末試験（40%）と12月TOEIC®本試のスコア（20%）から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

LANe200LA	
TOEIC®Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
TOEIC®Ⅰ	2016 年度以前入学者
板橋 美也	
授業コード：R2623	2017 年度以降入学者
授業コード：E1711	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） TOEIC®でリスニング力・読解力を向上させよう（1）

到達目標 TOEIC®の出題形式に慣れながらTOEIC®初挑戦またはスコア向上を目指すだけでなく、TOEIC®受験以外の場面にも応用できるような英語のリスニング力と読解力の向上を目指します。

成績評価の方法と基準 授業への取り組みの積極度（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。欠席4回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

LANe200LA	
English through Movies and DramaⅠ	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
English through Movies and DramaⅠ	2016 年度以前入学者
舟橋 美香	
授業コード：R2613	2017 年度以降入学者
授業コード：E1707	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） Conor McPherson というアイルランドの劇作家の書いた出世作（イギリスで初演され、その後ニューヨークでも上演された）『The Weir』を使用し、アイルランド英語（イギリス英語に近い）の実用表現を学び、内容を理解します。慣れてきたら、グループで活動してもらい、どんどん訳して行きます。『The Weir』は、アイルランドの田舎のパブで、地元の常連と首都ダブリンからやってきた女性が、一人一人幽霊話を語っていくという内容です。

到達目標 生きた英語を学ぶだけでなく、アイルランドの伝承や幽霊を見たという人の心の傷についても理解し、自分の身近な問題として議論できるようになることを到達目標としています。

成績評価の方法と基準 授業での参加姿勢を20%、学期末レポートを80%で採点する。

LANe200LA	
English through Movies and DramaⅡ	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
English through Movies and DramaⅡ	2016 年度以前入学者
舟橋 美香	
授業コード：R2614	2017 年度以降入学者
授業コード：E1708	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 北アイルランドの劇作家 Graham Reid の『Remembrance』(1984)を使用し、自然な英語を学び、プロテスタントとカソリックの対立の中、愛を育もうとする年配の男女とその家族の物語を楽しむ。慣れてきたら、グループに分かれて、役を振ってどんどん訳していくことも行います。

到達目標 自然な英語で書かれたテキストを使い、日常的な会話の表現を堪能できる英語力を養う。

成績評価の方法と基準 学期末試験 80%、平常点 20%で評価します。

LANe200LA	
TOEIC®Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
TOEIC®Ⅰ	2016 年度以前入学者
平野井 ちえ子	
授業コード：R2621	2017 年度以降入学者
授業コード：E1709	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「TOEIC®って何？」という入門レベルの話題から出発しますが、秋学期授業終了時には、TOEIC®で問われる分野知識・言語スキルを一通り網羅できるよう、春学期から出題

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANe200LA	
TOEIC®Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
TOEIC®Ⅱ	2016 年度以前入学者
板橋 美也	
授業コード：R2624	2017 年度以降入学者
授業コード：E1712	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） TOEIC®でリスニング力・読解力を向上させよう（2）

到達目標 TOEIC®の出題形式に慣れながら TOEIC®初挑戦またはスコア向上を目指すだけでなく、TOEIC®受験以外の場面にも応用できるような英語のリスニング力と読解力の向上を目指します。

成績評価の方法と基準 授業への取り組みの積極度（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。欠席4回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

LANe200LA	
英検準備Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
英検準備Ⅰ	2016 年度以前入学者
青山 恵子	
授業コード：R2631	2017 年度以降入学者
授業コード：E1713	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英語を武器に社会に対して積極的な働きかけをしていこうと志しているひとたちをサポートします。

到達目標 英検準一級レベルの英語の総合能力の獲得を到達目標とします。

成績評価の方法と基準 Class participation (30%), Home assignment (10%), Final test (60%)

LANe200LA	
英検準備Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
英検準備Ⅱ	2016 年度以前入学者
青山 恵子	
授業コード：R2632	2017 年度以降入学者
授業コード：E1714	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続き、英語を武器に社会に対して積極的な働きかけをしていこうと志しているひとたちをサポートします。

到達目標 英検準一級レベルの英語の総合能力の獲得を到達目標とします。秋学期は特にアウトプットの強化に焦点をあてます。

成績評価の方法と基準 Attendance and class participation (30%), Home assignment (20%), Final test (50%)

LANe200LA	
Business CommunicationⅠ	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
Business CommunicationⅠ	2016 年度以前入学者
今井 澄子	
授業コード：R2641	2017 年度以降入学者
授業コード：E1715	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 国際ビジネスで使われる英語を学ぶことで、人間関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの取り方を音声、文書の両面で習得する。

到達目標 英語で行われる国際ビジネス場面の話題について大まかな理解をもち、口頭および文書でコミュニケーションできるようにする。また、企業内の書類、商業通信文について英和ともに知識を習得し、英語でビジネスをする力を身に着ける。具体的には、基本的なビジネス英語の聴解や読解ができ、英語による口頭表現やEメール、英文レターなど自ら発信する文章を書くことができるようになる。これにより、TOEIC® Listening/Readingのみならず、TOEIC® Speaking/Writingにも対応できる。

成績評価の方法と基準 期末試験60%、平常点40%。平常点は授業参加度10%、リスニング小テスト平均点10%、課題等20%を原則とする。よって、評価点は試験60点、平常点40点の合計100点とし、60%以上の得点で合格。授業始めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、小テストも0点となる。割り当てられた課題を遂行しない、担当のある日に無断欠席などは課題点がマイナスになり、たいへん不利になる。なお、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

LANe200LA	
Business CommunicationⅡ	2017 年度以降入学者
LANe200LA	
Business CommunicationⅡ	2016 年度以前入学者
今井 澄子	
授業コード：R2642	2017 年度以降入学者
授業コード：E1716	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：人間環境学部2～4年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 国際ビジネスで使われる英語を学ぶことで、人間関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの取り方を音声、文書の両面で習得する。

到達目標 英語で行われる国際ビジネス場面の話題について大まかな理解をもち、口頭および文書でコミュニケーションできるようにする。また、企業内の書類、商業通信文について英和ともに知識を習得し、英語でビジネスをする力を身に着ける。具体的には、基本的なビジネス英語の聴解や読解ができ、英語による口頭表現やEメール、英文レターなど自ら発信する文章を書くことができるようになる。これにより、TOEIC® Listening/Readingのみならず TOEIC® Speaking/Writingにも対応できる。

成績評価の方法と基準 期末試験60%、平常点40%。平常点は授業参加度10%、リスニング小テスト平均点10%、課題等20%を原則とする。よって、評価点は試験60点、平常点40点の合計100点とし、60%以上の得点で合格。授業始めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、小テストも0点となる。割り当てられた課題を遂行しない、担当のある日に無断欠席などは課題点がマイナスになり、たいへん不利になる。なお、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

LANe200LA Computer Learning I	Assisted	English	2017 年度以降入学者
LANe200LA Computer Learning I	Assisted	English	2016 年度以前入学者
塩谷 幸子			
授業コード：R2651			2017 年度以降入学者
授業コード：E1717			2016 年度以前入学者
開講時期：春学期			
履修対象：人間環境学部2～4年生			

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英語で世界を知り、日本について考える。外国語を学ぶということは、異文化を知ることである。今まで知らなかった物の見方や価値観に触れることができる。それはまた自国の文化を客観的に多面的な視点で捉え直す機会でもある。この授業では世界を取り巻く状況を英語で直接理解し、その上で我々の社会を見つめ直す。

到達目標 シャドーイングの訓練を中心に、4 技能の総合的なスキルアップを目指す。シャドーイングとは聞こえてくる音声の影のように後から追いかけて声に出す学習活動である。このトレーニングを通して主に、1) リスニング力の向上 2) 発音・発話の流暢さ 3) 読解力の速さ・正確さを獲得することができる。さらに英語らしい発音やリズムを意識した会話練習、自分の意見を平易な英語で書く指導も行い、総合的な英語力の向上を図る。

シャドーイングは効果の高さから注目を浴びている学習活動だが、聞こえてくる音声の正確に聴き取り、再生し意味を理解しようとするため、認知的に非常に負荷の高い活動でもある。しかし、メタ認知活動モデルを使った独自の方法を利用することにより、無理なくマスターできるようになる。シャドーイングの上達プロセスについては3 段階を想定しているが、今学期は第2 ステージ、スロースピード（1 分間 100～110 語）の再生を到達目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（筆記）50 % + 提出課題 20 % + 発表 20 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

欠席が4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退3 回で欠席1 回の扱いとする。

LANe200LA Computer Learning II	Assisted	English	2017 年度以降入学者
LANe200LA Computer Learning II	Assisted	English	2016 年度以前入学者
塩谷 幸子			
授業コード：R2652			2017 年度以降入学者
授業コード：E1718			2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期			
履修対象：人間環境学部2～4年生			

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英語で世界を知り、日本について考える。外国語を学ぶということは、異文化を知ることである。今まで知らなかった物の見方や価値観に触れることができる。それはまた自国の文化を客観的に多面的な視点で捉え直す機会でもある。この授業では世界を取り巻く状況を英語で直接理解し、その上で我々の社会を見つめ直す。

到達目標 シャドーイングの訓練を中心に、4 技能の総合的なスキルアップを目指す。シャドーイングとは聞こえてくる音声の影のように後から追いかけて声に出す学習活動である。このトレーニングを通して主に、1) リスニング力の向上 2) 発音・発話の流暢さ 3) 読解力の速さ・正確さを獲得することができる。さらに英語らしい発音やリズムを意識した会話練習、自分の意見を平易な英語で書く指導も行い、総合的な英語力の向上を図る。

シャドーイングは効果の高さから注目を浴びている学習活動だが、聞こえてくる音声の正確に聴き取り、再生し意味を理解しようとするため、

認知的に非常に負荷の高い活動でもある。しかし、メタ認知活動モデルを使った独自の方法を利用することにより、無理なくマスターできるようになる。シャドーイングの上達プロセスについては3 段階を想定しているが、今学期は第3 ステージ（1 分間 130 語の再生）までが到達目標である。

成績評価の方法と基準 期末試験（筆記）50 % + 提出課題 20 % + 発表 20 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

欠席が4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退3 回で欠席1 回の扱いとする。

LANd100LA ドイツ語 1 - I	2017 年度以降入学者
LANd100LA ドイツ語 1 - I	2016 年度以前入学者
辻 英史	
授業コード：R4141	2017 年度以降入学者
授業コード：E2501	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 G-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。

到達目標 1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。

成績評価の方法と基準 授業への参加 (20%)、中間テスト (40%)、学期末テスト (40%)

LANd100LA ドイツ語 1 - II	2017 年度以降入学者
LANd100LA ドイツ語 1 - II	2016 年度以前入学者
辻 英史	
授業コード：R4142	2017 年度以降入学者
授業コード：E2502	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 G-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。

到達目標 一年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。

成績評価の方法と基準 授業への参加 (20%)、中間テスト (40%)、期末テスト (40%)

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANd100LA	
ドイツ語 1 - I	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 1 - I	2016 年度以前入学者
辻 英史	
授業コード：R4143	2017 年度以降入学者
授業コード：E2503	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。

到達目標 1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。

成績評価の方法と基準 授業への参加 (20%)、中間テスト (40%)、学
期末テスト (40%)

LANd100LA	
ドイツ語 1 - II	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 1 - II	2016 年度以前入学者
辻 英史	
授業コード：R4144	2017 年度以降入学者
授業コード：E2504	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。

到達目標 一年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。

成績評価の方法と基準 授業への参加 (20%)、中間テスト (40%)、期
末テスト (40%)

LANd100LA	
ドイツ語 2 - I	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 2 - I	2016 年度以前入学者
佐藤 公紀	
授業コード：R4151	2017 年度以降入学者
授業コード：E2509	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 G-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語文法の習得を基軸としつつ、ペアワーク等による会話練習をとおして楽しくドイツ語を学んでいきます。また、毎回授業の最後に簡単な例文暗唱を行い、発音と文法事項の確認を行います。

到達目標 ・ドイツ語の文法を理解し、例文を含む簡単なドイツ語文を辞書無しで訳すことができますようになります。
・ドイツ語の正しい発音を覚え、例文を正しく読み上げることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %、定期試験 60 %。平常点は、ベ

ア・グループワークや例文暗唱への積極的な取り組みで評価します。

LANd100LA	
ドイツ語 2 - II	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 2 - II	2016 年度以前入学者
佐藤 公紀	
授業コード：R4152	2017 年度以降入学者
授業コード：E2510	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 G-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語文法の習得を基軸としつつ、ペアワーク等による会話練習をとおして楽しくドイツ語を学んでいきます。また、毎回授業の最後に簡単な例文暗唱を行い、発音と文法事項の確認を行います。

到達目標 ・ドイツ語の文法を理解し、例文を含む簡単なドイツ語文を辞書無しで訳すことができますようになります。
・ドイツ語の正しい発音を覚え、例文を正しく読み上げることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %、定期試験 60 %。平常点は、ベ
ア・グループワークや例文暗唱への積極的な取り組みで評価します。

LANd100LA	
ドイツ語 2 - I	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 2 - I	2016 年度以前入学者
佐藤 公紀	
授業コード：R4153	2017 年度以降入学者
授業コード：E2511	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語文法の習得を基軸としつつ、ペアワーク等による会話練習をとおして楽しくドイツ語を学んでいきます。また、毎回授業の最後に簡単な例文暗唱を行い、発音と文法事項の確認を行います。

到達目標 ・ドイツ語の文法を理解し、例文を含む簡単なドイツ語文を辞書無しで訳すことができますようになります。
・ドイツ語の正しい発音を覚え、例文を正しく読み上げることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %、定期試験 60 %。平常点は、ベ
ア・グループワークや例文暗唱への積極的な取り組みで評価します。

LANd100LA	
ドイツ語 2 - II	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 2 - II	2016 年度以前入学者
佐藤 公紀	
授業コード：R4154	2017 年度以降入学者
授業コード：E2512	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語文法の習得を基軸としつつ、

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

ペアワーク等による会話練習をとおして楽しくドイツ語を学んでいきます。また、毎回授業の最後に簡単な例文暗唱を行い、発音と文法事項の確認を行います。

到達目標 ・ドイツ語の文法を理解し、例文を含む簡単なドイツ語文を辞書無しで訳すことができますようになります。
・ドイツ語の正しい発音を覚え、例文を正しく読み上げることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %、定期試験 60 %。平常点は、ペア・グループワークや例文暗唱への積極的な取り組みで評価します。

LANd200LA	
ドイツ語3-I	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
ドイツ語3-I	2016 年度以前入学者
平松 英人	
授業コード：R4271	2017 年度以降入学者
授業コード：E2517	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年 G-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語初級文法を終えた学生が対象です。ひととおりの基本文法を学習したとはいえ、長文のドイツ語を読む訓練はこれからの学生が、基本的な文法事項を復習しながら、ドイツ語を読み、理解する楽しさを身につけることが目標となります。

到達目標 平易な文章から始め、ドイツ語の語彙を増やししながら段階を経て読み進めていくことで、より複雑で内容的にも高度な文章を理解できることを目指します。あわせてより一層文法知識を定着させ弱点を補強します。幅広いテーマについての文章を読んでもいきますが、「いま」のドイツで話題・問題になっていることを取り上げた文章も読むことで、現在のドイツの姿を理解できるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点 4 0 %、期末試験 6 0 %で総合的に評価します。平常点は日々の授業準備や宿題等によって判断します。

LANd200LA	
ドイツ語3-II	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
ドイツ語3-II	2016 年度以前入学者
平松 英人	
授業コード：R4272	2017 年度以降入学者
授業コード：E2518	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年 G-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続き、長文のドイツ語を読む訓練として、基本的な文法事項を復習しながら、ドイツ語を読み、理解する楽しさを身につけることが目標となります。

到達目標 平易な文章から始め、ドイツ語の語彙を増やしながら段階を経て読み進めていくことで、より複雑で内容的にも高度な文章を理解できることを目指します。あわせてより一層文法知識を定着させ弱点を補強します。幅広いテーマについての文章を読んでもいきますが、「いま」のドイツで話題・問題になっていることを取り上げた文章も読むことで、現在のドイツの姿を理解できるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点 4 0 %、期末試験 6 0 %で総合的に評価します。平常点は日々の授業準備や宿題等によって判断します。

LANd200LA	
ドイツ語3-I	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
ドイツ語3-I	2016 年度以前入学者
宮城 学	
授業コード：R4273	2017 年度以降入学者
授業コード：E2519	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語の基本文法をひと通り学習した学生が対象です。基本文法を学習したとはいえ、難しい文に接するにはまだまだ抵抗があると感じる学習者に、基本文法を確認しながら語彙を増やしてもらおうというのがこの授業の目標です。

到達目標 平易な文章を楽しみながら、関連語彙や派生語を増やしていきます。同時に文法上の弱点を発見し、おろそかになっていた項目の習得を目指します。

成績評価の方法と基準 平常点 3 0 %、期末試験 7 0 %で総合的に評価します。平常点は日々の授業準備や宿題等によって判断します。

LANd200LA	
ドイツ語3-II	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
ドイツ語3-II	2016 年度以前入学者
宮城 学	
授業コード：R4274	2017 年度以降入学者
授業コード：E2520	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期と同じく、基本文法を確認しながら語彙を増やしてもらおうというのがこの授業の目標です。

到達目標 平易な文章を楽しみながら、関連語彙や派生語を増やしていきます。同時に文法上の弱点を発見し、おろそかになっていた項目の習得を目指します。

成績評価の方法と基準 平常点 3 0 %、期末試験 7 0 %で総合的に評価します。平常点は日々の授業準備や宿題等によって総合的に判断します。

LANd200LA	
ドイツ語4-I（重点）	2016 年度以前入学者
岡田 恒雄	
授業コード：F2301	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：環 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語 1、2 を学習した学生が、辞書を引き、文法の復習をしながら、ドイツ語理解力を高めていく授業です。ドイツのニュースや時事問題を扱った長文を読んで、ドイツの現状をドイツ語で理解し、ドイツの文化を日本の文化と比較してほしいと思います。

到達目標 文法、講読を学んだ学生が、独和辞典を使いこなすことで発音と語彙を学び、長文を読みこなすことで、さらにドイツ語を理解できるようにしてほしいと思います。ドイツのニュースを取り上げたドイツ語の長文を理解できれば、日本とドイツ語圏の国々の文化的差異を認識し、日常生活を簡単なドイツ語で表現することもできるようになります。

成績評価の方法と基準 試験 70%、平常点（授業での発表など）20%、

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

授業態度 10%

LANd200LA	
ドイツ語4-II（重点）	2016年度以前入学者
岡田 恒雄	
授業コード：F2302 開講時期：秋学期	2016年度以前入学者
履修対象：環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期よりもテキストの内容がいささか難しくなります。より徹底的に独和辞典をひき、ドイツ語1、2を一通り学習した学生が、その学習知識をさらに高めていく実践的な授業です。さまざまなシチュエーションを想定して、これらの表現を身近に感じ一文一文を理解して欲しいと思います。

到達目標 初級文法、講読を学び終えた学生が、もう一度、ゆとりをもって、新たに学び直すことで、例えば、以下のような日常生活を簡単なドイツ語で表現できるようにしたいと思います。
1) 職業、学業、趣味なども含めて、くわしく自己紹介
2) 日頃の活動や予定について、習った表現を応用し、文章を書いたり、ときどきミスはあっても話すことができるようにしてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 期末試験 70% 平常点（授業での発表など）20%、授業態度 10%

LANd200LA	
ドイツ語4-I（重点）	2016年度以前入学者
外山 知子	
授業コード：F2303 開講時期：春学期	2016年度以前入学者
履修対象：環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語の向上と異文化理解

到達目標 文法の復讐と読解力の向上をめざすばかりでなく、書かれた内容を通して、翻訳では伝わりにくいドイツの文化、ヨーロッパの文化に触れ、世界を広げる。

成績評価の方法と基準 出席回数が足りないと、課題を提出する資格も試験を受ける資格も失うので気をつけること。具体的には授業中に話す。

LANd200LA	
ドイツ語4-II（重点）	2016年度以前入学者
外山 知子	
授業コード：F2304 開講時期：秋学期	2016年度以前入学者
履修対象：環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語の向上と異文化相互理解

到達目標 ドイツ語の文章が自分で楽しみながら読めるようになる。それにとどまらず語彙を増やし、構造を理解しながらドイツ語の総合力を高める。
ドイツへの理解を深める。

成績評価の方法と基準 授業に取り組む姿勢、授業時、授業後の課題提出 (50%)、試験 (50%) を総合的に評価する。

LANd200LA	
ドイツ語4-I（重点）	2016年度以前入学者
遠藤 浩介	
授業コード：F2305 開講時期：春学期	2016年度以前入学者
履修対象：環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では日本のドイツ語学習者向けに編纂した時事ドイツ語のテキストを読みます。これまでのドイツ語の授業で学んだことを踏まえつつ、辞書を引き、文法を復習しながらドイツ語読解力を高めるとともに、ドイツで起きていることを把握し、日本の現状と比較検討しながら自分の意見を組み立てていただきたいと思います。

到達目標 （１）ドイツ語の長文を読むことで、文法力・語彙力を高める。（２）ドイツ語圏での出来事への知識を高め、日本と比較する視座を獲得する。

成績評価の方法と基準 平常点（授業での発表・積極的な発言）：50% テスト：50%

LANd200LA	
ドイツ語4-II（重点）	2016年度以前入学者
遠藤 浩介	
授業コード：F2306 開講時期：秋学期	2016年度以前入学者
履修対象：環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では日本のドイツ語学習者向けに編纂した時事ドイツ語のテキストを読みます。これまでのドイツ語の授業で学んだことを踏まえつつ、辞書を引き、文法を復習しながらドイツ語読解力を高めるとともに、ドイツで起きていることを把握し、日本の現状と比較検討しながら自分の意見を組み立てていただきたいと思います。秋学期ではとくに社会・政治関係の記事を読んでいきたいと思っています。

到達目標 （１）ドイツ語の長文を読むことで、文法力・語彙力を高める。（２）ドイツ語圏での出来事への知識を高め、日本と比較する視座を獲得する。

成績評価の方法と基準 平常点（授業での発表・積極的な発言）：50% テスト：50%

LANd100LA	
入門ドイツ語 (SSI) I	2017年度以降入学者
LANd100LA	
スポーツ・ドイツ語 I	2016年度以前入学者
浦田 智	
授業コード：R4291 授業コード：SSI 用時間割表参照 開講時期：春学期	2017年度以降入学者 2016年度以前入学者
SSI 所属学生のみ履修可 ※定員制	履修可能年次：1年～

授業の概要と目的（何を学ぶか） スポーツ生を対象にしたドイツ語の入門クラスです。ドイツ語とはどんな言葉かを理解することを目的としています。

到達目標 ドイツ語で表現するための基本となる文法の初歩と関連したドイツ語の文章を学習し、日常のあいさつなどの言い回しが言えるようにする。ドイツ語を正しく発音し、初歩的なドイツ語の総合力を習得することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験を重視すると同時に、毎回の授業への取り組み方などを評価する。到達目標に達しているかを問う期末試験80%、授業参加度20%を考慮して総合的に評価します。

LANd100LA	
入門ドイツ語 (SSI) II	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
スポーツ・ドイツ語 II	2016 年度以前入学者
浦田 智	
授業コード：R4292	2017 年度以降入学者
授業コード：SSI 用時間割表参照	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
SSI 所属学生のみ履修可 ※定員制 履修可能年次：1 年～	

授業の概要と目的（何を学ぶか） スポーツ生を対象にしたドイツ語の入門クラスです。I からの継続で、初歩の文法と日常的な場面で使える文を学びながら、基礎的な表現を身につけることを目的としています。

到達目標 ドイツ語で表現するための基本となる文法の初歩と関連したドイツ語の文章を学習し、日常のあいさつなどの言い回しが言えるようにする。ドイツ語を正しく発音し、初歩的なドイツ語の総合力を習得することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験を重視すると同時に、毎回の授業に対する取り組み方、授業中にしっかりとドイツ語を声を出して読んでいるかなどのポイントを加味しながら、到達目標に達しているかを問う期末試験 80 %、授業参加度 20 % の割合で総合的に評価する。

LANd100LA	
入門ドイツ語 (SSI) I	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
スポーツ・ドイツ語 I	2016 年度以前入学者
宮城 学	
授業コード：R4293	2017 年度以降入学者
授業コード：SSI 用時間割表参照	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
SSI 所属学生のみ履修可 ※定員制 履修可能年次：1 年～	

授業の概要と目的（何を学ぶか） アルファベット、文字、発音から始め、動詞の変化を中心に文の基本構造を学びます。

到達目標 ドイツ語の音や単語に親しみ、文を組み立てる基本的なルールを身に付けます。

成績評価の方法と基準 授業への参加度（平常点）（40 %）および学期末の確認テスト（60 %）により評価します。

LANd100LA	
入門ドイツ語 (SSI) II	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
スポーツ・ドイツ語 II	2016 年度以前入学者
宮城 学	
授業コード：R4294	2017 年度以降入学者
授業コード：SSI 用時間割表参照	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
SSI 所属学生のみ履修可 ※定員制 履修可能年次：1 年～	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春期に引き続き、分離動詞、話法の助動詞を中心に学びます。（秋期から初めてドイツ語をはじめる学生も受講は可能ですが、春期の講義内容を確認しておくことが必要です）

到達目標 分離動詞や助動詞を学んで表現の幅を広げられるようにする。

成績評価の方法と基準 授業への参加度（平常点）（40 %）および学期末の確認テスト（60 %）により評価します。

LANd200LA	
ドイツ語コミュニケーション I	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
ドイツ語コミュニケーション I	2016 年度以前入学者
アネッテ・グルーバー	
授業コード：R4281	2017 年度以降入学者
授業コード：E2211	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

到達目標 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

成績評価の方法と基準 各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60 %
この講座は演習の要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40 %
遅刻はしないこと。

LANd200LA	
ドイツ語コミュニケーション II	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
ドイツ語コミュニケーション II	2016 年度以前入学者
アネッテ・グルーバー	
授業コード：R4282	2017 年度以降入学者
授業コード：E2212	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

到達目標 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。生徒自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自分で勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

成績評価の方法と基準 各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60 %
この講座は演習の要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40 %
遅刻はしないこと。

LANd200LA	
ドイツ語表現法 I	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
ドイツ語表現法 I	2016 年度以前入学者
ウテ・シュミット	
授業コード：R4283	2017 年度以降入学者
授業コード：E2213	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） Deutsch schreiben - Vom Satz zum

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

Text

ドイツ語を書いてみましょう：文章からテキストまで

到達目標 受講者はこの授業でドイツ語で文章や短いテキストを書く練習をします。

自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、ブログなどの書き方を習います。

ちょっと文学的な文書、詩とか俳句とか、物語もトライしましょう。
書くことによって基礎文法を確認するだけではなく、実践的に使える語彙も増えます。

会話が苦手だが、ドイツ語で表現したいという学生は是非トライしてみてください。初心者レベルでも文章を書くことが可能です。自分のレベルに合った文書やテキストを書けるように練習しましょう。

成績評価の方法と基準 試験は行いません。

学期中に提出してもらうドイツ語の作文（60％）と授業中の課題に取り組む態度（40％）を総合的に評価します。

LANd200LA	
ドイツ語表現法Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
ドイツ語表現法Ⅱ	2016 年度以前入学者
ウテ・シュミット	
授業コード：R4284	2017 年度以降入学者
授業コード：E2214	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） Deutsch schreiben - Vom Satz zum Text

ドイツ語を書いてみましょう：文章からテキストまで

到達目標 受講者はこの授業でドイツ語で文章や短いテキストを書く練習をします。

自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、ブログなど、の書き方を習います。

ちょっと文学的な文書、詩とか俳句とか、物語もトライしましょう。
書くことによって基礎文法を確認するだけではなく、実践的に使える語彙も増えます。

会話が苦手だが、ドイツ語で表現したいという学生は是非トライしてみてください。初心者レベルでも文章を書くことが可能です。自分のレベルに合った文書やテキストを書けるように練習しましょう。

成績評価の方法と基準 試験は行いません。

学期中に提出してもらうドイツ語の作文（60％）と授業中の課題に取り組む態度（40％）を総合的に評価します。

LANd200LA	
ドイツ語視聴覚Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
ドイツ語視聴覚Ⅰ	2016 年度以前入学者
D. ハイデンライヒ	
授業コード：R4285	2017 年度以降入学者
授業コード：E2215	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「名文で養うドイツ語能力と異文化理解力」をテーマに、このクラスでは古今様々な不滅のテキストを新しいメディアを用いて学ぶ。たとえば、

- ・簡潔で覚えやすいことわざ
- ・耳に入りやすい民謡と流行歌のリフレインなど

到達目標 。

・ドイツ語の能力を向上させる。

・ドイツ人の価値観や文化などについての知識を広げる。

成績評価の方法と基準 平常点： 70%

学期末試験： 30%

受講者数によって評価方法が変わる可能性がある。

LANd200LA	
ドイツ語視聴覚Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
ドイツ語視聴覚Ⅱ	2016 年度以前入学者
D. ハイデンライヒ	
授業コード：R4286	2017 年度以降入学者
授業コード：E2216	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「名文で養うドイツ語能力と異文化理解力」をテーマに、このクラスでは古今様々な不滅のテキストを新しいメディアを用いて学ぶ。たとえば、

- ・有名文学作品の冒頭文
- ・心に残る映画台詞など

到達目標 。

・ドイツ人の価値観や文化などについての知識を広げる。

成績評価の方法と基準 平常点： 70%

学期末試験： 30%

受講者数によって評価方法が変わる可能性がある。

LANd200LA	
時事ドイツ語Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
時事ドイツ語Ⅰ	2016 年度以前入学者
辻 英史	
授業コード：R4287	2017 年度以降入学者
授業コード：E2217	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代のドイツでの出来事について、毎回一定のテーマにもとづいてドイツのニュース記事を紹介する。

ドイツ語文法の基礎を学んだうえで、さらに実用的な練習をすることでドイツ語能力を伸ばし、同時に現代のドイツについて多面的に知ることができる。

ドイツに興味がある人、ドイツ語が好きな人だけでなく、ドイツへの観光・学習旅行および短期ないし長期の留学を考えている人に適した授業である。

到達目標 1. 現代のドイツについて知ること

春学期は、政治、経済、社会、環境の3つの分野から、現代ドイツの基礎的な事情について理解する。

2. ドイツ語能力を伸ばすこと

ニュース記事を手がかりに、ドイツ語の聞く能力、話す能力、表現する能力の3つの領域についてそれぞれ練習することで、より高いレベルの語学力を身につける。

成績評価の方法と基準 授業への参加： 20 %

中間試験： 40 %

期末試験： 40 %

LANd200LA	
時事ドイツ語Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
時事ドイツ語Ⅱ	2016 年度以前入学者
辻 英史	
授業コード：R4288	2017 年度以降入学者
授業コード：E2218	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代のドイツでの出来事について、毎回一定のテーマにもとづいてドイツのニュース記事を紹介する。

ドイツ語文法の基礎を学んだうえで、さらに実用的な練習をすることでドイツ語能力を伸ばし、同時に現代のドイツについて多面的に知ることができる。

ドイツに興味がある人、ドイツ語が好きな人だけでなく、ドイツへの観光・学習旅行および短期ないし長期の留学を考えている人に適した授業である。

到達目標 1. 現代のドイツについて知ること

秋学期は、市民社会、地域発展、外国人問題、歴史問題、教育の 4 つの分野から、現代ドイツの最先端の事情について理解する。

2. ドイツ語能力を伸ばすこと

ニュース記事を手がかりに、ドイツ語の聞く能力、話す能力、表現する能力の 3 つの領域についてそれぞれ練習することで、より高いレベルの語学力を身につける。

成績評価の方法と基準 授業への参加：20 %

中間試験：40 %

期末試験：40 %

LANd200LA	
検定ドイツ語Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
検定ドイツ語Ⅰ	2016 年度以前入学者
佐々木 宗夫	
授業コード：R4289	2017 年度以降入学者
授業コード：E2219	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語検定試験 5 級に合格できる力の涵養を目的とする。合格に必要な語彙力をつけるのが主眼になるが、従来の文法の授業では不足がちであった「話す」、「聴く」力も強化させていく。また、差し当たり検定試験が目標でなくとも、初級から学びたい学生も受講してよい。

到達目標 ドイツ語検定試験 5 級に対応する、文法、読解力を習得し、ドイツ語がキチンと聴き取れる様にする。
ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味もさらに大きくなるように。

成績評価の方法と基準 期末試験 70 %、小テスト・宿題 20 %、平常点 10 % の割合で評価

LANd200LA	
検定ドイツ語Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
検定ドイツ語Ⅱ	2016 年度以前入学者
佐々木 宗夫	
授業コード：R4290	2017 年度以降入学者
授業コード：E2220	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語検定試験 4 級に合格できる力の涵養を目的とする。合格に必要な語彙力をつけるのが主眼になるが、従来の文法の授業では不足がちであった「話す」、「聴く」力も強化させていく。後半には、4 級レベルを超える内容にもなるが、どこまで進むかは学生諸君の出来具合を判断して決める。

到達目標 ドイツ語検定試験 4 級に対応する、文法、読解力を習得し、ドイツ語がキチンと聴き取れる様にする。語彙力の向上にも努める。
ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味もさらに大きくなるように。

成績評価の方法と基準 期末試験 70 %、小テスト・宿題 20 %、平常点 10 % の割合で評価

LANd100LA	
ドイツ語補講 1Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語補講 1Ⅰ	2016 年度以前入学者
佐々木 宗夫	
授業コード：R4161	2017 年度以降入学者
授業コード：E2227	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 既に一通りはドイツ語に接したことのある諸君が対象だが、ゼロから始めるものとして、基本的な文法力の涵養に努める。予習や復習にそれなりの努力は求められるが、ドイツ語に対してだけではなく歴史や文化に対しても興味を持てるよう工夫してゆく。

到達目標 ドイツ語検定試験の 5～4 級にチャレンジできるレベルへ。
ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味もさらに大きくなるように。

成績評価の方法と基準 期末試験 70 %、小テスト・宿題 20 %、平常点 10 % の割合で評価

LANd100LA	
ドイツ語補講 1Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語補講 1Ⅱ	2016 年度以前入学者
佐々木 宗夫	
授業コード：R4162	2017 年度以降入学者
授業コード：E2228	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 既に一通りはドイツ語に接したことのある諸君が対象だが、ゼロから始めるものとして、基本的な文法力の涵養に努める。具体的には、春学期で学習した動詞の人称変化、及び格変化の応用力をつけ、さらに多様な表現ができるよう、文法の運用能力の向上を図る。春学期で学んだことが前提になるので、格変化は必ずマスターしておくこと。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

- 到達目標ドイツ語検定試験の4級が合格レベル、3級がチャレンジ可能レベルに。
ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味がさらに大きくなるように。
- 成績評価の方法と基準期末試験70%、小テスト・宿題20%、平常点10%の割合で評価

LANd100LA		
ドイツ語補講2 I		2017年度以降入学者
LANd100LA		
ドイツ語補講2 I		2016年度以前入学者
高橋 憲子		
授業コード：R4163		2017年度以降入学者
授業コード：E2229		2016年度以前入学者
開講時期：春学期		
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ2～3年（再履修者に限る）		

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）ドイツ語の基礎を学び、ドイツ人のライフスタイルやものの見方についても考えていきます。
- 到達目標基本的なドイツ語の文が読めるようになること。
- 成績評価の方法と基準期末試験の結果を中心に（90%）、宿題の提出状況等平常の学習態度も含め、総合的に評価します。

LANd100LA		
ドイツ語補講2 II		2017年度以降入学者
LANd100LA		
ドイツ語補講2 II		2016年度以前入学者
高橋 憲子		
授業コード：R4164		2017年度以降入学者
授業コード：E2230		2016年度以前入学者
開講時期：秋学期		
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ2～3年（再履修者に限る）		

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）ドイツ語の基礎を学び、ドイツ人のライフスタイルやものの見方についても考えていきます。
- 到達目標基本的なドイツ語の文が読めるようになること。
- 成績評価の方法と基準期末試験の結果を中心に（90%）、宿題の提出等学習態度も含め（10%）、総合的に評価します。

LANf100LA		
フランス語1 - I		2017年度以降入学者
LANf100LA		
フランス語1 - I		2016年度以前入学者
稲垣 正久		
授業コード：R5111		2017年度以降入学者
授業コード：E3501		2016年度以前入学者
開講時期：春学期		
人間環境学部1年 G-L 組		

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）フランス語の初級文法の習得を目指します。
- 到達目標フランス語の初級文法の習得を目指します。
- 成績評価の方法と基準期末試験が100点、動詞の活用に関する小テスト2回各25点、合計150点満点でつけます。
この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評価を

下します。
基準は135点以上がA+、120点以上でA、105点以上でB、90点以上がCです。一応の目安にしてください。詳細は第一回目の授業で説明します。

LANf100LA		
フランス語1 - II		2017年度以降入学者
LANf100LA		
フランス語1 - II		2016年度以前入学者
稲垣 正久		
授業コード：R5112		2017年度以降入学者
授業コード：E3502		2016年度以前入学者
開講時期：秋学期		
人間環境学部1年 G-L 組		

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）フランス語の初級文法の習得を目指します。
- 到達目標フランス語の初級文法の習得を目指します。
- 成績評価の方法と基準期末試験が100点、動詞の活用に関する小テスト2回各25点、合計150点満点でつけます。
この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評価を下します。
基準は135点以上がA+、120点以上でA、105点以上でB、90点以上がCです。一応の目安にしてください。詳細は第一回目の授業で説明します。

LANf100LA		
フランス語1 - I		2017年度以降入学者
LANf100LA		
フランス語1 - I		2016年度以前入学者
竹本 研史		
授業コード：R5113		2017年度以降入学者
授業コード：E3503		2016年度以前入学者
開講時期：春学期		
人間環境学部1年 A-F 組		

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）フランス語を初めて学ぶ人間環境学部（A-F組）の学生が、指定教科書にしたがって、フランス語の文法を学ぶ。
- 到達目標フランス語の初級文法について、代名動詞までを1学期間でマスターする。
- DELF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）のA1レベル到達を目標とする。仏検5級合格を目指す。
- 成績評価の方法と基準語彙・活用などに関する小テスト（学期に数回実施）[20%] + 期末試験 [80%]
ただし、授業中に指名するにあたって、単語調べなどの予習をやっていない場合は、授業進行の妨害とみなし、その都度1点ずつ減点する。
教科書、辞書を入手しない学生は評価の対象外とする。

LANf100LA	
フランス語 1 - II	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 1 - II	2016 年度以前入学者
竹本 研史	
授業コード：R5114	2017 年度以降入学者
授業コード：E3504	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期「フランス語 1 - I」に引き続き、フランス語を初めて学ぶ人間環境学部（A-F 組）の学生が、指定教科書にしたがって、フランス語の文法を学ぶ。

到達目標 フランス語の初級文法について、接続法現在までを 1 学期間でマスターする。

DELTA（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の A1 レベル到達を目標とする。仏検 4 級合格を目指す。

成績評価の方法と基準 語彙・活用に関する小テスト（学期に 3 回実施）[20%] + 期末試験 [80%]

ただし、授業中に指名するにあたって、単語調べなどの予習をやっていない場合は、授業進行の妨害とみなし、その都度 1 点ずつ減点する。

教科書、辞書を入手しない学生は評価の対象外とする。

LANf100LA	
フランス語 2 - I	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 2 - I	2016 年度以前入学者
竹本 研史	
授業コード：R5121	2017 年度以降入学者
授業コード：E3509	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 G-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語を初めて学ぶ人間環境学部（G-L 組）の学生が、指定教科書にしたがって、フランス語の発音、基本的な会話表現、聴き取りの練習をおこなう。

到達目標 あいさつ、旅行などで必要なフランス語の基本的な会話表現と聴き取り能力を身につける。

DELTA（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の A1 レベル到達を目標とする。仏検 5 級合格を目指す。

成績評価の方法と基準 語彙・活用に関する小テスト（学期に 3 回実施）[20%] + 発音・会話テスト [20%] + 筆記試験 [60%]。

ただし、授業中に指名するにあたって、単語調べなどの予習をやっていない場合は、授業進行の妨害とみなし、その都度 1 点ずつ減点する。教科書、辞書を入手しない学生は評価の対象外とする。

LANf100LA	
フランス語 2 - II	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 2 - II	2016 年度以前入学者
竹本 研史	
授業コード：R5122	2017 年度以降入学者
授業コード：E3510	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 G-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期の「フランス語 2 - I」に引き続き、フランス語を初めて学ぶ人間環境学部（G-L 組）の学生が、指定教科書にしたがって、フランス語の発音、基本的な会話表現、聴き取りの練習をおこなう。

到達目標 あいさつ、旅行などで必要なフランス語の基本的な会話表現と聴き取り能力を身につける。

DELTA（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の A1 レベル到達を目標とする。仏検 4 級合格を目指す。

成績評価の方法と基準 語彙・活用に関する小テスト（学期に 3 回実施）[20%] + 発音・会話テスト [20%] + 筆記試験 [60%]。

ただし、授業中に指名するにあたって、単語調べなどの予習をやっていない場合は、授業進行の妨害とみなし、その都度 1 点ずつ減点する。教科書、辞書を入手しない学生は評価の対象外とする。

LANf100LA	
フランス語 2 - I	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 2 - I	2016 年度以前入学者
野村 訓子	
授業コード：R5123	2017 年度以降入学者
授業コード：E3511	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初めてフランス語を習う学生を対象に、文法との関連で、語彙やさまざまな文型と表現を学習する。始めに、正しく綴り字が読めること発音できることを指導する。

到達目標 基本的なコミュニケーションの文型を学び、使ってみる。（書く、話す、など）

成績評価の方法と基準 平常点（30%）、試験の成績（70%）により、評価をする。試験の方法、内容については、授業において、教員が指示をする。

LANf100LA	
フランス語 2 - II	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 2 - II	2016 年度以前入学者
野村 訓子	
授業コード：R5124	2017 年度以降入学者
授業コード：E3512	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語 2 - I につづけて、さらに語彙、文型また表現の学習を進める。文法事項との関連も踏まえるようにしたい。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

到達目標 基本的なコミュニケーションのための文型を知り、使ってみる。(書く、読む、など)

成績評価の方法と基準 平常点(30%)、期末試験の成績(70%)により、評価をする。期末試験の方法、内容については、授業において、教員が指示をする。

LANf200LA	
フランス語3-I	2017年度以降入学者
LANf200LA	
フランス語3-I	2016年度以前入学者
畑中 敏夫	
授業コード：R5261	2017年度以降入学者
授業コード：E3517	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部2年 G-L 組	

授業の概要と目的(何を学ぶか) 多様なフランス文に接することで、読解力の涵養に努めると同時に、フランス文化の様々な側面を学びます。その為に、前半は動詞の用法の再確認に、後半は平易な文の読解にあてます。

到達目標 一年間の目標としては、自力で平易な文を読解できるようになっていること。
総合力として仏検3級に対応出来る実力を身につけること。

成績評価の方法と基準 定期試験の成績を基準にして、評価する。内訳は文法問題に60点、読解問題に40点。
60点以上を合格とする。

LANf200LA	
フランス語3-II	2017年度以降入学者
LANf200LA	
フランス語3-II	2016年度以前入学者
畑中 敏夫	
授業コード：R5262	2017年度以降入学者
授業コード：E3518	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部2年 G-L 組	

授業の概要と目的(何を学ぶか) 今学期は、多くの仏文に接し実践的に読解力の涵養を目指します。
以下に挙げているように、時事的な文章ですが、諸君の希望によっては、小説や評論に変更する事も可能です。文章の種類については、柔軟に考えて下さい。

到達目標 読解力の向上と同時に、フランス文化の多様な側面を知ること、視野が広がる事も目標としています。

成績評価の方法と基準 授業内での訳の発表を10点満点で評価し、発表毎に加算して行く。
平均して5回ほど発表して貰う。この累積された点数と50点満点の定期試験の点数とを
加算して評価を決める。合わせて60点以上を合格とする。

LANf200LA	
フランス語3-I	2017年度以降入学者
LANf200LA	
フランス語3-I	2016年度以前入学者
柴崎 秀穂	
授業コード：R5263	2017年度以降入学者
授業コード：E3519	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部2年 A-F 組	

授業の概要と目的(何を学ぶか) 平易なエッセイを読むことを通じて、フランス語の文法、語彙、構文の理解を深めます。人間環境学部の授業なので、特に「持続可能性」に関するエッセイを多く読みましょう。

到達目標 フランス語の基本文法の理解を完成し、辞書を引きつつ、平易な文章を読めるようになること。また、仏検4級レベルへの早期の到達を目指します。

成績評価の方法と基準 平常点50%、期末試験50%で総合的に評価します。

LANf200LA	
フランス語3-II	2017年度以降入学者
LANf200LA	
フランス語3-II	2016年度以前入学者
柴崎 秀穂	
授業コード：R5264	2017年度以降入学者
授業コード：E3520	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部2年 A-F 組	

授業の概要と目的(何を学ぶか) 平易なエッセイを読むことを通じて、フランス語の文法、語彙、構文の理解を深めます。人間環境学部の授業なので、特に「持続可能性」に関するエッセイを多く読みましょう。

到達目標 フランス語の基本文法の理解を完成し、辞書を引きつつ、平易な文章を読めるようになること。また、仏検4級レベルへの早期の到達を目指します。

成績評価の方法と基準 平常点50%、期末試験50%で総合的に評価します。

LANf200LA	
フランス語3-I (インテンシブ)	2017年度以降入学者
LANf200LA	
フランス語3-I (重点)	2016年度以前入学者
近江屋 志穂	
授業コード：F3303	2017年度以降入学者
授業コード：F3301	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
法文営環2年	

授業の概要と目的(何を学ぶか) フランス語を一年程度学習した経験があり、さらに高度なフランス語力を身につける意欲をもつ学生を対象とします。モチベーションが高い学習者向けです。

「読む」「聞く」「書く」「話す」という語学力の基礎となるのは文法です。そのため初級文法の教科書をしっかり最後まで終わらせませす。時間の許す限り、学習した文法事項を使った「聞く」「話す」の練習も行います。授業計画より早く教科書を終えた場合は、やさしいフランス語で書かれた文章の読解に挑戦します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

- 到達目標** ・フランス語の文章を正しく発音できるようになること
・学習した事柄を使って自分の言いたいことが表現できるようになること
・検定試験で言えば仏検4級～3級レベルもしくは DELF A1 レベルに到達すること
- 成績評価の方法と基準** 平常点、中間試験、期末試験

LANf200LA	
フランス語3-II（インテンシブ）	2017年度以降入学者
LANf200LA	
フランス語3-II（重点）	2016年度以前入学者
近江屋 志穂	
授業コード：F3304	2017年度以降入学者
授業コード：F3302	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
法文営環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語を一年程度学習した経験があり、さらに高度なフランス語力を身につける意欲をもつ学生を対象とします。モチベーションが高い学習者向けです。

「読む」「聞く」「書く」「話す」という語学力の基礎となるのは文法です。そのため初級文法の教科書をしっかり最後まで終わらせませす。時間の許す限り、学習した文法事項を使った「聞く」「話す」の練習も行います。授業計画より早く教科書を終えた場合は、やさしいフランス語で書かれた文章の読解に挑戦します。

- 到達目標** ・フランス語の文章を正しく発音できるようになること
・学習した事柄を使って自分の言いたいことが表現できるようになること
・検定試験で言えば仏検4級～3級レベルもしくは DELF A1 レベルに到達すること
- 成績評価の方法と基準** 平常点、中間試験、期末試験

LANf200LA	
フランス語4-I（重点）	2016年度以前入学者
森本 文彦	
授業コード：F3307	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜2017年度以降入学生＞法文営2年、＜2016年度以前入学生＞法文営環2年	

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）** 既に習得したフランス語の知識を用いて比較的平易な時事的文章を読み、練習問題に取り組むことで、複雑な構文の文章を読解する力をつける。
- 到達目標** フランス語検定4級レベル以上への早期到達を目指す。
- 成績評価の方法と基準** 平常点30%、小テスト30%、定期試験40%

LANf200LA	
フランス語4-II（重点）	2016年度以前入学者
森本 文彦	
授業コード：F3308	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜2017年度以降入学生＞法文営2年、＜2016年度以前入学生＞法文営環2年	

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）** 既に習得したフランス語の知識を用いて比較的平易な時事的文章を読み、練習問題に取り組むことで、複雑な構文の文章を読解する力をつける。
- 到達目標** フランス語検定4級レベル以上への早期到達を目指す。
- 成績評価の方法と基準** 平常点30%、小テスト30%、定期試験40%

LANf200LA	
フランス語4-I（重点）	2016年度以前入学者
ヴァリエヌ コリンヌ	
授業コード：F3309	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜2017年度以降入学生＞法文営2年、＜2016年度以前入学生＞法文営環2年	

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）** このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。
- Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.
- 到達目標** 目標は辞書や新しい表現を習得し、文化的な話題を議論することです。
- L'objectif est d'acquérir du lexique et des expressions nouvelles ainsi que de pouvoir discuter de sujets culturels.
- 成績評価の方法と基準** 存在と参加 La présence et la participation en classe : 60%.
- 最終試験 L'examen final : 40 %

LANf200LA	
フランス語4-II（重点）	2016年度以前入学者
ヴァリエヌ コリンヌ	
授業コード：F3310	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜2017年度以降入学生＞法文営2年、＜2016年度以前入学生＞法文営環2年	

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）** このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.
- 到達目標** 目標は辞書や新しい表現を習得し、文化的な話題を議論することです。L'objectif est d'acquérir du lexique et des expressions nouvelles ainsi que de pouvoir discuter de sujets culturels.
- 成績評価の方法と基準** 存在感とクラスへの参加：60%。
- 最終試験：40 %
- La présence et la participation en classe : 60%.
- L'examen final : 40 %

LANf200LA	
フランス語5-I（重点）	2016年度以前入学者
岡村 民夫	
授業コード：F3311	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜2017年度以降入学生＞法文営2年、＜2016年度以前入学生＞法文営環2年	

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）** フランスの観光、歴史・文化に力点を置きながら、口語定型表現、語彙、会話、聞き取り、短文読解を学び、あわせて初級文法の補充、中級文法の学習も行う。ときどきフランス映画を教材とした学習を行う。フランスの地理・社会・歴史・文化の教養を身につける。
- 到達目標** 定型表現や語彙を身につけ、自由にフランス観光ができるようになる。平易な文章が読めるようになる。フランスの地理・社会・歴史・文化の教養を養う。
- 成績評価の方法と基準** 平常点60%＋期末テスト40%

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANf200LA	
フランス語5-II（重点）	2016年度以前入学者
岡村 民夫	
授業コード：F3312	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜2017年度以降入学者＞法文営2年、＜2016年度以前入学者＞法文営環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語5 I の継続授業だが、単独に受講も可能。フランスの観光、歴史・文化に力点を置きながら、口語定型表現、語彙、会話、聞き取り、短文読解を学び、あわせて初級文法の補充、中級文法の学習も行う。時間が余れば、フランス映画を教材とした学習をはさむ。フランスの地理・社会・歴史・文化の教養を身につける。

到達目標 定型表現や語彙を身につけ、自由にフランス観光ができるようになる。動詞がすぐに活用できるようになる。平易な文章が読めるようになる。フランスの地理・社会・歴史・文化の教養を養う。

成績評価の方法と基準 平常点（70％）＋期末試験（30％）

LANf200LA	
フランス語コミュニケーション(初級) I	2017年度以降入学者
LANf200LA	
フランス語コミュニケーション I	2016年度以前入学者
ニコラ・ガイヤール	
授業コード：R5273	2017年度以降入学者
授業コード：E3221	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語初級コミュニケーションの授業とする。フランス語圏の社会・歴史・文化に関する情報を紹介する。

到達目標 初心者フランス語でコミュニケーション（話す、聞く、書く、読む）ができるようになること。

成績評価の方法と基準 成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。100点の内訳は：期末テスト 20％、小テスト 60％、平常点（授業中の発言、欠席の有無）20％。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

LANf200LA	
フランス語コミュニケーション(初級) II	2017年度以降入学者
LANf200LA	
フランス語コミュニケーション II	2016年度以前入学者
ニコラ・ガイヤール	
授業コード：R5274	2017年度以降入学者
授業コード：E3222	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語初級コミュニケーションの授業とする。フランス語圏の社会・歴史・文化に関する情報を紹介する。

到達目標 初心者フランス語でコミュニケーション（話す、聞く、書く、読む）ができるようになること。

成績評価の方法と基準 成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。100点の内訳は：期末テスト 20％、小テスト 60％、平常点（授業中の発言、欠席の有無）20％。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

LANf200LA	
フランス語視聴覚（入門） I	2017年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語視聴覚 I	2016年度以前入学者
村松 マリ エマニュエル	
授業コード：R5275	2017年度以降入学者
授業コード：E3223	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 簡単な会話、フランス語の読み方、基本的な文法、フランス語の書き方を学習しながら、生活や習慣、文化などについて学べる内容の授業である。

到達目標 夏休みまで名前、国籍、職業、専攻、年齢、誕生日、趣味、持ち物、電話番号、メールアドレス、兄弟姉妹を言えるようになる。フランス人の家でホームステイを楽しめる会話ができるようになる。

成績評価の方法と基準 宿題と小テストの評価、授業中のやる気、期末テストの平常点で評価する。

LANf200LA	
フランス語視聴覚（入門） II	2017年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語視聴覚 II	2016年度以前入学者
村松 マリ エマニュエル	
授業コード：R5276	2017年度以降入学者
授業コード：E3224	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前期同様、簡単な会話、フランス語の読み方、基本的な文法、フランス語の書き方を学習しながら、生活や習慣、文化などについて学べる内容の授業である。

到達目標 料理の作り方を讀んだり、生活習慣の話をしたり、学校の決まり、フランス社会のルール、過去の話、予定を言う、将来の希望を言う、たくさんお話を言えるようになる。

成績評価の方法と基準 宿題と小テストの評価、授業中のやる気、期末テストの平常点で評価する。

LANf200LA	
フランス語視聴覚（初・中級） I	2017年度以降入学者
LANf200LA	
フランス語視聴覚 III	2016年度以前入学者
中村 美緒	
授業コード：R5277	2017年度以降入学者
授業コード：E3225	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語をひととおり学習した初級から中級の学生が対象です。初級文法を復習しながらフランス語をたくさん使ってみましょう。

到達目標 語彙の入れ替えをしてやさしい構造の文章でいろんなことを話せるようになります。春学期終了時には、仏検4～3級レベルの実力がついているはずです。

成績評価の方法と基準 授業内評価 30％＋期末試験 70％で評価します。

LANf200LA	
フランス語視聴覚（初・中級）Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANf200LA	
フランス語視聴覚Ⅳ	2016 年度以前入学者
中村 美緒	
授業コード：R5278	2017 年度以降入学者
授業コード：E3226	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語をひととおり学習した初級から中級の学生が対象です。初級文法を復習しながらフランス語をたくさん使ってみましょう。

到達目標 語彙の入れ替えをしてやさしい構造の文章でいろんなことを話せるようになります。春学期終了時には、仏検3級レベルの実力がついているはずです。

成績評価の方法と基準 授業内評価 30 % + 期末試験 70 % で評価します。

LANf200LA	
時事フランス語Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANf200LA	
時事フランス語Ⅰ	2016 年度以前入学者
近江屋 志穂	
授業コード：R5279	2017 年度以降入学者
授業コード：E3227	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年程度のフランス語学習歴がある学生を対象に、フランスの歴史・地理・政治・経済・社会・文化またはフランスコフォニーに関するトピックをやさしいフランス語で読んでいきます。

到達目標 フランス社会についての基礎知識を身につけること。時事をテーマとするやさしいフランス語の文章が読めるようになること。将来的にはフランスの新聞記事を読んだりラジオやテレビのニュースを視聴したりできるようになること。

成績評価の方法と基準 平常点、訳読への参加、期末試験

LANf200LA	
時事フランス語Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANf200LA	
時事フランス語Ⅱ	2016 年度以前入学者
近江屋 志穂	
授業コード：R5280	2017 年度以降入学者
授業コード：E3228	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年程度のフランス語学習歴がある学生を対象に、フランスの歴史・地理・政治・経済・社会・文化またはフランスコフォニーに関するトピックをやさしいフランス語で読んでいきます。

到達目標 フランス社会についての基礎知識を身につけること。時事をテーマとするやさしいフランス語の文章が読めるようになること。将来的にはフランスの新聞記事を読んだりラジオやテレビのニュースを視聴したりできるようになること。

成績評価の方法と基準 平常点、訳読への参加、期末試験

LANf200LA	
検定フランス語（初級）Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANf200LA	
検定フランス語Ⅰ	2016 年度以前入学者
瀬戸 和子	
授業コード：R5281	2017 年度以降入学者
授業コード：E3229	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語の初級文法を学び、読み・書き・聞く・話すの総合的な語学力を養う

到達目標 後期秋11月の「フランス語検定試験」で5、4級合格の実力を目指す

成績評価の方法と基準 授業内小テスト・課題40%、期末テスト40%、平常点（出席点）20%—出席重視

LANf200LA	
検定フランス語（初級）Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANf200LA	
検定フランス語Ⅱ	2016 年度以前入学者
瀬戸 和子	
授業コード：R5282	2017 年度以降入学者
授業コード：E3230	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語の初級文法を学び、読み・書き・聞く・話すの総合的な語学力を養う

到達目標 「フランス語検定試験」で秋（11月）5、4級、あるいは次年度春（5月）4、3級合格の実力を目指す

成績評価の方法と基準 授業内小テスト・課題40%、期末テスト40%、平常点（出席点）20%

LANf100LA	
フランス語補講ⅠⅠ	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語補講ⅠⅠ	2016 年度以前入学者
森本 謙子	
授業コード：R5131	2017 年度以降入学者
授業コード：E3249	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級文法の再確認と新たな文法知識の習得。語彙の拡張。

到達目標 すでに学んだフランス語文法の基礎を再確認し、文法知識を深化させます。またフランス語の基礎的な語彙を習得することを目指します。

成績評価の方法と基準 期末試験（50%）、平常点（30%）、宿題（20%）を総合して評価します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANf100LA	
フランス語補講 1 II	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語補講 1 II	2016 年度以前入学者
森本 謙子	
授業コード：R5132	2017 年度以降入学者
授業コード：E3250	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級文法の再確認と新たな文法知識の習得。語彙の拡張。

到達目標 春学期と同様、すでに学んだ文法事項を再確認し、文法の知識を深化させます。語彙の拡張を目指します。

成績評価の方法と基準 期末試験（50%）、平常点（30%）、宿題（20%）を総合して評価します。

LANf100LA	
フランス語補講 2 I	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語補講 2 I	2016 年度以前入学者
森本 文彦	
授業コード：R5133	2017 年度以降入学者
授業コード：E3251	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、法・文・経営・人間環境・キャリアデザイン学部の「フランス語 2-I」の再履修者を対象としたものです。会話表現を中心に初級フランス語を学びます。

到達目標 再履修クラスでの学習という望まなかった状況が、逆転し、「外国語を話す」楽しさを味わう機会となって、フランス語を得意科目にすることを目指します。

成績評価の方法と基準 平常点 30%、小テスト 30%、期末試験 40%

LANf100LA	
フランス語補講 2 II	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語補講 2 II	2016 年度以前入学者
森本 文彦	
授業コード：R5134	2017 年度以降入学者
授業コード：E3252	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、法・文・経営・人間環境・キャリアデザイン学部の「フランス語 2-II」の再履修者を対象としたものです。会話表現を中心に初級フランス語を学びます。
(春学期科目フランス語 2-I の継続ですから、秋学期のこの科目のみの受講者も春学期 1 回目の授業に必ず出席すること)

到達目標 再履修クラスでの学習という望まなかった状況が、逆転し、「外国語を話す」楽しさを味わう機会となって、フランス語を得意科目にすることを目指します。

成績評価の方法と基準 平常点 30%、小テスト 30%、期末試験 40%

LANf200LA	
フランス語補講 3 I	2016 年度以前入学者
楠本 重行	
授業コード：E3253	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語の単語の発音の仕方から始めて、基本文法の前半、主として現在時制にかかわる表現を中心に一通り学習します

到達目標 動詞の現在形変化の学習を中心に、フランス語検定 5 級に合格できるレベルに到達できることを目標にします

成績評価の方法と基準 テスト 70%、平常点 30%

LANf200LA	
フランス語補講 3 II	2016 年度以前入学者
楠本 重行	
授業コード：E3254	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本文法の後半、主として過去・未来にかかわる表現を中心に一通り学習します

到達目標 動詞のさまざまな時制変化の学習を中心に、フランス語検定 4 級に合格できるレベルに到達できることを目標にします

成績評価の方法と基準 テスト 70%、平常点 30%

LANr100LA	
ロシア語 1 - I	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語 1 - I	2016 年度以前入学者
佐藤 裕子	
授業コード：R6041	2017 年度以降入学者
授業コード：E4501	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語のアルファベットを覚え、単語を正確に発音することができる。教科書で初級文法をしっかりと習得する。簡単な文章を読み、辞書を用いてその意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。

到達目標 ロシア語のアルファベットと単語の美しく正確な発音ができる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、単語や文法を着実に身につける。

成績評価の方法と基準 春学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 60 %となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 %とし、総合的に評価します。

LANr100LA	
ロシア語 1 - II	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語 1 - II	2016 年度以前入学者
佐藤 裕子	
授業コード：R6042	2017 年度以降入学者
授業コード：E4502	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に続き、ロシア語文法の規則性を覚える。習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳作文ができるようになる。また、文法学習と並行し、リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、準備を進める。

到達目標 ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。毎年 5 月と 10 月に開催されるロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、初級文法を着実に習得し練習問題が解ける。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

成績評価の方法と基準 秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 %となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 %とし、総合的に評価します。

LANr100LA	
ロシア語 2 - I	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語 2 - I	2016 年度以前入学者
佐藤 裕子	
授業コード：R6051	2017 年度以降入学者
授業コード：E4505	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語を「聞く・読む・話す・書く」練習をこなし、大学で初めて学ぶ語学を確実に身につける。正確に文字を発音し、テキストをきれいに音読できる。教科書で初級文法をしっかりとして習得する。文法を使いテキストの意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。ロシア語能力検定試験 4 級合格を目指した準備を始める。

到達目標 ロシア語のアルファベットを覚え、書けるようになる。単語の美しく正確な発音ができる。名詞を中心とした文法（形容詞、所有代名詞、指示代名詞）と動詞の変化を覚える。格の意味などロシア語の構文の構造を理解する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、対象範囲の必須単語や文法などを確実に習得する。

成績評価の方法と基準 春学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 60 %となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 %とし、総合的に評価します。

LANr100LA	
ロシア語 2 - II	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語 2 - II	2016 年度以前入学者
佐藤 裕子	
授業コード：R6052	2017 年度以降入学者
授業コード：E4506	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期の文法の復習とともに、格変化がポイントのロシア語文法の構造を理解する。名詞をはじめ、形容詞、人称代名詞などの格変化を覚える。また、動詞の命令形や、日本の感覚とは違う運動の動詞を覚える。その上でロシア語能力検定試験 4 級への準備を続ける。さらに辞書を用いてのテキスト和訳、露訳作文ができるようになる。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。

到達目標 格変化を中心としたロシア語文法の構造を理解し、変化表を覚える。毎年 5 月と 10 月に開催されるロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、格変化および運動の動詞などの練習問題が解ける。ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ文法を駆使しながら、辞書をひいてテキストの意味を理解し和訳できる。さらにリスニングや会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

成績評価の方法と基準 秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 %となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 %とし、総合的に評価します。

LANr200LA	
ロシア語 3 - I	2017 年度以降入学者
LANr200LA	
ロシア語 3 - I	2016 年度以前入学者
佐藤 裕子	
授業コード：R6231	2017 年度以降入学者
授業コード：E4329	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この春学期でロシア語基礎文法を学び終え、文法力を身につける。辞書を引きながらさまざまなテキストを読解できるようになる。ロシア語能力検定試験 4 級 3 級の過去問題や対策問題に取り組み、合格を目指す。リスニングやリーディング力を養い、実際にコミュニケーションで使える日常会話、自己紹介等を習得する。

到達目標 教科書のロシア語基礎文法を学び終え、しっかりと文法力を身につける。特に数詞の表現、関係代名詞や仮定法、比較級などが使いこなせるようになる。基礎文法が対象のロシア語能力検定試験 4 級 3 級の過去問題や対策問題に取り組み、合格を目指す。辞書を引き、より高度な文章の和訳ができるようになる。ロシア語テキストを速くきれいに音読できるようになる。実際にコミュニケーションで使える日常会話、自己紹介等を習得する。

成績評価の方法と基準 中間テスト（12-13 課）と期末テスト（14-15 課）を評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 %となります。その他にリーディングや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 %とし、総合的に評価します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANr200LA	
ロシア語3－Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANr200LA	
ロシア語3－Ⅱ	2016 年度以前入学者
佐藤 裕子	
授業コード：R6232	2017 年度以降入学者
授業コード：E4330	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 既習のロシア語基礎文法を復習・整理し、使いこなせるようになる。その力試しにロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。より高度なテキストを読み解くため、中級文法を習得する。リスニングやリーディング力を養い、実際に使える日常会話、自己紹介等を身につける。ロシアの歴史文化の映画やDVD、ニュースなどの視聴覚教材を通じロシア語力とロシアに関する知識を深める。

到達目標 基礎文法を整理、記憶し、確実に自身のものとする。ロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。より高度なテキストを読解するため、中級文法を習得する。その文法を用いて、ロシアの歴史や文化、文学作品やニュースなど、さまざまなテキストを辞書を引き訳せるようになる。また、リスニングや、テキストをきれいな発音で速く音読できること、ロシア語の実践会話、和訳や露訳など、「聴く、読む、話す、書く」の総合的な語学力を身につける。

成績評価の方法と基準 秋学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の60%となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を40%とし、総合的に評価します。

LANr200LA	
ロシア語4-I（重点）	2016 年度以前入学者
木部 敬	
授業コード：F4009	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：< 2017 年度以降入学生>法文営2年、< 2016 年度以前入学生>法文営環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1年次に学んだ初級文法を復習し、残りの文法の学習を終える。それらを基礎に、さらに文法の学習を反復しながら、簡単な文章の読解練習を行う。

到達目標 辞書等を用いながら、自分自身の力でロシア語の文章を理解できるようになる。

成績評価の方法と基準 初級文法の知識と読解力を問う期末テスト(80%)および平常点(20%)。平常点は、宿題の評価が主である。

LANr200LA	
ロシア語4-II（重点）	2016 年度以前入学者
木部 敬	
授業コード：F4010	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：< 2017 年度以降入学生>法文営2年、< 2016 年度以前入学生>法文営環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本格的にテキスト読解の練習に取り組む。既習の文法事項の知識を駆使し、さらに新たな文法を学びながら、正確な読解力を養う。

到達目標 新聞・雑誌やネット上の文章から、最低限の情報を得ることができるようになる。

成績評価の方法と基準 ロシア語テキストを日本語に訳する宿題および授業で学んだテキストの暗記テストなど(20%)。文法問題および露文和訳の期末試験(80%)。

LANr200LA	
ロシア語4-I（重点）	2016 年度以前入学者
土岐 康子	
授業コード：F4013	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：< 2017 年度以降入学生>法文営2年、< 2016 年度以前入学生>法文営環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） これまで学んだロシア語の知識を基に、ロシア語文章読解や和文露訳（ロシア語作文）などを通じて、基本文法や基本的な構文を定着させること、また、未習の文法事項を学び基本的な文法の修得を目指します。さらに、音読や会話のロールプレイなどを通じて、話す、聴く力を伸ばす練習も行います。

到達目標 既習文法を正しく理解していること、辞書を用いてロシア語の文章を理解し日本語に訳せること、簡単な文章をロシア語で表現できること。ロシア語での質問を理解し、それに適切に答えられること。アクセントの位置やイントネーションを意識して、文章の音読ができること。

成績評価の方法と基準 平常点（授業参加態度、予習、課題提出などを含む）40%、学期末テスト60%の総合評価。

LANr200LA	
ロシア語4-II（重点）	2016 年度以前入学者
土岐 康子	
授業コード：F4014	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：< 2017 年度以降入学生>法文営2年、< 2016 年度以前入学生>法文営環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本的な文法事項の学習を終えた学生を対象とした授業です。この授業では、文章の読解を通して、これまで学習したことの確認、定着、応用を目指します。また、学期の後半ではロシア映画やテレビ番組、大統領演説などを教材として生のロシア語に触れる授業を予定しています。

様々な方面からロシアにアプローチし、理解を深めることがこの授業の大きな目的でもあります。

到達目標 辞書を使ってロシア語の文章を読み、理解し、日本語に訳すことができる。文章の内容に関するロシア語の質問を理解でき、それ的確に答えることができる。ロシア語で書かれたテキストを正確に音読できる、簡単な会話表現を理解でき、的確に応えることができる。

成績評価の方法と基準 平常点（授業参加態度、予習、課題提出などを含む）40%、学期末試験60%の総合評価。

LANr200LA	
ロシア語5-I（重点）	2016 年度以前入学者
三神 エレーナ	
授業コード：F4011	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：< 2017 年度以降入学生>法文営2~4年、< 2016 年度以前入学生>法文営環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 簡単な挨拶や日常会話からはじめ、コミュニケーションに不可欠な単語や表現を学びます。身近なテーマの会話練習によってロシア語の文法力だけでなく、聞き取り能力、コミュニケーション能力を身に付ける授業です。

到達目標 当授業を履修した学生達はロシア語能力試験（ТРКИ）A1レベルの文章を聞き取りができ、主な挨拶や授業で学んだテーマについてロシア語で会話ができるようになります。

成績評価の方法と基準 期末試験 50%、出席および宿題・授業への取り組み 50%

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

になる。また、文法学習と並行し、リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級の練習問題にも挑戦する。

到達目標 ロシア語テキストを正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。日本語の短い文章を的確なロシア語に出来る。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

成績評価の方法と基準 秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

LANr200LA	
ロシア語 5 - II (重点)	2016 年度以前入学者
三神 エレーナ	
授業コード：F4012 開講時期：秋学期 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2～4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年	2016 年度以前入学者

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 簡単な挨拶や日常会話からはじめ、コミュニケーションに不可欠な単語や表現を学びます。身近なテーマの会話練習によってロシア語の文法力だけでなく、聞き取り能力、コミュニケーション能力を身に付ける授業です。

到達目標 秋学期では、時間表現、街・交通、住宅、天気に関する会話表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取りをしてから会話の実践を行います。

「読む・書く・聴く・話す」という段階で、ロシア語の基本文法やロシア語の表現力を本格的に身に付けます。ロシア語文法が苦手な方やロシア語の基礎を楽しく学びたい方におすすめの授業です。

成績評価の方法と基準 期末試験 50 %、出席および宿題・授業への取り組み 50 %

LANr100LA	
ロシア語補講 1 I	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語補講 1 I	2016 年度以前入学者
佐藤 裕子	
授業コード：R6061 授業コード：E4221 開講時期：春学期 ※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者

授業の概要と目的 (何を学ぶか) ロシア語のアルファベットを覚え、単語やテキストを正確に発音することができる。初級文法をしっかりと習得し、辞書を用いてテキストの意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。

到達目標 ロシア語のアルファベットと単語の美しく正確な発音ができる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）をきちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし語学力をつける。

成績評価の方法と基準 授業の進度に合わせて、適時小テストを行います。小テストの総合点が全体評価の 30 % となります。欠席をせずにしっかりと復習の成果を出して下さい。また、春学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 40 % となります。その他に授業への参加度や取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 30 % とし、最終評価を算出します。

LANr100LA	
ロシア語補講 1 II	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語補講 1 II	2016 年度以前入学者
佐藤 裕子	
授業コード：R6062 授業コード：E4222 開講時期：秋学期 ※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 春学期に続き、ロシア語初級文法の規則性を覚える。習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳ができるよう

LANr100LA	
ロシア語補講 2 I	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語補講 2 I	2016 年度以前入学者
佐藤 裕子	
授業コード：R6063 授業コード：E4223 開講時期：春学期 ※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者

授業の概要と目的 (何を学ぶか) これまで習得できなかったロシア語の基礎をアルファベット・発音からしっかりと学び直す。教科書および副教材で基礎文法を復習し、聴く、読む、話す、書く力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級の過去問題や対策問題にも挑戦する。実際のコミュニケーションで使える日常会話、自己紹介等を習得する。

到達目標 ロシア語のアルファベットと単語を美しく正確に発音できる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を教科書できちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級の過去問題に挑戦し、必須単語や文法を着実に身につける。

成績評価の方法と基準 授業の進度に合わせて、適時小テストを行います。小テストの総合点が全体評価の 30 % となります。欠席をせずにしっかりと復習の成果を出して下さい。また、秋学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 40 % となります。その他に授業への参加度や取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 30 % とし、最終評価を算出します。

LANr100LA	
ロシア語補講 2 II	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語補講 2 II	2016 年度以前入学者
佐藤 裕子	
授業コード：R6064 授業コード：E4224 開講時期：秋学期 ※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 春学期授業の復習とともに、格変化がポイントのロシア語文法の構造を理解する。名詞をはじめ、形容詞、人称代名詞などの格変化を覚える。また、動詞の命令形や、日本の感覚とは違う運動の動詞を覚える。その上でロシア語能力検定試験 4 級受験の準備を行う。さらに辞書を用いてのテキスト和訳、露訳作文ができるようになる。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。

到達目標 格変化を中心としたロシア語文法の構造を理解し、変化表を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、格変化および運動の動詞などの練習問題が解ける。ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ文法を駆使しながら、辞書をひいてテキストの意味を理解し和訳できる。さらにリスニングや会話の練習を通し、「聴く、

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

成績評価の方法と基準 秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

LANc100LA	
中国語 1 - I	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 - I	2016 年度以前入学者
高堂 晃壽	
授業コード：R7181	2017 年度以降入学者
授業コード：E5501	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 G-I 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

到達目標 ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（出席状況・授業態度）30 % 期末試験 70 %
授業内に小テストを行うことがある。

LANc100LA	
中国語 1 - II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 - II	2016 年度以前入学者
高堂 晃壽	
授業コード：R7182	2017 年度以降入学者
授業コード：E5502	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 G-I 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

到達目標 ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（出席状況・授業態度）30 % 期末試験 70 %
授業内に小テストを行うことがある。

LANc100LA	
中国語 1 - I	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 - I	2016 年度以前入学者
賀 蘭	
授業コード：R7183	2017 年度以降入学者
授業コード：E5503	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 J-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本

文型に沿って学ぶ。

到達目標 ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
・期末試験 60 %
・授業内に小テストを行うことがある。

LANc100LA	
中国語 1 - II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 - II	2016 年度以前入学者
賀 蘭	
授業コード：R7184	2017 年度以降入学者
授業コード：E5504	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 J-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

到達目標 ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
・期末試験 60 %
・授業内に小テストを行うことがある。

LANc100LA	
中国語 1 - I	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 - I	2016 年度以前入学者
高堂 晃壽	
授業コード：R7185	2017 年度以降入学者
授業コード：E5505	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 A-C 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

到達目標 ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（出席状況・授業態度）30 % 期末試験 70 %
授業内に小テストを行うことがある。

LANc100LA	
中国語 1 - II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 - I	2016 年度以前入学者
高堂 晃壽	
授業コード：R7186	2017 年度以降入学者
授業コード：E5506	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 A-C 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

到達目標 ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（出席状況・授業態度）30% 期末試験70%
授業内に小テストを行うことがある。

LANc100LA	
中国語 1 - I	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 - II	2016 年度以前入学者
賀 蘭	
授業コード：R7187	2017 年度以降入学者
授業コード：E5507	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 D-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

到達目標 ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40%
・期末試験60%
・授業内に小テストを行うことがある。

LANc100LA	
中国語 1 - II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 - I	2016 年度以前入学者
賀 蘭	
授業コード：R7188	2017 年度以降入学者
授業コード：E5508	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 D-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

到達目標 ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）

40%
・期末試験60%
・授業内に小テストを行うことがある。

LANc100LA	
中国語 2 - I	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 2 - II	2016 年度以前入学者
賀 蘭	
授業コード：R7211	2017 年度以降入学者
授業コード：E5517	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 G-I 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

到達目標 ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40%
・期末試験60%
・授業内に小テストを行うことがある。

LANc100LA	
中国語 2 - II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 2 - I	2016 年度以前入学者
賀 蘭	
授業コード：R7212	2017 年度以降入学者
授業コード：E5518	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 G-I 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

到達目標 ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40%
・期末試験60%
・授業内に小テストを行うことがある。

LANc100LA	
中国語 2 - I	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 2 - II	2016 年度以前入学者
日原 傳	
授業コード：R7213	2017 年度以降入学者
授業コード：E5519	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 J-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

文型に沿って学ぶ。

- 到達目標** ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・発音チェックテスト）30％ 期末試験70％

LANc100LA	
中国語2-II	2017年度以降入学者
LANc100LA	
中国語2-I	2016年度以前入学者
日原 傳	
授業コード：R7214	2017年度以降入学者
授業コード：E5520	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部1年J-L組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

- 到達目標** ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・暗誦テスト）30％ 期末試験70％

LANc100LA	
中国語2-I	2017年度以降入学者
LANc100LA	
中国語2-I	2016年度以前入学者
賀 蘭	
授業コード：R7215	2017年度以降入学者
授業コード：E5521	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部1年A-C組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

- 到達目標** ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40％
・期末試験60％
・授業内に小テストを行うことがある。

LANc100LA	
中国語2-II	2017年度以降入学者
LANc100LA	
中国語2-II	2016年度以前入学者
賀 蘭	
授業コード：R7216	2017年度以降入学者
授業コード：E5522	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部1年A-C組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

- 到達目標** ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40％
・期末試験60％
・授業内に小テストを行うことがある。

LANc100LA	
中国語2-I	2017年度以降入学者
LANc100LA	
中国語2-I	2016年度以前入学者
日原 傳	
授業コード：R7217	2017年度以降入学者
授業コード：E5523	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部1年D-F組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

- 到達目標** ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・発音チェックテスト）30％ 期末試験70％

LANc100LA	
中国語2-II	2017年度以降入学者
LANc100LA	
中国語2-II	2016年度以前入学者
日原 傳	
授業コード：R7218	2017年度以降入学者
授業コード：E5524	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部1年D-F組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

- 到達目標** ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・暗誦テスト）30％ 期末試験70％

LANc200LA	
中国語 3－Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語 3－Ⅰ	2016 年度以前入学者
陳 洲挙	
授業コード：R7401	2017 年度以降入学者
授業コード：E5533	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年 G-I 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は基礎的な会話交流が出来るように。

到達目標 学生は発音が正しく、流暢に会話できるように。

成績評価の方法と基準 授業中の発音の習熟度や予習の成果を参考にし、平常点 20%、期末テスト 80%を占め、評価する。

LANc200LA	
中国語 3－Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語 3－Ⅱ	2016 年度以前入学者
陳 洲挙	
授業コード：R7402	2017 年度以降入学者
授業コード：E5534	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年 G-I 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は基礎的な会話交流が出来るように。

到達目標 学生は発音が正しく、流暢に会話できるように。

成績評価の方法と基準 授業中の発音の習熟度や予習の成果を参考にし、平常点 20%、期末テスト 80%を占めて、評価する。

LANc200LA	
中国語 3－Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語 3－Ⅰ	2016 年度以前入学者
王 翠莉	
授業コード：R7403	2017 年度以降入学者
授業コード：E5535	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年 J-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は、中国語 1、中国語 2 を一通り終えた学生を対象にする授業です。
中国語 1 と中国語 2 の授業で学んだ中国語の基礎知識を生かして、読解、会話、聴解、作文の勉強と練習をします。

到達目標 教科書と同レベルの中級中国語の文章が、読める、翻訳できる、聞き取れるようになることを目標とします。

成績評価の方法と基準 成績評価は、平常点（出席、授業中の練習、学習態度等）と期末試験により総合評価を出す。
* 無断欠席 4 回以上の受講生は評価対象にならない可能性がある。

LANc200LA	
中国語 3－Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語 3－Ⅱ	2016 年度以前入学者
王 翠莉	
授業コード：R7404	2017 年度以降入学者
授業コード：E5536	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年 J-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は、中国語 3Ⅰの続きです。
中国語 1 と中国語 2 と中国語 3Ⅰの授業で学んだ中国語の基礎知識を生かして、読解、会話、聴解、作文の勉強と練習をします。

到達目標 教科書と同レベルの中級中国語の文章が読める、翻訳できる、聞き取れるようになることを目標とします。

成績評価の方法と基準 出席、小テスト、学習態度などを含む平常点を 30 %、期末試験を 70%の割合により総合評価を出します。
* 無断欠席 4 回以上の受講生は評価対象にならない可能性がある。

LANc200LA	
中国語 3－Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語 3－Ⅰ	2016 年度以前入学者
三田村 圭子	
授業コード：R7405	2017 年度以降入学者
授業コード：E5537	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年 A-C 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期は、集中的に基礎を復習し定着させる。今年度の教科書は口語表現に基づいた本文と短めの読解の文章があり、ヒアリング・作文の強化をするのにふさわしい内容となっている。前半は中国語検定試験 4 級に照準をあてて「話す」・「読解できる」・「聴き取れる」中国語の習得を目指す。また中級中国語を学ぶための必修事項を網羅する内容とする。

到達目標 春学期は中国語検定試験 4 級の合格（6 月末）同程度の中国語運用能力の習得を到達目標とする。終了時には簡単な中国語で基本的な文法を踏まえながら、自分の生活などについて話せるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験 50 %、宿題・小テスト 30 %、平常点 20 %を総合して評価する。春学期においては HSK 3・4 級・中国語検定試験 4 級合格者には 10 %を上限として加点をする。

LANc200LA	
中国語 3－Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語 3－Ⅱ	2016 年度以前入学者
三田村 圭子	
授業コード：R7406	2017 年度以降入学者
授業コード：E5538	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年 A-C 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中級の文法の確立と応用練習を行う。中国語検定試験 3 級に照準をあてて春学期よりも長めの例文を聴き取り、それに関しての簡単な質疑応答ができる中国語の力を養成する。また、より複雑な構文を使った表現に取り組む。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

到達目標 秋学期は中国語検定試験3級の合格（11月末）、あるいはHSK4・5級の能力習得を到達目標とする。また、より複雑な構文を使った中国語が書け、聴き取れるようになるための練習を行う。

成績評価の方法と基準 期末試験 50 %、小テスト 30 %、平常点 20 % の総合評価。指定の暗誦をしたかも評価の対象とする。中国語検定試験3級・HSK4・5級合格者は、期末試験を免除し評価をA+とする。

LANc200LA	
中国語3－I	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語3－I	2016 年度以前入学者
薬 進	
授業コード：R7407	2017 年度以降入学者
授業コード：E5539	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年 D-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 一年生で習った初級をしっかりと復習しながら、日常をコミュニケーションできる中級レベルの中国語を目指しましょう。

到達目標 基礎段階を終えた学習者を対象に、より複雑な中国語の表現で日常生活における交流場面に対応できるように、読む・聞く・話す・書く能力を身につけることを目標とする。到達レベルは、中国語検定試験の3級合格可能な程度である。3級合格者は、成績評価がA+となる。

成績評価の方法と基準 評価基準は、平常点 10 %、中間テスト 15 %、課題（小テストなど）15 %、期末試験 60 %とする。期末試験は筆記のみとする。無断欠席は1回につき2～5点マイナスになる。
検定試験4級合格者：Ⅰ期終了時合格は15点プラス。
検定試験3級合格者：Ⅰ期終了時合格は100点プラス。

LANc200LA	
中国語3－Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語3－Ⅱ	2016 年度以前入学者
薬 進	
授業コード：R7408	2017 年度以降入学者
授業コード：E5540	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年 D-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日常のコミュニケーションができる中級レベルの中国語

到達目標 基礎段階を終えた学習者を対象に、より複雑な中国語の表現で日常生活における交流場面に対応できるように、読む・聞く・話す・書く能力を身につけることを目標とする。到達レベルは、中国語検定試験の3級合格可能な程度である。3級合格者は、成績評価がA+となる。

成績評価の方法と基準 評価基準は、平常点 10 %、中間テスト 15 %、課題（小テストなど）15 %、期末試験 60 %とする。期末試験は筆記のみとする。無断欠席は1回につき2～5点マイナスになる。
検定試験3級合格者：Ⅱ期終了時合格は90点プラス。

LANc200LA	
中国語4－Ⅰ（重点）	2016 年度以前入学者
三田村 圭子	
授業コード：F5401	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期は中国語の基礎を集中的に復習し定着させる。中国語検定試験4級に照準をあてて「話す」・「読解できる」・「聴き取れる」中国語の中級への基礎事項の習得を目指す。また難易度の高い補語表現を獲得する。

到達目標 春学期は中国語検定試験4級の合格（6月末）、同程度の中国語運用能力の習得を到達目標とする。終了時には簡単な中国語で基本的な文法を踏まえながら、中国と日本の文化の違いについて読解でき、自分の生活や習慣・文化などについて具体的に話せるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験 50 %、小テスト 30 %、課題・平常点 20 %を総合して評価する。中国語検定試験4級・HSK3・4級合格者は大きく加点する。外部試験の点数によっては、期末試験を免除とする。

LANc200LA	
中国語4－Ⅱ（重点）	2016 年度以前入学者
三田村 圭子	
授業コード：F5402	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中級の文法の確立と応用練習を行う。中国語検定試験3級に照準をあてて春学期よりも長めの会話文を聴き取り、それに関しての簡単な質疑応答ができる中国語の力を養成する。また、現代中国の日常に関する比較的短い読解も並行して行う。

到達目標 秋学期は中国語検定試験3級の合格（11月末）、あるいはHSK4・5級の能力習得を到達目標とする。より複雑な時制の表現や構文の修得を目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験 50 %・小テスト 30 %・平常点 20 % の総合評価。授業時に指定の暗誦をしたかも評価の対象とする。中国語検定試験3級・HSK4級以上の合格者は、期末試験を免除し評価をA+とする。

LANc200LA	
中国語4－Ⅰ（重点）	2016 年度以前入学者
薬 会	
授業コード：F5403	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） これまで学んできた基本語彙、初級文法を復習しながら、中国語検定試験4級に照準をあてて「話せる」・「読める」・「聞ける」中国語の習得を目指します。発音の矯正（スピーチ）・基礎単語と日常用語の暗記・文法理解（翻訳練習）などを授業内容とします。

到達目標 春学期は中国語検定試験4級の合格（6月末、しっかり授業について来られるなら楽に合格できる）を到達目標とします。

成績評価の方法と基準 毎回の自己紹介スピーチと授業への参加度、期末試験の成績などを総合して評価する。中国語検定試験4級合格者は、期末試験を免除し、評価を「A+」とします。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

総合評価：1 + 2 = 総合点とする

成績基準：合格点 A + 100点～90点
A 89点～80点
B 79点～70点
C 69点～60点
不合格 D 59点～

LANc200LA	
中国語 4 - II (重点)	2016 年度以前入学者
薬 会	
授業コード：F5404	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) これまで学んできた基本語彙や文法を復習しながら、中国語検定試験 3 級という挑戦的なレベルに照準をあてて「話せる」・「読める」・「聞ける」中国語の習得を目指します。発音の矯正（長文暗記）・基礎単語と日常用語の暗記・文法理解（翻訳練習）などを授業内容とします。

到達目標 秋学期は中国語検定試験 3 級の合格（1 1 月末）を到達目標（挑戦的な目標）とします。

成績評価の方法と基準 毎回の自己紹介スピーチと授業への参加度、期末試験の成績などを総合的に評価します。ちょっと挑戦的ではあるが、中国語検定試験 3 級を受験して合格した者に対し、期末試験を免除し、評価を「A +」とします。

LANc200LA	
中国語 4 - I (重点)	2016 年度以前入学者
薄 宏	
授業コード：F5405	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 中国語 1 と 2 で学んできた基本語彙、初級文法、基本会話等を復習しながら、要点をしっかりとチェックし、その内容を把握し、基本的な応用が出来るようにする。ユニット 1、及び 2 に沿って、中級文法を学習しながら、「書ける」・「話せる」・「読める」・「聞ける」中国語の習得を更に充実し、全面的にバランスよく身につけることを目標とする

到達目標 中国語 1 と 2 で取得された学習成果を活かしながら、発音の矯正・中級中国語にあった自己紹介スピーチと日常用語の暗記・翻訳練習などを兼ねて、「話せる」・「読める」・「聞ける」、そして「書ける」中国語の習得を授業の到達目標とする

成績評価の方法と基準 成績評価：1 学習成果到達度のチェック評価（80点）2 レポート課題・宿題・平常点等（20点）

総合評価：1 + 2 = 総合点とする

成績基準：合格点 A + 100点～90点
A 89点～80点
B 79点～70点
C 69点～60点
不合格 D 59点～

LANc200LA	
中国語 4 - II (重点)	2016 年度以前入学者
薄 宏	
授業コード：F5406	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 正確な発音のチェックを随時行い、本文の内容や自己紹介スピーチ、そして日常用語の応用、暗記、翻訳練習等をよく行い、中国語に対し、自信を持てるようになること

到達目標 春学期に引き続き、ユニット 3、及び 4 に沿って、これまで学んできた基本語彙、中級文法を復習しながら、「書ける」・「話せる」・「読める」・「聞ける」中国語の習得を更に充実し、全面的にバランスよく身につけることを目標とする

成績評価の方法と基準 成績評価：1 学習成果到達度のチェック評価（80点）2 レポート課題・宿題・平常点等（20点）

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 準中級レベルの中国語の授業です。教材の内容は、中国と日本の文化や社会の違いをテーマにした長文で構成されています。教材を学習し、一年次で勉強した基礎中国語文法をかため、さらに複文を含む 30 の新しい文型と 300 個の新しい単語を学習します。

到達目標 1 年で学んだ中国語の基礎を踏まえ、読む、書く、聞く、話す力を伸ばすことを目標にします。具体的には、日常生活にまつわる簡単な会話ができて、また 200～300 文字の文章が読めるように目指します。

一方、教材の内容は、中国と日本の文化、慣習、生活などの違いをテーマにしていますので、中日両国の理解への促進も目標の一つとします。

成績評価の方法と基準 毎回授業中行う小テストは 30 点で、中間テストは 30 点、で期末テストは 40 点です。

成績は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

LANc200LA	
中国語 4 - II (重点)	2016 年度以前入学者
余 瀾	
授業コード：F5408	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 準中級レベルの中国語の授業です。教材の内容は、中国と日本の文化や社会の違いをテーマにした長文で構成されています。教材を学習し、一年次で勉強した基礎中国語文法をかため、さらに複文を含む 30 の文型と 300 個の新しい単語を学習します。

到達目標 1 年で学んだ中国語の基礎を踏まえ、読む、書く、聞く、話す力を伸ばすことを目標にします。具体的には、日常生活にまつわる簡単な会話ができて、また 200～300 文字の文章が読めるように目指します。

一方、教材の内容は、中国と日本の文化、慣習、生活などの違いをテーマにしていますので、中日両国の理解への促進も目標の一つとします。

成績評価の方法と基準 毎回行う小テスト 30 点で、中間テストは 30 点で、期末テストは 40 点です。

成績は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANc200LA	
中国語 4 - I （重点）	2016 年度以前入学者
周 重雷	
授業コード：F5409 開講時期：春学期	2016 年度以前入学者
履修対象：＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級中国語を踏まえた上で、基本文法、日常会話、作文などを通じて、中国語の聞く、読む、書く、話す能力を総合的に高める授業である。中級程度あるいはそれ以上のレベルに達することを目標とする。

到達目標 ・中国語の発音と聞き取りの能力を向上させる。
・文法をきちんと理解し、独自で中国語の文章の読み書きができるようにする。
・実用的会話力を身に付けるようにする。

成績評価の方法と基準 期末試験（100点満点）の成績を基本とする。普段の学習態度も考慮に入れる。

LANc200LA	
中国語 4 - II （重点）	2016 年度以前入学者
周 重雷	
授業コード：F5410 開講時期：秋学期	2016 年度以前入学者
履修対象：＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級中国語を踏まえた上で、基本文法、日常会話、作文などを通じて、中国語の聞く、読む、書く、話す能力を総合的に高める授業である。中級程度あるいはそれ以上のレベルに達することを目標とする。

到達目標 ・中国語の発音と聞き取りの能力を向上させる。
・文法をきちんと理解し、独自で中国語の文章の読み書きができるようにする。
・実用的会話力を身に付けるようにする。

成績評価の方法と基準 筆記試験（50点）と口頭試験（50点）の合計点の成績を基本とする。普段の学習態度も考慮に入れる。

LANc200LA	
中国語 4 - I （重点）	2016 年度以前入学者
祝 振媛	
授業コード：F5411 開講時期：春学期	2016 年度以前入学者
履修対象：＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級中国語を習得した内容を基礎とし、次のステップへ進む。

到達目標 ・中国語による基本的な日常会話を聞いて理解できる。
・基礎的な中国語を使って自分の意思を伝えることができる。
・中国の歴史、文化に対する関心を養う。

成績評価の方法と基準 毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績評価の 60 %とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

LANc200LA	
中国語 4 - II （重点）	2016 年度以前入学者
祝 振媛	
授業コード：F5412 開講時期：秋学期	2016 年度以前入学者
履修対象：＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学習した内容を基礎とし、次のステップへ進む。

到達目標 ・中国語による基本的な日常会話を聞いて理解できる。
・基礎的な中国語で自分の意思を伝えることができる。
・中国の歴史、文化に対する関心を養う。

成績評価の方法と基準 毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績評価の 60 %とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

LANc200LA	
中国語コミュニケーション基礎 I	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語コミュニケーション I	2016 年度以前入学者
薄 宏	
授業コード：R7411 授業コード：E5379 開講時期：春学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
※定員制	履修可能年次：1～4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この中国語コミュニケーション基礎 I については、言語に共通の 4 技能：「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」をより正確に把握することで、基本的な中国語発音を基とし、肝心の言い伝えることを、正しい発音をしっかりと身につけることにより、はじめて本当の意味での中国語によるコミュニケーション能力を向上できるようにこの授業の目的とする。

到達目標 中国語によるコミュニケーションについては、先ず簡単な会話を交わすことよりスタートし、徐々に複雑な、いろんな分野においての意思の疎通を交わせるようにするものの、基は自信を持って正しい発音を身につけることが目標とする。

成績評価の方法と基準 1、毎回の授業に対する態度、設問に対する応答、遅刻、欠席の有無による： 15点
2、毎回の授業に対する宿題の提出、暗誦や完成度による： 20点
3、春学期末における到達度チェックの成績による： 65点

LANc200LA	
中国語コミュニケーション基礎 II	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語コミュニケーション II	2016 年度以前入学者
薄 宏	
授業コード：R7412 授業コード：E5380 開講時期：秋学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
※定員制	履修可能年次：1～4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この中国語コミュニケーション基礎 II については、言語に共通の 4 技能：「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」をより正確に把握することで、基本的な中国語発音を基とし、肝心の言い伝えることを、正しい発音をしっかりと身につけることにより、はじめて本当の意味での中国語によるコミュニケーション能力を向上できるようにこの授業の目的とする。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

到達目標 中国語によるコミュニケーションについては、先ず簡単な
会話を交わすことよりスタートし、徐々に複雑な、いろんな分野におい
ての意思の疎通を交わせるようにするものの、基は自信を持って正しい
発音を身につけることが目標とする。

成績評価の方法と基準 1、毎回の授業に対する態度、設問に対する応
答、遅刻、欠席の有無による： 15点
2、毎回の授業に対する宿題の提出、暗誦や完成度による： 20点
3、春学期末における到達度チェックの成績による： 65点

LANc200LA	
中国語コミュニケーション初級Ⅰ	2017年度以降入学者
LANc200LA	
中国語コミュニケーションⅠ	2016年度以前入学者
蔣 彥婷	
授業コード：R7413	2017年度以降入学者
授業コード：E5349	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の発音及び基礎的な文法事項を
固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

到達目標 発音を固める。
読解力を培う。
日常会話ができる。
簡単な文章を書ける。

成績評価の方法と基準 期末テストを主に（50％）、学習態度や学習意
欲（20％）、小テスト（20％）、平常点なども（10％）勘案して、総合
的に評価する。

LANc200LA	
中国語コミュニケーション初級Ⅱ	2017年度以降入学者
LANc200LA	
中国語コミュニケーションⅡ	2016年度以前入学者
蔣 彥婷	
授業コード：R7414	2017年度以降入学者
授業コード：E5350	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎的な文法事項の基礎を固
めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

到達目標 読解力や、表現力などのさらなるスキルアップを目指す。
日常の中国語のコミュニケーションが取れる。

成績評価の方法と基準 期末テストを主に（50％）、学習態度や学習意
欲（20％）、小テスト（20％）、平常点なども（10％）勘案して、総合
的に評価する。

LANc200LA	
中国語コミュニケーション初級Ⅰ	2017年度以降入学者
LANc200LA	
中国語コミュニケーションⅠ	2016年度以前入学者
陳 洲挙	
授業コード：R7415	2017年度以降入学者
授業コード：E5351	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は中国語の発音及び基礎的な文法
事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を身につける。

到達目標 学生は綺麗な発音を身につけ、日常会話ができるように。

成績評価の方法と基準 期末テストを主に（80％）、学習態度や学習意
欲（20％）を、総合的に評価する。

LANc200LA	
中国語コミュニケーション初級Ⅱ	2017年度以降入学者
LANc200LA	
中国語コミュニケーションⅡ	2016年度以前入学者
陳 洲挙	
授業コード：R7416	2017年度以降入学者
授業コード：E5352	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は中国語の基礎的な文法事項の基
礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を身につける。

到達目標 学生は表現力などの更なるスキルアップをし、日常の中国語
のコミュニケーションが取れるように。

成績評価の方法と基準 期末テストを主に（80％）、学習態度や学習意
欲（20％）を、総合的に評価する。

LANc200LA	
中国語作文初級Ⅰ	2017年度以降入学者
LANc200LA	
中国語表現法Ⅰ	2016年度以前入学者
康 鴻音	
授業コード：R7431	2017年度以降入学者
授業コード：E5363	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義は初級で学んだ中国語の基礎を
固め、読解力や翻訳力の向上を図ります。そして正しい声調で、自然な
リズムで話せるようにも指導します。

到達目標 中国語の基礎文法を一通り学ぶことによって一応の文章も読
解できる段階まで力を付けることを目指します。

成績評価の方法と基準 授業への参加度、授業中の学習態度、宿題の完
成度など（60点）、試験（40点）により総合的に評価します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANc200LA	
中国語作文初級Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語表現法Ⅱ	2016 年度以前入学者
康 鴻音	
授業コード：R7432	2017 年度以降入学者
授業コード：E5364	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義は初級で学んだ中国語の基礎を固め、読解力や翻訳力の向上を図ります。

到達目標 中国語の基礎文法を一通り学ぶことによって一応の文章も読解できる段階まで力を付けることを目指します。正しい声調で、自然なリズムで話せるようにも指導します。

成績評価の方法と基準 授業への参加度、授業中の学習態度、宿題の完程度など（60 点）、試験（40 点）により総合的に評価します。

LANc200LA	
中国語視聴覚初級Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語視聴覚Ⅰ	2016 年度以前入学者
劉 湯氷	
授業コード：R7433	2017 年度以降入学者
授業コード：E5365	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。

到達目標 1 年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。

成績評価の方法と基準 試験、出席状況及び授業態度により総合的に評価する。

LANc200LA	
中国語視聴覚初級Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語視聴覚Ⅱ	2016 年度以前入学者
劉 湯氷	
授業コード：R7434	2017 年度以降入学者
授業コード：E5366	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。

到達目標 1 年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。

成績評価の方法と基準 試験、出席状況及び授業態度により総合的に評価する。

LANc200LA	
資格中国語初級Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
検定中国語Ⅰ	2016 年度以前入学者
青木 正子	
授業コード：R7437	2017 年度以降入学者
授業コード：E5367	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） HSK（汉语水平考试）1 級～3 級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的です。春学期中に 2 級、秋学期中に 3 級に合格できるよう指導します。

到達目標 HSK 2 級に合格する。

成績評価の方法と基準 授業内テストの合計点で評価します。

LANc200LA	
資格中国語初級Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
検定中国語Ⅱ	2016 年度以前入学者
青木 正子	
授業コード：R7438	2017 年度以降入学者
授業コード：E5368	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） HSK 3 級合格レベルの中国語を身につけることが目的です。

到達目標 HSK 3 級合格を目指します。

成績評価の方法と基準 授業内テストと期末テストで評価します。

LANc100LA	
中国語補講ⅠⅠ	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語補講Ⅰ	2016 年度以前入学者
池田 麻希子	
授業コード：R7251	2017 年度以降入学者
授業コード：E5323	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の発音の基礎（ピンイン表記を正しく読み、書くことができる）と文法の基礎をしっかりと身に付けることを目標とします。

到達目標 中国語の基礎を身に付けること。

成績評価の方法と基準 平常点（3～4 割）と期末試験（6～7 割）の総合評価。

平常点とは、授業中に指名する教科書の音読、訳、練習問題の解答及び小テストから評価します。出席＝平常点ではないので、授業中の私語・注意散漫・携帯電話使用は厳禁です。欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しません（遅刻 2 回で欠席 1 回とします）。小テスト（書き取りや暗誦を予定）と期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 期末試験（50％）、本文暗誦及び授業への取り組み（50％）により評価します。

LANc100LA	
中国語補講 1 I	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語補講 I	2016 年度以前入学者
千野 明日香	
授業コード：R7255	2017 年度以降入学者
授業コード：E5327	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語初級段階の復習をします。テキストに沿って、発音と初級文法を学びます。読む、書く、聞く、話す力をバランスよく身に付けるようにしたいと思います。

到達目標 中国語で名乗る、物の値段や時間をたずねるなど、基礎的なコミュニケーションができるようになることが目標です。

成績評価の方法と基準 期末試験（50％）、本文暗誦及び授業への取り組み（50％）により評価します。

LANc100LA	
中国語補講 1 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語補講 II	2016 年度以前入学者
千野 明日香	
授業コード：R7256	2017 年度以降入学者
授業コード：E5328	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語初級段階の復習をします。テキストに沿って、発音と初級文法を学びます。読む、書く、聞く、話す力をバランスよく身に付けるようにしたいと思います。

到達目標 中国語で名乗る、物の値段や時間をたずねるなど、基礎的なコミュニケーションができるようになることが目標です。

成績評価の方法と基準 期末試験（50％）、本文暗誦及び授業への取り組み（50％）により評価します。

LANc100LA	
中国語補講 2 I	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語補講 I	2016 年度以前入学者
陳 洲挙	
授業コード：R7259	2017 年度以降入学者
授業コード：E5331	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を身につける。

到達目標 学生は綺麗な発音を身につけ、日常会話ができるように。

成績評価の方法と基準 期末テストを主に（80％）、学習態度や学習意欲（20％）を、総合的に評価する。

LANc100LA	
中国語補講 1 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語補講 II	2016 年度以前入学者
池田 麻希子	
授業コード：R7252	2017 年度以降入学者
授業コード：E5324	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の発音の基礎（ピンイン表記を正しく読み、書くことができる）と文法の基礎をしっかりと身に付けることを目標とします。

到達目標 中国語の基礎を身に付けること。

成績評価の方法と基準 平常点（3～4割）と期末試験（6～7割）の総合評価。

平常点とは、授業中に指名する教科書の音読、訳、練習問題の解答及び小テストから評価します。出席＝平常点ではないので、授業中の私語・注意散漫・携帯電話使用は厳禁です。欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は評価しません（遅刻2回で欠席1回とします）。小テスト（書き取りや暗誦を予定）と期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

LANc100LA	
中国語補講 1 I	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語補講 I	2016 年度以前入学者
千野 明日香	
授業コード：R7253	2017 年度以降入学者
授業コード：E5325	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語初級段階の復習をします。テキストに沿って、発音と初級文法を学びます。読む、書く、聞く、話す力をバランスよく身につけるようにしたいと思います。

到達目標 中国語で名乗る、物の値段や時間をたずねるなど、基礎的なコミュニケーションができるようになることが目標です。

成績評価の方法と基準 期末試験（50％）、本文暗誦及び授業への取り組み（50％）により評価します。

LANc100LA	
中国語補講 1 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語補講 II	2016 年度以前入学者
千野 明日香	
授業コード：R7254	2017 年度以降入学者
授業コード：E5326	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語初級段階の復習をします。テキストに沿って、発音と初級文法を学びます。読む、書く、聞く、話す力をバランスよく身につけるようにしたいと思います。

到達目標 中国語で名乗る、物の値段や時間をたずねるなど、基礎的なコミュニケーションができるようになることが目標です。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANc100LA	
中国語補講 2 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語補講 II	2016 年度以前入学者
陳 洲挙	
授業コード：R7260	2017 年度以降入学者
授業コード：E5332	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎的な会話交流が出来ることを目指す。

到達目標 学生は発音が正しく、流暢に会話できるように。

成績評価の方法と基準 授業中の発音の習熟度や予習の成果を参考にし、平常点 20%、期末テスト 80%を占めて、評価する。

LANc100LA	
中国語補講 2 I	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語補講 I	2016 年度以前入学者
余 瀾	
授業コード：R7261	2017 年度以降入学者
授業コード：E5333	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

到達目標 読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

成績評価の方法と基準 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上は合格となります。配分は補講の受講者に配慮して、出席重視の方針から
毎回行う小テストが 40 点で、
中間テストは 30 点
期末テストが 30 点であります。
欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

LANc100LA	
中国語補講 2 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語補講 II	2016 年度以前入学者
余 瀾	
授業コード：R7262	2017 年度以降入学者
授業コード：E5334	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

到達目標 読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

成績評価の方法と基準 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上は合格となります。配分は補講受講者に配慮し、出席重視の方針から、
毎回授業中に行う小テストが 40 点で、
中間テストは 30 点で、
期末テストが 30 点です。
欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

LANc100LA	
中国語補講 2 I	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語補講 I	2016 年度以前入学者
劉 光赤	
授業コード：R7263	2017 年度以降入学者
授業コード：E5335	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 教科書に沿って、発音の復習と基本的な文法事項や日常会話を学んでいきます。

到達目標 中国語の基礎文法を再確認し、日常的コミュニケーション能力を身に着けることが目標です。

成績評価の方法と基準 期末試験（60 %）、授業参加、小テストや課題完の完成など（40 %）による総合評価です。

LANc100LA	
中国語補講 2 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語補講 II	2016 年度以前入学者
劉 光赤	
授業コード：R7264	2017 年度以降入学者
授業コード：E5336	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 教科書に沿って、発音の復習と基本的な文法事項や日常会話を学んでいきます。

到達目標 中国語の基礎文法を再確認し、日常的コミュニケーション能力を身に着けることが目標です。

成績評価の方法と基準 期末試験（60 %）、授業参加、小テストや課題の完成など（40 %）による総合評価です。

LANc200LA	
中国語補講 3 I	2016 年度以前入学者
青木 正子	
授業コード：E5337	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 2 年生の再履修者向けの授業です。2 年生で学ぶべきことを学びます。

到達目標 テキストの内容を理解すること。
春学期終了時に中国語検定 4 級合格レベルに到達すること。

成績評価の方法と基準 授業内に実施する復習テストの合計点数で評価します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANc200LA	
中国語補講 3 II	2016 年度以前入学者
青木 正子	
授業コード：E5338	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 教科書の内容を理解すること。2 年生で学ぶべきことを学びます。

到達目標 秋学期終了までに中国語検定 3 級合格レベルに到達すること。

成績評価の方法と基準 授業中に行う復習テストの合計点で評価します。

LANc200LA	
中国語補講 3 I	2016 年度以前入学者
沈 小南	
授業コード：E5339	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 理解力の増進。

到達目標 文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

成績評価の方法と基準 期末試験、出席率、授業態度の三つを合わせて、総合評価を出す。

LANc200LA	
中国語補講 3 II	2016 年度以前入学者
沈 小南	
授業コード：E5340	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 理解力の増進。

到達目標 文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

成績評価の方法と基準 期末試験、出席率、授業態度の三つを合わせて、総合評価を出す。

LANc200LA	
中国語補講 3 I	2016 年度以前入学者
沈 小南	
授業コード：E5341	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 理解力の増進。

到達目標 文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

成績評価の方法と基準 期末試験、出席率、授業態度の三つを合わせて、総合評価を出す。

LANc200LA	
中国語補講 3 II	2016 年度以前入学者
沈 小南	
授業コード：E5342	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 理解力の増進。

到達目標 文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

成績評価の方法と基準 期末試験、出席率、授業態度の三つを合わせて、総合評価を出す。

LANs100LA	
スペイン語 1 - I	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 1 - I	2016 年度以前入学者
月野 楓子	
授業コード：R8161	2017 年度以降入学者
授業コード：E6301	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 G-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語の基礎を学ぶ。「スペイン語圏」の文化を知る。

到達目標 スペイン語の初級文法を習得する。発音や平易な文章の読解を通して初歩的な表現方法を学ぶ。また、スペイン語圏の諸地域について興味を持つことができるようにする。

成績評価の方法と基準 平常点 (50%)、小テスト・期末試験 (50%) による総合評価

LANs100LA	
スペイン語 1 - II	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 1 - II	2016 年度以前入学者
月野 楓子	
授業コード：R8162	2017 年度以降入学者
授業コード：E6302	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 G-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語の基礎を学ぶ。「スペイン語圏」の文化を知る。

到達目標 スペイン語の初級文法を習得する。発音や平易な文章の読解を通して初歩的な表現方法を学ぶ。スペイン語圏の諸地域について知る。

成績評価の方法と基準 平常点 (50%)、小テスト・期末テスト (50%) による総合評価

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANs100LA	
スペイン語 1 - I	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 1 - I	2016 年度以前入学者
月野 楓子	
授業コード：R8163	2017 年度以降入学者
授業コード：E6303	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語の基礎を学ぶ。「スペイン語圏」の文化を知る。

到達目標 スペイン語の初級文法を習得する。発音や平易な文章の読解を通して初歩的な表現方法を学ぶ。また、スペイン語圏の諸地域について興味を持つことができるようにする。

成績評価の方法と基準 平常点 (50%)、小テスト・期末試験 (50%) による総合評価

LANs100LA	
スペイン語 1 - II	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 1 - II	2016 年度以前入学者
月野 楓子	
授業コード：R8164	2017 年度以降入学者
授業コード：E6304	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語の基礎を学ぶ。「スペイン語圏」の文化を知る。

到達目標 スペイン語の初級文法を習得する。発音や平易な文章の読解を通して初歩的な表現方法を学ぶ。スペイン語圏の諸地域について知る。

成績評価の方法と基準 平常点 (50%)、小テスト・期末テスト (50%) による総合評価

LANs100LA	
スペイン語 2 - I	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 2 - I	2016 年度以前入学者
松尾 俊輔	
授業コード：R8181	2017 年度以降入学者
授業コード：E6309	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 G-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年間かけて基礎的なスペイン語運用能力を身に付けるとともに、スペイン・ラテンアメリカの豊かな文化と歴史に触れる道を開く。

到達目標 初級文法を各項目ごとにひとつひとつ押さえていきながら、スペイン語世界で通用する実践的なコミュニケーション能力（読む／書く／話す／聞く）の基礎を身に付ける。
春学期の授業では、発音や簡単な挨拶から始め、初歩的な動詞を用いた現在形の単純な文章を作ることができるように目指す。

成績評価の方法と基準 毎回小テストを行い、各項目についての理解度・修得度を測る。この小テストの成績を中心に、授業への参加度と期末試

験の成績を加味して評価を行う。それぞれの内訳は以下の通りである。

平常点： 20 %

小テスト： 60 %

期末試験： 20 %

LANs100LA	
スペイン語 2 - II	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 2 - II	2016 年度以前入学者
松尾 俊輔	
授業コード：R8182	2017 年度以降入学者
授業コード：E6310	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 G-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年間かけて基礎的なスペイン語運用能力を身に付けるとともに、スペイン・ラテンアメリカの豊かな文化と歴史に触れる道を開く。

到達目標 初級文法を各項目ごとにひとつひとつ押さえていきながら、スペイン語世界で通用する実践的なコミュニケーション能力（読む／書く／話す／聞く）の基礎を身に付ける。

秋学期の授業では、諸々の現在形不規則動詞から過去形までの文法事項を学びながら、より複雑な構文に慣れるとともに、実際の生活に即した重要な単語や表現の習得に努める。

成績評価の方法と基準 毎回小テストを行い、各項目についての理解度・修得度を測る。この小テストの成績を中心に、授業への参加度と期末試験の成績を加味して評価を行う。それぞれの内訳は以下の通りである。

平常点： 20 %

小テスト： 60 %

期末試験： 20 %

LANs100LA	
スペイン語 2 - I	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 2 - I	2016 年度以前入学者
松尾 俊輔	
授業コード：R8183	2017 年度以降入学者
授業コード：E6311	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年間かけて基礎的なスペイン語運用能力を身に付けるとともに、スペイン・ラテンアメリカの豊かな文化と歴史に触れる道を開く。

到達目標 初級文法を各項目ごとにひとつひとつ押さえていきながら、スペイン語世界で通用する実践的なコミュニケーション能力（読む／書く／話す／聞く）の基礎を身に付ける。

春学期の授業では、発音や簡単な挨拶から始め、初歩的な動詞を用いた現在形の単純な文章を作ることができるように目指す。

成績評価の方法と基準 毎回小テストを行い、各項目についての理解度・修得度を測る。この小テストの成績を中心に、授業への参加度と期末試験の成績を加味して評価を行う。それぞれの内訳は以下の通りである。

平常点： 20 %

小テスト： 60 %

期末試験： 20 %

LANs100LA	
スペイン語2-II	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語2-II	2016 年度以前入学者
松尾 俊輔	
授業コード：R8184	2017 年度以降入学者
授業コード：E6312	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1年間かけて基礎的なスペイン語運用能力を身に付けるとともに、スペイン・ラテンアメリカの豊かな文化と歴史に触れる道を開く。

到達目標 初級文法を各項目ごとにひとつひとつ押さえていきながら、スペイン語世界で通用する実践的なコミュニケーション能力（読む／書く／話す／聞く）の基礎を身に付ける。
秋学期の授業では、諸々の現在形不規則動詞から過去形までの文法事項を学びながら、より複雑な構文に慣れるとともに、実際の生活に即した重要な単語や表現の習得に努める。

成績評価の方法と基準 毎回小テストを行い、各項目についての理解度・修得度を測る。この小テストの成績を中心に、授業への参加度と期末試験の成績を加味して評価を行う。それぞれの内訳は以下の通りである。
平常点：20 %
小テスト：60 %
期末試験：20 %

LANs200LA	
スペイン語3-I	2017 年度以降入学者
LANs200LA	
スペイン語3-I	2016 年度以前入学者
日高 憲三	
授業コード：R8291	2017 年度以降入学者
授業コード：E6317	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年 G-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスではスペイン語の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

到達目標 スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

成績評価の方法と基準 期末試験100%

LANs200LA	
スペイン語3-II	2017 年度以降入学者
LANs200LA	
スペイン語3-II	2016 年度以前入学者
日高 憲三	
授業コード：R8292	2017 年度以降入学者
授業コード：E6318	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年 G-L 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスでは、スペイン語の初歩を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

到達目標 スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

成績評価の方法と基準 期末試験100%

LANs200LA	
スペイン語3-I	2017 年度以降入学者
LANs200LA	
スペイン語3-I	2016 年度以前入学者
長谷川 悦夫	
授業コード：R8293	2017 年度以降入学者
授業コード：E6319	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級文法で得た知識をより確固としたものにする目的で、再度学習を行う。聴き取り、読解、作文など、実用的なスペイン語を運用する能力を習得することを目指す。

到達目標 1年次の初級文法での未習の分野を学習する。その上で、1年次に既習の分野もふくめて、この授業で、発展的な文法事項をあらたに学習する。それによって、作文や会話でさらに幅広い表現ができるようになる。くわえて、DELE、A3 レベルの文法・語彙の試験で70%以上得点できる実力を身につける。聴き取り能力の向上も目指す。

成績評価の方法と基準 授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50 %とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が5回に達すると、単位認定資格を失う。

LANs200LA	
スペイン語3-II	2017 年度以降入学者
LANs200LA	
スペイン語3-II	2016 年度以前入学者
長谷川 悦夫	
授業コード：R8294	2017 年度以降入学者
授業コード：E6320	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年 A-F 組	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級文法で得た知識の復習に加えて、接続法を重点的に学ぶ。初級よりも、より複雑な内容の読解、聞き取り、

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

作文など、実用的なスペイン語を運用する能力を習得することを目指す。

到達目標 この授業で、接続法をはじめ、発展的な文法事項をあらたに学習することによって、作文や会話でさらに幅広い表現ができるようになる。くわえて、DELE、B2 レベルの文法・語彙の試験で 70%以上得点できる実力を身につける。聴き取り能力の向上も目指す。

成績評価の方法と基準 授業への参加を 20%、期末試験の得点を 80%とし、総合的に評価する。

LANs200LA	
スペイン語コミュニケーションⅠ	2017 年度以降入学者
LANs200LA	
スペイン語コミュニケーションⅠ	2016 年度以前入学者
瓜谷 アウロラ	
授業コード：R8301	2017 年度以降入学者
授業コード：E6101	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎的な表現、文法、語彙を学ぶ。説明、練習で学習内容を理解した上で、様々なアクティビティを通して、理解した内容をクラス内で実際に使ってみることににより定着を図る。

到達目標 文法の復習をしながら口頭表現力の育成をめざし、より高度な文法・表現の知識を身につける。

成績評価の方法と基準 平常点及び期末試験から判断する。
期末試験:70 %
平常点評価:30 % 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではない。
この授業では出席も非常に重視する。欠席と遅刻は減点の対象となるので注意すること。

LANs200LA	
スペイン語コミュニケーションⅡ	2017 年度以降入学者
LANs200LA	
スペイン語コミュニケーションⅡ	2016 年度以前入学者
瓜谷 アウロラ	
授業コード：R8302	2017 年度以降入学者
授業コード：E6102	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎的な表現、文法、語彙を学ぶ。説明、練習で学習内容を理解した上で、様々なアクティビティを通して、理解した内容をクラス内で実際に使ってみることににより定着を図る。

到達目標 文法の復習をしながら口頭表現力の育成をめざし、より高度な文法・表現の知識を身につける。

成績評価の方法と基準 平常点及び期末試験から判断する。
期末試験:70 %
平常点評価:30 % 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではない。
この授業では出席も非常に重視する。欠席と遅刻は減点の対象となるので注意すること。

LANs200LA	
時事スペイン語Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANs200LA	
時事スペイン語Ⅰ	2016 年度以前入学者
佐々木 直美	
授業コード：R8303	2017 年度以降入学者
授業コード：E6103	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 今年度は「スペイン語圏の世界遺産」をテーマにテキスト講読の練習を行う。
テーマに関するテキスト講読を通じて、スペイン語圏の世界遺産とその背景にある歴史や現在の社会状況を学ぶ。
また、初級文法の復習と応用を長文読解によって繰り返すことで、スペイン語力のさらなる向上を目的とする。

到達目標 授業で使用するテキストであれば、辞書を使用して正しく読み理解することができることを目標とする。また、スペイン語圏の世界遺産について知識を広め、その魅力をスペイン語で発信することができるようになること。

成績評価の方法と基準 期末試験と平常点を総合して評価する。配分は授業内でのプレゼンテーション 40%、期末試験 60%とする。授業に4回以上欠席した場合は成績評価「不可」とする。

LANs200LA	
時事スペイン語Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANs200LA	
時事スペイン語Ⅱ	2016 年度以前入学者
佐々木 直美	
授業コード：R8304	2017 年度以降入学者
授業コード：E6104	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 広くスペイン語圏の話題をテーマにテキスト講読の練習を行う。
テーマに関するテキスト講読を通じて、スペイン語圏の歴史と文化を学ぶ。また、初級文法の復習と応用を長文読解によって繰り返すことで、スペイン語力のさらなる向上を目的とする。

到達目標 授業で使用するテキストであれば、辞書を使用して正しく読み理解することができることを目標とする。また、スペイン語圏の歴史や文化について知識と理解を深め、その魅力をスペイン語で発信することができるようになること。
初級文法の学習を一通り理解した学生を対象とする。

成績評価の方法と基準 期末試験と平常点を総合して評価する。配分は授業内でのプレゼンテーション 40%、期末試験 60%とする。授業に4回以上欠席した場合は成績評価「不可」とする。

LANs200LA	
スペイン語購読Ⅰ	2016 年度以前入学者
大西 亮	
授業コード：E6105	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 法文営国環キ2年～	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。スペイン語初級の授業をすでに受講したこ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

とのある学生が対象となる。

到達目標 新聞記事や小説など、さまざまなジャンルのスペイン語の文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

成績評価の方法と基準 平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

LANs200LA	
スペイン語購読Ⅱ	2016 年度以前入学者
大西 亮	
授業コード：E6106 開講時期：秋学期	2016 年度以前入学者
※定員制 法文営国環キ 2 年～	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期にひきつづき、初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。スペイン語初級の授業をすでに受講したことのある学生が対象となる。

到達目標 春学期にひきつづき、新聞記事や小説など、さまざまなジャンルのスペイン語の文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

成績評価の方法と基準 平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

LANs100LA	
スペイン語補講 1Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語補講 1・2Ⅰ	2016 年度以前入学者
佐々木 直美	
授業コード：R8307 授業コード：E6099 開講時期：春学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語の発音やアクセントに慣れる。初級文法を習得する。また、言語の背景にあるもの、特に世界遺産を通して歴史や文化、社会事情を学ぶ。

到達目標 春学期終了時には、簡単な会話ができるようになることを目指す。また直説法現在形の動詞を用いた文章の読解、および作文ができるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験と平常点を総合して評価する。配分は授業内でのプレゼンテーション 40%、期末試験 60%とする。授業に 4 回以上欠席した場合は成績評価「不可」とする。

LANs100LA	
スペイン語補講 1Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語補講 1・2Ⅱ	2016 年度以前入学者
佐々木 直美	
授業コード：R8308 授業コード：E6100 開講時期：秋学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語の初級文法を学び、日常生活におけるスペイン語でのコミュニケーションができるようになることを目的とする。

また、映像資料を交えながらスペイン語圏の文化について理解を深める。

到達目標 ①直説法現在の規則動詞・不規則動詞が適切に活用できるようになる。

②点過去・線過去を使って、文章の読み書きができるようになる。

③比較の文章を作文できるようになる。

④スペイン語圏の話題について、スペイン語を使って自分の意見や感想を述べることができるようになる。

成績評価の方法と基準 授業内のプレゼンテーションを平常点 40 %とし、期末試験 60 %と合わせて総合的に評価する。授業に 4 回以上欠席した場合は、成績評価「不可」とする。

LANs100LA	
スペイン語補講 1Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語補講 1・2Ⅰ	2016 年度以前入学者
若林 大我	
授業コード：R8309 授業コード：E6133 開講時期：春学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎的なスペイン語文法を復習しつつ、読解の力を身につける。

到達目標 受講生は春学期終了時まで、単純な現在形による文を理解し、また作文できるようになる。

成績評価の方法と基準 学期中間で 1 度小テストを行う。平常点を 30%、学期中間での小テスト結果を 30%、学期末試験結果を 40%として総合評価する。このうち平常点については、ただ授業に出ることだけでなく、受講態度や口頭練習・質疑応答への参加の積極性も勘案する。平常点の評価方法について、詳しくは初回授業のイントロダクション時に説明するので、必ず出席すること。

LANs100LA	
スペイン語補講 1Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語補講 1・2Ⅱ	2016 年度以前入学者
若林 大我	
授業コード：R8310 授業コード：E6134 開講時期：秋学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎的なスペイン語文法を復習しつつ、読解の力を身につける。

到達目標 受講生は秋学期終了時まで、過去形による文を理解し、また作文できるようになる。

成績評価の方法と基準 学期中間で 1 度小テストを行う。平常点を 30%、学期中間での小テスト結果を 30%、学期末試験結果を 40%として総合評価する。このうち平常点については、ただ授業に出ることだけでなく、受講態度や口頭練習・質疑応答への参加の積極性も勘案する。平常点の評価方法について、詳しくは初回授業のイントロダクション時に説明するので、必ず出席すること。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANs100LA	
スペイン語補講 2 I	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語補講 1・2 I	2016 年度以前入学者
長谷川 悦夫	
授業コード：R8311	2017 年度以降入学者
授業コード：E6097	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をもう一度最初から学んでいく。

到達目標 ①綴りを見て単語を発音することができる。②人の職業や国籍・出身地について述べるができる。③特定のものや人の所在について述べるができる。④人やものの性格・性質や状態について述べるができる。⑤直説法現在形の動詞の活用から不定詞を推測し、辞書を引くことができる。⑥ *querer, poder* などの動詞の用法を理解し、欲求、願望、可能、許可などについての表現ができる。⑦スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

成績評価の方法と基準 授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50 % とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

LANs100LA	
スペイン語補講 2 II	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語補講 1・2 II	2016 年度以前入学者
長谷川 悦夫	
授業コード：R8312	2017 年度以降入学者
授業コード：E6098	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をもう一度最初から学んでいく。

到達目標 ①過去形、現在完了形の用法を理解し、過去の行為、動作、状況について述べるができる。②再帰動詞の用法を理解し、日常生活について話すことができる。③ *gustar* 型動詞の用法を理解し、嗜好について述べることができる。④人やものの性格・性質や状態について述べるができる。⑤日付・曜日の表現ができる。⑥スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

成績評価の方法と基準 授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50 % とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

LANs100LA	
スペイン語補講 2 I	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語補講 1・2 I	2016 年度以前入学者
大西 亮	
授業コード：R8313	2017 年度以降入学者
授業コード：E6131	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、スペイン語初級の再履修

者を対象とする授業である。スペイン語の基本文法を学び、確実に理解することを目的とする。再履修だからといって内容が易しいということはない。とことん文法にこだわるので、それなりの覚悟が必要である。

到達目標 スペイン語の基礎となる正確な文法知識の習得をめざす。春学期を通じて「再帰動詞」までの学習を終えることを目標とする。

成績評価の方法と基準 平常点 (30%)、小テスト (20 %)、期末試験 (50 %) を総合的に勘案して評価する。

LANs100LA	
スペイン語補講 2 II	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語補講 1・2 II	2016 年度以前入学者
田澤 耕	
授業コード：R8314	2017 年度以降入学者
授業コード：E6132	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前期の補講 I の続きである。目標及びテーマは、スペイン語初級文法の習得。スペイン語の世界に親しむ。

到達目標 前年度までに修得できなかったスペイン語の基礎知識を習得する。

成績評価の方法と基準 期末試験と平常点を総合的に評価する。出席重視。

LANs200LA	
スペイン語補講 3 I	2016 年度以前入学者
大貫 良史	
授業コード：E6135	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語の初級文法を復習しながら、中級レベルの文法へのステップアップを目指し、構文などの応用的な表現を学んでいく

到達目標 初級から一歩進んだ文法を習得し、読み書きのレベルを高めていく。また語学だけでなく、スペイン語圏諸国の歴史、文化などの理解も深めていく。

成績評価の方法と基準 出席と授業への参加 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価する

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある

反対に、授業中の消極的態度は減点の対象とすることがある

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす

LANs200LA	
スペイン語補講 3 II	2016 年度以前入学者
大貫 良史	
授業コード：E6136	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語の初級文法を復習しながら、中級レベルの文法へのステップアップを目指し、構文などの応用的な表現を学んでいく。

到達目標 初級から一歩進んだ文法を習得し、読み書きのレベルを高めていく。また語学だけでなく、スペイン語圏諸国の歴史、文化などの理解も深めていく。

成績評価の方法と基準 出席と授業への参加 40%、試験 60%を基本と

し、総合的に評価する
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある
反対に、授業中の消極的態度は減点の対象とすることがある
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす

LANs200LA	
スペイン語4-I（重点）	2016年度以前入学者
オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス	
授業コード：F6301	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜2016年度以前入学生＞法文営環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では初級スペイン語を終了した学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを通してスペイン語でコミュニケーションすることを学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指す。

到達目標 スペイン語での日常会話ができるようになる。また、辞書を使用しながら、少し長めのテキストを読解できることを目標とする。

成績評価の方法と基準 授業内での口頭試験40%
小テスト30%
期末試験の結果30%
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

LANs200LA	
スペイン語4-II（重点）	2016年度以前入学者
オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス	
授業コード：F6302	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜2016年度以前入学生＞法文営環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では初級スペイン語を終了した学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを通してスペイン語でコミュニケーションすることを学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指す。

到達目標 自分の住環境、学習環境、労働環境について、評価または願望などをスペイン語で述べるができるようになります。

成績評価の方法と基準 授業内での口頭試験40%
小テスト30%
期末試験の結果30%
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

LANs200LA	
スペイン語4-I（重点）	2016年度以前入学者
オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス	
授業コード：F6303	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜2016年度以前入学生＞法文営環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では初級スペイン語を終了した学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを通してスペイン語でコミュニケーションすることを学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指す。

到達目標 スペイン語での日常会話ができるようになる。また、辞書を使用しながら、少し長めのテキストを読解できることを目標とする。

成績評価の方法と基準 授業内での口頭試験40%
小テスト30%
期末試験の結果30%
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命

的となる。原則として遅刻は認めない。

LANs200LA	
スペイン語4-II（重点）	2016年度以前入学者
オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス	
授業コード：F6304	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜2016年度以前入学生＞法文営環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では初級スペイン語を終了した学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを通してスペイン語でコミュニケーションすることを学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指す。

到達目標 自分の住環境、学習環境、労働環境について、評価または願望などをスペイン語で述べるができるようになります。

成績評価の方法と基準 授業内での口頭試験40%
小テスト30%
期末試験の結果30%
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

LANs200LA	
スペイン語4-I（重点）	2016年度以前入学者
長谷川 悦夫	
授業コード：F6305	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜2016年度以前入学生＞法文営環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級文法で得た知識をより確固としたものにする目的で、文法事項の学習を再度行う。長文テキストに取り組みながら、実用的なスペイン語運用能力（読解、表現）を習得することを目指す。

到達目標 長文テキストの読解を通して、語彙力が身につく。それによって、作文や会話でもさらに幅広い表現ができるようになる。くわえて、DELE、B1レベルの読解の試験で70%以上得点できる実力が身につく。スペインの歴史についての知識を得る。

成績評価の方法と基準 授業への参加を20%、期末試験の得点を80%とし、総合的に評価する。

LANs200LA	
スペイン語4-II（重点）	2016年度以前入学者
長谷川 悦夫	
授業コード：F6306	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜2016年度以前入学生＞法文営環2年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級文法で得た知識をより確固としたものにする目的で、文法事項の学習を再度行う。長文テキストに取り組みながら、実用的なスペイン語運用能力（読解、表現）を習得することを目指す。

到達目標 長文テキストの読解を通して、語彙力が身につく。それによって、作文や会話でもさらに幅広い表現ができるようになる。くわえて、DELE、B1レベルの読解の試験で70%以上得点できる実力が身につく。スペインの歴史についての知識を得る。

成績評価の方法と基準 授業への参加を20%、期末試験の得点を80%とし、総合的に評価する

LANk100LA	
朝鮮語 1 - I	2017 年度以降入学者
LANk100LA	
朝鮮語 1 - I	2016 年度以前入学者
黒澤 朋子	
授業コード：R9061	2017 年度以降入学者
授業コード：E7201	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

到達目標 文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

成績評価の方法と基準 「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

LANk100LA	
朝鮮語 1 - II	2017 年度以降入学者
LANk100LA	
朝鮮語 1 - II	2016 年度以前入学者
黒澤 朋子	
授業コード：R9062	2017 年度以降入学者
授業コード：E7202	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

成績評価の方法と基準 「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

LANk100LA	
朝鮮語 2 - I	2017 年度以降入学者
LANk100LA	
朝鮮語 2 - I	2016 年度以前入学者
富所 明秀	
授業コード：R9071	2017 年度以降入学者
授業コード：E7205	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 1 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

到達目標 文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

成績評価の方法と基準 「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

LANk100LA	
朝鮮語 2 - II	2017 年度以降入学者
LANk100LA	
朝鮮語 2 - II	2016 年度以前入学者
富所 明秀	
授業コード：R9072	2017 年度以降入学者
授業コード：E7206	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 1 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

成績評価の方法と基準 「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANk200LA	
朝鮮語 3-I	2017 年度以降入学者
LANk200LA	
朝鮮語 3-I	2016 年度以前入学者
新谷 あゆり	
授業コード：R9271	2017 年度以降入学者
授業コード：E7209	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級後半から中級の語彙・文型を学び、話し・読み・聞き・書けるようにする。
学生の様子を見て内容を適宜変更する。

到達目標 **native speaker**（韓国人留学生・中国人朝鮮族など）と簡単な会話ができるようになる。
語彙・文型の知識の増強。
正しい発音ができるようになる。

成績評価の方法と基準 テスト 50 %、課題 25 %、平常点 25 %
欠席 4 回、あるいは遅刻 4 回以上は落第

LANk200LA	
朝鮮語 3-II	2017 年度以降入学者
LANk200LA	
朝鮮語 3-II	2016 年度以前入学者
新谷 あゆり	
授業コード：R9272	2017 年度以降入学者
授業コード：E7210	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級後半から中級の語彙・文型を学び、話し・読み・聞き・書けるようにする。
学生の様子を見て内容を適宜変更する。

到達目標 **native speaker**（韓国人留学生・中国朝鮮族留学生など）と簡単な会話ができるようになる。
語彙・文型の知識の増強。
正しい発音ができるようになる。
辞書を引きながらまとまった文章を読めるようになる。

成績評価の方法と基準 テスト 50 %、課題 25 %、平常点 25 %
欠席 4 回、あるいは遅刻 4 回以上は落第

LANk200LA	
朝鮮語 3-I（重点）	2016 年度以前入学者
富所 明秀	
授業コード：F7101	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

LANk200LA	
朝鮮語 3-II（重点）	2016 年度以前入学者
富所 明秀	
授業コード：F7102	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

LANk200LA	
朝鮮語 3-I（重点）	2016 年度以前入学者
富所 明秀	
授業コード：F7103	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

LANk200LA	
朝鮮語 3-II（重点）	2016 年度以前入学者
富所 明秀	
授業コード：F7104	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

LANk200LA	
朝鮮語 3-I（重点）	2016 年度以前入学者
富所 明秀	
授業コード：F7111	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

LANK200LA	
朝鮮語 3－Ⅱ（重点）	2016 年度以前入学者
富所 明秀	
授業コード：F7112	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

LANK200LA	
朝鮮語 4－Ⅰ（重点）	2016 年度以前入学者
梁 禮先	
授業コード：F7105	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

LANK200LA	
朝鮮語 4－Ⅱ（重点）	2016 年度以前入学者
梁 禮先	
授業コード：F7106	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

LANK200LA	
朝鮮語 4－Ⅰ（重点）	2016 年度以前入学者
梁 禮先	
授業コード：F7107	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、

自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

LANK200LA	
朝鮮語 4－Ⅱ（重点）	2016 年度以前入学者
梁 禮先	
授業コード：F7108	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

LANK200LA	
朝鮮語 4－Ⅰ（重点）	2016 年度以前入学者
梁 禮先	
授業コード：F7109	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

LANK200LA	
朝鮮語 4－Ⅱ（重点）	2016 年度以前入学者
梁 禮先	
授業コード：F7110	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 平常点（積極性、課題）50 %、テスト 50 %
3 回欠席あるいは遅刻の場合、落第。

LANk200LA	
朝鮮語 4 B- II （視聴覚）	2017 年度以降入学者
LANk200LA	
朝鮮語視聴覚 II	2016 年度以前入学者
新谷 あゆり	
授業コード：F7223 授業コード：E7066 開講時期：秋学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
人間環境・キャリアデザイン学部 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ささまざまな映像・音声を通じ、聞く能力・読む能力を向上させる。語彙・文型・表現の知識を増強する。韓国人留学生との会話も行いう予定。一定の能力のある学生を対象とします。

到達目標 1 韓国のドラマ・歌・ニュース・スピーチなどの聞き取りを通し、音から理解することに慣れる。
2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現を学ぶ。
3 発音練習・音読を行うことで自然で美しい発音をめざす。
学生の数・レベル・ニーズを見てドラマを適宜変更する。
候補：華麗なる遺産、二度目の二十歳、キルミーヒルミー

成績評価の方法と基準 平常点（積極性、課題）50 %、テスト 50 %
3 回欠席あるいは遅刻の場合、落第。

LANk200LA	
朝鮮語購読 I	2016 年度以前入学者
高橋 梓	
授業コード：E7063 開講時期：春学期	2016 年度以前入学者
※定員制 法文営国環キ 2 年～	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、朝鮮語の基礎的な内容の学習を終えた学生を対象に、絵本、新聞や雑誌のコラム、エッセイなどのまとまった文章を正確に読解する練習を行う。春学期の前半の授業（4～5月）では、絵本やコラムなどの短い文章を読みながら、書き言葉の文章に慣れてもらう。後半の授業（5～7月）では、少し長い文章としてエッセイの読解に挑戦する。具体的には、韓国の市場や学校など、さまざまな場所を定点観測した韓国・KBS のドキュメンタリー番組「ドキュメンタリー 3 日」の書籍版『愛すれば見える』（2017 年）のエッセイを読んでいく。授業で扱うテキストの内容をとおして、韓国社会や文化についても幅広い知識を身につけることを目指す。

到達目標 ・書き言葉の表現に慣れる。
・さまざまな文章の読解をとおして、朝鮮語の語彙をさらに増やす。
・授業で扱うテキストの内容について議論しながら、韓国の現在の社会問題や韓国文化についての理解を深める。

成績評価の方法と基準 試験は行わず、授業への積極的な参加と取り組みを総合的に評価する。

LANk200LA	
朝鮮語購読 II	2016 年度以前入学者
高橋 梓	
授業コード：E7064 開講時期：秋学期	2016 年度以前入学者
※定員制 法文営国環キ 2 年～	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、朝鮮語の基礎的な内容の学習を終えた学生を対象に、絵本、新聞や雑誌のコラム、エッセイな

LANk200LA	
朝鮮語 3C- I （コミュニケーション）	2017 年度以降入学者
LANk200LA	
朝鮮語コミュニケーション I	2016 年度以前入学者
梁 禮先	
授業コード：F7220 授業コード：E7061 開講時期：春学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
人間環境・キャリアデザイン学部 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年次で学んだ朝鮮語の基礎の定着を図りつつ、それを活用して会話に導いていきます。また、発音にも力をいれて、きれいな発音で自信を持って会話ができるように反復します。

到達目標 身近な会話ができることが到達目標であります。

成績評価の方法と基準 平常点・小テスト・課題など 30%、期末試験 70%

LANk200LA	
朝鮮語 3C- II （コミュニケーション）	2017 年度以降入学者
LANk200LA	
朝鮮語コミュニケーション II	2016 年度以前入学者
梁 禮先	
授業コード：F7221 授業コード：E7062 開講時期：秋学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
人間環境・キャリアデザイン学部 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に続き、前期の学習内容を利用し、実践的な練習を繰り返すことで朝鮮語を確実に身に付けることを目標にします。朝鮮語の基礎会話をもっと自信を持って話すことができます。

到達目標 朝鮮語初級と春学期の学習を定着しつつ、日常の会話を身に付けることであります。

成績評価の方法と基準 平常点・小テスト・課題など 30%、期末試験 70%

LANk200LA	
朝鮮語 4 B- I （視聴覚）	2017 年度以降入学者
LANk200LA	
朝鮮語視聴覚 I	2016 年度以前入学者
新谷 あゆり	
授業コード：F7222 授業コード：E7065 開講時期：春学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
人間環境・キャリアデザイン学部 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ささまざまな映像・音声を通じ、聞く能力・読む能力を向上させる。語彙・文型・表現の知識を増強する。韓国人留学生との会話も行いう予定。一定の能力のある学生を対象とします。

到達目標 1 韓国の小説・ドラマ・歌・スピーチ・アナウンスなどの聞き取りを通し、音から朝鮮語を理解することに慣れる。
2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現を学ぶ。
3 発音練習・暗唱を行うことで自然で美しい発音をめざす。
学生の数・レベル・ニーズを見て小説・ドラマを適宜変更する。
候補：シークレットガーデン、二度目の二十歳、キルミーヒルミー

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

どのまとまった文章を正確に読解する練習を行う。秋学期の最初の数回の授業（9～10月）では、絵本やコラムなどの短い文章を読みながら、書き言葉の文章の読解の練習を行う。10月以降は、少し長い文章としてエッセイの読解に取り組む。秋学期も春学期と同様に、韓国のさまざまな場所を定点観測した韓国・KBSのドキュメンタリー番組「ドキュメンタリー3日」の書籍版『愛すれば見える』（2017年）のエッセイを読んでいく。また、秋学期では、受講する学生の関心事・レベルによって、さらに長い文章（韓国音楽・韓国映画に関連したインタビュー記事、短篇小説）にも挑戦したいと考えている。授業で扱うテキストの内容をとおして、韓国社会や文化についても幅広い知識を身につけることを目指す。

- 到達目標**
- ・書き言葉の表現に慣れる。
 - ・さまざまな文章の読解をとおして、朝鮮語の語彙をさらに増やす。
 - ・授業で扱うテキストの内容について議論しながら、韓国の現在の社会問題や韓国文化についての理解を深める。

成績評価の方法と基準 試験は行わず、授業への積極的な参加と取り組みを総合的に評価する。

LANk200LA	
朝鮮語表現法Ⅰ	2016年度以前入学者
神谷 丹路	
授業コード：E7067 開講時期：春学期	2016年度以前入学者
※定員制 法文営国環キ3年～	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話がスムーズにできるように練習をする。朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読みながら、伝統文化についての理解も深める。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。中級レベル向けの授業である。

到達目標 実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的な理解も深めていく。

成績評価の方法と基準 平常点 50 %、プレゼンテーション 50 %

LANk200LA	
朝鮮語表現法Ⅱ	2016年度以前入学者
神谷 丹路	
授業コード：E7068 開講時期：秋学期	2016年度以前入学者
※定員制 法文営国環キ3年～	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話がスムーズにできるように練習をする。朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読みながら、伝統文化についての理解も深める。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。中級レベル向けの授業である。

到達目標 実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的な理解も深めていく。

成績評価の方法と基準 平常点 50 %、プレゼンテーション 50 %

LANj100LA	
日本語1ーⅠ	2017年度以降入学者
LANj100LA	
日本語1ーⅠ	2016年度以前入学者
板井 美佐	
授業コード：F8059 授業コード：E8005 開講時期：春学期	2017年度以降入学者 2016年度以前入学者
経営学部、人間環境学部1年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生が大学の講義や口頭発表を聞くために必要な日本語の聴解能力を養成する。

学生は、ある程度の長さのスク립トを聴き、ポイントをつかみ、メモを作成する。教材のQ&A、穴埋めなどを行い、情報の中で重要な部分を聞き取る訓練を行った後で、要約文を書く。

- 到達目標**
1. 学生は、講義や発表の概要をつかめるようになる。
 2. 学生は、ノートテイキングができるようになる。
 3. 学生は、聞いたことの要約ができるようになる。

成績評価の方法と基準 平常点：授業への積極的取り組みなど（30%）
課題：ノートテイキング、穴埋め、Q&A、要約など（50%）
期末試験（20%）

※4回以上欠席した場合は、原則として単位は出さない。

※課題の未提出が多い場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

LANj100LA	
日本語1ーⅡ	2017年度以降入学者
LANj100LA	
日本語1ーⅡ	2016年度以前入学者
板井 美佐	
授業コード：F8060 授業コード：E8006 開講時期：秋学期	2017年度以降入学者 2016年度以前入学者
経営学部、人間環境学部1年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学の講義やゼミの受講に必要な日本語の聴解・読解能力を養成する。

学生は、ある程度の長さのニュース番組などを聴き、ポイントをつかみ、メモを作成する。教材のQ&A、穴埋めなどを行い、情報の中で重要な部分を聞き取る訓練を行う。聞き取り練習で扱ったトピックに関する読み物を読み、読みのスキルも同時に養成する。

- 到達目標**
1. 学生は、講義やゼミの受講に必要な聴解・読解力がつく。
 2. 学生は、ノートテイキングができるようになる。
 3. 学生は、理解した内容について自分の意見を発表できるようにする。

成績評価の方法と基準 平常点：授業への積極的取り組みなど（30%）
課題：ノートテイキング、穴埋め、Q&A、要約など（50%）
期末試験（20%）

※4回以上欠席した場合は、原則として単位は出さない。

※課題の未提出が多い場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

期末試験（30％：読み+漢字 15％/読解試験 15％）

※4回以上欠席した場合は、原則として単位は出さない。

※課題の未提出が多い場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

LANj100LA	
日本語2－Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANj100LA	
日本語2－Ⅰ	2016 年度以前入学者
山本 そのこ	
授業コード：F8065	2017 年度以降入学者
授業コード：E8011	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
経営学部, 人間環境学部 1 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学の学部レポート作成に必要な作文技能を習得する。

対象は日本語を母語としない学部1年の学生を基本とする。

到達目標 アカデミック・ライティングの基礎となる語彙、表現の知識を持ち、必要に応じてこれが使え。各学科のレポート作成にあたり、レポート文の構成や論理展開、資料の扱いなど、必要な基礎的知識もつ。

成績評価の方法と基準 提出物：40％ 小テスト：30％ 平常点：30％

★欠席4回以上で履修資格を失うので注意すること。

★遅刻（授業開始後20分まで）3回で欠席1回として扱う。

LANj100LA	
日本語2－Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANj100LA	
日本語2－Ⅱ	2016 年度以前入学者
山本 そのこ	
授業コード：F8066	2017 年度以降入学者
授業コード：E8012	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
経営学部, 人間環境学部 1 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語を母語としない、学部1年生の日本語作文。

様々な実用的なテーマに沿って、簡潔かつ適切な文の書き方を身につける。

到達目標 日本語での文章作成が必要とされる様々な場面に対応して簡潔かつ適切な文章表現ができるようにする。

成績評価の方法と基準 提出物：60％ 平常点：40％

LANj200LA	
日本語3－Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANj200LA	
日本語3－Ⅰ	2016 年度以前入学者
板井 美佐	
授業コード：F8071	2017 年度以降入学者
授業コード：E8017	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
経営学部, 人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） アカデミックスキルのうち、上級レベルの読解の力を深めるための授業で、学生は「速読」練習を中心に行う。

到達目標 1. 学生は、まとまった長さの文章が速く正確に読める。
2. 学生は、読んで理解したことをポイントを押さえてまとめられる。
3. 学生は、読んだ文章の内容をもとに自分の意見を発表・討論できる。

成績評価の方法と基準 平常点：授業への取り組み、小テスト（30％）課題・タスクシート・発表（40％）

LANj200LA	
日本語3－Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANj200LA	
日本語3－Ⅱ	2016 年度以前入学者
板井 美佐	
授業コード：F8072	2017 年度以降入学者
授業コード：E8018	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） アカデミックスキルのうち、上級レベルの読解の力を深めるための授業で、学生は「速読」練習を中心に行う。

到達目標 1. 学生は、まとまった長さの文章が速く正確に読める。
2. 学生は、読んで理解したことをポイントを押さえてまとめられる。
3. 学生は、読んだ文章の内容をもとに自分の意見を発表・討論できる。

成績評価の方法と基準 平常点：授業への取り組み、小テスト（30％）課題・タスクシート・発表（40％）

期末試験（30％：読み+漢字 15％/読解試験 15％）

※4回以上欠席した場合は、原則として単位は出さない。

※課題の未提出が多い場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

LANj200LA	
日本語4－Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANj200LA	
日本語4－Ⅰ	2016 年度以前入学者
尾形 太郎	
授業コード：F8077	2017 年度以降入学者
授業コード：E8023	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） テキストを緻密に読む技術、および、読むことを通して理解したことを簡潔に口頭で説明する技術を高める。また、読解内容に関して自らの考えを述べる。

到達目標 (1) テキストを緻密に読む技術を身につける
(2) 読解を通して理解したことの概要を口頭で説明する
(3) 読解を通して理解したことについて、自らの意見を述べる

成績評価の方法と基準 平常点 50％、試験 50％

LANj200LA	
日本語4－Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANj200LA	
日本語4－Ⅱ	2016 年度以前入学者
尾形 太郎	
授業コード：F8078	2017 年度以降入学者
授業コード：E8024	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
人間環境学部 2 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） テキストを緻密に読む技術、および、読むことを通して理解したことを簡潔に口頭で説明する技術を高める。ま

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

た、読解内容に関して自らの考えを述べる。

- 到達目標** (1) テキストを緻密に読む技術を身につける
(2) 読解を通して理解したことの概要を口頭で説明する
(3) 読解を通して理解したことについて、自らの意見を述べる

成績評価の方法と基準 平常点 50 %、レポート 50 %

HSS100LA	
スポーツ総合演習/スポーツ総合演習S	2017 年度以降入学者
HSS100LA	
スポーツ総合演習	2016 年度以前入学者
各担当者	
授業コード：各授業による	2017 年度以降入学者
授業コード：各授業による	2016 年度以前入学者
開講時期：	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

到達目標 ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

成績評価の方法と基準 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

HSS200LA	
健康の科学 L A	2017 年度以降入学者
HSS100LA	
健康の科学 I	2016 年度以前入学者
清野 諭	
授業コード：Q5451	2017 年度以降入学者
授業コード：P0501	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年生＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「健康の科学 LA」では、総論と「青年期、壮年期、中年期の健康づくり」を主要テーマとして学習する。本授業を通して、健康管理に関する基本的な知識を習得し、身近な健康課題について考える。

到達目標 1. 青年期～中年期に生じる健康問題とその基本的な予防・対処法について理解する。
2. 学習したことを自身や家族の健康づくりに役立てる。

成績評価の方法と基準 授業ごとのリアクションペーパー（授業への参加・取り組み・理解度：50%）、レポート課題（50%）

HSS200LA	
健康の科学 L B	2017 年度以降入学者
HSS100LA	
健康の科学 II	2016 年度以前入学者
清野 諭	
授業コード：Q5452	2017 年度以降入学者
授業コード：P0502	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年生＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「健康の科学 LB」では、「健康の科学 LA」で学習した内容に続いて、「高齢期の健康づくり」を主要テーマとして学習する。特に、現在の日本は世界でも類を見ない超高齢社会を迎えている。本授業を通して、日本が直面している少子・高齢化問題に対して、どのように貢献できるかについて考える。また、高齢期の健康問題には、若齢期の生活習慣が影響するものもあるため、ライフコースアプローチについて理解する。

到達目標 1. 高齢期に生じる健康問題とその基本的な予防・対処法について理解する。
2. 学習したことを自身や家族の健康づくりに役立てる。

成績評価の方法と基準 授業ごとのリアクションペーパー（授業への参加・取り組み・理解度：50%）、レポート課題（50%）

HSS200LA	
健康の科学 L A	2017 年度以降入学者
HSS100LA	
健康の科学 I	2016 年度以前入学者
谷本 都栄	
授業コード：Q5453	2017 年度以降入学者
授業コード：P0503	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年生＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 人生 100 年時代を迎え、人々の生き方も多様化する中で、身体的な健康だけでなく、生きがいや人間の尊厳をも含めたホリスティック・ヘルス（包括的健康）の視点が重要になってきている。本講義では、バイオ・サイコ・ソーシャル・ヘルスに関わる様々な題材から個人の健康や社会の健康について学び、“よく生きる”ことについて考え、自ら実践に結びつけていくことを目指す。

到達目標 ・健康に関わる概念や歴史から、健康とは何かについて理解を深める。
・包括的健康の視点から、自己の生活の質や地域の課題について考える。
・個人及び社会におけるウェルネスの確立に向けて主体的に行動できるようにする。

成績評価の方法と基準 ・平常点 50 %
・中間レポート 20 %
・期末レポート 30 %

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

HSS200LA	
健康の科学 L B	2017 年度以降入学者
HSS100LA	
健康の科学 II	2016 年度以前入学者
谷本 都栄	
授業コード：Q5454	2017 年度以降入学者
授業コード：P0504	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1 ～ 4 年生＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1 ～ 3 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 健康は、ＱＯＬ（生活の質）を高めいきいきと生きていくための資源であり、自ら健康をコントロールし、改善していくこと（ヘルスプロモーション）が求められる。本講義では、栄養・運動・休養に関わる基礎的知識をはじめ心身の健康を保つために必要なライフスキルについて学び、各人の生活における意識の向上、具体的な実践に結びつけていくことを目指す。

到達目標 ・栄養・運動・休養に関わる基礎的知識を身に付け、自己の生活習慣を見直す。
・健康的なライフスタイルを意識して、学んだことを日々の生活に活かす。

成績評価の方法と基準 ・平常点 50 %
・中間レポート 20 %
・期末レポート 30 %

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO



学生証番号	
氏 名	